

言語・コミュニケーション研究入門

Overview of Language and Communication Studies

異文化専任教員（）

開講年度：	2024
科目設置学部：	異文化コミュニケーション学部
科目コード等：	DM001
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	春学期
単位：	2
科目ナンバリング：	ICC1510
使用言語：	日本語
授業形式：	講義
履修登録方法：	自動登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	2020 年度～2023 年度入学者対象

授業の目標 / Course Objectives

異文化コミュニケーション学部における導入科目であり、異文化コミュニケーション研究についての基本的な知識を得ることを目標とする。担当教員がそれぞれの専門分野について入門的な内容を講義することで、異文化コミュニケーション学部で何をどのように学ぶのか、履修者が自ら考え判断する機会と材料を提供することを目的とする

The goal of this College of Intercultural Communication introductory course is to teach students the basic knowledge of intercultural communication studies. Instructors will lecture on introductory material in their respective areas of specialization to provide students with the opportunities and materials they need to decide for themselves what and how to study in the College of Intercultural Communication.

授業の内容 / Course Contents

本科目は輪講形式で行われ、担当教員がそれぞれの専門分野や研究テーマについて入門的な内容の講義を行う。

Instructors will take turns giving an introductory lecture on their area of expertise and/or research interests.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：オリエンテーション：異文化コミュニケーション学部で何を学ぶか
 2回：輪講①
 3回：輪講②
 4回：輪講③
 5回：輪講④
 6回：輪講⑤
 7回：輪講⑥
 8回：輪講⑦
 9回：輪講⑧
 10回：輪講⑨
 11回：輪講⑩
 12回：輪講⑪
 13回：輪講⑫
 14回：まとめ、最終レポート提出

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド*（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

毎回の授業で指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 各回の参加および課題：60%

最終レポート割合：40%

テキスト / Textbooks

特定の教科書は使用しない。

参考文献 / Readings

各授業で適宜紹介する。

注意事項（検索結果画面）

2020年度～2023年度入学者対象

言語・コミュニケーション研究入門

Overview of Language and Communication Studies

異文化専任教員（）

開講年度：	2024
科目設置学部：	異文化コミュニケーション学部
科目コード等：	DM002
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	秋学期
単位：	2
科目ナンバリング：	ICC1510
使用言語：	日本語
授業形式：	講義
履修登録方法：	自動登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	2020 年度～2023 年度入学者対象

授業の目標 / Course Objectives

異文化コミュニケーション学部における導入科目であり、異文化コミュニケーション研究についての基本的な知識を得ることを目標とする。担当教員がそれぞれの専門分野について入門的な内容を講義することで、異文化コミュニケーション学部で何をどのように学ぶのか、履修者が自ら考え判断する機会と材料を提供することを目的とする

The goal of this College of Intercultural Communication introductory course is to teach students the basic knowledge of intercultural communication studies. Instructors will lecture on introductory material in their respective areas of specialization to provide students with the opportunities and materials they need to decide for themselves what and how to study in the College of Intercultural Communication.

授業の内容 / Course Contents

本科目は輪講形式で行われ、担当教員がそれぞれの専門分野や研究テーマについて入門的な内容の講義を行う。

Instructors will take turns giving an introductory lecture on their area of expertise and/or research interests.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：オリエンテーション：異文化コミュニケーション学部で何を学ぶか
 2回：輪講①
 3回：輪講②
 4回：輪講③
 5回：輪講④
 6回：輪講⑤
 7回：輪講⑥
 8回：輪講⑦
 9回：輪講⑧
 10回：輪講⑨
 11回：輪講⑩
 12回：輪講⑪
 13回：輪講⑫
 14回：まとめ、最終レポート提出

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド*（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

毎回の授業で指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 各回の参加および課題：60%

最終レポート割合：40%

テキスト / Textbooks

特定の教科書は使用しない。

参考文献 / Readings

各授業で適宜紹介する。

注意事項（検索結果画面）

2020年度～2023年度入学者対象

グローバル研究入門

Overview of Global Studies

異文化専任教員（）

開講年度：	2024
科目設置学部：	異文化コミュニケーション学部
科目コード等：	DM003
授業形態：	オンライン（全回オンライン）
授業形態（補足事項）	発話を伴う授業を学内で受講する場合は 8201 教室の利用可。
校地：	池袋
学期：	春学期
単位：	2
科目ナンバリング：	ICC1410
使用言語：	日本語
授業形式：	講義
履修登録方法：	自動登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	○
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	2020 年度～2023 年度入学者対象

授業の目標 / Course Objectives

異文化コミュニケーション学部における導入科目であり、グローバル研究についての基本的な知識と多角的な視点を得ることを目標とする。担当教員がそれぞれの専門分野について入門的な内容を講義することで、異文化コミュニケーション学部で何をどのように学ぶのか、履修者が自ら考え判断する機会と材料を提供することを目的とする。

The purpose of this introductory course of the College of Intercultural Communication is to provide students with foundational knowledge on global studies, according them with multiple perspectives on the subject.

Instructors will introduce students to foundational material in their respective areas of specialization to provide students with the requisite opportunities and resources to select what and how to study at the College of Intercultural Communication.

授業の内容 / Course Contents

本科目は輪講形式で行われ、担当教員が文化、歴史、文学、芸術、文化人類学、国際協力などの分野について講義を行う。専門分野と研究テーマごとに、多角的かつ多様な方法論に触れることができる。毎回それぞれの講義にもとづく課題が出され、それに取り組むことによって広い視野と複眼的な思考能力を身につけていく。

Instructors will take turns in lecturing students on culture, history, literature, art, cultural anthropology, and international cooperation. In the first session, students will be handed lecture schedules detailing the instructors who will teach each class. During the course, students will be exposed to diverse methodologies pertaining to each area of specialization and research theme. It is important to note that assignments will be given for each lecture to broaden the perspectives of students and to equip them with the ability to approach a problem from multiple perspectives.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：導入
- 2回：輪講①
- 3回：輪講②
- 4回：輪講③
- 5回：輪講④
- 6回：輪講⑤
- 7回：輪講⑥
- 8回：輪講⑦
- 9回：輪講⑧
- 10回：輪講⑨
- 11回：輪講⑩
- 12回：輪講⑪
- 13回：輪講⑫
- 14回：授業の振り返り

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：	○
個人発表	：	グループ発表	：		ディスカッション・ディベート	：	
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：	
上記いずれも用いない予定	：		：			：	

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

初回授業時に概要を説明するほか、授業において適宜指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 各回の参加及び課題：60% 最終レポート割合：40%

指定課題の詳細については、各回の担当教員の指示に従うこと。

テキスト / Textbooks

毎回授業時に指示する。

参考文献 / Readings

初回事業時に文献リストを配布するほか、授業において適宜紹介する。

注意事項（検索結果画面）

2020年度～2023年度入学者対象

グローバル研究入門

Overview of Global Studies

異文化専任教員（）

開講年度：	2024
科目設置学部：	異文化コミュニケーション学部
科目コード等：	DM004
授業形態：	オンライン（全回オンライン）
授業形態（補足事項）	発話を伴う授業を学内で受講する場合は 8201 教室の利用可。
校地：	池袋
学期：	秋学期
単位：	2
科目ナンバリング：	ICC1410
使用言語：	日本語
授業形式：	講義
履修登録方法：	自動登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	○
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	2020 年度～2023 年度入学者対象

授業の目標 / Course Objectives

異文化コミュニケーション学部における導入科目であり、グローバル研究についての基本的な知識と多角的な視点を得ることを目標とする。担当教員がそれぞれの専門分野について入門的な内容を講義することで、異文化コミュニケーション学部で何をどのように学ぶのか、履修者が自ら考え判断する機会と材料を提供することを目的とする。

The purpose of this introductory course of the College of Intercultural Communication is to provide students with foundational knowledge on global studies, according them with multiple perspectives on the subject.

Instructors will introduce students to foundational material in their respective areas of specialization to provide students with the requisite opportunities and resources to select what and how to study at the College of Intercultural Communication.

授業の内容 / Course Contents

本科目は輪講形式で行われ、担当教員が文化、歴史、文学、芸術、文化人類学、国際協力などの分野について講義を行う。専門分野と研究テーマごとに、多角的かつ多様な方法論に触れることができる。毎回それぞれの講義にもとづく課題が出され、それに取り組むことによって広い視野と複眼的な思考能力を身につけていく。

Instructors will take turns in lecturing students on culture, history, literature, art, cultural anthropology, and international cooperation. In the first session, students will be handed lecture schedules detailing the instructors who will teach each class. During the course, students will be exposed to diverse methodologies pertaining to each area of specialization and research theme. It is important to note that assignments will be given for each lecture to broaden the perspectives of students and to equip them with the ability to approach a problem from multiple perspectives.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：導入
- 2回：輪講①
- 3回：輪講②
- 4回：輪講③
- 5回：輪講④
- 6回：輪講⑤
- 7回：輪講⑥
- 8回：輪講⑦
- 9回：輪講⑧
- 10回：輪講⑨
- 11回：輪講⑩
- 12回：輪講⑪
- 13回：輪講⑫
- 14回：授業の振り返り

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：	○
個人発表	：	グループ発表	：		ディスカッション・ディベート	：	
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：	
上記いずれも用いない予定	：		：			：	

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

初回授業時に概要を説明するほか、授業において適宜指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 各回の参加及び課題：60% 最終レポート割合：40%

指定課題の詳細については、各回の担当教員の指示に従うこと。

テキスト / Textbooks

毎回授業時に指示する。

参考文献 / Readings

初回事業時に文献リストを配布するほか、授業において適宜紹介する。

注意事項（検索結果画面）

2020年度～2023年度入学者対象

Overview of Language and Communication Studies

Overview of Language and Communication Studies

異文化専任教員（）

開講年度：	2024
科目設置学部：	異文化コミュニケーション学部
科目コード等：	DM005
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	春学期
単位：	2
科目ナンバリング：	ICC1551
使用言語：	英語
授業形式：	講義
履修登録方法：	自動登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	2020 年度～2023 年度入学者対象

授業の目標 / Course Objectives

The goal of this course is to familiarize students with the basic concepts and theoretical perspectives related to intercultural communication studies. By the end of the course students will be expected to have developed a broad base of knowledge in the field of intercultural communication studies and have a better understanding of the curriculum the College of Intercultural Communication offers.

授業の内容 / Course Contents

Instructors will take turns giving introductory lectures on a range of topics related to intercultural communication studies.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：Course Introduction
- 2 回：Lecture 1
- 3 回：Lecture 2
- 4 回：Lecture 3
- 5 回：Lecture 4

- 6回：Lecture 5
 7回：Lecture 6
 8回：Lecture 7
 9回：Lecture 8
 10回：Lecture 9
 11回：Lecture 10
 12回：Lecture 11
 13回：Lecture 12
 14回：Course Wrap-up

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

To be announced in class.

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Lecture assignments & In-class activities:60% Final report:40%

テキスト / Textbooks

No particular textbook will be used in this course.

参考文献 / Readings

As indicated in each class.

注意事項（検索結果画面）

2020年度～2023年度入学者対象

Overview of Global Studies

Overview of Global Studies

異文化専任教員（）

開講年度：	2024
科目設置学部：	異文化コミュニケーション学部
科目コード等：	DM006
授業形態：	オンライン（全回オンライン）
授業形態（補足事項）	発話を伴う授業を学内で受講する場合は 8201 教室の利用可。
校地：	池袋
学期：	秋学期
単位：	2
科目ナンバリング：	ICC1551
使用言語：	英語
授業形式：	講義
履修登録方法：	自動登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	○
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	2020 年度～2023 年度入学者対象

授業の目標 / Course Objectives

The goal of this course is to familiarize students with basic concepts and theoretical perspectives related to global studies. By the end of the course students should have developed a broad base of knowledge in the field of global studies, as well as a better understanding of the curriculum of the College of Intercultural Communication.

授業の内容 / Course Contents

Instructors will take turns giving lectures on a range of topics related to global studies, including cultural anthropology, international cooperation, conflict studies, social media, film studies, and area studies with a shared focus on the role of intercultural communication in the process of globalization.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：Course Introduction
- 2 回：Lecture (1)-1
- 3 回：Lecture (1)-2
- 4 回：Lecture (2)-1
- 5 回：Lecture (2)-2

- 6回：Lecture (3)-1
 7回：Lecture (3)-2
 8回：Lecture (4)-1
 9回：Lecture (4)-2
 10回：Lecture (5)-1
 11回：Lecture (5)-2
 12回：Lecture (6)-1
 13回：Lecture (6)-2
 14回：Course Wrap-up

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワーポイント等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:	○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

Instructions will be given in each class.

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：002) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Weekly Assignments:60% Final Report:40%

テキスト / Textbooks

No particular textbook will be used.

参考文献 / Readings

注意事項 (検索結果画面)

2020年度～2023年度入学者対象

Overview of Global Studies

Overview of Global Studies

異文化専任教員（）

開講年度：	2024
科目設置学部：	異文化コミュニケーション学部
科目コード等：	DM009
授業形態：	オンライン（全回オンライン）
授業形態（補足事項）	発話を伴う授業を学内で受講する場合は 8201 教室の利用可。
校地：	池袋
学期：	秋学期
単位：	2
科目ナンバリング：	ICC1551
使用言語：	英語
授業形式：	講義
履修登録方法：	自動登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	○
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	2016 年度～2019 年度入学者対象

授業の目標 / Course Objectives

The goal of this course is to familiarize students with basic concepts and theoretical perspectives related to global studies. By the end of the course students should have developed a broad base of knowledge in the field of global studies, as well as a better understanding of the curriculum of the College of Intercultural Communication.

授業の内容 / Course Contents

Instructors will take turns giving lectures on a range of topics related to global studies, including cultural anthropology, international cooperation, conflict studies, social media, film studies, and area studies with a shared focus on the role of intercultural communication in the process of globalization.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：Course Introduction
- 2 回：Lecture (1)-1
- 3 回：Lecture (1)-2
- 4 回：Lecture (2)-1
- 5 回：Lecture (2)-2

- 6回：Lecture (3)-1
 7回：Lecture (3)-2
 8回：Lecture (4)-1
 9回：Lecture (4)-2
 10回：Lecture (5)-1
 11回：Lecture (5)-2
 12回：Lecture (6)-1
 13回：Lecture (6)-2
 14回：Course Wrap-up

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワー等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:	○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

Instructions will be given in each class.

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：2) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Weekly Assignments:60% Final Report:40%

テキスト / Textbooks

No particular textbook will be used.

参考文献 / Readings

注意事項 (検索結果画面)

2016年度～2019年度入学者対象

基礎演習 A

Academic Skills A

日下部 尚徳 (KUSAKABE NAONORI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 異文化コミュニケーション学部
科目コード等： DM011
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： ICC1510
使用言語： 日本語
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 自動登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考： 学びの技法

授業の目標 / Course Objectives

大学で学ぶための基礎となる論理的思考力、情報リテラシーを身につけ、コミュニケーション力、情報受信・発信能力、問題発見・解決能力を向上させる。

Students will master the logical thinking skills and information literacy that form the foundation of university-level study, and improve their abilities to communicate, receive and originate information, and find and solve problems.

授業の内容 / Course Contents

「協同学習」の方法論を用い、論理的思考力、問題発見・解決能力、言語スキル、対人関係スキルを学ぶとともに、タイム・マネジメントを習得する。また、議論や発表のスキルとともに、ノン・バーバルコミュニケーションへの意識も高める。「協同学習」は課題テキストを、授業内で解説する予習の仕方によって各自が予習して授業に臨む。授業は少人数でのグループディスカッションと発表で構成する。また、レポートの書き方について、解説とトレーニングを行う。

The cooperative learning method will be used to help students acquire logical thinking skills, the ability to find and solve problems, language skills, and interpersonal skills as well as time management skills. Students will also

improve their discussion and presentation skills, and will further their understanding of nonverbal communication. Instructors will explain in class how students should prepare for cooperative learning exercises, and students will follow those instructions and read assignment texts in advance of classes.

Class activities will consist of small groups of students participating in discussions and presentations. Instructors will also explain and lead exercises on how to write reports.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス
- 2回：図書館オリエンテーション／協同学習①-1（初見のテキスト）
- 3回：協同学習①-1（初見のテキスト）／図書館オリエンテーション
- 4回：協同学習①-2
- 5回：協同学習②-1
- 6回：協同学習②-2
レポートの書き方①
- 7回：協同学習③-1
- 8回：協同学習③-2
レポートの書き方②
- 9回：グループ発表①-1（グループでテーマを決め、発表準備）
- 10回：グループ発表①-2（クラス内リハーサル）
- 11回：グループ発表①-3
- 12回：グループ発表①-4
- 13回：レポートの書き方③
- 14回：授業のまとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

毎回の授業で指示する。

また、初回ガイダンス時に、詳細な授業進行表を配布するので、常時参照すること。

自宅学習ノートを用意し、十分活用すること。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業への参加度:20% 協同学習フィードバック:20% 自宅学習ノート:25% レポート:20% 最終グループ発表:15%

テキスト / Textbooks

大島弥生ほか 『ピアで学ぶ大学生の日本語表現[第2版]』 ひつじ書房 2014 9784894767096 ○

補助資料

・Master of Writing(立教大学大学教育開発・支援センター発行のレポートの手引き)

<http://www.rikkyo.ac.jp/aboutus/philosophy/activism/CDSHE/journal/leaflet/>

- ・ Master of Presentation (同センター発行の授業内プレゼンテーションの手引き)

<https://www.rikkyo.ac.jp/about/activities/fd/cdshe/mknpps000001ri7e-att/MasterofPresentation.pdf>

- ・ The Rikkyo Style (異文化コミュニケーション研究科作成のスタイルマニュアル)

<https://rguide.rikkyo.ac.jp/2023/files/cic/TheRikkyoStyle.pdf>

参考文献 / Readings

佐渡島紗織・吉野亜矢子 『これから研究を書くひとのためのガイドブック』 ひつじ書房 2008

松本茂・河野哲也 『大学生のための「読む・書く・プレゼン・ディベート」の方法』(第2版) 玉川大学出版部 2015

その他の参考文献については、授業中に適宜紹介する。

基礎演習 A

Academic Skills A

石川 文也 (ISHIKAWA FUMIYA)

開講年度：	2024
科目設置学部：	異文化コミュニケーション学部
科目コード等：	DM012
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	春学期
単位：	2
科目ナンバリング：	ICC1510
使用言語：	日本語
授業形式：	演習・ゼミ
履修登録方法：	自動登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	学びの技法

授業の目標 / Course Objectives

大学で学ぶための基礎となる論理的思考力、情報リテラシーを身につけ、コミュニケーション力、情報受信・発信能力、問題発見・解決能力を向上させる。

Students will master the logical thinking skills and information literacy that form the foundation of university-level study, and improve their abilities to communicate, receive and originate information, and find and solve problems.

授業の内容 / Course Contents

「協同学習」の方法論を用い、論理的思考力、問題発見・解決能力、言語スキル、対人関係スキルを学ぶとともに、タイム・マネジメントを習得する。また、議論や発表のスキルとともに、ノン・バーバルコミュニケーションへの意識も高める。「協同学習」は課題テキストを、授業内で解説する予習の仕方によって各自が予習して授業に臨む。授業は少人数でのグループディスカッションと発表で構成する。また、レポートの書き方について、解説とトレーニングを行う。

The cooperative learning method will be used to help students acquire logical thinking skills, the ability to find and solve problems, language skills, and interpersonal skills as well as time management skills. Students will also

improve their discussion and presentation skills, and will further their understanding of nonverbal communication. Instructors will explain in class how students should prepare for cooperative learning exercises, and students will follow those instructions and read assignment texts in advance of classes.

Class activities will consist of small groups of students participating in discussions and presentations. Instructors will also explain and lead exercises on how to write reports.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス
- 2回：図書館オリエンテーション／協同学習①-1（初見のテキスト）
- 3回：協同学習①-1（初見のテキスト）／図書館オリエンテーション
- 4回：協同学習①-2
- 5回：協同学習②-1
- 6回：協同学習②-2
レポートの書き方①
- 7回：協同学習③-1
- 8回：協同学習③-2
レポートの書き方②
- 9回：グループ発表①-1（グループでテーマを決め、発表準備）
- 10回：グループ発表①-2（クラス内リハーサル）
- 11回：グループ発表①-3
- 12回：グループ発表①-4
- 13回：レポートの書き方③
- 14回：授業のまとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

毎回の授業で指示する。

また、初回ガイダンス時に、詳細な授業進行表を配布するので、常時参照すること。

自宅学習ノートを用意し、十分活用すること。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業への参加度：20% 協同学習フィードバック：20% 自宅学習ノート：25% レポート：20% 最終グループ発表：15%

テキスト / Textbooks

大島弥生ほか 『ピアで学ぶ大学生の日本語表現[第2版]』 ひつじ書房 2014 9784894767096 ○

補助資料

・Master of Writing(立教大学大学教育開発・支援センター発行のレポートの手引き)

<http://www.rikkyo.ac.jp/aboutus/philosophy/activism/CDSHE/journal/leaflet/>

- ・ Master of Presentation (同センター発行の授業内プレゼンテーションの手引き)

<https://www.rikkyo.ac.jp/about/activities/fd/cdshe/mknpps000001ri7e-att/MasterofPresentation.pdf>

- ・ The Rikkyo Style (異文化コミュニケーション研究科作成のスタイルマニュアル)

<https://rguide.rikkyo.ac.jp/2023/files/cic/TheRikkyoStyle.pdf>

参考文献 / Readings

佐渡島紗織・吉野亜矢子 『これから研究を書くひとのためのガイドブック』 ひつじ書房 2008

松本茂・河野哲也 『大学生のための「読む・書く・プレゼン・ディベート」の方法』(第2版) 玉川大学出版部 2015

その他の参考文献については、授業中に適宜紹介する。

基礎演習 A

Academic Skills A

石黒 武人 (ISHIGURO TAKETO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 異文化コミュニケーション学部
科目コード等： DM013
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： ICC1510
使用言語： 日本語
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 自動登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考： 学びの技法

授業の目標 / Course Objectives

大学で学ぶための基礎となる論理的思考力、情報リテラシーを身につけ、コミュニケーション力、情報受信・発信能力、問題発見・解決能力を向上させる。

Students will master the logical thinking skills and information literacy that form the foundation of university-level study, and improve their abilities to communicate, receive and originate information, and find and solve problems.

授業の内容 / Course Contents

「協同学習」の方法論を用い、論理的思考力、問題発見・解決能力、言語スキル、対人関係スキルを学ぶとともに、タイム・マネジメントを習得する。また、議論や発表のスキルとともに、ノン・バーバルコミュニケーションへの意識も高める。「協同学習」は課題テキストを、授業内で解説する予習の仕方に従って各自が予習して授業に臨む。授業は少人数でのグループディスカッションと発表で構成する。また、レポートの書き方について、解説とトレーニングを行う。

The cooperative learning method will be used to help students acquire logical thinking skills, the ability to find and solve problems, language skills, and interpersonal skills as well as time management skills. Students will also

improve their discussion and presentation skills, and will further their understanding of nonverbal communication. Instructors will explain in class how students should prepare for cooperative learning exercises, and students will follow those instructions and read assignment texts in advance of classes.

Class activities will consist of small groups of students participating in discussions and presentations. Instructors will also explain and lead exercises on how to write reports.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス
- 2回：図書館オリエンテーション／協同学習①-1（初見のテキスト）
- 3回：協同学習①-1（初見のテキスト）／図書館オリエンテーション
- 4回：協同学習①-2
- 5回：協同学習②-1
- 6回：協同学習②-2
レポートの書き方①
- 7回：協同学習③-1
- 8回：協同学習③-2
レポートの書き方②
- 9回：グループ発表①-1（グループでテーマを決め、発表準備）
- 10回：グループ発表①-2（クラス内リハーサル）
- 11回：グループ発表①-3
- 12回：グループ発表①-4
- 13回：レポートの書き方③
- 14回：授業のまとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

毎回の授業で指示する。

また、初回ガイダンス時に、詳細な授業進行表を配布するので、常時参照すること。

自宅学習ノートを用意し、十分活用すること。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業への参加度：20% 協同学習フィードバック：20% 自宅学習ノート：25% レポート：20% 最終グループ発表：15%

テキスト / Textbooks

大島弥生ほか 『ピアで学ぶ大学生の日本語表現[第2版]』 ひつじ書房 2014 9784894767096 ○

補助資料

・ Master of Writing(立教大学大学教育開発・支援センター発行のレポートの手引き)

<http://www.rikkyo.ac.jp/aboutus/philosophy/activism/CDSHE/journal/leaflet/>

- ・ Master of Presentation (同センター発行の授業内プレゼンテーションの手引き)

<https://www.rikkyo.ac.jp/about/activities/fd/cdshe/mknpps000001ri7e-att/MasterofPresentation.pdf>

- ・ The Rikkyo Style (異文化コミュニケーション研究科作成のスタイルマニュアル)

<https://rguide.rikkyo.ac.jp/2023/files/cic/TheRikkyoStyle.pdf>

参考文献 / Readings

佐渡島紗織・吉野亜矢子 『これから研究を書くひとのためのガイドブック』 ひつじ書房 2008

松本茂・河野哲也 『大学生のための「読む・書く・プレゼン・ディベート」の方法』(第2版) 玉川大学出版部 2015

その他の参考文献については、授業中に適宜紹介する。

基礎演習 A

Academic Skills A

小倉 和子 (OGURA KAZUKO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 異文化コミュニケーション学部
科目コード等： DM014
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： ICC1510
使用言語： 日本語
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 自動登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考： 学びの技法

授業の目標 / Course Objectives

大学で学ぶための基礎となる論理的思考力、情報リテラシーを身につけ、コミュニケーション力、情報受信・発信能力、問題発見・解決能力を向上させる。

Students will master the logical thinking skills and information literacy that form the foundation of university-level study, and improve their abilities to communicate, receive and originate information, and find and solve problems.

授業の内容 / Course Contents

「協同学習」の方法論を用い、論理的思考力、問題発見・解決能力、言語スキル、対人関係スキルを学ぶとともに、タイム・マネジメントを習得する。また、議論や発表のスキルとともに、ノン・バーバルコミュニケーションへの意識も高める。「協同学習」は課題テキストを、授業内で解説する予習の仕方によって各自が予習して授業に臨む。授業は少人数でのグループディスカッションと発表で構成する。また、レポートの書き方について、解説とトレーニングを行う。

The cooperative learning method will be used to help students acquire logical thinking skills, the ability to find and solve problems, language skills, and interpersonal skills as well as time management skills. Students will also

improve their discussion and presentation skills, and will further their understanding of nonverbal communication. Instructors will explain in class how students should prepare for cooperative learning exercises, and students will follow those instructions and read assignment texts in advance of classes.

Class activities will consist of small groups of students participating in discussions and presentations. Instructors will also explain and lead exercises on how to write reports.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス
- 2回：図書館オリエンテーション／協同学習①-1（初見のテキスト）
- 3回：協同学習①-1（初見のテキスト）／図書館オリエンテーション
- 4回：協同学習①-2
- 5回：協同学習②-1
- 6回：協同学習②-2
レポートの書き方①
- 7回：協同学習③-1
- 8回：協同学習③-2
レポートの書き方②
- 9回：グループ発表①-1（グループでテーマを決め、発表準備）
- 10回：グループ発表①-2（クラス内リハーサル）
- 11回：グループ発表①-3
- 12回：グループ発表①-4
- 13回：レポートの書き方③
- 14回：授業のまとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

毎回の授業で指示する。

また、初回ガイダンス時に、詳細な授業進行表を配布するので、常時参照すること。

自宅学習ノートを用意し、十分活用すること。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業への参加度:20% 協同学習フィードバック:20% 自宅学習ノート:25% レポート:20% 最終グループ発表:15%

テキスト / Textbooks

大島弥生ほか 『ピアで学ぶ大学生の日本語表現[第2版]』 ひつじ書房 2014 9784894767096 ○

補助資料

・Master of Writing(立教大学大学教育開発・支援センター発行のレポートの手引き)

<http://www.rikkyo.ac.jp/aboutus/philosophy/activism/CDSHE/journal/leaflet/>

- ・ Master of Presentation (同センター発行の授業内プレゼンテーションの手引き)

<https://www.rikkyo.ac.jp/about/activities/fd/cdshe/mknpps000001ri7e-att/MasterofPresentation.pdf>

- ・ The Rikkyo Style (異文化コミュニケーション研究科作成のスタイルマニュアル)

<https://rguide.rikkyo.ac.jp/2023/files/cic/TheRikkyoStyle.pdf>

参考文献 / Readings

佐渡島紗織・吉野亜矢子 『これから研究を書くひとのためのガイドブック』 ひつじ書房 2008

松本茂・河野哲也 『大学生のための「読む・書く・プレゼン・ディベート」の方法』(第2版) 玉川大学出版部 2015

その他の参考文献については、授業中に適宜紹介する。

基礎演習 A

Academic Skills A

浜崎 桂子 (HAMAZAKI KEIKO)

開講年度：	2024
科目設置学部：	異文化コミュニケーション学部
科目コード等：	DM015
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	春学期
単位：	2
科目ナンバリング：	ICC1510
使用言語：	日本語
授業形式：	演習・ゼミ
履修登録方法：	自動登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	学びの技法

授業の目標 / Course Objectives

大学で学ぶための基礎となる論理的思考力、情報リテラシーを身につけ、コミュニケーション力、情報受信・発信能力、問題発見・解決能力を向上させる。

Students will master the logical thinking skills and information literacy that form the foundation of university-level study, and improve their abilities to communicate, receive and originate information, and find and solve problems.

授業の内容 / Course Contents

「協同学習」の方法論を用い、論理的思考力、問題発見・解決能力、言語スキル、対人関係スキルを学ぶとともに、タイム・マネジメントを習得する。また、議論や発表のスキルとともに、ノン・バーバルコミュニケーションへの意識も高める。「協同学習」は課題テキストを、授業内で解説する予習の仕方によって各自が予習して授業に臨む。授業は少人数でのグループディスカッションと発表で構成する。また、レポートの書き方について、解説とトレーニングを行う。

The cooperative learning method will be used to help students acquire logical thinking skills, the ability to find and solve problems, language skills, and interpersonal skills as well as time management skills. Students will also

improve their discussion and presentation skills, and will further their understanding of nonverbal communication. Instructors will explain in class how students should prepare for cooperative learning exercises, and students will follow those instructions and read assignment texts in advance of classes.

Class activities will consist of small groups of students participating in discussions and presentations. Instructors will also explain and lead exercises on how to write reports.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス
- 2回：図書館オリエンテーション／協同学習①-1（初見のテキスト）
- 3回：協同学習①-1（初見のテキスト）／図書館オリエンテーション
- 4回：協同学習①-2
- 5回：協同学習②-1
- 6回：協同学習②-2
レポートの書き方①
- 7回：協同学習③-1
- 8回：協同学習③-2
レポートの書き方②
- 9回：グループ発表①-1（グループでテーマを決め、発表準備）
- 10回：グループ発表①-2（クラス内リハーサル）
- 11回：グループ発表①-3
- 12回：グループ発表①-4
- 13回：レポートの書き方③
- 14回：授業のまとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

毎回の授業で指示する。

また、初回ガイダンス時に、詳細な授業進行表を配布するので、常時参照すること。

自宅学習ノートを用意し、十分活用すること。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業への参加度:20% 協同学習フィードバック:20% 自宅学習ノート:25% レポート:20% 最終グループ発表:15%

テキスト / Textbooks

大島弥生ほか 『ピアで学ぶ大学生の日本語表現[第2版]』 ひつじ書房 2014 9784894767096 ○

補助資料

・Master of Writing(立教大学大学教育開発・支援センター発行のレポートの手引き)

<http://www.rikkyo.ac.jp/aboutus/philosophy/activism/CDSHE/journal/leaflet/>

- ・ Master of Presentation (同センター発行の授業内プレゼンテーションの手引き)

<https://www.rikkyo.ac.jp/about/activities/fd/cdshe/mknpps000001ri7e-att/MasterofPresentation.pdf>

- ・ The Rikkyo Style (異文化コミュニケーション研究科作成のスタイルマニュアル)

<https://rguide.rikkyo.ac.jp/2023/files/cic/TheRikkyoStyle.pdf>

参考文献 / Readings

佐渡島紗織・吉野亜矢子 『これから研究を書くひとのためのガイドブック』 ひつじ書房 2008

松本茂・河野哲也 『大学生のための「読む・書く・プレゼン・ディベート」の方法』(第2版) 玉川大学出版部 2015

その他の参考文献については、授業中に適宜紹介する。

基礎演習 A

Academic Skills A

新野 守広 (NIINO MORIHIRO)

開講年度：	2024
科目設置学部：	異文化コミュニケーション学部
科目コード等：	DM016
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	春学期
単位：	2
科目ナンバリング：	ICC1510
使用言語：	日本語
授業形式：	演習・ゼミ
履修登録方法：	自動登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	学びの技法

授業の目標 / Course Objectives

大学で学ぶための基礎となる論理的思考力、情報リテラシーを身につけ、コミュニケーション力、情報受信・発信能力、問題発見・解決能力を向上させる。

Students will master the logical thinking skills and information literacy that form the foundation of university-level study, and improve their abilities to communicate, receive and originate information, and find and solve problems.

授業の内容 / Course Contents

「協同学習」の方法論を用い、論理的思考力、問題発見・解決能力、言語スキル、対人関係スキルを学ぶとともに、タイム・マネジメントを習得する。また、議論や発表のスキルとともに、ノン・バーバルコミュニケーションへの意識も高める。「協同学習」は課題テキストを、授業内で解説する予習の仕方に従って各自が予習して授業に臨む。授業は少人数でのグループディスカッションと発表で構成する。また、レポートの書き方について、解説とトレーニングを行う。

The cooperative learning method will be used to help students acquire logical thinking skills, the ability to find and solve problems, language skills, and interpersonal skills as well as time management skills. Students will also

improve their discussion and presentation skills, and will further their understanding of nonverbal communication. Instructors will explain in class how students should prepare for cooperative learning exercises, and students will follow those instructions and read assignment texts in advance of classes.

Class activities will consist of small groups of students participating in discussions and presentations. Instructors will also explain and lead exercises on how to write reports.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス
- 2回：図書館オリエンテーション／協同学習①-1（初見のテキスト）
- 3回：協同学習①-1（初見のテキスト）／図書館オリエンテーション
- 4回：協同学習①-2
- 5回：協同学習②-1
- 6回：協同学習②-2
レポートの書き方①
- 7回：協同学習③-1
- 8回：協同学習③-2
レポートの書き方②
- 9回：グループ発表①-1（グループでテーマを決め、発表準備）
- 10回：グループ発表①-2（クラス内リハーサル）
- 11回：グループ発表①-3
- 12回：グループ発表①-4
- 13回：レポートの書き方③
- 14回：授業のまとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

毎回の授業で指示する。

また、初回ガイダンス時に、詳細な授業進行表を配布するので、常時参照すること。

自宅学習ノートを用意し、十分活用すること。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業への参加度:20% 協同学習フィードバック:20% 自宅学習ノート:25% レポート:20% 最終グループ発表:15%

テキスト / Textbooks

大島弥生ほか 『ピアで学ぶ大学生の日本語表現[第2版]』 ひつじ書房 2014 9784894767096 ○

補助資料

・Master of Writing(立教大学大学教育開発・支援センター発行のレポートの手引き)

<http://www.rikkyo.ac.jp/aboutus/philosophy/activism/CDSHE/journal/leaflet/>

- ・ Master of Presentation (同センター発行の授業内プレゼンテーションの手引き)

<https://www.rikkyo.ac.jp/about/activities/fd/cdshe/mknpps000001ri7e-att/MasterofPresentation.pdf>

- ・ The Rikkyo Style (異文化コミュニケーション研究科作成のスタイルマニュアル)

<https://rguide.rikkyo.ac.jp/2023/files/cic/TheRikkyoStyle.pdf>

参考文献 / Readings

佐渡島紗織・吉野亜矢子 『これから研究を書くひとのためのガイドブック』 ひつじ書房 2008

松本茂・河野哲也 『大学生のための「読む・書く・プレゼン・ディベート」の方法』(第2版) 玉川大学出版部 2015

その他の参考文献については、授業中に適宜紹介する。

基礎演習 A

Academic Skills A

河合 優子 (KAWAI YUKO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 異文化コミュニケーション学部
科目コード等： DM017
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： ICC1510
使用言語： 日本語
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 自動登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考： 学びの技法

授業の目標 / Course Objectives

大学で学ぶための基礎となる論理的思考力、情報リテラシーを身につけ、コミュニケーション力、情報受信・発信能力、問題発見・解決能力を向上させる。

Students will master the logical thinking skills and information literacy that form the foundation of university-level study, and improve their abilities to communicate, receive and originate information, and find and solve problems.

授業の内容 / Course Contents

「協同学習」の方法論を用い、論理的思考力、問題発見・解決能力、言語スキル、対人関係スキルを学ぶとともに、タイム・マネジメントを習得する。また、議論や発表のスキルとともに、ノン・バーバルコミュニケーションへの意識も高める。「協同学習」は課題テキストを、授業内で解説する予習の仕方によって各自が予習して授業に臨む。授業は少人数でのグループディスカッションと発表で構成する。また、レポートの書き方について、解説とトレーニングを行う。

The cooperative learning method will be used to help students acquire logical thinking skills, the ability to find and solve problems, language skills, and interpersonal skills as well as time management skills. Students will also

improve their discussion and presentation skills, and will further their understanding of nonverbal communication. Instructors will explain in class how students should prepare for cooperative learning exercises, and students will follow those instructions and read assignment texts in advance of classes.

Class activities will consist of small groups of students participating in discussions and presentations. Instructors will also explain and lead exercises on how to write reports.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス
- 2回：図書館オリエンテーション／協同学習①-1（初見のテキスト）
- 3回：協同学習①-1（初見のテキスト）／図書館オリエンテーション
- 4回：協同学習①-2
- 5回：協同学習②-1
- 6回：協同学習②-2
レポートの書き方①
- 7回：協同学習③-1
- 8回：協同学習③-2
レポートの書き方②
- 9回：グループ発表①-1（グループでテーマを決め、発表準備）
- 10回：グループ発表①-2（クラス内リハーサル）
- 11回：グループ発表①-3
- 12回：グループ発表①-4
- 13回：レポートの書き方③
- 14回：授業のまとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

毎回の授業で指示する。

また、初回ガイダンス時に、詳細な授業進行表を配布するので、常時参照すること。

自宅学習ノートを用意し、十分活用すること。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業への参加度:20% 協同学習フィードバック:20% 自宅学習ノート:25% レポート:20% 最終グループ発表:15%

テキスト / Textbooks

大島弥生ほか 『ピアで学ぶ大学生の日本語表現[第2版]』 ひつじ書房 2014 9784894767096 ○

補助資料

・ Master of Writing(立教大学大学教育開発・支援センター発行のレポートの手引き)

<http://www.rikkyo.ac.jp/aboutus/philosophy/activism/CDSHE/journal/leaflet/>

- ・ Master of Presentation (同センター発行の授業内プレゼンテーションの手引き)

<https://www.rikkyo.ac.jp/about/activities/fd/cdshe/mknpps000001ri7e-att/MasterofPresentation.pdf>

- ・ The Rikkyo Style (異文化コミュニケーション研究科作成のスタイルマニュアル)

<https://rguide.rikkyo.ac.jp/2023/files/cic/TheRikkyoStyle.pdf>

参考文献 / Readings

佐渡島紗織・吉野亜矢子 『これから研究を書くひとのためのガイドブック』 ひつじ書房 2008

松本茂・河野哲也 『大学生のための「読む・書く・プレゼン・ディベート」の方法』(第2版) 玉川大学出版部 2015

その他の参考文献については、授業中に適宜紹介する。

Academic Skills A

Academic Skills A

ガービー, K. (GARVEY KEVIN PATRICK)

開講年度：	2024
科目設置学部：	異文化コミュニケーション学部
科目コード等：	DM018
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	春学期
単位：	2
科目ナンバリング：	ICC1551
使用言語：	英語
授業形式：	演習・ゼミ
履修登録方法：	自動登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	学びの技法

授業の目標 / Course Objectives

The primary goal of this course is to practice fundamental academic skills related to (a) outlining academic papers and (b) outlining academic presentations. Students will practice using Google Docs and Slides in-depth, including editing and design tools. The secondary goal of this course is to practice the citation conventions of the commonly-used APA standard, as well as practice reading and effectively summarizing written sources.

There will be short, 10-question quizzes each week reviewing the previous weeks' topics. There is a midterm examination consisting of in-class tasks conducted in Google Docs, as well as a multiple choice test (reviewing previous quiz questions). The final project consists of (a) an academic paper outline and (b) a related academic presentation outline. There is a final examination consisting of a multiple choice test (reviewing previous quiz questions).

授業の内容 / Course Contents

The main focus of the class is on developing basic academic skills: developing research questions, citing sources, and summarizing information. We will practice these with three presentation types: explanation, compare/contrast, and persuasive.

Homework will consist of
 Specific tasks in related software
 Drafting outlines in Docs and Slides
 Short readings
 Drafting summaries of assigned readings

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回： Course introduction
 2 回： Google Docs: tools & features
 University Library Orientation
 3 回： Google Docs: structure & purpose
 4 回： Google Docs: review
 5 回： APA Citations: structure & purpose
 6 回： APA Citations: practical use
 7 回： Mid-term: timed tasks & multiple choice exam
 8 回： Google slides: tools & features
 9 回： Google slides: design & visuals
 10 回： Reading: inferring meaning
 11 回： Reading: interpreting meaning
 12 回： Reading: summarizing
 13 回： Essay preparation
 14 回： Final Test & Essay share

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド* (パワポ* 等) の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

Students are expected to work outside of class time to complete assignments.

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：002) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Quizzes and Participation:30% Individual assignments:20% Midterm test:20% Final document & presentation outlines:30%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

その他 / Others

Students are expected to use Google Classroom to access course materials and assignments. In-class work will be conducted using Google Documents and Slides.

Academic Skills A

Academic Skills A

ムチェトゥ (MUCHETU RANGARIRAI)

開講年度：	2024
科目設置学部：	異文化コミュニケーション学部
科目コード等：	DM019
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	秋学期
単位：	2
科目ナンバリング：	ICC1551
使用言語：	英語
授業形式：	演習・ゼミ
履修登録方法：	自動登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	学びの技法

授業の目標 / Course Objectives

The primary goal of this course is to practice fundamental academic skills related to (a) outlining academic papers and (b) outlining academic presentations. Students will practice using Google Docs and Slides in-depth, including editing and design tools. The secondary goal of this course is to practice the citation conventions of the commonly-used APA standard, as well as practice reading and effectively summarizing written sources.

There will be short, 10-question quizzes each week reviewing the previous weeks' topics. There is a midterm examination consisting of in-class tasks conducted in Google Docs, as well as a multiple choice test (reviewing previous quiz questions). The final project consists of (a) an academic paper outline and (b) a related academic presentation outline. There is a final examination consisting of a multiple choice test (reviewing previous quiz questions).

授業の内容 / Course Contents

The main focus of the class is on developing basic academic skills: developing research questions, citing sources, and summarizing information. We will practice these with three presentation types: explanation, compare/contrast, and persuasive.

Homework will consist of
 Specific tasks in related software
 Drafting outlines in Docs and Slides
 Short readings
 Drafting summaries of assigned readings

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1回：Course introduction
 2回：Google Docs: tools & features
 University Library Orientation
 3回：Google Docs: structure & purpose
 4回：Google Docs: review
 5回：APA Citations: structure & purpose
 6回：APA Citations: practical use
 7回：Mid-term: timed tasks & multiple choice exam
 8回：Google slides: tools & features
 9回：Google slides: design & visuals
 10回：Reading: inferring meaning
 11回：Reading: interpreting meaning
 12回：Reading: summarizing
 13回：Essay preparation
 14回：Final Test & Essay share

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド* (パワポ* 等) の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

Students are expected to work outside of class time to complete assignments.

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：2) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Quizzes and Participation:30% Individual assignments:20% Midterm test:20% Final document & presentation outlines:30%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

その他 / Others

Students are expected to use Google Classroom to access course materials and assignments. In-class work will be conducted using Google Documents and Slides.

基礎演習 B

Academic Skills B

石井 正子 (ISHII MASAKO)

開講年度：	2024
科目設置学部：	異文化コミュニケーション学部
科目コード等：	DM021
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	秋学期
単位：	2
科目ナンバリング：	ICC1510
使用言語：	日本語
授業形式：	演習・ゼミ
履修登録方法：	自動登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	学びの技法

授業の目標 / Course Objectives

「基礎演習 A」で身につけた力をさらに伸ばし、情報リテラシー、論理的思考力、問題発見・解決能力を磨き、さらに、議論、発表、レポートなど、それぞれに適切な形で発信する方法を身につける。

Students will further build on the skills they learned in Academic Skills A, refining their information literacy, logical thinking skills, and the ability to find and solve problems and mastering appropriate methods of originating discussion and producing presentations and reports.

授業の内容 / Course Contents

春学期の「協同学習」形式を継続し、論理的思考、議論の方法、口頭発表およびレポート執筆の方法を引き続き学んでいく。秋学期は、とくに次の3点に重点をおいて授業をすすめていく。

- 1) 課題テキストの予習（テキスト内容の正確な理解とそれに対する自分の意見の構築）
- 2) ディスカッション（他者の意見を聞き、自分の意見を論理的に述べ、議論を深める）
- 3) 課題のテーマに関連するトピックについて調査、考察し、口頭発表、およびレポートをまとめる。

口頭発表は、グループで議論し協同で完成させる。各自が自分のテーマについて書くレ

Students continue to study logical thinking and methods of discussion, oral presentation and report writing under

the same cooperative learning format as the spring semester. Fall semester classes will focus in particular on the following three points:

- (1) Preparation with assigned texts (properly understanding and forming a personal view of the content of the texts)
- (2) Discussion (furthering discussion by listening to other people's views and logically communicating personal views)
- (3) Investigating, considering, giving oral presentations and writing reports on topics related to assignment themes.

Students will discuss, create and complete oral presentations in groups. Students will write mini-reports on themes of their choice and evaluate and critique each other's reports to learn how to write reports and logical prose.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス
夏休み課題に関するディスカッション
- 2回：協同学習①-1
- 3回：協同学習①-2 (グループ発表)
- 4回：レポートの書き方①
- 5回：協同学習②-1
- 6回：協同学習②-2 (グループ発表)
- 7回：レポートの書き方②
- 8回：協同学習③-1
- 9回：協同学習③-2
- 10回：最終発表準備①
- 11回：最終発表準備②
- 12回：最終発表会
- 13回：レポートの書き方③
- 14回：授業のまとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド (パワポ等) の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：○
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

毎回の授業で指示する。

また、初回ガイダンス時に、詳細な授業進行表を配布するので、常時参照すること。

自宅学習ノートを用意し、十分活用すること。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：2) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業参加度:40% 小レポート:10% 課題図書レポート:10% 協同学習:20% 最終レポート割合 :20%

テキスト/ Textbooks

大島弥生他 『ピアで学ぶ大学生の日本語表現[第2版]』 ひつじ書房 2014 9784894767096 ○

補助資料

- ・ Master of Writing(立教大学大学教育開発・支援センター発行のレポートの手引き)

<http://www.rikkyo.ac.jp/aboutus/philosophy/activism/CDSHE/journal/leaflet/>

- ・ Master of Presentation (同センター発行の授業内プレゼンテーションの手引き)

<https://www.rikkyo.ac.jp/about/activities/fd/cdshe/mknpps000001ri7e-att/MasterofPresentation.pdf>

- ・ The Rikkyo Style (異文化コミュニケーション研究科作成のスタイルマニュアル)

<https://rguide.rikkyo.ac.jp/2023/files/cic/TheRikkyoStyle.pdf>

参考文献 / Readings

佐渡島紗織・吉野亜矢子 『これから研究を書くひとのためのガイドブック』 ひつじ書房 2008

松本茂・河野哲也 『大学生のための「読む・書く・プレゼン・ディベート」の方法』(第2版) 玉川大学出版部 2015

その他の参考文献については、授業中に適宜紹介する。

その他/ Others

クラスによって授業の順番が入れ替わることがある。授業内容および計画の詳細については、初回の授業時に配布されるシラバスを参照すること。

基礎演習 B

Academic Skills B

未定 (MITEI)

開講年度：	2024
科目設置学部：	異文化コミュニケーション学部
科目コード等：	DM022
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	秋学期
単位：	2
科目ナンバリング：	ICC1510
使用言語：	日本語
授業形式：	演習・ゼミ
履修登録方法：	自動登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	学びの技法

授業の目標 / Course Objectives

「基礎演習 A」で身につけた力をさらに伸ばし、情報リテラシー、論理的思考力、問題発見・解決能力を磨き、さらに、議論、発表、レポートなど、それぞれに適切な形で発信する方法を身につける。

Students will further build on the skills they learned in Academic Skills A, refining their information literacy, logical thinking skills, and the ability to find and solve problems and mastering appropriate methods of originating discussion and producing presentations and reports.

授業の内容 / Course Contents

春学期の「協同学習」形式を継続し、論理的思考、議論の方法、口頭発表およびレポート執筆の方法を引き続き学んでいく。秋学期は、とくに次の3点に重点をおいて授業をすすめていく。

- 1) 課題テキストの予習（テキスト内容の正確な理解とそれに対する自分の意見の構築）
- 2) ディスカッション（他者の意見を聞き、自分の意見を論理的に述べ、議論を深める）
- 3) 課題のテーマに関連するトピックについて調査、考察し、口頭発表、およびレポートをまとめる。

口頭発表は、グループで議論し協同で完成させる。各自が自分のテーマについて書くレ

Students continue to study logical thinking and methods of discussion, oral presentation and report writing under

the same cooperative learning format as the spring semester. Fall semester classes will focus in particular on the following three points:

- (1) Preparation with assigned texts (properly understanding and forming a personal view of the content of the texts)
- (2) Discussion (furthering discussion by listening to other people's views and logically communicating personal views)
- (3) Investigating, considering, giving oral presentations and writing reports on topics related to assignment themes.

Students will discuss, create and complete oral presentations in groups. Students will write mini-reports on themes of their choice and evaluate and critique each other's reports to learn how to write reports and logical prose.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス
夏休み課題に関するディスカッション
- 2回：協同学習①-1
- 3回：協同学習①-2 (グループ発表)
- 4回：レポートの書き方①
- 5回：協同学習②-1
- 6回：協同学習②-2 (グループ発表)
- 7回：レポートの書き方②
- 8回：協同学習③-1
- 9回：協同学習③-2
- 10回：最終発表準備①
- 11回：最終発表準備②
- 12回：最終発表会
- 13回：レポートの書き方③
- 14回：授業のまとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド (パワー等) の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：○
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

毎回の授業で指示する。

また、初回ガイダンス時に、詳細な授業進行表を配布するので、常時参照すること。

自宅学習ノートを用意し、十分活用すること。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：2) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業参加度:40% 小レポート:10% 課題図書レポート:10% 協同学習:20% 最終レポート割合 :20%

テキスト/ Textbooks

大島弥生他 『ピアで学ぶ大学生の日本語表現[第2版]』 ひつじ書房 2014 9784894767096 ○

補助資料

・ Master of Writing(立教大学大学教育開発・支援センター発行のレポートの手引き)

<http://www.rikkyo.ac.jp/aboutus/philosophy/activism/CDSHE/journal/leaflet/>

・ Master of Presentation (同センター発行の授業内プレゼンテーションの手引き)

<https://www.rikkyo.ac.jp/about/activities/fd/cdshe/mknpps000001ri7e-att/MasterofPresentation.pdf>

・ The Rikkyo Style (異文化コミュニケーション研究科作成のスタイルマニュアル)

<https://rguide.rikkyo.ac.jp/2023/files/cic/TheRikkyoStyle.pdf>

参考文献 / Readings

佐渡島紗織・吉野亜矢子 『これから研究を書くひとのためのガイドブック』 ひつじ書房 2008

松本茂・河野哲也 『大学生のための「読む・書く・プレゼン・ディベート」の方法』(第2版) 玉川大学出版部 2015

その他の参考文献については、授業中に適宜紹介する。

その他/ Others

クラスによって授業の順番が入れ替わることがある。授業内容および計画の詳細については、初回の授業時に配布されるシラバスを参照すること。

基礎演習 B

Academic Skills B

佐藤 邦彦 (SATO KUNIHICO)

開講年度：	2024
科目設置学部：	異文化コミュニケーション学部
科目コード等：	DM023
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	秋学期
単位：	2
科目ナンバリング：	ICC1510
使用言語：	日本語
授業形式：	演習・ゼミ
履修登録方法：	自動登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	学びの技法

授業の目標 / Course Objectives

「基礎演習 A」で身につけた力をさらに伸ばし、情報リテラシー、論理的思考力、問題発見・解決能力を磨き、さらに、議論、発表、レポートなど、それぞれに適切な形で発信する方法を身につける。

Students will further build on the skills they learned in Academic Skills A, refining their information literacy, logical thinking skills, and the ability to find and solve problems and mastering appropriate methods of originating discussion and producing presentations and reports.

授業の内容 / Course Contents

春学期の「協同学習」形式を継続し、論理的思考、議論の方法、口頭発表およびレポート執筆の方法を引き続き学んでいく。秋学期は、とくに次の3点に重点をおいて授業をすすめていく。

- 1) 課題テキストの予習（テキスト内容の正確な理解とそれに対する自分の意見の構築）
- 2) ディスカッション（他者の意見を聞き、自分の意見を論理的に述べ、議論を深める）
- 3) 課題のテーマに関連するトピックについて調査、考察し、口頭発表、およびレポートをまとめる。

口頭発表は、グループで議論し協同で完成させる。各自が自分のテーマについて書くレ

Students continue to study logical thinking and methods of discussion, oral presentation and report writing under

the same cooperative learning format as the spring semester. Fall semester classes will focus in particular on the following three points:

- (1) Preparation with assigned texts (properly understanding and forming a personal view of the content of the texts)
- (2) Discussion (furthering discussion by listening to other people's views and logically communicating personal views)
- (3) Investigating, considering, giving oral presentations and writing reports on topics related to assignment themes.

Students will discuss, create and complete oral presentations in groups. Students will write mini-reports on themes of their choice and evaluate and critique each other's reports to learn how to write reports and logical prose.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス
夏休み課題に関するディスカッション
- 2回：協同学習①-1
- 3回：協同学習①-2 (グループ発表)
- 4回：レポートの書き方①
- 5回：協同学習②-1
- 6回：協同学習②-2 (グループ発表)
- 7回：レポートの書き方②
- 8回：協同学習③-1
- 9回：協同学習③-2
- 10回：最終発表準備①
- 11回：最終発表準備②
- 12回：最終発表会
- 13回：レポートの書き方③
- 14回：授業のまとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド (パワポ等) の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：○
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

毎回の授業で指示する。

また、初回ガイダンス時に、詳細な授業進行表を配布するので、常時参照すること。

自宅学習ノートを用意し、十分活用すること。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：2) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業参加度:40% 小レポート:10% 課題図書レポート:10% 協同学習:20% 最終レポート割合 :20%

テキスト/ Textbooks

大島弥生他 『ピアで学ぶ大学生の日本語表現[第2版]』 ひつじ書房 2014 9784894767096 ○

補助資料

- ・ Master of Writing(立教大学大学教育開発・支援センター発行のレポートの手引き)

<http://www.rikkyo.ac.jp/aboutus/philosophy/activism/CDSHE/journal/leaflet/>

- ・ Master of Presentation (同センター発行の授業内プレゼンテーションの手引き)

<https://www.rikkyo.ac.jp/about/activities/fd/cdshe/mknpps000001ri7e-att/MasterofPresentation.pdf>

- ・ The Rikkyo Style (異文化コミュニケーション研究科作成のスタイルマニュアル)

<https://rguide.rikkyo.ac.jp/2023/files/cic/TheRikkyoStyle.pdf>

参考文献 / Readings

佐渡島紗織・吉野亜矢子 『これから研究を書くひとのためのガイドブック』 ひつじ書房 2008

松本茂・河野哲也 『大学生のための「読む・書く・プレゼン・ディベート」の方法』(第2版) 玉川大学出版部 2015

その他の参考文献については、授業中に適宜紹介する。

その他/ Others

クラスによって授業の順番が入れ替わることがある。授業内容および計画の詳細については、初回の授業時に配布されるシラバスを参照すること。

基礎演習 B

Academic Skills B

金子 亜美 (KANEKO AMI)

開講年度：	2024
科目設置学部：	異文化コミュニケーション学部
科目コード等：	DM024
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	秋学期
単位：	2
科目ナンバリング：	ICC1510
使用言語：	日本語
授業形式：	演習・ゼミ
履修登録方法：	自動登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	学びの技法

授業の目標 / Course Objectives

「基礎演習 A」で身につけた力をさらに伸ばし、情報リテラシー、論理的思考力、問題発見・解決能力を磨き、さらに、議論、発表、レポートなど、それぞれに適切な形で発信する方法を身につける。

Students will further build on the skills they learned in Academic Skills A, refining their information literacy, logical thinking skills, and the ability to find and solve problems and mastering appropriate methods of originating discussion and producing presentations and reports.

授業の内容 / Course Contents

春学期の「協同学習」形式を継続し、論理的思考、議論の方法、口頭発表およびレポート執筆の方法を引き続き学んでいく。秋学期は、とくに次の3点に重点をおいて授業をすすめていく。

- 1) 課題テキストの予習（テキスト内容の正確な理解とそれに対する自分の意見の構築）
- 2) ディスカッション（他者の意見を聞き、自分の意見を論理的に述べ、議論を深める）
- 3) 課題のテーマに関連するトピックについて調査、考察し、口頭発表、およびレポートをまとめる。

口頭発表は、グループで議論し協同で完成させる。各自が自分のテーマについて書くレ

Students continue to study logical thinking and methods of discussion, oral presentation and report writing under

the same cooperative learning format as the spring semester. Fall semester classes will focus in particular on the following three points:

- (1) Preparation with assigned texts (properly understanding and forming a personal view of the content of the texts)
- (2) Discussion (furthering discussion by listening to other people's views and logically communicating personal views)
- (3) Investigating, considering, giving oral presentations and writing reports on topics related to assignment themes.

Students will discuss, create and complete oral presentations in groups. Students will write mini-reports on themes of their choice and evaluate and critique each other's reports to learn how to write reports and logical prose.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス
夏休み課題に関するディスカッション
- 2回：協同学習①-1
- 3回：協同学習①-2 (グループ発表)
- 4回：レポートの書き方①
- 5回：協同学習②-1
- 6回：協同学習②-2 (グループ発表)
- 7回：レポートの書き方②
- 8回：協同学習③-1
- 9回：協同学習③-2
- 10回：最終発表準備①
- 11回：最終発表準備②
- 12回：最終発表会
- 13回：レポートの書き方③
- 14回：授業のまとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド (パワー等) の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：○
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

毎回の授業で指示する。

また、初回ガイダンス時に、詳細な授業進行表を配布するので、常時参照すること。

自宅学習ノートを用意し、十分活用すること。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：002) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業参加度:40% 小レポート:10% 課題図書レポート:10% 協同学習:20% 最終レポート割合 :20%

テキスト/ Textbooks

大島弥生他 『ピアで学ぶ大学生の日本語表現[第2版]』 ひつじ書房 2014 9784894767096 ○

補助資料

・ Master of Writing(立教大学大学教育開発・支援センター発行のレポートの手引き)

<http://www.rikkyo.ac.jp/aboutus/philosophy/activism/CDSHE/journal/leaflet/>

・ Master of Presentation (同センター発行の授業内プレゼンテーションの手引き)

<https://www.rikkyo.ac.jp/about/activities/fd/cdshe/mknpps000001ri7e-att/MasterofPresentation.pdf>

・ The Rikkyo Style (異文化コミュニケーション研究科作成のスタイルマニュアル)

<https://rguide.rikkyo.ac.jp/2023/files/cic/TheRikkyoStyle.pdf>

参考文献 / Readings

佐渡島紗織・吉野亜矢子 『これから研究を書くひとのためのガイドブック』 ひつじ書房 2008

松本茂・河野哲也 『大学生のための「読む・書く・プレゼン・ディベート」の方法』(第2版) 玉川大学出版部 2015

その他の参考文献については、授業中に適宜紹介する。

その他/ Others

クラスによって授業の順番が入れ替わることがある。授業内容および計画の詳細については、初回の授業時に配布されるシラバスを参照すること。

基礎演習 B

Academic Skills B

細井 尚子 (HOSOI NAOKO)

開講年度：	2024
科目設置学部：	異文化コミュニケーション学部
科目コード等：	DM025
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	秋学期
単位：	2
科目ナンバリング：	ICC1510
使用言語：	日本語
授業形式：	演習・ゼミ
履修登録方法：	自動登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	学びの技法

授業の目標 / Course Objectives

「基礎演習 A」で身につけた力をさらに伸ばし、情報リテラシー、論理的思考力、問題発見・解決能力を磨き、さらに、議論、発表、レポートなど、それぞれに適切な形で発信する方法を身につける。

Students will further build on the skills they learned in Academic Skills A, refining their information literacy, logical thinking skills, and the ability to find and solve problems and mastering appropriate methods of originating discussion and producing presentations and reports.

授業の内容 / Course Contents

春学期の「協同学習」形式を継続し、論理的思考、議論の方法、口頭発表およびレポート執筆の方法を引き続き学んでいく。秋学期は、とくに次の3点に重点をおいて授業をすすめていく。

- 1) 課題テキストの予習（テキスト内容の正確な理解とそれに対する自分の意見の構築）
- 2) ディスカッション（他者の意見を聞き、自分の意見を論理的に述べ、議論を深める）
- 3) 課題のテーマに関連するトピックについて調査、考察し、口頭発表、およびレポートをまとめる。

口頭発表は、グループで議論し協同で完成させる。各自が自分のテーマについて書くレ

Students continue to study logical thinking and methods of discussion, oral presentation and report writing under

the same cooperative learning format as the spring semester. Fall semester classes will focus in particular on the following three points:

- (1) Preparation with assigned texts (properly understanding and forming a personal view of the content of the texts)
- (2) Discussion (furthering discussion by listening to other people's views and logically communicating personal views)
- (3) Investigating, considering, giving oral presentations and writing reports on topics related to assignment themes.

Students will discuss, create and complete oral presentations in groups. Students will write mini-reports on themes of their choice and evaluate and critique each other's reports to learn how to write reports and logical prose.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス
夏休み課題に関するディスカッション
- 2回：協同学習①-1
- 3回：協同学習①-2 (グループ発表)
- 4回：レポートの書き方①
- 5回：協同学習②-1
- 6回：協同学習②-2 (グループ発表)
- 7回：レポートの書き方②
- 8回：協同学習③-1
- 9回：協同学習③-2
- 10回：最終発表準備①
- 11回：最終発表準備②
- 12回：最終発表会
- 13回：レポートの書き方③
- 14回：授業のまとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド (パワポ等) の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：○
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

毎回の授業で指示する。

また、初回ガイダンス時に、詳細な授業進行表を配布するので、常時参照すること。

自宅学習ノートを用意し、十分活用すること。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：2) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業参加度:40% 小レポート:10% 課題図書レポート:10% 協同学習:20% 最終レポート割合 :20%

テキスト/ Textbooks

大島弥生他 『ピアで学ぶ大学生の日本語表現[第2版]』 ひつじ書房 2014 9784894767096 ○

補助資料

・ Master of Writing(立教大学大学教育開発・支援センター発行のレポートの手引き)

<http://www.rikkyo.ac.jp/aboutus/philosophy/activism/CDSHE/journal/leaflet/>

・ Master of Presentation (同センター発行の授業内プレゼンテーションの手引き)

<https://www.rikkyo.ac.jp/about/activities/fd/cdshe/mknpps000001ri7e-att/MasterofPresentation.pdf>

・ The Rikkyo Style (異文化コミュニケーション研究科作成のスタイルマニュアル)

<https://rguide.rikkyo.ac.jp/2023/files/cic/TheRikkyoStyle.pdf>

参考文献 / Readings

佐渡島紗織・吉野亜矢子 『これから研究を書くひとのためのガイドブック』 ひつじ書房 2008

松本茂・河野哲也 『大学生のための「読む・書く・プレゼン・ディベート」の方法』(第2版) 玉川大学出版部 2015

その他の参考文献については、授業中に適宜紹介する。

その他/ Others

クラスによって授業の順番が入れ替わることがある。授業内容および計画の詳細については、初回の授業時に配布されるシラバスを参照すること。

基礎演習 B

Academic Skills B

松下 佳世 (MATSUSHITA KAYO)

開講年度：	2024
科目設置学部：	異文化コミュニケーション学部
科目コード等：	DM026
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	秋学期
単位：	2
科目ナンバリング：	ICC1510
使用言語：	日本語
授業形式：	演習・ゼミ
履修登録方法：	自動登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	学びの技法

授業の目標 / Course Objectives

「基礎演習 A」で身につけた力をさらに伸ばし、情報リテラシー、論理的思考力、問題発見・解決能力を磨き、さらに、議論、発表、レポートなど、それぞれに適切な形で発信する方法を身につける。

Students will further build on the skills they learned in Academic Skills A, refining their information literacy, logical thinking skills, and the ability to find and solve problems and mastering appropriate methods of originating discussion and producing presentations and reports.

授業の内容 / Course Contents

春学期の「協同学習」形式を継続し、論理的思考、議論の方法、口頭発表およびレポート執筆の方法を引き続き学んでいく。秋学期は、とくに次の3点に重点をおいて授業をすすめていく。

- 1) 課題テキストの予習（テキスト内容の正確な理解とそれに対する自分の意見の構築）
- 2) ディスカッション（他者の意見を聞き、自分の意見を論理的に述べ、議論を深める）
- 3) 課題のテーマに関連するトピックについて調査、考察し、口頭発表、およびレポートをまとめる。

口頭発表は、グループで議論し協同で完成させる。各自が自分のテーマについて書くレ

Students continue to study logical thinking and methods of discussion, oral presentation and report writing under

the same cooperative learning format as the spring semester. Fall semester classes will focus in particular on the following three points:

- (1) Preparation with assigned texts (properly understanding and forming a personal view of the content of the texts)
- (2) Discussion (furthering discussion by listening to other people's views and logically communicating personal views)
- (3) Investigating, considering, giving oral presentations and writing reports on topics related to assignment themes.

Students will discuss, create and complete oral presentations in groups. Students will write mini-reports on themes of their choice and evaluate and critique each other's reports to learn how to write reports and logical prose.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス
夏休み課題に関するディスカッション
- 2回：協同学習①-1
- 3回：協同学習①-2 (グループ発表)
- 4回：レポートの書き方①
- 5回：協同学習②-1
- 6回：協同学習②-2 (グループ発表)
- 7回：レポートの書き方②
- 8回：協同学習③-1
- 9回：協同学習③-2
- 10回：最終発表準備①
- 11回：最終発表準備②
- 12回：最終発表会
- 13回：レポートの書き方③
- 14回：授業のまとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド (パワポ等) の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：○
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

毎回の授業で指示する。

また、初回ガイダンス時に、詳細な授業進行表を配布するので、常時参照すること。

自宅学習ノートを用意し、十分活用すること。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：2) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業参加度:40% 小レポート:10% 課題図書レポート:10% 協同学習:20% 最終レポート割合 :20%

テキスト/ Textbooks

大島弥生他 『ピアで学ぶ大学生の日本語表現[第2版]』 ひつじ書房 2014 9784894767096 ○

補助資料

・ Master of Writing(立教大学大学教育開発・支援センター発行のレポートの手引き)

<http://www.rikkyo.ac.jp/aboutus/philosophy/activism/CDSHE/journal/leaflet/>

・ Master of Presentation (同センター発行の授業内プレゼンテーションの手引き)

<https://www.rikkyo.ac.jp/about/activities/fd/cdshe/mknpps000001ri7e-att/MasterofPresentation.pdf>

・ The Rikkyo Style (異文化コミュニケーション研究科作成のスタイルマニュアル)

<https://rguide.rikkyo.ac.jp/2023/files/cic/TheRikkyoStyle.pdf>

参考文献 / Readings

佐渡島紗織・吉野亜矢子 『これから研究を書くひとのためのガイドブック』 ひつじ書房 2008

松本茂・河野哲也 『大学生のための「読む・書く・プレゼン・ディベート」の方法』(第2版) 玉川大学出版部 2015

その他の参考文献については、授業中に適宜紹介する。

その他/ Others

クラスによって授業の順番が入れ替わることがある。授業内容および計画の詳細については、初回の授業時に配布されるシラバスを参照すること。

基礎演習 B

Academic Skills B

飯島 みどり (IIJIMA MIDORI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 異文化コミュニケーション学部
科目コード等： DM027
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： ICC1510
使用言語： 日本語
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 自動登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考： 学びの技法

授業の目標 / Course Objectives

「基礎演習 A」で身につけた力をさらに伸ばし、情報リテラシー、論理的思考力、問題発見・解決能力を磨き、さらに、議論、発表、レポートなど、それぞれに適切な形で発信する方法を身につける。

Students will further build on the skills they learned in Academic Skills A, refining their information literacy, logical thinking skills, and the ability to find and solve problems and mastering appropriate methods of originating discussion and producing presentations and reports.

授業の内容 / Course Contents

春学期の「協同学習」形式を継続し、論理的思考、議論の方法、口頭発表およびレポート執筆の方法を引き続き学んでいく。秋学期は、とくに次の3点に重点をおいて授業をすすめていく。

- 1) 課題テキストの予習（テキスト内容の正確な理解とそれに対する自分の意見の構築）
- 2) ディスカッション（他者の意見を聞き、自分の意見を論理的に述べ、議論を深める）
- 3) 課題のテーマに関連するトピックについて調査、考察し、口頭発表、およびレポートをまとめる。

口頭発表は、グループで議論し協同で完成させる。各自が自分のテーマについて書くレ

Students continue to study logical thinking and methods of discussion, oral presentation and report writing under

the same cooperative learning format as the spring semester. Fall semester classes will focus in particular on the following three points:

- (1) Preparation with assigned texts (properly understanding and forming a personal view of the content of the texts)
- (2) Discussion (furthering discussion by listening to other people's views and logically communicating personal views)
- (3) Investigating, considering, giving oral presentations and writing reports on topics related to assignment themes.

Students will discuss, create and complete oral presentations in groups. Students will write mini-reports on themes of their choice and evaluate and critique each other's reports to learn how to write reports and logical prose.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス
夏休み課題に関するディスカッション
- 2回：協同学習①-1
- 3回：協同学習①-2 (グループ発表)
- 4回：レポートの書き方①
- 5回：協同学習②-1
- 6回：協同学習②-2 (グループ発表)
- 7回：レポートの書き方②
- 8回：協同学習③-1
- 9回：協同学習③-2
- 10回：最終発表準備①
- 11回：最終発表準備②
- 12回：最終発表会
- 13回：レポートの書き方③
- 14回：授業のまとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド (パワポ等) の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：○
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

毎回の授業で指示する。

また、初回ガイダンス時に、詳細な授業進行表を配布するので、常時参照すること。

自宅学習ノートを用意し、十分活用すること。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：2) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業参加度:40% 小レポート:10% 課題図書レポート:10% 協同学習:20% 最終レポート割合 :20%

テキスト/ Textbooks

大島弥生他 『ピアで学ぶ大学生の日本語表現[第2版]』 ひつじ書房 2014 9784894767096 ○

補助資料

・ Master of Writing(立教大学大学教育開発・支援センター発行のレポートの手引き)

<http://www.rikkyo.ac.jp/aboutus/philosophy/activism/CDSHE/journal/leaflet/>

・ Master of Presentation (同センター発行の授業内プレゼンテーションの手引き)

<https://www.rikkyo.ac.jp/about/activities/fd/cdshe/mknpps000001ri7e-att/MasterofPresentation.pdf>

・ The Rikkyo Style (異文化コミュニケーション研究科作成のスタイルマニュアル)

<https://rguide.rikkyo.ac.jp/2023/files/cic/TheRikkyoStyle.pdf>

参考文献 / Readings

佐渡島紗織・吉野亜矢子 『これから研究を書くひとのためのガイドブック』 ひつじ書房 2008

松本茂・河野哲也 『大学生のための「読む・書く・プレゼン・ディベート」の方法』(第2版) 玉川大学出版部 2015

その他の参考文献については、授業中に適宜紹介する。

その他/ Others

クラスによって授業の順番が入れ替わることがある。授業内容および計画の詳細については、初回の授業時に配布されるシラバスを参照すること。

Academic Skills B

Academic Skills B

シ, ゲンギン (ZI YANYIN)

開講年度：	2024
科目設置学部：	異文化コミュニケーション学部
科目コード等：	DM028
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	秋学期
単位：	2
科目ナンバリング：	ICC1551
使用言語：	英語
授業形式：	演習・ゼミ
履修登録方法：	自動登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	学びの技法

授業の目標 / Course Objectives

Students will learn how to develop the subject of his/her research. The goals of this course are for students to be able to

- 1.obtain critical analysis, rigor and independence of thought.
- 2.practice individual judgement and skill in the application of research theory and methods.
- 3.develop skills required in writing research proposals, reports and theses.

授業の内容 / Course Contents

This course aims to introduce to students the basic principles of qualitative research in the humanities, particularly in the fields of anthropology and sociology. Students will be given the opportunity to read and analyse English language research materials including selected journal articles and excerpts of journal articles. The papers studied in class will focus on topics such as international relations, migration studies, cultural identity, and human resource management.

Generally, each class the instructor will explain principles of research to be covered for the week. Students will be given time in some classes to work on their research and reflection journals and get feedback on their progress

from the instructor.

Students are expected to come to class having read the assigned weekly texts, complete writing/revision tasks, and give presentations.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：1st class: Introduction and overview
- 2 回：2nd class: Choosing a topic and organizing a schedule
- 3 回：3rd class: Research methods and searching online resource
- 4 回：4th class: Creating a reading list
- 5 回：5th class: Collecting and summarizing sources
- 6 回：6th class: Brainstorming
- 7 回：7th class: Literature review and questionnaire
- 8 回：8th class: Ethical issues
- 9 回：9th class: Techniques for collecting data
- 10 回：10th class: Analysing your data 1
- 11 回：11th class: Analysing your data 2
- 12 回：12th class: Grammar, referencing, and plagiarism
- 13 回：13th class: Peer review
- 14 回：14th class: Presentation

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワーポイント等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：	○
個人発表	：	○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：	
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：	
上記いずれも用いない予定	：						

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

The instructor may provide additional reading materials throughout the semester.

Depending on progress made during the semester, changes to the content outlined above might become necessary. The instructor reserves the right to modify this syllabus, with

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Attendance and Participation:30% Assignments (including in-class discussions and presentation):40% Final Presentations:30%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

Loraine Blaxter, Christina Hughes & Malcolm Tight. ed. How to Research. 4th New York: McGraw-Hill Open University Press. 2010

Walleman, N. Your research project: a step-by-step guide for the first-time researcher. London: Sage Publications. 2005

基礎演習 A

Academic Skills A

小山 亘 (KOYAMA WATARU)

開講年度： 2024
科目設置学部： 異文化コミュニケーション学部
科目コード等： DM030
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： ICC1510
使用言語： 日本語
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 自動登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考： 学びの技法

授業の目標 / Course Objectives

大学で学ぶための基礎となる論理的思考力、情報リテラシーを身につけ、コミュニケーション力、情報受信・発信能力、問題発見・解決能力を向上させる。

Students will master the logical thinking skills and information literacy that form the foundation of university-level study, and improve their abilities to communicate, receive and originate information, and find and solve problems.

授業の内容 / Course Contents

「協同学習」の方法論を用い、論理的思考力、問題発見・解決能力、言語スキル、対人関係スキルを学ぶとともに、タイム・マネジメントを習得する。また、議論や発表のスキルとともに、ノン・バーバルコミュニケーションへの意識も高める。「協同学習」は課題テキストを、授業内で解説する予習の仕方によって各自が予習して授業に臨む。授業は少人数でのグループディスカッションと発表で構成する。また、レポートの書き方について、解説とトレーニングを行う。

The cooperative learning method will be used to help students acquire logical thinking skills, the ability to find and solve problems, language skills, and interpersonal skills as well as time management skills. Students will also

improve their discussion and presentation skills, and will further their understanding of nonverbal communication. Instructors will explain in class how students should prepare for cooperative learning exercises, and students will follow those instructions and read assignment texts in advance of classes.

Class activities will consist of small groups of students participating in discussions and presentations. Instructors will also explain and lead exercises on how to write reports.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス
- 2回：図書館オリエンテーション／協同学習①-1（初見のテキスト）
- 3回：協同学習①-1（初見のテキスト）／図書館オリエンテーション
- 4回：協同学習①-2
- 5回：協同学習②-1
- 6回：協同学習②-2
レポートの書き方①
- 7回：協同学習③-1
- 8回：協同学習③-2
レポートの書き方②
- 9回：グループ発表①-1（グループでテーマを決め、発表準備）
- 10回：グループ発表①-2（クラス内リハーサル）
- 11回：グループ発表①-3
- 12回：グループ発表①-4
- 13回：レポートの書き方③
- 14回：授業のまとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

毎回の授業で指示する。

また、初回ガイダンス時に、詳細な授業進行表を配布するので、常時参照すること。

自宅学習ノートを用意し、十分活用すること。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業への参加度：20% 協同学習フィードバック：20% 自宅学習ノート：25% レポート：20% 最終グループ発表：15%

テキスト / Textbooks

大島弥生ほか 『ピアで学ぶ大学生の日本語表現[第2版]』 ひつじ書房 2014 9784894767096 ○

補助資料

・Master of Writing(立教大学大学教育開発・支援センター発行のレポートの手引き)

<http://www.rikkyo.ac.jp/aboutus/philosophy/activism/CDSHE/journal/leaflet/>

- ・ Master of Presentation (同センター発行の授業内プレゼンテーションの手引き)

<https://www.rikkyo.ac.jp/about/activities/fd/cdshe/mknpps000001ri7e-att/MasterofPresentation.pdf>

- ・ The Rikkyo Style (異文化コミュニケーション研究科作成のスタイルマニュアル)

<https://rguide.rikkyo.ac.jp/2023/files/cic/TheRikkyoStyle.pdf>

参考文献 / Readings

佐渡島紗織・吉野亜矢子 『これから研究を書くひとのためのガイドブック』 ひつじ書房 2008

松本茂・河野哲也 『大学生のための「読む・書く・プレゼン・ディベート」の方法』(第2版) 玉川大学出版部 2015

その他の参考文献については、授業中に適宜紹介する。

基礎演習 A

Academic Skills A

金 知賢 (KIM JIHYEON)

開講年度： 2024
科目設置学部： 異文化コミュニケーション学部
科目コード等： DM031
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： ICC1510
使用言語： 日本語
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 自動登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考： 学びの技法

授業の目標 / Course Objectives

大学で学ぶための基礎となる論理的思考力、情報リテラシーを身につけ、コミュニケーション力、情報受信・発信能力、問題発見・解決能力を向上させる。

Students will master the logical thinking skills and information literacy that form the foundation of university-level study, and improve their abilities to communicate, receive and originate information, and find and solve problems.

授業の内容 / Course Contents

「協同学習」の方法論を用い、論理的思考力、問題発見・解決能力、言語スキル、対人関係スキルを学ぶとともに、タイム・マネジメントを習得する。また、議論や発表のスキルとともに、ノン・バーバルコミュニケーションへの意識も高める。「協同学習」は課題テキストを、授業内で解説する予習の仕方に従って各自が予習して授業に臨む。授業は少人数でのグループディスカッションと発表で構成する。また、レポートの書き方について、解説とトレーニングを行う。

The cooperative learning method will be used to help students acquire logical thinking skills, the ability to find and solve problems, language skills, and interpersonal skills as well as time management skills. Students will also

improve their discussion and presentation skills, and will further their understanding of nonverbal communication. Instructors will explain in class how students should prepare for cooperative learning exercises, and students will follow those instructions and read assignment texts in advance of classes.

Class activities will consist of small groups of students participating in discussions and presentations. Instructors will also explain and lead exercises on how to write reports.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス
- 2回：図書館オリエンテーション／協同学習①-1（初見のテキスト）
- 3回：協同学習①-1（初見のテキスト）／図書館オリエンテーション
- 4回：協同学習①-2
- 5回：協同学習②-1
- 6回：協同学習②-2
レポートの書き方①
- 7回：協同学習③-1
- 8回：協同学習③-2
レポートの書き方②
- 9回：グループ発表①-1（グループでテーマを決め、発表準備）
- 10回：グループ発表①-2（クラス内リハーサル）
- 11回：グループ発表①-3
- 12回：グループ発表①-4
- 13回：レポートの書き方③
- 14回：授業のまとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

毎回の授業で指示する。

また、初回ガイダンス時に、詳細な授業進行表を配布するので、常時参照すること。

自宅学習ノートを用意し、十分活用すること。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業への参加度:20% 協同学習フィードバック:20% 自宅学習ノート:25% レポート:20% 最終グループ発表:15%

テキスト / Textbooks

大島弥生ほか 『ピアで学ぶ大学生の日本語表現[第2版]』 ひつじ書房 2014 9784894767096 ○

補助資料

・Master of Writing(立教大学大学教育開発・支援センター発行のレポートの手引き)

<http://www.rikkyo.ac.jp/aboutus/philosophy/activism/CDSHE/journal/leaflet/>

- ・ Master of Presentation (同センター発行の授業内プレゼンテーションの手引き)

<https://www.rikkyo.ac.jp/about/activities/fd/cdshe/mknpps000001ri7e-att/MasterofPresentation.pdf>

- ・ The Rikkyo Style (異文化コミュニケーション研究科作成のスタイルマニュアル)

<https://rguide.rikkyo.ac.jp/2023/files/cic/TheRikkyoStyle.pdf>

参考文献 / Readings

佐渡島紗織・吉野亜矢子 『これから研究を書くひとのためのガイドブック』 ひつじ書房 2008

松本茂・河野哲也 『大学生のための「読む・書く・プレゼン・ディベート」の方法』(第2版) 玉川大学出版部 2015

その他の参考文献については、授業中に適宜紹介する。

基礎演習 B

Academic Skills B

山口 まり子 (YAMAGUCHI MARIKO)

開講年度：	2024
科目設置学部：	異文化コミュニケーション学部
科目コード等：	DM032
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	秋学期
単位：	2
科目ナンバリング：	ICC1510
使用言語：	日本語
授業形式：	演習・ゼミ
履修登録方法：	自動登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	学びの技法

授業の目標 / Course Objectives

「基礎演習 A」で身につけた力をさらに伸ばし、情報リテラシー、論理的思考力、問題発見・解決能力を磨き、さらに、議論、発表、レポートなど、それぞれに適切な形で発信する方法を身につける。

Students will further build on the skills they learned in Academic Skills A, refining their information literacy, logical thinking skills, and the ability to find and solve problems and mastering appropriate methods of originating discussion and producing presentations and reports.

授業の内容 / Course Contents

春学期の「協同学習」形式を継続し、論理的思考、議論の方法、口頭発表およびレポート執筆の方法を引き続き学んでいく。秋学期は、とくに次の3点に重点をおいて授業をすすめていく。

- 1) 課題テキストの予習（テキスト内容の正確な理解とそれに対する自分の意見の構築）
- 2) ディスカッション（他者の意見を聞き、自分の意見を論理的に述べ、議論を深める）
- 3) 課題のテーマに関連するトピックについて調査、考察し、口頭発表、およびレポートをまとめる。

口頭発表は、グループで議論し協同で完成させる。各自が自分のテーマについて書くレ

Students continue to study logical thinking and methods of discussion, oral presentation and report writing under

the same cooperative learning format as the spring semester. Fall semester classes will focus in particular on the following three points:

- (1) Preparation with assigned texts (properly understanding and forming a personal view of the content of the texts)
- (2) Discussion (furthering discussion by listening to other people's views and logically communicating personal views)
- (3) Investigating, considering, giving oral presentations and writing reports on topics related to assignment themes.

Students will discuss, create and complete oral presentations in groups. Students will write mini-reports on themes of their choice and evaluate and critique each other's reports to learn how to write reports and logical prose.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス
夏休み課題に関するディスカッション
- 2回：協同学習①-1
- 3回：協同学習①-2 (グループ発表)
- 4回：レポートの書き方①
- 5回：協同学習②-1
- 6回：協同学習②-2 (グループ発表)
- 7回：レポートの書き方②
- 8回：協同学習③-1
- 9回：協同学習③-2
- 10回：最終発表準備①
- 11回：最終発表準備②
- 12回：最終発表会
- 13回：レポートの書き方③
- 14回：授業のまとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド (パワー等) の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：○
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

毎回の授業で指示する。

また、初回ガイダンス時に、詳細な授業進行表を配布するので、常時参照すること。

自宅学習ノートを用意し、十分活用すること。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：2) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業参加度:40% 小レポート:10% 課題図書レポート:10% 協同学習:20% 最終レポート割合 :20%

テキスト/ Textbooks

大島弥生他 『ピアで学ぶ大学生の日本語表現[第2版]』 ひつじ書房 2014 9784894767096 ○

補助資料

・ Master of Writing(立教大学大学教育開発・支援センター発行のレポートの手引き)

<http://www.rikkyo.ac.jp/aboutus/philosophy/activism/CDSHE/journal/leaflet/>

・ Master of Presentation (同センター発行の授業内プレゼンテーションの手引き)

<https://www.rikkyo.ac.jp/about/activities/fd/cdshe/mknpps000001ri7e-att/MasterofPresentation.pdf>

・ The Rikkyo Style (異文化コミュニケーション研究科作成のスタイルマニュアル)

<https://rguide.rikkyo.ac.jp/2023/files/cic/TheRikkyoStyle.pdf>

参考文献 / Readings

佐渡島紗織・吉野亜矢子 『これから研究を書くひとのためのガイドブック』 ひつじ書房 2008

松本茂・河野哲也 『大学生のための「読む・書く・プレゼン・ディベート」の方法』(第2版) 玉川大学出版部 2015

その他の参考文献については、授業中に適宜紹介する。

その他/ Others

クラスによって授業の順番が入れ替わることがある。授業内容および計画の詳細については、初回の授業時に配布されるシラバスを参照すること。

基礎演習 B

Academic Skills B

金 知賢 (KIM JIHYEON)

開講年度：	2024
科目設置学部：	異文化コミュニケーション学部
科目コード等：	DM033
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	秋学期
単位：	2
科目ナンバリング：	ICC1510
使用言語：	日本語
授業形式：	演習・ゼミ
履修登録方法：	自動登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	学びの技法

授業の目標 / Course Objectives

「基礎演習 A」で身につけた力をさらに伸ばし、情報リテラシー、論理的思考力、問題発見・解決能力を磨き、さらに、議論、発表、レポートなど、それぞれに適切な形で発信する方法を身につける。

Students will further build on the skills they learned in Academic Skills A, refining their information literacy, logical thinking skills, and the ability to find and solve problems and mastering appropriate methods of originating discussion and producing presentations and reports.

授業の内容 / Course Contents

春学期の「協同学習」形式を継続し、論理的思考、議論の方法、口頭発表およびレポート執筆の方法を引き続き学んでいく。秋学期は、とくに次の3点に重点をおいて授業をすすめていく。

- 1) 課題テキストの予習（テキスト内容の正確な理解とそれに対する自分の意見の構築）
- 2) ディスカッション（他者の意見を聞き、自分の意見を論理的に述べ、議論を深める）
- 3) 課題のテーマに関連するトピックについて調査、考察し、口頭発表、およびレポートをまとめる。

口頭発表は、グループで議論し協同で完成させる。各自が自分のテーマについて書くレ

Students continue to study logical thinking and methods of discussion, oral presentation and report writing under

the same cooperative learning format as the spring semester. Fall semester classes will focus in particular on the following three points:

- (1) Preparation with assigned texts (properly understanding and forming a personal view of the content of the texts)
- (2) Discussion (furthering discussion by listening to other people's views and logically communicating personal views)
- (3) Investigating, considering, giving oral presentations and writing reports on topics related to assignment themes.

Students will discuss, create and complete oral presentations in groups. Students will write mini-reports on themes of their choice and evaluate and critique each other's reports to learn how to write reports and logical prose.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス
夏休み課題に関するディスカッション
- 2回：協同学習①-1
- 3回：協同学習①-2 (グループ発表)
- 4回：レポートの書き方①
- 5回：協同学習②-1
- 6回：協同学習②-2 (グループ発表)
- 7回：レポートの書き方②
- 8回：協同学習③-1
- 9回：協同学習③-2
- 10回：最終発表準備①
- 11回：最終発表準備②
- 12回：最終発表会
- 13回：レポートの書き方③
- 14回：授業のまとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド (パワポ等) の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：○
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

毎回の授業で指示する。

また、初回ガイダンス時に、詳細な授業進行表を配布するので、常時参照すること。

自宅学習ノートを用意し、十分活用すること。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：2) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業参加度:40% 小レポート:10% 課題図書レポート:10% 協同学習:20% 最終レポート割合 :20%

テキスト/ Textbooks

大島弥生他 『ピアで学ぶ大学生の日本語表現[第2版]』 ひつじ書房 2014 9784894767096 ○

補助資料

・ Master of Writing(立教大学大学教育開発・支援センター発行のレポートの手引き)

<http://www.rikkyo.ac.jp/aboutus/philosophy/activism/CDSHE/journal/leaflet/>

・ Master of Presentation (同センター発行の授業内プレゼンテーションの手引き)

<https://www.rikkyo.ac.jp/about/activities/fd/cdshe/mknpps000001ri7e-att/MasterofPresentation.pdf>

・ The Rikkyo Style (異文化コミュニケーション研究科作成のスタイルマニュアル)

<https://rguide.rikkyo.ac.jp/2023/files/cic/TheRikkyoStyle.pdf>

参考文献 / Readings

佐渡島紗織・吉野亜矢子 『これから研究を書くひとのためのガイドブック』 ひつじ書房 2008

松本茂・河野哲也 『大学生のための「読む・書く・プレゼン・ディベート」の方法』(第2版) 玉川大学出版部 2015

その他の参考文献については、授業中に適宜紹介する。

その他/ Others

クラスによって授業の順番が入れ替わることがある。授業内容および計画の詳細については、初回の授業時に配布されるシラバスを参照すること。

異文化コミュニケーション研究入門

Overview of Intercultural Communication Studies

異文化専任教員（）

開講年度：	2024
科目設置学部：	異文化コミュニケーション学部
科目コード等：	DM051
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	春学期
単位：	2
科目ナンバリング：	ICC1510
使用言語：	日本語
授業形式：	講義
履修登録方法：	自動登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	2024 年度以降入学者対象

授業の目標 / Course Objectives

異文化コミュニケーション学部における導入科目であり、異文化コミュニケーション研究についての基本的な知識を得ることを目標とする。担当教員がそれぞれの専門分野について入門的な内容を講義することで、異文化コミュニケーション学部で何をどのように学ぶのか、履修者が自ら考え判断する機会と材料を提供することを目的とする

The goal of this College of Intercultural Communication introductory course is to teach students the basic knowledge of intercultural communication studies. Instructors will lecture on introductory material in their respective areas of specialization to provide students with the opportunities and materials they need to decide for themselves what and how to study in the College of Intercultural Communication.

授業の内容 / Course Contents

本科目は輪講形式で行われ、担当教員がそれぞれの専門分野や研究テーマについて入門的な内容の講義を行う。

Instructors will take turns giving an introductory lecture on their area of expertise and/or research interests.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：オリエンテーション：異文化コミュニケーション学部で何を学ぶか
 2回：輪講①
 3回：輪講②
 4回：輪講③
 5回：輪講④
 6回：輪講⑤
 7回：輪講⑥
 8回：輪講⑦
 9回：輪講⑧
 10回：輪講⑨
 11回：輪講⑩
 12回：輪講⑪
 13回：輪講⑫
 14回：まとめ、最終レポート提出

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド*（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

毎回の授業で指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 各回の参加および課題：60%

最終レポート割合：40%

テキスト / Textbooks

特定の教科書は使用しない。

参考文献 / Readings

各授業で適宜紹介する。

注意事項（検索結果画面）

2024年度以降入学者対象

異文化コミュニケーション研究入門

Overview of Intercultural Communication Studies

異文化専任教員（）

開講年度：	2024
科目設置学部：	異文化コミュニケーション学部
科目コード等：	DM052
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	秋学期
単位：	2
科目ナンバリング：	ICC1510
使用言語：	日本語
授業形式：	講義
履修登録方法：	自動登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	2024 年度以降入学者対象

授業の目標 / Course Objectives

異文化コミュニケーション学部における導入科目であり、異文化コミュニケーション研究についての基本的な知識を得ることを目標とする。担当教員がそれぞれの専門分野について入門的な内容を講義することで、異文化コミュニケーション学部で何をどのように学ぶのか、履修者が自ら考え判断する機会と材料を提供することを目的とする

The goal of this College of Intercultural Communication introductory course is to teach students the basic knowledge of intercultural communication studies. Instructors will lecture on introductory material in their respective areas of specialization to provide students with the opportunities and materials they need to decide for themselves what and how to study in the College of Intercultural Communication.

授業の内容 / Course Contents

本科目は輪講形式で行われ、担当教員がそれぞれの専門分野や研究テーマについて入門的な内容の講義を行う。

Instructors will take turns giving an introductory lecture on their area of expertise and/or research interests.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：オリエンテーション：異文化コミュニケーション学部で何を学ぶか
 2回：輪講①
 3回：輪講②
 4回：輪講③
 5回：輪講④
 6回：輪講⑤
 7回：輪講⑥
 8回：輪講⑦
 9回：輪講⑧
 10回：輪講⑨
 11回：輪講⑩
 12回：輪講⑪
 13回：輪講⑫
 14回：まとめ、最終レポート提出

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワーポイント等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

毎回の授業で指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 各回の参加および課題：60%

最終レポート割合：40%

テキスト / Textbooks

特定の教科書は使用しない。

参考文献 / Readings

各授業で適宜紹介する。

注意事項（検索結果画面）

2024年度以降入学者対象

Overview of Intercultural Communication Studies

Overview of Intercultural Communication Studies

異文化専任教員（）

開講年度：	2024
科目設置学部：	異文化コミュニケーション学部
科目コード等：	DM053
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	春学期
単位：	2
科目ナンバリング：	ICC1551
使用言語：	英語
授業形式：	講義
履修登録方法：	自動登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	2024 年度以降入学者対象

授業の目標 / Course Objectives

The goal of this course is to familiarize students with the basic concepts and theoretical perspectives related to intercultural communication studies. By the end of the course students will be expected to have developed a broad base of knowledge in the field of intercultural communication studies and have a better understanding of the curriculum the College of Intercultural Communication offers.

授業の内容 / Course Contents

Instructors will take turns giving introductory lectures on a range of topics related to intercultural communication studies.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：Course Introduction
- 2 回：Lecture 1
- 3 回：Lecture 2
- 4 回：Lecture 3
- 5 回：Lecture 4

- 6回：Lecture 5
7回：Lecture 6
8回：Lecture 7
9回：Lecture 8
10回：Lecture 9
11回：Lecture 10
12回：Lecture 11
13回：Lecture 12
14回：Course Wrap-up

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワーポイント等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

To be announced in class.

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Lecture assignments & In-class activities:60% Final report:40%

テキスト / Textbooks

No particular textbook will be used in this course.

参考文献 / Readings

As indicated in each class.

注意事項（検索結果画面）

2024年度以降入学者対象

コミュニケーションセミナー1（ドイツ語）

Communication Seminar 1 (German)

三ッ石 祐子 (MITSUISHI YUKO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 異文化コミュニケーション学部

科目コード等： DM111

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： ICC1623

使用言語： その他

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 備考参照

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 1 年次：自動登録

2 年次以上：科目コード登録

授業の目標 / Course Objectives

ドイツ語の総合的な運用能力の基礎を身につけるクラス。ドイツ語に初めて接する人が、その特徴を理解し、「読む・書く・聞く・話す」の4技能を基礎的なレベルで運用できることを目指す。

具体的な到達目標は CEFR（ヨーロッパ言語共通参照枠）の A1 レベルに基づき、以下のように定める。

- 具体的な欲求を満足させるための、よく使われる日常的表現と基本的な言い回しは理解し、用いることもできる。
- 自分や他の人を紹介することができ、どこに住んでいるか、誰と知り合いか、持ち物などの個人的情報について、質問したり、答えた

An introductory course to acquire the basics of comprehensive German language skills. It aims to enable beginning learners of the German language to understand its characteristics and to use the four skills (reading, writing, listening, and speaking) at a basic level.

The aims of this course are based on the description of A1 of CEFR (Common European Framework of Reference for Languages) and determined as follows:

1. Can understand and use familiar everyday expressions and very basic phrases aimed at the satisfaction of needs of a concrete type.
2. Can introduce him/herself and others and can ask and answer questions about personal details such as where he/she lives, people he/she knows and things he/she has.
3. Can interact in a simple way provided the other person talks slowly and clearly and is prepared to help.

授業の内容 / Course Contents

この科目では、ペアワークやグループワークを通し、学習者同士が互いに協力しながら学ぶことで、ドイツ語の文法知識だけでなく、言語運用能力（話す・聞く・読む・書くなどのスキル）を総合的に身に付ける。また、複言語・複文化能力を養うために、ドイツ語圏の社会や文化について自国のものと比較しながら理解を深める。

In this course students will learn comprehensively not only the basic grammatical knowledge of German but also linguistic performance (skills like speaking, listening, reading and writing), by cooperative learning with their classmates in pair work and group work. Moreover, to develop pluricultural and plurilinguistic skills, they will gain more insight of social and cultural knowledge by contrasting with their native lands.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：Lektion 1 テーマ：挨拶／自己紹介／国名・専攻
文法：動詞の現在人称変化／動詞の位置
- 2 回：Lektion 2 テーマ：職業・国籍
文法：sein の 1 人称と 2 人称／並列の接続詞／ ja/nein/doch の使い方
- 3 回：Lektion 3 テーマ：友達の紹介／数詞（0～10）／言語名
文法：動詞の現在人称変化（3 人称）／人物を表す形容詞
- 4 回：プロジェクト① Meine Familie
- 5 回：Lektion 4 テーマ：レストランでの会話／持ち物①／色／食べ物・飲み物
文法：名詞の性と定冠詞・不定冠詞（1 格・4 格）／4 格目的語をとる動詞／
不規則動詞の現在人称変化 I／評価を表す副詞
- 6 回：Lektion 5 テーマ：住まい・家具／数詞（11～100）／値段を聞く
文法：人称代名詞（1 格・4 格）／名詞の複数形
- 7 回：Lektion 6 テーマ：家族／持ち物②
文法：所有冠詞と否定冠詞（1 格・4 格）
- 8 回：プロジェクト② Meine Lieblingsdinge
- 9 回：Lektion 7 テーマ：趣味・余暇活動・頻度の表現・曜日
文法：不規則動詞の現在人称変化 II
- 10 回：Lektion 8 テーマ：贈り物／身に付ける物／数詞（101～）
文法：所有冠詞と人称代名詞（3 格）
- 11 回：Lektion 9 テーマ：予定の取り決め／ホテルの受付／予定・規則・願望
文法：話法の助動詞／未来形
- 12 回：Lektion 10 テーマ：街の中で・道案内／交通手段
文法：時・場所を表す前置詞
- 13 回：プロジェクト③ Termin am Wochenende
- 14 回：最終テスト

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワー等) の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:				

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

宿題・復習などの自主学習を行うこと。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：002) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 毎回の授業への参加度や提出物など:50% 随時実施する小テストおよび最終テストなど:50%

テキスト / Textbooks

新倉真矢子・正木晶子・中野有希子 『シュピッツェ！ 1 コミュニケーションで学ぶドイツ語』 朝日出版社 2019 9784255254227 ○

参考文献 / Readings

授業中に説明する。

コミュニケーションセミナー1 (フ語)

Communication Seminar 1 (French)

カリオ, V. (CARIO VINCENT C.)

開講年度： 2024

科目設置学部： 異文化コミュニケーション学部

科目コード等： DM112

授業形態： 対面 (全回対面)

授業形態 (補足事項)

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： ICC1623

使用言語： その他

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 備考参照

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針 (DP) や教育課程編成の方針 (CP) に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 1 年次：自動登録

2 年次以上：科目コード登録

授業の目標 / Course Objectives

フランス語の総合的な運用能力の基礎を身につける入門クラス。フランス語に初めて接する人が、その特徴を理解し、「読む・書く・聞く・話す」の4技能を基礎的なレベルで運用できることを目指す。

An introductory class to acquire the basics of comprehensive French language skills. The aim is for those who come into contact with French for the first time to understand its characteristics and to be able to use the four skills of reading, writing, listening and speaking at a basic level.

授業の内容 / Course Contents

週1回の授業。原則として、ネイティブ教員が担当する。発音から始まる初歩的な訓練を少人数の学生に向けて行う。また、全学共通科目「フランス語A」および「フランス語1」では、初級文法と表現を中心に学ぶが、三者は有機的に結びつけられており、文法の時間に理解した内容を、ここでは口頭表現、聴解、作文などのさまざまな訓練をとおして実践的な能力として定着させる仕組みになっている。

The class meets once per week. As a rule, the instructor is a native speaker. The instructor will lead a small number of students in basic exercises for pronunciation and other elements. In addition, in the University-wide

Liberal Arts courses "French A" and "French 1", students learn elementary grammar and expressions. The three courses are intentionally coordinated to provide students with the opportunity to take the grammar points they have learned in French A and develop them into practical skills through speaking, listening, writing and a variety of other exercises.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：フランス語の基礎／自己紹介をする 1
- 2回：自己紹介をする 2／住んでいるところや出身地について話す 1
- 3回：住んでいるところや出身地について話す 2
- 4回：交通手段について話す 1
- 5回：交通手段について話す 2／アルバイトについて話す 1
- 6回：アルバイトについて話す 2
- 7回：ペットについて話す 1
- 8回：ペットについて話す 2／科目・先生について話す 1
- 9回：科目・先生について話す 2
- 10回：食べ物について話す 1
- 11回：食べ物について話す 2／家事について話す 1
- 12回：家事について話す 2
- 13回：家族について話す 1
- 14回：家族について話す 2／まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

毎回の授業で指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業への参加度:50% 各種テストや提出物:50%

テキスト / Textbooks

Bruno VANNIEUWENHUYSE 他 Moi, je... コミュニケーション ALMA Editeur 2012 9784905343035

○

参考文献 / Readings

『ディコ仏和辞典』『プログレッシブ仏和辞典』

『クラウン仏和辞典』など、紙媒体の初心者用辞書

その他 / Others

授業時に前回授業のフィードバックをする。

授業では学生への質問も活発に行う予定なので、積極的な受講態度が期待される。

コミュニケーションセミナー1 (フ語)

Communication Seminar 1 (French)

カリオ, V. (CARIO VINCENT C.)

開講年度： 2024
科目設置学部： 異文化コミュニケーション学部
科目コード等： DM113
授業形態： 対面 (全回対面)
授業形態 (補足事項)
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： ICC1623
使用言語： その他
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 備考参照
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針 (DP) や教育課程編成の方針 (CP) に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考： 1 年次：自動登録
2 年次以上：科目コード登録

授業の目標 / Course Objectives

フランス語の総合的な運用能力の基礎を身につける入門クラス。フランス語に初めて接する人が、その特徴を理解し、「読む・書く・聞く・話す」の4技能を基礎的なレベルで運用できることを目指す。

An introductory class to acquire the basics of comprehensive French language skills. The aim is for those who come into contact with French for the first time to understand its characteristics and to be able to use the four skills of reading, writing, listening and speaking at a basic level.

授業の内容 / Course Contents

週1回の授業。原則として、ネイティブ教員が担当する。発音から始まる初歩的な訓練を少人数の学生に向けて行う。また、全学共通科目「フランス語A」および「フランス語1」では、初級文法と表現を中心に学ぶが、三者は有機的に結びつけられており、文法の時間に理解した内容を、ここでは口頭表現、聴解、作文などのさまざまな訓練をとおして実践的な能力として定着させる仕組みになっている。

The class meets once per week. As a rule, the instructor is a native speaker. The instructor will lead a small number of students in basic exercises for pronunciation and other elements. In addition, in the University-wide

Liberal Arts courses "French A" and "French 1", students learn elementary grammar and expressions. The three courses are intentionally coordinated to provide students with the opportunity to take the grammar points they have learned in French A and develop them into practical skills through speaking, listening, writing and a variety of other exercises.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：フランス語の基礎／自己紹介をする 1
- 2回：自己紹介をする 2／住んでいるところや出身地について話す 1
- 3回：住んでいるところや出身地について話す 2
- 4回：交通手段について話す 1
- 5回：交通手段について話す 2／アルバイトについて話す 1
- 6回：アルバイトについて話す 2
- 7回：ペットについて話す 1
- 8回：ペットについて話す 2／科目・先生について話す 1
- 9回：科目・先生について話す 2
- 10回：食べ物について話す 1
- 11回：食べ物について話す 2／家事について話す 1
- 12回：家事について話す 2
- 13回：家族について話す 1
- 14回：家族について話す 2／まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワーポイント等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

毎回の授業で指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業への参加度:50% 各種テストや提出物:50%

テキスト / Textbooks

Bruno VANNIEUWENHUYSE 他 Moi, je... コミュニケーション ALMA Editeur 2012 9784905343035

○

参考文献 / Readings

『ディコ仏和辞典』『プログレッシブ仏和辞典』

『クラウン仏和辞典』など、紙媒体の初心者用辞書

その他 / Others

授業時に前回授業のフィードバックをする。

授業では学生への質問も活発に行う予定なので、積極的な受講態度が期待される。

コミュニケーションセミナー1 (ス語)

Communication Seminar 1 (Spanish)

モンターニョ (MONTANO MUNOZ J. A.)

開講年度： 2024
科目設置学部： 異文化コミュニケーション学部
科目コード等： DM114
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： ICC1623
使用言語： その他
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 備考参照
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考： 1 年次：自動登録
2 年次以上：科目コード登録

授業の目標 / Course Objectives

スペイン語の総合的な運用能力の基礎を身につける入門クラス。スペイン語に初めて接する人が、その特徴を理解し、「読む・書く・聞く・話す」の4技能を基礎的なレベルで運用できることを目指す。

This is an introductory class to acquire the foundation of comprehensive operational skills in the Spanish language. The goal is for those new to the Spanish language to understand its characteristics and be able to operate the four skills of reading, writing, listening, and speaking at a basic level.

授業の内容 / Course Contents

原則としてスペイン語を母語とする教員が担当し、授業でも極力スペイン語のみを使用する。受講者は明確に意思表示する心構えをもって臨むこと。

In principle, the instructor is a native speaker of Spanish and conducts classes only in Spanish as most as possible. Students should be ready to express themselves clearly in the class.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：アルファベット・発音・挨拶

- 2回：自己紹介・数字
- 3回：動詞 ser の使い方
- 4回：形容詞の使い方
- 5回：疑問詞・指示詞
- 6回：動詞 ser と、所在・位置を表す estar
- 7回：中間テスト
- 8回：動詞の現在形／前置詞
- 9回：時刻・曜日・スケジュール
- 10回：tener の使い方
- 11回：家族の紹介
- 12回：hay と estar の用法
- 13回：理由と目的／おすすめ
- 14回：最終テスト

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

全学共通科目の1年次必修スペイン語科目の学習内容も随時参考にしながら臨むこと。人名・地名を含むスペイン語圏の常識に触れておくこと。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業への参加度・積極性:40% 各種テスト・提出物:60%

テキスト / Textbooks

MOYANO LOPEZ, Juan Carlos; GARCIA RUIZ-CASTILLO, Carlos; HIROYASU, Yoshimi 『いいね！スペイン語1 第2版 ¡Muy Bien! 1 Segunda Edición』 朝日出版社 2024 9784255551555 ○

参考文献 / Readings

和西辞典も適宜活用すること。

その他 / Others

学生の学習ペースやニーズに適應するために、コース中でも授業計画が若干変更される場合があります。

To adapt to student's learning pace and needs, the schedule might be slightly altered during the course.

コミュニケーションセミナー1 (ス語)

Communication Seminar 1 (Spanish)

モンターニョ (MONTANO MUNOZ J. A.)

開講年度： 2024

科目設置学部： 異文化コミュニケーション学部

科目コード等： DM115

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： ICC1623

使用言語： その他

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 備考参照

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 1 年次：自動登録

2 年次以上：科目コード登録

授業の目標 / Course Objectives

スペイン語の総合的な運用能力の基礎を身につける入門クラス。スペイン語に初めて接する人が、その特徴を理解し、「読む・書く・聞く・話す」の4技能を基礎的なレベルで運用できることを目指す。

This is an introductory class to acquire the foundation of comprehensive operational skills in the Spanish language. The goal is for those new to the Spanish language to understand its characteristics and be able to operate the four skills of reading, writing, listening, and speaking at a basic level.

授業の内容 / Course Contents

原則としてスペイン語を母語とする教員が担当し、授業でも極力スペイン語のみを使用する。受講者は明確に意思表示する心構えをもって臨むこと。

In principle, the instructor is a native speaker of Spanish and conducts classes only in Spanish as most as possible. Students should be ready to express themselves clearly in the class.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：アルファベット・発音・挨拶

- 2回：自己紹介・数字
- 3回：動詞 ser の使い方
- 4回：形容詞の使い方
- 5回：疑問詞・指示詞
- 6回：動詞 ser と、所在・位置を表す estar
- 7回：中間テスト
- 8回：動詞の現在形／前置詞
- 9回：時刻・曜日・スケジュール
- 10回：tener の使い方
- 11回：家族の紹介
- 12回：hay と estar の用法
- 13回：理由と目的／おすすめ
- 14回：最終テスト

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

全学共通科目の1年次必修スペイン語科目の学習内容も随時参考にしながら臨むこと。人名・地名を含むスペイン語圏の常識に触れておくこと。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業への参加度・積極性:40% 各種テスト・提出物:60%

テキスト / Textbooks

MOYANO LOPEZ, Juan Carlos; GARCIA RUIZ-CASTILLO, Carlos; HIROYASU, Yoshimi 『いいね！スペイン語1 第2版 ¡Muy Bien! 1 Segunda Edición』 朝日出版社 2024 9784255551555 ○

参考文献 / Readings

和西辞典も適宜活用すること。

その他 / Others

学生の学習ペースやニーズに適應するために、コース中でも授業計画が若干変更される場合があります。

To adapt to student's learning pace and needs, the schedule might be slightly altered during the course.

コミュニケーションセミナー1 (ス語)

Communication Seminar 1 (Spanish)

アロンソ, サラ (ALONSO SARA)

開講年度： 2024

科目設置学部： 異文化コミュニケーション学部

科目コード等： DM116

授業形態： 対面 (全回対面)

授業形態 (補足事項)

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： ICC1623

使用言語： その他

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 備考参照

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針 (DP) や教育課程編成の方針 (CP) に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 1 年次：自動登録

2 年次以上：科目コード登録

授業の目標 / Course Objectives

スペイン語の総合的な運用能力の基礎を身につける入門クラス。スペイン語に初めて接する人が、その特徴を理解し、「読む・書く・聞く・話す」の4技能を基礎的なレベルで運用できることを目指す。

This is an introductory class to acquire the foundation of comprehensive operational skills in the Spanish language. The goal is for those new to the Spanish language to understand its characteristics and be able to operate the four skills of reading, writing, listening, and speaking at a basic level.

授業の内容 / Course Contents

原則としてスペイン語を母語とする教員が担当し、授業でも極力スペイン語のみを使用する。受講者は明確に意思表示する心構えをもって臨むこと。

In principle, the instructor is a native speaker of Spanish and conducts classes only in Spanish as most as possible. Students should be ready to express themselves clearly in the class.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：アルファベット・発音・挨拶

- 2回：自己紹介・数字
 3回：動詞 ser の使い方
 4回：形容詞の使い方
 5回：疑問詞・指示詞
 6回：動詞 ser と、所在・位置を表す estar
 7回：中間テスト
 8回：動詞の現在形／前置詞
 9回：時刻・曜日・スケジュール
 10回：tener の使い方
 11回：家族の紹介
 12回：hay と estar の用法
 13回：理由と目的／おすすめ
 14回：最終テスト

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

全学共通科目の1年次必修スペイン語科目の学習内容も随時参考にしながら臨むこと。人名・地名を含むスペイン語圏の常識に触れておくこと。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業への参加度・積極性:40% 各種テスト・提出物:60%

テキスト / Textbooks

MOYANO LOPEZ, Juan Carlos; GARCIA RUIZ-CASTILLO, Carlos; HIROYASU, Yoshimi 『いいね！スペイン語1 第2版 ¡Muy Bien! 1 Segunda Edición』 朝日出版社 2024 9784255551555 ○

参考文献 / Readings

和西辞典も適宜活用すること。

その他 / Others

学生の学習ペースやニーズに適應するために、コース中でも授業計画が若干変更される場合があります。

To adapt to student's learning pace and needs, the schedule might be slightly altered during the course.

コミュニケーションセミナー1（中国語）

Communication Seminar 1 (Chinese)

王 曉音 (WANG XIAOYIN)

開講年度： 2024

科目設置学部： 異文化コミュニケーション学部

科目コード等： DM117

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： ICC1623

使用言語： その他

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 備考参照

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 1 年次：自動登録

2 年次以上：科目コード登録

授業の目標 / Course Objectives

中国語の総合的な運用能力の基礎を身につける入門クラス。中国語に初めて接する人が、その特徴を理解し、「読む・書く・聞く・話す」の4技能を基礎的なレベルで運用できることを目指す。

This introductory class aims to develop a foundational proficiency in Chinese language usage for beginners. It focuses on fostering an understanding of the language's characteristics and aims to enable students to use the four essential skills – reading, writing, listening and speaking – at a basic level.

授業の内容 / Course Contents

この授業は、中国語の初心者を対象に設けられた全14回の入門クラスである。第1回から第4回までは、中国語の基礎となる発音をしっかりと身につけるための練習を繰り返す。第5回から第13回までは、文法を中心としたアプローチから「読む・書く・聞く・話す」の4つの技能を総合的に向上させる。文法学習の中盤となる第9回では、教員が指定するテーマに沿って事前に作文し、授業で個人発表を行う。授業中には、ペアワーク、グループワークおよび小テスト等を実施する予定である。

This course is a 14-session introductory class designed for beginners in Chinese language learning. From the first

to the fourth session, students will make various practices to solidify the fundamentals of Chinese pronunciation. Starting from the fifth session to the thirteenth, a comprehensive approach focusing on grammar will be taken to improve the four skills: reading, writing, listening and speaking. In the middle of the grammar learning process, every student will prepare a composition in advance based on topics specified by the instructor and deliver a presentation in class. Throughout the course, students are required to participate in activities such as pair work, group work and quizzes.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：授業用語、表記の法則、声調、母音
- 2回：挨拶①、子音、鼻母音
- 3回：挨拶②、声調変化、r化音、数字の言い方
- 4回：発音の復習
- 5回：人称代名詞、姓・名の尋ね方・言い方、“是”構文
- 6回：動詞述語文、副詞“也”と“都”、語気助詞“吧”
- 7回：形容詞述語文、指示代名詞、反復疑問文、“呢”疑問文
- 8回：曜日・年月日の言い方、年齢の尋ね方、疑問詞を使った疑問文
- 9回：作文・個人発表
- 10回：連動文、助動詞“想”、前置詞“<schinese>给</schinese>”、量詞
- 11回：方位詞、存在を表す“在”と“有”
- 12回：時刻の言い方、前置詞“在”“从”“到”“离”
- 13回：総復習
- 14回：最終テスト

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業時に指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業への参加度:10% 小テスト・各種提出物:30% 作文・個人発表:20% 最終
テスト割合：:40%

テキスト / Textbooks

金縄初美・単艾婷・王宇南・新谷秀明・韓景旭・梅村卓 『4技能をのぼそうきうき中国語』 朝日
出版社 2024 -

参考文献 / Readings

授業時に適宜紹介する。

その他 / Others

授業終了時に HSK3 級、中検定 4 級、CEFR B2 レベルに達する力を身につけることを目指す。

コミュニケーションセミナー1（中国語）

Communication Seminar 1 (Chinese)

王 媛 (WANG YUAN)

開講年度： 2024

科目設置学部： 異文化コミュニケーション学部

科目コード等： DM118

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： ICC1623

使用言語： その他

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 備考参照

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 1 年次：自動登録

2 年次以上：科目コード登録

授業の目標 / Course Objectives

中国語の総合的な運用能力の基礎を身につける入門クラス。中国語に初めて接する人が、その特徴を理解し、「読む・書く・聞く・話す」の4技能を基礎的なレベルで運用できることを目指す。

This introductory class aims to develop a foundational proficiency in Chinese language usage for beginners. It focuses on fostering an understanding of the language's characteristics and aims to enable students to use the four essential skills – reading, writing, listening and speaking – at a basic level.

授業の内容 / Course Contents

この授業は、中国語の初心者を対象に設けられた全14回の入門クラスである。第1回から第4回までは、中国語の基礎となる発音をしっかりと身につけるための練習を繰り返す。第5回から第13回までは、文法を中心としたアプローチから「読む・書く・聞く・話す」の4つの技能を総合的に向上させる。文法学習の中盤となる第9回では、教員が指定するテーマに沿って事前に作文し、授業で個人発表を行う。授業中には、ペアワーク、グループワークおよび小テスト等を実施する予定である。

This course is a 14-session introductory class designed for beginners in Chinese language learning. From the first

to the fourth session, students will make various practices to solidify the fundamentals of Chinese pronunciation. Starting from the fifth session to the thirteenth, a comprehensive approach focusing on grammar will be taken to improve the four skills: reading, writing, listening and speaking. In the middle of the grammar learning process, every student will prepare a composition in advance based on topics specified by the instructor and deliver a presentation in class. Throughout the course, students are required to participate in activities such as pair work, group work and quizzes.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：授業用語、表記の法則、声調、母音
- 2回：挨拶①、子音、鼻母音
- 3回：挨拶②、声調変化、r化音、数字の言い方
- 4回：発音の復習
- 5回：人称代名詞、姓・名の尋ね方・言い方、“是”構文
- 6回：動詞述語文、副詞“也”と“都”、語気助詞“吧”
- 7回：形容詞述語文、指示代名詞、反復疑問文、“呢”疑問文
- 8回：曜日・年月日の言い方、年齢の尋ね方、疑問詞を使った疑問文
- 9回：作文・個人発表
- 10回：連動文、助動詞“想”、前置詞“<schinese>给</schinese>”、量詞
- 11回：方位詞、存在を表す“在”と“有”
- 12回：時刻の言い方、前置詞“在”“从”“到”“离”
- 13回：総復習
- 14回：最終テスト

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業時に指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業への参加度:10% 小テスト・各種提出物:30% 作文・個人発表:20% 最終
テスト割合：:40%

テキスト / Textbooks

金縄初美・単艾婷・王宇南・新谷秀明・韓景旭・梅村卓 『4技能をのぼそうきうき中国語』 朝日
出版社 2024 -

参考文献 / Readings

授業時に適宜紹介する。

その他 / Others

授業終了時に HSK3 級、中検定 4 級、CEFR B2 レベルに達する力を身につけることを目指す。

コミュニケーションセミナー1（中国語）

Communication Seminar 1 (Chinese)

王 曉音 (WANG XIAOYIN)

開講年度： 2024

科目設置学部： 異文化コミュニケーション学部

科目コード等： DM119

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： ICC1623

使用言語： その他

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 備考参照

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 1 年次：自動登録

2 年次以上：科目コード登録

授業の目標 / Course Objectives

中国語の総合的な運用能力の基礎を身につける入門クラス。中国語に初めて接する人が、その特徴を理解し、「読む・書く・聞く・話す」の4技能を基礎的なレベルで運用できることを目指す。

This introductory class aims to develop a foundational proficiency in Chinese language usage for beginners. It focuses on fostering an understanding of the language's characteristics and aims to enable students to use the four essential skills – reading, writing, listening and speaking – at a basic level.

授業の内容 / Course Contents

この授業は、中国語の初心者を対象に設けられた全14回の入門クラスである。第1回から第4回までは、中国語の基礎となる発音をしっかりと身につけるための練習を繰り返す。第5回から第13回までは、文法を中心としたアプローチから「読む・書く・聞く・話す」の4つの技能を総合的に向上させる。文法学習の中盤となる第9回では、教員が指定するテーマに沿って事前に作文し、授業で個人発表を行う。授業中には、ペアワーク、グループワークおよび小テスト等を実施する予定である。

This course is a 14-session introductory class designed for beginners in Chinese language learning. From the first

to the fourth session, students will make various practices to solidify the fundamentals of Chinese pronunciation. Starting from the fifth session to the thirteenth, a comprehensive approach focusing on grammar will be taken to improve the four skills: reading, writing, listening and speaking. In the middle of the grammar learning process, every student will prepare a composition in advance based on topics specified by the instructor and deliver a presentation in class. Throughout the course, students are required to participate in activities such as pair work, group work and quizzes.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：授業用語、表記の法則、声調、母音
- 2回：挨拶①、子音、鼻母音
- 3回：挨拶②、声調変化、r化音、数字の言い方
- 4回：発音の復習
- 5回：人称代名詞、姓・名の尋ね方・言い方、“是”構文
- 6回：動詞述語文、副詞“也”と“都”、語気助詞“吧”
- 7回：形容詞述語文、指示代名詞、反復疑問文、“呢”疑問文
- 8回：曜日・年月日の言い方、年齢の尋ね方、疑問詞を使った疑問文
- 9回：作文・個人発表
- 10回：連動文、助動詞“想”、前置詞“<schinese>给</schinese>”、量詞
- 11回：方位詞、存在を表す“在”と“有”
- 12回：時刻の言い方、前置詞“在”“从”“到”“离”
- 13回：総復習
- 14回：最終テスト

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業時に指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業への参加度:10% 小テスト・各種提出物:30% 作文・個人発表:20% 最終
テスト割合：:40%

テキスト / Textbooks

金縄初美・単艾婷・王宇南・新谷秀明・韓景旭・梅村卓 『4技能をのぼそうきうき中国語』 朝日
出版社 2024 -

参考文献 / Readings

授業時に適宜紹介する。

その他 / Others

授業終了時に HSK3 級、中検定 4 級、CEFR B2 レベルに達する力を身につけることを目指す。

コミュニケーションセミナー1（朝鮮語）

Communication Seminar 1 (Korean)

李 在鎬 (LEE JAE HO)

開講年度：	2024
科目設置学部：	異文化コミュニケーション学部
科目コード等：	DM120
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	対面（全回対面）/Face to face (all classes are face-to-face)
校地：	池袋
学期：	春学期
単位：	2
科目ナンバリング：	ICC1623
使用言語：	その他
授業形式：	演習・ゼミ
履修登録方法：	備考参照
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	1 年次：自動登録 2 年次以上：科目コード登録

授業の目標 / Course Objectives

朝鮮語の総合的な運用能力の基礎を身につけるクラス。朝鮮語に初めて接する人が、その特徴を理解し、「読む・書く・聞く・話す」の4技能を基礎的なレベルで運用できることを目指す。

An introductory course to acquire the basics of comprehensive Korean language skills. It aims to enable beginning learners of the Korean language to understand its characteristics and to use the four skills (reading, writing, listening, and speaking) at a basic level.

授業の内容 / Course Contents

最初は、朝鮮語の文字を確実にマスターし、正しく発音できるようにする。発音の規則についても単語やフレーズを覚える中で身につけていく。次に、簡単なあいさつから始めて、疑問文・否定文の基本的な形を会話で応用できるようにし、過去形まで使いこなせるようにマスターする。

First, students will fully master Korean characters, followed by proper pronunciation. Then, students will apply the rules of pronunciation as they memorize vocabulary words and phrases. Next, students will learn simple

greetings and the basic structures of questions and negative sentences to be applied to conversation, and progress as far as mastering the past tense.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：文字と発音練習1（10個の主要母音）
- 2回：文字と発音練習2（さまざまな子音）、簡単なあいさつ
- 3回：文字と発音練習3（複合母音、パッチム）
- 4回：文字と発音のまとめ
- 5回：存在詞とその否定形
- 6回：ㄴ니다語尾、否定形
- 7回：요語尾、漢数詞
- 8回：3つの語基と使い方
- 9回：3つの語基の練習、固有数詞
- 10回：過去形、さまざまな助詞
- 11回：過去形の復習、未来形
- 12回：可能と不可能
- 13回：全体のまとめ
- 14回：期末テスト

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワーポイント等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

毎回の授業で指示する。特に復習をきちんと行い、単語の正確な発音を身に付けられるよう努力すること。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業への参加度：60% 小テストや最終テスト：40%

テキスト / Textbooks

授業時にプリントを配付する。

参考文献 / Readings

金京子 『パランセ韓国語 会話入門』 朝日出版社 2014 9784255556345

『朝鮮語辞典』（小学館 1993）電子辞書も可

コミュニケーションセミナー1（朝鮮語）

Communication Seminar 1 (Korean)

金 智英 (KIM JIYOUNG)

開講年度： 2024
科目設置学部： 異文化コミュニケーション学部
科目コード等： DM121
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項） 対面（全回対面）/Face to face (all classes are face-to-face)
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： ICC1623
使用言語： その他
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 備考参照
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考： 1 年次：自動登録
2 年次以上：科目コード登録

授業の目標 / Course Objectives

朝鮮語の総合的な運用能力の基礎を身につけるクラス。朝鮮語に初めて接する人が、その特徴を理解し、「読む・書く・聞く・話す」の4技能を基礎的なレベルで運用できることを目指す。

An introductory course to acquire the basics of comprehensive Korean language skills. It aims to enable beginning learners of the Korean language to understand its characteristics and to use the four skills (reading, writing, listening, and speaking) at a basic level.

授業の内容 / Course Contents

最初は、朝鮮語の文字を確実にマスターし、正しく発音できるようにする。発音の規則についても単語やフレーズを覚える中で身につけていく。次に、簡単なあいさつから始めて、疑問文・否定文の基本的な形を会話で応用できるようにし、過去形まで使いこなせるようにマスターする。

First, students will fully master Korean characters, followed by proper pronunciation. Then, students will apply the rules of pronunciation as they memorize vocabulary words and phrases. Next, students will learn simple

greetings and the basic structures of questions and negative sentences to be applied to conversation, and progress as far as mastering the past tense.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：文字と発音練習1（10個の主要母音）
- 2回：文字と発音練習2（さまざまな子音）、簡単なあいさつ
- 3回：文字と発音練習3（複合母音、パッチム）
- 4回：文字と発音のまとめ
- 5回：存在詞とその否定形
- 6回：ㄴ니다語尾、否定形
- 7回：요語尾、漢数詞
- 8回：3つの語基と使い方
- 9回：3つの語基の練習、固有数詞
- 10回：過去形、さまざまな助詞
- 11回：過去形の復習、未来形
- 12回：可能と不可能
- 13回：全体のまとめ
- 14回：期末テスト

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワーポイント等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

毎回の授業で指示する。特に復習をきちんと行い、単語の正確な発音を身に付けられるよう努力すること。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業への参加度：60% 小テストや最終テスト：40%

テキスト / Textbooks

授業時にプリントを配付する。

参考文献 / Readings

金京子 『パランセ韓国語 会話入門』 朝日出版社 2014 9784255556345

『朝鮮語辞典』（小学館 1993）電子辞書も可

コミュニケーションセミナー1（口語）

Communication Seminar 1 (Russian)

初級ロシア語の文法と会話

三神 エレーナ (MIKAMI ELENA)

開講年度： 2024

科目設置学部： 異文化コミュニケーション学部

科目コード等： DM122

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： ICC1623

使用言語： その他

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 備考参照

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 1 年次：自動登録

2 年次以上：科目コード登録

授業の目標 / Course Objectives

ロシア語の総合的な運用能力の基礎を身につけるクラス。ロシア語に初めて接する人が、その特徴を理解し、「読む・書く・聞く・話す」の4技能を基礎的なレベルで運用できることを目指す。

An introductory course to acquire the basics of comprehensive Russian language skills. It aims to enable beginning learners of the Russian language to understand its characteristics and to use the four skills (reading, writing, listening, and speaking) at a basic level.

授業の内容 / Course Contents

週1回のロシア語ネイティブ教員による授業。ロシア語によるコミュニケーション力の基礎を固めるため、日常会話に必要な表現、正しい発音を身につける練習を積極的に行う。ロシア語の文法知識を口頭表現、聴解、作文などの練習をとおして実践的な能力として定着させる。

The class instructor is a native speaker of Russian, and the class meets once per week. Students will practice to master expressions and proper pronunciation required for everyday conversation and learn basic points to form

communication skills in Russian. The course provides students with the opportunity to develop the Russian grammar knowledge into practical skills through speaking, listening and writing.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：文字と発音 アクセント 聴解・音読練習
- 2回：主な挨拶 名詞の性 疑問文・肯定文のイントネーション 聴解・会話練習
- 3回：肯定と否定 人称代名詞 ロシア人の名前のしくみ 聴解・会話練習
- 4回：基本的な疑問文 職業の単語 聴解・会話練習
- 5回：第1変化動詞 趣味の話 程度を表す副詞 聴解・会話練習
- 6回：第2変化動詞 外国語の話 場所の副詞 聴解・会話練習
- 7回：名前の尋ねかたと答えかた 人称代名詞の対格 聴解・会話練習
- 8回：中間単語テスト 職業の話 聴解・会話練習
- 9回：好きな事の話 特殊活用動詞（1） 聴解・会話練習
- 10回：名詞の複数形 意見を述べる 聴解・会話練習
- 11回：所有表現 人称代名詞の生格 聴解・会話練習
- 12回：所有代名詞 私物の話 聴解・会話練習
- 13回：家族の話 聴解・会話練習
- 14回：春学期末テスト

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

毎回 Canvas 授業支援システムに提出する宿題があります。宿題・復習などの自主学習を積極的に行うこと。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 提出宿題:30% 中間単語テスト:30% 期末テスト:40%

テキスト / Textbooks

授業時および Canvas 授業支援システムよりプリントを配付する。

参考文献 / Readings

既持のロシア語文法書や露和辞典

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

Canvas 授業支援システムにアクセス出来る情報機器（PC 又はスマホ）。

その他 / Others

宿題提出や単語学習などはオンラインで行う予定。そのために Quizlet などのオンライン学習アプリケーションを使う予定（授業時に紹介）。

コミュニケーションセミナー2（ドイツ語）

Communication Seminar 2 (German)

三ッ石 祐子 (MITSUISHI YUKO)

開講年度：	2024
科目設置学部：	異文化コミュニケーション学部
科目コード等：	DM123
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	秋学期
単位：	2
科目ナンバリング：	ICC1623
使用言語：	その他
授業形式：	演習・ゼミ
履修登録方法：	備考参照
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	1 年次：自動登録 2 年次以上：科目コード登録

授業の目標 / Course Objectives

ドイツ語の総合的な運用能力の基礎を身につけるクラス。春学期に引き続き、ドイツ語に初めて接する人が、その特徴を理解し、「読む・書く・聞く・話す」の4技能を基礎的なレベルで運用できることを目指す。

具体的な到達目標は CEFR（ヨーロッパ言語共通参照枠）の A2 レベルに基づき、以下のように定める。

- ごく基本的な個人的情報や家族情報、買い物、近所、仕事など、直接的関係がある領域に関する、よく使われる文や表現が理解できる。
- 簡単で日常的な範囲なら、身近で日常の事柄についての情報交換に応ずることができる。

An introductory course to acquire the basics of comprehensive German language skills. As in the spring semester, it aims to enable beginning learners of the German language to understand its characteristics and to use the four skills (reading, writing, listening, and speaking) at a basic level.

The aims of this course are based on the description of A2 of CEFR (Common European Framework of Reference for Languages) and determined as follows:

1. Can understand sentences and frequently used expressions related to areas of most immediate relevance (e.g. very basic personal and family information, shopping, local geography, employment).
2. Can communicate in simple and routine tasks requiring a simple and direct exchange of information on familiar and routine matters.
3. Can describe in simple terms aspects of his/her background, immediate environment and matters in areas of immediate need.

授業の内容 / Course Contents

この科目では、ペアワークやグループワークを通し、学習者同士が互いに協力しながら学ぶことで、ドイツ語の文法知識だけでなく、言語運用能力（話す・聞く・読む・書くなどのスキル）を総合的に身に付ける。また、複言語・複文化能力を養うために、ドイツ語圏の社会や文化について自国のものと比較しながら理解を深める。

In this course students will learn comprehensively not only the basic grammatical knowledge of German but also linguistic performance (skills like speaking, listening, reading and writing), by cooperative learning with their classmates in pair work and group work. Moreover, to develop the pluricultural and plurilinguistic skills, they will gain more insight of social and cultural knowledge by contrasting with their native lands.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：Lektion 11 テーマ：時刻表現／一日の行動
文法：分離動詞
- 2 回：Lektion 12 テーマ：旅行・週末／四季・月名／天候／過去の出来事
文法：現在完了形
- 3 回：Lektion 1 テーマ：健康と病気／過去のこと
文法：過去形①／名詞の 2 格と 2 格支配の前置詞
- 4 回：Lektion 2 テーマ：買い物・交通
文法：定冠詞類／副詞的 4 格／使役動詞／知覚動詞
- 5 回：Lektion 3 テーマ：街並みや暮らしの変化
文法：過去形②／zu 不定詞（句）
- 6 回：Lektion 4 テーマ：家事／一日の行動／過去のこと
文法：方向・場所を表す前置詞／現在完了形
- 7 回：プロジェクト④ Erinnerung in den Ferien
- 8 回：Lektion 5 テーマ：身だしなみ
文法：再帰代名詞／再帰動詞
- 9 回：Lektion 6 テーマ：料理／食文化
文法：命令形／接続法 II 式（丁寧な表現）／複合名詞
- 10 回：Lektion 7 テーマ：将来の夢を言う／理由を述べる
文法：従属の接続詞と副文
- 11 回：Lektion 8 テーマ：誕生日／記念日／贈り物
文法：形容詞／序数
- 12 回：Lektion 9 テーマ：好み／趣味
文法：比較級／最上級
- 13 回：プロジェクト⑤ Mini-Präsentation "Mein Alltagsleben"
- 14 回：最終テスト

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:				

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

宿題・復習などの自主学習を行うこと。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：002) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 毎回の授業への参加度や提出物など:50% 随時実施する小テストおよび最終テストなど:50%

テキスト / Textbooks

新倉真矢子・正木晶子・中野有希子 『シュピッツェ！ 1 コミュニケーションで学ぶドイツ語』 朝日出版社 2019 9784255254227 ○

新倉真矢子・正木晶子・中野有希子 『シュピッツェ！ 2 コミュニケーションで学ぶドイツ語』 朝日出版社 2020 9784255254395 ○

参考文献 / Readings

授業中に説明する。

その他 / Others

※2巻目の教科書の購入はいったんお待ちください。授業内で指示します。

コミュニケーションセミナー2 (フ語)

Communication Seminar 2 (French)

カリオ, V. (CARIO VINCENT C.)

開講年度： 2024

科目設置学部： 異文化コミュニケーション学部

科目コード等： DM124

授業形態： 対面 (全回対面)

授業形態 (補足事項)

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： ICC1623

使用言語： その他

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 備考参照

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針 (DP) や教育課程編成の方針 (CP) に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 1 年次：自動登録

2 年次以上：科目コード登録

授業の目標 / Course Objectives

フランス語の総合的な運用能力の基礎を身につける入門クラス。春学期に引き続き、フランス語に初めて接する人が、その特徴を理解し、「読む・書く・聞く・話す」の4技能を基礎的なレベルで運用できることを目指す。

An introductory class to acquire the basics of comprehensive French language skills. Continuing from the spring semester, the aim is for those who come into contact with French for the first time to understand its characteristics and to be able to use the four skills of reading, writing, listening and speaking at a basic level.

授業の内容 / Course Contents

週1回の授業。原則として、ネイティブ教員が担当する。口頭表現、聴解、作文について学び、さらに簡単な日常会話の枠を超えて、フランス語による表現力を養成する。また、全学共通科目「フランス語B」および「フランス語2」では、初級文法と表現を中心に学ぶが、そこで学ぶ文法事項や表現に沿ったかたちで、フランス語の文章を構造的に理解し、発音矯正、聞き取り、書き取り、会話、作文などの訓練を具体的なテーマを設定しながら、少人数で行う。

The class meets once per week. As a rule, the instructor is a native speaker. Students will study speaking, listening and writing to move beyond the level of simple, everyday conversation and gain the ability to express themselves in French. The small number of students who meet for this course will follow the grammar points and expressions they learn in the University-wide Liberal Arts courses "French B" and "French 2", and will develop an understanding of French sentence structure and do exercises covering a variety of themes including elocution, understanding and being able to write what they hear, conversation and writing.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション／クラブ活動について話す1
- 2回：クラブ活動について話す2／習慣について話す1
- 3回：習慣について話す2
- 4回：週末の過ごし方について話す1
- 5回：週末の過ごし方について話す2／時間について話す1
- 6回：時間について話す2
- 7回：休暇中の活動について話す1
- 8回：休暇中の活動について話す2／経験について話す1
- 9回：経験について話す2
- 10回：地理について話す1
- 11回：地理について話す2／天候について話す1
- 12回：天候について話す2
- 13回：過去について話す1
- 14回：過去について話す2／まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

毎回の授業で指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業への参加度:50% 各種テストや提出物:50%

テキスト / Textbooks

Bruno VANNIEUWENHUYSE 他 Moi, je... コミュニケーション ALMA Editeur 2012 9784905343035 -

参考文献 / Readings

中級以降も使用可能な辞書については担当者が説明する。

その他 / Others

授業時に前回授業のフィードバックをする。

授業では学生への質問も活発に行う予定なので、積極的な受講態度が期待される。

コミュニケーションセミナー2 (フ語)

Communication Seminar 2 (French)

カリオ, V. (CARIO VINCENT C.)

開講年度： 2024
科目設置学部： 異文化コミュニケーション学部
科目コード等： DM125
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： ICC1623
使用言語： その他
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 備考参照
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考： 1 年次：自動登録
2 年次以上：科目コード登録

授業の目標 / Course Objectives

フランス語の総合的な運用能力の基礎を身につける入門クラス。春学期に引き続き、フランス語に初めて接する人が、その特徴を理解し、「読む・書く・聞く・話す」の4技能を基礎的なレベルで運用できることを目指す。

An introductory class to acquire the basics of comprehensive French language skills. Continuing from the spring semester, the aim is for those who come into contact with French for the first time to understand its characteristics and to be able to use the four skills of reading, writing, listening and speaking at a basic level.

授業の内容 / Course Contents

週1回の授業。原則として、ネイティブ教員が担当する。口頭表現、聴解、作文について学び、さらに簡単な日常会話の枠を超えて、フランス語による表現力を養成する。また、全学共通科目「フランス語B」および「フランス語2」では、初級文法と表現を中心に学ぶが、そこで学ぶ文法事項や表現に沿ったかたちで、フランス語の文章を構造的に理解し、発音矯正、聞き取り、書き取り、会話、作文などの訓練を具体的なテーマを設定しながら、少人数で行う。

The class meets once per week. As a rule, the instructor is a native speaker. Students will study speaking, listening and writing to move beyond the level of simple, everyday conversation and gain the ability to express themselves in French. The small number of students who meet for this course will follow the grammar points and expressions they learn in the University-wide Liberal Arts courses "French B" and "French 2", and will develop an understanding of French sentence structure and do exercises covering a variety of themes including elocution, understanding and being able to write what they hear, conversation and writing.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション／クラブ活動について話す1
- 2回：クラブ活動について話す2／習慣について話す1
- 3回：習慣について話す2
- 4回：週末の過ごし方について話す1
- 5回：週末の過ごし方について話す2／時間について話す1
- 6回：時間について話す2
- 7回：休暇中の活動について話す1
- 8回：休暇中の活動について話す2／経験について話す1
- 9回：経験について話す2
- 10回：地理について話す1
- 11回：地理について話す2／天候について話す1
- 12回：天候について話す2
- 13回：過去について話す1
- 14回：過去について話す2／まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

毎回の授業で指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業への参加度:50% 各種テストや提出物:50%

テキスト / Textbooks

Bruno VANNIEUWENHUYSE 他 Moi, je... コミュニケーション ALMA Editeur 2012 9784905343035 -

参考文献 / Readings

中級以降も使用可能な辞書については担当者が説明する。

その他 / Others

授業時に前回授業のフィードバックをする。

授業では学生への質問も活発に行う予定なので、積極的な受講態度が期待される。

コミュニケーションセミナー2 (ス語)

Communication Seminar 2 (Spanish)

モンターニョ (MONTANO MUNOZ J. A.)

開講年度： 2024

科目設置学部： 異文化コミュニケーション学部

科目コード等： DM126

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： ICC1623

使用言語： その他

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 備考参照

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 1 年次：自動登録

2 年次以上：科目コード登録

授業の目標 / Course Objectives

スペイン語の総合的な運用能力の基礎を身につける入門クラス。春学期に引き続き、スペイン語に初めて接する人が、その特徴を理解し、「読む・書く・聞く・話す」の4技能を基礎的なレベルで運用できることを目指す。

This is an introductory class to acquire the foundation of comprehensive operational skills in the Spanish language. As in the spring semester, the goal is for those new to the Spanish language to understand its characteristics and be able to operate the four skills of reading, writing, listening, and speaking at a basic level.

授業の内容 / Course Contents

原則としてスペイン語を母語とする教員が担当し、授業でも極力スペイン語のみを使用する。受講者は明確に意思表示する心構えをもって臨むこと。

In principle, the instructor is a native speaker of Spanish and conducts classes only in Spanish as most as possible. Students should be ready to express themselves clearly in the class.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：動詞＋不定詞／動詞 gustar, encantar, interesar
- 2 回：予定と招待
- 3 回：不規則活用する動詞／序数
- 4 回：ショッピング
- 5 回：動詞 saber と poder／動詞 ser/estar＋形容詞
- 6 回：レストラン、カフェテリア、バルで
- 7 回：中間テスト
- 8 回：再帰動詞（代名動詞）／天気
- 9 回：日常生活
- 10 回：動詞 estar＋形容詞／動詞 tener＋名詞
- 11 回：点過去と線過去規則活用
- 12 回：現在完了規則活用
- 13 回：アドバイス・旅行・行った場所
- 14 回：最終テスト

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワーポイント等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

全学共通科目の1年次必修スペイン語科目の学習内容も随時参考にしながら臨むこと。人名・地名を含むスペイン語圏の常識に触れておくこと。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業への参加度・積極性:40% 各種テスト・提出物:60%

テキスト / Textbooks

MOYANO LOPEZ, Juan Carlos; GARCIA RUIZ-CASTILLO, Carlos; HIROYASU, Yoshimi 『いいね！スペイン語1 第2版 ¡Muy Bien! 1 Segunda Edición』 朝日出版社 2024 9784255551555 ○

参考文献 / Readings

和西辞典も適宜活用すること。

その他 / Others

学生の学習ペースやニーズに適応するために、コース中でも授業計画が若干変更される場合があります。

To adapt to student's learning pace and needs, the schedule might be slightly altered during the course.

コミュニケーションセミナー2 (ス語)

Communication Seminar 2 (Spanish)

モンターニョ (MONTANO MUNOZ J. A.)

開講年度：	2024
科目設置学部：	異文化コミュニケーション学部
科目コード等：	DM127
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	秋学期
単位：	2
科目ナンバリング：	ICC1623
使用言語：	その他
授業形式：	演習・ゼミ
履修登録方法：	備考参照
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	1 年次：自動登録 2 年次以上：科目コード登録

授業の目標 / Course Objectives

スペイン語の総合的な運用能力の基礎を身につける入門クラス。春学期に引き続き、スペイン語に初めて接する人が、その特徴を理解し、「読む・書く・聞く・話す」の4技能を基礎的なレベルで運用できることを目指す。

This is an introductory class to acquire the foundation of comprehensive operational skills in the Spanish language. As in the spring semester, the goal is for those new to the Spanish language to understand its characteristics and be able to operate the four skills of reading, writing, listening, and speaking at a basic level.

授業の内容 / Course Contents

原則としてスペイン語を母語とする教員が担当し、授業でも極力スペイン語のみを使用する。受講者は明確に意思表示する心構えをもって臨むこと。

In principle, the instructor is a native speaker of Spanish and conducts classes only in Spanish as most as possible. Students should be ready to express themselves clearly in the class.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：動詞＋不定詞／動詞 gustar, encantar, interesar
- 2回：予定と招待
- 3回：不規則活用する動詞／序数
- 4回：ショッピング
- 5回：動詞 saber と poder／動詞 ser/estar＋形容詞
- 6回：レストラン、カフェテリア、バルで
- 7回：中間テスト
- 8回：再帰動詞（代名動詞）／天気
- 9回：日常生活
- 10回：動詞 estar＋形容詞／動詞 tener＋名詞
- 11回：点過去と線過去規則活用
- 12回：現在完了規則活用
- 13回：アドバイス・旅行・行った場所
- 14回：最終テスト

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワーポイント等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

全学共通科目の1年次必修スペイン語科目の学習内容も随時参考にしながら臨むこと。人名・地名を含むスペイン語圏の常識に触れておくこと。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業への参加度・積極性:40% 各種テスト・提出物:60%

テキスト / Textbooks

MOYANO LOPEZ, Juan Carlos; GARCIA RUIZ-CASTILLO, Carlos; HIROYASU, Yoshimi 『いいね！スペイン語1 第2版 ¡Muy Bien! 1 Segunda Edición』 朝日出版社 2024 9784255551555 ○

参考文献 / Readings

和西辞典も適宜活用すること。

その他 / Others

学生の学習ペースやニーズに適應するために、コース中でも授業計画が若干変更される場合があります。

To adapt to student's learning pace and needs, the schedule might be slightly altered during the course.

コミュニケーションセミナー2（ス語）

Communication Seminar 2 (Spanish)

アロンソ, サラ (ALONSO SARA)

開講年度： 2024

科目設置学部： 異文化コミュニケーション学部

科目コード等： DM128

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： ICC1623

使用言語： その他

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 備考参照

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 1 年次：自動登録

2 年次以上：科目コード登録

授業の目標 / Course Objectives

スペイン語の総合的な運用能力の基礎を身につける入門クラス。春学期に引き続き、スペイン語に初めて接する人が、その特徴を理解し、「読む・書く・聞く・話す」の4技能を基礎的なレベルで運用できることを目指す。

This is an introductory class to acquire the foundation of comprehensive operational skills in the Spanish language. As in the spring semester, the goal is for those new to the Spanish language to understand its characteristics and be able to operate the four skills of reading, writing, listening, and speaking at a basic level.

授業の内容 / Course Contents

原則としてスペイン語を母語とする教員が担当し、授業でも極力スペイン語のみを使用する。受講者は明確に意思表示する心構えをもって臨むこと。

In principle, the instructor is a native speaker of Spanish and conducts classes only in Spanish as most as possible. Students should be ready to express themselves clearly in the class.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：動詞＋不定詞／動詞 gustar, encantar, interesar
- 2 回：予定と招待
- 3 回：不規則活用する動詞／序数
- 4 回：ショッピング
- 5 回：動詞 saber と poder／動詞 ser/estar＋形容詞
- 6 回：レストラン、カフェテリア、バルで
- 7 回：中間テスト
- 8 回：再帰動詞（代名動詞）／天気
- 9 回：日常生活
- 10 回：動詞 estar＋形容詞／動詞 tener＋名詞
- 11 回：点過去と線過去規則活用
- 12 回：現在完了規則活用
- 13 回：アドバイス・旅行・行った場所
- 14 回：最終テスト

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワーポイント等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

全学共通科目の1年次必修スペイン語科目の学習内容も随時参考にしながら臨むこと。人名・地名を含むスペイン語圏の常識に触れておくこと。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業への参加度・積極性:40% 各種テスト・提出物:60%

テキスト / Textbooks

MOYANO LOPEZ, Juan Carlos; GARCIA RUIZ-CASTILLO, Carlos; HIROYASU, Yoshimi 『いいね！スペイン語1 第2版 ¡Muy Bien! 1 Segunda Edición』 朝日出版社 2024 9784255551555 ○

参考文献 / Readings

和西辞典も適宜活用すること。

その他 / Others

学生の学習ペースやニーズに適応するために、コース中でも授業計画が若干変更される場合があります。

To adapt to student's learning pace and needs, the schedule might be slightly altered during the course.

コミュニケーションセミナー2（中国語）

Communication Seminar 2 (Chinese)

王 曉音 (WANG XIAOYIN)

開講年度： 2024
科目設置学部： 異文化コミュニケーション学部
科目コード等： DM129
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： ICC1623
使用言語： その他
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 備考参照
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考： 1 年次：自動登録
2 年次以上：科目コード登録

授業の目標 / Course Objectives

中国語の総合的な運用能力の基礎を身につける入門クラス。春学期に引き続き、中国語に初めて接する人が、その特徴を理解し、「読む・書く・聞く・話す」の4技能を基礎的なレベルで運用できることを目指す。

This introductory class aims to develop a foundational proficiency in Chinese language usage for beginners. As in the spring semester, it focuses on fostering an understanding of the language's characteristics and aims to enable students to use the four essential skills – reading, writing, listening and speaking – at a basic level.

授業の内容 / Course Contents

春学期のコミュニケーションセミナー1に引き続き、文法を中心としたアプローチから、中国語の「読む・書く・聞く・話す」の4つの技能をさらに向上させる。学習の中盤となる第7回では、教員が指定するテーマに沿って事前に作文し、授業で個人発表を行う。授業中には、ペアワーク、グループワークおよび小テスト等を実施する予定である。

Continuing from Communication Seminar 1 in the spring semester, this course will take a comprehensive approach focusing on grammar to further improve the four skills: reading, writing, listening and speaking in

Chinese language learning. In the middle of the semester, every student will prepare a composition in advance based on topics specified by the instructor and deliver a presentation in class. Throughout the course, students are required to participate in activities such as pair work, groupwork and quizzes.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：“的”の使い方、結果補語、動詞の重ね型と“一下”
- 2 回：変や完了を表す“了”、助動詞“能”、没（有）＋動詞・形容詞
- 3 回：“快～了”、“打算”、二重目的語をとる動詞、助動詞“会”
- 4 回：助動詞“可以”、動詞・助動詞“要”、因果表現、選択疑問文
- 5 回：動作・行為の進行を表す“在”、状態の持続を表す“着”
- 6 回：“又～又・・・”、比較の表現、金額の言い方
- 7 回：作文・個人発表
- 8 回：方向補語、可能補語、助動詞“得”
- 9 回：存現文、様態補語、“一～就・・・”
- 10 回：経験を表す“<schinese>过</schinese>”、動作の回数や数量の表し方、主述述語文
- 11 回：“除了～（以外）”、“不<schinese>仅</schinese>～<schinese>还</schinese>・・・”、使役動詞“<schinese>让</schinese>”
- 12 回：“把”構文、“不是～就是・・・”、“是～的”構文
- 13 回：逆接表現“虽然～，但（是）・・・”、仮定表現“如果～的<schinese>话</schinese>・・・”、受け身文、動詞を修飾する“地”
- 14 回：最終テスト

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業時に指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業への参加度:10% 小テスト・各種提出物:30% 作文・個人発表:20% 最終
テスト割合：40%

テキスト / Textbooks

金縄初美・単艾婷・王宇南・新谷秀明・韓景旭・梅村卓 『4技能をのぼそうきうき中国語』 朝日
出版社 2024 -

参考文献 / Readings

授業時に適宜紹介する。

その他 / Others

授業終了時に HSK 4 級、中検定 3 級、CEFR B1 レベルに達する力を身につけることを目指す。

コミュニケーションセミナー2（中国語）

Communication Seminar 2 (Chinese)

王 媛 (WANG YUAN)

開講年度：	2024
科目設置学部：	異文化コミュニケーション学部
科目コード等：	DM130
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	秋学期
単位：	2
科目ナンバリング：	ICC1623
使用言語：	その他
授業形式：	演習・ゼミ
履修登録方法：	備考参照
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	1 年次：自動登録 2 年次以上：科目コード登録

授業の目標 / Course Objectives

中国語の総合的な運用能力の基礎を身につける入門クラス。春学期に引き続き、中国語に初めて接する人が、その特徴を理解し、「読む・書く・聞く・話す」の4技能を基礎的なレベルで運用できることを目指す。

This introductory class aims to develop a foundational proficiency in Chinese language usage for beginners. As in the spring semester, it focuses on fostering an understanding of the language's characteristics and aims to enable students to use the four essential skills – reading, writing, listening and speaking – at a basic level.

授業の内容 / Course Contents

春学期のコミュニケーションセミナー1に引き続き、文法を中心としたアプローチから、中国語の「読む・書く・聞く・話す」の4つの技能をさらに向上させる。学習の中盤となる第7回では、教員が指定するテーマに沿って事前に作文し、授業で個人発表を行う。授業中には、ペアワーク、グループワークおよび小テスト等を実施する予定である。

Continuing from Communication Seminar 1 in the spring semester, this course will take a comprehensive approach focusing on grammar to further improve the four skills: reading, writing, listening and speaking in

Chinese language learning. In the middle of the semester, every student will prepare a composition in advance based on topics specified by the instructor and deliver a presentation in class. Throughout the course, students are required to participate in activities such as pair work, groupwork and quizzes.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：“的”の使い方、結果補語、動詞の重ね型と“一下”
- 2 回：変や完了を表す“了”、助動詞“能”、没（有）＋動詞・形容詞
- 3 回：“快～了”、“打算”、二重目的語をとる動詞、助動詞“会”
- 4 回：助動詞“可以”、動詞・助動詞“要”、因果表現、選択疑問文
- 5 回：動作・行為の進行を表す“在”、状態の持続を表す“着”
- 6 回：“又～又・・・”、比較の表現、金額の言い方
- 7 回：作文・個人発表
- 8 回：方向補語、可能補語、助動詞“得”
- 9 回：存現文、様態補語、“一～就・・・”
- 10 回：経験を表す“<schinese>过</schinese>”、動作の回数や数量の表し方、主述述語文
- 11 回：“除了～（以外）”、“不<schinese>仅</schinese>～<schinese>还</schinese>・・・”、使役動詞“<schinese>让</schinese>”
- 12 回：“把”構文、“不是～就是・・・”、“是～的”構文
- 13 回：逆接表現“虽然～，但（是）・・・”、仮定表現“如果～的<schinese>话</schinese>・・・”、受け身文、動詞を修飾する“地”
- 14 回：最終テスト

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業時に指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業への参加度:10% 小テスト・各種提出物:30% 作文・個人発表:20% 最終
テスト割合：40%

テキスト / Textbooks

金縄初美・単艾婷・王宇南・新谷秀明・韓景旭・梅村卓 『4技能をのぼそうきうき中国語』 朝日
出版社 2024 -

参考文献 / Readings

授業時に適宜紹介する。

その他 / Others

授業終了時に HSK 4 級、中検定 3 級、CEFR B1 レベルに達する力を身につけることを目指す。

コミュニケーションセミナー2（中国語）

Communication Seminar 2 (Chinese)

王 曉音 (WANG XIAOYIN)

開講年度： 2024
科目設置学部： 異文化コミュニケーション学部
科目コード等： DM131
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： ICC1623
使用言語： その他
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 備考参照
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考： 1 年次：自動登録
2 年次以上：科目コード登録

授業の目標 / Course Objectives

中国語の総合的な運用能力の基礎を身につける入門クラス。春学期に引き続き、中国語に初めて接する人が、その特徴を理解し、「読む・書く・聞く・話す」の4技能を基礎的なレベルで運用できることを目指す。

This introductory class aims to develop a foundational proficiency in Chinese language usage for beginners. As in the spring semester, it focuses on fostering an understanding of the language's characteristics and aims to enable students to use the four essential skills – reading, writing, listening and speaking – at a basic level.

授業の内容 / Course Contents

春学期のコミュニケーションセミナー1に引き続き、文法を中心としたアプローチから、中国語の「読む・書く・聞く・話す」の4つの技能をさらに向上させる。学習の中盤となる第7回では、教員が指定するテーマに沿って事前に作文し、授業で個人発表を行う。授業中には、ペアワーク、グループワークおよび小テスト等を実施する予定である。

Continuing from Communication Seminar 1 in the spring semester, this course will take a comprehensive approach focusing on grammar to further improve the four skills: reading, writing, listening and speaking in

Chinese language learning. In the middle of the semester, every student will prepare a composition in advance based on topics specified by the instructor and deliver a presentation in class. Throughout the course, students are required to participate in activities such as pair work, groupwork and quizzes.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：“的”の使い方、結果補語、動詞の重ね型と“一下”
- 2 回：変や完了を表す“了”、助動詞“能”、没（有）＋動詞・形容詞
- 3 回：“快～了”、“打算”、二重目的語をとる動詞、助動詞“会”
- 4 回：助動詞“可以”、動詞・助動詞“要”、因果表現、選択疑問文
- 5 回：動作・行為の進行を表す“在”、状態の持続を表す“着”
- 6 回：“又～又・・・”、比較の表現、金額の言い方
- 7 回：作文・個人発表
- 8 回：方向補語、可能補語、助動詞“得”
- 9 回：存現文、様態補語、“一～就・・・”
- 10 回：経験を表す“<schinese>过</schinese>”、動作の回数や数量の表し方、主述述語文
- 11 回：“除了～（以外）”、“不<schinese>仅</schinese>～<schinese>还</schinese>・・・”、使役動詞“<schinese>让</schinese>”
- 12 回：“把”構文、“不是～就是・・・”、“是～的”構文
- 13 回：逆接表現“虽然～，但（是）・・・”、仮定表現“如果～的<schinese>话</schinese>・・・”、受け身文、動詞を修飾する“地”
- 14 回：最終テスト

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業時に指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業への参加度:10% 小テスト・各種提出物:30% 作文・個人発表:20% 最終
テスト割合：40%

テキスト / Textbooks

金縄初美・単艾婷・王宇南・新谷秀明・韓景旭・梅村卓 『4技能をのぼそうきうき中国語』 朝日
出版社 2024 -

参考文献 / Readings

授業時に適宜紹介する。

その他 / Others

授業終了時に HSK 4 級、中検定 3 級、CEFR B1 レベルに達する力を身につけることを目指す。

コミュニケーションセミナー2（朝鮮語）

Communication Seminar 2 (Korean)

李 在鎬 (LEE JAE HO)

開講年度：	2024
科目設置学部：	異文化コミュニケーション学部
科目コード等：	DM132
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	秋学期
単位：	2
科目ナンバリング：	ICC1623
使用言語：	その他
授業形式：	演習・ゼミ
履修登録方法：	備考参照
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	1 年次：自動登録 2 年次以上：科目コード登録

授業の目標 / Course Objectives

朝鮮語の総合的な運用能力の基礎を身につけるクラス。春学期に引き続き、朝鮮語に初めて接する人が、その特徴を理解し、「読む・書く・聞く・話す」の4技能を基礎的なレベルで運用できることを目指す。

An introductory course to acquire the basics of comprehensive Korean language skills. As in the spring semester, it aims to enable beginning learners of the Korean language to understand its characteristics and to use the four skills (reading, writing, listening, and speaking) at a basic level.

授業の内容 / Course Contents

連体形やさまざまな接尾辞、変則活用などを応用して使うためのトレーニングを行う。ある程度長い文章（会話）についても対応することができるようにしていく。また、言葉に習熟して聞き取りの基本的な力を高めるとともに、知らない言葉があっても流れをつかんで会話を成り立たせることができるようにトレーニングを行う。

Through training, students will learn to apply and use attributive forms, suffixes, irregular forms and more. They will gain the ability to deal with lengthier sentences (dialogue). In addition, they will boost their vocabularies to

build on their basic abilities to understand spoken Korean, and do exercises to help them understand context and continue conversations even when they do not understand all the words.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：春学期の復習、用言の名詞形
 2回：用言の連体形
 3回：第Ⅲ語基につながる用言
 4回：敬語 第Ⅰ語基+고 있다と第Ⅲ語基있다の表現
 5回：連体形、敬語、第Ⅲ語基を使う表現のまとめ
 6回：ㄷ変則用言
 7回：ㄹ変則用言
 8回：ㄴ変則用言 中間テスト
 9回：ㅇ変則用言
 10回：ㄴ変則用言とㄷ変則用言
 11回：変則用言のまとめ
 12回：義務・禁止の表現 会話練習
 13回：下称 パンマル 会話練習 秋学期のまとめ
 14回：期末テスト

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

毎回の授業で指示する。特に復習をきちんと行い、単語の正確な発音を身に付けられるよう努力すること。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業への参加度：60% 小テストや最終テスト：40%

テキスト / Textbooks

授業時にプリントを配付する。

参考文献 / Readings

金京子 『パランセ韓国語 会話入門』 朝日出版社 2014 9784255556345
 『朝鮮語辞典』（小学館 1993）電子辞書も可

コミュニケーションセミナー2（朝鮮語）

Communication Seminar 2 (Korean)

金 智英 (KIM JIYOUNG)

開講年度：	2024
科目設置学部：	異文化コミュニケーション学部
科目コード等：	DM133
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	秋学期
単位：	2
科目ナンバリング：	ICC1623
使用言語：	その他
授業形式：	演習・ゼミ
履修登録方法：	備考参照
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	1 年次：自動登録 2 年次以上：科目コード登録

授業の目標 / Course Objectives

朝鮮語の総合的な運用能力の基礎を身につけるクラス。春学期に引き続き、朝鮮語に初めて接する人が、その特徴を理解し、「読む・書く・聞く・話す」の4技能を基礎的なレベルで運用できることを目指す。

An introductory course to acquire the basics of comprehensive Korean language skills. As in the spring semester, it aims to enable beginning learners of the Korean language to understand its characteristics and to use the four skills (reading, writing, listening, and speaking) at a basic level.

授業の内容 / Course Contents

連体形やさまざまな接尾辞、変則活用などを応用して使うためのトレーニングを行う。ある程度長い文章（会話）についても対応することができるようにしていく。また、言葉に習熟して聞き取りの基本的な力を高めるとともに、知らない言葉があっても流れをつかんで会話を成り立たせることができるようにトレーニングを行う。

Through training, students will learn to apply and use attributive forms, suffixes, irregular forms and more. They will gain the ability to deal with lengthier sentences (dialogue). In addition, they will boost their vocabularies to

build on their basic abilities to understand spoken Korean, and do exercises to help them understand context and continue conversations even when they do not understand all the words.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：春学期の復習、用言の名詞形
- 2回：用言の連体形
- 3回：第Ⅲ語基につながる用言
- 4回：敬語 第Ⅰ語基+고 있다と第Ⅲ語基있다の表現
- 5回：連体形、敬語、第Ⅲ語基を使う表現のまとめ
- 6回：ㄷ変則用言
- 7回：ㄹ変則用言
- 8回：ㄴ変則用言 中間テスト
- 9回：ㅇ変則用言
- 10回：ㄴ変則用言とㄷ変則用言
- 11回：変則用言のまとめ
- 12回：義務・禁止の表現 会話練習
- 13回：下称 パンマル 会話練習 秋学期のまとめ
- 14回：期末テスト

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド (パワポ等) の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

毎回の授業で指示する。特に復習をきちんと行い、単語の正確な発音を身に付けられるよう努力すること。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：2) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業への参加度:60% 小テストや最終テスト:40%

テキスト / Textbooks

授業時にプリントを配付する。

参考文献 / Readings

金京子 『パランセ韓国語 会話入門』 朝日出版社 2014 9784255556345
『朝鮮語辞典』 (小学館 1993) 電子辞書も可

コミュニケーションセミナー2（口語）

Communication Seminar 2 (Russian)

初級ロシア語の文法と会話

三神 エレーナ (MIKAMI ELENA)

開講年度： 2024

科目設置学部： 異文化コミュニケーション学部

科目コード等： DM134

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： ICC1623

使用言語： その他

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 備考参照

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 1 年次：自動登録

2 年次以上：科目コード登録

授業の目標 / Course Objectives

ロシア語の総合的な運用能力の基礎を身につけるクラス。春学期に引き続き、ロシア語に初めて接する人が、その特徴を理解し、「読む・書く・聞く・話す」の4技能を基礎的なレベルで運用できることを目指す。

An introductory course to acquire the basics of comprehensive Russian language skills. As in the spring semester, it aims to enable beginning learners of the Russian language to understand its characteristics and to use the four skills (reading, writing, listening, and speaking) at a basic level.

授業の内容 / Course Contents

ロシア語によるコミュニケーション力の基礎を固めるため、日常会話に必要な表現、正しい発音を身につける練習を積極的に行う。ロシア語の文法知識を口頭表現、聴解、作文などの練習をとおして実践的な能力として定着させる。

Students will practice to master expressions and proper pronunciation required for everyday conversation and learn basic points to form communication skills in Russian. The course provides students with the opportunity to

develop Russian grammar knowledge into practical skills through speaking, listening and writing.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：春学期の復習 聴解・会話練習
- 2回：世界の国々 場所表現 名詞の前置格 聴解・会話練習
- 3回：動詞の過去形 y ж e / e ш ì 表現 聴解・会話練習
- 4回：気候の話 感覚を表す副詞 聴解・会話練習
- 5回：в / н а 前置詞の使い分け 頻度を表す副詞 (1) 聴解・会話練習
- 6回：名詞の対格 希望表現 特殊活用の動詞 (2) 聴解・会話練習
- 7回：カフェでの注文 スケジュールの話 聴解・会話練習
- 8回：中間単語テスト カレンダーや四季の話 聴解・会話練習
- 9回：時刻表現 時間表現 聴解・会話練習
- 10回：自分の日常の話 頻度を表す副詞 (2) 聴解・会話練習
- 11回：一日の話 特殊活用の動詞 (3) 聴解・会話練習
- 12回：形容詞の使い方 聴解・会話練習
- 13回：秋学期に習った表現 復習 聴解・会話練習
- 14回：秋学期末テスト

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド (パワポ等) の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

毎回の授業で指示する。宿題・復習などの自主学習を積極的に行うこと。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：002) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 提出宿題:30% 中間単語テスト:30% 期末テスト:40%

テキスト / Textbooks

授業時および Canvas 授業支援システムによりプリントを配付する。

参考文献 / Readings

既持のロシア語文法書や露和辞典

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

Canvas 授業支援システムにアクセス出来る情報機器 (PC 又はスマホ)。

その他 / Others

宿題提出や単語学習などはオンラインで行う予定。そのために Quizlet などのオンライン学習アプリケーションを使う予定 (授業時に紹介)。

日本語コミュニケーションC

Japanese Communication C

井上 玲子 (INOUE REIKO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 異文化コミュニケーション学部
科目コード等： DM139
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： ICC1620
使用言語： 日本語
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 備考参照
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考： 外国人留学生入試による入学者・9月入学者（日本語コース）・NEXUS プログラム生・PEACE プログラム生：自動登録，その他の学生：「その他」登録

授業の目標 / Course Objectives

大学生活で必要となる基本的な日本語コミュニケーション能力とは何かを理解し、それが実際の大学生活の中で使えるようになる。具体的には、講義を聴いてノートがとれるようになること、ある程度短い時間でリアクションペーパーがまとめられるようになること、講義のレジюмеや一定程度の文章が読めるようになること、わかりやすいプレゼンテーションができるようになることを目標とする。

To understand the basic Japanese communication skills required for the campus life and to gain the ability to actually utilize these skills for daily living. In particular students should aim to become able to, take notes while listening to lectures; summarize their thoughts relatively quickly on the Reaction Paper; read lecture summaries and other texts at the requisite level; give presentations that are easily understandable.

授業の内容 / Course Contents

ノート・テーキング、リアクションペーパーのまとめ方、レジюмеの読み方・書き方、講義資料の読み方など、大学で学んでいく上で必要となる日本語コミュニケーションスキルを実践的に扱う。日常生活で使用する日本語と、大学の学びで必要とされる日本語は、まったく異なるものであるため、使用する語彙、文型など基

礎的な事柄から丁寧に扱い、受講者一人一人の日本語の間違いを修正するとともに、日本語の発信力を高めていく。授業では、読む・書く・話す・聞くをバランスよく扱うが、特に「書く」および「プレゼンテーション」に焦点を当てて授業を

Practical exercises will be carried out to develop Japanese communication skills for academic campus life, such as the ability to take notes; fill in the Reaction Paper; read and write summaries; and read lecture materials.

Japanese used in everyday life is very different from the Japanese in academic life. Therefore, this class carefully works on the fundamentals, such as the terminology and sentence patterns, and correct mistakes in each and every student's Japanese, in order to improve their communication skills. Classes include a good balance of reading, writing, speaking, and listening activities. However, they are conducted with a particular focus on writing and presentation skills.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：科目の進め方、オリエンテーション、リアクションペーパーとは何か。
- 2回：読解1、リアクションペーパー1
- 3回：読解2、リアクションペーパー2
- 4回：読解3、リアクションペーパー3、ミニ発表
- 5回：読解4、リアクションペーパー4、ミニ発表
- 6回：読解5、リアクションペーパー5、ミニ発表フィードバック
- 7回：読解6、リアクションペーパー6、レポートの書き方1
- 8回：読解7、リアクションペーパー7、レポートの書き方2
- 9回：読解8、レポートの書き方3、プレゼンテーションスキル1
- 10回：読解9、レポートの書き方4、プレゼンテーションスキル2
- 11回：読解10、レポートの書き方5、プレゼンテーションスキル3
- 12回：プレゼンテーション
- 13回：プレゼンテーション フィードバック
- 14回：レポートフィードバック、振り返り

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業前に読解教材を読んで、予習ノートを作成すること。出された課題には、しっかり取り組むこと。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 参加度：30% 課題：30% プレゼンテーション：20% レポート：20%

テキスト / Textbooks

必要な教材は授業で指示するほか、プリントを配布する。

参考文献 / Readings

適宜 授業で紹介する。

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

この授業では、プレゼンテーション、ミニ発表などを取り入れて行うので、積極的に取り組むことが必要である。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

授業や課題提出にPCまたはタブレット端末を使用することがある。

その他/ Others

- 1) スケジュールや内容は調整する場合がある。
- 2) 各課題へのフィードバックは次回の授業で実施する。

日本語コミュニケーションD

Japanese Communication D

井上 玲子 (INOUE REIKO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 異文化コミュニケーション学部
科目コード等： DM140
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： ICC1620
使用言語： 日本語
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 備考参照
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考： 外国人留学生入試による入学者・9月入学者（日本語コース）・NEXUS プログラム生・PEACE プログラム生：自動登録，その他の学生：「その他」登録

授業の目標 / Course Objectives

大学生活で必要となる基本的な日本語コミュニケーション能力とは何かを理解し、それが実際の大学生活の中で使えるようになる。具体的には、講義を聴いてノートがとれるようになること、ある程度短い時間でリアクションペーパーがまとめられるようになること、講義のレジюмеや一定程度の文章が読めるようになること、わかりやすいプレゼンテーションができるようになることを目標とする。

To understand the basic Japanese communication skills required for the campus life and to gain the ability to actually utilize these skills for daily living. In particular students should aim to become able to, take notes while listening to lectures; summarize their thoughts relatively quickly on the Reaction Paper; read lecture summaries and other texts at the requisite level; give presentations that are easily understandable.

授業の内容 / Course Contents

ノート・テーキング、リアクションペーパーのまとめ方、レジюмеの読み方・書き方、講義資料の読み方など、大学で学んでいく上で必要となる日本語コミュニケーションスキルを実践的に扱う。日常生活で使用する日本語と、大学の学びで必要とされる日本語は、まったく異なるものであるため、使用する語彙、文型など基

礎的な事柄から丁寧に扱い、受講者一人一人の日本語の間違いを修正するとともに、日本語の発信力を高めていく。授業では、読む・書く・話す・聞くをバランスよく扱うが、特に「書く」および「プレゼンテーション」に焦点を当てて授業を

Practical exercises will be carried out to develop Japanese communication skills for academic campus life, such as the ability to take notes; fill in the Reaction Paper; read and write summaries; and read lecture materials.

Japanese used in everyday life is very different from the Japanese in academic life. Therefore, this class carefully works on the fundamentals, such as the terminology and sentence patterns, and correct mistakes in each and every student's Japanese, in order to improve their communication skills. Classes include a good balance of reading, writing, speaking, and listening activities. However, they are conducted with a particular focus on writing and presentation skills.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：科目の進め方、オリエンテーション。
- 2回：読解1、リアクションペーパー1、レポートの書き方1
- 3回：読解2、リアクションペーパー2、レポートの書き方2
- 4回：読解3、リアクションペーパー3、ミニ発表
- 5回：読解4、リアクションペーパー4、レポートの書き方3
- 6回：読解5、リアクションペーパー5、レポートの書き方4
- 7回：読解6、リアクションペーパー6、レポートの書き方5
- 8回：読解7、リアクションペーパー7、レポートの書き方6
- 9回：読解8、レポートの書き方7、プレゼンテーションスキル1
- 10回：読解9、レポートの書き方8、プレゼンテーションスキル2
- 11回：読解10、レポートの書き方9、プレゼンテーションスキル3
- 12回：プレゼンテーション
- 13回：プレゼンテーション フィードバック
- 14回：レポートフィードバック、振り返り

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

読解教材は、授業前に予習して、予習ノートを作成すること。レポート作成やプレゼンテーションの準備は、授業外の時間を使ってしっかり行うこと。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 参加度:30% 課題:30% プレゼンテーション:20% レポート:20%

テキスト / Textbooks

必要な場合、授業で指示するが、主にプリント教材を利用する。

参考文献 / Readings

必要な場合、適宜紹介する。

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

この授業では、プレゼンテーション、発表などを積極的に取り入れるので、個々の学生の能動的な取り組みが期待される。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

授業や課題提出にPCまたはタブレット端末を使用することがある。

その他/ Others

- 1) 個々の課題へのフィードバックは次の回の授業で行う。
- 2) スケジュールや内容は調整する場合がある。

Seminar in English A

Seminar in English A

Africa in the World

シ, ゲンギン (ZI YANYIN)

開講年度： 2024

科目設置学部： 異文化コミュニケーション学部

科目コード等： DM141

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： ICC2621

使用言語： 英語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 抽選登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

The goals of this course are for students to be able to

1. develop overall English language skills while learning about African cultures and societies.
2. explain the characteristics of the relationships between Africa and other regions in the world.
3. gain an understanding of African people's lives today, as well as their daily social and cultural activities in a globalized world.

授業の内容 / Course Contents

Using English, students will be able to study academic subjects in a structured way at undergraduate level.

Students can learn the basic knowledge of the subject and special language used in the subject in English.

This course is an introduction to the social and cultural topics of Africa. By exploring how history, culture, and power shape our conceptualization of the world and its peoples, the course tracks how legacies of colonialism and imperialism in Africa continue to inform contemporary issues of economic development, governance, and globalization. After a general overview of geography, ethnicity, language, and colonial history in the first part of

the course, we will focus on a number of important contemporary issues including population, urbanization, economic development, resource, and governance etc.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1回：1st class: Introduction and overview

Self-introduction of instructor, overview of Africa's geography, ethnicity, language, climate, biogeography and ecology. etc.

2回：2nd class: African past

Ancient Africa, the history of the slave trade and its impact on modern Africa

3回：3rd class: Colonial legacy

History of colonial rule and its impact on modern Africa

4回：4th class: Independent Africa

The formation of African independence movements, politics and development after independence

5回：5th class: Language and ethnicity

African language distribution, language hierarchy and written language

6回：6th class: Daily life in Africa

Food, fashion, and arts

7回：7th class: Guest Speaker

8回：8th class: African economies

Africa in the world economy, strategy for growth and development, the evolution of urban structure

9回：9th class: Development in Africa 1: Environmental issues

Ecology of Africa, E-waste, green energy

10回：10th class: Development in Africa 2: Health policy and infectious disease

Covid and Ebola crisis in Africa, health policy and service delivery

11回：11th class: Development in Africa 3: Resource extraction

Mineral and energy resources in Africa

12回：12th class: Development in Africa 4: Governance

Development aid and structural violence, development and bureaucratic power

13回：13th class: Individual presentation①

14回：14th class: Individual presentation②

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	○	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:	○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

Students are expected to come to class having done the reading & writing assignments.

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：002) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Attendance and Participation:30% Assignments (including in-class discussions and

presentation):40% Presentations:30%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

Robert Stock Africa South of the Sahara Third Edition: Texts in Regional Geography Guilford Publications 2012

Roy Richard Grinker (Editor), Stephen C. Lubkemann (Editor), Christopher B. Steiner (Editor) Perspectives on Africa: A Reader in Culture, History and Representation 2nd Edition: Wiley-Blackwell. 2010

1. The instructor may provide additional reading materials throughout the semester.
2. Depending on progress made during the semester, changes to the content outlined above might become necessary. The instructor reserves the right to modify this syllabus,

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

It is recommended that the student's English level is at or above TOEFL(iBT) 68, TOEFL(PBT) 520, IELTS 5.5, or TOEIC 650.

注意事項

It is recommended that the student's English level is at or above TOEFL(iBT) 68, TOEFL(PBT) 520, IELTS 5.5, or TOEIC 650.

Seminar in English B

Seminar in English B

Social Media and Communication Theory

ガービー, K. (GARVEY KEVIN PATRICK)

開講年度： 2024

科目設置学部： 異文化コミュニケーション学部

科目コード等： DM142

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： ICC2621

使用言語： 英語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 抽選登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

The primary goal of this course is to explore contemporary theory related to social media. Through four topics: parasocial relationships, content creators, emotional labor, and trolling, students will gain an understanding of how social media influences the way we communicate.

The secondary goal of this course is to practice critical reading for summary and discussion. Through short readings and reflective journal writing, students will practice catching key information, reading for pattern and theme, and expanding on ideas through their own writing.

授業の内容 / Course Contents

There are four units: parasocial relationships, content creators, emotional labor, and trolling. After each unit, students will complete a written reflection on the topic covered, and prepare to discuss these reflections in class (a total of four journals).

Each course meeting will have a lecture containing ten key points, followed by a quiz reviewing these points.

There is a midterm exam and final exam, both reviewing previous quiz questions. There is a final group

presentation exploring an example case of one of the unit topics (e.g. a specific content creator).

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回： Course introduction
- 2 回： Unit 1: Parasocial relationships
- 3 回： Unit 1: Parasocial relationships
- 4 回： Unit 2: Content Creators
- 5 回： Unit 2: Content Creators
- 6 回： Review: PSRs and Creators
- 7 回： Midterm test
- 8 回： Unit 3: Emotional Labor
- 9 回： Unit 3: Emotional Labor
- 10 回： Unit 4: Trolling
- 11 回： Unit 4: Trolling
- 12 回： Review: Labor & Trolling
- 13 回： Review & project work time
- 14 回： Final test & project share

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド (パワポ等) の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

Students are expected to work outside of class time to complete assignments. Students are expected to complete reflective journals outside of class time, and be ready to discuss their reflections in class.

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：002) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Quizzes & Participation:30% Homework journals:20% Midterm test:15% Final test:15% Final projects:20%

テキスト / Textbooks

Materials will be provided by the teacher

参考文献 / Readings

Materials will be provided by the teacher

その他 / Others

Students are expected to use Google Classroom to access course materials and assignments. In-class group work will be conducted using Google Documents and Slides.

注意事項

It is recommended that the student's English level is at or above TOEFL(iBT) 68, TOEFL(PBT) 520, IELTS 5.5, or TOEIC 650.

Seminar in English C

Seminar in English C

The Art of Language: Reading and Writing Poetry

田中 裕希 (TANAKA YUKI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 異文化コミュニケーション学部

科目コード等： DM143

授業形態： オンライン (全回オンライン)

授業形態 (補足事項) 発話を伴う授業を学内で受講する場合は 8201 教室の利用可。

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： ICC2621

使用言語： 英語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 抽選登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針 (DP) や教育課程編成の方針 (CP) に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

In this class, we will learn how to read and write poems with close attention to the properties of English that are often overlooked in traditional language classes, such as rhythm and figurative language. By the end of the semester, students will come away with a broader understanding of English, not just as a tool for communication but as a means of self-expression.

授業の内容 / Course Contents

Students will read poems, and then write their own poems based on prompts suggested by the assigned poems. Each writing assignment is followed by a workshop, where students will comment on each other's work.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回： Introduction

2 回： Imagery--against cliché

3 回： Rhythm--English vs. Japanese

4 回： Workshop 1

- 5回：Persona--writing as though you were someone else
 6回：Workshop 2
 7回：Ekphrasis--writing based on an artwork
 8回：Workshop 3
 9回：Object---writing as though you were non-human
 10回：Workshop 4
 11回：Associative Poem--writing as digression
 12回：Workshop 5
 13回：Poem as music--writing with an ear
 14回：Workshop 6

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワーポイント等) の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:		:

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

To be announced in class.

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：002) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Workshop poems/ assignments:30% Class participation:30% 最終レポート割合 :40%

テキスト / Textbooks

Handouts will be distributed.

参考文献 / Readings

To be announced in class.

注意事項

It is recommended that the student's English level is at or above TOEFL(iBT) 68, TOEFL(PBT) 520, IELTS 5.5, or TOEIC 650.

Seminar in English D

Seminar in English D

Combining the Psychology of Language Learning and its Research Methods

福田 晶子 (FUKUDA AKIKO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 異文化コミュニケーション学部

科目コード等： DM144

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： ICC2621

使用言語： 英語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 抽選登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

In this class, through literature reading and group activities, this course aims to help students understand the basic concepts of learner psychology in second language acquisition and the fundamentals of research methods related to each of these concepts. Through discussions on what kind of data is obtained, what kind of procedures are followed, and what characteristics and problems exist in various research methods, students will gain deep insight into the concept of learner psychology.

授業の内容 / Course Contents

While most people acquire their native language naturally, learning a second language has many challenges and difficulties. This course addresses learner psychology in second language acquisition, discussing its theories and concepts and how they affect the acquisition process and outcomes. We will also discuss the psychological factors of learners with the typical (or emerging) research methods and examine what research methods apply to second language acquisition through actual data collection experiences. Students will learn learner psychology and its research methods independently through reading in a circle and group work.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：Guidance – What is psychology?
- 2 回：Psychology and Language Learning – major psychological factors that influence language learning
- 3 回：Learning strategies (survey)
- 4 回：Learning style (survey)
- 5 回：Motivation (narrative methods)
- 6 回：Personality (narrative methods)
- 7 回：Aptitude and working memory (psychometric assessment)
- 8 回：Identity (ethnography)
- 9 回：Learner beliefs (implicit association test)
- 10 回：Willingness to communicate (idiodynamic method)
- 11 回：Self-regulation (experience sampling method)
- 12 回：Final project – team building, theme setting, literature reading
- 13 回：Final project – literature discussion, preparation
- 14 回：Final presentation

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド* (パワポ等) の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

The teacher will distribute the literature to be read before the next class on the Canvas LMS. Since group work and discussion will be conducted in class based on the readings, students are expected to download and read the material on their own. They als

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：002) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% In-class assignments:20% Final project report:20% Final presentation:30% Active participation:30%

テキスト / Textbooks

Texts will be distributed in class by the teacher.

参考文献 / Readings

Li, S., Hiver, P., & Papi, M. The Routledge Handbook of Second Language Acquisition and Individual Differences. Routledge 2022

Dörnyei, Z. & Ryan, S. The Psychology of the Language Learner Revisited. Routledge 2015

Williams, M., Mercer, S., & Ryan, S. Exploring Psychology in Language Learning and Teaching. Oxford 2015

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

This class will focus on the theories, concepts, and history of psychology in language learning, so students interested in psychology and related areas of language teaching are welcome. In addition, this class is intended to be a small step (first step) t

注意事項

It is recommended that the student's English level is at or above TOEFL(iBT) 68, TOEFL(PBT) 520, IELTS 5.5, or TOEIC 650.

Seminar in English E

Seminar in English E

Contemporary Culture in South Korea: Tracing critical issues in K-Pop, K-Dramas, and K-Cinema

ヨ, イェジ (YEO YEZI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 異文化コミュニケーション学部

科目コード等： DM145

授業形態： 対面（一部オンライン）

授業形態（補足事項） The final four sessions will be taught online to accommodate guest speakers and presentation activities.

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： ICC2621

使用言語： 英語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 抽選登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

In this course students explore concepts and subjects concerning media/cultural studies in contemporary South Korea. Students will examine media discourse and representation with conceptual tools to better understand contexts and issues arising from gender, race, and class dynamics in contemporary South Korean society.

授業の内容 / Course Contents

This is an intensive discussion-oriented course, in which students are expected to read academic texts, present individually/as a group, analyze media/pop culture products, collaborate for classwork, answer quizzes, and actively discuss theoretical concepts, observations, and opinions every week.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回： Introduction to the course

2 回： Complex military legacies, yellow ribbons, and candlelights 1: Descendants of the Sun (2016). 1987-When the Day Comes (2017). D.P. (2021)

- 3回：Complex military legacies, yellow ribbons, and candlelights 2: Descendants of the Sun (2016). 1987-When the Day Comes (2017). D.P. (2021)
- 4回：Masculinities & misogyny 1: The man from nowhere (2010). Misaeng (2014). Reborn Rich (2022)
- 5回：Masculinities & misogyny 2: The man from nowhere (2010). Misaeng (2014). Reborn Rich (2022)
- 6回：Femininities & feminisms 1: What's Wrong with Secretary Kim? (2018). Kim Ji-young: Born 1982 (2019). My Name (2021).
- 7回：Femininities & feminisms 2: What's Wrong with Secretary Kim? (2018). Kim Ji-young: Born 1982 (2019). My Name (2021).
- 8回：Queer baiting/representation: Antique (2008). Life is Beautiful (2010). The Handmaiden (2016).
- 9回：Multicultural racism: My Lovely Samsoon (2005). Punch (2011). Itaewon Class (2020).
- 10回：Northern (br)others: JSA (2000). Secretly, Greatly (2013). Crash Landing on You (2019).
- 11回：Final presentations and discussions 1
- 12回：Final presentations and discussions 2
- 13回：Final presentations and discussions 3
- 14回：Guest speaker

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○	
個人発表	:	○	グループ発表	:	○	ディスカッション・ディベート	:	○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:		
上記いずれも用いない予定	:		:			:		

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

Students are expected to come to class having done weekly reading assignments, independently prepare for presentations, and watch assigned media material.

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：002) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Attendance: Active discussion:30% Assignments: In-class quizzes/writings:36%
Presentations: Weekly/final:34%

テキスト / Textbooks

Materials will be provided by the instructor.

参考文献 / Readings

Materials will be provided by the instructor.

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

Students are expected to read, comprehend, apply, and discuss academic literature in English. Thus, advanced or close to advanced English reading, writing, listening, and speaking abilities are required for this course.

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

Students should bring a laptop/tablet with keyboard and writing tools to each class unless otherwise specified.

その他 / Others

Schedule, off/online format, and syllabus content are subject to change.

注意事項

It is recommended that the student's English level is at or above

TOEFL(iBT) 68, TOEFL(PBT) 520, IELTS 5.5, or TOEIC 650.

Seminar in English F

Seminar in English F

Second Language Acquisition

居村 啓子 (IMURA KEIKO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 異文化コミュニケーション学部

科目コード等： DM146

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： ICC2621

使用言語： 英語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 抽選登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

This course aims to equip students with fundamental insights into second language acquisition. We will explore the process of first language acquisition and delve into the distinctive features of second language learning.

Throughout the duration of this course, students will gain a comprehensive understanding of the theoretical aspects of SLA, coupled with practical insights into pedagogical approaches within classroom settings.

授業の内容 / Course Contents

In this course, students will watch academic video lectures and read the text chapters in English. As they learn the content, they will build a glossary list of the necessary technical terms and prepare notes for the discussion sessions in class. They will also be encouraged to use their critical thinking skills to deepen their thoughts and present their ideas on the pedagogy of SLA.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回： Introduction to SLA: popular ideas about language learning

2 回： First Language Acquisition

- 3回：Theories and Perspectives on First Language Acquisition
 4回：Second Language Learner Characteristics
 5回：Studying the Language of Second Language Learners
 6回：Individual Differences: Learner Characteristics
 7回：Individual Differences: Age factors
 8回：Theoretical views: Behaviorist and Innatist Perspectives
 9回：Theoretical views: Cognitive and Sociocultural Perspectives
 10回：Observing Learning and Teaching in the Second Language Classroom: Natural and Instructional Settings.
 11回：Observing Learning and Teaching in the Second Language Classroom: Observation Schemes.
 12回：SLA and Proposals for Teaching
 13回：SLA presentations and feedback 1
 14回：SLA presentations and feedback 2

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド* (パワポ等) の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

During the semester, students are expected to engage with assigned reading sections by taking notes and formulating discussion questions for collaborative sessions in class. Additionally, students are required to submit three reaction papers as part of th

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Presentations:20% Session notes:30% Contribution:20% Reaction papers:30%

テキスト / Textbooks

Patsy M. Lightbown & Nina Spada How Languages are Learned 5th edition Oxford 2022 0194406296 ○

All necessary materials will be provided including reading articles, video clips and others.

参考文献 / Readings

注意事項

It is recommended that the student's English level is at or above TOEFL(iBT) 68, TOEFL(PBT) 520, IELTS 5.5, or TOEIC 650.

ドイツ語Lecture A

Lecture in German A

三ッ石 祐子 (MITSUISHI YUKO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 異文化コミュニケーション学部
科目コード等： DM151
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： ICC3622
使用言語： その他
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

In diesem Kurs werden kulturelle und gesellschaftliche Themen sowie aktuelle Probleme in den deutschsprachigen Ländern behandelt. Die Studierenden können ein umfassendes Verständnis des deutschsprachigen Kulturraums aus verschiedenen Perspektiven entwickle

This course will focus on cultural and social issues as well as actual problems in the German-speaking countries. Students will be able to develop a comprehensive understanding of the German-speaking cultural area from different perspectives. Level B1/B2, or DDJ 2.

授業の内容 / Course Contents

In diesem Kurs werden folgende Themen behandelt: Esskultur und Technologie.

Bei beiden Themen lernen wir nicht nur das Konventionelle, sondern auch Vielschichtigkeit und Probleme in der heutigen Gesellschaft.

Im Unterricht werden jedesmal ein Video zum

In this course, we will deal with the following topics: food culture and technology.

In both topics we not only learn about the conventional, but also about the complexity and problems in today's

society.

In class each time, the participants will watch a video on the respective topic, clarify vocabulary, do small exercises and discuss afterwards. In the middle and at the end of the semester, participants are asked to give presentations on the topics they were particularly interested in during class to practise presenting and arguing problems in German.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：Esskultur1: Die Kunst des Brezelbackens
- 2 回：Esskultur 2: Auf den Spuren des Döners
- 3 回：Esskultur 3: Innovation statt Tradition: Bier aus Pulver
- 4 回：Esskultur 4: Ein Roboter als Koch
- 5 回：Esskultur 5: Metzgereien gibt es jetzt auch vegan
- 6 回：Esskultur 6: Kochen für den Frieden
- 7 回：Präsentation
- 8 回：Technologie 1: Kann KI kreativer sein als ein Mensch?
- 9 回：Technologie 2: Mode in Zeitalter von Social Media
- 10 回：Technologie 3: Dem Hass trotzen: queere Menschen in der Werbung
- 11 回：Technologie 4: Ladestation der Zukunft
- 12 回：Technologie 5: Wasserstoff revolutioniert den Flugzeugtrieb
- 13 回：Technologie 6: KI erleichtert den Alltag mit Sehbehinderungen
- 14 回：Präsentation

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

毎回の授業で指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 毎回の授業への出席、教室での発言、ディスカッションへの参加、宿題の提出など:50%
プレゼンテーション:25% レポート:25%

テキスト / Textbooks

wird im Unterricht verteilt

参考文献 / Readings

Hinweise im Unterricht

その他 / Others

授業は、参加者の積極的な参加、議論を中心に行う。映像資料を使用する。

提出物などのフィードバックは適宜、授業内で全体と、必要に応じて各自に向けて行う。

「授業計画」の内容や進度は履修状況や、参加者の希望などにより変更する可能性もある。

履修を考えている、あるいはこの授業に興味のある方は、必ず初回の授業に出席してください。

注意事項

受講には CEFR B1/B2、ドイツ語技能検定試験 2 級以上を取得しているレベルが必要。なお、この科目は、当該言語の非母語話者を対象としている。

ドイツ語Lecture B

Lecture in German B

三ッ石 祐子 (MITSUISHI YUKO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 異文化コミュニケーション学部
科目コード等： DM152
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： ICC3622
使用言語： その他
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

In diesem Kurs werden kulturelle und gesellschaftliche Themen sowie aktuelle Probleme in den deutschsprachigen Ländern behandelt. Die Studierenden können ein umfassendes Verständnis des deutschsprachigen Kulturraums aus verschiedenen Perspektiven entwickel

This course will focus on cultural and social issues as well as actual problems in the German-speaking countries. Students will be able to develop a comprehensive understanding of the German-speaking cultural area from different perspectives. Level B1/B2, or DDJ 2.

授業の内容 / Course Contents

Im Unterricht werden jedesmal ein Video zum jeweiligen Thema gesehen, das die KursteilnehmerInnen aus der Rubrik „Video-Thema“ der „Deutschen Welle“ ausgesucht haben, Vokabular geklärt, kleine Übungen gemacht, gegebenenfalls authentische Texte (Zeitungsar

In each lesson we watch a video on the respective topic chosen by the course participants from "Video-Thema" of "Deutsche Welle", clarify the vocabulary, do small exercises, read authentic texts (newspaper articles, news, short essays, etc.) on the topic and discuss afterwards. In the middle and at the end of the semester, participants are

asked to give presentations on the topics they were particularly interested in during class to practise presenting and arguing problems in German.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：Einführung
- 2 回：Thema 1
- 3 回：Thema 2
- 4 回：Thema 3
- 5 回：Thema 4
- 6 回：Thema 5
- 7 回：Präsentation
- 8 回：Thema 6
- 9 回：Thema 7
- 10 回：Thema 8
- 11 回：Thema 9
- 12 回：Thema 10
- 13 回：Thema 11
- 14 回：Präsentation

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:○
個人発表	:	○ グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:		

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

毎回の授業で指示する。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：002) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業への出席・教室での発言・ディスカッション・宿題など:50% プレゼンテーション:25% レポート:25%

テキスト / Textbooks

wird im Unterricht verteilt.

参考文献 / Readings

Hinweise im Unterricht.

その他 / Others

授業は、参加者の積極的な参加、議論を中心に行う。映像資料を使用する。

授業内で行われたアウトプットに対しては授業の場でコメントする。

提出物などのフィードバックは適宜全体と、必要に応じて各自に向けて行う。

「授業計画」の内容や進度は、履修状況や履修者の希望などによって変更する可能性があります。

履修を考えている人、この授業に興味のある人は必ず初回の授業に出席してください。

注意事項

受講には CEFR B1/B2、ドイツ語技能検定試験 2 級以上を取得しているレベルが必要。なお、この科目は、当

該言語の非母語話者を対象としている。

フランス語Lecture A

Lecture in French A

comprendre des reportages des médias audiovisuels français

リボー, C. (RIVEAU CEDRIC)

開講年度： 2024

科目設置学部： 異文化コミュニケーション学部

科目コード等： DM153

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： ICC3622

使用言語： その他

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

Ce cours a pour objectif de fournir aux étudiants les clefs culturelles d'une compréhension et d'une communication harmonieuse avec les francophones. Le niveau DELF B1 ou équivalent est souhaitable.

This course aims to provide students with the cultural keys to understanding and communicating harmoniously with French speakers. The level DELF B1 or equivalent is desirable.

授業の内容 / Course Contents

Il s'agit d'un cours de civilisation dispensé en français. Le professeur organise les 14 séances autour de thèmes préalablement fixés. Chaque cours est l'occasion d'aborder un aspect de la question et de discuter en français avec le professeur et ses cama

This is a civilisation course taught in French. The teacher organises the 14 sessions around pre-determined themes. Each class is an opportunity to tackle an aspect of the issue and to discuss it in French with the teacher and fellow students.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：premier thème 1/4
 2 回：premier thème 2/4
 3 回：premier thème 3/4
 4 回：premier thème 4/4
 5 回：second thème 1/4
 6 回：second thème 2/4
 7 回：second thème 3/4
 8 回：second thème 4/4
 9 回：troisième thème 1/4
 10 回：troisième thème 2/4
 11 回：troisième thème 3/4
 12 回：troisième thème 4/4
 13 回：bilan des thèmes abordés
 14 回：bilan des thèmes abordés

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド* (パワポ* 等) の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

Des devoirs seront parfois demandés.

Homework will sometimes be required.

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：002) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業参加度 (Participation) :90% 最終レポート割合 :10%

テキスト / Textbooks

Des documents seront distribués en classe.

参考文献 / Readings

Des ouvrages de référence seront indiqués en fonction des besoins.

その他 / Others

Un retour sera effectué au cours de la séance suivante.

授業時に前回授業のフィードバックをする。

注意事項

受講には DELF B1、実用フランス語技能検定試験 2 級以上のレベルが必要。なお、この科目は、当該言語の非母語話者を対象としている。

フランス語Lecture B

Lecture in French B

Multiculturalisme et interculturalité

デルヴロワ, M (DERVELOIS MICHAEL)

開講年度： 2024

科目設置学部： 異文化コミュニケーション学部

科目コード等： DM154

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： ICC3622

使用言語： その他

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

Il s'agit d'un cours de civilisation dispensé en français. Le professeur organise les 14 séances autour de thèmes préalablement fixés. Chaque cours est l'occasion d'aborder un aspect de la question et de discuter en français avec le professeur et ses cama

This is a class about human civilization taught in French. The teacher structures the 14 sessions around previously established topics. Each class provides an opportunity to discuss a component of the issue and to converse in French with the teacher and other classmates. This class aims to provide students with essential cultural tips to ensure smooth communication with French speakers.

授業の内容 / Course Contents

Nous ne cessons de voir la mondialisation de notre quotidien nous soumettre à une prise de conscience toujours plus aigüe du rapport à autrui. En conséquence, nous attribuons usuellement à ce dernier le personnage stéréotypé de l'immigré et notre hantise

Globalization is continuously becoming part of our daily lives and consequently is subjecting us to an increasing

awareness of our relationships with others. As a result, we usually stereotypically attribute foreigners as immigrants and our fear of how to appropriately communicate with them only reinforces the existing cultural gap. It is important, now more than ever, to rediscover other cultures in order to correct our preconceptions and to reassess the ideal conditions for intercultural relationships. We request and expect citizens to develop communication strategies toward foreigners to improve communication, which at the moment is not yet optimal. This “cross-cultural” communication is the new post-modern focus that leads one’s national culture to blend into a vast multicultural communication mosaic. By analyzing the intercultural phenomenon, the aim here is to define its scope within new dimensions of citizen action offered to the social stakeholder. From different angles, we shall look at the extent to which this communication framework brings new magnitude to citizen expression. In this socially driven seminar, throughout the semester we will discuss intercultural issues under different topics that will spark the student’s interest to enrich personal notions on the qualities of an intercultural relationship, its necessity, or even its inopportune nature.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：Introduction – remise du sujet et méthodologie de la production écrite
- 2 回：Analyse du regard de l'autre sur soi : le choc culturel France/Japon
- 3 回：L'interculturalité dans les médias
- 4 回：L'interculturalité dans les manuels scolaires
- 5 回：L'interculturalité dans le cinéma
- 6 回：L'interculturalité dans la francophonie (1) : les institutions
- 7 回：L'interculturalité dans la francophonie (2) : la littérature francophone
- 8 回：Économie et interculturalité : comparaison France/Japon dans l'organisation du travail
- 9 回：Les religions comme producteurs de modèles interculturels (1)
- 10 回：Les religions comme producteurs de modèles interculturels (2)
- 11 回：La question interculturelle en anthropologie et en sociologie
- 12 回：Anthropologie de l'interculturalité
- 13 回：Sociologie de l'interculturalité
- 14 回：Conclusion – remise des productions écrites

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド* (パワポ等) の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

La préparation pour la séance suivante sera précisée à la fin de chaque séance.

毎回の授業で指示する。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：002) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Participation 授業への参加度:60%

最終レポート割合 :40%

テキスト / Textbooks

Des documents seront distribués en classe.

参考文献 / Readings

Des ouvrages de référence seront indiqués en fonction des besoins.

その他/ Others

Un feed-back sera effectué au cours de la séance suivante.

授業時に前回授業のフィードバックをする。

注意事項

受講には DELF B1、実用フランス語技能検定試験 2 級以上のレベルが必要。なお、この科目は、当該言語の非母語話者を対象としている。

スペイン語Lecture A

Lecture in Spanish A

ガジェゴ, E. (GALLEGO Z. EMILIO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 異文化コミュニケーション学部
科目コード等： DM155
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： ICC3622
使用言語： その他
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

El objetivo de este curso es poner en práctica el español aprendido en los cursos anteriores para establecer una comunicación fluida y lógica sobre noticias de actualidad y diversos aspectos de la cultura japonesa. También será una parte importante de est

The aim of this course is to practice the Spanish learned in previous years to develop fluent and coherent communication in relation to the news and various aspects of Japanese culture. Increasing vocabulary to improve communicative ability will also be an important part of this course. The goal is to equip students with the necessary tools to progress in Spanish on their own and to achieve level 3or 2 of the Official Assessment of Knowledge of the Spanish Language.

授業の内容 / Course Contents

Uso de artículos de opinión, noticias de televisión y periódico, mangas en español, ensayos y extractos literarios para leer en clase y debatir sobre los contenidos de los mismos. Aunque el enfoque principal es la comunicación, también profundizaremos pun

Using opinion articles, newspapers, TV news and comics in Spanish, essays and literary extracts to read and

discuss in class. Although the primary focus is communication, we will also occasionally look into higher level grammar.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：Orientación / Texto de opinión actual
- 2 回：Noticias: Deportes
- 3 回：Noticias: Sociedad
- 4 回：Noticias: Nacional
- 5 回：Ensayo: Patente de Corso (Reverte) (1)
- 6 回：Ensayo: Patente de Corso (Reverte) (2)
- 7 回：Ensayo: Patente de Corso (Reverte) (3)
- 8 回：Presentaciones individuales y debate
- 9 回：Novela (1): Español literario antiguo
- 10 回：Novela (2): Español literario moderno
- 11 回：Manga (1): Costumbres japonesas en español
- 12 回：Manga (2): Conversaciones cotidianas
- 13 回：La España actual: Video sobre la España actual y debate
- 14 回：Presentaciones individuales

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワーポイント等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

Los estudiantes deberán tener información sobre noticias de actualidad. También se les pedirá que propongan temas de debate y aporten sus propios artículos de prensa.

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Participación en clase 授業参加:30% Presentación intermedia 中間発表:30%

Presentación final 最終発表:40%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

一通り、スペイン語の基礎文法の勉強をしていること。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

必須ではないのですが、パソコンやタブレットがあれば、よりスムーズに履修ができます。

その他 / Others

<http://www.rtve.es/>

<http://elpais.com/>

<http://www.elmundo.es/>

<http://www.elconfidencial.com>

<http://www.elconfidencialdigital.com>

<https://www.zendalibros.com/tag/patente-de-corso/>

スペイン語技能検定 3～2 級程度のレベルの学生を対象とする。

注意事項

受講にはスペイン語技能検定 2 級または 3 級を取得しているレベルが必要。なお、この科目は、当該言語の非母語話者を対象としている。

スペイン語Lecture B

Lecture in Spanish B

ラマドリッド (LAMADRID MARCELA)

開講年度： 2024
科目設置学部： 異文化コミュニケーション学部
科目コード等： DM156
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： ICC3622
使用言語： その他
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

Reforzar la capacidad práctica y ampliar los conocimientos de vocabulario y de expresión oral y escrita del español, y además conocer diferentes aspectos de la cultura hispanohablante en Japón, latinoamericana y España para que los alumnos que tengan un G

The aim of this course is to consolidate practical skills and to broaden knowledge of vocabulary and oral and written expression in Spanish. It also aims to learn about different aspects of the Spanish-speaking culture in Japan, Latin America and Spain, so that students with Grade 3 or 2 in reading of the Official Assessment of Knowledge of the Spanish Language, can progress further in their study.

授業の内容 / Course Contents

Leeremos textos, veremos vídeos y escucharemos música. Los temas que tratemos en la clase estarán relacionados a los hispanohablantes viviendo en Japón y a diferentes aspectos de la cultura hispanohablante. Estudiaremos también gramática y expresiones, y

We will read texts, watch videos and listen to music. The topics discussed in the class will relate to Spanish speakers living in Japan and to different aspects of Spanish speaking countries. We will also study grammar and

expressions, and students will write summaries and explain what they are learning in class. Sometimes, students will prepare a presentation for the class.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：Orientación de la clase
- 2 回：Los medios de comunicación como revistas, programas por internet y eventos en español que hay en Japón
- 3 回：Los descendientes de japoneses que hablan español en Japón, sus actividades laborales y necesidades educativas
- 4 回：Los descendientes de japoneses en Latinoamérica, la historia de cómo llegaron a Latinoamérica, la vida y la organización social que en la actualidad tienen
- 5 回：El interés por la cultura japonesa en Latinoamérica, la cultura pop japonesa en países hispanohablantes y la imagen de Japón en Latinoamérica y España
- 6 回：La relación social y política entre Japón y los países hispanohablantes
- 7 回：Presentación de varios temas de los alumnos
- 8 回：Entrevistas a residentes hispanohablantes en Japón
- 9 回：Cómo los hispanohablantes que viven en Japón enfrentan el reto de aprender japonés
- 10 回：Cómo las familias enfrentan el reto de hacer que sus hijos hablen español y japonés desde edades tempranas
- 11 回：Empresas japonesas en el mundo del español
- 12 回：Obras literarias más destacadas en el mundo del español
- 13 回：Preparación para el examen final, elección de temas de interés, redacción y elaboración de una presentación
- 14 回：Test final

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド* (パワポ* 等) の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：	○	
個人発表	：	○	グループ発表	：	○	ディスカッション・ディベート	：	○
実技・実習・実験	：	○	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：	
上記いずれも用いない予定	：							

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

Se requiere que los estudiantes investiguen por internet o en la biblioteca sobre temas relacionados a la clase. En cada clase se les explicará las tareas o deberes que tengan que hacer.

成績評価方法・基準(成績評価方法区分：002) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Test final 最終テスト:40% Participación en clase 授業への参加度:60%

テキスト / Textbooks

Se repartirán copias, además cada alumno elaborará su propio material.

参考文献 / Readings

En clase se les explicará.

その他 / Others

スペイン語技能検定 3~2 級程度のレベルの学生を対象とする。

注意事項

受講にはスペイン語技能検定2級または3級を取得しているレベルが必要。なお、この科目は、当該言語の非母語話者を対象としている。

中国語Lecture A

Lecture in Chinese A

王 晓音 (WANG XIAOYIN)

開講年度： 2024

科目設置学部： 異文化コミュニケーション学部

科目コード等： DM157

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： ICC3622

使用言語： その他

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 抽選登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

这门课程旨在从多元文化视角加深对当代中国社会的了解，培养辩证和灵活的思维方式理解分析中国社会的相关课题以及与其他社会的关系。

This lecture aims to develop a further understanding of contemporary Chinese society from a multicultural perspective. Students are expected to cultivate a dialectical and flexible thinking to comprehend and analyze relevant issues in Chinese society and its relationship with other societies.

授業の内容 / Course Contents

这门课程从时间、空间、民族、人口与意识形态等多个方面解读当代中国社会的特点，比较中日社会的异同。通过阅读文字资料、观看影像资料，加深对相关课题的理解。在此之上，通过课堂讨论、发表、辩论等多种形式，培养学生发现问题及解决问题的能力。在中期末未设置有 2 次个人口头发表，用以验证对所学知识的掌握程度以及提供新观点的能力。

This lecture interprets the characteristics of contemporary Chinese society from various angles, including time, space, ethnicity, population, and ideology. It also compares the similarities and differences between Chinese and Japanese societies. Through reading written materials and watching visual resources, students will deepen their

understanding of relevant topics. Furthermore, a variety of methods such as discussions, presentations, and debates will be employed to cultivate the ability to discover and solve relevant issues. In order to assess the mastery of acquired knowledge and the ability to present new perspectives, there will be two individual oral presentations in the middle and at the end of the semester.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：<schinese>时</schinese>代与<schinese>发</schinese>展①
- 2 回：<schinese>时</schinese>代与<schinese>发</schinese>展②
- 3 回：<schinese>乡</schinese>土与地区①
- 4 回：<schinese>乡</schinese>土与地区②
- 5 回：民族与社会①
- 6 回：民族与社会②
- 7 回：期中口<schinese>头发</schinese>表
- 8 回：人口与流<schinese>动</schinese>①
- 9 回：人口与流<schinese>动</schinese>②
- 10 回：民族主<schinese>义</schinese>与自我<schinese>认</schinese>同①
- 11 回：民族主<schinese>义</schinese>与自我<schinese>认</schinese>同②
- 12 回：国<schinese>际视</schinese>角下的中国①
- 13 回：国<schinese>际视</schinese>角下的中国②
- 14 回：期末口<schinese>头发</schinese>表

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワーポイント等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

根据授课情况指定复习和预习内容。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 课堂参与度 授業への参加度:10% 小组合作・作业 グループワーク・課題:30% 期中・期末口头发表 中間・期末口頭発表:30% 期中・期末书面报告 中間・期末レポート:30%

テキスト / Textbooks

上课时发放讲义。

参考文献 / Readings

上课时另行通知。

その他 / Others

- ・ 课堂注重不同成员之间的多向交流与互动，通过相互启迪的方式，从多元视角加深对相关课题的理解。
- ・ 在双人合作和小组合作中，采取讨论、发表、辩论等多样形式，培养学生发现问题的能力，拓宽解决问题的思路。
- ・ 或根据实际情况调整授课内容。

注意事項

本科目は、中国語検定試験 2 級合格以上, あるいは HSK 5 級、6 級 180 点以上のレベルにある中国語学習者が履修することを想定した科目である。中国語母語話者は、本科目が中国語の運用能力の向上を主な目的とした科目であることを理解した上で、履修申込すること。

中国語Lecture B

Lecture in Chinese B

王 晓音 (WANG XIAOYIN)

開講年度： 2024
科目設置学部： 異文化コミュニケーション学部
科目コード等： DM158
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： ICC3622
使用言語： その他
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 抽選登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

这门课程旨在从多元文化视角加深对中国文化的了解，培养学生辩证和灵活的思维方式理解分析中国文化的相关课题以及与其他文化的关联。

This lecture aims to further understanding of Chinese culture from a multicultural perspective. Students are expected to cultivate a dialectical and flexible thinking to comprehend and analyze relevant issues in Chinese culture and its connections with other cultures.

授業の内容 / Course Contents

这门课程从文明形态、宗教、文学、传统文化与流行文化等多个方面解读中国文化的特点，比较中日文化的异同，对于多元文化主义和多元自然主义形成初步认知。通过阅读文字资料、观看影像资料，加深对相关课题的理解。在此之上，通过课堂讨论、发表、辩论等多样形式，培养学生发现问题及解决问题的能力。在期中期末设置有 2 次个人口头发表，用以验证对所学知识的掌握程度以及提供新观点的能力。

This lecture interprets the characteristics of Chinese culture from various perspectives, including forms of civilization, religion, literature, traditional culture, and popular culture. It also compares the similarities and differences between Chinese and Japanese cultures and forms a fundamental understanding of multiculturalism

and multinaturalism. Through reading written materials and watching visual resources, students will deepen their understanding of relevant topics. Furthermore, a variety of methods such as discussions, presentations, and debates will be employed to cultivate students' ability to discover and solve issues. In order to assess the mastery of acquired knowledge and the ability to present new perspectives, there will be two individual oral presentations in the middle and at the end of the semester.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：农耕文明与草原文明①
- 2 回：农耕文明与草原文明②
- 3 回：文字与图腾①
- 4 回：文字与图腾②
- 5 回：宗教与文学①
- 6 回：宗教与文学②
- 7 回：期中口头发表
- 8 回：传统文化①
- 9 回：传统文化②
- 10 回：流行文化①
- 11 回：流行文化②
- 12 回：多元文化主义
- 13 回：多元自然主义
- 14 回：期末口头发表

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワーポイント等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

根据授课情况指定复习和预习内容。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 课堂参与度 授業への参加度:10% 小组合作・作业 グループワーク・課題:30% 期中・期末口头发表 中間・期末口頭発表:30% 期中・期末书面报告 中間・期末レポート:30%

テキスト / Textbooks

上课时发放讲义。

参考文献 / Readings

上课时另行通知。

その他 / Others

- ・ 课堂注重不同成员之间的多向交流与互动，通过相互启迪的方式，从多元视角加深对相关课题的理解。
- ・ 在双人合作和小组合作中，采取讨论、发表、辩论等多样形式，培养学生发现问题的能力，拓宽解决问题的思路。
- ・ 或根据实际情况调整授课内容。

注意事項

本科目は、中国語検定試験 2 級合格以上, あるいは HSK 5 級、6 級 180 点以上のレベルにある中国語学習者が履修することを想定した科目である。中国語母語話者は、本科目が中国語の運用能力の向上を主な目的とした科目であることを理解した上で、履修申込すること。

朝鮮語 Lecture A

Lecture in Korean A

李 在鎬 (LEE JAE HO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 異文化コミュニケーション学部

科目コード等： DM159

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： ICC3622

使用言語： その他

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 抽選登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

本 수업은 한국어능력시험 4 급 이상의 수준으로 한국어 운용 능력이 있는 학생을 대상으로 하여 높은

수준의 한국어 구사 능력과 한반도 정세에 관한 관심을 키우는 것을 목표로 한다.

This class is for students with the appropriate level of Korean language proficiency of Level 4 or higher on the Test of Proficiency in Korean (TOPIK). The goal of the class is to increase Korean language skills to advanced levels and to raise interest in the situation on the Korean Peninsula.

授業の内容 / Course Contents

本 수업에서는 다양한 문헌 자료들을 통해 한국의 역사, 사회, 문화적인 면에 대해 살펴봄과 동시에 비판적

사고와 토론 능력을 키워 나가고자 한다.

This class provides opportunities to look into the Korean history, society, and cultural aspects through the various

literature, and to develop critical thinking and debating skills.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回： 수업 계획 확정
- 2回： 강의: 근대 조선의 역사
- 3回： 근대 조선의 역사에 관한 발표와 토론 1
- 4回： 근대 조선의 역사에 관한 발표와 토론 2
- 5回： 강의: 식민지 지배의 역사
- 6回： 식민지 지배의 역사에 관한 발표와 토론 1
- 7回： 식민지 지배의 역사에 관한 발표와 토론 2
- 8回： 강의: 해방 후 한반도의 역사
- 9回： 해방 후 한반도의 역사에 관한 발표와 토론 1
- 10回： 해방 후 한반도의 역사에 관한 발표와 토론 2
- 11回： 강의: 한국전쟁과 평화
- 12回： 한국전쟁과 평화에 관한 발표와 토론 1
- 13回： 한국전쟁과 평화에 관한 발표와 토론 2
- 14回： 전체 정리 및 마무리

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド (パワポ等) の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

수업 시 제시

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：002) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 발표 (発表) :40% 수업·토론 참여도 (授業・討論への参加度) :30% 과제 제출 (課題提出) :30%

テキスト / Textbooks

수업 시 제시

参考文献 / Readings

수업 시 제시

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

受講には韓国語能力試験 (TOPIK) 4級以上のレベルが必要

注意事項

本科目は、受講には韓国語能力試験 (TOPIK) 4級以上のレベルにある朝鮮語学習者が履修することを想定した科目である。朝鮮語母語話者は、本科目が朝鮮語の運用能力向上を主な目的とした科目であることを理解した上で、履修申込すること。

朝鮮語 Lecture B

Lecture in Korean B

李 在鎬 (LEE JAE HO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 異文化コミュニケーション学部

科目コード等： DM160

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： ICC3622

使用言語： その他

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 抽選登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

本 수업은 한국어능력시험 4 급 이상의 수준으로 한국어 운용 능력이 있는 학생을 대상으로 하여 높은

수준의 한국어 구사 능력과 한반도 정세에 관한 관심을 키우는 것을 목표로 한다.

This class is for students with the appropriate level of Korean language proficiency of Level 4 or higher on the Test of Proficiency in Korean (TOPIK). The goal of the class is to increase Korean language skills to advanced levels and to raise interest in the situation on the Korean Peninsula.

授業の内容 / Course Contents

本 수업에서는 다양한 문헌 자료들을 통해 한국의 역사, 사회, 문화적인 면에 대해 살펴봄과 동시에 비판적

사고와 토론 능력을 키워 나가고자 한다.

This class provides opportunities to look into the Korean history, society, and cultural aspects through the various

literature, and to develop critical thinking and debating skills.

授業計画(授業計画数 : 14) / Course Schedule

- 1 회 : 수업 계획 확정
- 2 회 : 강의: 한국 시민사회의 성장
- 3 회 : 한국 시민사회에 관한 발표와 토론 1
- 4 회 : 한국 시민사회에 관한 발표와 토론 2
- 5 회 : 강의: 다문화사회와 한국 시민의 대응
- 6 회 : 다문화사회와 한국 시민의 대응에 관한 발표와 토론 1
- 7 회 : 다문화사회와 한국 시민의 대응에 관한 발표와 토론 2
- 8 회 : 강의: 한국 여성의 권리와 현실
- 9 회 : 한국 여성의 권리와 현실에 관한 발표와 토론 1
- 10 회 : 한국 여성의 권리와 현실에 관한 발표와 토론 2
- 11 회 : 강의: 한국사회와 인권
- 12 회 : 한국사회와 인권에 관한 발표와 토론 1
- 13 회 : 한국사회와 인권에 관한 발표와 토론 2
- 14 회 : 전체 정리 및 마무리

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	: ○	スライド (パワポ等) の使用	: ○	上記以外の視聴覚教材の使用	: ○
個人発表	: ○	グループ発表	: ○	ディスカッション・ディベート	: ○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:				

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

수업 시 제시

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分 : 002) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 발표 (発表) :40% 수업·토론 참여도 (授業・討論への参加度) :30% 과제 제출 (課題提出) :30%

テキスト / Textbooks

수업 시 제시

参考文献 / Readings

수업 시 제시

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

受講には韓国語能力試験 (TOPIK) 4級以上のレベルが必要

注意事項

本科目は、受講には韓国語能力試験 (TOPIK) 4級以上のレベルにある朝鮮語学習者が履修することを想定した科目である。朝鮮語母語話者は、本科目が朝鮮語の運用能力向上を主な目的とした科目であることを理解した上で、履修申込すること。

日本語コミュニケーションA

Japanese Communication A

平山 紫帆 (HIRAYAMA SHIHO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 異文化コミュニケーション学部
科目コード等： DM161
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： ICC1620
使用言語： 日本語
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 備考参照
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考： 外国人留学生入試による入学者・9月入学者（日本語コース）・NEXUS プログラム生・PEACE プログラム生：自動登録，その他の学生：「その他」登録

授業の目標 / Course Objectives

大学生活において「相手の話を理解する」、「自分の意見を明確に伝える」ために必要な日本語能力を身につけることを目的とする。具体的には、短時間にリアクションペーパーがまとめられるようになること、新書の内容を理解し、要点を簡潔にまとめて発表できるようになること、論理的なレポートが書けるようになることを目標とする。

The goal of this course is to help students master the Japanese proficiency required to understand what others are saying and to clearly communicate their own views in university life. Students will learn various strategies to use to understand what others are trying to say. They will also learn what they need to understand in order to clearly express their views without creating misunderstandings, and how to put that knowledge into practice.

授業の内容 / Course Contents

メールの書き方，簡潔なレジюмеやリアクションペーパーのまとめ方，わかりやすいプレゼンテーションの仕方など，大学生活で求められる日本語コミュニケーションスキルを扱う。また，論理的なレポート作成のために必要なスキルを実践的に学んでいく。授業では，「読む・書く・話す・聞く」を扱うが，特に「書く」および

「読む」に焦点を当てて授業を進める。基本的な内容を説明する際には、講義も行うが、主としては参加者が積極的に課題に取り組む形で進めるため、積極的な参加態度が求められる。

This course improves students' Japanese communication skills required in university life, such as how to write e-mails, how to compose handouts and reaction papers, and how to make clear presentations. Students will also learn practical skills necessary for writing logical reports. The class will cover "reading, writing, speaking, and listening," with a particular focus on "writing" and "reading." Although lectures will be given to explain the basic contents, the class will mainly proceed in the form of assignments in which participants will actively work, so active participation is required.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：オリエンテーション、リアクションペーパーとは、リアクションペーパー①
- 2回：ノート・テーキング、レジユメの書き方、リアクションペーパー②
- 3回：レポートとは、ミニプレゼン①、リアクションペーパー③
- 4回：読解1、メールの書き方、ミニプレゼン②、リアクションペーパー④
- 5回：読解2、レポートの書き方①、ミニプレゼン③、リアクションペーパー⑤
- 6回：レポートの書き方②、ミニプレゼン④、リアクションペーパー⑥
- 7回：レポートの書き方③、ミニプレゼン⑤、リアクションペーパー⑦
- 8回：レポートの書き方④、ミニプレゼン⑥、リアクションペーパー⑧
- 9回：レポートの書き方⑤、ミニプレゼン⑦、リアクションペーパー⑨
- 10回：レポートの書き方⑥、ミニプレゼン⑧、リアクションペーパー⑩
- 11回：プレゼンの方法、PPTの作り方、ミニプレゼン⑨、リアクションペーパー⑪
- 12回：プレゼン1、リアクションペーパー⑫
- 13回：プレゼン2、リアクションペーパー⑬
- 14回：プレゼン3、レポートフィードバック 振り返り

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

毎回の授業で指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業への参加度:30% 課題:30% プレゼンテーション:20% レポート:20%

テキスト / Textbooks

必要なものは教室で指示する

参考文献 / Readings

適宜 指示する

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

この授業は、ディスカッション、ミニプレゼンテーションなどを頻繁に取り入れて実施するので、積極的に参加すること。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

授業や課題提出にPCまたはタブレット端末を使用する可能性がある。

その他/ Others

各課題や、授業ないプレゼンテーションなどについては、次回の授業でフィードバックを行う。スケジュールや内容は調整する場合がある。

日本語コミュニケーションB

Japanese Communication B

平山 紫帆 (HIRAYAMA SHIHO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 異文化コミュニケーション学部
科目コード等： DM162
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： ICC1620
使用言語： 日本語
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 備考参照
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考： 外国人留学生入試による入学者・9月入学者（日本語コース）・NEXUS プログラム生・PEACE プログラム生：自動登録，その他の学生：「その他」登録

授業の目標 / Course Objectives

大学生活で求められる日本語能力を身につけることを目標とする。基本的には、「相手の話をきちんと理解する」、「自分の意見を的確に相手に伝えることができる」ために必要な日本語コミュニケーション能力を身につけ、それを使ってコミュニケーションができることを目的とする。具体的には、短時間にリアクションペーパーがまとめられるようになること、論理的なレポートが書けること、および主張が明確なプレゼンテーションができるようになることを目標とする。

The goal of this course is for students to master the Japanese language skills required for university life. In essence, the course serves to enable students to learn and use the Japanese communication skills required to accurately understand what other people are saying and to effectively communicate their views to other people.

授業の内容 / Course Contents

読解、プレゼンテーション、レポート作成など、実際の大学生活で求められる課題を参加者が実際に行うことを通して、その能力を身につけていく。長い文章からどのように必要な情報を取り出し、それをレポートにまとめるのか、相手に効果的にメッセージを伝えるプレゼンテーションとはどのようなものかなどを、実践を通

して学んでいくため、参加者の積極的な姿勢が強く求められる。

Students will master these skills through reading comprehension, debating, creating presentations and reports and by doing other tasks required of them during their time in university. Students will need positive attitudes and be willing to participate in order to learn by practicing things such as how to extract important information from long sentences and summarize that information in reports, and how to create presentations that effectively deliver their messages to their audience.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：オリエンテーション、リアクションペーパー①
- 2回：プレゼン①の準備、リアクションペーパー②
- 3回：プレゼン①、リアクションペーパー③
- 4回：読解、リアクションペーパー④
- 5回：レポートの書き方①、リアクションペーパー⑤
- 6回：レポートの書き方②、リアクションペーパー⑥
- 7回：レポートの書き方③、リアクションペーパー⑦
- 8回：レポートの書き方④、リアクションペーパー⑧
- 9回：レポートの書き方⑤、リアクションペーパー⑨
- 10回：レポートの検討、プレゼンの方法、リアクションペーパー⑩
- 11回：プレゼン②、リアクションペーパー⑪
- 12回：プレゼン②、リアクションペーパー⑫
- 13回：プレゼン②、リアクションペーパー⑬
- 14回：プレゼン②、フィードバック、学期のまとめと振り返り

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

適宜 授業で指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業への参加度:30% 課題:30% プレゼンテーション:20% レポート:20%

テキスト / Textbooks

必要なものは教室で伝える

参考文献 / Readings

適宜 授業で指示する

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

この授業は、プレゼンテーションやディスカッションを積極的に取り入れて行うため、主体的な参加態度を求める。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

授業や課題提出にPCまたはタブレット端末を使用する可能性がある。

その他/ Others

授業内プレゼンや各課題へのフィードバックは次回の授業で実施する。スケジュールや内容は調整する場合がある。

諸言語特別演習 A

Communication Seminar (Intensive) A

アラビア語入門 (Introduction to Arabic)

富永 正人 (TOMINAGA MASATO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 異文化コミュニケーション学部

科目コード等： DM163

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： ICC1623

使用言語： その他

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 抽選登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： アラビア語

授業の目標 / Course Objectives

- アラビア語で自己紹介ができる。
 - アラビア文字を読み、書くことができる。
 - アラブ文化に関心を持つ。
- You can introduce yourself in Arabic.
 - You can read and write Arabic letters.
 - I hope you become more interested in Arab culture.

授業の内容 / Course Contents

日本では「マイナー言語」とされるアラビア語ですが、世界に目を広げれば、6つしかない国連公用語の一角を占める非常に重要な言語です。また、中東から北アフリカにかけて広がる 20 カ国以上の公用語で、話者人口は 3 億人以上とされています。さらに、19 億人を超えるイスラーム教徒の聖典クルアーンの言語でもあります。世界中のムスリムたちは、母語のいかんにかかわらず、アラビア語でクルアーンを読誦し、毎日の祈りを捧げているのです。この講義は、そのような未知の世界への扉を開くための入門講座です。

毎回の授業は、①「聞く・話

Arabic is regarded as 'a minor language' in Japan, yet it is one of the six official languages of the United Nations, and it is the official language of over twenty countries in the Middle East and North Africa. In addition, Arabic is the religious language of more than 1.9 billion Muslims all over the world who read Islam's holy "al-Quran" and pray in Arabic regardless of their mother tongues. Learning Arabic will provide you with the important key to open the door to this world.

We will learn very basic expressions in Modern Standard Arabic through speaking, reading, writing and listening activities. Learning of some aspects of Arab culture will be integrated with learning the language, too.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：【話す】「こんにちは」
【文化】アラビア語ってどんな言語？
- 2回：【話す】「ご機嫌いかが？」
【文化】アラビア語のアルファベット
- 3回：【話す】「あなたのお名前は？」
【文化】アラブ人の名前
- 4回：【話す】「サラーム」
【文化】アラビア語の日本地図
- 5回：【話す】「～の出身です」
【文化】アラブ世界の地図
- 6回：【話す】「～に住んでいます」
【文化】アラブの街並み
- 7回：【話す】「～ヶ国語を話します」
【文化】アラビア数字とインド数字
- 8回：【話す】「誕生日は～です」
【文化】アラビア語の月名と暦
- 9回：【話す】「～を勉強しています」
【文化】モスク建築と装飾
- 10回：【話す】「～が好きです」
【文化】珈琲と紅茶とアラビア語
- 11回：【話す】「これは～です」
【文化】アラブ料理
- 12回：【話す】「～は～語でどう言いますか」
【文化】イエスの歩いたパレスチナ
- 13回：【話す】アラビア語で自己紹介
【文化】立教大学とパウロとダマスカス
- 14回：到達度確認テスト

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：	○
個人発表	：	グループ発表	：	○	ディスカッション・ディベート	：	○
実技・実習・実験	：	○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：	

上記いずれも用いない予定 :

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

週1回の授業に出席するだけでは、アラビア文字の読み書きは決して身につけません。授業で学ぶダイアログは、教室外でも定期的に音声を聞いて、一緒に音読したり、書き写したりして、着実に身につけていきましょう。事情があって授業を欠席してしまった場合は、Canvas LMS などを通じて必ず自習をして、翌週の授業に臨んでください。

授業開始当初は不思議な線と点にしか見えなかったアラビア文字も、練習を重ねていけば、必ずや書いたり読んだりできるようになります。世界各地のモスクやスペインのアルハンブラ宮殿を彩る美しいア

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 音読テスト:20% 毎回の授業への取り組み:10% 最終レポート割合 :30% 最終テスト割合 :40%

テキスト / Textbooks

市販の教科書は使用せず、授業中や Canvas LMS 上で資料を配布します。

参考文献 / Readings

竹田敏之 『ニューエクスプレスプラス アラビア語』 白水社 2019 9784560088609

大隼エヴァ・ハッサン 『日からはじめるみんなのアラビア語』 白水社 2023 9784560089705

1. 慶應義塾大学 SFC アラビア語研究室「アラビア文字の読み方・書き方」

https://arabic.sfc.keio.ac.jp/?page_id=631

2. Aljazeera Learning Arabic

<https://learning.aljazeera.net/en/generallanguage/level/beginner>

諸言語特別演習 B

Communication Seminar (Intensive) B

マレーシア語

戸加里 康子 (TOGARI YASUKO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 異文化コミュニケーション学部

科目コード等： DM164

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項） 対面

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： ICC1623

使用言語： その他

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 抽選登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： マレーシア語

授業の目標 / Course Objectives

マレーシア語の基本的な力を身につける。基本となる単語を覚え、さらに現地の人とマレーシア語で簡単な会話や自己紹介ができるレベルになることが目標である。

The purpose of this course is to acquire basic Malay language (Bahasa Malaysia) ability, to learn the basic vocabulary, and to reach a level sufficient to carry out a simple conversation or self-introduction in Malay.

授業の内容 / Course Contents

マレーシア語を初めて学ぶ人のための入門コース。基本的なフレーズを繰り返し練習し、マレーシア語の基本的な会話を身につけていく。またマレーシアに関するビデオなどを見て、マレーシアの社会や文化についても学ぶ。

This is an introductory course for people learning the Malay language for the first time. Students will practice basic phrases and gradually gain the ability to speak the language. Students will also learn about Malaysian society and culture through activities such as watching videos related to Malaysia.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1回：発音とあいさつ：

マレーシア語のアルファベットの綴り方、発音の仕方を学習する。「お元気ですか?」「こんにちは」など基本的な挨拶を学習する。

2回：基本構文①「これは本です」：

最も基本的な名詞＋名詞構文と、その否定文、疑問文の作り方を学習する。

3回：基本構文②「このカレーは辛い」：

名詞＋形容詞構文、名詞＋動詞構文と、その否定文、疑問文の作り方を学習する。

4回：前置詞句：

di (～で)、ke (～へ)、dari (～から) などの前置詞を使った構文を学習する。

5回：いくらですか?：

疑問詞 berapa (いくつ、いくら) を使った構文と、数字の言い方などを学習する。

6回：数の数え方：

前回に続いて数字の言い方や、様々な数を使った表現を学習する。

7回：～へ行きたい：

「～したい」という言い方や、その他の助動詞の使い方を学習する。

8回：どうやって?：

疑問詞 bagaimana (どうやって、どのように) を使った構文と答え方を学習する。

9回：名前は何かですか?：

疑問詞 siapa (誰)、apa (何) を使った構文と答え方を学習する。

10回：～しましょう (勧誘と依頼の表現)：

mari (～しましょう) を使って、相手に何かするよう勧誘する表現を学習する。 tolong (～してください) を使った依頼の表現と、tolong jangan (～しないでください) という柔らかな禁止の表現を学習する。

11回：～してください (勧誘の表現) / ～してもいいですか (依頼・許可の表現)：

sila (～してください) を使った勧誘の表現を学習する。また、可能や許可を表す boleh を使った疑問文の作り方を学習し、丁寧な依頼文が言えるようにする。

12回：感嘆の表現：

形容詞の後に -nya をつける感嘆文の作り方を学習する。また、程度を表す副詞を使った表現を学習する。

13回：比較の表現：

「AはBよりも～である」「Aは最も～である」などの比較の表現を学習する。

14回：最終テスト：

学習の到達度を確認するために、最終テストを行い、授業を総括する。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド (パワポ等) の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外の学習に関する指示は必要に応じて別途指示する。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：002) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 出席及び授業参加度:30% 複数回の課題:30%

最終テスト割合：:40%

単位取得のためには、75%以上の出席を必要とする。

テキスト/Textbooks

授業内に配布する。

参考文献 / Readings

戸加里 康子 『旅の指さし会話帳〈15〉マレーシア 第二版』 情報センター出版局 2010 4795841934

Japan Studies Program A

Japan Studies Program A

Media and Contemporary Japan

レナト, R. (RENATO RUSCA RIVERA)

開講年度： 2024

科目設置学部： 異文化コミュニケーション学部

科目コード等： DM165

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 4

科目ナンバリング： ICC2621

使用言語： 英語

授業形式： 講義

履修登録方法： 抽選登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

This course is designed to invoke in-depth discussions from a variety of perspectives -- in particular through popular media -- about the current standing that Japan has in the world, during what appears to be a major pivot point in the country's modern history.

授業の内容 / Course Contents

The Cool Japan Policy and the Tokyo 2020 Olympics have been used as a prominent motivational goal in national policies involving a wide range of industries and organizations, shifting Japan's traditional and popular culture – as well as its various subcultures – into the global mainstream consciousness. Later its postponement and the subsequent policies tackling the coronavirus pandemic added to the international spotlight on Japanese idiosyncrasies. What are the major points of discourse arising from this situation, and what are the key socioeconomic, sociocultural and political factors governing these discussions? Through observation of a broad range of topics we will attempt to engage with these questions and approach a wider understanding of the issues at hand.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：Introduction: Constructed Images of Japan
 2 回：The “Cool Japan” Policy
 3 回：“Japonisme” versus “Cool Japan”
 4 回：“Japaneseness” versus Universality in Global Media
 5 回：Post-war Japanese popular culture and society
 6 回：Anime and Tezuka
 7 回：1960s Student uprisings
 8 回：The “Otaku”: domestic and global perspectives
 9 回：1970s-80s: The Anime Boom
 10 回：The state of the Japanese animation industry
 11 回：Regional revitalization and anime policies
 12 回：The “globalization” of Japanese pop
 13 回：Overseas discourse: Whitewashing/Yellowface/Cultural Appropriation
 14 回：Final Discussion: Japan today

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：○
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

The students are encouraged to research each topic and form opinions about each topic in advance, in order to facilitate an atmosphere conducive to a multifaceted discussion.

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 出席および参加度:30% 課題・宿題:40% 最終レポート割合：:30%

テキスト / Textbooks

Some materials will be provided in class, but the students will also be expected to research their own sources.

参考文献 / Readings

Some materials will be provided in class, but the students will also be expected to research their own sources.

その他 / Others

Field trips are provisionally planned for the following Saturdays: 10/12, 10/26, 11/30, 12/14. However, this scheduling is subject to change depending on circumstances.

Japan Studies Program B

Japan Studies Program B

立教大学所蔵資料（史料）にみる市民活動と歴史実践

青木 敦子 (AOKI ATSUKO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 異文化コミュニケーション学部

科目コード等： DM166

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： ICC2623

使用言語： その他

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

日本近現代史に関する一次資料や調査データを収集・分析し、クラス内だけでなく外の人びとと共有可能な資料体として提示できるようになること、そしてこの活動を通じて実証的な歴史認識を獲得できるようになることを目指す。

This course is designed to help students acquire the following skills: to collect and analyze primary sources and research data on modern Japanese history, to be able to present them as a body of material that can be shared within the class and beyond, and to acquire empirical historical awareness.

授業の内容 / Course Contents

今年度は立教大学共生社会研究センター所蔵の一次資料を活用し、書き起こし、資料の書き手を理解するための歴史的背景の考察、分析などを行い、その成果をグループまたは個人で発表する。これらの活動を通じて、日本の近現代史のさまざまな側面、特に市民の社会活動の歴史とそれにかかわった人々の経験への理解を深める。

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：歴史史料とは何か
- 3回：「歴史実践」とは
- 4回：資料 1-1 フィールドノート：異文化を記録する
- 5回：資料 1-2 資料の背景についてのグループ発表
- 6回：資料 1-3 書き起こしについて
- 7回：資料 1-4 発表とディスカッション
- 8回：中間ふりかえり：記録と記憶
- 9回：資料 2-1 小学生の作文・日記：読み手を意識したエゴドキュメント
- 10回：資料 2-2 資料の背景についてのグループ発表
- 11回：資料 2-3 書き起こし
- 12回：資料 2-4 発表とディスカッション
- 13回：史資料の情報発信と共有について
- 14回：学期末まとめ・総括

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：○	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業準備として、指定された教材に目を通し、関連事項についてリサーチを行っておく。授業後は必ず復習を行い、学習内容の定着を図ること。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業参加度（ディスカッション含む）：20% 発表（個人・グループ、プレゼン・サイト）：80%

単位修得の条件として、1学期の授業の80%以上の出席が求められます。

テキスト / Textbooks

一覧を初回授業で配布します。

参考文献 / Readings

一覧を初回授業で配布します。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

自分のノートパソコンまたはタブレット（キーボードつき）、または大学貸出のものを持参してください。

その他 / Others

立教大学共生社会研究センター Rikkyo Research Center for Cooperative Civil Societies

<https://www.rikkyo.ac.jp/research/institute/rcccs/>

Japan Studies Program C

Japan Studies Program C

非言語コミュニケーション論+芸能異文化比較論

～「生きる力」をつけるリアルなコミュニケーション技術～

福山 桜子 (FUKUYAMA SAKURAKO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 異文化コミュニケーション学部

科目コード等： DM167

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： ICC2623

使用言語： その他

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

コミュニケーションにおいて非言語行動「言語以外で伝わる／伝えること」の絶大な影響力を具体的に認識する。また、「感情」に関しても着目し、そのコントロールに関して考察する。その上で、映画、ドラマ、演劇なども用い、社会のあらゆる場面で、非言語行動を最大限に活用し、日常の「生きる力」を上げられるよう、深く考察する。

To recognize the enormous power and influence of nonverbal actions or messages that are sent, received or understood through behavior without the use of words. Movies, dramas and plays are used to study in depth how to fully utilize nonverbal actions in any social situation.

授業の内容 / Course Contents

舞台、映画、ドラマなどはコミュニケーションの再現を組み合わせる物語にしたものである。

「台詞」＝「言語」という2次元から、「演技」＝「非言語」/外見的特徴、声、動作、表情、距離、空間、という「リアルに生きている非言語」を導き出す「演出家/監督」。現役の映画監督・演出家・アクティングコーチと

して日米で活動している視点から、非言語行動を紐解き「伝えること」「伝わること」を舞台やダンス、映像、セリフ、現在進行形の現場など、具体的な例をもって考察。付随して、俳優や女優は「嘘をついている」のではなく「

Stage, movie and drama performances are reenactments of communication. So, what is the difference between an acting and a lie? The course will focus in particular on external characteristics that are nonverbal, such as voice, actions, expressions, distance, and spacing. Lectures will first focus on unravelling what nonverbal actions are from the perspective of people currently working as acting coaches, movie directors or theater producers in Japan and the United States, and then look for any visible cultural differences in the areas covered. We will also study culture by looking at the differences between Japan and the United States in terms of how the entertainment industry is made up, features of performance, the history of entertainment, and characteristics of actors, artists and celebrity icons (known as “idols” in Japan).

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：「非言語コミュニケーション総論/非言語行動の機能」

非言語行動とは何か？言葉以外で何が伝わるのか、伝わってしまうのか、伝わらないのか。その影響力。

2 回：「外見的特徴①」

「見た目」のコミュニケーション。アメリカの履歴書は「写真を貼ると法律違反」？

3 回：「外見的特徴②」

「魅力」とは何か？「好かれる」「嫌われる」とは何からくるのか？「第一印象」は秒で決まる。

4 回：「スターとアイドル」①

スターとアイドルの違いは何か？なぜ日本のアイドルは「卒業」するのか？

5 回：「スターとアイドル」②

スターとアイドル。アメリカ、日本、韓国、その背景の違いはどこからくるのか？

6 回：「演出とは何か？」「エンターテインメント業界の成り立ちの文化差で見えるもの」

演出家という仕事/日米の芸能界の歴史/成り立ちから見える文化差。

7 回：「非言語音声」

声に表れるものを考える。

8 回：「身体動作、動作学～ジェスチャー、ポスターの意味するもの」

しぐさ、動作が意味するもの。そこから読み取れるもの。伝わってしまうこと。異文化の非言語。男女の非言語。「あ・うん」の日本。ローコンテキスト/ハイコンテキストの文化差。

9 回：「表情～感情、顔に表れるもの・視線行動」

顔の3つのゾーン・視線行動から読み取る感情。感情とは？「怒り」「不安」をどうすればいい？笑う門には福来るは来る？悲しくても困ってもスマイルな日本人。

10 回：「感情とはなにか」

怒って後悔、怒らなくて後悔。感情の正体。どうコントロールすれば生きづらさが減るのか。

11 回：「空間、身体接触～パーソナルスペース」

満員電車は他人だから許せる？大人になるには接触が必要？

12 回：「嘘は見抜けるか？」

言語では嘘はつける。では非言語で嘘はつけるのか。見抜けるのか。詐欺師とは？役者とは？

13 回：「非言語ワークショップ①」

実際にやってみる非言語。「聴く力」

14 回：「非言語ワークショップ②」

実際にやってみる非言語。「一人では生きられない」。真のコミュニケーションとは？
非言語コミュニケーション文化論、総括。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	○	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:					

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

毎講義、リアクションペーパーの提出あり。

準備学習については毎回の授業で指示する。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 課題、及び、リアクションペーパー:40% 授業への参加度:30% 最終レポート割合 :30%

テキスト / Textbooks

なし

参考文献 / Readings

Japan Studies Program D

Japan Studies Program D

日本のLGBTQ

虎井 まさ衛 (TORAI MASAE)

開講年度： 2024

科目設置学部： 異文化コミュニケーション学部

科目コード等： DM168

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： ICC2623

使用言語： その他

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部のR Guideに掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

日本のLGBTQ（性的少数者）の抱える諸問題を広く深く考えることで、同じ国に生きていても異なる視点を持っている人々がいることや、日本独自の差別感や肯定感等について改めて向き合い、より広い視野をもってあらゆる人々と関わっていくことを目指す。

The course aims to have students become more open minded when interacting with others, by dealing with the fact that people who despite living in the same country have different views, and feelings of discrimination and affirmation unique to Japan, through thinking broadly and deeply about the many problems experienced by Japan's LGBTQ community (sexual minority groups).

授業の内容 / Course Contents

講師自身が女性から男性に性別移行した者である。外科処置はアメリカで80年代に行い、のちの日本のトランスジェンダーの動向に深くかかわってきた。その立場から、通常の報道には描かれない側面をも提供しつつ、「少し前にそこにあった事実、今ここにある現実」を共に考える。講義担当者の他に、講義を得意とする2名のゲストスピーカーを迎え、それぞれの立場から具体的に話を聞くことを通して、日本のLGBTQの諸問

題について学んでいく。軸となる講義の前には、各講師の著述を読んだ上でのディスカッション等を行い、講義の後には、各自がそ

The lecturer of this course is someone who has changed his sex from female to male. The surgical procedure was carried out in the U.S. in the 1980s, and ever since he has been deeply involved in transgender issues in Japan. From this unique position he can share a dimension not depicted in regular news, while considering together “facts that existed there just a short time ago, and the reality that exists here now”. In addition to the lead lecturer we look forward to welcoming two guest speakers who specialize in lecturing. By listening to the specifics from each of their talks, we will learn about the many problems experienced by Japan’s LGBTQ community from their respective perspectives. Before the key lecture we will hold a discussion, having read the work of each lecturer first. After the lecture each student will organize a discussion and produce a report on their own topic or theme.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション～虎井の講義（トランスジェンダーについて全般 1）
- 2回：トランスジェンダーについて（F T M T G・トランス男性、つまり女性から男性の場合） 2
- 3回：トランスジェンダーについて（法的問題等） 3
- 質疑応答
- 4回：トランスジェンダーについてのグループディスカッション
- 5回：ゲストスピーカー講義（M T F T G・トランス女性、つまり男性から女性への場合） 1
- 6回：M T F T Gゲストスピーカーの講義 2
- 質疑応答
- 7回：M T F T Gについてのグループディスカッション
- 8回：日本の当事者インタビューの視聴
- 9回：ゲストスピーカー（ゲイ男性）の著述を読んだでのディスカッション
- 10回：その著者の講義 1
- 11回：その著者の講義 2
- 質疑応答
- 12回：同性愛についてのグループディスカッション
- 13回：振り返り1（コースを通して学んだことをまとめ、次週の発表に備える）
- 14回：振り返り2（グループごとのプレゼンテーション）

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

この授業では、講義以外にディスカッション等を積極的に取り入れていくので、参加者は毎回の授業に十分準備して臨むこと。どのような準備が必要かは事前に指示する。参加者の積極的な姿勢も強く望まれる。

履修人数等により学生間のディスカッションが難しい時は、各教員との丁寧な質疑応答（文書や動画、あるいはZOOM上）になる場合もある。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

レポート試験 :60%

平常点割合 :40% リアクション・ペーパー提出回数:30% 私語などの授業態度:10%

ゲストスピーカーの都合により、講義内容の「順番」が変わることもありうる。

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

授業時に適宜紹介する。

Japan Studies Program E

Japan Studies Program E

Postwar Japanese History

長谷川 健治 (HASEGAWA KENJI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 異文化コミュニケーション学部

科目コード等： DM169

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 4

科目ナンバリング： ICC2621

使用言語： 英語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

This class will explore issues related to postwar Japanese history. Students will deepen their understandings of postwar Japan through historical analyses of themes ranging from diplomacy to mass culture. Students will hone their critical reading and writing skills. They will also expand their ability to recognize connections across thematic boundaries and between past and present.

授業の内容 / Course Contents

We will be exploring the following questions among others. Why and how were the atomic bombs dropped on Hiroshima and Nagasaki, and with what consequences? How were memories of the atomic bombings reconfigured after the Lucky Dragon Incident, and how did this affect the introduction of nuclear energy into Japan? How does the notion of “postwar” differ in Okinawa and mainland Japan? What is at stake in the recent controversies over the “comfort women” issue?

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回： Introduction

- 2回：Atomic Bombings
 3回：Atomic Bombings
 4回：Nanjing Massacre
 5回：Kanto Massacre
 6回：Lucky Dragon Incident
 7回：Okinawa
 8回：Kamikaze
 9回：Comfort Women
 10回：Hiroshima Memories
 11回：Hiroshima Memories
 12回：Minamata
 13回：Fukushima
 14回：Final papers (approximately 3000 words) and presentations

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:○
個人発表	:	○ グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:○
上記いずれも用いない予定	:		:		

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

Students are expected to actively participate in class discussions having completed the readings for the week. They will post a list of at least 3 discussion questions on Canvas LMS by 5pm of the day preceding class.

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Weekly discussion questions and class participation:70% Final paper and presentation:30%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

その他 / Others

Field trips and film viewings are planned for the following Saturdays: 4/27, 5/18, 6/1, 6/15.

Japan Studies Program F

Japan Studies Program F

History of Japan's Colonial Empire and Its Legacies

青木 敦子 (AOKI ATSUKO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 異文化コミュニケーション学部

科目コード等： DM170

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： ICC2621

使用言語： 英語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

Through the examination of the history of the Japanese empire, this course aims to provide students a general timeline and framework to understand modern Japanese and East Asian history and analytical tools to think about empires and their legacies.

授業の内容 / Course Contents

This course examines the formation and workings of the Japanese colonial empire, from its establishment in 1895 to its demise in 1945. We will look at the empire's history from various perspectives including institutions, policies, and people both colonizing and colonized.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回： Introduction; General overview of Japanese imperialism

2 回： Hokkaido

3 回： Okinawa

4 回： Taiwan (1): colonial management

- 5 回：Taiwan (2): economics and society
 6 回：Korea (1): colonial management
 7 回：Korea (2): economics and society
 8 回：Movement of people (1): from metropole to colonies
 9 回：Movement of people (2): from colonies to metropole
 10 回：The South Seas Mandate
 11 回：Manchuria and Japan's wartime empire
 12 回：Postcolonial legacies
 13 回：Student presentations
 14 回：Conclusion

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワーポイント等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

Students are expected to prepare for each session by completing assigned readings and to review each class session.

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Class participation:20% Reading notes:40% Final presentation:40%

テキスト / Textbooks

A list of readings will be provided on the first day of class.

参考文献 / Readings

A list of references will be provided on the first day of class.

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

Bring your own device (laptop or tablet) to class.

サービ斯拉ーニングA

Service Learning A

豊島区在住の外国人/外国人生徒に対する日本語/学習サポート活動

丸山 千歌 (MARUYAMA CHIKA)

開講年度： 2024

科目設置学部： 異文化コミュニケーション学部

科目コード等： DM182

授業形態： 対面（一部オンライン）

授業形態（補足事項）事前学習、中間学習、事後学習は対面で行う。立教日本語教室は対面・オンライン両方の可能性がある。ほかの実習は対面を基本とする。

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： ICC1723

使用言語： その他

授業形式： 実習

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

地域連携活動としての豊島区内の外国人を対象とした日本語学習サポートや中学校への入り込みによる支援を通して、自己のコミュニケーション能力を高めるとともに、異文化社会そのものへの理解を深め、学部で学ぶ異文化コミュニケーション学に近づけて考察することができる。

As an activity carried out in cooperation with the local community, students will be participating in Japanese language learning support activities for learners in the Toshima ward or in activities providing learning support in junior high schools in the community. Through this process, along with improving their communication skills, students who will develop a better understanding of cross-cultural societies and become able to consider more closely the Intercultural Communication we study within the College.

授業の内容 / Course Contents

履修前学期に選考を行い、事前学習の後、中学校や本学内でのサポート活動を行う。また、活動期間中に中間学習、終了後に事後学習を実施する。サポート活動は以下の3タイプに分かれる。

①中学校の授業において外国人生徒のために言語支援等のコミュニケーション上のサポートを行う。(募集人員10名)

履修においては、日本語および中国語ないしは英語において十分なコミュニケーション能力を有すること。(現場の状況で他の言語を活用できる可能性がある。)

日本語母語話者の場合 中国語検定2級以上、HSK5級程度

日本語

Student selection will take place in the semester prior to registration and after undertaking preparatory training, students will provide support through activities at junior high schools or within the University. Also, during the activity period there will be interim training and once the activities have ended follow-up training will be carried out. Support activities are divided into the following two types:

1. Language support provided to foreign students in junior high school classes. (capacity of 10)

In order to register, candidates must have sufficient Japanese and Chinese or English communication ability, as specified below. Native Japanese speakers: Chugokugo Kentei Chinese Proficiency Test Level 2 or HSK Level 5
Non-native Japanese speakers: Rikkyo Japanese Placement Test Level J7

d

2. Individual tutoring provided mainly at junior high schools after school. (capacity of 15) Students are required to attend lectures on Japanese language learning support in advance of enrolling in the program.

3. Japanese language learning support provided mainly at Rikkyo University. (capacity of 15)

As part of the registration process candidates will attend a preparatory training lecture on Japanese language learning support.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1回：事前学習①

2回：事前学習②

3回：事前学習③

4回：事前学習④

5回：実習①

6回：実習②

7回：実習③

8回：中間学習

9回：実習④

10回：実習⑤

11回：実習⑥

12回：実習⑦

13回：事後学習および発表①

14回：事後学習および発表②

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	○	グループ発表	:	○	ディスカッション・ディベート : ○
実技・実習・実験	:	○	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク : ○
上記いずれも用いない予定	:					

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

実習の進行と、サポート対象の状況に従って随時指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 事前学習における参加度:15% 実習における貢献度:60% 事後学習におけるレポートおよびプレゼンテーション:25%

テキスト / Textbooks

適宜教材を配付する。

参考文献 / Readings

宮島喬 『外国人の子どもの教育：就学の現状と教育を受ける権利』 東京大学出版会 2014 4130530216

宮島喬他編 『外国人の子どもと日本の教育—不就学問題と多文化共生の課題』 東京大学出版会 2005 4130501623

佐久間孝正 『多国籍化する日本の学校：教育グローバル化の衝撃』 勁草書房 2015 4326299096

齋藤ひろみ他 『外国人児童生徒のための支援ガイドブック~子どもたちのライフコースによりそって~』 凡人社 2011 4893587994

齋藤ひろみ他編 『外国人児童生徒の学びを創る授業実践 - 「ことばと教科の力」を育む浜松の取り組み』 くろしお出版 2015 4874246621

白井智美 『ことばが通じなくても大丈夫! 学級担任のための外国人児童生徒サポートマニュアル』 明治図書出版 2014 4180960265

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

活動において、日本語学習者や中学校の生徒と適切に柔軟なコミュニケーションを取ることができる力。

活動する場や機関（立教大学および中学校）のルールを理解し、適切に対応する力。

その他 / Others

事前、中間、事後研修は対面で実施する。事前、中間、事後研修は対面で実施する。

中学校での活動は、保険の加入が必要となる（自己負担）。

前の学期に実施する選考を通過した者が履修できる。

詳細は、募集説明会および募集要項を確認すること。

サービスマーニングB

Service Learning B

豊島区在住の外国人/外国人生徒に対する日本語/学習サポート活動

浜崎 桂子 (HAMAZAKI KEIKO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 異文化コミュニケーション学部

科目コード等： DM183

授業形態： 対面（一部オンライン）

授業形態（補足事項）事前学習、中間学習、事後学習は対面で行う。立教日本語教室は対面・オンライン両方の可能性がある。ほかの実習は対面を基本とする。

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： ICC1723

使用言語： その他

授業形式： 実習

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

地域連携活動としての豊島区内の外国人を対象とした日本語学習サポートや中学校への入り込みによる支援を通して、自己のコミュニケーション能力を高めるとともに、異文化社会そのものへの理解を深め、学部で学ぶ異文化コミュニケーション学に近づけて考察することができる。

As an activity carried out in cooperation with the local community, students will be participating in Japanese language learning support activities for learners in the Toshima ward or in activities providing learning support in junior high schools in the community. Through this process, along with improving their communication skills, students who will develop a better understanding of cross-cultural societies and become able to consider more closely the Intercultural Communication we study within the College.

授業の内容 / Course Contents

履修前学期に選考を行い、事前学習の後、中学校や本学内でのサポート活動を行う。また、活動期間中に中間学習、終了後に事後学習を実施する。サポート活動は以下の3タイプに分かれる。

①中学校の授業において外国人生徒のために言語支援等のコミュニケーション上のサポートを行う。(募集人員10名)

履修においては、日本語および中国語ないしは英語において十分なコミュニケーション能力を有すること。(現場の状況で他の言語を活用できる可能性がある。)

日本語母語話者の場合 中国語検定2級以上、HSK5級程度

日本語

Student selection will take place in the semester prior to registration and after undertaking preparatory training, students will provide support through activities at junior high schools or within the University. Also, during the activity period there will be interim training and once the activities have ended follow-up training will be carried out. Support activities are divided into the following two types:

1. Language support provided to foreign students in junior high school classes. (capacity of 10)

In order to register, candidates must have sufficient Japanese and Chinese or English communication ability, as specified below. Native Japanese speakers: Chugokugo Kentei Chinese Proficiency Test Level 2 or HSK Level 5
Non-native Japanese speakers: Rikkyo Japanese Placement Test Level J7

2. Individual tutoring provided mainly at junior high schools after school. (capacity of 15) Students are required to attend lectures on Japanese language learning support in advance of enrolling in the program.

3. Japanese language learning support provided mainly at Rikkyo University. (capacity of 15)

As part of the registration process candidates will attend a preparatory training lecture on Japanese language learning support.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1回：事前学習①

2回：事前学習②

3回：事前学習③

4回：事前学習④

5回：実習①

6回：実習②

7回：実習③

8回：中間学習

9回：実習④

10回：実習⑤

11回：実習⑥

12回：実習⑦

13回：事後学習および発表①

14回：事後学習および発表②

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド (パワポ等) の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：	
個人発表	：	○	グループ発表	：	○	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：	
上記いずれも用いない予定	：						

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

実習の進行と、サポート対象の状況に従って随時指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 事前学習における参加度:15% 実習における貢献度:60% 事後学習におけるレポートおよびプレゼンテーション:25%

テキスト / Textbooks

適宜教材を配付する。

参考文献 / Readings

宮島喬 『外国人の子どもの教育: 就学の現状と教育を受ける権利』 東京大学出版会 2014 4130530216

宮島喬他編 『外国人の子どもと日本の教育—不就学問題と多文化共生の課題』 東京大学出版会 2005

4130501623

佐久間孝正 『多国籍化する日本の学校: 教育グローバル化の衝撃』 勁草書房 2015 4326299096

齋藤ひろみ他 『外国人児童生徒のための支援ガイドブック~子どもたちのライフコースによりそって~』 凡人社 2011 4893587994

齋藤ひろみ他編 『外国人児童生徒の学びを創る授業実践 -「ことばと教科の力」を育む浜松の取り組み』

くろしお出版 2015 4874246621

白井智美 『ことばが通じなくても大丈夫! 学級担任のための外国人児童生徒サポートマニュアル』 明治図書出版 2014 4180960265

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

活動において、日本語学習者や中学校の生徒と適切に柔軟なコミュニケーションを取ることができる力。

活動する場や機関（立教大学および中学校）のルールを理解し、適切に対応する力。

その他 / Others

事前、中間、事後研修は対面で実施する。

中学校での活動は、保険の加入が必要となる（自己負担）。

前の学期に実施する選考を通過した者が履修できる。

詳細は、募集説明会および募集要項を確認すること。

海外フィールドスタディ B

Overseas Field Studies B

国際協力／貧困／多文化共生

日下部 尚徳 (KUSAKABE NAONORI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 異文化コミュニケーション学部
科目コード等： DM185
授業形態： 対面（一部オンライン）
授業形態（補足事項） 対面（海外フィールドワーク）
校地： 池袋
学期： 春期間外
単位： 2
科目ナンバリング： ICC3723
使用言語： その他
授業形式： 実習
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

海外のフィールドにおいて、異なる生活や文化、その国や地域が抱える社会課題などを体験を通じて学ぶ。訪問先の人々との交流、対話、協働を通し、異文化社会における自己のコミュニケーション能力の涵養をはかる。

To learn by experiencing the various life styles, cultures as well as social issues on site abroad.

To enhance communication capacity by engaging in cultural exchange, dialogue, collaborative work abroad.

授業の内容 / Course Contents

本年度のフィールドはバングラデシュで、テーマは国際協力・貧困・多文化共生である。フィールドスタディを通して、自ら問いを立て、課題解決への道筋を探る能力を身につける。事前学習において文献調査を行うことの大切さを学ぶとともに、事前学習の枠組みで現地を学ぶのではなく、これまで気が付かなかったことに気が付くという新しい発見を大切に、それらをきっかけとして、独自の問いをたてて調べることの面白さを知る。

本科目の履修者の選考は春学期に行い、夏季休暇中に事前学習と海外実習、事後学習を行う。各プログラムの

事前・事後学習

Under the theme of social development and international cooperation, this course will provide learning opportunities in Bangladesh. Throughout the experiences gained from the overseas field study, students will acquire ability to construct research questions and to solve various problems. Literature survey before departure to the field is important, while exploring the new ideas in the field by unlearning what is learned by the literatures are equally important. Students are encouraged to construct their own and unique research questions and actively engage in learning.

Student selection will occur in the spring semester. Preparatory training, overseas field study and follow-up training will be carried out in the summer semester break. Please check the schedule in detail at the orientation meeting, or in the information on the field study courses posted on the College of Intercultural Communication's bulletin board.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：事前学習1 リスク管理指導
- 2回：事前学習2 実施地域の概要、課題提示
- 3回：事前学習3 問題発見という調査－渡航前にどのような問いをたてるか
- 4回：事前学習4 国際協力 NGO－エクマッタの活動についてのオリエンテーション
- 5回：事前学習5 渡航前確認
- 6回：海外実習
- 7回：海外実習
- 8回：海外実習
- 9回：海外実習
- 10回：海外実習
- 11回：海外実習
- 12回：海外実習
- 13回：事後学習1 海外実習の振り返りと共有、発表の準備
- 14回：事後学習2 発表、振り返り

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワーポイント等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：○
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

テキストは必ず読むこと。

参考文献にも目を通し、渡航先地域に関する事前学習を行うこと。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 事前学習への参加:25% 現地実習への参加態度:50% 事後学習への参加および口頭発表:15% 学習内容の報告（レポート）:10%

テキスト / Textbooks

日下部尚徳 『バングラデシュを知るための66章【第3版】』 明石書店 2017 9784750345710 ○

日下部尚徳 『わたし8歳、職業、家事使用人。：世界の児童労働者1億5200万人の1人』 合同出版
2018 9784772613620 ○

参考文献 / Readings

その他 / Others

【履修と選考】

- ・定員14名。履修にあたっては事前に選考があります。
- ・募集スケジュールの詳細はR Guideの募集要項を確認してください。
- ・説明会と応募受付は5月頃を予定しています。

【その他】

- ・海外実習の参加費はすべて自己負担となります。各プログラムの費用については募集要項を確認してください。
- ・この科目は履修中止不可科目です。
- ・定員に満たない場合は追加募集を行う可能性があります。追加募集においても最低催行可能人数に達しない場合には、プログラム実施を取りやめる場合があります。その場合、履修登録

Cultural Exchange

Cultural Exchange

佐竹 晶子 (SATAKE AKIKO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 異文化コミュニケーション学部
科目コード等： DM186
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： ICC2511
使用言語： 英語
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 自動登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

This course is designed to prepare students to better understand and function in international and multicultural environments through various intercultural activities and discussions.

授業の内容 / Course Contents

This course covers three broad themes over the duration of one semester: Understanding culture as a Study Abroad participant; experiencing contrasts among different cultures as an active participant in the social world; and adjusting to cultural differences in face-to-face interactions. The course explores broader issues of culture and intercultural awareness, defining culture from multi-dimensional points of view. It helps students realize the ways in which values are involved in real-life intercultural exchanges..

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回： Course introduction
- 2 回： What is culture? The Iceberg
- 3 回： Culture and communication
- 4 回： Low and High Context Cultures

- 5 回：Polychronic and Monochronic Cultures
 6 回：Value dimensions
 7 回：Stereotypes and Generalizations
 8 回：Non-verbal Communication
 9 回：Non-verbal Communication
 10 回：Culture Shock, the DMIS Model, Stages of Cultural Adjustment
 11 回：Preparations for the final presentation
 12 回：Preparations for the final presentation
 13 回：Presentations
 14 回：Presentations, Final Review

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワーポイント等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：○
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

Instructions will be given in class.

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Presentations:30% Homework:30% Classwork, Attendance and Participation:40%

テキスト / Textbooks

None

参考文献 / Readings

Readings, worksheets, video clips and other materials will be provided by the instructors.

その他 / Others

Students will need to take into account that ACTIVE PARTICIPATION is critical to success in the course. They will need to come prepared to actively share their opinions and experiences.

There will be six different instructors teaching this course. Please

Cultural Exchange

Cultural Exchange

ガービー, K. (GARVEY KEVIN PATRICK)

開講年度： 2024

科目設置学部： 異文化コミュニケーション学部

科目コード等： DM187

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： ICC2511

使用言語： 英語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 自動登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

This course is designed to prepare students to better understand and function in international and multicultural environments through various intercultural activities and discussions.

授業の内容 / Course Contents

This course covers three broad themes over the duration of one semester: Understanding culture as a Study Abroad participant; experiencing contrasts among different cultures as an active participant in the social world; and adjusting to cultural differences in face-to-face interactions. The course explores broader issues of culture and intercultural awareness, defining culture from multi-dimensional points of view. It helps students realize the ways in which values are involved in real-life intercultural exchanges..

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回： Course introduction

2 回： What is culture? The Iceberg

3 回： Culture and communication

4 回： Low and High Context Cultures

- 5 回：Polychronic and Monochronic Cultures
 6 回：Value dimensions
 7 回：Stereotypes and Generalizations
 8 回：Non-verbal Communication
 9 回：Non-verbal Communication
 10 回：Culture Shock, the DMIS Model, Stages of Cultural Adjustment
 11 回：Preparations for the final presentation
 12 回：Preparations for the final presentation
 13 回：Presentations
 14 回：Presentations, Final Review

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワーポイント等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：○
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

Instructions will be given in class.

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Presentations:30% Homework:30% Classwork, Attendance and Participation:40%

テキスト / Textbooks

None

参考文献 / Readings

Readings, worksheets, video clips and other materials will be provided by the instructors.

その他 / Others

Students will need to take into account that ACTIVE PARTICIPATION is critical to success in the course. They will need to come prepared to actively share their opinions and experiences.

There will be six different instructors teaching this course. Please

Cultural Exchange

Cultural Exchange

シ, ゲンギン (ZI YANYIN)

開講年度： 2024
科目設置学部： 異文化コミュニケーション学部
科目コード等： DM188
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： ICC2511
使用言語： 英語
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 自動登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

This course is designed to prepare students to better understand and function in international and multicultural environments through various intercultural activities and discussions.

授業の内容 / Course Contents

This course covers three broad themes over the duration of one semester: Understanding culture as a Study Abroad participant; experiencing contrasts among different cultures as an active participant in the social world; and adjusting to cultural differences in face-to-face interactions. The course explores broader issues of culture and intercultural awareness, defining culture from multi-dimensional points of view. It helps students realize the ways in which values are involved in real-life intercultural exchanges..

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回： Course introduction
- 2 回： What is culture? The Iceberg
- 3 回： Culture and communication
- 4 回： Low and High Context Cultures

- 5 回：Polychronic and Monochronic Cultures
 6 回：Value dimensions
 7 回：Stereotypes and Generalizations
 8 回：Non-verbal Communication
 9 回：Non-verbal Communication
 10 回：Culture Shock, the DMIS Model, Stages of Cultural Adjustment
 11 回：Preparations for the final presentation
 12 回：Preparations for the final presentation
 13 回：Presentations
 14 回：Presentations, Final Review

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワーポイント等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：○
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

Instructions will be given in class.

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Presentations:30% Homework:30% Classwork, Attendance and Participation:40%

テキスト / Textbooks

None

参考文献 / Readings

Readings, worksheets, video clips and other materials will be provided by the instructors.

その他 / Others

Students will need to take into account that ACTIVE PARTICIPATION is critical to success in the course. They will need to come prepared to actively share their opinions and experiences.

There will be six different instructors teaching this course. Please

Cultural Exchange

Cultural Exchange

伊藤 萌紅 (ITO MEGU)

開講年度： 2024

科目設置学部： 異文化コミュニケーション学部

科目コード等： DM189

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： ICC2511

使用言語： 英語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 自動登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

This course is designed to prepare students to better understand and function in international and multicultural environments through various intercultural activities and discussions.

授業の内容 / Course Contents

This course covers three broad themes over the duration of one semester: Understanding culture as a Study Abroad participant; experiencing contrasts among different cultures as an active participant in the social world; and adjusting to cultural differences in face-to-face interactions. The course explores broader issues of culture and intercultural awareness, defining culture from multi-dimensional points of view. It helps students realize the ways in which values are involved in real-life intercultural exchanges..

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回： Course introduction

2 回： What is culture? The Iceberg

3 回： Culture and communication

4 回： Low and High Context Cultures

- 5 回：Polychronic and Monochronic Cultures
 6 回：Value dimensions
 7 回：Stereotypes and Generalizations
 8 回：Non-verbal Communication
 9 回：Non-verbal Communication
 10 回：Culture Shock, the DMIS Model, Stages of Cultural Adjustment
 11 回：Preparations for the final presentation
 12 回：Preparations for the final presentation
 13 回：Presentations
 14 回：Presentations, Final Review

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワーポイント等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：○
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

Instructions will be given in class.

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Presentations:30% Homework:30% Classwork, Attendance and Participation:40%

テキスト / Textbooks

None

参考文献 / Readings

Readings, worksheets, video clips and other materials will be provided by the instructors.

その他 / Others

Students will need to take into account that ACTIVE PARTICIPATION is critical to success in the course. They will need to come prepared to actively share their opinions and experiences.

There will be six different instructors teaching this course. Please

Cultural Exchange

Cultural Exchange

ラペネカ, J. (RAPPENEKER JOSHUA)

開講年度： 2024

科目設置学部： 異文化コミュニケーション学部

科目コード等： DM190

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： ICC2511

使用言語： 英語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 自動登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

This course is designed to prepare students to better understand and function in international and multicultural environments through various intercultural activities and discussions.

授業の内容 / Course Contents

This course covers three broad themes over the duration of one semester: Understanding culture as a Study Abroad participant; experiencing contrasts among different cultures as an active participant in the social world; and adjusting to cultural differences in face-to-face interactions. The course explores broader issues of culture and intercultural awareness, defining culture from multi-dimensional points of view. It helps students realize the ways in which values are involved in real-life intercultural exchanges..

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回： Course introduction

2 回： What is culture? The Iceberg

3 回： Culture and communication

4 回： Low and High Context Cultures

- 5 回：Polychronic and Monochronic Cultures
 6 回：Value dimensions
 7 回：Stereotypes and Generalizations
 8 回：Non-verbal Communication
 9 回：Non-verbal Communication
 10 回：Culture Shock, the DMIS Model, Stages of Cultural Adjustment
 11 回：Preparations for the final presentation
 12 回：Preparations for the final presentation
 13 回：Presentations
 14 回：Presentations, Final Review

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワーポイント等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：○
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

Instructions will be given in class.

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Presentations:30% Homework:30% Classwork, Attendance and Participation:40%

テキスト / Textbooks

None

参考文献 / Readings

Readings, worksheets, video clips and other materials will be provided by the instructors.

その他 / Others

Students will need to take into account that ACTIVE PARTICIPATION is critical to success in the course. They will need to come prepared to actively share their opinions and experiences.

There will be six different instructors teaching this course. Please

Cultural Exchange

Cultural Exchange

ムチェトゥ (MUCHETU RANGARIRAI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 異文化コミュニケーション学部
科目コード等： DM191
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： ICC2511
使用言語： 英語
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 自動登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

This course is designed to prepare students to better understand and function in international and multicultural environments through various intercultural activities and discussions.

授業の内容 / Course Contents

This course covers three broad themes over the duration of one semester: Understanding culture as a Study Abroad participant; experiencing contrasts among different cultures as an active participant in the social world; and adjusting to cultural differences in face-to-face interactions. The course explores broader issues of culture and intercultural awareness, defining culture from multi-dimensional points of view. It helps students realize the ways in which values are involved in real-life intercultural exchanges..

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回： Course introduction
- 2 回： What is culture? The Iceberg
- 3 回： Culture and communication
- 4 回： Low and High Context Cultures

- 5 回：Polychronic and Monochronic Cultures
 6 回：Value dimensions
 7 回：Stereotypes and Generalizations
 8 回：Non-verbal Communication
 9 回：Non-verbal Communication
 10 回：Culture Shock, the DMIS Model, Stages of Cultural Adjustment
 11 回：Preparations for the final presentation
 12 回：Preparations for the final presentation
 13 回：Presentations
 14 回：Presentations, Final Review

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワーポイント等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：○
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

Instructions will be given in class.

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Presentations:30% Homework:30% Classwork, Attendance and Participation:40%

テキスト / Textbooks

None

参考文献 / Readings

Readings, worksheets, video clips and other materials will be provided by the instructors.

その他 / Others

Students will need to take into account that ACTIVE PARTICIPATION is critical to success in the course. They will need to come prepared to actively share their opinions and experiences.

There will be six different instructors teaching this course. Please

サービ斯拉ーニングC

Service Learning C

English Camp

マーティン, R (MARTIN, RON R.)

開講年度： 2024

科目設置学部： 異文化コミュニケーション学部

科目コード等： DM192

授業形態： 対面（一部オンライン）

授業形態（補足事項） Three class sessions (English Camp days) with Rikuzentakata school students will be held online as virtual learning. These dates will be announced in class.

校地： 池袋

学期： 秋学期他

単位： 2

科目ナンバリング： ICC1721

使用言語： 英語

授業形式： 実習

履修登録方法： 抽選登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

Students will learn how to support and enhance the English communication skills of elementary and junior high school students through CIC community outreach activities in coordination with Rikuzentakata City, Iwate Prefecture, and the Toshima Ward school district located in Tokyo. Students will learn how to plan and conduct English language activities in taking into account of the students' age, language learning backgrounds, and interests. Students will be able to link language learning theory and practice.

授業の内容 / Course Contents

This course will cover the planning, development, and implementation of English Camps, which are organized events focused on using English for communication. In-class sessions will focus on the creation of activities and mirco-teaching practice.

The English Camps will be conducted online with junior high school students in Rikuzentakata City, Iwate Prefecture, and on the Rikkyo University Ikebukuro Campus with elementary and junior high school students in

coordination with the Toshima Ward school district. In this manner, English Camps will utilize technology as well as in-person contact to deliver authentic access to the use of English with school students. The planning and development stages will take place before the English Camps. Experiential learning debriefing sessions will take place after each English Camp.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：Introduction to the Course
- 2回：Foreign Language Education for Communication
- 3回：Language Learner Motivation
- 4回：Developing and Using Foreign Language Materials
- 5回：English Camp in Rikuzentakata City at a Junior High School
- 6回：English Camp Debriefing Session
- 7回：Revising and Using Foreign Language Materials
- 8回：English Camp in Rikuzentakata City at a Junior High School
- 9回：English Camp Debriefing Session
- 10回：Use of English and Japanese in Foreign Language Education Environment
- 11回：English Camp at Rikkyo University for Toshima Ward School Students
- 12回：English Camp in Rikuzentakata City at a Junior High School
- 13回：English Camp Debriefing Session
- 14回：Presentations

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワーポイント等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

This course requires students to participate in English Camp events, some of which will be held outside of the regular class hours. The English Camps conducted in Rikuzentakata City will be held online with junior high schools in Rikuzentakata City, Iwate

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% Participation in pre-, during, and post- assignments:20% Reports and presentations:20% Contribution to the English Camps:60%

テキスト / Textbooks

None.

参考文献 / Readings

Readings will be provided by the instructor.

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

Service Learning C students will interact with elementary and junior high school children. Although previous experience working with children is not necessary, it is important for students to be flexible, patient, and supportive.

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

Students will need a device (e.g., a tablet or laptop--mobile phones are not acceptable) that has a web camera, and students will also need a headset (complete with microphone).

その他/ Others

- Students who take this course cannot register for any other course on Friday, 2nd period. In addition, they cannot register for any courses on Saturday.
- The course will be conducted in English and participants will be asked to use English with English

国内フィールドスタディ B

Domestic Field Studies B

金子 亜美／合崎 京子 (KANEKO AMI/ AIZAKI KYOKO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 異文化コミュニケーション学部
科目コード等： DM194
授業形態： 対面（一部オンライン）
授業形態（補足事項） 対面（一部オンライン）
校地： 池袋
学期： 春学期他
単位： 2
科目ナンバリング： ICC1420
使用言語： 日本語
授業形式： 実習
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

障害を「障害者」個人の問題ではなく、「障害者」に対して排他的に設計されている社会の仕組みとしてとらえる考え方を身につける。

ユニバーサルデザインや合理的配慮の様々な事例を学ぶことで、自らが享受している情報保障のあり方を内省するとともに、今までそれと認識していなかった「バリア」の存在に気がつく。

当事者の話を聞きまた自らこれまでとは異なる情報へのアクセス方法を体感することにより、情報保障を広く環境と身体との相互作用という観点から捉えられるようになる。

- Students become familiar with the social model of disability, which considers that "disabled people" are not disabled by their impairments but by barriers such as derogatory attitudes and the exclusive design of their society.

- Students reflect on what "information security" should entail by learning about various examples of Universal Design and "reasonable accommodation," becoming conscious of social "barriers" that they may not have recognized before.

- Students learn to perceive information security as a matter of interaction between the body and the

environment by listening to people's stories and becoming familiar with alternative ways to access information.

授業の内容 / Course Contents

合理的配慮がすべての事業者に義務付けられる改正障害者差別解消法が2024年4月に施行となる。こうした状況において、本法改正以前よりさまざまなバリアの撤廃に尽力してきた取り組みから学ぶ意義は大きい。この授業では、障害を「障害者」個人の問題ではなく、「障害者」に対して排他的に設計されている社会の仕組みとしてとらえ、バリアの撤廃や情報の保障を目指してきた歴史ある様々な取り組みに焦点を当てる。自ら慣れ親しんだ以外の情報アクセス方法について学び、体験し、当事者の話を聞くことで、自身がこれまで享受しておりながら意識に

The Japanese Government revised the Disability Discrimination Law, requiring companies and other operators to provide 'reasonable accommodation' starting from April 1st, 2024. In this context, it is significant to learn from measures and efforts that have been made to remove various barriers prior to the legal reform. In this course, we view 'disabilities' not as an issue of individuals' capacities but as social mechanisms unfriendly to disabled people. By learning and experiencing various aspects of information security, students become conscious of technologies and mechanisms in society that may have been previously taken for granted, considering information security as a matter of active interaction between the environment and the body.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：導入
- 2回：コミュニケーションと情報保障
- 3回：コミュニケーションと脳科学
- 4回：障害（しょうがい）とは何か
- 5回：障害者（しょうがい者）と情報保障
- 6回：情報保障とボランティア
- 7回：フィールドワークの歴史
- 8回：当事者の体験を読む
- 9回：フィールドスタディと研究倫理（オンライン）
- 10回：こどもの情報保障
- 11回：フィールドノート検討会
- 12回：学生発表
- 13回：学生発表
- 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワポ等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○	
個人発表	:	○	グループ発表	:	○	ディスカッション・ディベート	:	○
実技・実習・実験	:	○	学内の教室外施設の利用	:	○	校外実習・フィールドワーク	:	○
上記いずれも用いない予定	:							

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

- ・課題文献の講読とコメント準備
- ・フィールドノート作成
- ・学生発表準備

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 学生発表:20% 講義への参加と貢献:10% 講演および実習に関するフィールドノート:50% 学生発表にもとづく最終レポート:20% 最終レポート割合 :0%最終テスト割合 :0%

テキスト/ Textbooks

新聞やニュース等で関連するトピックを確認しておくこと。英語文献を読むので準備しておくこと。

参考文献 / Readings

かどやひでのり・あべやすし（編著） 『識字の社会言語学』 生活書院 2010 9784903690667

『ことばと社会』編集委員会（編） 『ことばと社会（特集：リテラシー再考）』 三元社 2012

9784883033232

山内薫 『本と人をつなぐ図書館員』 読書工房 2008 9784902666151

佐野愛子・佐々木倫子・田中瑞穂 『日本手話で学びたい!』 ひつじ書房 2023 9784823412103

照山絢子 『発達障害を人類学してみた』 診断と治療社 2023 9784787826220

その他/ Others

【選考】

- ・定員 10 名。履修にあたっては事前に選考があります。
- ・説明会と募集受付は 4 月上旬を予定しております。
- ・募集スケジュールの詳細は R Guide 上の募集要項を確認してください。

【注意事項】

- ・本科目を履修する場合、春学期金曜 2, 3 限に他の科目を履修することはできません。金曜 3 限に実習に行く日があります。日程は募集要項をご確認ください。
- ・この科目は履修中止不可科目です。
- ・詳細については、説明会と募集要項で確認をしてください。

海外日本語教育実践

Overseas Japanese Language Teaching Practicum

池田 伸子 (IKEDA NOBUKO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 異文化コミュニケーション学部
科目コード等： DM196
授業形態： オンライン（一部対面）
授業形態（補足事項） 対面で5回程度授業を行います。
校地： 池袋
学期： 秋学期他
単位： 2
科目ナンバリング： ICC2123
使用言語： その他
授業形式： 実習
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定： 先修科目：日本語学概論 A
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：○
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

海外で日本語を学んでいる学習者、海外で日本語を教えている教師とつながることによって、海外の日本語教育の現場への理解を深める。また、学習者と1対1で学習支援を行うことを通して、外国語として日本語を教える際に必要な「構え」を体験的に身に着ける。さらに、海外の学習者とオンラインで様々な協働作業に取り組むことで、異文化理解力、異文化コミュニケーション力も身に着ける。

By drawing links between overseas learners and teachers of the Japanese language, our understanding of overseas Japanese language education can be enhanced. Additionally, the mindset and attitude required for teaching Japanese as a foreign language can be experientially acquired by carrying out providing learning support individually. Furthermore, through various online cooperative activities with overseas learners, cross-cultural understanding and communicative abilities can also be acquired.

授業の内容 / Course Contents

十分な事前活動を行った上で、Zoom を利用したオンラインによる日本語教育実習、オンラインによる協働活動を行う。「オンラインによる日本語指導、学習者対応についての事前学習→実際の学生に指導→振り返り」を行うことで、実践的教授スキルを身につける。実習では、主に学習者の日本語会話力を向上させるための学習

支援を行い、協働活動では日本への理解、日本語への理解を深めるための活動を学習者と協働で実施する。学習支援、協働活動ともに参加者の積極的な関与が必要とされるため、参加者は責任をもって取り組まなければならない。

事前

After conducting sufficient pre-course activities, online Japanese language lessons and cooperative activities will be conducted via Zoom. Practical teaching skills are acquired by conducting “pre-course learning, guidance for actual students, and reviewing Japanese language guidance and learners’ interactions online.” In the course’s practical training, learning support will prioritize improving learners’ conversational abilities in Japanese. Through cooperative activities, learners’ cooperation will be implemented to deepen participants’ understanding of Japan and the Japanese language. Participants must fully engage with their tasks and roles with a sense of responsibility, as their proactive involvement is required for both learning support and cooperative activities.

Participants will join the course after thoroughly checking the pre- and post-course activities schedule via the course’s essential points and explanatory meeting. The pre-course learning will be implemented from June to July 2023, and post-learning activities will run from November to December. In addition, participants will confirm their ability to comply with the learning schedule via both the course’s essential points and the explanatory meeting to be held in April.

It would be preferable to participate in this course prior to taking Overseas Japanese Language Education Intership.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：事前学習 1
- 2 回：事前学習 2
- 3 回：事前学習 3
- 4 回：Zoom による学習支援活動 1
- 5 回：Zoom による学習支援活動 2
- 6 回：Zoom による学習支援活動 3
- 7 回：Zoom による学習支援活動 4
- 8 回：中間フィードバック
- 9 回：Zoom による学習支援活動 5
- 10 回：Zoom による学習支援活動 6
- 11 回：Zoom による学習支援活動 7
- 12 回：Zoom による学習支援活動 8
- 13 回：事後学習 1
- 14 回：事後学習 2

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:	○	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

授業外の学習については、授業で別途伝える。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 事前学習への参加度:30% 事後学習への参加度:35% Zoom による学習支援活動への参加度:35%

テキスト / Textbooks

テキストは使用しない

参考文献 / Readings

授業で適宜紹介する。

その他 / Others

この科目は、Zoom を通したオンラインのインターンシップを行う科目ですが、事前学習、事後学習については対面で行います。事前、事後学習への参加は必須ですので、4月のガイダンスで日程を確認してください。また、履修にあたっては「日本語学概論 A」を応募時点で修得しているか、もしくは Zoom 実習参加時までに修得予定であることが必要となります。

注意事項

本科目は、インターンシップ、就業体験、その他の学外活動等による実践的な学びを中心に構成する授業である。

海外日本語教育インターンシップ

Overseas Japanese Language Education Internship

海外の大学で日本語を教えよう

丸山 千歌 (MARUYAMA CHIKA)

開講年度：	2024
科目設置学部：	異文化コミュニケーション学部
科目コード等：	DM197
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	秋学期他
単位：	2
科目ナンバリング：	ICC3123
使用言語：	その他
授業形式：	実習
履修登録方法：	その他登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	先修科目：日本語学概論 A・日本語学概論 B・日本語教授法 A・日本語教授法 B
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	3,4 年次対象

授業の目標 / Course Objectives

外国語としての日本語の特徴、外国語としての日本語の教授法などについて教室で学んだ知識を、実際の日本語教育の現場で実践することを通して、学生に日本語を教えるということがどういうことかを経験的に学び、求められる教師とはどのような教師かを経験的に認識する。

Knowledge of topics such as, 'The characteristics of Japanese as a foreign language' and 'The pedagogy of Japanese as a foreign language' acquired in the classroom, will be utilized in an actual Japanese teaching situation. This process will teach students through experience what it means to teach Japanese to students and allow them to experientially recognize desirable teacher qualities.

授業の内容 / Course Contents

危機管理を含む十分な事前活動を行った上で、海外の大学をフィールドにした日本語教育実習を行う。それぞれの現場に必要な教材作成、毎回の授業の教案作成を行い、日本語や日本語教授法について学んだ知識を活用して、実践的に日本語教育の実習を行う。実習後は、事後活動において、自らが経験した実習での学びを振り返るとともに、そこで気づいた海外の日本語教育現場の抱える課題、それを解決するための方法などについて

も共有し、実習での経験をさらなる学びにつなげていく。事前活動や事後活動の日程などは、履修要項などでしっかり確認して参加

Once sufficient preparatory training, that includes risk management, has been completed, practice for teaching Japanese in an overseas university will be carried out. Prepare the teaching materials needed at each of the educational sites and a teaching plan for every lesson. Utilize previously acquired knowledge of Japanese and Japanese pedagogy, to conduct Japanese teaching practice in a practical manner. After the teaching practice, use the follow-up activity to review what you have learned during your personal experience of practicing teaching. In order to link your teaching practice experience to further learning, please also share any issues facing overseas Japanese-language education providers that you picked up on during your placement and possible solutions to these problems. Please ensure you properly check relevant details, such as the schedule for preparatory and follow-up activities, in the enrollment information before participating. Also, as the teaching practice schedule varies depending on the host institution, each student should ensure that they apply during the correct period by checking the necessary details in the enrollment information pack.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：事前学習 1
- 2 回：事前学習 2
- 3 回：事前学習 3
- 4 回：事前学習 4
- 5 回：事前学習 5
- 6 回：海外の教育機関での実習 1
- 7 回：海外の教育機関での実習 2
- 8 回：海外の教育機関での実習 3
- 9 回：海外の教育機関での実習 4
- 10 回：海外の教育機関での実習 5
- 11 回：海外の教育機関での実習 6
- 12 回：海外の教育機関での実習 7
- 13 回：事後学習 1
- 14 回：事後学習 2

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	○	グループ発表	:	○	ディスカッション・ディベート:
実技・実習・実験	:	○	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	: ○
上記いずれも用いない予定	:					

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外の学習に関する指示は、必要に応じて別途指示する。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：002) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 事前活動への参加度:30% 事後活動への参加度:20% インターンシップ先での実習:40% 成果報告:10%

この科目の評価は、「合格」「不合格」で示す。

テキスト/ Textbooks

特になし。必要な場合は事前、事後活動で示す。

参考文献 / Readings

必要なものは適宜示す。

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

海外の大学が実習先となるため、自己管理を含め、責任ある態度で参加することを強く求める。

その他/ Others

- 1) この科目は、海外の大学で日本語を教えるという実習を含むため、事前に、「日本語学概論A、B」「日本語教授法A、B」を修得済みであることが必要である。
- 2) 事前学習5（リスク管理ワークショップ）は海外フィールドスタディとの合同授業とする。8月1日（木）3限を予定している。必ず参加すること。
- 3) 5月7日(火) 昼休みに募集説明会を行う。異文化コミュニケーション学部 HP、R-Guide で確認すること。

注意事項

本科目は、インターンシップ、就業体験、その他の学外活動等による実践的な学びを中心に構成する授業である。

College Life Planning A

College Life Planning A

中田 達也／ガービー, K. (NAKATA TATSUYA/ GARVEY KEVIN PATRICK)

開講年度： 2024
科目設置学部： 異文化コミュニケーション学部
科目コード等： DM199
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： ICC1521
使用言語： 英語
授業形式： 講義
履修登録方法： 備考参照
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考： 学びの精神
1 年次：自動登録, 2 年次以上：科目コード登録

授業の目標 / Course Objectives

This course will introduce the position and purpose of the study abroad experience in relation to the 4-year curriculum of the College of Intercultural Communication. In addition, this course will direct each student to find the connection between studying at the College of Intercultural Communication and future goals.

授業の内容 / Course Contents

This course will cover the learning goals and experiences offered to College of Intercultural Communication (CIC) students. In addition, the course will cover the implications of the study abroad 「海外留学研修/Overseas Study Program」 courses and how to maximize that experience for yourself through self-reflection exercises and goal setting. Furthermore, the course will ask you to address how you can apply your studies and experiences to the betterment of society. To accomplish these tasks, you will be asked to participate actively in discussions, presentations, classroom activities, and self-reflection writing assignments.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回： Introduction to the course

Study Abroad Guidance session
(Nakata)
2回：Icebreaking
Studying abroad: Where to go and why?
Study Abroad Guidance session
(Nakata)
3回：English as a global language
(Nakata)
4回：Guest speaker
(Nakata)
5回：CIC: Purpose and goals
(Nakata)
6回：Group projects
(Nakata)
7回：Group presentations
(Nakata)
8回：Video project: Introducing CIC to Prospective Students
Group projects
(Garvey)
9回：Building towards an effective CV & Cover Letter
Group presentations
(Garvey)
10回：Worlds Englishes in the Workplace
Group presentations
(Garvey)
11回：Guest speaker
(Garvey)
12回：Intercultural Case Studies: Critical incidents
Study Abroad Guidance session
(Garvey)
13回：Study Abroad: pre-entry and re-entry strategies
Sempai panel discussion
(Garvey)
14回：Study Abroad: Culture Shock and Reverse Culture Shock
International student panel discussion
(Garvey)

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド* (パワポ* 等) の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：○	校外実習・フィールドワーク	：

上記いずれも用いない予定 :

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

To be announced in class.

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Assignments:40% Group Projects:20% Participation:40%

テキスト / Textbooks

To be provided by the instructor.

参考文献 / Readings**学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare**

授業中に Google フォームなどによる課題が課されるため、タブレット端末やノートパソコンの持参を推奨する。

It would be helpful to have a device in class (e.g., a tablet or laptop) to view materials distributed via Canvas and/or Google Drive.

その他 / Others

この授業では、自らが積極的に考え、学ぼうとする姿勢が強く要求される。また、さまざまなゲストスピーカーの話聞き、それを自らの経験としていくことが重要であるため、積極的に真摯な姿勢で授業に臨むこと。

It is important to apply what is discussed in this class to your own learning and experiences. Be open to all guest speakers and gain from their experiences

College Life Planning B

College Life Planning B

マーティン, R / シ, ゲンギン (MARTIN, RON R. / ZI YANYIN)

開講年度： 2024
科目設置学部： 異文化コミュニケーション学部
科目コード等： DM200
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項） Face-to-face
校地： 池袋
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： ICC1621
使用言語： 英語
授業形式： 講義
履修登録方法： 備考参照
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考： 学びの精神
1 年次：自動登録, 2 年次以上：科目コード登録

授業の目標 / Course Objectives

This course will build upon College Life Planning A. This course will focus on the study abroad experience, focusing on what could occur during and after it. This course will connect the 4-year curriculum of the College of Intercultural Communication to volunteering, internships, and other experiential learning activities. In addition, this course will direct each student to find the connection between studying at the College of Intercultural Communication and future goals.

授業の内容 / Course Contents

This course will cover the learning goals and experiences offered to College of Intercultural Communication (CIC) students. In addition, the course will cover the implications of the study abroad 「海外留学研修/Overseas Study Program」 courses and how to maximize that experience for yourself through self-reflection exercises and goal setting. Furthermore, the course will ask you to address how you can apply your studies and experiences to the betterment of society. To accomplish these tasks, you will be asked to participate actively in discussions, presentations, classroom activities, and self-reflection writing assignments and to document your work and

progress in a portfolio.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：1st class: Introduction and overview
- 2 回：2nd class: CIC: Purpose and goals (1)
- 3 回：3rd class: Guest Speaker (1)
- 4 回：4th class: Experiential Learning
- 5 回：5th class: CIC: Purpose and goals (2)
- 6 回：6th class: Group Projects
- 7 回：7th class: Group Projects
- 8 回：8th class: CIC: Purpose and goals (3)
- 9 回：9th class: Guest speaker (2)
- 10 回：10th class: Group presentations (1)
- 11 回：11th class: Group presentations (2)
- 12 回：12th class: Group presentations (3)
- 13 回：13th class: CIC student panel discussion
- 14 回：14th class: CIC student panel discussion

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	グループ発表	:	○	ディスカッション・ディベート	:	○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

To be announced in class

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：002) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Attendance & Participation:50% Reflection Papers:20% Portfolio:20% Group Presentation:10%

テキスト / Textbooks

None.

参考文献 / Readings

Readings will be given by the instructor.

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

It would be helpful to have a device in class (e.g., a tablet or laptop) to view materials distributed via Canvas and/or Google Drive.

その他 / Others

It is important to apply what is discussed in this class to your own learning and experiences. Be open to all guest speakers and gain from their experiences by thinking about your own goals.

コミュニケーションセミナー 3A-R (英語)

Communication Seminar 3A-R (English)

中込 幸子 (NAKAGOME SACHIKO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 異文化コミュニケーション学部

科目コード等： DM201

授業形態： 対面（一部オンライン）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 4

科目ナンバリング： ICC2621

使用言語： 英語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 備考参照

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 自動登録または「その他」登録

Up to six Classes before presentations and reports or tests will be held online for individual consultation (sometime in weeks 5, 6, 12, 13) Details will be announced in class.

授業の目標 / Course Objectives

This course is designed to prepare students to listen to, understand, and take part in discussions about academic lectures in English.

授業の内容 / Course Contents

Students will watch and listen to video lectures, and study language that helps listeners follow lectures, work on comprehension, take notes and summarize, ask questions, and improve discussions skills.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回： Introduction to academic lecture comprehension.

Introduction to academic discussion/debate.

2 回： Chapter 1: Gender and Spending 1

Chapter 1: Gender and Spending 2

3 回： Chapter 2: Ads are Everywhere 1

Chapter 2: Ads are Everywhere 2
 4回：Chapter 3: Work habits in the 21st Century 1
 Chapter 3: Work habits in the 21st Century 2
 5回：Chapter 4: Leisure Time in the 21st Century 1
 Chapter 4: Leisure Time in the 21st Century 2
 6回：Chapter 5: Science and Pleasure: What We Eat 1
 Chapter 5: Science and Pleasure: What We Eat 2
 7回：Chapter 6: Unique Solutions to Pollution 1
 Chapter 6: Unique Solutions to Pollution 2
 8回：Chapter 7: Getting the News in the High-Tech Age 1
 Chapter 7: Getting the News in the High-Tech Age 2
 9回：Chapter 8: Who's on TV? 1
 Chapter 8: Who's on TV? 2
 10回：Chapter 9: What's up with Slang? 1
 Chapter 9: What's up with Slang? 2
 11回：Chapter 10: Global English 1
 Chapter 10: Global English 2
 12回：Student Lectures Prep
 Student Lectures Prep
 13回：Student Lectures 1
 Student Lectures 2
 14回：Final Review 1
 Final Review 2

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワーポイント等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

To be announced in each class.

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Attendance and Participation:40% Homework and Quizzes:30% Final Test or Evaluation:30%

テキスト / Textbooks

Sarosy, P., & Sherak, K. Lecture Ready 2 Oxford 2013 9780194417280 ○

参考文献 / Readings

To be assigned by each teacher.

その他 / Others

Schedule, off/online format, and syllabus content are subject to change.

コミュニケーションセミナー 3A-R (英語)

Communication Seminar 3A-R (English)

伊藤 萌紅 (ITO MEGU)

開講年度： 2024

科目設置学部： 異文化コミュニケーション学部

科目コード等： DM202

授業形態： 対面 (全回対面)

授業形態 (補足事項)

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 4

科目ナンバリング： ICC2621

使用言語： 英語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 備考参照

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針 (DP) や教育課程編成の方針 (CP) に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 自動登録または「その他」登録

授業の目標 / Course Objectives

This course is designed to prepare students to listen to, understand, and take part in discussions about academic lectures in English.

授業の内容 / Course Contents

Students will watch and listen to video lectures, and study language that helps listeners follow lectures, work on comprehension, take notes and summarize, ask questions, and improve discussions skills.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回： Introduction to academic lecture comprehension.

Introduction to academic discussion/debate.

2 回： Chapter 1: Gender and Spending 1

Chapter 1: Gender and Spending 2

3 回： Chapter 2: Ads are Everywhere 1

Chapter 2: Ads are Everywhere 2

4 回： Chapter 3: Work habits in the 21st Century 1

Chapter 3: Work habits in the 21st Century 2
 5回：Chapter 4: Leisure Time in the 21st Century 1
 Chapter 4: Leisure Time in the 21st Century 2
 6回：Chapter 5: Science and Pleasure: What We Eat 1
 Chapter 5: Science and Pleasure: What We Eat 2
 7回：Chapter 6: Unique Solutions to Pollution 1
 Chapter 6: Unique Solutions to Pollution 2
 8回：Chapter 7: Getting the News in the High-Tech Age 1
 Chapter 7: Getting the News in the High-Tech Age 2
 9回：Chapter 8: Who's on TV? 1
 Chapter 8: Who's on TV? 2
 10回：Chapter 9: What's up with Slang? 1
 Chapter 9: What's up with Slang? 2
 11回：Chapter 10: Global English 1
 Chapter 10: Global English 2
 12回：Student Lectures Prep
 Student Lectures Prep
 13回：Student Lectures 1
 Student Lectures 2
 14回：Final Review 1
 Final Review 2

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワーポイント等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

To be announced in each class.

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Attendance and Participation:40% Homework and Quizzes:30% Final Test or Evaluation:30%

テキスト / Textbooks

Sarosy, P., & Sherak, K. Lecture Ready 2 Oxford 2013 9780194417280 ○

参考文献 / Readings

To be assigned by each teacher.

その他 / Others

Schedule, off/online format, and syllabus content are subject to change.

コミュニケーションセミナー 3A-R (英語)

Communication Seminar 3A-R (English)

ムチェトゥ (MUCHETU RANGARIRAI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 異文化コミュニケーション学部

科目コード等： DM203

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 4

科目ナンバリング： ICC2621

使用言語： 英語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 備考参照

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 自動登録または「その他」登録

授業の目標 / Course Objectives

This course is designed to prepare students to listen to, understand, and take part in discussions about academic lectures in English.

授業の内容 / Course Contents

Students will watch and listen to video lectures, and study language that helps listeners follow lectures, work on comprehension, take notes and summarize, ask questions, and improve discussions skills.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回： Introduction to academic lecture comprehension.

Introduction to academic discussion/debate.

2 回： Chapter 1: Gender and Spending 1

Chapter 1: Gender and Spending 2

3 回： Chapter 2: Ads are Everywhere 1

Chapter 2: Ads are Everywhere 2

4 回： Chapter 3: Work habits in the 21st Century 1

Chapter 3: Work habits in the 21st Century 2
 5回：Chapter 4: Leisure Time in the 21st Century 1
 Chapter 4: Leisure Time in the 21st Century 2
 6回：Chapter 5: Science and Pleasure: What We Eat 1
 Chapter 5: Science and Pleasure: What We Eat 2
 7回：Chapter 6: Unique Solutions to Pollution 1
 Chapter 6: Unique Solutions to Pollution 2
 8回：Chapter 7: Getting the News in the High-Tech Age 1
 Chapter 7: Getting the News in the High-Tech Age 2
 9回：Chapter 8: Who's on TV? 1
 Chapter 8: Who's on TV? 2
 10回：Chapter 9: What's up with Slang? 1
 Chapter 9: What's up with Slang? 2
 11回：Chapter 10: Global English 1
 Chapter 10: Global English 2
 12回：Student Lectures Prep
 Student Lectures Prep
 13回：Student Lectures 1
 Student Lectures 2
 14回：Final Review 1
 Final Review 2

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワーポイント等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

To be announced in each class.

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Attendance and Participation:40% Homework and Quizzes:30% Final Test or Evaluation:30%

テキスト / Textbooks

Sarosy, P., & Sherak, K. Lecture Ready 2 Oxford 2013 9780194417280 ○

参考文献 / Readings

To be assigned by each teacher.

その他 / Others

Schedule, off/online format, and syllabus content are subject to change.

コミュニケーションセミナー 3A-R (英語)

Communication Seminar 3A-R (English)

バージ, D (BARGE DARCEY)

開講年度： 2024

科目設置学部： 異文化コミュニケーション学部

科目コード等： DM204

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 4

科目ナンバリング： ICC2621

使用言語： 英語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 備考参照

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 自動登録または「その他」登録

授業の目標 / Course Objectives

This course is designed to prepare students to listen to, understand, and take part in discussions about academic lectures in English.

授業の内容 / Course Contents

Students will watch and listen to video lectures, and study language that helps listeners follow lectures, work on comprehension, take notes and summarize, ask questions, and improve discussions skills.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回： Introduction to academic lecture comprehension.

Introduction to academic discussion/debate.

2 回： Chapter 1: Gender and Spending 1

Chapter 1: Gender and Spending 2

3 回： Chapter 2: Ads are Everywhere 1

Chapter 2: Ads are Everywhere 2

4 回： Chapter 3: Work habits in the 21st Century 1

Chapter 3: Work habits in the 21st Century 2
 5回：Chapter 4: Leisure Time in the 21st Century 1
 Chapter 4: Leisure Time in the 21st Century 2
 6回：Chapter 5: Science and Pleasure: What We Eat 1
 Chapter 5: Science and Pleasure: What We Eat 2
 7回：Chapter 6: Unique Solutions to Pollution 1
 Chapter 6: Unique Solutions to Pollution 2
 8回：Chapter 7: Getting the News in the High-Tech Age 1
 Chapter 7: Getting the News in the High-Tech Age 2
 9回：Chapter 8: Who's on TV? 1
 Chapter 8: Who's on TV? 2
 10回：Chapter 9: What's up with Slang? 1
 Chapter 9: What's up with Slang? 2
 11回：Chapter 10: Global English 1
 Chapter 10: Global English 2
 12回：Student Lectures Prep
 Student Lectures Prep
 13回：Student Lectures 1
 Student Lectures 2
 14回：Final Review 1
 Final Review 2

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワーポイント等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

To be announced in each class.

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Attendance and Participation:40% Homework and Quizzes:30% Final Test or Evaluation:30%

テキスト / Textbooks

Sarosy, P., & Sherak, K. Lecture Ready 2 Oxford 2013 9780194417280 ○

参考文献 / Readings

To be assigned by each teacher.

その他 / Others

Schedule, off/online format, and syllabus content are subject to change.

コミュニケーションセミナー 3A-R (英語)

Communication Seminar 3A-R (English)

バージ, D (BARGE DARCEY)

開講年度： 2024
科目設置学部： 異文化コミュニケーション学部
科目コード等： DM205
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 4
科目ナンバリング： ICC2621
使用言語： 英語
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 備考参照
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考： 自動登録または「その他」登録

授業の目標 / Course Objectives

This course is designed to prepare students to listen to, understand, and take part in discussions about academic lectures in English.

授業の内容 / Course Contents

Students will watch and listen to video lectures, and study language that helps listeners follow lectures, work on comprehension, take notes and summarize, ask questions, and improve discussions skills.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回： Introduction to academic lecture comprehension.
Introduction to academic discussion/debate.
- 2 回： Chapter 1: Gender and Spending 1
Chapter 1: Gender and Spending 2
- 3 回： Chapter 2: Ads are Everywhere 1
Chapter 2: Ads are Everywhere 2
- 4 回： Chapter 3: Work habits in the 21st Century 1

Chapter 3: Work habits in the 21st Century 2
 5 回：Chapter 4: Leisure Time in the 21st Century 1
 Chapter 4: Leisure Time in the 21st Century 2
 6 回：Chapter 5: Science and Pleasure: What We Eat 1
 Chapter 5: Science and Pleasure: What We Eat 2
 7 回：Chapter 6: Unique Solutions to Pollution 1
 Chapter 6: Unique Solutions to Pollution 2
 8 回：Chapter 7: Getting the News in the High-Tech Age 1
 Chapter 7: Getting the News in the High-Tech Age 2
 9 回：Chapter 8: Who's on TV? 1
 Chapter 8: Who's on TV? 2
 10 回：Chapter 9: What's up with Slang? 1
 Chapter 9: What's up with Slang? 2
 11 回：Chapter 10: Global English 1
 Chapter 10: Global English 2
 12 回：Student Lectures Prep
 Student Lectures Prep
 13 回：Student Lectures 1
 Student Lectures 2
 14 回：Final Review 1
 Final Review 2

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワーポイント等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

To be announced in each class.

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Attendance and Participation:40% Homework and Quizzes:30% Final Test or Evaluation:30%

テキスト / Textbooks

Sarosy, P., & Sherak, K. Lecture Ready 2 Oxford 2013 9780194417280 ○

参考文献 / Readings

To be assigned by each teacher.

その他 / Others

Schedule, off/online format, and syllabus content are subject to change.

コミュニケーションセミナー 3A-R (英語)

Communication Seminar 3A-R (English)

シ, ゲンギン (ZI YANYIN)

開講年度： 2024
科目設置学部： 異文化コミュニケーション学部
科目コード等： DM206
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 4
科目ナンバリング： ICC2621
使用言語： 英語
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 備考参照
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考： 自動登録または「その他」登録

授業の目標 / Course Objectives

This course is designed to prepare students to listen to, understand, and take part in discussions about academic lectures in English.

授業の内容 / Course Contents

Students will watch and listen to video lectures, and study language that helps listeners follow lectures, work on comprehension, take notes and summarize, ask questions, and improve discussions skills.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回： Introduction to academic lecture comprehension.
Introduction to academic discussion/debate.
- 2 回： Chapter 1: Gender and Spending 1
Chapter 1: Gender and Spending 2
- 3 回： Chapter 2: Ads are Everywhere 1
Chapter 2: Ads are Everywhere 2
- 4 回： Chapter 3: Work habits in the 21st Century 1

Chapter 3: Work habits in the 21st Century 2
 5 回：Chapter 4: Leisure Time in the 21st Century 1
 Chapter 4: Leisure Time in the 21st Century 2
 6 回：Chapter 5: Science and Pleasure: What We Eat 1
 Chapter 5: Science and Pleasure: What We Eat 2
 7 回：Chapter 6: Unique Solutions to Pollution 1
 Chapter 6: Unique Solutions to Pollution 2
 8 回：Chapter 7: Getting the News in the High-Tech Age 1
 Chapter 7: Getting the News in the High-Tech Age 2
 9 回：Chapter 8: Who's on TV? 1
 Chapter 8: Who's on TV? 2
 10 回：Chapter 9: What's up with Slang? 1
 Chapter 9: What's up with Slang? 2
 11 回：Chapter 10: Global English 1
 Chapter 10: Global English 2
 12 回：Student Lectures Prep
 Student Lectures Prep
 13 回：Student Lectures 1
 Student Lectures 2
 14 回：Final Review 1
 Final Review 2

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワーポイント等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

To be announced in each class.

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Attendance and Participation:40% Homework and Quizzes:30% Final Test or Evaluation:30%

テキスト / Textbooks

Sarosy, P., & Sherak, K. Lecture Ready 2 Oxford 2013 9780194417280 ○

参考文献 / Readings

To be assigned by each teacher.

その他 / Others

Schedule, off/online format, and syllabus content are subject to change.

コミュニケーションセミナー 3B-R (ドイツ語)

Communication Seminar 3B-R (German)

ケルン, D. (KERN DANIEL S.)

開講年度： 2024

科目設置学部： 異文化コミュニケーション学部

科目コード等： DM221

授業形態： 対面 (全回対面)

授業形態 (補足事項)

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 4

科目ナンバリング： ICC2623

使用言語： その他

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 備考参照

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針 (DP) や教育課程編成の方針 (CP) に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 自動登録または科目コード登録

授業の目標 / Course Objectives

2 年次秋学期の「海外留学研修」に向け、中級レベルの総合的なドイツ語の実践的言語運用能力を養成する。Students will reach an intermediate level of practical proficiency in German in preparation for their travel to a German-speaking country in the fall semester of their second year on the Overseas Study Program.

授業の内容 / Course Contents

週 2 回の授業で、ネイティブ教員が担当。ドイツでの生活に不可欠な会話、簡単な文章の読解、自己表現などを練習し、総合的なドイツ語運用能力を身につける。

The class meets twice per week, and the instructor is a native speaker of German. Students will become generally proficient in German by practicing conversation required for life in Germany, understanding simple sentences, self-expression and presentations.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：導入：既習事項の確認

2 回：予定：時刻の表現

3 回：予定：約束をする

- 4回：道をたずねる：場所を表す前置詞表現
 5回：道をたずねる：場所の説明
 6回：仕事：職業と仕事内容の説明
 7回：仕事：職業についての意見を述べる
 8回：ベルリン：観光案内を読む
 9回：ベルリン：旅の予定について説明する
 10回：休暇：休暇の計画を立てる
 11回：休暇：ドイツの休暇の過ごし方
 12回：食事：買い物の仕方／分量の言い方
 13回：洋服と気候：形容詞の使い方、天気の違い
 14回：復習：最終テスト

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワーポイント等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

毎回の授業で指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 毎回の授業への参加度や提出物など:50% 随時実施する小テストや最終テストなど:50%

テキスト / Textbooks

Sabine Jentges DaF leicht A2.1 Klett 2014 9783126762519 ○

参考文献 / Readings

授業内で指示する。

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

1年次に習得したドイツ語力を前提として授業を進める。

その他 / Others

会話練習，グループワークなどを中心に授業をすすめる。宿題・復習などの自主学習を積極的に行うこと。
 小テスト，課題については随時授業内でフィードバックを行う。

コミュニケーションセミナー 3B-R (フランス語)

Communication Seminar 3B-R (French)

カリオ, V. / デルヴロワ, M (CARIO VINCENT C./ DERVELOIS MICHAEL)

開講年度： 2024
科目設置学部： 異文化コミュニケーション学部
科目コード等： DM222
授業形態： 対面 (全回対面)
授業形態 (補足事項)
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 4
科目ナンバリング： ICC2623
使用言語： その他
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 備考参照
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針 (DP) や教育課程編成の方針 (CP) に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考： 自動登録または科目コード登録
火曜日：デルヴロワ、金曜日：カリオ

授業の目標 / Course Objectives

2 年次秋学期の「海外留学研修」に向け、中級レベルの総合的なフランス語の実践的言語運用能力を養成する。

Students will reach an intermediate level of practical proficiency in French in preparation for their travel to a French-speaking country on the Overseas Study Program in the fall semester of their second year.

授業の内容 / Course Contents

週 2 回の授業。原則として、ネイティブ教員が担当する。留学した際、生活・学習両面で適応できるだけの能力を身につけておくため、口頭表現、聴解、作文などの訓練を総合的かつ実践的におこなう。

テキストとして、各種検定・資格試験の過去問からの抜粋を使用し、以下に挙げる内容を組み合わせて段階的に進めていく。

The class meets twice per week. As a rule, the instructor is a native speaker. Students will do comprehensive, practical exercises in speaking, listening and writing to give them the ability to apply their French skills to both daily life and study when they study abroad in France.

Excerpts from past language proficiency and certification exams will be used as complementary texts as the instructor moves through the lecture content below.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：初級文法の復習
- 2回：中級文法の習得
- 3回：発音矯正
- 4回：言語知識の実践への応用
- 5回：フランスの文化と社会に関する知識の獲得
- 6回：時事内容の把握
- 7回：読解能力の養成
- 8回：聞き取り能力の養成
- 9回：口頭表現の習得
- 10回：ディスカッション能力の養成
- 11回：自己紹介文（CV）の作成
- 12回：フランス語による論理的思考能力の養成
- 13回：個々のスキルの統合
- 14回：留学のためのフランス語

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

毎回の授業で指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業への参加度:50% 各種テストや提出物:50%

テキスト / Textbooks

授業中に配付するプリント。

参考文献 / Readings

授業中に随時紹介する。

その他 / Others

授業時に前回授業のフィードバックをする。

本科目は週2回の授業である。

授業では学生への質問も活発に行う予定なので、積極的な受講態度が期待される。

コミュニケーションセミナー3B-R (スペイン語)

Communication Seminar 3B-R (Spanish)

ヴェガ G. (VEGA G. ARTURO)

開講年度：	2024
科目設置学部：	異文化コミュニケーション学部
科目コード等：	DM223
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	春学期
単位：	4
科目ナンバリング：	ICC2623
使用言語：	その他
授業形式：	演習・ゼミ
履修登録方法：	備考参照
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	自動登録または科目コード登録

授業の目標 / Course Objectives

主として2年次秋学期にスペイン語圏での留学プログラムを履修する学生向けに、週2回、留学準備と中級レベルの総合的なスペイン語実践運用力養成を図る。

Students will reach an intermediate level of practical proficiency in Spanish in preparation for their travel to a Spanish-speaking country in the fall semester of their second year on the Overseas Study Program.

授業の内容 / Course Contents

スペイン語の基礎力を強化し、コミュニケーション能力の幅を広げ、海外の様々な状況の中で他者とコミュニケーションできる能力を養う。また、留学中の異文化間コミュニケーションの可能性を高めるために、スペイン語圏の国々に関する知識を深め、広げることも目指す。

The course will help students develop and strengthen their skills in basic Spanish language to broaden their communicative competence and be able to communicate with others abroad in a variety of communicative contexts. Students will also deepen and broaden their knowledge of Spanish-speaking countries to develop as intercultural speakers during their study abroad.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：自己紹介。直接現在形、疑問詞。動詞＋不定詞、接続詞 porque と前置詞 para。
- 2回：世界のスペイン語。昨年度にしたこと。点過去。
- 3回：自分の家族、友人。動詞 ser, tener, llevar。
- 4回：子供のころ。線過去。
- 5回：以前の生活と今の生活。頻度表現。線過去と点過去（1）。
- 6回：私の町、何でも近くにあったころ。関係詞 donde。
- 7回：自由時間。線過去と点過去（2）。
- 8回：夜に出かける。招待する表現。現在分詞。
- 9回：～へ旅行した。線過去と点過去（3）。
- 10回：最近の休暇。命令形。直接目的語と間接目的語。
- 11回：食習慣について話す。過去完了と現在完了。
- 12回：過去の経験や行為について話す。時を表す表現。現在完了。もう ya、まだ～ない todavía。
- 13回：まとめと復習。会話テスト。
- 14回：最終テスト・最終課題。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワーポイント等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業時にその都度指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業参加（授業内発言、発表、ミニ会話テスト）：30% 課題（レポート、口述レポート、録音）：30% テスト（中間、最終、会話）：40%

テキスト / Textbooks

MOYANO LOPEZ, Juan Carlos; GARCIA RUIZ-CASTILLO, Carlos; HIROYASU, Yoshimi 『いいね！スペイン語2 第2版 ¡Muy Bien! 2 Segunda Edición』 朝日出版社 2024 9784255551562 ○

参考文献 / Readings

その他 / Others

視聴覚教材などを個人的に利用することもお薦め。図書館のスペイン語初学者用リーダーコーナーを活用してほしい。

コミュニケーションセミナー 3B-R (中国語)

Communication Seminar 3B-R (Chinese)

王 曉音 (WANG XIAOYIN)

開講年度：	2024
科目設置学部：	異文化コミュニケーション学部
科目コード等：	DM224
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	春学期
単位：	4
科目ナンバリング：	ICC2623
使用言語：	その他
授業形式：	演習・ゼミ
履修登録方法：	備考参照
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	自動登録または科目コード登録

授業の目標 / Course Objectives

2 年次秋学期の「海外留学研修」のため、中級レベルの実践的な中国語会話力を身につけることを目指す。

As this study abroad program occurs in the fall semester of second year, students should aim to develop intermediate-level practical Chinese-speaking ability.

授業の内容 / Course Contents

中国語圏での留学生生活を円滑に送るために、必要な言語運用能力を身につける。週 2 回の授業では、実際に留学に行く過程を想定し、各場面に応じた多岐にわたる表現を学習する。ネイティブ教員が設定したテーマに基づいて、学生は自らリアクションを考え、中国語で会話する。文字情報に加えて、画像や映像などの視覚資料も活用しながら、各場面の状況を再現する。学生は寸劇を通じて自分の考えを表現し、中国語を柔軟に運用する能力を向上させる。会話練習を通じて、話す力だけでなく、聞く力や豊かな言語表現力、文法の運用など、中国語コミュニケーション

In this course, students will develop the necessary language proficiency which helps them adapt smoothly to university life in Chinese-speaking regions. Classes are held twice a week, during which students will simulate the process of studying abroad and learn a diverse range of expressions tailored to various situations. Aligned with

themes set by native instructors, students will engage in conversations in Chinese, contemplating and responding to situations. In addition to textual materials, visual resources such as pictures and videos will be utilized to recreate real-life scenarios. Through skits, students will convey their thoughts, enhancing their ability to apply Chinese flexibly in different situations. Students will not only improve their speaking skills but also enhance their Chinese communication abilities, including listening skills, diverse language expressions, and the usage of grammar through conversation practice.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：空港への到着（自己紹介、両替）
- 2回：キャンパス（道を尋ねる、教室・宿舎・食堂・図書館などへの行き方）
- 3回：歓迎会（専攻や趣味を紹介する、相手に尋ねる）
- 4回：授業スタート（大学生の一日）
- 5回：余暇活動（スポーツ、映画鑑賞、展覧会など）
- 6回：交通手段の利用（バス、地下鉄、タクシー、高鉄、飛行機）
- 7回：通信手段の利用（電話、スマートフォン、インターネット、SNS）
- 8回：レストラン（予約、注文、料理の名前、会計）
- 9回：買い物（さまざまな店と支払い方法）
- 10回：病院で（受付、病状の説明、薬の受け取り）
- 11回：旅行（行き先、行き方、宿泊、食事、観光名所）
- 12回：友人宅への訪問（お誘いへの返事、事前確認、マナー）
- 13回：送別会（お別れを告げる、感謝の言葉）
- 14回：最終テスト

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワーポイント等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業時に指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業への参加度:10% グループワーク、小テスト、各種提出物:50% 最終テスト割合：40%

テキスト / Textbooks

蘇紅 『場面別 中国語会話表現 4800』 ベレ出版 2015 9784860644529 -

参考文献 / Readings

授業時に適宜紹介する。

その他 / Others

場面ごとに寸劇をする。

コミュニケーションセミナー 3B-R (朝鮮語)

Communication Seminar 3B-R (Korean)

李 リョン京 (LEE RYONGKYONG)

開講年度： 2024
科目設置学部： 異文化コミュニケーション学部
科目コード等： DM225
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項） 対面（全回対面）/Face to face (all classes are face-to-face)
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 4
科目ナンバリング： ICC2623
使用言語： その他
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 備考参照
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考： 自動登録または科目コード登録

授業の目標 / Course Objectives

2 年次秋学期の「海外留学研修」に向け、中級レベルの総合的な朝鮮語の実践的言語運用能力を養成する。Students will reach an intermediate level of practical proficiency in Korean in preparation for their travel to a Korean-speaking country in the fall semester of their second year on the Overseas Study Program.

授業の内容 / Course Contents

韓国で日本語を使わずに行われる授業についていくことができるよう、朝鮮語でのやり取りに習熟するための授業を行う。朝鮮語圏への留学を希望する者は必ず履修する。韓国で使われている教材を使って週 2 回の授業を行う。語彙を増やし、新しい表現を身につけるとともに、多くの会話表現を練習し身につける。また、聞き取りはもちろん、的確な音読の能力や、教材にある文章の読解も行う。

The goal of this course is to master conversational exchange in Korean to enable students to take classes conducted completely in Korean (no Japanese). Students who wish to travel abroad to a Korean-speaking country must take this course. Course materials used in South Korea will be used in this class, which meets twice per week. Students will expand their vocabularies, master new expressions and do exercises to master many

conversational expressions. Students will work on listening skills as well as their ability to read aloud and comprehend the writing in course materials.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：オリエンテーション
- 2回：自己紹介について
- 3回：食事について
- 4回：買い物について
- 5回：招待や会合について
- 6回：交通について
- 7回：公共機関の利用について
- 8回：電話のかけ方について
- 9回：病院の利用について
- 10回：旅行の計画や予約について
- 11回：火事について
- 12回：現地研修予行演習 1
- 13回：現地研修予行演習 2
- 14回：復習とまとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワーポイント等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

毎回の授業で指示する。特に復習に力を入れ語彙力を増やすこと。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業への参加度:50% テストや提出物:50%

テキスト / Textbooks

授業時にプリントを配付する。

参考文献 / Readings

油谷 幸利（編集），門脇 誠一（編集），松尾 勇（編集），高島 淑郎（編集） 『韓日辞典』 小学館 2018
9784095157214

キャリア実践演習A

Career Skills Development A

キャリア開発/Career Development

木島 英治 (KIJIMA EIJI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 異文化コミュニケーション学部

科目コード等： DM226

授業形態： 対面（一部オンライン）

授業形態（補足事項）全授業回のうち2回はオンラインで実施する（5・10回目の授業）。

オンライン実施回に変更が生じる場合は、授業内または Canvas LMS 等で周知する。

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： ICC3620

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 備考参照

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 外国人留学生入試による入学者・一般9月入学者：自動登録, その他の学生：「その他」登録

授業の目標 / Course Objectives

1. 将来のキャリアを考えキャリア目標を設定した上で卒業後の進路を決定すること

2. これからのキャリアを考え、自身の強み・弱みを認識し、表現できること

3. 世界や日本のビジネスの仕組みを理解し、活躍してみたい業界、企業・団体を見つけること

1. To think about your future career, and having set a career goal first, decide on a route to take after graduation.

2. To think about your future career, and be able to recognize and present your personal strengths and weaknesses.

3. To understand Japanese business structures and find industries, companies or groups that you would like to actively participate in.

授業の内容 / Course Contents

卒業後、働くことを考えている留学生を対象に、キャリアビジョンを実現するために必要となる就職活動の理

解と必要な準備について学習します。

本授業を受講することで、「将来目指したい自分」や「働きたい仕事」を見つけていきます。

また、日本での就職活動において留学生が不足している準備を行うことができます。

各授業回のテーマごとに、講義・個人ワーク・グループワークという流れで授業を進めます。

教員と学生、学生同士がコミュニケーションをとりながら理解を深めます。

This class provides International students hoping to find work in Japan with sufficient understanding of the Japanese job-searching process, and the preparation needed to realize their career vision.

By taking this class, you can discover companies you want to work for and the person you aspire to be.

Also, you can carry out preparation for the Japanese job-searching process that international students specifically need.

Lectures, individual work and group work will be carried out for each topic covered in classes.

Students will communicate with teaching staff and each other to improve their understanding of the topics.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1回：ガイダンス（授業目標、進め方、成績評価の方法）

2回：キャリアデザイン1

3回：キャリアデザイン2

4回：キャリア理論1

5回：キャリア理論2

6回：自己分析1

7回：自己分析2

8回：自己分析3

9回：社会人スキル1

10回：社会人スキル2

11回：業界・企業研究1

12回：業界・企業研究2 ゲストスピーカー

13回：業界・企業研究3 インターンシップ

14回：授業振り返り

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

適宜、企業関係者等を招き実践的なお話をうかがう機会を設けます。

適宜、個別相談（キャリアカウンセリング）を実施します。

授業内容によってはオンラインでの実施をいたします。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業後のリアクションペーパー（当日提出）：50% 授業内ワークへの参加度：20%

最終レポート割合：30%

テキスト/ Textbooks

授業内容に応じて、参考資料やワークシート等を随時配布します。

参考文献 / Readings

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

日本語での授業となります。

キャリア実践演習B

Career Skills Development B

キャリア開発/Career Development

木島 英治 (KIJIMA EIJI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 異文化コミュニケーション学部

科目コード等： DM227

授業形態： 対面（一部オンライン）

授業形態（補足事項）全授業回のうち2回はオンラインで実施する（5・10回目の授業）。

オンライン実施回に変更が生じる場合は、授業内または Canvas LMS 等で周知する。

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： ICC3620

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 備考参照

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 外国人留学生入試による入学者・一般9月入学者：自動登録，その他の学生：「その他」登録

授業の目標 / Course Objectives

- 企業・就職活動の文化理解と仕組みを理解し対応できる力をつけること
- 働きたい企業が求める人材を理解し、自分の魅力を表現することができること
- 円滑なコミュニケーションを行うための文章力、表現力を身に付けること

- To understand the cultural and structural aspects of job searching in Japan, and develop the strength to deal with the process.
- To understand the type of candidate sought by the companies you are interested in working for, and learn how to present your best attributes.
- To develop writing ability and power of expression needed for smooth communication.

授業の内容 / Course Contents

ビジネスに必要な文章力、コミュニケーション能力を育成します。

自律的に就職活動を行うための知識とノウハウを習得することができます。

各授業回のテーマごとに、講義・個人ワーク・グループワークという流れで授業を進めます。

教員と学生、学生同士がコミュニケーションをとりながら理解を深めます。

This class provides students with writing ability and communication skills needed to understand the Japanese job-searching process and to prepare for examinations.

Focusing on learning job interview techniques and how to write a curriculum vitae (or job entry sheet), this class provides students with the knowledge and practical knowhow to autonomously look and apply for jobs in Japan.

A lecture, individual work and group work will be carried out for each topic covered in classes.

Students will communicate with teaching staff and each other to improve their understanding of the topics.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス（授業目標、進め方、成績評価の方法）
- 2回：組織・企業研究1 会社・仕事の価値を知る
- 3回：組織・企業研究2 企業とはなにか？を体感する
- 4回：企業人事研究1 会社の仕組みを知る
- 5回：企業人事研究2 企業側の採用・選考基準を体感する
- 6回：就活研究1 スケジュールとゴール設定
- 7回：就活研究1 面接の種類と基本マナー
- 8回：就活研究2 自分の強みを整理する
- 9回：就活研究3 エントリーシートの目的とゴールを知る
- 10回：就活研究4 ゲストスピーカー
- 11回：社会人能力 対人力（コミュニケーション・共感）を知る
- 12回：キャリアデザイン1 仕事を通して実現したいキャリアを考える
- 13回：キャリアデザイン2 キャリアづくりのためのアクションプランを考える
- 14回：授業のまとめ・キャリア実践演習Bの振り返り

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業内容によってオンライン授業を活用していきます。

適宜、企業関係者等を招き実践的なお話をうかがう機会を設けます。

適宜、個別相談（キャリアカウンセリング）を実施します。

授業時間外の学習に関する指示は、必要に応じて別途指示します。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業後のリアクションペーパー（当日提出）：50% 授業への参加度（グループワーク）：25% 最終レポート割合：25%

テキスト / Textbooks

授業内容に応じて、参考資料やワークシート等を随時配布します。

参考文献 / Readings

久保田学 『改訂版 留学生のための就職内定ワークブック』 日本能率協会マネジメントセンター 2022
9784820729907

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

日本語での授業となります。

Seminar in English G

Seminar in English G

Multiculturalism in Australia

ラペネカ, J. (RAPPENEKER JOSHUA)

開講年度： 2024

科目設置学部： 異文化コミュニケーション学部

科目コード等： DM231

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： ICC2621

使用言語： 英語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 抽選登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

Students will develop their overall English language skills while learning about multiculturalism in Australia.

Students will gain an understanding of the history and current state of multiculturalism in Australia

Students will be able to analyze the immigration policies and history of Australia and its impact on multiculturalism

Students will be able to understand and analyze the cultural diversity of Australian society

Students will be able to identify and analyze the challenges and opportunities of multiculturalism in Australia

授業の内容 / Course Contents

This course, "Multiculturalism in Australia," will delve into the rich and complex history of multiculturalism in Australia, from its origins as a colonial society to its current state as a modern, diverse nation. We will explore the various waves of immigration that have shaped Australia's cultural landscape, including the gold rushes, the influx of agricultural workers, and the repeal of the White Australia policy. Through a variety of media including documentaries, books, drama, art, and lectures, students will gain a deeper understanding of the impact of

immigration on Australia's language, food, media, and identity. Additionally, students will have the opportunity to examine the ongoing effects of multiculturalism in Australia and draw parallels to other cultures, fostering a deeper appreciation and understanding of the complexities and nuances of multiculturalism in today's globalized world.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回： Course overview
- 2 回： First Nations People
- 3 回： Muslim Australia
- 4 回： Muslim Australia Continued
- 5 回： Multicultural Comedy
- 6 回： Presentation preparation
- 7 回： Presentations
- 8 回： Food
- 9 回： Food continued
- 10 回： Music
- 11 回： Music continued
- 12 回： Presentation preparation
- 13 回： Final presentations
- 14 回： Course Overview

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワーポイント等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：	○
個人発表	：	グループ発表	：	○	ディスカッション・ディベート	：	○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：	
上記いずれも用いない予定	：		：			：	

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

Weekly readings will be provided on Canvas LMS. It is essential that students do the readings prior to class in order to be able to take part in discussions.

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Participation & discussion:30% Reports and midterm presentation:40% 最終
レポート割合 :30%

テキスト / Textbooks

Texts will be supplied in class by the teacher.

参考文献 / Readings

Bruce Pascoe Dark Emu: Aboriginal Australia and the Birth of Agriculture Magabala Books 2014
1911344781

Quynh Dao The Beauty That Remains: A Vietnamese Refugee's Journey to Freedom Heart Books 2017
095774823

Tim Soutphommasane Don't Go Back to Where You Came from: Why Multiculturalism Works Paperback
Univ of New South Wales 2013 1742233368

注意事項

It is recommended that the student's English level is at or above TOEFL(iBT) 68, TOEFL(PBT) 520, IELTS 5.5, or TOEIC 650.

Seminar in English H

Seminar in English H

Media Literacy, News Literacy

中込 幸子 (NAKAGOME SACHIKO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 異文化コミュニケーション学部

科目コード等： DM232

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： ICC2621

使用言語： 英語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 抽選登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

The course aims to help students develop skills to critically analyze and discuss the content of news articles, social media posts and other media content. It also aims to help students be responsible consumers of media. Actual news articles will be analyzed for discussions on fake news, propaganda, censorship and media representation.

授業の内容 / Course Contents

The course will consist of three main pillars. Tasks in and outside of class will involve reading, discussions, researching and reporting. Students will read and summarize news articles every week, discuss media literacy and news literacy issues in class, and give a presentation on a topic of their choice.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回： Orientation, self-introductions, BBC Lesson 1: What's the news, News Journal goals,

2 回： Crash course 11: what is media literacy, 5 core concepts,

3 回： Share media analysis (5 core concepts)

Structure of English-language articles (difference with JP articles),

4回：BBC Lesson 3: How Journalists Verify News, how to spot fake news
 5回：BBC Lesson 4: What's the angle? & spot the bias worksheets
 6回：Share Spot the bias worksheets,
 Censorship (definition, history, case studies: China, Russia)
 7回：BBC Lesson 6: What's the source?, unexpected censorship
 8回：Censorship, self-censorship in Japan
 9回：Propaganda (Definition, history, case studies: China, Russia)
 10回：Wartime Propaganda: Information Wars (Israel vs Hamas)
 11回：Propaganda and real-life consequences
 12回：Media Representation: Hollywood's Depictions of Asians
 13回：Student presentations: Censorship and propaganda
 14回：Student Presentations: media representation
 The Future of media literacy,

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド* (パワポ* 等) の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

Students will be expected to read relevant news articles every week and many other assignments.

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：002) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 平常点:30% Presentation:30% Weekly assignments:40%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

Students need to be able to actively participate in discussions exclusively in English.

注意事項

It is recommended that the student's English level is at or above TOEFL(iBT) 68, TOEFL(PBT) 520, IELTS 5.5, or TOEIC 650.

専門演習 1

Advanced Seminar 1

河合 優子 (KAWAI YUKO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 異文化コミュニケーション学部
科目コード等： DM262
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： ICC3543
使用言語： その他
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定： 履修要項を確認すること。
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

卒業研究のテーマを設定し、先行研究文献調査を開始する

Students will decide a research topic for their senior thesis and start a literature review about the topic.

授業の内容 / Course Contents

異文化コミュニケーションと多文化社会に関する諸課題を、「交錯」という概念を軸に歴史のかつトランスナショナルな視点で捉えることを学び、それを通して各自の研究テーマを探ることを目的とする。授業ではまず、多文化主義について考え、日本からの移民、そして日本への移民を歴史的にとらえる。そして、ネイション、人種、エスニシティ、ジェンダー、階層、宗教など複数の要素の「交錯」を扱った研究を読むことで、各自の卒業研究テーマを探る。

This seminar will provide students with an opportunity to historically and transnationally examine critical issues of intercultural communication and multiculturalism from an intersectional perspective. In this seminar, students will first deepen their understanding of multiculturalism in Japan and migration to and from Japan throughout history. Then students will explore a senior thesis topic by reading research papers that study intersectionality involving nation, race, ethnicity, gender, class, religion and others.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：導入
- 2回：日本社会と移民
- 3回：多文化共生とは
- 4回：日本のトランスナショナリズム
- 5回：交錯とは
- 6回：越境と混淆（1）トランスナショナルな家族形成
- 7回：越境と混淆（2）ハイブリッド化する帰属意識
- 8回：言説と実践（1）トランスナショナルな階層意識
- 9回：言説と実践（2）人種主義とナショナリズム
- 10回：メディアと表象
- 11回：卒業研究発表
- 12回：期末レポート発表
- 13回：個人面談
- 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	○ グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：		：		：

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

発表者以外の受講生も、必ず課題文献を読んだ上で参加すること。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 出席・授業参加貢献度:30% 口頭発表:30% 期末レポート:40%

テキスト / Textbooks

河合優子 編著 『交錯する多文化社会』 ナカニシヤ出版 2016 4779511143 ○

参考文献 / Readings

授業で指示する

その他 / Others

授業は受講生の発表および討論を中心にすすめる。提出物はコメントをつけて返却する。

専門演習 1

Advanced Seminar 1

石井 正子 (ISHII MASAKO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 異文化コミュニケーション学部
科目コード等： DM281
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： ICC3543
使用言語： その他
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定： 履修要項を確認すること。
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

卒業論文のテーマを決める。

卒業論文執筆の方法論を学ぶ。

卒業論文を執筆するうえで必要な論理的な思考を培うことができる。

The course introduces academic skills in writing a graduation thesis on the topics of International Cooperation.

授業の内容 / Course Contents

主に国際協力や紛争研究の分野で「卒業研究」を行う学生を対象に、調査研究を行う意義、および方法などを導入する。その後は、各自がそれぞれの研究テーマに沿って、研究調査研究計画発表、合同ゼミを行い、その他の学生とのディスカッションを通じて考察を深める。

The course introduces academic skills in writing a graduation thesis on the topics of International Cooperation.

The students will decide the theme of their graduation thesis. They are required to read the relevant previous studies.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：イントロダクション

- 2回：論文を書くこととは
 3回：テーマを決める
 4回：テーマを決める
 5回：テーマを決める
 6回：先行文献・構想発表
 7回：先行文献・構想発表
 8回：先行文献・構想発表
 9回：先行文献・構想発表
 10回：先行文献・構想発表
 11回：先行文献・構想発表
 12回：先行文献・構想発表
 13回：中間報告
 14回：中間報告

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワーポイント等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

自分の研究テーマに関連する先行研究を読むこと。
 卒業研究の構想を進めること。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 出席と授業内での発表:80% 最終レポート:20%

授業内で紹介します。

テキスト / Textbooks

特に指定しません。

参考文献 / Readings

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

ディスカッションに積極的に参加すること。

その他 / Others

授業計画は履修者の人数や関心によって変更する場合があります。

専門演習 2

Advanced Seminar 2

金 知賢 (KIM JIHYEON)

開講年度： 2024
科目設置学部： 異文化コミュニケーション学部
科目コード等： DM305
授業形態： 対面（一部オンライン）
授業形態（補足事項） Class on week 13 will be conducted online. Details will be announced in class or posted on Canvas LMS.
校地： 池袋
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： ICC4543
使用言語： その他
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 自動登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定： 履修要項を確認すること。
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

In Advanced Seminar 2, students will decide on a topic, complete a literature review, and design a research plan for their senior thesis.

授業の内容 / Course Contents

The theme of this seminar is “Interpreting in Public Services,” which aims to introduce and explore the profession of court interpreting along with linguistic needs in other public services. Possible thesis topics could be related to legal and ethical issues in court and medical interpreting, language access in emergency services (e.g., fire departments, disaster response teams), interpreter education, or a more general aspect of interpreting in public services. Upon identifying a thesis topic, students will identify knowledge, practical, and/or methodological gaps in existing research on their chosen topic through literature review and discussions. This process will help formulate and refine their research questions and map out the research design.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回： Course introduction

- 2回：Developing research questions and research design
 3回：Defining the purpose and scope of research
 4回：Identifying methodological limitations in existing literature
 5回：Literature review and discussion #1
 6回：Literature review and discussion #2
 7回：Literature review and discussion #3
 8回：Literature review and discussion #4
 9回：Literature review and discussion #5
 10回：Literature review and discussion #6
 11回：Individual presentation 1: Literature review and progress report
 12回：Individual presentation 2: Literature review and progress report
 13回：Individual consultations on a writing schedule for thesis completion
 14回：Submission of literature review and progress report

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド* (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	○	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:	○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

It is essential for Advanced Seminar students to take initiative in their own work toward the successful completion of their Senior Thesis. The Advanced Seminar 2 course requires students to read a significant amount of literature and complete their liter

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：002) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Attendance & Class Participation:30% Homework:30% Individual Presentation:10%
 Literature Review and Progress Report:30%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

The instructor will provide readings and handouts as necessary.

その他 / Others

*The syllabus is subject to change. Changes, if any, will be announced during classes.

専門演習 2

Advanced Seminar 2

飯島 みどり (IIJIMA MIDORI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 異文化コミュニケーション学部
科目コード等： DM325
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： ICC4543
使用言語： その他
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 自動登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定： 履修要項を確認すること。
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

自ら設定したテーマについて研究計画を立て、先行研究の調査やデータの収集・整理など、卒業研究の成果物の作成をすすめていく。

Students will create research plans on their chosen themes, review others' precedent works, gather and organize data and progress toward writing the final versions of their graduation theses.

授業の内容 / Course Contents

主として地域（文化）研究の見地から卒業研究のテーマを確定させ、これに関する文献研究や調査を進め、内容を具体的に掘り下げるべく発表と討議を重ねる。

Mainly from the Area Studies perspective, students will determine their research theme for graduation and carry out investigation with a complete list of bibliography. In class we discuss and review each one's work in progress to improve and make an even more concrete draft.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：夏休み中の成果紹介
- 2 回：テーマの提案と検討 1

- 3回：テーマの提案と検討2
 4回：テーマの提案と検討3
 5回：文献リスト素案の検討1
 6回：文献リスト素案の検討2
 7回：執筆計画の検討
 8回：各自の報告と討論（その一）1
 9回：各自の報告と討論（その一）2
 10回：各自の報告と討論（その一）3
 11回：各自の報告と討論（その二）1
 12回：各自の報告と討論（その二）2
 13回：各自の報告と討論（その二）3
 14回：まとめと春休み中の計画提示

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：○	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

良いアイデアは思いがけない時に降ってくるものである。それをいつでも掴み取れる態勢を整えておくこと。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 出席と参加:40% 課題と発表:30% 期末課題:30%

無断欠席者、報告放棄者は評価の対象としない（単位は認定されない）。

テキスト / Textbooks

必要に応じて指示する。

参考文献 / Readings

必要に応じて指示する。

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

集中力・観察力

専門演習 2

Advanced Seminar 2

山口 まり子 (YAMAGUCHI MARIKO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 異文化コミュニケーション学部
科目コード等： DM328
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： ICC4543
使用言語： その他
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 自動登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定： 履修要項を確認すること。
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

自ら設定したテーマについて研究計画を立て、先行研究の調査やデータの収集・整理など、卒業研究の成果物の作成をすすめていく。

This course aims to help students extend their understanding of the readings and discussions accomplished in Advanced Seminar 1 by reading more works on the philosophy of action, ethics, the philosophy of art, and so on. They will also be asked to decide their thesis topic and begin preparations for their thesis.

授業の内容 / Course Contents

専門演習 1 で議論・考察したことをベースに、発話や行為の意味・意図、他者の理解、選択と責任などの諸問題を、倫理・芸術・社会問題などとの関連でより深く考察していくと同時に、参加者は卒業研究のテーマをしぼり、発表とディスカッションを行う。

終了時には、卒業研究のテーマと扱う文献、議論の構成が明確になっていることを目指す。

In this course we will 1) further read and discuss works on the philosophy of action, focusing on how the agent's intention, the understanding of this intention by others, choice, and responsibility are related to each other; 2) apply the theories to ethics, art, and social problems. By the end of the course, students will need to decide the

topic for their thesis and begin preparations toward its writing

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：発表1・ディスカッション
- 3回：発表2・ディスカッション
- 4回：発表3・ディスカッション
- 5回：発表4・ディスカッション
- 6回：発表5・ディスカッション
- 7回：発表6・ディスカッション
- 8回：発表7・ディスカッション
- 9回：発表8・ディスカッション
- 10回：発表9・ディスカッション
- 11回：発表10・ディスカッション
- 12回：発表11・ディスカッション
- 13回：発表12・ディスカッション
- 14回：発表13・ディスカッション

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

毎回の授業で指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業参加・発表・提出物など：60% 最終レポート割合：40%

テキスト / Textbooks

使用するテキストや資料は授業で配布する。

参考文献 / Readings

- J. S. ミル 『自由論』 光文社文庫 2012 9784334752507
 - Gray, J. & Smith, G. W. J. S. Mill's "On Liberty" in focus Routledge 1991
 - ピーター・ウィンチ 『倫理と行為』 勁草書房 1987 9784326154029
 - Winch, Peter Ethics and Action Routledge 1972 9780367507541
 - 伊勢田哲治 他 編 『生命倫理学と功利主義』 ナカニシヤ出版 2006 9784779500329
- 上記以外の参考文献については授業で紹介する。

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

議論に論理性を求める。例えば、野矢茂樹著『新装 論理トレーニング』（産業図書）、あるいは同著者の『まったくゼロからの論理学』（岩波書店）のようなテキストで、あらかじめ論理的な思考というものがある程度つかんでおいて頂きたい（自習してよく理解できない点については、質問を歓迎する）。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

電子情報機器は不要。使用不可。

その他/ Others

授業内の電子情報機器の使用不可。

専門演習 2

Advanced Seminar 2

浜崎 桂子 (HAMAZAKI KEIKO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 異文化コミュニケーション学部
科目コード等： DM333
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： ICC4543
使用言語： その他
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 自動登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定： 履修要項を確認すること。
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

この科目は、教育課程「完成期」の科目である。各自が選択した領域についてさらに深く主体的に学んでいくことで、卒業研究のテーマを定め、自ら調査、考察することができる。

This is the curriculum's completion phase module. By independently studying the area chosen in more depth, students will become able to decide on a topic for their graduation research project, and then investigate and discuss the topic autonomously.

授業の内容 / Course Contents

専門演習 1 で学び議論した点を踏まえ、前半は、移民社会の多文化状況に関して具体的な事象を扱った論文を読み、方法論を意識した議論を行う。以上をふまえて、後半は受講者が関心を持つ地域、国について、いわゆる「マイノリティーの文化」の具体例について発表し、議論をする。

In the first half of the semester we read literature on the multicultural situation of the globalized world, and continue the discussion of the Advanced Seminar 1 in focusing on the method to describe the multicultural society. In the second half, students give a presentation on specific cases of the so-called minority culture.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：導入1：移民社会と多文化状況
 2回：導入2：ジェンダー／セクシュアリティの多様性
 3回：論文1：担当者による発表と議論 1
 4回：論文1：担当者による発表と議論 2
 5回：論文1：担当者による発表と議論 3
 6回：論文1：担当者による発表と議論 4
 7回：文献の調べ方、レポートの書き方 1
 8回：文献の調べ方、レポートの書き方 2
 9回：発表：各自のテーマについて中間発表と議論 1
 10回：発表：各自のテーマについて中間発表と議論 2
 11回：発表：各自のテーマについて中間発表と議論 3
 12回：論文2：担当者による発表と議論 1
 13回：論文2：担当者による発表と議論 2
 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワポ等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	○	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:					

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

準備学習については毎回の授業で指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業の議論への積極的な参加:40% 授業内での口頭発表:30% 学期末のレポート:30%

テキスト / Textbooks

初回授業内で配付

参考文献 / Readings

S. カースルズ, M.J. ミラー 『国際移民の時代』 名古屋大学出版会 2011 9784815806552

木村涼子、伊田久美子、熊安貴美江編 『やわらかアカデミズム（わかる）シリーズ よくわかるジェンダー・スタディーズ—人文社会学から自然科学まで—』 ミネルヴァ書房 2013 9784623065165

ほか、適宜授業内で指示

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

文献の読解、授業での議論を通して、自分の関心を言語化する力。

専門演習 2

Advanced Seminar 2

ガービー, K. (GARVEY KEVIN PATRICK)

開講年度： 2024
科目設置学部： 異文化コミュニケーション学部
科目コード等： DM335
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： ICC4543
使用言語： その他
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 自動登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定： 履修要項を確認すること。
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

The primary goal of this course is the development of original student research papers in English in the fields of media, communication, New Media, and intercultural communication.

The instructor will present examples and models of theses, dissertations, and articles to illustrate conventions of writing and organization. The instructor will work with students both as a group and one on one to help them develop the topics of their theses.

The secondary goal of this course is practice with conventions of academic writing and research skills. The instructor will provide a guide on collecting effective sources, making accurate citations, and using research to build persuasive theses.

授業の内容 / Course Contents

The main focus of the class is on the literature review supporting students' theses. A literature review is the portion of a thesis describing the written works that come before an original work. That is, it is a 'history' of ideas that leads up to your own idea. An effective literature review shows the reader that the thesis has a 'place' in the literature, finds a 'missing' idea in that literature, and contributes a new idea to that literature.

In addition to the written literature review section, students will also draft a Reference List of their works they have cited, using APA formatting for in-text and full citations.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回： Course introduction
- 2 回： Topic 1: connecting interests to a research topic
- 3 回： Topic 2: using article databases
- 4 回： Topic 3: APA citation introduction
- 5 回： Topic 4: locating 'core theory' authors
- 6 回： Topic 5: drafting a literature review
- 7 回： Mid-term: proposed literature review due
- 8 回： Topic 6: formatting literature reviews
- 9 回： Topic 7: using in-text citations effectively
- 10 回： Topic 8: formatting full citations
- 11 回： Topic 9: 'core theory' authors revisited
- 12 回： Topic 10: peer editing and technical critique
- 13 回： Topic 11: peer editing and technical critique
- 14 回： Final: revised literature review due

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワーポイント等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：○
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

Students are expected to work outside of class time to complete assignments. Students are expected to complete reflective journals outside of class time, and be ready to discuss their reflections in class.

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% Participation:20% Individual homework:30% 最終レポート割合：20% 最終
テスト割合：30%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

その他 / Others

Students are expected to use Google Classroom to access course materials and assignments. In-class group work will be conducted using Google Documents and Slides.

専門演習 2

Advanced Seminar 2

シ, ゲンギン (ZI YANYIN)

開講年度： 2024
科目設置学部： 異文化コミュニケーション学部
科目コード等： DM336
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： ICC4543
使用言語： その他
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 自動登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定： 履修要項を確認すること。
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

In preparation for thesis composition, the goal is to consolidate thoughts, articulate them in one's own words, engage in responsive dialogue with fellow seminar participants, derive insights from their research endeavors, and contribute to others' studies through questions, comments, etc. The objective is to refine ideas and enhance knowledge within the seminar setting. At the end of the course, students are expected to achieve the following goals: 1. Formulate a research theme; 2. Compile a list of relevant literature; 3. Develop a plan for thesis composition.

授業の内容 / Course Contents

Students will individually select research themes based on their interests. Subsequently, they will engage in reading and analyzing existing research, and develop a plan for their thesis writing. Through intermediate presentations of their thesis, students will learn the fundamentals of thesis writing and the basics of research methodology.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：Orientation
- 2 回：How to design a research project
- 3 回：Discussing research topic 1
- 4 回：Discussing research topic 2
- 5 回：Discussing research topic 3
- 6 回：Discussing research topic 4
- 7 回：Discussing research topic 5
- 8 回：How to search and create a literature review
- 9 回：Reviewing Literature 1
- 10 回：Reviewing Literature 2
- 11 回：Reviewing Literature 3
- 12 回：Reviewing Literature 4
- 13 回：Reviewing Literature 5
- 14 回：Intermediate Research Progress Report Meeting

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワーポイント等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：	
個人発表	：	○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：	○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：	
上記いずれも用いない予定	：						

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

- Pre-read the literature and materials instructed during the class.
- Prepare a report on the assignments given at the end of the class.
- Preview the content for the next class, and ensure understanding of specialized terminology meanings.

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Final report:40% Mid-term report:30% Presentations:30%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

- Loraine Blaxter, Christina Hughes & Malcolm Tight. ed. How to Research. 4th New York: McGraw-Hill Open University Press. 2010
- Walleman, N. Your research project: a step-by-step guide for the first-time researcher. London: Sage Publications. 2005

Introduction to Media Communication

Introduction to Media Communication

潘 夢斐 (PAN MENGFEI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 異文化コミュニケーション学部
科目コード等： DM401
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： ICC2361
使用言語： 英語
授業形式： 講義
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考： 基礎科目（DLP/PEACE/TBP）

授業の目標 / Course Objectives

This course explores various social phenomena related to media communication from theoretical, historical, and empirical perspectives to enhance the students' understandings and critical thinking of these phenomena. One central topic of this course focuses on the relationship between media and place. Some of the questions include whether media is leading to placelessness, or strengthens a sense of place, and how.

授業の内容 / Course Contents

Through this course, the students will learn the basics of media and communication studies. During the classes, we will discuss over the varying theories and perspectives to study media and communication and tackle with issues regarding technology, community, and how media engages with our life. In addition to introducing the theories and historical background, it invites the students to relate "Ikebukuro" with media. The course encourages the students to develop their own critical thinking about the media communication phenomena close to their life.

The course is composed of eleven sessions of lectures, two sessions of student presentations, and one in-class mid-term test.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：Introduction
 2 回：Reproduction Technology: From photography to Hatsune Miku
 3 回：Imagined Community and Nation
 4 回：Audience Studies
 5 回：Media and Space
 6 回：Global Village
 7 回：Lecture by Guest Speaker
 8 回：Mid-term Test
 9 回：Participatory Culture and Collective Intelligence
 10 回：Affect and Akihabara
 11 回：Media Industry: Soft power and Cool Japan
 12 回：Media and City
 13 回：Final Project (Student Presentations 1)
 14 回：Final Project (Student Presentations 2)

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：					

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

Readings and lecture slides distributed before/after each class. In addition to the readings, the students will be asked to prepare case studies for each class.

The course uses Canvas LMS for announcements and sharing of class materials.

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% In-class participation:20% Mid-term test:20% Final project (presentation):30%

最終レポート割合：:30%

テキスト / Textbooks**参考文献 / Readings**

Henry Jenkins Fans, Bloggers, and Gamers: Exploring Participatory Culture New York University Press
2006

Marshall McLuhan The Gutenberg galaxy: the making of typographic man University of Toronto Press
1980

Joel Kotkin The New Geography: How the Digital Revolution is reshaping the American Landscape Random
House 2000

注意事項（検索結果画面）

2016 年度以降入学者対象（DLP/PEACE/TBP）

Introduction to Linguistics

Introduction to Linguistics

渡辺 英雄 (WATANABE HIDEO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 異文化コミュニケーション学部

科目コード等： DM402

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： ICC2161

使用言語： 英語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 基礎科目（DLP/PEACE/TBP）

授業の目標 / Course Objectives

As a result of successfully completing this course, students should be able to:

1. understand the cognitive organization of linguistic structure and the social nature of language use,
2. comprehend the notions of linguistic terminology,
3. apply notions developed in linguistics to other areas of study.

授業の内容 / Course Contents

This course leads you to the field of linguistics by covering the major areas of linguistics such as phonetics and phonology, syntax, semantics, pragmatics and multimodality.

This course also focuses on sociolinguistics and psycholinguistics to understand how languages are used and learned in real-world settings.

Students in this course consider how notions developed in linguistics can be applied to analyze and/or develop other areas of study such as education and media study.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回： Why Study English Linguistics

- 2 回：Phonetics and Phonology
 3 回：Syntax
 4 回：Semantics
 5 回：Pragmatics
 6 回：Multimodality
 7 回：Sociolinguistics
 8 回：Psycholinguistics
 9 回：Linguistics applied in education
 10 回：Linguistics applied in media studies
 11 回：Language in cross cultural situations
 12 回：Presentation 1
 13 回：Presentation 2
 14 回：Presentation 3

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワーポイント等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：	
上記いずれも用いない予定	：					

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

Students are required to read the reading materials in advance so that they can actively participate in discussions.

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Class participation and small quizzes:50% Presentation:50%

There are small quizzes related to the textbook and reflection tasks. The details will be provided in class.

テキスト / Textbooks

Kageyama et al. First Steps in English Linguistics 2nd ed. Kuroshio 2004 4874242774 ○

参考文献 / Readings

Denham, Kristin & Lobeck, Anne Linguistics for Everyone: An Introduction Wadsworth 2011 1111344388

Paltridge, Brian Discourse analysis 2nd ed. Bloomsbury 2012 9781441167620

注意事項（検索結果画面）

2016 年度以降入学者対象（DLP/PEACE/TBP）

Introduction to Translation and Interpreting Studies

Introduction to Translation and Interpreting Studies

Introductory Course of the Translator and Interpreter Training Program

松下 佳世 (MATSUSHITA KAYO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 異文化コミュニケーション学部

科目コード等： DM403

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： ICC2261

使用言語： 英語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 基礎科目（DLP/PEACE/TBP）

授業の目標 / Course Objectives

This is an introductory course of the Translator and Interpreter Training Program, designed to develop foundational competencies for translators and interpreters. The course aims to enable students to understand and appreciate the diverse roles, the working practices, and the necessary skills that characterize the profession today. It also explores the relationship between practice and theory.

授業の内容 / Course Contents

Through this course, students will learn about various aspects of translation and interpreting as "intercultural communication," focusing on the unique role they play in enabling participants from different linguistic and cultural backgrounds to understand each other. Through lectures and discussions, students will be introduced to basic theories and actual practices of translation and interpreting. In addition, professional translators and interpreters will be invited as guest speakers in order to deepen students' understanding of translation and interpreting in society.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：Introduction
- 2 回：Outline of basic theories in Translation Studies
- 3 回：What is equivalence?
- 4 回：Skopos Theory
- 5 回：Translation strategies
- 6 回：Norms in translation
- 7 回：Translation assignment and peer review
- 8 回：Outline of basic theories in Interpreting Studies
- 9 回：Gile's effort models
- 10 回：Theory of sense
- 11 回：Ethical issues in translation and interpreting
- 12 回：Translation in society (guest lecture)
- 13 回：Interpreting in society(guest lecture)
- 14 回：Summary

*The schedule may be subject to change.

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワーポイント等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

Each week, students will be given materials to read or watch before class. In addition, students are required to submit a reaction paper at the end of each class reflecting on what they have learned. Students are also expected to submit written assignment

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Final Report:40% Attendance and class contribution:30% Written assignment:30%

テキスト / Textbooks

Reading materials will either be distributed in class or posted on Canvas LMS.

参考文献 / Readings

Munday, J. Introducing Translation Studies: Theories and Applications 4th ed. Routledge 2016 1138912557

Pöchhacker, F. Introducing Interpreting Studies 2nd ed. Routledge 2016 0415742722

Pöchhacker, F. & Schlesinger, M. (Eds.) The Interpreting Studies Reader Routledge 2002 0415224780

Pym, A. Exploring Translation Theories 2nd ed. Routledge 2014 041583791

Venuti, L. The Translation Studies Reader 3rd ed. Routledge 2012 0415613485

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

An advanced level of English and Japanese proficiency is needed to complete this course successfully.

International students who wish to take this course must be placed in J6 or above after taking Rikkyo's Japanese placement test.

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

Please bring your own device (PC or tablet) to class.

注意事項 (検索結果画面)

2016 年度以降入学者対象 (DLP/PEACE/TBP)

Introduction to Communication

Introduction to Communication

伊藤 萌紅 (ITO H MEGU)

開講年度： 2024
科目設置学部： 異文化コミュニケーション学部
科目コード等： DM404
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： ICC2361
使用言語： 英語
授業形式： 講義
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考： 基礎科目（DLP/PEACE/TBP）

授業の目標 / Course Objectives

- Students will explain the role of communication in academic, social, civic, and professional endeavors.
- Students will gain an understanding of key theories and concepts in Communication Studies.
- Students will differentiate their use of verbal and nonverbal language, communicating appropriately and effectively to the goal and context of the communication situation.
- Students will implement effective communication practices, including public speaking.

授業の内容 / Course Contents

This course is designed to provide an overview of the basic concepts of communication and the skills required to communicate in a variety of contexts. Emphasis is placed on critical theories and messaging observed within a range of communication situations (interpersonal, small-group, and organizational to intercultural).

Furthermore, this course engages the sometimes-controversial intersections of communication and media within an increasingly global and digital world. As such, students will also be asked to foster individual ethical sensibilities regarding their personal communication practices.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：Introduction to the Course
- 2 回：Communication Studies: An Overview
- 3 回：Communication and Identity
- 4 回：Verbal Communication vs. Nonverbal Communication
- 5 回：Interpersonal Communication
- 6 回：Small Group Communication
- 7 回：Organizational Communication
- 8 回：Media and Communication
- 9 回：Digital Media and Communication
- 10 回：Intercultural Communication Part I
- 11 回：Intercultural Communication Part II
- 12 回：Project Preparation: Peer Feedback
- 13 回：Project Presentations
- 14 回：Course Conclusions

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド* (パワポ* 等) の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

The instructor will communicate specific assignment guidelines every class period. However, students can generally expect to spend approximately 90-120 minutes studying outside of class per week (the number will vary for each student).

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Attendance and in-class participation:30% Weekly reflection journal:20%

Quizzes:20% Project presentation:20% Final report:10%

Students need to attend 80% or more of the classes taught to earn a passing grade.

テキスト / Textbooks

Readings will be distributed by the instructor.

参考文献 / Readings

J.K. Alberts, T. K. Nakayama, J. N. Martin Human Communication in Society Pearson 2019
9780134553726

L.H. Turner and R. West An Introduction to Communication Cambridge University Press 2018
9781107151048

J.T. Wood Communication Mosaics: An Introduction to the Field of Communication Cengage Learning
2016 9781305403581

J.T. Warren and D.L. Fassett Communication: A Critical/Cultural Introduction Cognella Academic
Publishing 2018 1516525345

T.K. Gamble and M.W. Gamble Interpersonal Communication: Building Connections Together Sage

Publications 2013 9781452220130

The class will draw from, but is not limited to, these readings.

注意事項（検索結果画面）

2016 年度以降入学者対象（DLP/PEACE/TBP）

Introduction to Intercultural Communication

Introduction to Intercultural Communication

ガービー, K. (GARVEY KEVIN PATRICK)

開講年度： 2024
科目設置学部： 異文化コミュニケーション学部
科目コード等： DM405
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： ICC2361
使用言語： 英語
授業形式： 講義
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考： 基礎科目（DLP/PEACE/TBP）

授業の目標 / Course Objectives

The primary goal of this course is to train students to approach content with an ICC mindset, particularly the concepts of Hofstede's six dimensions and Bennett's DMIS model.

The secondary goal of this course is to provide students with engaging case studies for analysis and reference as they explore ICC further.

授業の内容 / Course Contents

The course begins with an overview of approaches to ICC. There are four units, each of which explores a different way to consider intercultural communication. After each unit, students will write a journal reflection based on a related prompt (for a total of four journals).

Once a week, there will be a lecture sharing ten key facts, followed by a short quiz. There is a midterm exam and a final exam which combine previous quiz questions. There is a final group presentation examining a media object that represents ICC (e.g. a film about culture shock, a YouTube video about tourism).

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回： Course introduction: Approaches to ICC

- 2回：Unit 1: Bennett's DMIS
 3回：Unit 1: Bennett's DMIS
 4回：Unit 2: Hofstede's Dimensions
 5回：Unit 2: Hofstede's Dimensions
 6回：Comparing the DMIS and the Dimensions
 7回：Midterm test
 8回：Unit 3: ICC in Economics
 9回：Unit 3: ICC in Economics
 10回：Unit 4: ICC in Education
 11回：Unit 4: ICC in Education
 12回：Critical ICC in Economics and Education
 13回：Final project preparation and review
 14回：Final test and presentation

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド* (パワポ* 等) の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

Students are expected to work outside of class time to complete assignments. Students are expected to complete journals outside of class time, and be ready to discuss their reflections in class.

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Quizzes & Participation:30% Journal homework:20% Midterm test:15% Final test:15% Final projects:20%

テキスト / Textbooks

Materials will be provided by the teacher

参考文献 / Readings

Materials will be provided by the teacher

その他 / Others

Students are expected to use Google Classroom to access course materials and assignments. In-class group work will be conducted using Google Documents and Slides.

注意事項（検索結果画面）

2016年度以降入学者対象（DLP/PEACE/TBP）

Introduction to Cultural Studies

Introduction to Cultural Studies

シ, ゲンギン (ZI YANYIN)

開講年度：	2024
科目設置学部：	異文化コミュニケーション学部
科目コード等：	DM406
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	春学期
単位：	2
科目ナンバリング：	ICC2461
使用言語：	英語
授業形式：	講義
履修登録方法：	科目コード登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	基礎科目（DLP/PEACE/TBP）

授業の目標 / Course Objectives

This course is designed for students to develop communicative and academic language skills through understanding topics related to Culture Studies.

- Students will learn concepts in English.
- Students will develop critical thinking skills.
- Students will learn how to write a cohesive and persuasive paper.

授業の内容 / Course Contents

First, this course promotes students' critical and creative thinking through reading and discussing introductory textbooks for culture studies in English. Second, students will also be expected to participate actively in various discussions on social issues. Third, this course will help equip students with academic writing skills.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：Introduction
- 2 回：Thinking Sociologically (discourse, globalization, modernity, rationalization)
- 3 回：Methodology (qualitative and quantitative methods, social constructionism)

- 4回：Environment and Urbanism (alienation, industrialization, migration, sustainable development)
 5回：Structures of society (bureaucracy, capitalism, consumerism, division of labor, organization)
 6回：Unequal Life Chances (class, gender, patriarchy, race and ethnicity, status)
 7回：Relationships and the Life Course (community, family, network, sexuality, socialization)
 8回：Interaction and Communication (culture, identity, ideology, interaction, mass media, public sphere)
 9回：Guest Speaker
 10回：Crime and Social Control (anomie, labeling, moral panic, restorative justice, social control)
 11回：Political Sociology (authority, citizenship, civil society, conflict, democracy, nation-state, power)
 12回：Movie
 13回：Presentation①
 14回：Presentation②

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド* (パワポ等) の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

Students are required to complete all reading assignments before class, and to be ready to play an active role in class by contributing to class discussion and activities.

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Attendance and Participation:30% Assignments (including in-class discussions and presentation):40% Final report:30%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

Anthony Giddens & Philip W. Sutton Essential Concepts in Sociology Polity; 2nd edition 2017

その他 / Others

Depending on progress made during the semester, changes to the content outlined above might become necessary. The instructor reserves the right to modify this syllabus, with the stipulation that any changes will be clearly communicated to the class.

注意事項 (検索結果画面)

2016年度以降入学者対象 (DLP/PEACE/TBP)

Introduction to International Development and Cooperation

Introduction to International Development and Cooperation

ムチュトゥ ランガリライ (MUCHETU RANGARIRAI)

開講年度：	2024
科目設置学部：	異文化コミュニケーション学部
科目コード等：	DM407
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	春学期
単位：	2
科目ナンバリング：	ICC2461
使用言語：	英語
授業形式：	講義
履修登録方法：	科目コード登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	基礎科目（DLP/PEACE/TBP）

授業の目標 / Course Objectives

The students will be able to understand the relationships between abstract ideas of development and cooperation policy practice. The course will focus on concepts such as human security with real-world examples such as the activities of JICA.

Discussion, debate, reading, and thinking are the critical elements of this course. From a Japanese & global perspective, the students must have the following skills.

- > Understand international development & cooperation.
- > Analyze and evaluate actors
- > Apply theoretical frameworks to real-world case studies.
- > Demonstrate interdisciplinary thinking
- > Collaborate in group projects and discussions
- > Communicate ideas and arguments clearly and persuasively
- > Formulate informed opinions
- > Cultivate ethical awareness and cultural sensitivity

授業の内容 / Course Contents

The 14-week international development and cooperation course covers a range of crucial topics. It begins with an Introduction to International Cooperation, followed by explorations into Theories of International Development and Cooperation. Weeks progress to examining International Organizations & Multilateralism, Security Cooperation, and Conflict Resolution. Subsequent topics include Human Rights and International Law, Human Security focusing on JICA, Global Economic Governance, Trade, Development Cooperation, and Global Health. The course also addresses Environmental Cooperation and climate Change and concludes with discussions on Emerging Challenges, the Future of International Development & Cooperation, Group Presentations, and a Final Exam.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1回：Week 1: Introduction to International Cooperation

Self-introductions and ice-breaking.

Explanation of assessment methods (participation, assignments, quizzes, presentations, and final exam).

Definitions, historical context, and significance of international

2回：Week 2: Theories of International Development

Lecture on modernization, dependency, world systems, neo-liberalism theories, and post-modern theories.

Read assigned material before the next class.

3回：Week 3: Theories of International Cooperation

Lecture on realism, liberalism, constructivism, and other theoretical perspectives.

Inclass Quiz 1: International Development theory

Read assigned material before the next class.

4回：Week 4: International Organizations & Multilateralism

Lecture on the role and challenges of the UN and other global institutions;

Inclass Quiz 3: International Cooperation theory

Read assigned material before the next class.

5回：Week 5: Security Cooperation and Conflict Resolution

Lecture on alliances, peacekeeping operations, and conflict prevention; Case studies of successful and failed security cooperation efforts.

Assignment 1: International Development and Cooperation theory

6回：Week 6: Human Rights and International Law

Lecture on Human rights treaties, international courts, and humanitarian intervention.

Assignment 2: Security Cooperation and conflict resolution

Read assigned material before the next class.

7回：Week 7: Human Security and JICA

Lecture on the Human security concept and how its applied by the Japanese International Development Cooperation Agency.

Inclass Quiz 3: Human Rights and International law

Read assigned material before the next class.

8回：Week 8: Global Economic Governance and Trade

Lecture on the World Trade Organization, international financial institutions, and trade agreements; National economic interests versus development objectives.

Assignment 3: Human Security and JICA

Read assign

9回：Week 9: Development Cooperation and Global Health

Lecture on aid, sustainable development goals, and global health initiatives.

Inclass Quiz 4: Global Economic Governance

Read assigned material before the next class.

10回：Week 10: Environmental Cooperation and Climate Change

Lecture on the Paris Agreement, transboundary environmental challenges, and conservation efforts

Inclass Quiz 5: Development Cooperation and Global Health

Read assigned material before the next class.

11回：Week 11: Emerging Challenges in International Development & Cooperation

Lecture on cybersecurity, migration, health pandemics, and other contemporary issues.

Inclass Quiz 6: Environmental Cooperation and Climate change

Read assigned material before the n

12回：Week 12: Future of International Development & Cooperation

Lecture on trends, innovations, and potential shifts in global cooperation.

Assignment 4: Emerging Challenges in International Development and Coop

Read assigned material before the next class.

13回：Week 13: Group Presentations & discussions (1).

Read assigned material before the next class.

14回：Week 14: Group Presentations & discussions (2).

Prepare for the final exam.

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド* (パワポ等) の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

Students are required to study assigned reading materials to prepare for the next class. In addition, the in-class quiz questions will be based entirely on the assigned reading material. The quizzes account for 15% of the final grade, so students are stro

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

筆記試験 :45%

平常点割合 :55% Attendance and Participation:10% Presentations:10% Quizzes:15%

Assignments:20%

テキスト/ Textbooks

Haslam, Paul., Schafer, Jessica., Beaudet, Pierre Introduction to International Development : Approaches, Actors, Issues, and Practice Oxford University Press 2021 9780199036431 -

Lanoszka, Anna International development : socio-economic theories, legacies, and strategies Routledge 2018 9781138670341 -

Course materials, including textbooks to be used in class will be announced separately in class.

参考文献 / Readings

JICA-ORI JICA Ogata Research Institute Report 'Human Security Today' JICA 2022 27583627

UNDP Human development report 1990 UNDP 1990

UNDP Human development report 1994 UNDP 1994

注意事項 (検索結果画面)

2016 年度以降入学者対象 (DLP/PEACE/TBP)

Introduction to Cultural Anthropology

Introduction to Cultural Anthropology

The ways of wisdom and imagination which temper the knowledge of science

久保 裕子 (KUBO YUKO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 異文化コミュニケーション学部

科目コード等： DM408

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： ICC2461

使用言語： 英語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 基礎科目（DLP/PEACE/TBP）

授業の目標 / Course Objectives

The course aims to introduce the key debates and understandings within cultural anthropology. It will allow students to:

- ・ Understand what matters and why it matters for anthropologists.
- ・ Understand the way of thinking in terms of not fixed categories such as "human rights" and "poverty", but networks of complex elements related to social systems.
- ・ Acquire the knowledge for the way of thinking anthropologically which is the way of thinking not only about different cultures but others.

授業の内容 / Course Contents

Cultural Anthropology is the study of humanity. Cultural Anthropologists conducted fieldwork learning people's practices and knowledge and wrote it in an ethnography. The accumulation of anthropological knowledge and the ethnographies indicated will provide you with different perspectives of your way of thinking and seeing. In this course, you will acquire an anthropological point of view by learning the history of anthropological thought and

by learning various issues of each sub-discipline of anthropology. This course is an overview of the discipline of Cultural Anthropology and an awareness of the importance of anthropological knowledge in contemporary society, as well as the difficulties anthropology has. By the end of this course, you will have a way of thinking about others who have different thoughts and practices within a complex social system.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：Course Introduction
- 2 回：What is Cultural Anthropology?
- 3 回：Cultural Relativism and Ethnocentrism
- 4 回：Ethnography and Fieldwork
- 5 回：Hunter-Gatherers
- 6 回：Ritual and Time
- 7 回：Gender and Sexuality
- 8 回：Medical Anthropology
- 9 回：Anthropology of Suffering and Loss: Motherhood loss
- 10 回：Studies of Trauma
- 11 回：Kinship and Feminism
- 12 回：Reproductive Dilemmas
- 13 回：Community and Care
- 14 回：How can we write about other cultures?

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワーポイント等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：	○
個人発表	：	グループ発表	：		ディスカッション・ディベート	：	○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：	
上記いずれも用いない予定	：						

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

It will be informed during class.

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% Class Participation:30% Commentary Papers:30% 最終レポート割合：40%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

注意事項（検索結果画面）

2016年度以降入学者対象（DLP/PEACE/TBP）

Introduction to the Study of English

Introduction to the Study of English

谷 みゆき (TANI MIYUKI)

開講年度：	2024
科目設置学部：	異文化コミュニケーション学部
科目コード等：	DM409
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	秋学期
単位：	2
科目ナンバリング：	ICC2161
使用言語：	英語
授業形式：	講義
履修登録方法：	科目コード登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	基礎科目（DLP/PEACE/TBP）

授業の目標 / Course Objectives

In this course, students will learn about English, which we use as a tool for communication in our daily lives, with a particular focus on its characteristics as a language and the tendencies of its speakers' thinking, through comparing it with the Japanese language. The aim of the course is to provide students with an overview of previous research in English linguistics, and to use this knowledge to objectively study the English language and make their own observations.

授業の内容 / Course Contents

In the first half of the semester, the instructor will lecture on previous research on the English language, particularly on the basic concept of language and previous research on literary works and everyday speech, using the cognitive linguistics approach. In the second half of the semester, in parallel with the lectures, students will consider how they can apply the previous research to linguistic phenomena around them through group discussions, and present their ideas.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：Introduction

- 2回：Language and cognition 1
 3回：Language and cognition 2
 4回：Fashion of Speaking
 5回：Subjective and objective construal in literature
 6回：Subjective and objective construal in conversation
 7回：Group discussion 1
 8回：Speaker and listener responsibility
 9回：Language and culture
 10回：Group discussion 2
 11回：Presentation 1
 12回：Presentation 2
 13回：Motivation of difference
 14回：Summary and reflection

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド* (パワポ* 等) の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：	
個人発表	：	グループ発表	：	○	ディスカッション・ディベート	：	○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：	
上記いずれも用いない予定	：		：			：	

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

Students are required to read the sections of the papers to be covered in class in advance of each class. In addition, group presentations will require preparation outside of class.

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Attendance and Class Participation:40% Contribution to Group Discussion:30%
 Presentation:30%

Attendance at least two-thirds of the class sessions is the minimum requirement for credit.

テキスト / Textbooks

Papers used in lectures will be distributed in the first class and shared on the Canvas LMS.

参考文献 / Readings

A list of references will be given in the first class.

注意事項（検索結果画面）

2016年度以降入学者対象（DLP/PEACE/TBP）

Globalization and Gender

Globalization and Gender

In Asian Context (Japan, China, and the Philippines)

ティンティン (TIN TIN HTUN)

開講年度： 2024

科目設置学部： 異文化コミュニケーション学部

科目コード等： DM410

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： ICC2461

使用言語： 英語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 基礎科目（DLP/PEACE/TBP）

授業の目標 / Course Objectives

This class will help you to:

- Critically analyze gender issues in relation to globalization in various Asian countries.
- Construct your own arguments, using data/evidence appropriately.
- Critically evaluate gender issues from multiple perspectives.

授業の内容 / Course Contents

This course delves into the impact of globalization in Asia from a gender perspective. Despite women's educational attainment nearing parity with males in Asia, they remain concentrated in low-rank and low-paid jobs. Gender equality in employment and political participation in developed countries such as Japan, South Korea, Taiwan, and Singapore still lags behind. Throughout this course, students will explore and discuss how globalization has influenced social, economic, political, and cultural changes in Asian countries, with a particular focus on its effects on the gender gap. Through readings, discussions, and research, students are expected to develop critical analysis and awareness of gender issues in Asia, preparing them for their roles as global citizens.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回： Course overview
- 2 回： Core Concepts
- 3 回： Gender in Japan
- 4 回： Gender and Employment in Japan
- 5 回： Gender in China
- 6 回： Gender and Employment in China
- 7 回： Gender in the Philippines
- 8 回： Filipino Overseas Domestic Workers
- 9 回： Feminist Movements in Asia
- 10 回： Research Plan Presentation
- 11 回： Sex Industry in Asia
- 12 回： Research Preparation
- 13 回： Research Presentations
- 14 回： Review and Feedback

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド (パワポ等) の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	○	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：		：			

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

Students are required to complete weekly assigned readings and post on Canvas before each class (one to two hours).

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Reading and posting response:25% Participation in group discussion:15%

Leading/facilitating discussion:10% Research:35% Presentation:15%

テキスト / Textbooks

No textbook required.

参考文献 / Readings

Students are required to download readings from Canvas.

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

Students are expected to actively participate in class discussions and engage interactively with the instructor and classmates. Additionally, students will use English actively for communication in class.

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

Students are allowed to bring their devices but only for group discussions and other class activities. The use of devices during lectures is strictly prohibited.

注意事項 (検索結果画面)

2016 年度以降入学者対象 (DLP/PEACE/TBP)

Teaching English to Speakers of Other Languages: Basic Principles

Teaching English to Speakers of Other Languages: Basic Principles

マーティン, R (MARTIN, RON R.)

開講年度： 2024
科目設置学部： 異文化コミュニケーション学部
科目コード等： DM421
授業形態： 対面（一部オンライン）
授業形態（補足事項） This course may include one or two class sessions and/or assignments conducted online with another class from an overseas university. Information will be announced in class.
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： ICC3171
使用言語： 英語
授業形式： 講義
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

Students will understand and be able to explain the origins of and primary influences on modern-day TESOL contexts. Students will be able to distinguish and illustrate the differences among approaches to TESOL. Students will consolidate the course content to produce a solid belief in how to approach a TESOL classroom.

授業の内容 / Course Contents

The course will cover, in brief, a number of topics related to TESOL. The course will begin by taking a historical perspective on the purpose and growth of language teaching. The course will then cover how people learn their first language (L1), and how L1 and L2 learning are related. The second half of the course will cover issues related to classroom teaching.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回： Course introduction: How are languages learned?
- 2 回： A brief history of language teaching
- 3 回： L1 learning: How children learn

- 4回：L1 learning: Theoretical beliefs
 5回：L2 learning: L1 vs. L2 (1)
 6回：L2 learning: L1 vs. L2 (2)
 7回：L2 learning: Learner characteristics 1
 8回：L2 learning: Learner characteristics 2
 9回：Explaining second language learning
 10回：Explaining L2 learning/acquisition 1
 11回：Explaining L2 learning/acquisition 2
 12回：Explaining L2 learning/acquisition 3
 13回：How are second/foreign languages learned?
 14回：The future of second/foreign language learning

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワーポイント等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

To be announced in class.

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% Attendance and participation:25% Reading outlines and homework:25% Reflection papers:20% Tests:30%

テキスト / Textbooks

Lightbown, P. & Spada, N. How Languages Are Learned: Fifth Edition Oxford 2021 9780194406291 ○

参考文献 / Readings

Additional readings will be given in class.

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

It would be helpful if you had a device in class so you could access materials in digital form.

注意事項

It is recommended that the student's English level is at or above TOEFL iBT 76, IELTS 6.0, TOEIC 700, or TOEIC IP 700.

Communication and Citizenship

Communication and Citizenship

The Rhetoric of Citizenship

神戸 直樹 (KAMBE NAOKI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 異文化コミュニケーション学部

科目コード等： DM423

授業形態： オンライン（全回オンライン）

授業形態（補足事項） 発話を伴う授業を学内で受講する場合は 8201 教室の利用可。

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： ICC3371

使用言語： 英語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：○

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

- 1) Students will be able to apply key concepts/theories related to rhetoric and citizenship to everyday experiences.
- 2) Students will develop an understanding of how cultural norms and ideals are related one's behavior and practices of citizenship.
- 3) Students will develop the ability to critically analyze and discuss key issues in citizenship studies.

授業の内容 / Course Contents

This is an undergraduate level course examining the rhetorical power and consequence of citizenship in our everyday lives. In this course, citizenship is regarded as a normative assessment and practice of an individual's cultural, social, and political value instead of a mere legal category. This course in turn examines the ways in which citizenship 1) is intricately related to "identity"; 2) functions to order cultural ideals, policies, and social relations, and 3) regulates and disciplines one's behavior and practices of citizenship by identifying "good citizens."

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：Introduction to the Course. Why Citizenship? Why Today?
 2 回：Citizenship Studies: An Introduction
 3 回：Rhetoric and Citizenship
 4 回：The Citizen as the Figure of (Public) Culture
 5 回：Citizenship and the Public Sphere
 6 回：Making Selves, Making Citizens
 7 回：Immigration and Borders
 8 回：Diasporas and Exiles
 9 回：Presentation Day
 10 回：Citizenship and Its Gender(s)
 11 回：Citizenship in the US after 9/11
 12 回：Self-Responsibility (<jiko-sekinin>) and Citizenship in Japan
 13 回：Citizenship, Biopolitics, and Covid-19
 14 回：Course Review and Final Paper Due

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○	
個人発表	:	○	グループ発表	:	○	ディスカッション・ディベート	:	○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:		
上記いずれも用いない予定	:							

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

200-250 minutes/week

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Active Participation & Discussion:25% Weekly Reading Responses:25% Presentations (individual and/or group):15% Final Research Paper:35%

- 1) Students need to attend 80% or more of the classes taught to earn a passing grade.
- 2) Students are required to engage with the readings and submit their responses to the readings prior to each session.

テキスト / Textbooks

To be announced in class.

参考文献 / Readings

- Isin, E. F., & Turner, B. S. (Eds.) Handbook of citizenship studies. Sage 2002 9780761968580
 Ong, A. Flexible citizenship: The cultural logics of transnationality. Duke University Press 2012 9780822322696
 Lister, R. Citizenship: Feminist perspectives. New York University Press 2003 0814751954
 Miller, T. The well-tempered self: Citizenship, culture, and the postmodern subject. The John Hopkins University Press 1993 0801846048
 Berlant, L. The queen of America goes to Washington City: Essays on sex and citizenship. Duke University Press 1997 0822319241

Langran, I., & Birk, T. (Eds.) Globalization and global citizenship. Routledge 2018 9781138477803

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

PC (recommended)/Tablet, Webcam & microphone, stable Internet connection

We will use Zoom for having live and interactive classes and CanvasLMS for submitting papers and other assignments including weekly reading responses. Zoom meeting info will be anno

注意事項

It is recommended that the student's English level is at or above

TOEFL iBT 76, IELTS 6.0, TOEIC 700 , or TOEIC IP 700.

Transcultural Cinema

Transcultural Cinema

イ, ヒャンジン (LEE HYANGJIN)

開講年度： 2024

科目設置学部： 異文化コミュニケーション学部

科目コード等： DM426

授業形態： 対面（一部オンライン）

授業形態（補足事項）対面（一部オンライン）

全授業回のうち2回はオンラインで実施する（5・7回目の授業）。オンライン実施回に変更が生じる場合は、授業内または Canvas LMS 等で周知する。

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： ICC3471

使用言語： 英語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

This seminar course will explore the theoretical and cultural perspectives on global cinemas, by surveying some of most representative works. The course aims to lead students to a better understanding of the contemporary film practices transcending the limitations of culture, and the increasing permeability of cultural borders between people or institutions.

授業の内容 / Course Contents

Through cross-reading of text and context, we discuss the transnational film culture suggested by the directors and works selected each week. Through this, we aim to examine how global films reveal and challenge national and other institutional identities that have been constructed to marginalize and exclude the cultural identities of various social minorities.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回： Course Outline

- 2回：How to Read a Film: East Asian Film Noir
 3回：Aesthetics: Tokyo Story (Yasujiro Ozu, 1950)
 4回：Aesthetics: Housemaid (Kim Ki-young, 1960)
 5回：Structure: Farewell My Concubine (Chen Kaige, 1993)
 6回：Structure: Chungking Express (Wong Kar-wai, 1995)
 7回：Guest Speaker
 8回：Film Authorship: Parasite (Bong Joon-ho, 2019)
 9回：Film Authorship: Broker (Kore-eda, 2022)
 10回：Film Genre: Yakiniku (Gu Su-yeon, 2006)
 11回：Film Genre: Blood and Bone (Yoichi Sai, 2004)
 12回：Documentary Film: Dear Pyongyang (Yang Yong-hi, 2005)m
 13回：Documentary Film: 63 Years On (Kim Dong Won, 2008)
 14回：Paper Sharing and Wrap Up

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○	
個人発表	:	○	グループ発表	:	○	ディスカッション・ディベート	:	○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	○	校外実習・フィールドワーク	:		
上記いずれも用いない予定	:		:			:		

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

Students are expected to submit short reviews of weekly readings and films in class and to actively participate in class discussions. (4-5 hours per week).

Assignment: To be announced in class.

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 出席および議論への積極的な参加:30% プレゼンテーションと課題:30% 最終
 レポート割合 :40%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

Elizabeth Ezra and Terry Rowden Transnational Cinema The Film Reader Routledge 2006
 139780415371582

C Richard King, Carmen R Lugo-Lugo and Mary K, Bloodsworth-Lugo Animating Difference: Race, Gender
 and Sexuality in Contemporary Films for Children Rowman & Littlefield Publishers, Inc. 2010
 9780742560826

Hyangjin Lee Contemporary Korean Cinema: Identity · Culture · Politics Manchester University Press
 2000 9780719060083

イ・ヒャンジン 『コリアン・シネマ：北朝鮮・韓国・トランスナショナル』 みすず書房 2018
 9784622086642

Natasa Durovicova and Kathleen Newman World Cinemas, Transnational Perspectives Routledge 2010
 100415976545

Warren Buckland Film Studies: An Introduction (Teach Yourself) Teach Yourself 2016 9781473608795

注意事項

It is recommended that the student's English level is at or above TOEFL iBT 76, IELTS 6.0, TOEIC 700 , or TOEIC IP 700.

Contemporary Culture in Japan

Contemporary Culture in Japan

Tracing critical issues in Japanese media/pop culture creations

ヨ, イェジ (YEO YEZI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 異文化コミュニケーション学部

科目コード等： DM427

授業形態： 対面（一部オンライン）

授業形態（補足事項） The final four sessions will be taught online to accommodate guest speakers and presentation activities.

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： ICC3471

使用言語： 英語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

In this course students will explore concepts and subjects concerning media/cultural studies in contemporary Japan. Students will examine media discourse and representation with conceptual tools to better understand contexts and issues arising from gender, race, and class dynamics in contemporary Japanese society.

授業の内容 / Course Contents

This is an intensive discussion-oriented course, in which students are expected to read academic texts, present individually/as a group, analyze media/pop culture products, collaborate for classwork, answer quizzes, and actively discuss theoretical concepts, observations, and opinions every week.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回： Introduction to the course

2 回： Televising masculinities 1: Rent a Person who Does Nothing (2020)

3 回： Televising masculinities 2: Rent a Person who Does Nothing (2020)

- 4回：Re-imagining romantic salarymen: First Love (2022)
 5回：Visualizing dis/obedient femininities 1: Tokyo Love Story (1991 & 2020)
 6回：Visualizing dis/obedient femininities 2: Tokyo Love Story (1991 & 2020)
 7回：Animating shojo/moe bodies: Warlords of Sigdrifa (2020)
 8回：Screening subversive bodies 1: Go (2001)
 9回：Screening subversive bodies 2: Go (2001)
 10回：Queering gender roles: Love Pistols (2004-2020)
 11回：Final presentations and discussions 1
 12回：Final presentations and discussions 2
 13回：Final presentations and discussions 3
 14回：Guest speaker

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○	
個人発表	:	○	グループ発表	:	○	ディスカッション・ディベート	:	○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:		
上記いずれも用いない予定	:		:			:		

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

Students are expected to come to class having done weekly reading assignments, independently prepare for presentations, and watch assigned media material.

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Attendance: Active discussion:30% Assignments: In-class quizzes/writings:36%

Presentations: Weekly/final:34%

テキスト / Textbooks

Materials will be provided by the instructor.

参考文献 / Readings

Materials will be provided by the instructor.

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

Students are expected to read, comprehend, apply, and discuss academic literature in English. Thus, advanced or close to advanced English reading, writing, listening, and speaking abilities are required for this course.

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

Students should bring a laptop/tablet with keyboard and writing tools to each class unless otherwise specified.

その他 / Others

Schedule, off/online format, and syllabus content are subject to change.

注意事項

It is recommended that the student's English level is at or above

TOEFL iBT 76, IELTS 6.0, TOEIC 700, or TOEIC IP 700.

Religion and Society in Asia

Religion and Society in Asia

ムスリン, I (MUSULIN ILJA)

開講年度： 2024
科目設置学部： 異文化コミュニケーション学部
科目コード等： DM428
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： ICC3471
使用言語： 英語
授業形式： 講義
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

The main goal of this course is acquiring basic knowledge of religions in Asia, with a focus on Japan and East Asia. The course also aims to help students develop the ability to think of social and cultural issues pertaining to religion from different angles, and to encourage them to foster an attitude of understanding and respect for different worldviews and value systems.

授業の内容 / Course Contents

In this course, through a study of different religious worldviews and values, students will explore the role of religious thought and practice in various social issues and the formation of culture. The course will focus on Shinto, Taoism, Buddhism and Confucianism in East Asia, but will also touch on other religions and on India.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回： Course introduction; Religions in Asia

The main objectives, the content of the course, as well as the requirements for students and grading criteria will be introduced.

We shall take a broad look at the Asian continent and religions present on it, with a

2回：Shamanism in East Siberia, Korea and Japan

During this class we shall talk about shamanistic practices in East Asia, the powers shamans are believed to possess and their spiritual and social role.

3回：Shinto and Japanese Society and Culture I

Here we shall take a broad look at Shinto: examine what kind of a religion it is, how it could be classified, and what its main characteristics are in terms of faith, ritual and values. We shall also consider how

4回：Shinto and Japanese Society and Culture II

We shall take up the topic of polytheistic beliefs in the Japanese Archipelago in ancient times and explore the early influence of Taoism and Buddhism on Shinto. We shall particularly focus on the fusion of Shint

5回：Shinto and Japanese Society and Culture III

Here we shall trace the development of Shinto doctrine in Medieval and Premodern times in relation to Buddhism and Confucianism, examine the National Learning (kokugaku) teachings and the shift towards the so-ca

6回：Taoism I: its cosmology and worldview

This lesson will be dedicated to the Taoist thought and practices in China: the concept of Tao, the theory of yin-yang and the theory of five phases (elements).

7回：Taoism II: various religious practices

In this class we will learn about Taoist divination methods and techniques for improving health, achieving longevity and immortality

8回：Guidelines for writing the term-end paper.

During this class students will be given concrete and detailed advice on how to write a well-structured, objective and logically consistent paper, how to select and use literature and argue in a persuasive way.

9回：Religions in India

Here, we shall talk about religions in India, with a focus on pre-Buddhist religious thought and the birth of Buddhism.

10回：Buddhism in East Asia I

Here we shall take up topics such as the spread of Buddhism through Asia, the differences between Theravada and Mahayana Buddhism and consider how Buddhism has influenced the culture and society of Southeast and East Asia.

11回：Buddhism in East Asia II

We shall learn about the doctrines of main strands of Buddhism present in East Asia and their influence on the worldview and customs. of East Asian people.

12回：Confucianism in China and Japan I

Here we shall introduce the main tenets of classical Confucianism and examine the influence of Confucianism on the family, interpersonal relationships, social status of men and women, and attitudes toward learning, work a

13回：Confucianism in China and Japan II

We shall learn about Neoconfucianism and debate the role Confucianism has played in East Asian societies in terms of education, politics and modernization.

14回：Christianity in East Asia; Religions and Religiosity in East Asia

We shall examine the history of Christianity in East Asia, how the religion has been perceived and treated and what cultural, organizational and political challenges it has encountered in E

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

Students will be required to read one or more books so that they can write their term-end paper.

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

レポート試験 :80%

平常点割合 :20% Attitude in class:20%

テキスト / Textbooks

Handouts will be distributed in each lesson.

参考文献 / Readings

Eliade, Mircea (ed.) The Encyclopedia of Religions Macmillan 1987

Hawkins, Bradley .K. Introduction to Asian Religions Longman 2003

Kasahara, Kazuo A History of Japanese Religions Kosei 2002

Other reading material will be introduced in the class.

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

Since the course abounds in difficult philosophical terms, a very high level of English ability is required.

注意事項

It is recommended that the student's English level is at or above

TOEFL iBT 76, IELTS 6.0, TOEIC 700, or TOEIC IP 700.

Japan in Asia

Japan in Asia

Japan a Part of Asia? Separate from Asia

カプリオ, M. (CAPRIO MARK E.)

開講年度： 2024
科目設置学部： 異文化コミュニケーション学部
科目コード等： DM429
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項） 対面
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： ICC3471
使用言語： 英語
授業形式： 講義
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

To understand Japan's relation with Asia, mostly with modern Korea, in the modern era.

授業の内容 / Course Contents

The course will examine critical periods in Japan's relations with primarily Korea, but also the other Northeast Asian countries where appropriate. Some of the themes of the class will be modernization, colonization, Korean liberation movements, and the post-Pacific War, post-liberation periods (post-1945) of the countries and peoples involved.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回： Introduction to class and discussion on contemporary issues between Japan and Asia
- 2 回： Traditional Roots (pre 1850)
- 3 回： Modernization problems in Japan and Korea
- 4 回： Japan as a small (neutral) country or large (expanding) country
- 5 回： First short paper due, discussion on topics that students chose for papers

- 6回：Northeast Asian Wars and Colonization
 7回：Japanese Colonial Practices
 8回：Pacific War and Korean War: Connections
 9回：Second short paper due, discussion on topics that students chose for papers
 10回：Asian Population in Postwar Japan: Why did They Remain
 11回：Japan and Postwar Asia
 12回：Colonial Memory and Responsibility
 13回：Review of Semester
 14回：Third short paper due, discussion on topics that students chose for papers

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	○	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:	○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	○	校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

Outside reading every week. The reading will be provided on Canvas LMS
 3 papers on topics related to course content

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% report 1:25% report 2:25% report 3:25% class attendance and participation:25%
 # reports and discussion on topics 25 pts each

テキスト / Textbooks

Weekly readings

参考文献 / Readings

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

Students must have a good knowledge of English and a yearning to learn about the subject matter

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

Their brain and creativity

注意事項

It is recommended that the student's English level is at or above
 TOEFL iBT 76, IELTS 6.0, TOEIC 700, or TOEIC IP 700.

Ethnicity and Globalization in Japan

Ethnicity and Globalization in Japan

ティンティン (TIN TIN HTUN)

開講年度： 2024
科目設置学部： 異文化コミュニケーション学部
科目コード等： DM430
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： ICC3471
使用言語： 英語
授業形式： 講義
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

This class will help you to:

Critically analyze race and racism in Japan from historical, economic, legal, and political perspectives.

Explore and understand the social inequality experienced by various ethnic groups in Japan.

Construct your own arguments, using data and evidence appropriately.

授業の内容 / Course Contents

In this course, we will engage in a critical analysis of race and racism issues in Japan. Additionally, we will discuss the challenges confronting various ethnic minorities and explore the influence of globalization on ethnic issues in the country. The course specifically focuses on the discrimination faced by Ainu, Buraku, Zainichi Koreans, Okinawans, and foreign migrant workers.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回： Introduction: Overview of the course

2 回： Core Concepts: Globalization, Ethnicity, Race

3 回： Hafu

- 4回：Ainu
 5回：Buraku
 6回：Zainichi Koreans
 7回：Fieldwork Plan Presentations
 8回：Okinawans
 9回：Foreign Migrant Workers
 10回：Fieldwork Interviews
 11回：Fieldwork Interviews
 12回：Fieldwork Presentation Preparation
 13回：Fieldwork Presentations
 14回：Reflection and Feedback

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	グループ発表	:	○	ディスカッション・ディベート	:	○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	○
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

Students are required to complete weekly assigned readings and post on Canvas before each class.

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Reading and posting response:25% Participation in group discussion:15%

Leading/facilitating discussion:10% Fieldwork:35% Presentation:10% Fieldwork Reflection Paper:5%

テキスト / Textbooks

No textbook required.

参考文献 / Readings

Students are required to download readings from Canvas

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

Students are expected to actively participate in class discussions and engage interactively with the instructor and classmates. Additionally, students will use English actively for communication in class.

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

Students are allowed to bring their devices but only for group discussions and other class activities. The use of devices during lectures is strictly prohibited

注意事項

It is recommended that the student's English level is at or above TOEFL iBT 76, IELTS 6.0, TOEIC 700, or TOEIC IP 700.

Multiculturalism in Japan

Multiculturalism in Japan

Culture, Power, Identities in Diversifying Japan

森田 京子 (MORITA KYOKO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 異文化コミュニケーション学部

科目コード等： DM431

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： ICC3471

使用言語： 英語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

The aims of this course are to explore realities of multiculturalism in contemporary Japan and to increase our awareness of the dynamics of racial/ethnic, gender/sexual, and class differences in the situated society. We will examine relations of difference and inequality in everyday practice and consider how to make a difference to realize the Japanese form of integration. For this purpose, we will take account of various positions on the issue of human rights and identity politics, in terms of the interrelationship of blood/lineage, ethnicity, and nationality. Throughout we will deliberate on the following two aspects usually overlooked in the current minority controversy: the intra-group diversity and the multiplicity of social identity.

授業の内容 / Course Contents

To deal with the highly sensitive and political issues, this course will be conducted partly in English and partly in Japanese. The class will be very interactive, including group project, discussion and presentation. Students are encouraged to transcend politically correct silencing and actively exchange multiple perspectives. Thereby, we will think critically about the legitimacy of certain images of “different” groups of people, and will seek possible

solutions to integrate various “differences” into ethnically and socially diversifying Japan.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回： Course introduction
The myth of homogenous Japan
- 2 回： The paradigm of "Japanese" to "Non-Japanese":
blood/lineage, culture, and nationality
- 3 回： Kikokushijo (Japanese returnees)
Hafu (Mixed parentage)
- 4 回： Nikkeijin (e.g., Brazilians of Japanese parentage)
Newcomer Chinese and other Asians
- 5 回： Muslim communities
"Pure non-Japanese"
- 6 回： Midterm Project I
- 7 回： Midterm Project II
- 8 回： The Dowa issue
The Ainu, The Okinawans
- 9 回： Ethnic Koreans in Japan
- 10 回： Educational issues:
School difficulty, Unschooled children etc.
- 11 回： Working issues:
The technical intern training program etc.
- 12 回： Immigration issues:
Illegal entrants and overstayers, Refugees (asylum seekers)
- 13 回： Final Presentation I
- 14 回： Final Presentation II

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワーポイント等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：○
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

Reading assignments and research projects will be distributed in class meetings.

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% Active Participation (incl. volunteer speech):30% In-Class Activities & Midterm Project (group):40% Final Project (individual):30%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

森田京子 『子どもたちのアイデンティティー・ポリティックス：ブラジル人のいる小学校のエスノグラフィー』 新曜社 2007 9784788510630

Other references will be introduced in class.

その他/ Others

Due to the limitations of latest English literatures on this issue, international students are highly recommended to have Japanese language proficiency, including reading literacy. In addition, students need to know Japanese history to better understand t

注意事項

It is recommended that the student's English level is at or above TOEFL iBT 76, IELTS 6.0, TOEIC 700 , or TOEIC IP 700.

Language Policy and Multilingualism

Language Policy and Multilingualism

大森 愛 (OHMORI AI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 異文化コミュニケーション学部
科目コード等： DM432
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： ICC3471
使用言語： 英語
授業形式： 講義
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

Students will understand basic theories, concepts, and approaches to the research of language policy and multilingualism. Through studying specific language policies, students will deepen their understanding of political and historical influence behind the implementation of language policies.

授業の内容 / Course Contents

The present course covers basic theories, concepts and research approaches to language policy and multilingualism. Students will also examine various cases of language policies, and deepen their understanding of the field through lectures, discussions, and their research assignments.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：Introduction
- 2 回：What is language policy?: Theories, concepts, and framework 1
- 3 回：Theories, concepts, and framework 2
- 4 回：Theories, concepts, and framework 3
- 5 回：Case studies 1 (e.g. colonial history, indigenous languages and language rights)

- 6回：Case studies 2 (e.g. indigenous languages and language policy in education)
 7回：Guest speaker (tentative)
 8回：Language policy in Malaysia (and Singapore)
 9回：Language policy in Europe
 10回：Multilingualism in Japan
 11回：Language policy and multilingualism in India
 12回：Student presentation 1
 13回：Student presentation 2
 14回：Review test,
 Course review

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワーポイント等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

Students are expected to read roughly 15-20 pages weekly and be prepared to participate in class discussions.

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% Attendance and class participation:20% Reaction/reflection papers, review test, etc.:45% Final presentation and report:35%

テキスト / Textbooks

Necessary materials will be announced in the first class.

参考文献 / Readings

注意事項

It is recommended that the student's English level is at or above TOEFL iBT 76, IELTS 6.0, TOEIC 700, or TOEIC IP 700.

Social Movements and Social Change

Social Movements and Social Change

アコスタ, A. (ACOSTA ARIEL K.)

開講年度： 2024
科目設置学部： 異文化コミュニケーション学部
科目コード等： DM437
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： ICC3471
使用言語： 英語
授業形式： 講義
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

By the end of the course, students will be able to:

- 1) Have a sense of the role of social movements in Japan's modern history and connect them with contemporary society and politics
- 2) Gain exposure to different primary and secondary texts in Japanese history (in English translation)
- 3) Learn research and writing skills
- 4) Hone media literacy skills

授業の内容 / Course Contents

This course investigates the role of social movements in enacting social, cultural, and political change in modern Japanese society. We will bring an awareness of contemporary movements when studying historical protests, and an understanding of deep historical roots when examining the social movements of today. This course will ask, among many other questions- Who gets to be defined as 'Japanese'? Why is Japanese society often described as 'low-conflict'? How do social movements and protests function as agents of cultural/political/social change? What role does the media play in social movements? How are social movements linked across the globe? Students

will also gain a familiarity with the major events of modern Japanese history, from the Meiji Restoration to the present day, through the lens of protest, social movements, and social change.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：Introduction to the course/ Conflict and Uprising in Japanese History Confronting the Image of 'Harmonious Japan'
- 2 回：Re-thinking the Meiji Restoration and the Formation of Modern Japan- Freedom and People's Rights Movement
- 3 回：The Turbulent Early 20th Century
- 4 回：Interwar Radicalism: Anarchists, Marxists, Thought Police
- 5 回：Interwar Radicalism: Rightwing Coups Against a Rightwing State
- 6 回：Citizenship and Ethnicity in a Time of Imperial War
- 7 回：Midterm Presentations and Discussion
- 8 回：Against a Nuclear Japan: Anti-Nuclear and Environmental Movements from Hiroshima to Fukushima
- 9 回：The LDP Postwar Order and its Discontents
- 10 回：Student Movements from ANPO to Today
- 11 回：Okinawa and Anti-base Struggles
- 12 回：Gender and Media in the 21st Century
- 13 回：Contemporary LGBTQ Movements and their Roots
- 14 回：Final presentations and final discussions

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワーポイント等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

Students will be expected to read approximately one academic article per week. Articles will vary in length, but students should set aside at least 90-120 minutes per week for reading and writing responses in the class discussion board.

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% Class Participation:40% Midterm Report:20% Discussion Board Postings:10%
最終レポート割合：30%

テキスト / Textbooks

All readings will be provided in pdf form by the professor. Hard copies of readings are also available upon request.

参考文献 / Readings

All readings will be provided in pdf form by the professor. Hard copies of readings are also available upon request.

注意事項

It is recommended that the student's English level is at or above

TOEFL iBT 76, IELTS 6.0, TOEIC 700 , or TOEIC IP 700.

Motivation in Language Learning

Motivation in Language Learning

マーティン, R (MARTIN, RON R.)

開講年度： 2024

科目設置学部： 異文化コミュニケーション学部

科目コード等： DM438

授業形態： 対面（一部オンライン）

授業形態（補足事項） This course may include one or two class sessions and/or assignments conducted online with another class from an overseas university. Information will be announced in class.

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： ICC3171

使用言語： 英語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

Students will understand and be able to explain the role motivation plays in the language learning classroom.

Students will be able to classify the roles of the student and the roles of the teacher regarding motivation to learn a language. Students will also be able to analyze the components of a language lesson in order to enhance student motivation in the classroom.

授業の内容 / Course Contents

The course will cover the concept of motivation and how it can be defined and understood in a language learning setting. The course will then cover what a teacher can do to enhance student motivation, and also, what the learner needs to do in order to maintain motivation. The course will introduce how to measure motivation as well as the role of classroom materials. The course will begin, however, by covering where motivation comes from and how it develops.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回： Motivation in language learning

- 2回：Understanding motivation
 3回：Measuring language learning motivation
 4回：The development of motivation
 5回：Motivational strategies
 6回：Creating motivation in the classroom
 7回：Final Project and Report Explanation
 8回：Generating motivation: The teacher
 9回：Generating motivation: The student
 10回：Maintaining motivation: The teacher
 11回：Maintaining motivation: The student
 12回：The roles of materials in motivation: Application
 13回：The roles of materials in motivation: Analysis
 14回：Motivation in language learning: What research shows

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド* (パワポ* 等) の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

None.

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Attendance and participation:25% Reading summaries and homework:25% Reflection papers:20% Motivation project and report:30%

テキスト / Textbooks

Dornyei, Z. Motivational Strategies in the Language Classroom Cambridge University Press 2001
 0521793777 ○

参考文献 / Readings

Additional readings will be given in class.

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

It would be helpful if you had a device in class (e.g., a tablet or laptop) in order to view materials distributed via Canvas.

注意事項

It is recommended that the student's English level is at or above TOEFL iBT 76, IELTS 6.0, TOEIC 700, or TOEIC IP 700.

Intercultural Communication in the Language Classroom

Intercultural Communication in the Language Classroom

川島 真由美 (KAWASHIMA MAYUMI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 異文化コミュニケーション学部
科目コード等： DM439
授業形態： オンライン（全回オンライン）
授業形態（補足事項） 発話を伴う授業を学内で受講する場合は 8201 教室の利用可。
校地： 池袋
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： ICC3171
使用言語： 英語
授業形式： 講義
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：○
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

- Deepen your understanding of key concepts and topics on intercultural communication in the language classroom,
- Reflect on your own experiences in the language classroom examining the process of language and culture learning, and
- Critically examine how intercultural communication is promoted or hindered in the language classroom.

授業の内容 / Course Contents

This course provides some literature on the subject of intercultural communication in the language class in particular to foster critical reading and to encourage participation in class discussions. Students will furthermore reflect on their own past learning experiences which will be shared in small groups. Based on the insights gained through such sharing, students will design and present a classroom activity or develop material for intercultural learning at the end of the course. Active participation will be expected throughout the course.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：コース概要と導入 / Course Overview and Introduction

- 2回：異文化間言語学習 1 / Intercultural Language Learning 1
 3回：異文化間言語学習 2 / Intercultural Language Learning 2
 4回：自文化中心主義と文化相対主義 1 / Ethnocentrism and Ethnorelativism 1
 5回：自文化中心主義と文化相対主義 2 / Ethnocentrism and Ethnorelativism 2
 6回：言語学習者のアイデンティティ 1 / Language Learners' Identity 1
 7回：言語学習者のアイデンティティ 2 / Language Learners' Identity 2
 8回：言語と権力 1 / Language and Power 1
 9回：言語と権力 2 / Language and Power 2
 10回：異文化間言語学習のための活動デザイン 1 / Designing Activities for Intercultural Language Learning 1
 11回：異文化間言語学習のための活動デザイン 2 / Developing Activities for Intercultural Language Learning 2
 12回：最終プレゼンテーション / Final Presentation
 13回：最終プレゼンテーション / Final Presentation
 14回：まとめ / Course Wrap up

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○	
個人発表	:	○	グループ発表	:	○	ディスカッション・ディベート	:	○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:		
上記いずれも用いない予定	:		:			:		

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

授業内容を効果的に理解するため、指定される文献を毎週読んでから授業に臨むこと。 / Students are expected to read academic text material weekly to facilitate their comprehension of the class content effectively.

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 最終プレゼンテーション (Final Presentation):20% 出席及び授業参加度 (Class Attendance and Participation):30% リフレクションペーパー (Reflection Papers):30% 最終レポート
割合 :20%最終テスト割合 :0%

テキスト / Textbooks

授業時に適宜紹介する (to be introduced in class as appropriate)

参考文献 / Readings

注意事項

It is recommended that the student's English level is at or above TOEFL iBT 76, IELTS 6.0, TOEIC 700, or TOEIC IP 700.

Advanced Seminar: Intercultural Communication

Advanced Seminar: Intercultural Communication

The Hollywood Teenager

ガービー, K. (GARVEY KEVIN PATRICK)

開講年度： 2024

科目設置学部： 異文化コミュニケーション学部

科目コード等： DM441

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 4

科目ナンバリング： ICC3371

使用言語： 英語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

The primary goal of this course is to understand the concept of "teenager" in the context of the 20th century United States. The idea of 'teenagers' began around the 1890s, and developed gradually until it took over mainstream pop culture in the 1950s. Even in the 2020s, much of pop culture worldwide revolves around people aged 13-19 (toys, movies, music, etc.). Our goal is to understand the beginnings of this trend, and see how it developed over 50 years. We will use popular films as our primary resource, but include other media (music videos, poems, TV shows) to examine trends and archetypes in more detail.

The secondary goal of this course is for students to see how fashion (e.g. mini skirts in the 1960s, synthetic materials in the 1980s, Y2K fashion in the 2020s) operates in a cycle, with each generation resurrecting what came before, with their own interpretations and changes. After this course, students should be able to identify the general era from which each current fashion trend emerged.

授業の内容 / Course Contents

There are four overall themes: identity vs role, social power, third spaces, and archetypes. We will cover 6

decades of pop culture (1950-2000), focusing on major events, music, movies, and fashions from each. Each class will have a lecture covering ten facts. There will be a short, ten question quiz reviewing the facts covered in the previous class.

There will be a midterm examination and final examination, both made up of previous quiz questions. There is a final essay assignment in which students write 1000 words on one of three provided prompts.

Homework will consist of (1) reading excerpts and (2) recommended media viewing. Each time we 'finish' a decade, students will write a short Journal reflecting on the recommended reading & media (for a total of six written reflections).

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回： Course introduction
- 2 回： 1950s: Rebels & beatniks
- 3 回： 1960s (pt 1): Activists & swingers
- 4 回： 1960s (pt 2): Protestors & hippies
- 5 回： 1970s (pt 1): Feminism & choice
- 6 回： 1970s (pt 2): Punks & rappers
- 7 回： Midterm examination
- 8 回： 1980s: Freaks & Geeks
- 9 回： 1990s (pt 1): Grunge & gangsta rap
- 10 回： 1990s (pt 2): Pop & hip-hop
- 11 回： 2000s (pt 1): Y2K & reality TV
- 12 回： 2000s (pt 2): influencers & trolls
- 13 回： Final project preparation
- 14 回： Final project share & Final examination

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

Students are expected to work outside of class time to complete assignments. Students are expected to complete reflective journals outside of class time, and be ready to discuss their reflections in class.

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Quizzes & Participation:20% Homework journals:30% Midterm examination:15%
Final examination:15% Final essays:20%

テキスト / Textbooks

Materials will be provided by the teacher

参考文献 / Readings

Materials will be provided by the teacher

その他 / Others

Students are expected to use Google Classroom to access course materials and assignments. In-class group work will be conducted using Google Documents and Slides.

注意事項

- It is recommended that the student's English level is at or above TOEFL iBT 88, IELTS 6.0, TOEIC 800, or TOEIC IP 800.
- It is recommended, but not required, that students have completed "Introduction to Communication (コミュニケーション研究概論)" or "Introduction t

Advanced Seminar: Language and Identity

Advanced Seminar: Language and Identity

言語とアイデンティティ

An Overview of Current Approaches to Exploring Language and Identity

キアナン, P. (KIERNAN PATRICK J.)

開講年度： 2024

科目設置学部： 異文化コミュニケーション学部

科目コード等： DM442

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 4

科目ナンバリング： ICC3171

使用言語： 英語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

By the end of this course, students will:

- To have an understanding of the relationship between language and identity
- To become familiar with current conceptions of identity
- To develop an awareness of identity issues in the world today
- To be familiar with a variety of identity types such as community, corporate, virtual, and personal
- To become acquainted with ways of exploring identity through language

授業の内容 / Course Contents

Identity issues are more important than ever as communities, relationships, and culture have become more fluid than ever in the face of globalization. One of the most effective ways to explore and understand identity is through language, because it is through language and other semiotic resources that identities are expressed, negotiated, and realized. This course introduces some of the rich variety of issues and approaches to language

and identity and offers participants opportunities to reflect on the ways in which their own identity is developing. This course will be taught in English and is suitable for anyone interested in language and identity, or even simply to those wishing to reflect on their own developing identity. No previous knowledge of language and identity is required. Each week will focus on one theme explored through a main reading (with suggested supplementary reading) and discussions. The first class of each week will focus mainly on the reading and the second on discussion and expansion of the topic.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：Introduction - Why language and identity?

Course overview

David Block - Multilingual Identities in a Global City

2 回：Psychological Approaches to Language and Identity

Veronica O'Keane - A Sense of Self

3 回：Identity and Episodic Memory

Autobiographical Memory and neurological identity factors

Draaisma - Metaphors of Memory/ Why life speeds up as you get older

4 回：Identity Development

Erik Erikson's Psycho-social stages of identity development

5 回：Narrative Identity

Eggins & Slade: Genres of casual conversation

Ochs & Capps: Living narrative

Norrick: Internal narrative structure

6 回：Life Story Interviews and Doing Narrative Identity Research

Active Interviews: Holstein and Gubrium

Narrative Inquiry: Barkhuizen

Life history interviews: Atkinson

7 回：Identity and Positioning Theory

Positioning Theory: Harre and van Langenhove

8 回：Narrative Analysis

In-class Narrative interviews

How to transcribe and analyze narrative interviews

9 回：Communities of Practice and Social Identity

Lave and Wenger

10 回：Liquid Identity in a Postmodern World

Zygmunt Bauman

11 回：Branding and Identity

Brands and Cultural Analysis: Berger

12 回：Language Learner Identities

Hybrid Identities: Kamada

Bilingual identities: Kanno

13 回：Digital and Online Identities

Performing Identity Online: Tagg

Youth, social media, and connectivity in Japan: Takahashi

14 回：Review and final presentations

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

- (1) Students will be required to write and submit weekly reflections on the topic.
- (2) Readings will be posted in advance on Google classroom and paper copies will be given out the previous week in order to preview them.
- (3) Students will give a presentat

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% Classwork:30% Reflection papers:30% Presentation:20% 最終レポート割合：20%

Reflection papers must be submitted weekly to Google Classroom

テキスト / Textbooks

All materials will be posted on Google Classroom

参考文献 / Readings

All supplementary materials will be posted on Google Classroom

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

Course participants need to be able to read English academic papers and be able to discuss them in English during class.

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

A laptop or computer access is needed for homework however only writing materials are required for in class work. A notebook is optional as handouts will be provided for most classwork.

注意事項

- It is recommended that the student's English level is at or above TOEFL iBT 88, IELTS 6.0, TOEIC 800, or TOEIC IP 800.
- It is recommended, but not required, that students have completed "Introduction to Linguistics (言語学概論)" or "Introduction to the Stud

Advanced Seminar: International Cooperation

Advanced Seminar: International Cooperation

ムチエトゥ ランガリライ (MUCHETU RANGARIRAI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 異文化コミュニケーション学部
科目コード等： DM443
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 4
科目ナンバリング： ICC3471
使用言語： 英語
授業形式： 講義
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

The students will be able to understand the relationships between abstract ideas of development and cooperation policy practice. The course will focus on concepts such as human security with real-world examples such as the activities of JICA.

Discussion, debate, reading, and thinking are the critical elements of this course. From a Japanese & global perspective, the students must have the following skills.

- > Understanding international development & cooperation.
- > Analyze and evaluate actors
- > Apply theoretical frameworks to real-world case studies.
- > Demonstrate interdisciplinary thinking
- > Collaborate in group projects and discussions
- > Communicate ideas and arguments clearly and persuasively
- > Formulate informed opinions
- > Cultivate ethical awareness and cultural sensitivity

授業の内容 / Course Contents

The 14-week course on international cooperation covers diverse topics such as theories, human security, development, JICA's role, and multilateralism. It explores themes like sustainable development goals, human rights, peace, international law, global economic governance, trade, globalization, migration, and inequality. The curriculum adapts to post-COVID-19 global health cooperation, environmental issues, climate change, and South-South & Triangular Cooperation. The concluding weeks address emerging challenges in international cooperation and human security, with the final two weeks dedicated to individual presentations and a concluding focus on final report writing, offering students a comprehensive understanding of contemporary global issues and cooperation dynamics.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1回：Week 1: Introduction to International Cooperation

Discussion Question: How has the historical evolution of international cooperation shaped and influenced how it resolves global challenges today?

Read assigned chapters for next week.

2回：Week 2: Theories of International Cooperation

Discussion Question: In what ways do realism, liberalism, and constructivism contribute to our understanding of cooperation in international relations?

Read assigned chapters for next week.

3回：Week 3: Human Security and Development Cooperation

Discussion Question: How can the concept of human security be integrated into sustainable development cooperation efforts?

Read assigned chapters for next week.

4回：Week 4: The Role of the JICA, International Community & Multilateralism

Discussion Question: What role do organizations like JICA play in fostering international cooperation, and how do they contribute to the broader landscape of multilateralism?

Read assigned chapters for next week.

5回：Week 5: Human Security and Sustainable Development Goals: Afrasian Case Studies

Discussion Question: Through Afrasian examples, how can human security concerns be effectively addressed in pursuing SDGs?

Read assigned chapters for next week.

6回：Week 6: Human Rights, Peace, and International Law

Discussion Question: How does the intersection of human rights, peace, and international law contribute to establishing a just and cooperative global order?

Read assigned chapters for next week.

7回：Week 7: Global Economic Governance and Trade

Discussion Question: What are the key challenges and benefits of global economic governance and international trade, and how do they impact international cooperation?

Read assigned chapters for next week.

8回：Week 8: Globalization, Migration, and Inequality

Discussion Question: How does globalization influence migration patterns, and how can international cooperation address resulting inequalities?

Read assigned chapters for next week.

9回：Week 9:Post-COVID-19 Global Health Cooperation

Discussion Question: Considering the lessons learned from the post-COVID-19 era, how can global health cooperation be strengthened to better respond to future pandemics?

Read assigned chapters for next week.

10回：Week 10:Environmental Cooperation and Climate Change

Discussion Question: How can international cooperation effectively address the challenges of climate change and promote environmental sustainability?

Read assigned chapters for next week.

11回：Week 11:South-South Cooperation & Triangular Cooperation

Discussion Question: What are the distinctive features and potential advantages of South-South and triangular cooperation models in fostering global collaboration?

Read assigned chapters for next we

12回：Week 12:Emerging Challenges in International Cooperation and Human Security

Discussion Question: Given emerging challenges, how can international cooperation adapt to ensure human security in an ever-changing global landscape?

Read assigned chapters for n

13回：Week 13:Discussion Question: How does your chosen topic contribute to our understanding of international cooperation, and what insights can be drawn from your presentation?

14回：Week 14:Discussion Question: How does your chosen topic contribute to our understanding of international cooperation, and what insights can be drawn from your presentation?

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

After the course registration, students will receive notification of explorative learning via "Canvas LMS."

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

レポート試験 :60%

平常点割合 :40% Attendance and participation:10% Presentations:30%

テキスト / Textbooks

Margaret P. Karns Karen A. Mingst Kendall W. Stiles International Organizations: The Politics and Processes of Global Governance Lynne Rienner Publishers 2015 9781626371514 -

Mine, Yoichi Connecting Africa and Asia: Afrasia As a Benign Community Routledge 2022 9781003229261 ○

Course materials, including textbooks to be used in class will be announced separately in class.

参考文献 / Readings

JICA-ORI Human Security Today: Revisiting Human Security 2022 Report JICA-ORI 2022 9784863570979

注意事項

- It is recommended that the student's English level is at or above TOEFL iBT 88, IELTS 6.0, TOEIC 800, or TOEIC IP 800.
- It is recommended, but not required, that students have completed "Introduction to International Development and Cooperation (国際協力・開

Advanced Seminar: Gender and Communication

Advanced Seminar: Gender and Communication

伊藤 萌紅 (ITO H MEGU)

開講年度： 2024
科目設置学部： 異文化コミュニケーション学部
科目コード等： DM444
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期
単位： 4
科目ナンバリング： ICC3371
使用言語： 英語
授業形式： 講義
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

- Students will explain how social norms related to gender are constructed — and resisted — through forms of traditional and digital media.
- Students will engage in collaborative and inventive discussions to evaluate key arguments in gender studies.
- Students will implement critical theories to analyze the intersectionality of gender in a variety of situational, national, and cultural contexts.
- Students will synthesize, design, and present their own arguments related to gender and communication.

授業の内容 / Course Contents

This course is designed to investigate the complex relationships between gender identities and communicative patterns, behaviors, and expectations. We will foreground the framework of “intersectionality” to examine theoretical, social, historical, and mediated constructions of gender. But perhaps most importantly, we use “intersectionality” to further understand how gender is inextricable from discussions of power. Therefore, we will explore gender in relation to race, ethnicity, class, sexuality, nationality, and culture. Class sessions will work through a variety of critical theory and media case studies. In-class discussions and course projects will ask

students to develop and present their own arguments about how the unit theme relates to larger discourse on gender, intersectionality, and power.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：Introduction to the Course

- 1) Overview and Expectations
- 2) Privilege and Oppression

2 回：Key Terms and Definitions

- 1) Definitions of Gender
- 2) Disruptions of "Gender"

3 回：Intersectionality Part I

- 1) Definitions of Intersectionality
- 2) The Multiple Contexts of Intersectionality

4 回：Intersectionality Part II

- 1) Intersectionality in the World Around Us
- 2) Presentations: Intersectionality

5 回：Gender and Race Part I

- 1) The Complexities of Race
- 2) Racialized Performances of Gender

6 回：Gender and Race Part II

- 1) Case Study Part I: The Intersections of Gender and Race in Japanese Media
- 2) Case Study Part II: The Reclamations of Gendered and Racialized Boundaries

7 回：Gender and the Body Part I

- 1) The Embodiment of Gender
- 2) Queering Gender: An Introduction to the Trans* Rights Movement

8 回：Gender and the Body Part II

- 1) Case Study Part I: Sex Segregation in Sports
- 2) Case Study Part II: Why Separation is Not Equal

9 回：Gender and Consent Part I

- 1) The "Trickiness" of Defining Consent
- 2) An Introduction to the #MeToo Movement

10 回：Gender and Consent Part II

- 1) Case Study Part I: Echoes of the #MeToo Movement in Japan
- 2) Case Study Part II: An Analysis of Japanese Media Messaging

11 回：Scaling Out

- 1) Am I a Feminist? And Other Questions
- 2) I am a Feminist! And Other Answers

12 回：Gender and Advocacy Part I

- 1) Pushback Against the Public Sphere: Histories of Gender and Social Movements
- 2) Extensions of Counterpublic Arguments: Social Media and Gender

13 回：Gender and Advocacy Part II

- 1) Final Project Collaborations: Testing Your Stance

2) Final Project Collaborations: Developing Your Argument

14 回：Conclusions to the Course

1) Final Project Presentations

2) Reflections

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

The instructor will communicate specific assignment guidelines every class period. However, students can generally expect to spend approximately 90-120 minutes studying outside of class to prepare for each session (the number will vary for each student an

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% Attendance and in-class participation:30% Reflective Reports:30% Unit Presentations:20% Final Project:20%

Students should attend 80% or more of the classes taught to earn a passing grade.

テキスト / Textbooks

Readings will be distributed by the instructor.

参考文献 / Readings

J.T. Wood and N. Fixmer-Oraiz Gendered Lives: Communication, Gender, and Culture Cengage 2018 9781337555883

K.A. Appiah The Lies That Bind: Rethinking Identity Liveright 2018 9781631495977

K. Crenshaw On Intersectionality: Essential Writings The New Press 2022 1620972700

b. hooks Feminism Is for Everybody: Passionate Politics South End Press 2000 0896086283

B. Yousman, L.B. Yousman, G. Dines, and J. McMahon Humez Gender, Race, and Class in Media Sage 2020 9781544393421

The class will draw from, but is not limited to, these readings.

注意事項

- It is recommended that the student's English level is at or above TOEFL iBT 88, IELTS 6.0, TOEIC 800, or TOEIC IP 800.

- It is recommended, but not required, that students have completed "Introduction to Communication (コミュニケーション研究概論)" or "Introduction t

Advanced Seminar: Globalization and Media

Advanced Seminar: Globalization and Media

Social Science Based Approaches to Contemporary Issues

テイラー, S. (TAYLOR SUSAN PAIGE)

開講年度： 2024

科目設置学部： 異文化コミュニケーション学部

科目コード等： DM445

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 4

科目ナンバリング： ICC3371

使用言語： 英語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

1. Students learn to analyze aspects of media and globalization from a holistic social science perspective.
2. Students will gain knowledge about key topics related to media and globalization, online cultures, and consumption.
3. Students will learn different social sciences and humanities-based approaches to studying questions related to media and globalization.
4. Students will build academic writing skills and presentation skills.
5. This is an intensive discussion-oriented course, which will train students in reading texts, forming critiques, and participating in respectful, constructive discussion.

授業の内容 / Course Contents

Today's social world is permeated with media, mediation and globalization. While these terms are used casually on a daily basis, what do they mean in practice and what phenomena do they actually describe? Rooted in a social science perspective, particularly anthropology, this course provides an overview of approaches to studying the

impact of globalization and media on today's world. This class is both aimed at developing an understanding of students' own media environments as well as fostering the critical skills needed to understand and critique media and globalization in society.

In addition to the thematic content, this course is designed to hone the academic skills of reading, writing, presentation, and discussion. This class is intended to enhance critical reading and analytical writing skills in English.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：What is Globalization? What is Media?
- 2 回：Media, Media Texts, and Approaches from the Social Sciences
- 3 回：Understanding Ideology and Discourse
- 4 回：Nationalism and Others: Orientalism
- 5 回：Representation, Stereotypes, and Indigenous Media
- 6 回：Studying Online Communities: Social Media and Participation
- 7 回：Media Industries: Video Games
- 8 回：Virality and Online Hate Speech
- 9 回：Postcolonialism and World Cinema
- 10 回：Visualizing Climate Change and Social Movements
- 11 回：Religion, Globalization, and Social Media
- 12 回：Final Proposal and Feedback
- 13 回：Final Presentations
- 14 回：Final Presentations and Final Review

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワーポイント等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

Students are expected to do all assigned readings for the course before each class meeting. Students will also be responsible for writing a short weekly response to the class discussion.

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% Weekly Discussion Response:30% Presentation on One Week's Assigned Reading:10%
Final Project Proposal:10% Final Presentation:20% 最終レポート割合：30%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

その他 / Others

Required readings will be distributed by PDF.

注意事項

- It is recommended that the student's English level is at or above TOEFL iBT 88, IELTS 6.0, TOEIC 800, or

TOEIC IP 800.

- It is recommended, but not required, that students have completed "Introduction to Media Communication (メディアコミュニケーション概論)" or "Introd

Humanities Studies 1

Humanities Studies 1

H i s t o r y

セイヤーズ (SAYERS BRIAN)

開講年度： 2024

科目設置学部： 異文化コミュニケーション学部

科目コード等： DM460

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： ICC1581

使用言語： 英語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： For PEACE and DLP students

授業の目標 / Course Objectives

As the world becomes an increasingly globalized place, the study of history is more relevant than ever to understand the forces that have shaped our society. The aim of this course is to provide students with the opportunity to analyze and discuss some of the major global changes that have taken place from the early twentieth century to the present time. This course will develop students' critical thinking skills as well as their ability to engage in meaningful discussions about historical events.

授業の内容 / Course Contents

This course will provide an outline of the major political, social, cultural and economic changes that have occurred globally from the early twentieth century to the present time. Special emphasis will be placed on the impact of the actions of western powers in a global context. It will adopt a thematic and a broadly chronological approach and include the analysis of both primary (textual and visual) and secondary sources. Course themes will include Decolonization, Independence and Nation Building, Economic Globalization and its Political Effects. Students are required to complete assigned readings and prepare answers to discussion questions in note form

before coming to class. They will also write one essay of 1,500 words.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：Lecture: Decolonization
 2 回：Lecture: Three Worlds
 3 回：Seminar: Current Trends in World History Soviet Ecocide
 4 回：Seminar: Interpreting Visual Evidence seminar: War and Propaganda
 5 回：Seminar: Global Themes and Sources: Comparing Independence and Nation Building
 6 回：Lecture: Removing Obstacles to Globalization
 7 回：Lecture: Characteristics of the New Global Order
 8 回：Seminar: Current Trends in World History: Urbanization as a Global Phenomenon: Transforming Bombay into Mumbai
 9 回：Seminar: Global Themes and Sources: Comparing the Power of Grassroots Democracies
 10 回：Seminar: Interpreting Visual Evidence: Chimerica
 11 回：Lecture: Global Challenges
 12 回：Lecture: Economic Globalization and Political Effects
 13 回：Seminar: Current Trends in World History: Global Capitalism and the Great Contraction of 2008
 14 回：Seminar: Current Trends in World History: Has Homo sapiens Entered a New Epoch - the Anthropocene?

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワーポイント等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

Students are required to complete the assigned readings and write answers to discussion questions in note form before class.

Please note that the course schedule provided in this syllabus is a general guide for students and that some changes may be made i

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Participation in class discussions:30% Completion of exercises:30% Essay:40%

テキスト / Textbooks

Students do not have to purchase a textbook for this course.

参考文献 / Readings

Elizabeth Pollard, Clifford Rosenberg, Robert Tignor & Alan Karras Worlds Together, Worlds Apart: A History of the World: From the Beginnings of Humankind to the Present Vol. 2, Concise 2nd Edition W.W. Norton and Company Ltd 2019 13 9780393668551

Students will receive information about essential reading for this course at the first session.

その他 / Others

Classes will be held in both lecture and seminar style.

注意事項（検索結果画面）

For PEACE and DLP students

Humanities Studies 2

Humanities Studies 2

E d u c a t i o n

清水 将吾 (SHIMIZU SHOGO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 異文化コミュニケーション学部

科目コード等： DM461

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： ICC1581

使用言語： 英語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： For PEACE and DLP students

授業の目標 / Course Objectives

This seminar aims to philosophize education through reading and discussing Gareth Matthews' book entitled, The Philosophy of Childhood. The goals are: (1) to become able to think philosophically through reading a text, (2) to gain skills for having and learning from philosophical discussions, and (3) to develop one's own insight into fundamental questions on childhood and education.

授業の内容 / Course Contents

Reading Gareth Matthews' book, we will discuss fundamental questions as to what childhood is, how children become adults, how adults should interact with children, and so on.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回： Introduction: Seminar guidance and other preparations for the preliminary class discussion

2 回： Preliminary class discussion

3 回： Reading and discussion (1)

4 回： Reading and discussion (2)

- 5回：Reading and discussion (3)
 6回：Reading and discussion (4)
 7回：Reading and discussion (5)
 8回：Reading and discussion (6)
 9回：Reading and discussion (7)
 10回：Reading and discussion (8)
 11回：Reading and discussion (9)
 12回：Reading and discussion (10)
 13回：Reading and discussion (11)
 14回：Reading and discussion (12)

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワーポイント等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

Students are required:

- (1) to read the relevant part of the book and prepare at least one question to raise in class before every seminar session and
- (2) to write a final essay based on reading and on class discussions.

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Class participation:60% Final essay:40%

テキスト / Textbooks

Gareth Matthews *Philosophy of Childhood* Harvard 1998 0674664809 -

Students need not buy the book as the pages to read will be uploaded on Canvas.

参考文献 / Readings

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

Students are expected to be highly motivated to learn through reading and through class discussion.

注意事項（検索結果画面）

For PEACE and DLP students

Humanities Studies 3

Humanities Studies 3

R e l i g i o n

ムスリン, I (MUSULIN ILJA)

開講年度：	2024
科目設置学部：	異文化コミュニケーション学部
科目コード等：	DM462
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	Lectures/講義
校地：	池袋
学期：	春学期
単位：	2
科目ナンバリング：	ICC1581
使用言語：	英語
授業形式：	講義
履修登録方法：	科目コード登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	For PEACE and DLP students

授業の目標 / Course Objectives

本コースでは、宗教全般及び宗教学に関する基礎知識を身に付け、宗教関連の諸問題を様々な視点から客観的に考える習慣・力を身に付けることが主な目的である。そのため、初期宗教学における様々な宗教論を紹介し、それらの長所や短所を検討する。

The main objectives of this course are to provide students with basic knowledge regarding religion in general and religious studies, and to enable them to think about religion-related issues from different viewpoints in an objective manner. We shall do so by introducing various early theories of religion and by examining their strengths and weaknesses.

授業の内容 / Course Contents

本コースは宗教学という学問の分野への入門です。その主な対象は特定の宗教の教理や歴史ではなく、宗教全般に関する宗教学理論である。故に、本コースでは、文化人類学、社会学、心理学など、諸分野の学者や思想家が宗教をどう捉えてきたかを分析しながら、宗教とは何か、宗教は何故存在し、社会においてどのような役割を果たしているかなど、宗教全般に関する大きな問題を考える。

This is an introductory course concerning the scholarly field of religious studies. The course focuses on theories of religion: while taking up concrete examples from various faiths, we shall analyze how scholars and thinkers have viewed religion. We shall look at fields such as psychology, sociology and anthropology, and by studying and comparing different approaches to understanding religion, consider important general questions such as: what is religion, why it exists, what role does it play in society and culture, etc.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回： a) Course introduction. b) Explanations of religion in Ancient Greek and Roman philosophy

During this class we will talk about the contents and objectives of the course, as well as about the grading criteria, attitude in class, etc.

Furthermore, as a brie

2 回： The founding of modern religious studies

In this lecture we will talk about how religious studies were established as a field, and what the main principles of the field are.

3 回： Religion and intellect: H. Spencer and E.B. Tylor

Here we shall talk about the view that religion is an attempt to understand the world we live in, about cognitive origins of religious belief, types of religion, and other issues concerning religion discuss

4 回： Religion and intellect: J.G. Frazer

During this lecture we shall continue thinking about the early intellectualist approach to religion and discuss what magic is and how it is related with religion.

5 回： Religion and emotions: R.R. Marett and B. Malinowski

Here, in order to explore the role of human emotions in the formation of religious beliefs, we shall study about early emotionalist theories of religion and their criticism of the intellectualist approa

6 回： Religion as behavior: Ritual and sacrifice

During this class we shall think about the meaning and importance of religious practice and the social functions of rituals by learning about early theories of religious behavior put forth by the British scholar

7 回： Religion and society

Here we shall consider the problem of the definition of religion, as well as religion's social role and character by drawing upon the theory of the French sociologist E. Durkheim.

8 回： Guidance regarding the exam

During this lesson the students will be informed about grading criteria and will be given detailed instructions regarding how to write an objective and persuasive term-end paper.

9 回： Religion and the individual

Here we shall talk about the establishment of the field of religious psychology and, focusing on the issues taken up by such early psychologists of religion as W. James, examine the relationship between individuals' psychology

10 回： Religion in psychoanalysis: With a focus on S. Freud

This lecture too will be dedicated to a psychological understanding of religion, this time that by the founder of psychoanalysis S. Freud. Based on his writings about religion, we shall think about issu

11 回： Criticism of Freud's view of religion

This lecture will, while introducing C.G. Jung's understanding of religion and religiosity, bring up various criticisms of Freud's psychoanalytical view of religion.

12 回：The character of religious and magical thinking

Here, while introducing the views of several philosophers and religious studies scholars, we shall discuss whether there are deep, fundamental differences between the cognition involved in religious belief a

13 回：Religion and economy

By taking up K. Marx' view on religion and the theory of sociologist M. Weber, we will consider how the economic and political system, social class and profession influence individuals' religious outlooks, as well as how religious bel

14 回：Religion and meaning

Here, in order to examine the issue of religion and meaning, both on societal and individual levels, we shall take up the thought of anthropologist C. Geertz, who viewed religion as a system of symbols that gives human societies meani

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワーポイント等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

Students taking this course will be required to read a book on religion as preparation for writing their term-end papers.

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

レポート試験 :80%

平常点割合 :20% Attitude in class:20%

"Attitude in class" concretely means whether or not, or to what extent you are asking questions concerning the content of lectures and participating in brief debates.

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

Reading material will be introduced in each lesson.

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

A very high level of English proficiency is necessary in order to able to follow this course.

その他 / Others

Handouts will be distributed during each class.

Students will not be required to study in advance.

注意事項（検索結果画面）

For PEACE and DLP students

Humanities Studies 4

Humanities Studies 4

Literature

キヴァニー (KEAVENEY CHRISTOPHER)

開講年度： 2024

科目設置学部： 異文化コミュニケーション学部

科目コード等： DM463

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： ICC1581

使用言語： 英語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： For PEACE and DLP students

授業の目標 / Course Objectives

TOPIC: ENCOUNTERING FLASH FICTION

- To practice active reading strategies with a focus on intensive reading
- To read and analyze flash fiction in English
- To participate in class discussions in English

授業の内容 / Course Contents

The course will focus on intensive reading of flash fiction—short stories of three or fewer pages. Though short, these stories possess all of the elements that define fiction. Through regular practice, students will develop strategies to more effectively understand and critically approach works of fiction of any length. In order to facilitate understanding of the texts, we will engage in both active and interactive reading exercises. Work in the course will involve discussion of the stories, weekly responses, and one or two in-class presentations per student, and two response papers.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：Introduction to Course; Story 1: "Night" (Lott)
 2 回：Story 2: "Barbie Birthday" (Townsend)
 3 回：Story 3: "Bullhead" (Wilson)
 4 回：Story 4: "Words" (McCaffrey)
 5 回：Story 5: "Blind Fish" (Thon)
 6 回：Story 6: "The Doctor" (Hood)
 7 回：Story 7: "What Were Those White Things" (Hemple)

Analysis Paper 1 is due

- 8 回：Story 8: "The Wallet" (McCuaig)
 9 回：Story 9: "The Mesmerist" (Knight)
 10 回：Story 10: "Oliver's Evolution" (Updike)
 11 回：Story 11: "Baker's Helper" (Anderson)
 12 回：Story 12: "Geometry Can Fail Us" (Jacksha)
 13 回：Story 13: "Paterson Fire" (Gifford)
 14 回：Story 14: "Initials Sketched on a Dining Room Table" (Orner)

Analysis Paper 2 is due

Brief student introductions to paper topic

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	○	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

- Students will need to come to class ready to contribute having read the outside readings for the week.
- Each week, Students will need to prepare a reading response to the week's story.

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Class Participation and Attendance:30% Weekly Reading Maps and Summaries:30%
 Reading Response Paper 1:15% Reading Response Paper 2:15% In-class Analysis Presentation:10%
 Students who miss four or more sessions will receive no credit for "Class participation and Attendance"

テキスト / Textbooks

Thomas, James Flash Fiction W.W. Norton 9780393328028 -

No text required. PDF Students are required to bring a copy of the PDF version of the week's story, which will be available on the course Canvas page

参考文献 / Readings

Readings will be made available to students in digital form on the password protected course Canvas page.

その他 / Others

- The Canvas course delivery system will be used extensively for sharing course readings and submission of student work.
- Small group and pair discussion will be a regular feature of this course and will complement lectures

accompanied by Powerpoint slid

注意事項（検索結果画面）

For PEACE and DLP students

Humanities Studies 5

Humanities Studies 5

Literature

キヴァニー (KEAVENEY CHRISTOPHER)

開講年度： 2024

科目設置学部： 異文化コミュニケーション学部

科目コード等： DM464

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： ICC1581

使用言語： 英語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： For PEACE and DLP students

授業の目標 / Course Objectives

COURSE TOPIC: FLASH FICTION INTERNATIONAL

- To practice academic reading strategies including skimming, scanning, and intensive reading
- To read and analyze flash fiction from around the world in English
- To participate in class discussions in English

授業の内容 / Course Contents

The course will focus on intensive reading of international flash fiction—short stories of several pages from around the world in English translation. Through regular in-class and out-of-class practice, students will develop strategies to more effectively understand and critically approach works of fiction of any length. In order to facilitate understanding of the texts, we will engage in both active and interactive reading exercises. Work in the course will involve analysis and summaries of the stories and discussion in class, one or two in-class presentations per student, and two short (1-2 page) reading response papers.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：Story 1: “Little Girls” by Tara Laskowski (USA)

Topic: Family and Parenting

2 回：Story 2: “Amerika Street” by Lili Potpara (Slovenia)

Topic: Childhood and Coming-of-Age

3 回：Story 3: “The Attraction of Asphalt” by Stefani Nellen (Germany)

Topic: Childhood and Coming-of-Age

4 回：Story 4: “Man Carrying Books” by Linh Dinh (Vietnam)

Topic: Education and Social Class

5 回：Story 5: “That Color” by Jon McGregor (England)

Topic: Memory and Nostalgia

6 回：Story 6: “The Ache” by Elena Bossi (Argentina)

Topic: Memory and Desire

7 回：Story 7: “Sleeping Habit” by Yasunari Kawabata (Japan)

Topic: Romantic Relationships

Analysis Paper 1 is due

8 回：Story 8: “The Joke” by Giannis Palavos” (Greece)

Topic: Romantic Relationships

9 回：Story 9: “The Egg Pyramid” by Nuala Ni Chonchuir (Ireland)

Topic: Romantic Relationships and Betrayal

10 回：Story 10: “Eating Bone” by Shabnam Nadiya (Bangladesh)

Topic: Gender Roles and Tradition

11 回：Story 11: “The Lament of Hester Muponda” by Petina Gappah (Zimbabwe)

Topic: Gender Roles and Tradition

12 回：Story 12: “The Madonna Around Evelina’s” by Pierre J. Mejlak (Malta)

Topic: Belief and Superstition

13 回：Story 13: “The Black City” by Leonardo Alishan (Iran)

Topic: Memory and Place

14 回：Story 14: “Consuming the View” by Luigi Malerba (Italy)

Topic: Culture and Preservation

Brief student Presentations

Analysis paper 2 is due

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	○	グループ発表	:	○	ディスカッション・ディベート: ○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

- Students will need to come to class ready to contribute having read the outside readings for the week.
- Each week, Students will need to submit their completed Reading Response of the week's reading.

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分: 111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Class Participation and Attendance:30% Weekly Reading Analyses:30% Reading Response Paper 1:15% Reading Response Paper 2:15% Analysis Presentation:10%

Students who miss more than four class sessions will receive no credit for "Class Participation and Attendance."

テキスト / Textbooks

Thomas, James Flash Fiction International W.W. Norton 9780393346077 -

Readings from "Flash Fiction International" will be provided online in PDF form. Students are required to read the PDF versions of the story provided on the course Canvas page and bring each week's reading to class.

参考文献 / Readings

Supplementary readings will be made available to students in PDF files on the course Canvas page.

その他 / Others

- The canvas course delivery system will be used extensively for sharing course readings and submission of student work.
- Small group and pair discussion will be a regular feature of this course and will complement lectures accompanied by Powerpoint slid

注意事項 (検索結果画面)

For PEACE and DLP students

Humanities Studies 6

Humanities Studies 6

Visual Poetry of Japan: 1684-2023

ミイニョオン (MIGNON EDWARD TAYLOR)

開講年度：	2024
科目設置学部：	異文化コミュニケーション学部
科目コード等：	DM465
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	春学期
単位：	2
科目ナンバリング：	ICC1581
使用言語：	英語
授業形式：	講義
履修登録方法：	科目コード登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	For PEACE and DLP students

授業の目標 / Course Objectives

“Visual-poetry combines visual art and poetic sensibility by manipulating images and letterforms.” From a wide perspective, we will analyze the different aspects and interpretations of "Visual Poetry" in a Japanese context. After beginning with a an example of the word made concrete in statue-form dating back to the Edo period, we will learn to appreciate find the vocabulary to discuss the varying manifestations of visual poetry: Asemic Writing, Calligrams, Calligraphy, Collages, Haiku, Japanese Translations, Lexical Poems, Mail Art, and Photography.

授業の内容 / Course Contents

Students must complete the readings, explore archival material on the web, and attend all lectures and seminar sessions.

Creative and written work will consist of:

1. Weekly assignments creating original works based on subjects in textbook
2. Original translations of haiku and other lexical Japanese poetry
3. An oral presentation of original research on one of the artists discussed during the course

4. A final collection of works created and translated during the course

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：1. Course Syllabus and General Introduction

1. Discussion of the course requirements
2. Description of the various artistic and writing assignments
3. Outline of the main concepts of the course
4. Guided reading

Reading:

Andrew Campana, Introduction

Short lec

2 回：Haiku & Short Poetry

Reading:

Matsuo Basho: kare eda ni

Nagata Koi

Saito Sanki

3 回：Haiku & Short Poetry 2

Reading:

Hiroaki Sato, 100 Frogs

Matsuo Basho: furu ike ya

Analysis /reading of Fujitomi Yasuo visual translation

4 回：Haiku & Short Poetry 3

Reading:

Cid Corman, On the No Stage

Cid Corman, The Tortoise

5 回：Taisho Era

Reading:

Manifesto of the Japanese Futurist Movement by Renkichi Hirato

Lecture: Methods of character manipulation in Ensemble (Renkichi) and work by Hagiwara Kyojiro

6 回：VOU

Reading:

-Tsuji Setsuko, lexical and visual poetry

- Calligram by Torii Ryozen

7 回：VOU 2

Reading:

-Torii Shozo, lexical poetry

-Poem with Photograph, Yamamoto Kansuke

8 回：Association for the Study of Arts

Viewing: Niikuni Seiichi

-Rain

9 回：Independent Artists

-Yamanaka Kyojiro

-Tanabu Hiroshi

(Concrete poetry)

10回：John Solt

Reading:

Looking a Gift Horse in the Mouth

11回：Book Design

-Onchi Koshiro

-Kitazono Katsue

-Sugiura Kohei

-Takahashi Shohachiro

12回：Layout and style workshop for final collection

13回：Collage:

FLANGER

14回：Class readings of lexical work and "guerilla" visual exhibition

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

The weekly reading must be finished before class, as well as the artistic assignments. All assignments must be completed in a timely manner. Attendance for all classes as well as participation is expected.

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% Weekly Assignments:30% Individual presentations:30% Final Collection:40%

テキスト / Textbooks

Taylor Mignon Visual Poetry of Japan: 1684-2023 KERPLUNK! 2024 9798218318826 ○

参考文献 / Readings

注意事項（検索結果画面）

For PEACE and DLP students

Humanities Lecture 1

Humanities Lecture 1

H i s t o r y

セイヤーズ (SAYERS BRIAN)

開講年度： 2024

科目設置学部： 異文化コミュニケーション学部

科目コード等： DM466

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： ICC1581

使用言語： 英語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： For PEACE and DLP students

授業の目標 / Course Objectives

As the world becomes an increasingly globalized place, the study of history is more relevant than ever to understand the forces that have shaped our society. The aim of this course is to provide students with the opportunity to analyze and discuss some of the major global changes that have taken place from the mid nineteenth to the early twentieth century. This course will develop students' critical thinking skills as well as their ability to engage in meaningful discussions about historical events.

授業の内容 / Course Contents

This course will provide an outline of the major political, social, cultural and economic changes that have occurred globally from the mid nineteenth to the early twentieth century. Special emphasis will be placed on the impact of the actions of western powers in a global context. It will adopt a thematic and a broadly chronological approach and include the analysis of both primary (textual and visual) and secondary sources. Course themes will include Imperialism and the Origins of Anticolonial Nationalism, Cultural Modernism and Global Feminisms. Students are required to complete assigned readings and prepare answers to discussion questions in note form

before coming to class. They will also write one essay of 1,500 words.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：Lecture: Consolidating Nations and Constructing Empires
- 2回：Lecture: Imperialism and the Origins of Anticolonial Nationalism
- 3回：Seminar: Current Trends in World History: Africa's Newest Hunters and Gatherers: Greed, Environmental Degradation, and Resistance
- 4回：Seminar: Interpreting Visual Evidence: Occidentalism: Representing Western Influence
- 5回：Seminar: Global Themes and Sources: Contextualizing the Scramble for Empire
- 6回：Lecture: Discontent with Imperialism
- 7回：Lecture: Cultural Modernism
- 8回：Seminar: Global Themes and Sources: Global Feminisms
- 9回：Seminar: Current Trends in World History: Adapting to the Environment: Russian Peasants Take on the Steppe
- 10回：Seminar: Interpreting Visual Evidence: Global Modernism
- 11回：Lecture: The Quest for the Modern
- 12回：Lecture: Mass Society: Culture, Production, and Consumption
- 13回：Seminar: Global Themes and Sources: Comparing and Contextualizing Totalitarianism
- 14回：Seminar: Current Trends in World History: Population Movements: Filling Up the Empty Spaces and Spreading Capitalism; Interpreting Visual Evidence seminar: Men, Machines, and Mass Production

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワーポイント等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

Students are required to complete the assigned readings and write answers to discussion questions in note form before class.

Please note that the course schedule provided in this syllabus is a general guide for students and that some changes may be made i

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Participation in class discussions:30% Completion of exercises:30% Essay:40%

テキスト / Textbooks

Students do not have to purchase a textbook for this course.

参考文献 / Readings

Elizabeth Pollard, Clifford Rosenberg, Robert Tignor & Alan Karras Worlds Together, Worlds Apart: A History of the World: From the Beginnings of Humankind to the Present Vol. 2, Concise 2nd Edition W.W. Norton and Company Ltd 2019 13 9780393668551

Students will receive information about essential reading for this course at the first session.

その他 / Others

Classes will be held in both lecture and seminar style.

注意事項（検索結果画面）

For PEACE and DLP students

Humanities Lecture 2

Humanities Lecture 2

L i t e r a t u r e

キヴァニー (KEAVENEY CHRISTOPHER)

開講年度： 2024

科目設置学部： 異文化コミュニケーション学部

科目コード等： DM467

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： ICC1581

使用言語： 英語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： For PEACE and DLP students

授業の目標 / Course Objectives

- Become familiar with international and historical perspectives on war and on nonviolence and peace.
- Better understand cross-cultural attitudes toward conflict, peace, and nonviolence
- Foster skills to write and speak about literature in English.

授業の内容 / Course Contents

This course treats literary works from around the world about the experience of war and the search for peace. We will look at works from a variety of genres including short fiction, essays, poetry, and songs. Writing and speaking practice, including small group discussions and essays, will be used to foster improved English communication skills.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回： Striving for Peace in a Violent World

Readings: Mohandes Gandhi, "My Path" and Dalai Lama, "Human Approach to World Peace"

2 回： The Ancient World

Readings: Aristophanes, "Rescuing Peace" and Sunzi, "Selections from Art of War"

3回：The Drums of War in East Asia

Readings: Selections from "Tale of Heike" and Du Fu, "Ballad of the War Wagons"

4回：Poetry of War and Peace

Readings: Emily Dickinson, "I Many Times Thought Peace Had Come" and Rabindranath Tagore, "Words From the Depth of Truth"

5回：War Fiction 1

Reading: John Dos Passos, "Three Soldiers"

6回：War Fiction 2

Reading: Ernest Hemingway, "Old Man at the Bridge"

7回：War Fiction 3

Reading: Liam O'Flaherty, "The Sniper"

Analysis Paper 1 and Presentation are due

8回：War and Satire

Reading: Judith Soloway, "The One Day War"

9回：Peace and Reconciliation

Reading: Scholastique Mukasonga, "Cattle Praise Song"

10回：Seeking Peace in a Nuclear World

Reading: Kenzaburo Oe, "Nobel Prize Speech" and Ray Bradbury, "There Will Come Soft Rains"

11回：Anti-war Novel 1

Readings: Kurt Vonnegut, "Slaughterhouse Five"

12回：Anti-war Novel, 2

Reading: Kurt Vonnegut, "Slaughterhouse Five"

13回：Anti-war Novel, 3

Reading: Kurt Vonnegut, "Slaughterhouse Five"

14回：Imagining Peace

Readings: The Protest Song: John Lennon and Yoko Ono, "Imagine," Bob Dylan, "Blowin' in the Wind", and Richie Havens, "Handsome Johnny"

Analysis Paper 2 and presentation are due

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	○	グループ発表	:	○	ディスカッション・ディベート : ○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

Students will need to come to class ready to contribute having completed the readings for the week. Students will need to submit their weekly response to the readings via the discussion tool on Canvas.

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Class participation including group discussions and reading checks:30% Weekly Reading

Analysis Responses:30% Reading Analysis Paper 1:15% Reading Analysis Paper 2:15% Presentations based on Reading Analysis Papers:10%

Students will need to fully attend at least 2/3 of class sessions to pass this course.

テキスト / Textbooks

There is no textbook for this class, but literary works and supplementary materials will be made available to students in digital form on the password-protected course site.

参考文献 / Readings

その他 / Others

- The Canvas course delivery system will be used extensively for sharing course readings and submission of student work.
- Small group and pair discussion will be a regular feature of this course and will complement lectures accompanied by Powerpoint slid

注意事項 (検索結果画面)

For PEACE and DLP students

Japanese Economic History1

Japanese Economic History1

西崎 純代 (NISHIZAKI SUMIYO)

開講年度：	2024
科目設置学部：	異文化コミュニケーション学部
科目コード等：	DM470
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	春学期
単位：	2
科目ナンバリング：	ICC2581
使用言語：	英語
授業形式：	講義
履修登録方法：	抽選登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	For PEACE and DLP students

授業の目標 / Course Objectives

英語で日本経済史を学びます。歴史関連知識の習得、批判的分析力の獲得、プレゼンテーションと討論関連のスキルの習得を目標とします。

[Knowledge] Students will acquire knowledge of major economic events in Japanese history, including its distinctive characteristics and features shared with other economies and its influence on contemporary Japan.

[Critical thinking skills] Students will develop critical thinking skills by using historical cases.

[Presentation and discussion skills] Students will enhance their presentation skills and the ability to engage in constructive debates.

授業の内容 / Course Contents

授業はすべて英語で行います。授業内容は講義、ディスカッション、グループワーク、小課題です。プロジェクトは、歴史的なテーマをケースとして、批判的分析力を養うことを目的とし、エッセイまたはプレゼンテーションを提出します。

Content includes lectures, discussions, in-class group activities, and short assignments. Students will work on a project (an essay or presentation) on the topic of their choice. "Japanese Economic History 1" covers the Edo and

the Meiji periods, and “Japanese Economic History 2” covers the Taisho and Showa periods up to the 1950s. The order of weekly topics may be changed to maximize the learning outcome.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：Introduction: Overview of Japanese economic history from the 16th to 21st centuries
- 2回：The Edo period: Overview and the institution
- 3回：Academic skills session (about the project. An essay, or a presentation)
- 4回：The Edo period: The Osaka rice market
- 5回：The Edo period: The transformation of industries
- 6回：The Edo period: The finance of the Tokugawa Shogunate
- 7回：The Edo period: Living standards and people's lives
- 8回：The Edo period: The economy before the Meiji Restoration
- 9回：The Meiji period: The Meiji Restoration, an overview
- 10回：The Meiji period: Financial foundations and social changes
- 11回：The Meiji period: Technology, labor, infrastructure, and social changes
- 12回：The Meiji period: Trade, foreign relations, and wars
- 13回：The summary of the Pre-WWI period
- 14回：Conclusion

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワーポイント等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

Students are expected to go through the assigned readings before each class meeting.

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% Project:30% Other assignments:32% 最終テスト割合：38%

The contents of mini assignments will be decided after the class size is finalized. To receive credits, students must attend more than 2/3 class meetings. A rubric for a presentation and essay will be available. Academic Honesty: Students must submit orig

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

- Akira Hayami; Osamu Saito; Ronald P. Toby The Economic History of Japan, 1600-1990: Volume 1: Emergence of Economic Society in Japan, 1600-1859 Oxford University Press 2004 9780198289050
- Takafusa Nakamura; Konosuke Odaka; Noah S. Brannen The Economic History of Japan, 1600-1990: Volume 3: A Dual Structure Oxford University Press 2003 9780198289074
- Penelope Francks Japanese Economic Development: Theory and Practice, 3rd edition Routledge 2015 9780415739344
- Andrew Gordon A Modern History of Japan: From Tokugawa Times to the Present, 4th Edition Oxford University Press 2019 9780190920555

その他/ Others

MIT Visualizing Cultures. (2002). <https://visualizingcultures.mit.edu/home/index.html>

注意事項（検索結果画面）

For PEACE and DLP students

Japanese Economic History2

Japanese Economic History2

西崎 純代 (NISHIZAKI SUMIYO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 異文化コミュニケーション学部
科目コード等： DM471
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： ICC2581
使用言語： 英語
授業形式： 講義
履修登録方法： 抽選登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考： For PEACE and DLP students

授業の目標 / Course Objectives

英語で日本経済史を学びます。歴史関連知識の習得、批判的分析力の獲得、プレゼンテーションと討論関連のスキルの習得を目標とします。

[Knowledge] Students will acquire knowledge of major economic events in Japanese history, including its distinctive characteristics and features shared with other economies and its influence on contemporary Japan.

[Critical thinking skills] Students will develop critical thinking skills by using historical cases.

[Presentation and discussion skills] Students will enhance their presentation skills and the ability to engage in constructive debates.

授業の内容 / Course Contents

授業はすべて英語で行います。授業内容は講義、ディスカッション、グループワーク、小課題です。プロジェクトは、歴史的なテーマをケースとして、批判的分析力を養うことを目的とし、エッセーまたはプレゼンテーションを提出します。

Content includes lectures, discussions, in-class group activities, and short assignments. Students will work on a project (an essay or presentation) on the topic of their choice. "Japanese Economic History 1" covers the Edo and

the Meiji periods, and “Japanese Economic History 2” covers the Taisho and Showa periods up to the 1950s. The order of weekly topics may be changed to maximize the learning outcome.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：Introduction & the overview of Japanese economic history
- 2 回：Japan in WWI and the inter-war period
- 3 回：Academic skills session (about the project. An essay, or a presentation)
- 4 回：Economy and society
- 5 回：Economic effects of the Spanish flu pandemic and the Great Kanto Earthquake
- 6 回：Depression crisis and responses in the 1920s and 1930s
- 7 回：Japanese empire and colonial management 1
- 8 回：Japanese empire and colonial management 2
- 9 回：Japan in wartime 1
- 10 回：Japan in wartime 2
- 11 回：Postwar reconstruction 1
- 12 回：Postwar reconstruction 2
- 13 回：Path to the postwar growth
- 14 回：Conclusion: Growth versus success

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワーポイント等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

Students are expected to go through the assigned readings before each class meeting.

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% Project:30% Other assignments:32% 最終テスト割合：38%

The contents of mini assignments will be decided after the class size is finalized. To receive credits, students must attend more than 2/3 class meetings. A rubric for a presentation and essay will be available. Academic Honesty: Students must submit orig

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

- Akira Hayami; Osamu Saito; Ronald P. Toby The Economic History of Japan, 1600-1990: Volume 1: Emergence of Economic Society in Japan, 1600-1859 Oxford University Press 2004 9780198289050
- Takafusa Nakamura; Konosuke Odaka; Noah S. Brannen The Economic History of Japan, 1600-1990: Volume 3: A Dual Structure Oxford University Press 2003 9780198289074
- Penelope Francks Japanese Economic Development: Theory and Practice, 3rd edition Routledge 2015 9780415739344
- Andrew Gordon A Modern History of Japan: From Tokugawa Times to the Present, 4th Edition Oxford University Press 2019 9780190920555

John Dower Embracing defeat: Japan in the wake of World War II W.W. Norton & Co. 2000

9780393320275

MIT Visualizing Cultures. (2002). <https://visualizingcultures.mit.edu/home/index.html>

注意事項（検索結果画面）

For PEACE and DLP students

Sociological Studies A

Sociological Studies A

AI in Society: Comparative Sociological Insights

レザエブ, A. (REZAEV ANDREY)

開講年度：	2024
科目設置学部：	異文化コミュニケーション学部
科目コード等：	DM472
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	春学期 1
単位：	2
科目ナンバリング：	ICC3581
使用言語：	英語
授業形式：	講義
履修登録方法：	抽選登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	<input type="radio"/>
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	For PEACE and DLP students

授業の目標 / Course Objectives

このコースの主な目的は、社会の日常生活における AI の拡大を理解するための社会学的知見を学生に紹介することです。このコースの 2 番目の目標は、研究スキルやディスカッションスキルの上達を通じて、学生が専門的なキャリアや大学でのさらなる学習の準備を促進することです。

This Course is designed for students enrolled in educational programs at the College of Sociology, Rikkyo University.

It is both a theoretical and data-driven course as well as interdisciplinary and problem-oriented for international students.

The primary goal of this Course is to introduce students to the richness of sociological insights of understanding the expansion of AI in the everyday life of society. The second goal of the Course is to facilitate students in preparation for a professional career or further studying in universities through the development of research skills and peer discussion skills.

The Course has three foci and is developed according to three basic ideas.

First, it is a must for social analytics, sociological sciences, and humanities students to study AI and the involvement of AI instruments into the everyday life of a society.

Second, the sociological studies and social analytics of AI must utilize a human-centered AI perspective and comparative approach to enquire how instruments of AI should be developed in different societies and cultures.

Third, students can use the AI instruments such as ChatGPT and Bard while doing their classes on AI in society.

授業の内容 / Course Contents

このコースは、人工知能と社会の相互作用を探求したい社会科学の学生向けに設計されています。社会学のおよび社会文化的な観点を重視し、AI 機器、人間の生活、社会の日常生活の間の複雑な関係を掘り下げます。

This innovative Course is designed for social sciences students seeking an in-depth exploration of the interplay between artificial intelligence and society. It emphasizes sociological and socio-cultural perspectives and delves into the intricate relationships between AI instruments, human lives, and the everyday life of society. Through interdisciplinary discussions, critical analyses, and thought-provoking debates, students will gain a comprehensive understanding of the social, ethical, and cultural dimensions of AI's impact on society. By examining AI through a comparative sociological lens, students will engage with topics such as human well-being, equity, social interactions, and the broader societal implications of AI deployment in global contexts.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：What is Artificial intelligence? History of the term. Basic approaches to the definition
- 2 回：Comparative and historical perspectives on AI development. Current stage of AI development: 'artificial sociality'
- 3 回：'Dark side' of AI development: social, ethical and legal problems
- 4 回：Case studies: The role of AI in historical and societal contexts
- 5 回：Human-centered AI: History of the idea
- 6 回：Dilemmas of HCAI
- 7 回：Interdisciplinary research on HCAI: perspectives and obstacles
- 8 回：Social audit of HCAI
- 9 回：Overview of AI instruments like ChatGPT and their applications
- 10 回：Strategies for utilizing AI to gather information and resources. Enhancing data analysis using AI-generated insights
- 11 回：Interactive sessions: AI-guided exploration of AI concepts
- 12 回：Hands-on activities: Fact-checking and validating AI-generated content
- 13 回：Case studies: Successful integration of AI in academic research
- 14 回：Final Discussion: Future of AI in Education and Learning

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ）等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

some readings such as below;

Russell S., Norvig P. Artificial Intelligence: A Modern Approach. 3rd ed. Pearson Education Limited. 2016.

Chapter 1: Introduction.

Rezaev A. V. (2021) Twelve Theses on Artificial Intelligence and Artificial Sociality. Monitor

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Attendance and Participation:30% Position Papers 1:20% Position Papers 2:20%

Final Presentation:30%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

give instructions to each class.

注意事項（検索結果画面）

For PEACE and DLP students

Sociological Studies B

Sociological Studies B

Migration, gender and care work

ガルシア (GARCIA DOS SANTOS Y.)

開講年度： 2024

科目設置学部： 異文化コミュニケーション学部

科目コード等： DM473

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期 2

単位： 2

科目ナンバリング： ICC3581

使用言語： 英語

授業形式： 講義

履修登録方法： 抽選登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： For PEACE and DLP students

授業の目標 / Course Objectives

This course introduces students to contemporary discussions about migration, gender and care work in the globalized world. It also examines the structural gender inequality between the global North and global South in the context of the increasing care crisis facing the demographic changes related to greater longevity. Migrant labor force is increasingly demanded to satisfy caregiving for the elderly, along with other care services for children, disabled persons and other situations of vulnerability. At the end of the course, students are expected to develop critical and constructive reflections concerning migrant care workers' human rights.

授業の内容 / Course Contents

The course is divided into four parts. The first part introduces migration studies from a gender perspective in the context of a global care crisis. Then, we will discuss the historical, social and demographic background of care work as well as its sociological and political debates (for instance, gender, race and regional inequality). In the third part, we present regional overviews of migration conditions and care work, with an emphasis on Filipino women's migration into Canada, Europe and Japan. Lastly, we will discuss the trajectories of care workers based

on empirical and qualitative research. A discussion about ethical, social and political challenges will be held as a way of final consideration.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：Globalization, migration and gender
- 2 回：Demographic changes and social reproduction crisis
- 3 回：Care work, emotional work, intimate work
- 4 回：The racial division of reproductive labor
- 5 回：The international division of reproductive labor
- 6 回：Mobilization and social rights of care workers
- 7 回：A regional overview: North America (Canada)
- 8 回：A regional overview: South America (Brazil)
- 9 回：A regional overview: Europe (France, Italy)
- 10 回：A regional overview: Asia (Japan-Philippines) I
- 11 回：A regional overview: Asia (Japan-Philippines) II
- 12 回：Trajectories of migrant care workers I
- 13 回：Trajectories of migrant care workers II
- 14 回：Ethical, social and political challenges

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワーポイント等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

Prepare for presentation and weekly reaction paper.

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% Weekly reaction paper:20% Presentation:20% Attendance and participation:20%

最終レポート割合：40%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

- FRASER, Nancy Contradictions of capital and care New Left Review, v. 100, p. 99-117 2016
- GLENN, Evelyn Nakano Creating a Caring Society Contemporary Sociology, Vol. 29, No.1, pp. 84-94 2000
- MORIKI, Kazumi フィリピン移住女性と日本社会－40年のインタラクション（Philippino migrant women and Japanese society - 40 years of interaction） Akashi Shoten, p. 129-184; p. 203-233. 2023
- PARREÑAS, Rhacel Salazar Migrant Filipina Domestic Workers and the International Division of Reproductive Labor Gender and Society. Vol. 14, No.4, p. 560-580. 2000

注意事項（検索結果画面）

For PEACE and DLP students

Sociological Studies C

Sociological Studies C

Sociology of Happiness: The implications of happiness studies for the ecological transition

バルトリーニ (BARTOLINI STEFANO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 異文化コミュニケーション学部

科目コード等： DM474

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期 1

単位： 2

科目ナンバリング： ICC3581

使用言語： 英語

授業形式： 講義

履修登録方法： 抽選登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： For PEACE and DLP students

授業の目標 / Course Objectives

このコースは、環境、人間関係、時間の使い方、幸福の観点から現在の経済社会システムを持続可能なものにするために必要な改革を設計するため、その概念的なツールを学生に提供することを目的としています。このコースの最終的な目的は、社会的にマクロな状況と、学校や企業などの組織に関連するよりミクロな状況の両方で、幸福と持続可能性の向上を目的とした変化を理解し、実行するためのツールを学生に提供することです。

The course aims to provide students with the conceptual tools to design the reforms necessary to make the current economic and social system sustainable from the point of view of the environment, human relations, time use and happiness. The ultimate aim of the course is to provide students with tools to design and implement changes aimed at increasing happiness, and sustainability in both in social macro-contexts and in smaller contexts relating to organizations such as schools or businesses.

授業の内容 / Course Contents

経済成長は、ますます深刻な生態学的危機と社会的および対人関係の悪化を伴い、ここ数十年間で集団の孤独

化が生じています。さらに、成長が人々の幸福に及ぼす影響は大きく、さまざまな産業社会は、苦痛、倦怠感、不幸、精神疾患、自殺、依存症が増加しています。なぜ？経済的に豊かになるためには、人間関係、幸福、時間、自然環境において必然的に貧しくなる必要があるのでしょうか？そして何よりも、別の方法はあるのでしょうか？何があるのか？これらはコースの中心となる質問であり、経済成長の悪影響の理由と、持続可能で幸福、社

Economic growth has been accompanied by increasingly serious ecological crises and an impoverishment of social and interpersonal relationships, which in recent decades have resulted in mass solitude. Moreover, the impact of growth on people's happiness has been disappointing. Distress, malaise, unhappiness, mental illnesses, suicides, addictions have grown in many industrial societies. Why? To become economically richer, do we necessarily have to become poorer in relationships, well-being, time, and the natural environment? And above all: is there another way? And if so, which one? These are the questions at the core of the course, which examines the reasons for the negative effects of economic growth and the viable alternatives to build an economy that is both sustainable and capable of generating well-being, sociability and leisure.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：The measurement of happiness
- 2 回：The crisis of happiness: trends of subjective and objective indicators of happiness in Western countries and emerging economies over past decades
- 3 回：Empirical evidence on the determinants of well-being: the role of income and social/affective relationships
- 4 回：Other crises: ecology, leisure, human relationships,
- 5 回：The broken promises of economic growth
- 6 回：An unified explanation of the crises of industrial countries
- 7 回：Plummeting consensus: nationalism in the West
- 8 回：Getting out of the crises: shifting society from money to happiness
- 9 回：Urban reform
- 10 回：Educational reform
- 11 回：Mass media reform
- 12 回：Work organization reform
- 13 回：Healthcare system reform
- 14 回：Conclusion: Towards a post-growth society

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

Reading articles distributed during the course

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Attendance and Participation:20% Active classroom engagement:40% Final Project:40%

Final Project : students can choose to write an essay (2500-3500 words) or to produce a video (max length 6 minutes)

テキスト / Textbooks

Stefano Bartolini and Francesco Sarracino THE ECOLOGICAL TRANSITION ACCORDING TO STUDIES ON WELL-BEING AND SOCIAL CAPITAL Springer 2024 -

参考文献 / Readings

Reading articles distributed during the course

注意事項 (検索結果画面)

For PEACE and DLP students

Sociological Studies D

Sociological Studies D

Global Sociology of Work and Labour Relations

ゴス, J. (GOSS JASPER)

開講年度： 2024

科目設置学部： 異文化コミュニケーション学部

科目コード等： DM475

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期 2

単位： 2

科目ナンバリング： ICC3581

使用言語： 英語

授業形式： 講義

履修登録方法： 抽選登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： For PEACE and DLP students

授業の目標 / Course Objectives

- 経済学および比較社会学の概念の基本的な理解を深めます。
- グローバルな文脈における仕事と労働関係に関連する基本的な社会学的概念の理解を深めます。
- データベースの調査と分析を実行するスキルを伸ばします。
- プロフェッショナルな英語による仕事のスキルを伸ばします。
- Develop basic understanding of economic and comparative sociology concepts,
- Develop understanding of fundamental sociological concepts related to work and labour relations in global context
- Develop skills in conducting database research and analysis,
- Develop professional English working skills.

授業の内容 / Course Contents

このコースは、仕事、雇用、労働関係に関連する主要な社会学の理論と用語の紹介から始まります。コースの第 2 部では、1945 年から現在までの仕事と労働関係の世界的な傾向を考察します。これには、国際機関、

多国籍企業、女性と移民労働者の役割、国際分業の変化に関するケーススタディが含まれます。コースの3番目の部分では、未来と仕事の世界における変革の影響、つまり人工知能の役割、労働組合の関連性、「ギグ」エコノミー（プラットフォーム ワーカー）の出現に目を向けます。

The course begins with an introduction into the key sociological theories and vocabulary related to work, employment and labour relations. The second part of the course examines global trends in work and labour relations from 1945 to the present. This includes case studies on international organisations, multinational corporations, the role of women and migrant workers, and changes in the international division of labour. The third part of the course looks to future and the implications of transformations in the world of work: the role of artificial intelligence, the relevance of trade unions and the emergence of the "gig" economy (platform workers).

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回： Key theories of work and labour relations
- 2 回： Key concepts in labour markets
- 3 回： Employers, trade unions and the state – the tripartite compromise (1940s – 1970s)
- 4 回： Neoliberalism and the deregulation of labour markets (1970s – present)
- 5 回： Public Sphere – the United Nations (UN), the International Labour Organization (ILO) and international labour standards
- 6 回： Private Sphere – multinational corporations, supply chains and trade unions
- 7 回： The global feminization of (formal) work
- 8 回： Migrant workers as a global work force
- 9 回： Between the North and the South – the international division of labour
- 10 回： Between the North and the South – Informal work – back to the future?
- 11 回： Gig economy, young workers and platform work – old wine, new bottles?
- 12 回： Responses to trade union decline
- 13 回： Artificial intelligence (AI), work and labour relations
- 14 回： Evaluation and review

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド* (パワポ等) の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

2-3 hours per week

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Attendance and Participation:10% Wikipedia English updating assignment:15% 5–8 minute comparative data research and analysis presentation:30% Viewpoint, 500 words:30% Self-reflection note, 250 words:15%

テキスト / Textbooks

A list will be distributed in the class.

参考文献 / Readings

注意事項（検索結果画面）

For PEACE and DLP students

Sociology of Gender A

Sociology of Gender A

トースクン (TOSAKUL RATANA)

開講年度：	2024
科目設置学部：	異文化コミュニケーション学部
科目コード等：	DM476
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	秋学期
単位：	2
科目ナンバリング：	ICC2581
使用言語：	英語
授業形式：	講義
履修登録方法：	科目コード登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	For PEACE and DLP students

授業の目標 / Course Objectives

At the end of this course, students should be able to:

1. apply relevant sociological theories about gendered experiences and phenomena to gender-related social issues,
2. describe gender ideology and practices in multiple social institutions and across cultures and societies, and analyze how social structure shapes gendered identities and experiences with ethnographic analysis.

授業の内容 / Course Contents

This course helps students understand gender as a social construction. The traits considered masculine or feminine have some basis in biology but are molded by sociocultural forces. We will first review sociological theories of gender and sexuality and examine how gender varies by sexual orientation. Then, we will investigate gender in context to understand how gender relations, norms, and practices are thought, built, and shaped through social, political, and economic institutions and interactions across cultures and societies with a particular reference to the case of Japan, including family, media, politics, and workplace. Students will be able to examine gender-related issues of interest in their final paper.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：Course orientation and welcome
 2 回：Introduction to the sociology of gender
 3 回：Defining gender, sex, and sexuality
 4 回：Conceptual approaches to gender – the individualist approach
 5 回：Gender in interactionist and institutional approaches
 6 回：Gender differences and stratification
 7 回：Gender inequality
 8 回：Students' presentation I: reflecting from weeks two to seven
 9 回：Gender in global perspectives: work, family, and politics
 10 回：Changing gender, family, and sexuality
 11 回：Gender roles and relations in Japan
 12 回：Queer cultures in Japan
 13 回：An in-class workshop discussing and writing the final paper
 14 回：Students' presentation II: reflecting from weeks nine to twelve

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワーポイント等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

Students must read assigned articles and chapters before class.

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% Final report:40% In-class discussions:25% Two reflection papers:20%
 Presentation:15%

テキスト / Textbooks

The instructor will provide students with all readings weekly in electronic format.

参考文献 / Readings

- Braithwaite, Ann, and Catherine M. Orr. *Everyday Women's and Gender Studies: Introductory Concepts*. Routledge. 2017 9780415536660
- Liu, Jieyu and Junko Yamashita. *Routledge Handbook of East Asian Gender Studies*. Routledge. 2020 9781138959897
- Moore, Henrietta L. *Feminism and Anthropology*. University of Minnesota Press. 1990 000000
- Ortner, Sherry B. *Making Gender: The Politics and Erotics of Culture*. Beacon Press. 1996 0807046337
- Pilcher, Jane, and Imelda Whelehan. *Key Concepts in Gender Studies. Second Edition*. SAGE Publications. 2017 9781446260296
- Risman, Barbara, Carissa M. Froyum, and William J. Scarborough. *Handbook of the Sociology of Gender. Second Edition*. Springer. 2006 9783319763323
- Wharton, Amy S. *The Sociology of Gender: An Introduction to Theory and Research. Second Edition*. Wiley-

Blackwell Publishing. 2012 9780470655689

Notes:

No. 3: Library of Congress Cataloging Number:88-22032

No.7: The first edition is available online for free download

その他/ Others

All assignments must be submitted to the instructor on time via email (which will be notified in class) before 4:00 p.m. Assignments not turned in on the date they are due will be penalized by deducting two scores down for each day they are late (for exam

注意事項 (検索結果画面)

For PEACE and DLP students

Cultural Anthropology A

Cultural Anthropology A

トースクン (TOSAKUL RATANA)

開講年度：	2024
科目設置学部：	異文化コミュニケーション学部
科目コード等：	DM477
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	春学期
単位：	2
科目ナンバリング：	ICC2581
使用言語：	英語
授業形式：	講義
履修登録方法：	科目コード登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	For PEACE and DLP students

授業の目標 / Course Objectives

The expected knowledge and abilities students can acquire from this course are below.

- To help improve students' reading and writing skills for essential academic reading and writing in English.
- To introduce students to various anthropological perspectives and approaches to understanding and analyzing current issues of contemporary human society and allow them to experiment with their writing in English.
- To provide students with the current state of anthropological debates of cultural diversity and cultural conflicts of contemporary society.
- To help students prepare for their future dealings with cultural diversity, differences, and conflicts of contemporary human society by providing them with the necessary skills for analytical thinking critically about cultural differences in an increasingly globalized world.

授業の内容 / Course Contents

This course introduces students to the basics of cultural anthropology, which studies human society and cultures. In this course, students will examine the fundamental vital terms and various issues of cultural anthropology. Students are encouraged to investigate the complex interface between individuals, social groups, social

structures, culture, and history and apply theoretical considerations of social and cultural anthropological analysis to critically interpret contemporary human society and cultures. The class consists of a lecture & discussion part and a student presentation. Students are required to engage in scholarly discussions actively.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：Introduction to the course
- 2 回：Anthropology and Human Diversity
- 3 回：Doing Cultural Anthropology
- 4 回：The Idea of Culture and a Brief Historical Guide to Anthropological Concepts
- 5 回：Communication: Language and Culture
- 6 回：Making a Living: Human Economic Systems and Culture
- 7 回：Political Organization/ Power and Politics
- 8 回：Stratification and Social Structure of Inequality (caste, social class, racism, and ethnicity)
- 9 回：Marriage, Family, Kinship, and Domestic Group
- 10 回：Gender Lives
- 11 回：Religion, Ritual, Myth, and Cosmos
- 12 回：Creative Expression (art, museums, and popular culture)
- 13 回：Culture, Change, and the Modern World
- 14 回：Students' Reflection Seminar/ Wrap-up session

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワーポイント等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

1. Students' presentation weekly:

Each student selects one topic of interest to do a presentation and takes the lead in participating in class discussions weekly (from weeks 2 to 13). At least two days before the presentation, students must submit a present

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% Two written assignments during the course (weeks 6 and 9):30% A final mini-ethnographic paper in English:40% Students' presentation and a summary note (individually):15% Class reading preparation, group presentation & summary, and active participation in class discussions, :15%

テキスト / Textbooks

There is no required textbook. The instructor will provide all reading materials to students in electronic format weekly.

参考文献 / Readings

Haviland, William A., Harald E. L Prins, Bunny McBride, Dana Walrath. Cultural Anthropology: The Human Challenge. 15th Edition. CENGAGE Learning Publications. 2017 9781305633797

Lavenda, Robert H., and Emily A. Schultz. Core Concepts in Cultural Anthropology. Seventh Edition. Oxford University Press 2020 9780190924751

Nanda, Serena, and Richard L. Warms. Cultural Anthropology. 12th Edition SAGE Publications 2020 9781544333915

Tsing, Anna Lowenhaupt The Mushroom at the End of the World: On the Possibility of Life in Capitalist Ruins Princeton University Press 2015 9780691162751

その他/ Others

All assignments must be submitted to the instructor on time via email (which will be notified in class) before 4:00 p.m. Assignments not turned in on the date they are due will be penalized by deducting two scores down for each day they are late (for exam

注意事項 (検索結果画面)

For PEACE and DLP students

Torts

Torts

マシャド Y. (MACHADO Y. DANIEL)

開講年度： 2024
科目設置学部： 異文化コミュニケーション学部
科目コード等： DM478
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： ICC2581
使用言語： 英語
授業形式： 講義
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考： For PEACE and DLP students

授業の目標 / Course Objectives

The objective of this course is to explore the basics of Japanese tort law from a comparative perspective.

授業の内容 / Course Contents

Tort law is the body of rules that determine when and how a person must compensate another for a financial or emotional damage. This course will explore the basic structure of the Japanese law of torts from a comparative perspective. Most classes are interactive with a group presentation in the end of the semester.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回： What is a tort?
- 2 回： What are rights or legally protected interests?
- 3 回： What types of interests are protected by tort laws?
- 4 回： What is causation?
- 5 回： What is damage and how to calculate damages?
- 6 回： What is the scope of damage?
- 7 回： Who is a tort victim?

- 8 回：Defenses to torts
 9 回：Multiple tortfeasors and joint torts
 10 回：When is a person liable for the actions of another?
 11 回：Who is liable for damage caused by a thing?
 12 回：What is an injunction?
 13 回：Presentations (1)
 14 回：Presentations (2)

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワーポイント等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

Students will be given book chapters and materials to read before every class. Preparation should take around one hour depending on your English reading skills.

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

筆記試験 :60%

平常点割合 :40% 出席・参加 (Attendance and Participation):40%

テキスト / Textbooks

All materials discussed in class will be made available in advance or distributed in class.

参考文献 / Readings

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

A suitable English language proficiency level is a minimum of IELTS 6.0 or equivalent.

注意事項（検索結果画面）

For PEACE and DLP students

Comparative Family Law

Comparative Family Law

Introduction to Comparative Family Law

デ アウカンタ (DE ALCANTARA MARCELO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 異文化コミュニケーション学部

科目コード等： DM479

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： ICC2581

使用言語： 英語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： For PEACE and DLP students

授業の目標 / Course Objectives

This course aims to provide students with a general understanding of family law from a comparative and international perspective.

授業の内容 / Course Contents

The course will cover a wide range of topics concerning domestic and cross-border family disputes, such as marriage, parent and child relationship, parental responsibility, surrogacy and other forms of assisted reproduction. The course will also cover legal issues concerning sexual and gender minority families. The case studies will explore a variety of examples from the European Court of Human Rights, the Supreme Court of Japan, and the UK High Court of Justice, among others.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回： Introduction

2 回： Case Study (1)

3 回： Case Study (2)

- 4回：Case Study (3)
 5回：Case Study (4)
 6回：Case Study (5)
 7回：Case Study (6)
 8回：Case Study (7)
 9回：Case Study (8)
 10回：Case Study (9)
 11回：Case Study (10)
 12回：Case Study (11)
 13回：Case Study (12)
 14回：Review

*The course schedule is subject to change

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド* (パワポ* 等) の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

Students are expected to have read the assigned readings and required to write one short essay prior to class.
 Detailed instructions for each assignment will be distributed in class.

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Short Essays:40% Class Participation:30% 最終レポート割合 :30%

テキスト / Textbooks

Digital course materials will be provided to students.

参考文献 / Readings

注意事項（検索結果画面）

For PEACE and DLP students

Introduction to Legal Studies A

Introduction to Legal Studies A

Introduction to Law and Legal Theory

リベイロ, D. (RIBEIRO DILTON)

開講年度： 2024

科目設置学部： 異文化コミュニケーション学部

科目コード等： DM480

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： ICC1581

使用言語： 英語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： For PEACE and DLP students

授業の目標 / Course Objectives

In this course, students will be introduced to the fundamental concepts of legal studies. They will explore the meaning of law and its relationship with morality. The discussions will revolve around theoretical problems, moral dilemmas, historical developments, and social issues. Through these conversations, students will reflect on the purpose of law, its organization, and its significance. By understanding the principles of legal thinking, students will develop critical and logical thinking skills.

授業の内容 / Course Contents

This course provides a fundamental introduction to law and legal theory. It covers a wide range of topics, including the origin of law, the distinction between civil and common law, and the difference between public and private law. Additionally, it explores the relationship between law and morality and examines the purpose of law. The course is divided into two sections. The first section provides an introduction to legal studies, covering the basics of legal theory. In the second section, students will delve deeper into legal philosophy and discuss the meaning of law and how it should be understood.

While discussing abstract theories may be challenging, it can also be engaging as students are encouraged to voice their opinions and question different perspectives. The class draws on ideas from legal academics such as H.L.A Hart and Ronald Dworkin.

This is an introductory course, and no prior legal background is required. Everyone is welcome to join and participate.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1回：Week 1

Proposed Topic: Introduction & Where Does Law Come From?

2回：Week 2

Proposed Topic: Where Does the Law Come From? – Part 2

3回：Week 3

Proposed Topic: Where Does the Law Come From? – Part 3

4回：Week 4

Proposed Topic: Legal Systems: Civil Law and Common Law

5回：Week 5

Proposed Topic: Law and Its Branches

6回：Week 6

Proposed Topic: Courts and Lawyers

7回：Week 7

Proposed Topic: Podcast Episode and Discussions

8回：Week 8

Proposed Topic: Introduction to Natural Law

9回：Week 9

Proposed Topic: Natural Law vs Power (John Austin)

10回：Week 10

Proposed Topic: Mind Your Rules - Legal Positivism (Introduction to Hart)

11回：Week 11

Proposed Topic: Is Legal Positivism Really Right? (Ronald Dworkin)

12回：Week 12

Proposed Topic: Law as Integrity (Part 1)

13回：Week 13

Proposed Topic: Law as Integrity (Part 2)

14回：Week 14

Proposed Topic: Discussions and Wrap-Up.

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

Students are expected to spend about 110 min. per week for required and optional readings, assignments, and other learning activities.

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% In-Class Participation:60% Take-Home Report:40%

テキスト / Textbooks

Raymond Wacks Law: A Very Short Introduction Oxford University Press 2015 9780198745624 ○

The above textbook is recommended. Additional materials will be provided online (on Canvas).

参考文献 / Readings

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

A suitable English language proficiency level is a minimum of IELTS 6.0 or equivalent.

注意事項（検索結果画面）

For PEACE and DLP students

Introduction to Legal Studies B

Introduction to Legal Studies B

Japanese Constitutional Law

白水 隆 (SHIROUZU TAKASHI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 異文化コミュニケーション学部

科目コード等： DM481

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： ICC1581

使用言語： 英語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： For PEACE and DLP students

授業の目標 / Course Objectives

This course provides an introduction to Japanese Constitutional Law. Students will learn how human rights are protected as well as the basic structure of the legislature, the cabinet, and the courts by examining the court decisions.

授業の内容 / Course Contents

This course will begin with a brief history of Japanese Constitutional Law, then it will cover the role of the legislative, executive, and judicial branches. The course will focus on the protection of human rights, such as freedom of religion, freedom of expression, and equality rights, etc.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回： History of Japanese Constitutional Law and Constitutional norms and notions

2 回： A role and function of the Legislature

3 回： A role and function of the Cabinet

4 回： A role and function of the Court(s)

- 5 回：Judicial Review and Human Rights
 6 回：The right to the pursuit of happiness
 7 回：Equality Rights
 8 回：Freedom of religion
 9 回：Freedom of expression (part 1)
 10 回：Freedom of expression (part 2)
 11 回：Freedom of expression (part 3)
 12 回：Economic Rights
 13 回：Social Rights
 14 回：Pacifism

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワー等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

Students are expected to read all the materials beforehand.

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% The class participation:60% 最終レポート割合 :40%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

A suitable English language proficiency level is a minimum of IELTS 6.0 or equivalent.

注意事項 (検索結果画面)

For PEACE and DLP students

Contract A

Contract A

For a better understanding of our society, training your logical thinking skills and value judgment

田岡 絵理子 (TAOKA ERIKO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 異文化コミュニケーション学部

科目コード等： DM482

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： ICC2581

使用言語： 英語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： For PEACE and DLP students

授業の目標 / Course Objectives

This course is designed to provide students with basic knowledge of Japanese contract law. The course has three primary objectives.

The first one is to understand our civil life from the legal lens. Since people cannot live without making contracts (e.g., riding in the train, buying sandwiches at a convenience store, and getting a cell phone), contract law is the closest law to our society. Therefore, through learning contract law (i.e., the ways it operates and solves disputes), students can also learn the ways our society operates.

The second one is to train students' value judgment. Almost every contract law-related dispute involves multiple parties' competing interests, each one of which deserves to be carefully analyzed and considered. Academics' discussions also provide competing opinions and various approaches to solve disputes. Through case studies, the students can train the way of balancing competing interests and constantly test their own value judgment. The last objective is to train logical thinking skills. Contract law is the law of logic. Through learning the ways of interpreting contract law, students can train their logical thinking skills.

授業の内容 / Course Contents

The lectures will be provided with PowerPoint slides. However, the sessions will be based on the discussions with the students.

Reading materials will be provided in class. Read the assigned material before each session. Students are required to participate in classroom discussion based on the reading assignment that has been given for the session. To help provide the requisite motivation to stay current on the readings, students may be called on in class.

Active participation in class is expected from everyone. Please note that class participation makes up a significant portion of your grade, which means that you must come to class diligently prepared to take part in interactions in class. Also be aware that credit is not given merely for attendance. Your participation, not presence, is what counts toward your grade. The success of the course will depend greatly on your preparedness for class and willingness to engage in dialogue in class. If missing a session is unavoidable, you are responsible for finding out from a fellow classmate what was informed, dealt with, and discussed during the session.

Writing assignments will also be given. Writing assignments must be submitted by the due dates. A late assignment may be accepted with the instructor's explicit permission, but deductions will be made for each day the assignment is late. Your grade will suffer substantially if you miss an entire assignment.

Topics for presentations, classroom discussions, and writing assignments involve mainly examinations of cases and elaborations of opinions on topics that are to be discussed in class.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回： Introduction to the course
- 2 回： Characteristics of Japanese contract law: meaning of civil law, the Civil Code, and the General principles of civil law
- 3 回： The concept of contract: What do you mean by "contracts"? (1)
- 4 回： Remedies in Contracts (1): How does the law enforce contracts? What does it mean by "enforcing the contract"?
- 5 回： Remedies in Contracts (2): Ways of providing remedies for contractual default
Understanding different approaches to provide the remedies
- 6 回： Remedies in Contracts (3)
- 7 回： Remedies in Contracts (4)
- 8 回： The concept of contract, revisited
- 9 回： Liquidated damages
- 10 回： Consumer contracts and freedom of contract (1)
- 11 回： Consumer contracts and freedom of contract (2)
- 12 回： Law of risk allocation (1)
- 13 回： Law of risk allocation (2)
- 14 回： Reviewing the sessions

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド* (パワポ* 等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	○	グループ発表	:	○	ディスカッション・ディベート: ○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:

上記いずれも用いない予定

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

No textbook is required. Translated materials and other copied materials will be provided only in class throughout the semester. I would recommend an A4-sized binder to keep track of the materials as they will likely be around 300 pages.

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Participation in the classroom discussion (including presentation):40% Homework assignment:20% 最終レポート割合 :40%

The final report will take a form of take-home exam. The question will be notified a certain number of hours prior to the due date/time of the submission of the report. The exact number of hours (or the exact duration) from the notification of the question

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

Hiroshi Oda Japanese Law Oxford University Press 2021 9780198869474

Gerald Port Mcalinn Comparative Law: Law and the Legal Process in Japan Carolina Academic Press 2003 0890894647

Curtis Milhaupt, Mark Ramseyer and Mark Weat The Japanese Legal System: Cases, Codes, and Commentary Foundation Press 2006 1609300297

注意事項（検索結果画面）

For PEACE and DLP students

Contract B

Contract B

For a better understanding of our society, training your logical thinking skills and value judgment

田岡 絵理子 (TAOKA ERIKO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 異文化コミュニケーション学部

科目コード等： DM483

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： ICC2581

使用言語： 英語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： For PEACE and DLP students

授業の目標 / Course Objectives

This course is designed to provide students with basic knowledge of Japanese contract law. As the purposes of the course are shared with Contract A, this course also has three primary objectives.

The first one is to understand our civil life from the legal lens. Since people cannot live without making contracts (e.g., riding in the train, buying sandwiches at a convenience store, and getting a cell phone), contract law is the closest law to our society. Therefore, through learning contract law (i.e., the ways it operates and solves disputes), students can also learn the ways our society operates.

The second one is to train students' value judgment. Almost every contract law-related dispute involves multiple parties' competing interests, each one of which deserves to be carefully analyzed and considered. Academics' discussions also provide competing opinions and various approaches to solve disputes. Through case studies, the students can train the way of balancing competing interests and constantly test their own value judgment. The last objective is to train logical thinking skills. Contract law is the law of logic. Through learning the ways of interpreting contract law, students can train their logical thinking skills.

授業の内容 / Course Contents

The lectures will be provided with PowerPoint slides. However, the sessions will be based on the discussions with the students.

Reading materials will be provided in class. Read the assigned material before each session. Students are required to participate in classroom discussion based on the reading assignment that has been given for the session. To help provide the requisite motivation to stay current on the readings, students may be called on in class.

Active participation in class is expected from everyone. Please note that class participation makes up a significant portion of your grade, which means that you must come to class diligently prepared to take part in interactions in class. Also be aware that credit is not given merely for attendance. Your participation, not presence, is what counts toward your grade. The success of the course will depend greatly on your preparedness for class and willingness to engage in dialogue in class. If missing a session is unavoidable, you are responsible for finding out from a fellow classmate what was informed, dealt with, and discussed during the session.

Writing assignments will also be given. Writing assignments must be submitted by the due dates. A late assignment may be accepted with the instructor's explicit permission, but deductions will be made for each day the assignment is late. Your grade will suffer substantially if you miss an entire assignment.

Topics for presentations, classroom discussions, and writing assignments involve mainly examinations of cases and elaborations of opinions on topics that are to be discussed in class.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回： Introduction to the course
- 2 回： Characteristics of Japanese contract law in comparison with other countries' contract laws
- 3 回： Characteristics of Japanese contract law in comparison with other countries' contract laws(2): The meanings of default rules
- 4 回： Characteristics of Japanese contract law in comparison with other countries' contract laws(3): The meanings of default rules
- 5 回： Characteristics of Japanese contract law in comparison with other countries' contract laws(3): The meanings of default rules
- 6 回： Good faith and its roles in Japanese contract law (1)
- 7 回： Good faith and its roles in Japanese contract law (2)
- 8 回： Public policy in contract law
- 9 回： Law of fraud (1)
- 10 回： Law of fraud (2)
- 11 回： Law of mistake (1)
- 12 回： Law of mistake (2)
- 13 回： Law of mistake (3): comparative studies
- 14 回： Reviewing the sessions

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	○	グループ発表	:	○	ディスカッション・ディベート : ○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:

上記いずれも用いない予定 :

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

No textbook is required. Translated materials and other copied materials will be provided only in class throughout the semester.

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Participation in the classroom discussion (including presentation):40% Homework assignment:20% 最終レポート割合 :40%

The final report will take a form of take-home exam. The question will be notified some time prior to the due date/time of the submission of the report. The exact duration from the notification of the question and before the submission of the report will

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

Hiroshi Oda Japanese Law Oxford University Press 2021 9780198869474

Gerald Port Mcalinn Comparative Law: Law and the Legal Process in Japan Carolina Academic Press 2003 0890894647

Curtis Milhaupt, Mark Ramseyer and Mark Weat The Japanese Legal System: Cases, Codes, and Commentary Foundation Press 2006 1609300297

注意事項（検索結果画面）

For PEACE and DLP students

Comparative Constitutional Law

Comparative Constitutional Law

白水 隆 (SHIROUZU TAKASHI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 異文化コミュニケーション学部
科目コード等： DM484
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： ICC2581
使用言語： 英語
授業形式： 講義
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考： For PEACE and DLP students

授業の目標 / Course Objectives

This course will explore Japanese constitutional law by comparing it to others, with a strong focus on North America.

授業の内容 / Course Contents

This course is designed to provide students with a broad understanding of Japanese constitutional law through an examination of North American constitutional law.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回： Introduction
- 2 回： Brief lecture on Japanese constitutional law
- 3 回： Brief lecture on U.S. constitutional law
- 4 回： Brief lecture on Canadian constitutional law
- 5 回： Topic 1: Structure of Government
- 6 回： Topic 2: Judicial review
- 7 回： Topic 3: Freedom of religion

Criminal Procedure

Criminal Procedure

Japanese Criminal Procedure in Comparative Perspective

オルトラーニ (ORTOLANI ANDREA)

開講年度： 2024

科目設置学部： 異文化コミュニケーション学部

科目コード等： DM485

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： ICC2581

使用言語： 英語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： For PEACE and DLP students

授業の目標 / Course Objectives

The objective of this course is to present Japanese criminal procedure as seen by Japanese and international scholars.

授業の内容 / Course Contents

This course will present Japanese criminal procedure from a historical and comparative perspective.

The lessons will touch upon on all aspects related to Japanese criminal procedure: its history, its present form, its constitutional dimension, with a particular focus on its current practice.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回： History of criminal law and procedure before the Meiji period.

2 回： The reception of Western criminal law in the Meiji period.

3 回： Criminal law 1900-1945. The first jury.

4 回： Criminal law reforms after WWII: Constitution and laws.

5 回： Overview of the criminal trial: Basic structure, participants in criminal proceedings.

- 6回：Investigation: Beginning of investigation, compulsory and voluntary investigations.
 7回：Investigation: Arrest and detention, search and seizure, interrogation.
 8回：Trial: Overview, lay judge system.
 9回：Evidence: Confession, hearsay.
 10回：Death Penalty: Nagayama Criteria and Hikari parent-child murder incident.
 11回：Prisons in Japan.
 12回：Support for victims.
 13回：Comparative remarks I.
 14回：Comparative remarks II.

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワーポイント等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

Participants will be required to read materials in English in preparation for the lessons.

Participants will have to submit three Mini-Tests at regular intervals during the term.

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% Three Mini-Tests:65% Self-evaluation:25% 最終レポート割合：5%最終テスト割合：5%

テキスト / Textbooks

M. Mitsui, T. Sakamaki An Introduction to Japanese Criminal Procedure Law Yuhikaku 2022 -

Colin P. A. Jones, Frank S. Ravitch The Japanese Legal System in a Nutshell West 2020 -

Purchase of the textbook is not mandatory.

The instructors will distribute all mandatory reading materials.

参考文献 / Readings

Additional reading materials (books, articles, and other resources) will be provided during the semester.

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

Ability to listen to a class and engage in simple conversations about the topics.

その他 / Others

The use of laptops, tablets, phones and other electronic devices during the lesson, unless explicitly allowed, is strictly prohibited.

注意事項（検索結果画面）

For PEACE and DLP students

Financial Statement Analysis

Financial Statement Analysis

Basic Financial Statement Analysis

岡本 紀明 (OKAMOTO NORIAKI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 異文化コミュニケーション学部

科目コード等： DM486

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： ICC3581

使用言語： 英語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： For PEACE and DLP students

授業の目標 / Course Objectives

Students will be able to demonstrate the use of some fundamental financial statement analysis techniques.

授業の内容 / Course Contents

In this course students learn various methods to read and analyze corporate financial statements. Real examples (actual corporate financial numbers) are used for comparing and analyzing corporate financial performances.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回： Introduction (The outline of financial statements)

2 回： Review of financial statements

3 回： Learn how to use financial statements for short-term analysis①

4 回： Learn how to use financial statements for short-term analysis②

5 回： Learn how to use financial statements for short-term analysis③

6 回： Learn how to use financial statements for long-term analysis①

7 回： Learn how to use financial statements for long-term analysis②

- 8回：Learn how to use financial statements for long-term analysis③
 9回：Analysis of cash flows
 10回：DuPont Analysis
 11回：Review test
 12回：Group/individual presentation and discussion or case study (valuation)
 13回：Group/individual presentation and discussion
 14回：Group/individual presentation and discussion

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

Students are expected to read the assigned textbook chapters or handouts before related class sessions. Preparation for final presentation is also necessary.

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% Final Presentation:30% Review Test:30% Class Participation:20%
 Assignments:20%

At my discretion, I may give some assignments (e.g., quizzes or case studies) to be completed during and outside the class. Therefore, students are expected to attend the class every week.

テキスト / Textbooks

Wayne A. Label Accounting for Non-Accountants 3rd ed. Sourcebooks 2013 9781402273049 -

参考文献 / Readings

Wayne A. Label and Cheryl K. Henderson Study Guide and Workbook for Accounting for Non-Accountants Solana Dreams Publishing Company 2015 0986099821

Jae K. Shim, Joel G. Siegel, Nick Dauber, Anique A. Qureshi Dictionary of Accounting Terms 6th ed. Barrons Educational Series 2014 1438002750

Ciaran Walsh and Stuart Warner 25 Need-to-Know Financial Ratios Pearson Education Limited 2015 1292016399

Elaine Henry, Thomas R. Robinson et al. International Financial Statement Analysis (CFA Institute Investment Series) 4th ed. Wiley 2020 9781119628057

その他 / Others

Course materials are uploaded on the Canvas LMS course website during the course.

注意事項

Sheltered Course(Min.TOEIC:730)

注意事項（検索結果画面）

For PEACE and DLP students

Tourism Study 1 (Business)

Tourism Study 1 (Business)

Understanding businesses in tourism

韓 志昊 (HAN JIHO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 異文化コミュニケーション学部

科目コード等： DM487

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： ICC2581

使用言語： 英語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： For PEACE and DLP students

授業の目標 / Course Objectives

関連する様々な資料を使用して、ツーリズム・ビジネスを理解する。

This course aims to provide students with the understanding of businesses in tourism by reading various references on tourism business.

授業の内容 / Course Contents

ツーリズム・ビジネスに関連する多様な英語の情報源を使用しながら、英語でツーリズム・ビジネスに関するリサーチができるように学習する。

Through reading various information sources regarding tourism business, students will become able to understand how to do research on tourism business in English.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回： Introduction

2 回： Definitions of terms and basic concepts of business in tourism

3 回： Travel business

- 4回：Accommodation
 5回：Food and Beverage
 6回：Meetings Industry
 7回：Transportation
 8回：How to use online databases to search references on tourism businesses in English
 9回：Reading newspaper articles on tourism business
 10回：Reading magazine articles on tourism business
 11回：Reading reports on tourism business by various organizations
 12回：Reading textbooks on tourism business
 13回：Reading journal articles on tourism business
 14回：Review

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:	
個人発表	:	○ グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:	○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	○ 校外実習・フィールドワーク	:	○
上記いずれも用いない予定	:		:		:	

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

Students are required to prepare for a quiz every class.

It is preferable to have completed "Introduction to Tourism 1" before taking this class.

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Quiz (5点×10回) :50% 授業内参加 (Participation) :20% 最終レポート割合 :30%

テキスト / Textbooks

No text is required for this course. Newspapers, magazine articles, academic journal articles, and English database will be introduced during the course.

参考文献 / Readings

Reading materials will be introduced during the course.

その他 / Others

Information resources will be introduced during the course.

注意事項 (検索結果画面)

For PEACE and DLP students

Tourism Study 2 (Society)

Tourism Study 2 (Society)

Tourism and (Local) Community

ハサン, E. (HASAN EID-UL)

開講年度： 2024

科目設置学部： 異文化コミュニケーション学部

科目コード等： DM488

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： ICC2581

使用言語： 英語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： For PEACE and DLP students

授業の目標 / Course Objectives

This course aims to provide students with an understanding of different aspects of the concepts of local community and sustainability, and the relationships between them, in relation to tourism development. At the end of the course, students will be able to engage analytically in the discussions about the impacts of tourism on local communities around the world and relate their own community to this broader picture, as well as identify ways to translate such knowledge to solve current issues related to the development of tourism.

授業の内容 / Course Contents

The course introduces students with different perspectives and cases of tourism and local community research in various national and international contexts. Students will explore the impacts of tourism on local communities and vice versa, from a variety of perspectives including sociology, by asking in what ways tourism can coexist with local communities and contribute to the sustainable community development.

This will be a student-centered, interactive course with in-class discussions, group/pair study, and presentations. Each session is designed to give students the opportunities to share their personal experiences and views with the

class. Students will be encouraged to relate the course contents to the experience of their own community through reflection papers and presentation. Audio-visual materials and Internet resources will be used to enrich the learning experience.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：Orientation: nature and scope of the course
- 2 回：Tourism resources, local community and sustainability 1
- 3 回：Tourism resources, local community and sustainability 2
- 4 回：Short film screening & guidance for reflection papers
- 5 回：Tourism and community development: community-based tourism 1
- 6 回：Tourism and community development: community-based tourism 2
- 7 回：Farming community and tourism 1
- 8 回：Farming community and tourism 2
- 9 回：Mountain community and tourism 1
- 10 回：Mountain community and tourism 2
- 11 回：Coastal community and tourism
- 12 回：Urban community and tourism; guidance for final presentation
- 13 回：Students' presentation session 1
- 14 回：Students' presentation session 2; summary

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワーポイント等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

Students are required to actively participate in-class discussions and group/pair work, and to submit assignments/homework on time. Students will also be expected to come to the class fully prepared with reading notes and questions for in-class discussion

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% Active participation in class discussions and punctual submission of assignments/homework:40% Individual reflection papers (2 times):30% Individual/group presentation:30%

テキスト / Textbooks

There is no required textbook for this course.

参考文献 / Readings

Suggestions for further reading can be provided in class or through individual consultation.

その他 / Others

※ Pronouns: The instructor uses he/him/his pronouns.

※ The contents of this syllabus are subject to change depending on the number and students' understanding.

注意事項（検索結果画面）

For PEACE and DLP students

Tourism Study 3 (Destination)

Tourism Study 3 (Destination)

Business Statistics

徐 翰林 (XU HANLIN)

開講年度： 2024

科目設置学部： 異文化コミュニケーション学部

科目コード等： DM489

授業形態： オンライン（全回オンライン）

授業形態（補足事項） 発話を伴う授業を学内で受講する場合は N851 教室の利用可。

校地： 新座

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： ICC2581

使用言語： 英語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：○

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： For PEACE and DLP students

授業の目標 / Course Objectives

このコースを修了すると、学生は以下の能力を身につけることができます。

①観光概念と目的地マーケティング要素の理解と説明：

学生は、観光業界における基本的な概念や用語を理解し、それらを明確に説明できるようになります。

②DCOVA フレームワークの理解：

DCOVA フレームワークとは、観光業界におけるデータの収集、整理、分析、視覚化、アクション（Data, Collection, Organization, Visualization, and Action）のプロセスを指します。このフレームワークを理解する

Upon completion of this course, the student will be able to

①Understand and explain basic tourism concepts and destination marketing elements.

②Understand the DCOVA framework

③Able to apply statistics to solve business problems

授業の内容 / Course Contents

観光業は世界経済の基盤であり、多様なセクターに影響を及ぼす重要な産業です。このコースでは、観光の基

本統計を学ぶことにより、業界の健全性とダイナミズムを測る訪問者数、支出パターン、市場シェアなどの指標について理解を深めます。DCOVA フレームワークを核とし、データの収集、整理、視覚化、行動への応用を通じて、体系的な意思決定を促します。実践的なプロジェクトで分析力を養い、業界の意思決定を支援する能力を身に付けます。

The tourism industry is a foundation of the global economy and a significant industry that impacts a variety of sectors. In this course, by learning fundamental tourism statistics, student will deepen student understanding of industry health and dynamism through indicators such as visitor numbers, spending patterns, and market share. At the core of the course is the DCOVA framework, which promotes systematic decision-making through the collection, organization, visualization, and application of data. Through practical projects, student will cultivate analytical skills and develop the ability to support decision-making within the industry.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：Introduction: Important Things to Learn First
- 2 回：Defining and Collecting Data
- 3 回：Organizing and Visualizing Variables
- 4 回：Numerical Descriptive Measures
- 5 回：The Normal Distribution
- 6 回：Sampling Distributions
- 7 回：Confidence Interval Estimation
- 8 回：Fundamentals of Hypothesis Testing: One-Sample Tests
- 9 回：Two-Sample Tests and One-Way ANOVA
- 10 回：t-Test
- 11 回：Journal article Reading and Discussion (Quantitative)
- 12 回：Student Project
- 13 回：Student Project
- 14 回：Student Project

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド* (パワポ等) の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

1.Preparation Activities:

Study basic statistical terms and concepts in advance to gain a preliminary understanding of the topics to be discussed.

Read summaries or introductions to relevant chapters to build a foundation for class discussions.

Find real-

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% In-class Participation (English):60%

最終レポート割合 :40%

テキスト/ Textbooks

Reading materials will be distributed in class

参考文献 / Readings

Reading materials will be distributed in class

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

Excel

注意事項（検索結果画面）

For PEACE and DLP students

Tourism Study 4 (Culture)

Tourism Study 4 (Culture)

ハサン, E. (HASAN EID-UL)

開講年度： 2024
科目設置学部： 異文化コミュニケーション学部
科目コード等： DM490
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： ICC2581
使用言語： 英語
授業形式： 講義
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考： For PEACE and DLP students

授業の目標 / Course Objectives

The course aims to provide students with an understanding of the relationship between tourism and culture. Students will explore the impacts of tourism on culture and vice versa, from a variety of perspectives including anthropology and cultural studies.

授業の内容 / Course Contents

The course introduces students with key concepts and cases in relation to the cultural study of tourism, paying special attention on specific types of tourism and their relations with culture. At the end of the course, students will develop a good understanding of the impacts of tourism on culture and vice versa.

This will be a student-centered, interactive course with in-class discussions, group/pair study, and presentations. Each session is designed to give students the opportunities to share their personal experiences and views with the class. Students will be encouraged to relate the course contents to the experience of their own society/community through reflection papers and presentation. Audio-visual materials and Internet resources will be used to enrich the learning experience.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：Orientation: nature and scope of the course
- 2 回：Conceptual issues 1: host and guest
- 3 回：Conceptual issues 2: authenticity
- 4 回：Conceptual issues 3: tourist gaze
- 5 回：Short film screening & guidance for reflection papers
- 6 回：Heritage as a tourism resource
- 7 回：Local culture as a tourism resource
- 8 回：Popular culture as a tourism resource
- 9 回：Material culture of tourism: souvenirs
- 10 回：Representations of tourism 1: photographs, travel guidebooks
- 11 回：Representations of tourism 2: official tourism campaigns (promotional videos)
- 12 回：Representations of tourism 3: social media; guidance for final presentation.
- 13 回：Students' presentation session 1
- 14 回：Students' presentation session 2; summary.

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド* (パワポ* 等) の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

Students are required to actively participate in-class discussions and group/pair work, and to submit assignments/homework on time. Students will also be expected to come to the class fully prepared with reading notes and questions for in-class discussion

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Active participation in class discussions and punctual submission of assignments/homework:40% Individual reflection papers (2 times):30% Individual/group presentation:30%

テキスト / Textbooks

There is no required textbook for this course.

参考文献 / Readings

Suggestions for further reading can be provided in class or through individual consultation.

その他 / Others

※ Pronouns: The instructor uses he/him/his pronouns.

※ The contents of this syllabus are subject to change depending on the number and students' understanding.

注意事項 (検索結果画面)

For PEACE and DLP students

Global Society and Local Communities

Global Society and Local Communities

The Effects of Globalization on Local Communities Around the World

ムスリン, I (MUSULIN ILJA)

開講年度： 2024

科目設置学部： 異文化コミュニケーション学部

科目コード等： DM491

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項） Lecture/講義

校地： 新座

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： ICC2581

使用言語： 英語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： For PEACE and DLP students

授業の目標 / Course Objectives

本コースの主な目的は、世界的な規模の政治的・経済的・文化的動向の中で生じる諸問題、及びそれらの動きがローカルコミュニティへ与える影響に関する意識を高めることである。また、グローバル化による諸問題を様々な側面から考える能力を身に付けることも、本コースの目標の一つである。さらに、政治学や経済学など、様々な分野の専門用語を学び、短い討論を行うことで（政治や経済、文化などに関する）コミュニケーション能力の向上を目指す。

The main objective of this course is to raise awareness among students about various issues that emerge from global political, economic and social trends and affect local communities, and to encourage them to think about such problems from different viewpoints.

Another objective is to, through the study of important terms from various fields, such as political science and economics, and brief debates, enable students to improve their ability to discuss political, economic, cultural and environmental issues.

授業の内容 / Course Contents

グローバル化が世界中のローカルコミュニティにもたらした影響に焦点を当てながら、世界的な政治的・経済的状况と、紛争・貧困・社会的経済的格差・環境破壊などのようなローカルコミュニティが直面する問題の間の関係を探る。

While looking at how accelerated globalization has affected communities around the world, we shall examine the relationship between global conditions and changes on one hand, and various problems faced by local communities (such as political and military conflict, poverty, social and economic disparity, or environmental destruction) on the other.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回： Course introduction

During this class the students will be informed about the goals and contents of the course, as well as about the grading criteria and expected attitude in the class.

2 回： What are global society, globalization and local communities?

Here, we shall examine the concept of global society, definitions of globalization and some main approaches to studying the effects of globalization on countries and local communities.

3 回： How global political changes and relations affect local communities I

Here we shall examine how global changes in political systems, political trends and power relations affect individual countries and local communities in them by focusing on the fall of

4 回： How global political changes and relations affect local communities II

During this class we will turn our attention to the issues of interethnic conflict, ethnic cleansing and refugee crises while focusing on the civil war in former Yugoslavia, which foll

5 回： How global political changes and relations affect local communities III

In this class we shall address the issue of large-scale migrations caused by political instability and persecution and how they affect local communities in the countries which receiv

6 回： Globalization, religion and local communities I

In this class we shall address the issue of the relationship between globalization and religion on a theoretical level.

7 回： Globalization, religion and local communities II

Here, by focusing on the case of Muslim communities in France and the relationship between traditional Muslim religious values and modern French secular values, we shall examine how global trends such as i

8 回： Guidance regarding the term-end paper

During this class, students will be given information regarding the format of the term-end paper and grading criteria. Instructions will also be given regarding how to write a persuasive, objective paper.

9 回： Globalization and Economy I

In this lecture, while also introducing the economic and social benefits of globalization, we shall theoretically discuss economic problems in local communities brought about by globalization, global markets and the pursuit of

10 回： Globalization and Economy II

Here, by focusing on the case of Bangladesh, we shall talk about the problem of poor working conditions and the exploitation of workers as a consequence of the global integration of markets and supply chains.

11 回： Globalization and Economy III

In this class we shall take up the issue of child labor in Africa and examine how it is related to global trends in technology and economy.

12 回：Globalization and Environmental Destruction I

Here we shall broadly examine how the global demand for resources affects the natural environment and how environmental destruction affects human health.

13 回：Globalization and Environmental Destruction II

In this class, while focusing on the case of the gold rush in Peru, we will examine the consequences of environmental destruction brought about by economic globalization on local communities in the Amazon re

14 回：Course summary

Here, we shall look back at the entire course and think about the relationship between global and local issues.

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

Students will be required to read an academic paper or a book on globalization-related issues, so as to be able to write their term-end paper.

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

レポート試験 :80%

平常点割合 :20% Attitude in class:20%

テキスト / Textbooks

Students will be given a Power Point file containing all the lectures.

参考文献 / Readings**履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course**

A high level of English ability is required.

注意事項（検索結果画面）

For PEACE and DLP students

Specialized Psychology Lecture

Specialized Psychology Lecture

Cognitive and Evolutionary Psychological Approaches to Religion and Ritual

カヴァナ, C. (KAVANAGH CHRISTOPHER)

開講年度： 2024

科目設置学部： 異文化コミュニケーション学部

科目コード等： DM492

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： ICC2581

使用言語： 英語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： For PEACE and DLP students

授業の目標 / Course Objectives

このセミナーの目標は以下の通りです：

- 学生に宗教と儀式に関する現代の研究の概要を提供すること、特に認知心理学と進化理論の観点から。
- 学生に研究を批判的に評価し、理論的アプローチを比較する方法を教えること。
- 学生の研究を議論し、意見を伝える能力を向上させること。
- 学生に進行中の議論と新しい方法論の基準を紹介すること。

The goal of this seminar is to:

- Provide students with an overview of modern research on religion and ritual, especially from the perspective of cognitive psychology and evolutionary theory.
- Teach students how to critically evaluate research and compare theoretical approaches
- Improve students' abilities to discuss research and communicate opinions
- Introduce students to ongoing debates and new methodological standards

授業の内容 / Course Contents

このセミナーは、宗教と儀式に関する現代の研究に焦点を当てます。特に、進化論的または認知的な視点を採用した研究に着目します。日本や他の社会において特定の宗教を信仰していない人々が多い一方で、世界中の大多数の人々が神を信じ、宗教団体に所属しています。儀式も文化的表現の一部として、あらゆる社会において重要な役割を果たしています。

この講座では、宗教と儀式を異文化的に再発生する社会的および心理的な現象として探求し、宗教的信念と儀式への参加の効果について探究する現代の研究を検討します。

学生はコース中に選択した

The seminar focuses on modern research on religion and ritual, particularly research that adopts an evolutionary or cognitive perspective. Although many people in Japan and other societies do not follow any specific religion, the majority of people across the world believe in Gods and belong to religious groups. Rituals are also important in all societies as part of cultural expression.

This course examines religion and ritual as a cross-culturally recurrent social and psychological phenomenon and examines modern research that explores both the effects of religious belief and ritual participation.

Students are required to make a presentation (15-20 mins) on a selected topic during the course and will be required to submit short reaction papers for certain weeks. Classes throughout are a combination of lectures and group discussion segments. The course is conducted in English but the contents will be adjusted according to the level of the students.

By the end of the course, students will be familiar with the key theories on religion/ritual and have gained experience in discussing research critically and presenting their opinions.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：[Lecture] Course Introduction
- 2 回：[Lecture] What is Religion?
- 3 回：[Lecture] What are Rituals?
- 4 回：[Lecture] The Cognitive Science of Religion
- 5 回：[Lecture] Gods and other Minimally Counterintuitive Concepts (MCI)
- 6 回：[Lecture] Big Gods and Supernatural Punishment
- 7 回：[Lecture] Conspiracy Theories & Gurus
- 8 回：[Practice] Class Debate
- 9 回：[Lecture] Afterlife Beliefs
- 10 回：[Lecture] Rituals & Overimitation
- 11 回：[Lecture] The Psychology of Shamanism
- 12 回：[Lecture] The Psychology of Religious Extremism
- 13 回：[Lecture] Cults & NRMs
- 14 回：[Practice] Final Presentations & Review of Course

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワーポイント等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

Some independent reading of English materials is recommended but most of the relevant material will be provided in class lectures.

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Active participation in class discussion:40% In-Class Presentation:20% Reaction Papers:40%

テキスト / Textbooks

None

参考文献 / Readings

Reading material will be distributed in class.

読み物はクラスで提供されます。

その他 / Others

Class content will be adjusted according to the number of students and their specific abilities/needs.

具体的な授業の進め方は、履修者の数やニーズに合わせて調整していきます。

注意事項（検索結果画面）

For PEACE and DLP students

Cultural Psychology

Cultural Psychology

文化と心の関係 (Relationship Between Culture and Human Mind)

澤海 崇文 (SAWAUMI TAKAFUMI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 異文化コミュニケーション学部

科目コード等： DM493

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： ICC2581

使用言語： 英語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： For PEACE and DLP students

授業の目標 / Course Objectives

本講義では、受講生は文化心理学で扱われる主要な研究手法や研究結果を学習する。受講生は、いかに我々の考え方や行動様式が文化によって規定されているのかを学び、同時に我々の心が文化を規定しているということを理解する。

This course introduces the major content areas of cultural psychology. Students will learn and realize how culture shapes the way we think and behave, and also understand how our mind constructs our culture at the same time.

授業の内容 / Course Contents

本講義では文化と心の関係を紹介する。まず初めに、文化心理学で広く想定される理論や考え方を紹介し、人々の社会化、自己概念、動機づけ、感情、認知といった幅広い分野の心理過程に文化がどのような影響を及ぼすのかを学習する。特に、東洋と西洋の比較に着目する。また、東西文化間の認知過程の違いの背後にあると想定される歴史的背景や生活環境にも触れ、最後に異文化適応や二・多文化主義といったトピックを紹介する。

This course will cover the relationship between culture and human mind. The course starts by introducing

general theories and perspectives underlying cultural psychology. We will then explore cultural influences on a wide range of psychological processes, including socialization, self-concept, motivation, emotion, and cognition, especially focusing on East-West differences. We will also deal with the mechanisms underlying such cultural differences, and cover topics such as acculturation and bi/multi-culturalism.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：Introduction: What is cultural psychology?
- 2回：Culture and socialization I: Development of the cultural mind
- 3回：Culture and socialization II: Education practices
- 4回：Culture and the self I: Cultural differences in self-concepts
- 5回：Culture and the self II: Consequences for self-consistency and egoism
- 6回：Culture and motivation I: Goals and theories underlying motivation
- 7回：Culture and motivation II: Cultural differences in motivation, control, and choice
- 8回：Exam 1: Midterm test
- 9回：Culture and emotion: Universality and cultural variation in emotions
- 10回：Culture and cognition I: Cultural differences in cognition
- 11回：Culture and cognition II: Where do cultural differences come from?
- 12回：Acculturation and biculturalism I: Time course of acculturation and factors that influence acculturation
- 13回：Acculturation and biculturalism II: The bicultural self
- 14回：Exam 2: Final test

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワーポイント等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

Students should review their notes before each class and be prepared to explain the major concepts and theories they have learned. If they are unclear about anything, I would strongly recommend that they should contact the instructor or refer to the corre

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Midterm Test:25% Final Test:25% Reaction Papers:25% Class Participation:25%

Submitted reaction papers will be returned with written feedback by the instructor.

テキスト / Textbooks

No textbook will be used. Handouts and readings will be distributed either in class or on Canvas LMS.

PowerPoint slides that the instructor uses will be uploaded on Canvas LMS after each class.

参考文献 / Readings

Steven J. Heine Cultural Psychology New York: W. W. Norton 2007 9780393925739

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

English will basically be used throughout this course, so students should be able to communicate in basic English. Students who are not sure if they can keep up, they should come to the first class and notify the instructor.

注意事項（検索結果画面）

For PEACE and DLP students

Accounting(Introductory)1

Accounting(Introductory)1

Accounting for Investors

ウォン, リオン (WONG LEON)

開講年度： 2024

科目設置学部： 異文化コミュニケーション学部

科目コード等： DM494

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： ICC2581

使用言語： 英語

授業形式： 講義

履修登録方法： 抽選登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： For PEACE and DLP students

授業の目標 / Course Objectives

This course will introduce students to the use of accounting from the perspective of an investor. Students will learn how to find and use accounting information by reading financial statements of actual companies.

授業の内容 / Course Contents

Students will learn how to search for company information and documents, interpret company earnings announcements & financial results, and conduct cashflow, solvency and liquidity analysis. Students will also conduct a comparative analysis of the company against other companies in its industry and to apply different methodologies to value the company. Students will also learn about the limitations of accounting information and the importance of non-accounting information in analysing a company. Students will apply their knowledge by role-playing an investment analyst and writing a investment report on a company of their choice.

At a minimum, we will illustrate these concepts by deconstructing the financial statements of Tesla and Softbank. After the class, students should have the tools to independently analyse the financial statements of a company.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：Introduction
- 2 回：Financial accounting & environment
- 3 回：Accounting information & earnings announcements
- 4 回：Income statement & profitability
- 5 回：Cashflow statement: operating & free cashflow
- 6 回：Other comprehensive income & unrealised gains/losses
- 7 回：Balance sheet & solvency
- 8 回：Balance sheet & liquidity
- 9 回：Liquidity and bank runs
- 10 回：Non-financial information
- 11 回：Peer Comparison
- 12 回：Valuation
- 13 回：Investment analyst research reports
- 14 回：Investment thesis & recommendations

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド* (パワポ等) の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

It is recommended that students read the prescribed weekly materials before class, in order to be ready for group discussion during class.

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Class presentations:10% Assignment 1:20% Assignment 2:30% 最終レポート
割合 :40%

テキスト/ Textbooks

There are no textbooks for this course.

The study material will be freely available internet resources or articles and company announcements and financial statements from their investor relations webpages or official regulatory sources. The purpose of using recent company filings and news articles is to make the content of this course current and interesting to students.

参考文献 / Readings**学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare**

It would be helpful if students bring along an internet accessible device (tablet, laptop) for use in the workshop.

その他/ Others

Each class will be divided into 2 parts. The first part will be a lecture. The second part will be group discussions, with 4 or 5 students per group. A member of each group may be required to present the group's findings.

注意事項 (検索結果画面)

For PEACE and DLP students

Accounting(Introductory)2

Accounting(Introductory)2

Accounting for managers

ウォン, リオン (WONG LEON)

開講年度： 2024

科目設置学部： 異文化コミュニケーション学部

科目コード等： DM495

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： ICC2581

使用言語： 英語

授業形式： 講義

履修登録方法： 抽選登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： For PEACE and DLP students

授業の目標 / Course Objectives

This course will introduce students to the use of accounting from the perspective of a manager or business owner.

授業の内容 / Course Contents

This course will cover the 3 basic stages faced by a business owner in the use of accounting information: setting up a business, implementing an accounting information system, and using the information generated from that accounting information system to make business decisions in costing, pricing, breakeven points, make-or-buy, and the benefits of decentralisation.

After the class, students should have a basic understanding of how to use accounting information as a business owner or manager.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回： Introduction

- 2回：Setting up your business
 3回：Business Plans: write the report & presentation
 4回：Financing your start-up
 5回：Accounting information systems 1: Build, Buy or Rent?
 6回：AIS: Data & security
 7回：AIS: internal controls
 8回：Management accounting & costs
 9回：Product costing types
 10回：Cost analysis
 11回：Costs for Decision-making
 12回：Relevant revenues and costs
 13回：Decentralisation
 14回：Summary & conclusions

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド* (パワポ等) の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

It is recommended that students read the prescribed weekly materials before class, in order to be ready for group discussion during class.

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Class presentations:10% Assignment 1:25% Assignment 2:25% 最終テスト割合 :40%

テキスト / Textbooks

The study material for this course are freely available from the internet. This includes textbooks available under the Creative Commons license.

参考文献 / Readings

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

It would be helpful if students bring along an internet accessible device (tablet, laptop) for use in the workshop.

その他 / Others

Each class will be divided into 2 parts. The first part will be a lecture presentation. The second part will be group discussions, with 4 or 5 students per group. A member of each group may be required to present the group's findings.

注意事項（検索結果画面）

For PEACE and DLP students

Finance(Introductory)1

Finance(Introductory)1

Stockmarkets for investors

ウォン, リオン (WONG LEON)

開講年度： 2024

科目設置学部： 異文化コミュニケーション学部

科目コード等： DM496

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： ICC2581

使用言語： 英語

授業形式： 講義

履修登録方法： 抽選登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： For PEACE and DLP students

授業の目標 / Course Objectives

This course is a practical introduction to stockmarkets for investors. The stockmarkets of Singapore and Australia are introduced. Singapore in particular is a good starting point because it is the leading financial center in the Asia-Pacific, and ranked third globally in 2023 behind only New York and London, according to the Global Financial Center Index (<https://www.visualcapitalist.com/top-global-financial-centers-in-2023/>).

授業の内容 / Course Contents

The first part of the course covers the trading and settlement of stocks, and trading offences such as insider trading and market manipulation.

The second part covers company action, such as initial public offerings, secondary offerings, earnings announcements and takeovers.

The third part covers investor disclosure protection and corporate governance.

The class is organized as a lecture in the first half, with a workshop in the second half, where students conduct group research and present the equivalent characteristics of their home stock market.

After the class, students should have a broad understanding of stockmarkets, not only of Australia and Singapore, but also that of the home countries of the enrolled students, which in Spring 2023, were the US, Japan, China, France, Spain, Mexico and Brazil.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：Introduction
- 2 回：Stockmarkets & participants
- 3 回：Trading & settlement
- 4 回：Trading market features
- 5 回：Securities market trading related offenses
- 6 回：Corporate filings
- 7 回：Interpreting company announcements & financial results
- 8 回：Initial Public Offerings
- 9 回：How to read an IPO prospectus
- 10 回：Secondary offerings: placements, rights issues
- 11 回：Takeovers
- 12 回：Disclosure investor protection
- 13 回：Corporate governance
- 14 回：Summary & conclusions

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

It is recommended that students read the prescribed weekly materials before class, to be ready for group discussion during class.

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% Class presentations:10% Assignment 1:25% Assignment 2:25% 最終レポート
割合：:40%

テキスト / Textbooks

There are no textbooks for this course.

The study material for this course will be freely available internet resources or articles. They will be web resources from stock exchanges and regulatory authorities, news articles or opinion pieces from online sources such as newspapers, blogs or other social media.

The purpose of using such current source material is to make the content of this course current and interesting to students.

参考文献 / Readings

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

It would be helpful if students bring along an internet accessible device (tablet, laptop) for use in the workshop.

その他/ Others

Each class will be divided into 2 parts. The first part will be a lecture presentation. The second part will be group discussions, with 4 or 5 students per group. A member of each group may be required to present the group's findings.

注意事項（検索結果画面）

For PEACE and DLP students

Finance(Introductory)2

Finance(Introductory)2

Markets: theory & reality

ウォン, リオン (WONG LEON)

開講年度： 2024

科目設置学部： 異文化コミュニケーション学部

科目コード等： DM497

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： ICC2581

使用言語： 英語

授業形式： 講義

履修登録方法： 抽選登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： For PEACE and DLP students

授業の目標 / Course Objectives

This course is a practical introduction to a few signature theories in corporate finance, (i.e. efficient markets hypothesis, option pricing model, portfolio theory, and asset pricing). A brief introduction to prospect theory and behavioural finance, generally, is also presented as a contrast to conventional finance theories.

授業の内容 / Course Contents

This course explores the application of these theories in the real world. As part of this exploration, we consider the role of governments in distorting the workings of financial markets, the impact of derivatives, and the unintended consequences of passive investing, hedge funds, and the increased role of quantitative trading. We concluded with some advice on job opportunities for those interested in a career in finance.

After the class, students should have a basic understanding of corporate finance theory and how they work (or not work) in the real world.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：Introduction
- 2 回：Market efficiency
- 3 回：Informational efficiency
- 4 回：Central banks have distorted markets
- 5 回：Active government intervention
- 6 回：Derivatives: option pricing model
- 7 回：Derivatives: tail wags dog
- 8 回：Portfolio Theory
- 9 回：Passive investing & Exchange Traded Funds
- 10 回：Asset pricing
- 11 回：Fundamentals or factors
- 12 回：Hedge funds & hedged portfolios
- 13 回：Risk free rate & other issues
- 14 回：Summary & conclusions

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド*（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

It is recommended that students read the prescribed weekly materials before class, in order to be ready for group discussion during class.

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% Class presentations:10% Assignment 1:25% Assignment 2:25% 最終レポート
割合：40%

テキスト / Textbooks

There are no textbooks for this course.

The study materials for this course are freely available internet resources or articles. They will be mainly journal articles, news articles or opinion pieces from online sources such as newspapers, blogs or other social media.

参考文献 / Readings

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

It would be helpful if students bring along an internet accessible device (tablet, laptop) for use in the workshop.

その他 / Others

Each class will be divided into 2 parts. The first part will be a lecture presentation. The second part will be group discussions, with 4 or 5 students per group. A member of each group may be required to present the group's findings.

注意事項（検索結果画面）

For PEACE and DLP students

Japanese Management1

Japanese Management1

西崎 純代 (NISHIZAKI SUMIYO)

開講年度：	2024
科目設置学部：	異文化コミュニケーション学部
科目コード等：	DM498
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	春学期
単位：	2
科目ナンバリング：	ICC2581
使用言語：	英語
授業形式：	講義
履修登録方法：	抽選登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	For PEACE and DLP students

授業の目標 / Course Objectives

経営学関連知識の習得、批判的分析力の獲得、プレゼンテーションと討論関連スキルの習得を目標とします。

[Knowledge] Students will acquire knowledge of Japanese management, including its strengths, weaknesses, opportunities, and distinctive characteristics and features shared with the management styles observed in other countries or regions.

[Critical thinking skills] Students will develop critical thinking skills by examining business cases.

[Presentation and discussion skills] Students will enhance their presentation skills and the ability to engage in constructive debates.

授業の内容 / Course Contents

授業内容は講義、ディスカッション、グループワーク、小課題です。企業の事例研究を主教材とします。プロジェクトは批判的分析力を養うことを目的とし、エッセーまたはプレゼンテーションを提出します。授業は英語で行います。

This course examines management activities, including those observed in Japanese companies. We use selected case studies, including those published in Harvard Business Review. This course consists of lectures and class

discussions. The order of topics may be adjusted to maximize learning outcomes. “Japanese Management 1” covers management decisions observed mainly in the Japanese market. “Japanese Management 2” deals with international business operations and crisis management.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：Introduction: What is management?
 2 回：Japanese entrepreneurship
 Case study: SoftBank
 3 回：Academic skills session (about the project. An essay, or a presentation)
 4 回：Business environment: Ease of doing business in Japan
 5 回：Japanese manufacturing and its changes:
 Case study: The Toyota Production System
 6 回：Competition and innovation
 Case study: Sony Corporation
 7 回：Leadership dynamics and corporate governance
 Case study: Nissan’s Carlos Ghosn
 8 回：Working in Japan: the labor market conditions
 9 回：Surviving privatization
 Case study: JR Tokai (The Central Japan Railway Company)
 10 回：The smartphone market in Japan and the world
 Case study: NTT DoCoMo vs Apple
 11 回：The Japanization of American chain stores
 Case study: 7-Eleven and Starbucks Coffee Japan
 12 回：Business-to-business activities
 Case study: Komatsu Ltd.
 13 回：Current topics
 14 回：Conclusion

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワーポイント等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

Students are expected to go through the assigned readings before each class meeting.

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% Project:30% Other assignments:32% 最終テスト割合：38%

The contents of short assignments will be decided after the class size is finalized. To receive credits, students must attend more than 2/3 class meetings. A rubric for a presentation and essay will be available. Academic Honesty: Students must submit ori

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

Takatoshi Ito and Takeo Hoshi The Japanese Economy, Second Edition The MIT Press 2020
9780262538244

Readings will be uploaded on CANVAS or Course Google Drive.

その他/ Others

Selected Harvard Business Review case studies are available on the school's database. Please check Business Source Complete, EBSCO on the Library Website.

注意事項 (検索結果画面)

For PEACE and DLP students

Japanese Management2

Japanese Management2

西崎 純代 (NISHIZAKI SUMIYO)

開講年度：	2024
科目設置学部：	異文化コミュニケーション学部
科目コード等：	DM499
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	秋学期
単位：	2
科目ナンバリング：	ICC2581
使用言語：	英語
授業形式：	講義
履修登録方法：	抽選登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	For PEACE and DLP students

授業の目標 / Course Objectives

経営学関連知識の習得、批判的分析力の獲得、プレゼンテーションと討論関連スキルの習得を目標とします。

[Knowledge] Students will acquire knowledge of Japanese management, including its strengths, weaknesses, opportunities, and distinctive characteristics and features shared with the management styles observed in other countries or regions.

[Critical thinking skills] Students will develop critical thinking skills by examining business cases.

[Presentation and discussion skills] Students will enhance their presentation skills and the ability to engage in constructive debates.

授業の内容 / Course Contents

授業内容は講義、ディスカッション、グループワーク、小課題です。企業の事例研究を主教材とします。プロジェクトは批判的分析力を養うことを目的とし、エッセーまたはプレゼンテーションを提出します。授業は英語で行います。

This course examines management activities, including those observed in Japanese companies. We use selected case studies, including those published in Harvard Business Review. This course consists of lectures and class

discussions. The order of topics may be adjusted to maximize learning outcomes. “Japanese Management 1” covers management decisions observed mainly in the Japanese market. “Japanese Management 2” deals with international business operations and crisis management.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：Introduction: Japan's SWOT. What are Japan's competitiveness and challenges?
 2 回：International marketing/the Blue Ocean strategy
 Case study: Nintendo Co., Ltd.
 3 回：Academic skills session (about the project. An essay, or a presentation)
 4 回：New business models in Asia:
 TSMC and Japanese semiconductor companies
 5 回：Supply chain management
 Case study: Uniqlo and Ryohin Keikaku (Muji)
 6 回：Corporate communication
 Case study: Englishnization of Rakuten
 7 回：How has Apple disrupted the Japanese manufacturing and communication markets?
 Case study: Apple vs Sony and NTT
 8 回：The Japanese automobile industry and challenges from EVs
 Case study: Nissan, Toyota, and Tesla
 9 回：Selling Japanese food
 Case study: Kikkoman, Ippudo, etc.
 10 回：Current topics
 11 回：Crisis management
 Case study: Toyota’s recall crisis
 12 回：Current topics
 13 回：What are the characteristics of Japanese management?
 14 回：Conclusion

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

Students are expected to go through the assigned readings before each class meeting.

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% Project:30% Other assignments:32% 最終テスト割合：38%

The contents of short assignments will be decided after the class size is finalized. To receive credits, students must attend more than 2/3 class meetings. A rubric for a presentation and essay will be available. Academic Honesty: Students must submit ori

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

Takatoshi Ito and Takeo Hoshi The Japanese Economy, Second Edition The MIT Press 2020
9780262538244

Readings will be uploaded on CANVAS or Course Google Drive.

その他/ Others

Selected Harvard Business Review case studies are available on the school's database. Please check Business Source Complete, EBSCO on the Library Website.

注意事項 (検索結果画面)

For PEACE and DLP students

ビジネス日本語コミュニケーション演習

Seminar in Japanese Language Business Communication

小松 満帆 (KOMATSU MAHO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 異文化コミュニケーション学部
科目コード等： DM515
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： ICC3620
使用言語： 日本語
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 抽選登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

日本での就職活動やビジネスの場面で必要とされている日本語スキルを実践を通して学び、自らがそれらを適切に使えるようになる。場面に応じた適切な日本語が使えるようになる。

Students will practice and become able to use the Japanese skills required to seek employment and thrive in business situations in Japan. They will gain the ability to use the proper Japanese for each situation.

授業の内容 / Course Contents

エントリーシートとは何か、効果的なエントリーシートはどう書けばいいのか、効果的な自己PRをするためにはどのような情報が必要で、それをどのように組み立てるべきなのか、面接での受け答え、姿勢や態度など、就職活動に関連する日本語スキルについて実践的に学ぶ。適切な敬語の使い方や待遇表現の使い方だけでなく、きちんと相手に自分の意見を伝えたり、相手の話をしっかり聞き取るトレーニングも行うため、参加者には積極的な授業参加態度が求められる。

Students will do practical exercises to learn Japanese skills related to job searching, such as what an “entry sheet” (Japanese résumé template) is and how to effectively fill one out, what expressions they need to sell themselves effectively and how to form those expressions, and attitude, posture and how to respond to questions in

interviews. Students are expected to participate actively in class exercises to learn the proper way to use honorifics and polite expressions as well as how to accurately communicate their views to other people and fully understand what other people are saying.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：自己分析 1
- 3回：自己分析 2
- 4回：自己PR 1
- 5回：自己PR 2
- 6回：業界研究・企業研究
- 7回：履歴書・エントリーシートの書き方
- 8回：志望動機
- 9回：敬語・待遇表現
- 10回：面接（実技，マナー） 1
- 11回：面接（実技，マナー） 2
- 12回：面接（実技，マナー） 3
- 13回：メール・電話のマナー
- 14回：ビジネスマナー

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

毎回の授業で指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業への参加度:35% 課題提出:35% プレゼンテーション・レポート:30%

テキスト / Textbooks

特に指定しない。

参考文献 / Readings

授業で適宜紹介する。

その他 / Others

講義も行うが、多くは履修者の個人あるいはグループ活動によって授業を進めるため、履修者には積極的な参加が求められる。また、プレゼンテーションやディスカッションなども積極的に取り入れて授業活動を行う。受講者のプレゼンテーションや提出課題へのフィードバックは次回の授業で実施する。

カルチュラル・スタディーズ概論

Introduction to Cultural Studies

浜崎 桂子 (HAMAZAKI KEIKO)

開講年度：	2024
科目設置学部：	異文化コミュニケーション学部
科目コード等：	DM529
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	秋学期
単位：	2
科目ナンバリング：	ICC2430
使用言語：	日本語
授業形式：	講義
履修登録方法：	科目コード登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	基礎科目（一般）

授業の目標 / Course Objectives

カルチュラル・スタディーズの歴史、問題意識を理解し、文化について考察する際に必要な基本的な概念を身に着けるとともに、文化現象を、歴史的、社会的、政治的文脈をふまえて考察する方法を学ぶ。

This course aims to provide students with an understanding of the history and issues surrounding cultural studies, as well as the fundamental concepts of cultural discourse. Throughout the course, students will learn how to analyze cultural phenomena within their historical, social, and political contexts.

授業の内容 / Course Contents

授業前半では、カルチュラル・スタディーズの問題意識をふまえながら、「文化」を議論するための基本的な概念を学び理解する。後半は、これらの概念を用いて、映画、文学などの作品を分析する手法を学ぶ。

The first half of the course will focus on introducing students to the basic concepts of cultural discourse and raising awareness of the issues within cultural studies. In the latter half of the course, students will learn how to analyse films or literary texts using the fundamental concepts they have acquired.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：イントロダクション：「カルチュラル・スタディーズ」の歴史と問題意識

- 2回：ハイカルチャーとサブカルチャー
 3回：ネイションと文化
 4回：文化とアイデンティティ
 5回：「他者」の表象
 6回：ジェンダー／セクシュアリティと文化
 7回：文化とメディア
 8回：文化と消費
 9回：ポストコロニアル文学 1
 10回：ポストコロニアル文学 2
 11回：映画におけるジェンダー／エスニシティ表象
 12回：映画におけるジェンダー／エスニシティ表象
 13回：映画におけるジェンダー／エスニシティ表象
 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワーポイント等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

毎回授業前に指定するテキストを読んでもくること。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業への積極的な参加:30% リアクション・ペーパーおよび課題:30% 最終レポート割合：:40%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

- 吉見俊哉 『カルチュラル・スタディーズ』 講談社 2001 4062582074
 本橋哲也 『カルチュラル・スタディーズへの招待』 大修館書店 2002 9784469212709
 河野真一郎 『戦う姫、働く少女』 堀之内出版 2017 9784906708987

言語学概論

Introduction to Linguistics

佐藤 邦彦 (SATO KUNIHICO)

開講年度：	2024
科目設置学部：	異文化コミュニケーション学部
科目コード等：	DM530
授業形態：	対面（一部オンライン）
授業形態（補足事項）	オンライン授業は第7回目を予定。
校地：	池袋
学期：	春学期
単位：	2
科目ナンバリング：	ICC2130
使用言語：	日本語
授業形式：	講義
履修登録方法：	科目コード登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	<input type="radio"/>
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	基礎科目（一般）

授業の目標 / Course Objectives

言語学のさまざまな分野の基礎知識を学び、その背景、理論、研究方法などを理解する。

Students will learn basic knowledge in various fields of linguistics and understand the background, theory, research methodology and other elements of each.

授業の内容 / Course Contents

言語の音声、語や文の構造、言葉の意味、社会の中での言語のあり方、などのテーマについて、教科書の説明や身近な事例などをもとに紹介する。

Textbook explanations and relatable examples are among the tools that will be used to teach students about themes such as the sounds of language, structures of words and sentences, meanings in language and the state of language in society.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：序論：言語学という学問について
- 2 回：言語の基本的特性
- 3 回：言語音 1：音声学

- 4回：言語音2：音韻論
 5回：語の構造：形態論
 6回：語彙の特性：語彙論
 7回：語彙と文法の関係
 8回：文の構造：統語論1
 9回：文の構造：統語論2
 10回：言葉の意味1：語の意味
 11回：言葉の意味2：文の意味
 12回：言語の運用面：語用論
 13回：社会・文化と言語：社会言語学，歴史言語学など
 14回：全体のまとめと補足

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

毎回の授業で指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 出席およびリアクションペーパーなどの授業参加：30% 中間テスト・その他の授業内提出物：30% 最終レポート割合：40%

テキスト / Textbooks

佐久間淳一他 『言語学入門』 研究社 2004 9784327401382 ○

参考文献 / Readings

必要に応じて授業中に指示する。

英語圏文学論

English and American Literary Studies
the Introduction to English Literature

佐竹 晶子 (SATAKE AKIKO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 異文化コミュニケーション学部
科目コード等： DM531
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： ICC3443
使用言語： その他
授業形式： 講義
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

英語で書かれた文学作品の読み方を学び、英語の文章を正確に理解した上で作品を鑑賞できるようになることを目的とする。

To learn how to understand, appreciate and analyze literary works in English.

授業の内容 / Course Contents

詩から始めて、短編小説、短い劇を各自、宿題として読む。単語の意味を調べ、読解問題に回答して授業に臨まなければならない。授業では、作品をに使われた技法、作家や作品の書かれた社会的背景、難しい表現などの説明を受けた後で、グループで意見を交換する。講義は英語で行われるが、グループの中では日本語で話しても良いこととする。

We will read poems, short stories and a short play. The background of the writer and the text and methods of analyzing the text in each genre will be explained at the beginning. Students will be asked to read the text and prepare answers to the comprehension questions at home, which they will compare and discuss in groups during the class. This is a close reading course, so it is essential that students use a good dictionary to check the meaning

of words they do not know. The lecture will be given in English, but students can discuss either in English or Japanese.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：Introduction to the Study of Literature
- 2回：Introduction to English Poetry
- 3回：Reading Poetry (1)
- 4回：Reading Poetry (2)
- 5回：Introduction to the Short Story
- 6回：Reading Short Story A (1)
- 7回：Reading Short Story A (2)
- 8回：Reading Short Story B (1)
- 9回：Reading Short Story B (2)
- 10回：Introduction to Drama
- 11回：Reading a play (1)
- 12回：Reading a play (2)
- 13回：Reading a play (3)
- 14回：Final test

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワーポイント等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

Weekly assignments will be announced in class.

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% assignments:30% participation in class:30% 最終テスト割合：40%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

通訳翻訳学概論

Introduction to Translation and Interpreting Studies

Introductory Course of the Translator and Interpreter Training Program

松下 佳世 (MATSUSHITA KAYO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 異文化コミュニケーション学部

科目コード等： DM532

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： ICC2231

使用言語： 英語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 基礎科目（一般）

授業の目標 / Course Objectives

This is an introductory course of the Translator and Interpreter Training Program, designed to develop foundational competencies for translators and interpreters. The course aims to enable students to understand and appreciate the diverse roles, the working practices, and the necessary skills that characterize the profession today. It also explores the relationship between practice and theory.

授業の内容 / Course Contents

Through this course, students will learn about various aspects of translation and interpreting as "intercultural communication," focusing on the unique role they play in enabling participants from different linguistic and cultural backgrounds to understand each other. Through lectures and discussions, students will be introduced to basic theories and actual practices of translation and interpreting. In addition, professional translators and interpreters will be invited as guest speakers in order to deepen students' understanding of translation and interpreting in society.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：Introduction
 2 回：Outline of basic theories in Translation Studies
 3 回：What is equivalence?
 4 回：Skopos Theory
 5 回：Translation strategies
 6 回：Norms in translation
 7 回：Translation assignment and peer review
 8 回：Outline of basic theories in Interpreting Studies
 9 回：Gile's effort models
 10 回：Theory of sense
 11 回：Ethical issues in translation and interpreting
 12 回：Translation in society (guest lecture)
 13 回：Interpreting in society(guest lecture)
 14 回：Summary

*The schedule may be subject to change.

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワーポイント等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

Each week, students will be given materials to read or watch before class. In addition, students are required to submit a reaction paper at the end of each class reflecting on what they have learned. Students are also expected to submit written assignment

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Final Report:40% Attendance and class contribution:30% Written assignment:30%

テキスト / Textbooks

Reading materials will either be distributed in class or posted on Canvas LMS.

参考文献 / Readings

Munday, J. Introducing Translation Studies: Theories and Applications 4th ed. Routledge 2016 1138912557

Pöchhacker, F. Introducing Interpreting Studies 2nd ed. Routledge 2016 0415742722

Pöchhacker, F. & Schlesinger, M. (Eds.) The Interpreting Studies Reader Routledge 2002 0415224780

Pym, A. Exploring Translation Theories 2nd ed. Routledge 2014 041583791

Venuti, L. The Translation Studies Reader 3rd ed. Routledge 2012 0415613485

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

An advanced level of English and Japanese proficiency is needed to complete this course successfully.

International students who wish to take this course must be placed in J6 or above after taking Rikkyo's Japanese placement test.

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

Please bring your own device (PC or tablet) to class.

コミュニケーション研究概論

Introduction to Communication

灘光 洋子 (NADAMITSU YOKO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 異文化コミュニケーション学部

科目コード等： DM533

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： ICC2330

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 基礎科目（一般）

授業の目標 / Course Objectives

コミュニケーション研究の入門コース。具体的な到達目標は以下の通り。

- 1) コミュニケーション学の歴史、隣接分野との共通点や相違点、主要領域を理解し、説明することができる。
- 2) コミュニケーション学における基礎的な理論や研究アプローチを理解し、身の回りのコミュニケーションの観察、分析に役立てることができる。
- 3) 様々な側面からコミュニケーションを学ぶことで、より自覚的にコミュニケーションに向き合えるようになる。

This is an introductory course to Communication Studies. At the end of the course students should be able to:

1. Understand and explain the historical development of Communication Studies as a distinct academic discipline as well as major sub-fields of Communication Studies.
2. Understand major theories, perspectives, and research methods in Communication Studies, and apply them to analyzing communication in everyday life.
3. Learn communication from various perspectives and become more responsible communicators.

授業の内容 / Course Contents

まずは、コミュニケーションの分類や機能、コミュニケーション学の歴史や主要領域など、コミュニケーション学の概要を紹介する。その後、コミュニケーション学における基礎的な文献を読みながら、各領域のアプローチについての理解を深めていく。講義形式の授業ではあるが、適宜ディスカッションや演習などを取り入れていくので、積極的な授業参加が求められる。

First, students will learn the major types and functions of communication and the history and sub-fields of Communication Studies. Then, they will familiarize themselves with key concepts and basic principles in major sub-fields of Communication Studies primarily by reading chapters from introductory-level textbooks. This is a lecture course, but group activities and discussions will be incorporated into the course. Thus active student participation in class is both expected and required.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：授業オリエンテーション、コミュニケーションの定義、コミュニケーションを研究する意義
- 2 回：コミュニケーションの分類と機能
- 3 回：言語とコミュニケーション
- 4 回：非言語とコミュニケーション
- 5 回：コミュニケーション能力について
- 6 回：対人コミュニケーション論（その1）
- 7 回：対人コミュニケーション論（その2）
- 8 回：異文化コミュニケーション論（その1）
- 9 回：異文化コミュニケーション論（その2）
- 10 回：メディア・コミュニケーション論（その1）
- 11 回：メディア・コミュニケーション論（その2）
- 12 回：組織コミュニケーション論（その1）
- 13 回：組織コミュニケーション論（その2）
- 14 回：授業内テスト

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

毎回の授業で指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 出席・授業貢献度:20% リアクションペーパー:20% 中間テスト:20% 最終テスト割合：:40%

単位修得には75%以上の出席が必要。

テキスト / Textbooks

初回の授業で指示する。

参考文献 / Readings

板場良久・池田理知子 『よくわかるコミュニケーション学』 ミネルヴァ書房 2011 9784623059577

Goodbye, A. K., & Shultz, K. Introduction to Communication Studies: Translating Scholarship into Meaningful Practice Kendall Hunt 2013 9781465214058

池田理知子・埴幸枝 『グローバル社会における異文化コミュニケーションー身近な「異」から考える』 三修社 2019 9784384059373

授業中に適宜指示する。

その他/ Others

授業のテーマや順番は進捗状況に応じて変更する可能性がある。

異文化トレーニング演習

Seminar in Intercultural Training

異文化コミュニケーションと学び

赤崎 美砂 (AKAZAKI MISA)

開講年度： 2024

科目設置学部： 異文化コミュニケーション学部

科目コード等： DM534

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： ICC3320

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 抽選登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

異文化学習理論、体験を通じた学び、異文化トレーニングの計画・実施で構成される教室活動を通じ、多様性とコミュニケーションを前提とした学びを理解する。

To understand learning based on diversity and communication, through lessons consist of the study of intercultural learning theories, experiential learning activities and producing intercultural training.

授業の内容 / Course Contents

異文化トレーニングの歴史と基礎概念、異文化トレーニングを支える異文化コミュニケーションの概念、および異文化学習について学ぶ。異文化トレーニングで行われるアクティビティを取り入れた学習活動を通じ、異文化学習（例：経験が学びに結びついていく仕組み）について理解し、同時に異文化コミュニケーション能力の向上を図る。教室活動への参加および準備に主体的に取り組む学習姿勢が要求される。

Students will study the history and basic concepts of intercultural communication training and intercultural learning. By incorporating activities carried out in intercultural training, students will participate in activities in order to learn the process behind the intercultural learning and also develop their intercultural communication

competence. Students are expected to participate in activities on their own initiative.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション：講義内容、学習法、課題等の説明、アイスブレイキング
- 2回：異文化トレーニング概論1：歴史、目的、分類、方法
- 3回：異文化トレーニング概論2：異文化トレーニングの課題、異文化コミュニケーション能力
- 4回：異文化トレーニング概論3：学習とコミュニケーション
- 5回：異文化トレーニング実践論1：プログラム構成
- 6回：チーム活動：発表1準備
- 7回：発表1
- 8回：異文化トレーニング実践論2：映像分析
- 9回：異文化トレーニング実践論3：事例分析①
- 10回：異文化トレーニング実践論4：事例分析②
- 11回：異文化トレーニング実践論5：省察、チーム活動：発表2準備
- 12回：チーム活動：発表2準備
- 13回：発表2-1
- 14回：発表2-2

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外の学習に関する指示は、必要に応じて別途指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 発表・課題:40% 参加・貢献度:20% 最終レポート割合：:40%

単位取得のためには75%以上の出席を必要とする。

テキスト / Textbooks

資料を配付する。

参考文献 / Readings

適宜指示する。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

PC

国際協力・開発学概論

Introduction to International Development and Cooperation

山本 沙希 (YAMAMOTO SAKI)

開講年度：	2024
科目設置学部：	異文化コミュニケーション学部
科目コード等：	DM535
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	秋学期
単位：	2
科目ナンバリング：	ICC2430
使用言語：	日本語
授業形式：	講義
履修登録方法：	科目コード登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	基礎科目（一般）

授業の目標 / Course Objectives

- 国際協力及び開発援助の歴史的背景と諸概念について理解する。
- 開発研究の基本的な潮流とアプローチを理解したうえで、批判的に考察できる。
- 開発領域における他者表象の問題を説明できる。

This course aims to learn critical views on the development theories as well as various discussions and historical backgrounds of the international cooperation. Then, students are also required to understand and explain the related issues of describing “Others” which has been often criticized in the fields of development studies.

授業の内容 / Course Contents

本科目では、国際協力及び開発援助をめぐる第二次世界大戦以降の歴史的背景を概観しながら、これらが対象としてきた貧困や経済・社会開発、ジェンダー、社会運動と組織化といった領域でどのような議論が繰り広げられてきたかを解説する。また、必然的に異文化社会への介入が伴う国際協力及び開発援助では、ポスト・コロニアリズムないし他者表象の問題と切り離して考えることはできないため、授業ではこのような開発言説批判についても取り上げる。これらを通して、国際協力及び開発援助の基本的な成り立ちと諸理論について理解を深めると同時に、開

This course examines the various discussions on poverty, economic and/or social development, gender and social organizations in order to grasp the historical backgrounds of international cooperations particularly since the end of WWII. In addition, as the international cooperation necessarily includes the process of interactions with “Others”, regarded as culturally different, I would like to address the issues of describing “Others” for the purpose of learning the critical thinking about development phenomena.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス
- 2回：国際協力・開発援助の成り立ち
- 3回：日本の開発援助の歴史
- 4回：グローバル化と貧困・南北格差
- 5回：経済成長優先型から参加型開発へ
- 6回：事前学習内容に関する発表と討論（1）
- 7回：開発とジェンダー（1）
- 8回：開発とジェンダー（2）
- 9回：紛争処理と和解プロセス
- 10回：社会運動と組織化
- 11回：事前学習内容に関する発表と討論（2）
- 12回：開発言説の課題：他者表象をめぐって
- 13回：最終テスト
- 14回：テスト内容の解説、質疑応答、授業内容の振り返り

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業内で必要に応じて説明する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 事前学習の発表・討論（計2回）：40% 授業内容に関する設問及びリアクション・ペーパー：30% 最終テスト割合：30%

テキスト / Textbooks

特になし

参考文献 / Readings

- 信田敏宏、白川千尋、宇田川妙子編 『グローバル支援の人類学』 昭和堂 2017
- 藤岡美恵子、超田清和、中野憲志編 『脱＜国際協力＞—開発と平和構築を超えて』 新評論 2011
- 田中由美子、大沢真理、伊藤るり編 『開発とジェンダー—エンパワーメントの国際協力』 国際協力出版会 2002
- 松田素二、平野（野元）美佐編 『紛争をおさめる文化—不完全性とブリコラージュの実践』 京都大学学術出版会 2016

音楽学特論

Topics in Musicology

近代日本音楽にみるクリエイティビティ——創作史を軸として

仲辻 真帆 (NAKATSUJI MAHO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 異文化コミュニケーション学部

科目コード等： DM536

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： ICC3440

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

専門書の記述内容や異文化研究アプローチについて理解し、自らの考えを言語化できるようにする。

In this course, students will understand the descriptions in specialized books and the way of approaches for cross-cultural research. It's difficult to explain about the music, but students strive to verbalize one's own ideas.

授業の内容 / Course Contents

近代日本の音楽史（特に創作史）を事例として、異文化を受容し昇華させてきた過程に迫る。日本人作曲家の著作集や伝記を講読し、創作上の課題や理念と実践との関連について考察すると同時に、伝記叙述（あるいは評価）等が作曲家像を形成してゆく一面を学ぶ。

The course will focus on the process of accepting and sublimating different cultures while referring to the history of music in modern Japan (especially the history of composition) as a case study. Through reading the works of Japanese composers and biographies, we will examine their creative issues and the relationship between the ideals and works, and at the same time learn how biographical narratives (or evaluations) shape the image of composers.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション（近代日本音楽史を学ぶ意義）
- 2回：近代から現代に至る音楽文化伝承（立教大学校歌・応援歌から）
- 3回：近代日本の音楽研究状況
- 4回：日本人作曲家の著作集講読（その1）
- 5回：日本人作曲家の著作集講読（その2）
- 6回：日本人作曲家の著作集講読（その3）
- 7回：日本人作曲家の伝記講読（その1）
- 8回：日本人作曲家の伝記講読（その2）
- 9回：日本人作曲家の伝記講読（その3）
- 10回：叙述による作曲家像の形成
- 11回：作曲家の理念と実践との関連
- 12回：器楽作品における創作上の課題（「日本的なもの」など）
- 13回：声楽作品における創作上の課題（日本語の扱い方など）
- 14回：アイデンティティの模索

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

図書館所蔵資料やデータベースを活用して予習・復習をする。具体的な内容は授業時に説明する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業参加状況：60% 最終レポート割合：40%

単位取得のためには2/3以上の出席が必要。

テキスト / Textbooks

購入不要。配布資料を用いる。

参考文献 / Readings

授業内で適宜紹介する。

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

音楽に関する専門的な知識や技能は特に必要としない。

グローバル化とジェンダー

Globalization and Gender

Feminist Film Criticism of Japanese and Korean Cinema

イ, ヒャンジン (LEE HYANGJIN)

開講年度： 2024

科目設置学部： 異文化コミュニケーション学部

科目コード等： DM538

授業形態： 対面（一部オンライン）

授業形態（補足事項）対面（一部オンライン）

全授業回のうち2回はオンラインで実施する（5・7回目の授業）。オンライン実施回に変更が生じる場合は、授業内または Canvas LMS 等で周知する。

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： ICC2430

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 基礎科目（一般）

授業の目標 / Course Objectives

このセミナーコースでは、ジェンダーとグローバリゼーションを重要なテーマとして扱う日本と韓国映画をトランスナショナル観点から考察し、映画がグローバル社会におけるジェンダー平等を促進できるかを考える。そして、階級、エスニシティ、ナショナル・アイデンティティの文脈におけるジェンダーとセクシュアリティ、グローバル化、トランスナショナリズムの物語と視覚的イメージを検討することを目的とする。

This seminar course will explore cinematic portrayal of gender and globalization from a transnational perspective. Informed by feminist film theories, this course will consider an imperative question: How can film promote gender equality in global society? To answer the question, we will examine narratives and visual images of gender, sexuality and transnationalism in the context of class, ethnicity and national identity.

授業の内容 / Course Contents

授業では、ジェンダーとセクシュアリティ、女性性と男性性の概念と、戦争と地域紛争、植民地主義、貧困、

移民、国際結婚、環境問題などのグローバル関心事との関係を議論することにより、文化的グローバル化とジェンダー平等において映画の役割を考える。毎週、ジェンダーとグローバル化に関する理論的研究とグループディスカッションに基づいて、歴史的、政治的、社会的文脈内で映画のテキスト分析を行う。

This course will address the role of film as a significant force of cultural globalization, by discussing the notions of gender and sexuality, local/national/transnational images of femininities and masculinities, and the relationship between gender inequality and global concerns, such as war and colonialism, poverty, immigration, international marriages and environmental issues. Each week, we will conduct a textual analysis of a film within its historical, political and social contexts, based on a group discussion of related theoretical readings.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：Introduction: Course Guidance, Key Issues and Themes
- 2 回：Globalization and Gender in Tampopo (Itami Juzo, 1985)
- 3 回：Gendered Ethnicity in Okja (Bong Joon-ho 2017)
- 4 回：Gender Equality in Kim Ji-young: Born 1982 (Kim Do-young, 2019)
- 5 回：Foreign Female Body in Anarchist from Colony (Lee Joon-ik, 2017)
- 6 回：Military Sexual Slavery in My Heart Is Not Broken Yet (An Hye-ryong, 2007)
- 7 回：War and Gender: Guest Speaker
- 8 回：Motherhood in Shoplifters (Koreeda Hirokazu, 2018)
- 9 回：Sexuality and Politics in Chunhyang (Im Kwon-taek, 2000)
- 10 回：Hegemonic Masculinity in Shall We Dance? (Masayuki Suo, 1996)
- 11 回：Hallyu Masculinities in Kurosawa eiga (Taku Watanabe, 2010)
- 12 回：LGBT and Misogyny in A Girl at My Door (July Jung, 2014)
- 13 回：Women's Film, Little Forest (Yim Soon-rye, 2018)
- 14 回：Paper Sharing and Wrap Up: Toward a feminist film criticism

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○	
個人発表	:	○	グループ発表	:	○	ディスカッション・ディベート	:	○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	○	校外実習・フィールドワーク	:		
上記いずれも用いない予定	:		:			:		

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

Students are expected to submit short reviews of weekly readings and films in class and to actively participate in class discussions. (4-5 hours per week).

Assignment: To be announced in class.

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 出席および議論への積極的な参加:30% プレゼンテーション・課題:30% 最終
レポート割合 :40%

テキスト / Textbooks

イ・ヒャンジン 『コリアン・シネマ：北朝鮮・韓国・トランスナショナル』 みすず書房 2018
9784622086642 ○

参考文献 / Readings

R.コンネル 『ジェンダー学の最前線』 世界思想社 2010 9784790713425

シェイン・ピルチャー、イメルダ・ウィラハン 『ジェンダー・スタディーズ』 新曜社 2009
9784788510753

宗教と文化

Religion and Culture

アニミズムを考える

奥野 克巳 (OKUNO KATSUMI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 異文化コミュニケーション学部

科目コード等： DM539

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： ICC3440

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 抽選登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

本授業では、かつて宗教の起源であるとされたが、近年では人類の根源的な思考様式であるとされる「アニミズム」を取り上げて、考察と検討を進める。

In this class, animism, once considered to be the origin of religion but in recent years considered to be a fundamental mode of thought for humanity, is the focus of discussion and examination.

授業の内容 / Course Contents

宗教人類学、文化人類学、文学、心理学、哲学、仏教などを縦横に往き来きしながら、以下のようなトピックを扱う。

- ・ <こんまり> はアニミストか？
- ・ 風の谷のナウシカにおけるアニミズム
- ・ アイヌのイヨマンテに見られるアニミズム
- ・ 親鸞の往相還相論
- ・ 宮沢賢治の童話の中のアニミズム

- ・ユングとアニミズム
- ・ベルクソンとアニミズム

Crossing back and forth between religious anthropology, cultural anthropology, literature, psychology, philosophy and Buddhism, the following topics will be discussed.

- * Is Konmari an animist?
- * Animism in Nausicaa of the Valley of the Wind
- * Shinran's theory of Going to the Pure Land and coming back
- * The animism in Ainu Iyomante ritual
- * Animism in Kenji Miyazawa's fairy tales
- * Jung and animism
- * Bergson and animism

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：1. こんまりは、片付けの谷のナウシカなのか？
- 3回：2. 風の谷のアニミズム
- 4回：3. 川上弘美と＜メビウスの帯＞
- 5回：4. 壁と連絡通路
- 6回：5. 往って帰ってこい、生きものたちよ
- 7回：6. 東洋的な見方からアニミズムを考える
- 8回：7. 宮沢賢治を真剣に受け取る
- 9回：8. まどろむカミの夢
- 10回：9. 純粹記憶と死者の魂
- 11回：10. 記号論的アニミズム
- 12回：11. 人間であることの最果て
- 13回：12. 人間だけに閉じた世界にアニミズムはない
- 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

毎回の授業で指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 出席および授業参加度：60%

最終レポート割合：40%

テキスト / Textbooks

奥野克巳 『モノも石も死者も生きている世界の民から人類学者が教わったこと』 亜紀書房 2020
9784750516615 ○

参考文献 / Readings

奥野克巳・清水高志 『今日のアニミズム』 以文社 2021 9784753103669

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

特になし。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

なし。

国際協力・紛争研究特論

Topics in International Cooperation: Peace and Conflict Studies

ビルマ（ミャンマー）近現代史のなかの暴力と非暴力

根本 敬 (NEMOTO KEI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 異文化コミュニケーション学部

科目コード等： DM540

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： ICC3440

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 抽選登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

東南アジア大陸部に属するビルマ（ミャンマー連邦共和国）の近現代史を、「暴力」と「非暴力」をキーワードに振り返り、この国が英国の植民地支配を受けていた時代から、1948年1月の独立を経て現代に至るまで抱え続ける「民族」「宗教」「イデオロギー」を要因とした紛争の特徴について考察する。具体的目標は下記の4つである。

(1) ビルマ（ミャンマー）の近現代史に関する基礎知識が「暴力」と「非暴力」を軸に理解できるようになる。

(2) 「暴力」と「非暴力」双方が実際にどのように適用されたかを考察することによって、手段として

(1) To attain the basic knowledge about the modern history of Burma (Myanmar) based on the two keywords "violence" and "non-violence".

(2) To attain the ability to consider objectively the rightness of "violence" and "non-violence" respectively as a means for the political solution of conflicts through looking into specific examples in the modern history of Burma (Myanmar)

(3)To understand profoundly about Aung San Suu Kyi's discussions on "non-violence".

(4)To understand the basic features of Rohingya problems together with the possibility for peaceful solution.

授業の内容 / Course Contents

受講生 30 名限定の演習という設定であるが、実際は毎回詳細なプリントを配付した教員による講義を軸として授業を進め、講義の中で受講生の意見を求めたり、質疑応答の時間を設定して相互の知的交流をはかる。テキストは 2 種類使い、うち 1 冊は読書課題レポートに指定する。

導入においては「暴力」と「非暴力」をめぐる議論に関して相反する主張をおこなった F.ファノン（アルジェリア独立戦争に参加したフランス人精神科医）と、M.K.ガンディー（インド独立運動の精神的指導者）の議論を紹介する。

つづいて具体的な考察対象であるビ

The class consists of five main topics. The first is to look into their different understandings of "violence" between F. Fanon and M. K. Gandhi. The second is to think carefully about the conflicts occurred during the British colonial period in Burma (Myanmar), which were based on the questions related to "races", "religions" and "ideologies". The third is to consider the matters of military rules after independence especially after 1962 when the state army seized the political power by coup. The fourth is to discuss the matter about Aung San Suu Kyi's way of understanding "non-violence". Last is to look into the serious situation of Rohingyas (the huge refugees in Bangladesh who escaped from Burma/Myanmar because of the violent attack by the state army). It deals with their conflicts of historical understandings between the Rohingyas and the majority of Burmese (Myanmar) people.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：①科目オリエンテーション

②導入講義－帝国主義と植民地支配における暴力と非暴力

(F.ファノンと M.K.ガンディーの考え方をめぐって)

2 回：ビルマ（ミャンマー）の現在－2021 年 2 月クーデター後の国家の正統性をめぐる対決

3 回：英領期ビルマの政治と社会（1）

①基本史実

②「宗教」と「世俗」をめぐる対立（植民地権力と反英ナショナリズム）

－仏塔における土足禁止を求める運動を事例に

4 回：英領期ビルマの政治と社会（2）

①1930 年－40 年の反インド人暴動と反ムスリム暴動

②英系ビルマ人の立場と扱われ方

* 第 1 回リアクションペーパー提出（第 1 回から 3 回までの授業について）

5 回：日本占領期のビルマ（1942-45）

①対日協力と抗日闘争

②対英独立交渉とアウンサンの暗殺

③戦後の記憶

6 回：独立後の危機－内乱と文民統治（議会制民主主義）の崩壊（1948-62）

①独立後の体制

②国内の不安定と国軍の政治的台頭（1962 年のクーデター）

7 回：国軍による統治（1）ビルマ式社会主義と少数民族の抵抗（1962-88）

①ビルマ式社会主義とは何か

②1982年国籍法の特徴（「誰が国民か」をめぐる排他的定義）

③「連邦制」をめぐる概念の対立

*第2回リアクションペーパー提出（第4回から6回の授業について）

8回：国軍による統治（2）1988年民主化運動とその封じ込め

①1988年民主化運動の特徴（なぜ生じたか、どのような経緯をたどったか）

②1990年総選挙結果の拒絶と軍政の長期化

9回：軍政下の統治（1988-2011）と2011年「民政移管」（その特徴と限界）

①軍政期の政治過程

②2008年憲法と軍主導の「民政移管」

10回：アウンサンスーチーの思想と行動（1）生い立ち、思想の基本的特徴

*第3回リアクションペーパー提出（第7回から9回の授業について）

11回：アウンサンスーチーの思想と行動（2）暴力と非暴力をめぐる考え方

*読書課題レポート提出（対象著作：根本敬著『アウンサンスーチーのビルマ』2015年、岩波書店）

12回：2021年2月クーデター後の国民の抵抗をめぐる変化：非暴力から暴力へ？

①クーデターの要因（再確認）

②市民的不服従（CDM）の展開と国軍による弾圧

③国民統一政府（NUG）と国民防衛隊（PDF）、そして少数民族武装勢力

13回：ロヒンギャ問題を考える

①差別の実態

②歴史的背景と現状

③解決への課題と壁

14回：最終試験（40点満点）

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

指定した本を読むこと。学期中3回提出してもらおうリアクション・ペーパーと、読書課題レポートの執筆に誠実に取り組むこと。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 読書課題レポート（1回提出）：30% リアクション・ペーパー（3回提出）：30%

最終テスト割合：40%

テキスト / Textbooks

根本 敬 『アウンサンスーチーのビルマ：民主化と国民和解への道』 岩波書店 2015 9784000291514

○

根本 敬 『物語ビルマの歴史：王朝時代から現代まで（中公新書）』 中央公論新社 2014

9784121022493 ○

参考文献 / Readings

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

遅刻や早退、欠席をしないこと。講義で指定ないしは推薦する書籍をよく読むこと。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

特になし。

人間環境概論

Introduction to Human and Environment

文化人類学

奥野 克巳 (OKUNO KATSUMI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 異文化コミュニケーション学部

科目コード等： DM541

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： ICC2430

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 基礎科目（一般）

授業の目標 / Course Objectives

文化人類学は、フィールドワークという調査手法を用いて、異なる他者の生き方をつうじて、自分たちのあたりまえを省みるとともに、周囲の自然や物理的環境といかにともに生きているのかを探る学問である。本授業では、文化人類学を学んで、人間の文化と人間を取り巻く環境に対する理解を深める。

Cultural anthropology is a discipline that uses fieldwork, a method of research, to reflect on our own way of life and how we live with the natural and physical environment around us through the lives of others who are not like us. In this course, students will study cultural anthropology to understand human culture and the environment surrounding humans.

授業の内容 / Course Contents

本授業では、『これからの時代を生き抜くための文化人類学入門』を用いて、文化人類学の調査手法を学ぶとともに「性」「経済」「宗教」「環境」というトピックを順に取り上げて解説し、文化人類学のアプローチに慣れ親しんでもらう。

In this course, using "Introduction to Cultural Anthropology for Surviving in the Future," students will learn the

research method of cultural anthropology and become familiar with the approach of cultural anthropology by covering and explaining the topics of "sex," "economy," "religion," and "environment," in order.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：第1章 文化人類学とは何か(1)
- 3回：第1章 文化人類学とは何か(2)
- 4回：第2章 性とは何か(1)
- 5回：第2章 性とは何か(2)
- 6回：第2章 性とは何か(3)
- 7回：第3章 経済と共同体(1)
- 8回：第3章 経済と共同体(2)
- 9回：第4章 宗教とは何か(1)
- 10回：第4章 宗教とは何か(2)
- 11回：第5章 人新世と文化人類学(1)
- 12回：第5章 人新世と文化人類学(2)
- 13回：第6章 私と旅と文化人類学
- 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

- ・予習として、次回分のテキストを熟読した上で授業に臨むこと。
- ・授業中はノートテイキングを行ない、授業後に、ノートをテキストに照らして復習すること。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 出席および授業参加態度:60% 最終テスト割合：:40%

テキスト / Textbooks

奥野克巳 『これからの時代を生き抜くための文化人類学入門』 辰巳出版 2022 9784777828739 ○

参考文献 / Readings

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

特になし。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

なし。

その他 / Others

<https://book.asahi.com/article/14703890>

<https://www.bookbang.jp/review/article/740659>

多文化共生概論

Introduction to Multi/intercultural Issues

多文化社会日本の「共生」に向けて

山岸 素子 (YAMAGISHI MOTOKO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 異文化コミュニケーション学部

科目コード等： DM542

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： ICC2430

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 基礎科目（一般）

授業の目標 / Course Objectives

すでに多文化社会となっている日本で起きている現実や「共生」に向けた実践にふれることから、日本社会の中での共生について考察し、多文化共生社会のあり方や、それを支える法制度、さらに自分の現場からできることは何かを考える。

This course investigates Japan as a multicultural society and considers the practical steps the country is taking towards becoming an inclusive society. Students will be able to formulate ideas on how to form multicultural inclusive societies and the legal systems that support them, and what they can do individually.

授業の内容 / Course Contents

日本に暮らす 移民・難民のさまざまな現実と共生社会に向けた取り組みを、映像資料、講義、ゲストスピーカーの話や参加者間のグループワークを通じて理解する。また、共生をさまたげる差別や排外主義、貧困などの実態を知り、それらの背景や乗り越える方法について考察する。

授業の全体を通じて、自分たちが描く多文化共生社会とは何か、そのために必要な法制度のあり方、自分が今いる現場からできることは何か、などの議論を深めていく。

Video material, lectures, talks from guest speakers, and groupwork between participants will be used to understand the many realities faced by foreign migrants and refugees living in Japan and the practical steps the country is taking towards becoming an inclusive society. Also, become aware of factors that prevent inclusivity, such as discrimination, antforeignism and poverty. Students will study their backgrounds and methods of overcoming these factors. The overall classes will aim to deepen discussions on what we personally believe should be multicultural inclusive societies, what legal systems are needed for them, and what we can do as individuals from our own respective locations.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：オリエンテーション：授業のねらいと進め方について。私たちが考える「多文化共生社会」とは？
- 2 回：日本に生活する移民・難民：その歴史といま
- 3 回：「移民政策ではない」日本の外国人政策
- 4 回：多文化社会日本のいま①：国際結婚と外国ルーツの子ども・若者（ゲストスピーカー）
- 5 回：多文化社会日本のいま②：国際結婚と外国ルーツの子ども・若者
- 6 回：多文化社会日本のいま③：外国人労働者
- 7 回：多文化社会日本のいま④：外国人労働者
- 8 回：多文化社会日本のいま⑤：難民
- 9 回：多文化社会日本のいま⑥：難民（ゲストスピーカー）
- 10 回：多文化社会日本のいま⑦：コロナと移民・難民の貧困
- 11 回：グループワーク：それぞれの課題の現状
- 12 回：グループワーク：多文化共生社会のために私たちにできること
- 13 回：まとめと発表
- 14 回：まとめと発表

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：	○
個人発表	：	グループ発表	：	○	ディスカッション・ディベート	：	○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：	
上記いずれも用いない予定	：		：			：	

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外の学習に関する指示は、必要に応じて別途行う。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 出席とリアクションペーパー:50% 小レポートとグループワーク:50%

テキスト / Textbooks

授業の中で随時紹介する。

参考文献 / Readings

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

この授業では、受講者が常に自ら考え、グループワークなどをつうじて積極的に授業参加し、社会に生きる一員として何ができるか、どのような社会をめざしていくかを、他の参加受講者とともに考えていく姿勢が期待される。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

授業に関する連絡、資料配布や課題の提出は Canvas LMS をつうじて行う。資料は紙面配布しないため、授業に PC を持参することが望ましい。

グローバル化と宗教

Globalization and Religion

生きることと信じること

山口 まり子 (YAMAGUCHI MARIKO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 異文化コミュニケーション学部

科目コード等： DM543

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： ICC2430

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 基礎科目（一般）

授業の目標 / Course Objectives

1) いわゆる世界三大宗教（キリスト教・イスラム教・仏教）と、キリスト教・イスラム教に大きな影響を与えているユダヤ教について、その歴史、信仰内容、変容などを学びつつ、宗教に関わるいくつかの問題を考察する。

2) 日本における宗教現象と背後にある古代中国思想や朝鮮半島からの影響、さらには中東に由来する可能性が論じられている影響などについて考察する。

1. We will examine the history, teachings and transformations of three world religions (Christianity, Islam and Buddhism) and of Judaism, which has a significant influence on Christianity and Islam, and discuss issues associated with these religions.

2. We will examine religious phenomena in Japan and their background influences from ancient Chinese philosophy and Korean folk beliefs (and also discuss possible influences from the Middle East).

授業の内容 / Course Contents

いわゆる世界三大宗教（キリスト教・イスラム教・仏教を指すが、信者の人口によってきめられている訳で

はない)が、どのようにして誕生し、教えが広まっていく中で伝道された地域の文化との融合によってどのように変容してきたかを学ぶ。(キリスト教が生まれる背景として、またイスラム教への影響も大きいユダヤ教にも触れる。)

宗教は人々の心の拠り所となる一方で、異なる宗教・宗派を信じる人々に対する差別や攻撃を引き起こす要因ともなっている(宗教だけが理由でない場合が多いが)。「寛容」が叫ばれつつも、現在まで宗教に起因する

"We will learn how three world religions (here referring to Christianity, Islam and Buddhism, and at the beginning of the course we will look at Judaism as the background to the birth of Christianity) came into existence and how they were transformed by fusion with regional cultures.

While religion has formed the foundation of many people's lives, it has often caused discrimination and attacks against people belonging to different religions and/or denominations (though in many cases religion is not the only cause of conflicts). We will discuss why these discriminations and attacks caused by (or thought to be caused by) religion show no sign of ever ceasing, although we know the importance of open-mindedness and tolerance. We will consider the issue of whether each of the following pairs are compatible: faith and open-mindedness; laïcité and religious freedom; science and religion.

In the last two sessions we will look at Japanese religions (including folk beliefs and Shugendo, mountain asceticism incorporating Shinto and Buddhist concepts) along with background influences from ancient Chinese thought and the Korean folk beliefs.

Throughout this entire lecture series, we will consider what it means to believe in something (or have a religious faith). Also, we think about what it means to understand people with a different belief or value to your own (or whether this is possible at all). (Please note the course schedule below is only a guide.)"

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション ～ ユダヤ教について (1)
- 2回：ユダヤ教について (2)
- 3回：キリスト教について (1)
- 4回：キリスト教について (2)
- 5回：キリスト教について (3)
- 6回：イスラム教について (1)
- 7回：イスラム教について (2)
- 8回：イスラム教について (3)
- 9回：仏教について (1)
- 10回：仏教について (2)
- 11回：仏教について (3)
- 12回：日本の信仰と祭り (1) (神道、神仏習合、秦氏関係の神社など)
- 13回：日本の信仰と祭り (2) (山の信仰、修験道、様々な民間信仰など)
- 14回：生きることと信じること：宗教の意義を考える

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド* (パワポ* 等) の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：

上記いずれも用いない予定 :

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

イスラム教は日本ではあまり馴染みがないため、「参考文献」の欄に挙げた井筒の『イスラーム文化』を、授業が始まる前に一読されることをお勧めする。

また、同じく「参考文献」欄に挙げた、ヴォルテールの『寛容論』は、宗教に起因する（と言われている）様々な問題を考える上でも、キリスト教の宗派や歴史を学ぶ上でも参考になるので、授業が始まる前に一読されることをお勧めする。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 出席・授業参加:20% 提出物など:40% 最終レポート割合 :40%

テキスト / Textbooks

使用する資料は、授業で適宜配付する。

参考文献 / Readings

井筒俊彦 『イスラーム文化』（岩波文庫） 岩波書店 1991 400331851

植木雅俊 『仏教、本当の教え』 中央公論社 2011 9784121021359

ヴォルテール 『寛容論』（古典新訳文庫） 光文社 2016 4334753329

旧約・新約聖書、クルアーン、ハディースなどにも目を通しておくことが望ましい（いずれも岩波文庫で読める）。

上記以外の参考文献は、適宜授業で紹介する。

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

英語の資料も多いので、英語読解力があることが望ましい。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

準備不要。授業内での電子情報機器使用は不可とする。

その他 / Others

(1) 授業内でのスマートフォンの使用は禁止する。写真撮影も不可。自分の脳・身体・感覚をフルに使い、授業に集中して頂きたい。

(2) 「グローバル化と宗教」というコース名であるが、「世界経済フォーラム (WEF)」に代表されるような、いわゆる「グローバリスト」達の称揚する世界観・価値観・宗教観を説くことを目的とした授業ではない。

国際協力・紛争研究概論

Introduction to International Cooperation: Peace and Conflict Studies

国際社会における武力紛争地域に対する支援と介入とディレンマ

石井 正子 (ISHII MASAKO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 異文化コミュニケーション学部

科目コード等： DM544

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： ICC2430

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 基礎科目（一般）

授業の目標 / Course Objectives

国際社会の安全保障体制について理解できるようになる

国際社会の武力紛争地域に対する支援や介入のディレンマを考察できるようになる

国際社会における人道、復興・開発、平和構築支援に関わるさまざまなアクターについて理解できるようになる

To be able to understand the security system of the international society.

To be able to examine the dilemmas of the assistance and intervention by the international society in areas of armed conflict

To be able to understand the various actors involved in humanitarian, reconstruction and development, and peacebuilding assistance in the international community

授業の内容 / Course Contents

本講義では、武力紛争地域に対して国際社会はどのような人道、復興・開発、平和構築支援をすることができるのか、という課題について考察します。

第 I 部において、第一次世界大戦以降の安全保障に対する考え方の変化を導入します。第 II 部においては、冷

戦後に役割を変化させた国連 PKO のディレンマ、第 III 部では、冷戦後の安全保障概念のもとに様ざまな紛争地への支援や介入を展開した国際社会が直面することになったディレンマ、第 IV 部では、最新の国際情勢を取り上げ、それらが国際社会にどのような支援や介入のディレンマを生み出して

This course examines the issue of what kind of humanitarian, reconstruction/development, and peacebuilding assistance the international community can provide to areas of armed conflict.

In Part I, the course introduces changes in international security before the First World War. The Part II features the dilemmas of UN PKO, whose role has changed since the end of the Cold War, Part III takes the examples of the dilemmas faced by the international community in providing assistance and intervention in various conflict affected area under the post-Cold War security concept. In Part IV, their discussion will be held based on the latest international developments and how they are creating dilemmas for the international community in terms of assistance and intervention.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：導入・第一次世界大戦後の安全保障体制
- 2 回：第二次世界大戦後の安全保障体制
- 3 回：冷戦終結後の安全保障体制
- 4 回：国連 PKO の変化：伝統型から複合型へ
- 5 回：南スーダンから考える国連 PKO の課題
- 6 回：国連 PKO と自衛隊
- 7 回：国際人道法と文民の保護、国際刑事裁判所、国際司法裁判所
- 8 回：人道的介入と保護する責任のディレンマ
- 9 回：人道主義と人権主義
- 10 回：人道支援の民軍関係
- 11 回：「テロ」との闘い
- 12 回：ゲストスピーカー
- 13 回：ゲストスピーカー
- 14 回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業中に指示します。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 複数回のリアクションペーパー:60% 出席および授業参加態度:20% 最終レポート割合：:20%

詳しくは初回の導入で説明します。

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

長有紀枝 『入門 人間の安全保障：恐怖と欠乏からの自由を求めて』 中公新書 2012 9784121021953
篠原英朗 『平和構築入門：その思想と方法を問い直す』 ちくま新書 2013 9784480067418
内海成治など（編） 『緊急人道支援の世紀—紛争・災害・危機への新たな対応』 ナカニシヤ出版 2022
9784779516177

そのほか、参考文献は授業中に紹介します。

その他/ Others

2020 年度の全学共通科目「国際社会の平和構築とディレンマ」のアップデート版の授業です。授業内容は、ゲストスピーカーの都合や、国際情勢によって変更する場合があります。

メディアコミュニケーション概論

Introduction to Media Communication

鄭 佳月 (CHUNG KAWOL)

開講年度： 2024
科目設置学部： 異文化コミュニケーション学部
科目コード等： DM546
授業形態： 対面（一部オンライン）
授業形態（補足事項） 全授業回のうち7回は対面で実施する（1～7回目の授業）。
校地： 池袋
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： ICC2330
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考： 基礎科目（一般）

授業の目標 / Course Objectives

マスメディアやソーシャルメディアに関する基礎的な知識を身につけることを目標とする。また、メディア・コミュニケーションの社会的機能をグローバル社会や多文化社会との関係においても理解し、現状と課題を多角的に考察する力を養うことを目指す。

The objective of this course is to provide students with exposure to mass and social media so that they can obtain the relevant basic knowledge on the subject. This course aims to help students understand the social functions of media communication in relation to global and multicultural societies and to develop students' ability to consider current situations and issues from multiple perspectives.

授業の内容 / Course Contents

新しいメディア環境があらわれ、市民がメディア・コミュニケーションの主体として台頭してきた現代社会において、人々のネットワークはローカルなレベルとグローバルなレベルを横断し、新しい関係性を生み出している。その背景には、新しいメディアだけでなく、既存のメディアも含めたメディア・コミュニケーションの複合的な動きと、それらを活用しようとする多様な立場の人々の取り組みがある。こうした状況を理解するため、まず、メディア研究に関する文献を紹介しながら、マスメディアやソーシャルメディアの基礎的な知識に

ついて概説する。また

In modern society, where a new media environment has emerged and citizens have come forth as the main players in media, communication networks of people are reaching local and global boundaries, creating new relationships. Behind this are the complex movements of media communication, including existing and new media and the efforts of people in diverse positions to utilize them. To simplify this concept, this course first introduces the basics of mass and social media by elaborating on the literature relevant to the subject. Additionally, this course uses examples at local and global scales of the relationship between media communication and society and examine the social functions and problems of media communication from various angles. Finally, this course reviews the existence and significance of citizens as media communication subjects and the literacy required.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス：授業の目的と進め方
- 2回：メディア・コミュニケーションとは何か
- 3回：近代社会と出版
- 4回：20世紀と放送
- 5回：大衆社会とマス・コミュニケーション
- 6回：マスメディアとジャーナリズム
- 7回：メディアの送り手と受け手
- 8回：メディアのパーソナル化
- 9回：ソーシャルメディアと「つながり」
- 10回：インターネットとネットワーク文化
- 11回：オルタナティブメディアの試み
- 12回：グローバル化とメディア
- 13回：グローバルメディアとコミュニケーション
- 14回：総括

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワー等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：	○
個人発表	：	グループ発表	：		ディスカッション・ディベート	：	○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：	
上記いずれも用いない予定	：		：			：	

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

メディアが伝える国内外の出来事に関心をもち、情報の流れについて気づいたことをメモする。

授業後はノートや紹介された文献を読み直し、論点や疑問点などを整理する。

その他の授業時間外の学習については、必要に応じて別途指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

レポート試験 :45%

平常点割合 :55% リアクションペーパー:30% 授業参加度（授業内に指示した課題を含む）:25%

テキスト / Textbooks

初回の授業時に指示する。

参考文献 / Readings

受講者の理解度に合わせて授業時に紹介する。

その他/ Others

受講ルールは開講時に説明する。

受講者の理解度や進捗状況等により、内容と順序は若干変更する可能性がある。その場合は授業時に指示する。

授業では積極的に学生への質問も行う予定のため、授業準備と能動的な受講態度が期待される。

異文化コミュニケーション特論

Topics in Intercultural Communication

小山 亘 (KOYAMA WATARU)

開講年度： 2024
科目設置学部： 異文化コミュニケーション学部
科目コード等： DM552
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： ICC3340
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

特にことばや言語研究と関係づけて、コミュニケーションとその研究が持つ意義や射程についての理解を育むことを目的とする。

The purpose of this course is to develop understanding of communication and communication studies, especially in relation to language, linguistics, and pragmatics.

授業の内容 / Course Contents

まず「コミュニケーション」や「学問」、「視点」などについて簡単な考察を行った後、言語学や語用論の基本的な考え方を学ぶ。続いて、コミュニケーションについてのいくつかのモデルを概観し、それぞれのモデルの持つ性格、言語研究が対象とする諸領域との関係、コミュニケーションの過程や空間の有り様などを把握する。

This course starts with exploring some general issues concerning “communication,” “academic discipline,” and “perspective,” and moves to deal with the basic frameworks of linguistics and pragmatics. Then, it presents an overview of the three models of communication, explores their distinctive characteristics, including their relationships with domains covered by language studies, and delves into micro-social processes and effects of

communication.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：概要：コミュニケーション論のまなざし
- 2回：コミュニケーション論の地平
- 3回：文法、言語構造
- 4回：語用論
- 5回：意味
- 6回：方言・言語変異
- 7回：言語変化、言語の全体像
- 8回：コミュニケーションの情報伝達モデル
- 9回：コミュニケーションの6機能モデル (1)
- 10回：コミュニケーションの6機能モデル (2)
- 11回：コミュニケーションの出来事モデル (1)
- 12回：コミュニケーションの出来事モデル (2)
- 13回：コミュニケーションの変容と空間編成など
- 14回：コミュニケーション論の視点、まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

準備学習については毎回の授業で指示する。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

レポート試験 :70%

平常点割合 :30% 授業参加度:30%

テキスト / Textbooks

小山亘 『コミュニケーション論のまなざし』 三元社 2012 9784883033133 ○

参考文献 / Readings

コミュニケーション・テクノロジーと社会

Communication Technology and Society

鄭 佳月 (CHUNG KAWOL)

開講年度： 2024
科目設置学部： 異文化コミュニケーション学部
科目コード等： DM553
授業形態： 対面（一部オンライン）
授業形態（補足事項） 全授業回のうち 7 回は対面で実施する（1～7 回目の授業）。
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： ICC3340
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

コミュニケーションやメディアに関する基礎的な理論や知識を身につけることを目標とする。また、社会におけるテクノロジーの役割と課題を多角的に考察する力を養うことを目指す。

The purpose of this course is to provide students with basic theory and knowledge of communication and media. Furthermore, it develops students' abilities to analyze roles and issues surrounding technology in society from multiple perspectives.

授業の内容 / Course Contents

私たちのライフスタイルや価値観はメディアとともに変化してきた。また私たちの社会はメディア・コミュニケーションと深く結びつきながら変容してきた。メディア・テクノロジーの発展について学ぶことは、社会や人間のあり方の変遷を知るための重要な手がかりとなる。本授業では、過去から現在までの多様なメディアの事例を取り上げながら、時代とともに変化するメディア・テクノロジーの社会的役割と課題について考察する。

Our lifestyles and values have changed along with the development of the media. Society has also been transformed through its deep connections with media communication. Learning about the development of media

technology provides important insights for understanding changes in society and human. In this class, we will consider the changing social roles of media technology and associated issues by examining examples of various media from the past to the present.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス：授業の目的と進め方
- 2回：メディア/コミュニケーション/テクノロジーの関係
- 3回：電話メディア
- 4回：写真メディア
- 5回：映画メディア
- 6回：放送メディア
- 7回：音楽メディア
- 8回：小括
- 9回：アーカイブとテクノロジー
- 10回：インターネットとソーシャルメディア
- 11回：アメリカと技術開発
- 12回：文化産業とグローバル化
- 13回：ジェンダーとテクノロジー
- 14回：総括

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:	○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

授業後はノートや紹介された文献を読み直し、論点や疑問点などを整理する。

その他の授業時間外の学習については、必要に応じて別途指示する。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

レポート試験 :45%

平常点割合 :55% リアクションペーパー:30% 授業参加度 (授業内に指示した課題を含む) :25%

テキスト / Textbooks

初回の授業時に指示する。

参考文献 / Readings

受講者の理解度に合わせて授業時に紹介する。

その他 / Others

受講ルールは開講時に説明する。

受講者の理解度や進捗状況等により、内容と順序は若干変更する可能性がある。その場合は授業時に指示する。

授業では積極的に学生への質問も行う予定のため、授業準備と能動的な受講態度が期待される。

コミュニケーション研究調査法

Research Methods in Communication Studies

研究計画から論文執筆まで

Communication research from start to finish

時津 倫子 (TOKITSU TOMOKO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 異文化コミュニケーション学部

科目コード等： DM554

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： ICC3320

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

研究計画から論文執筆に至るプロセスに必要な知識を得ること。実行可能な研究計画を書けるようになること。

To acquire the knowledge and skills needed during the process of planning and writing an academic report for a research project.

授業の内容 / Course Contents

リサーチクエスション、研究対象の選定と倫理的問題、データの集め方、データの分析法、論文執筆までに必要な知識についての講義と演習。データ収集法として、観察法、インタビュー法、実験法、質問紙法を取り上げ、データの種類と分析法について、実際にデータをとり、分析をしながら学ぶ。

Students will learn about how to conduct a research. This course will consider topics such as research questions, data collection and analysis, ethical issues, and academic report writing in communication studies.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：研究するという事、論文を書くということ：研究倫理
- 2回：データの種類と分析方法：数量データと質的データ
- 3回：リサーチクエスチョンを立てる・先行研究をレビューする
- 4回：データを集める1：観察
- 5回：データを分析する1：観察データ
- 6回：データを集める2：インタビュー
- 7回：データを分析する2：インタビューデータ
- 8回：データを集める3：実験
- 9回：データを分析する3：実験データ
- 10回：データを集める4：質問紙
- 11回：データを分析する4：質問紙データ
- 12回：データを集める・分析する5：テキストデータ
- 13回：研究計画を立てる：リサーチクエスチョンは？先行研究は？方法は？
- 14回：プレゼンテーション：研究計画について

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	○	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:	
実技・実習・実験	:	○	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:						

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

予習：事前に配布された文献 PDF を読む。

復習：授業中に指示された課題に取り組む。授業中に提出できなかった場合は、課題を完成させて提出する。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 複数回の課題提出:60% 最終レポート割合 :40%

テキスト / Textbooks

プリント配布 (PDF)

参考文献 / Readings

末田清子・抱井尚子・田崎勝也・猿橋順子 『コミュニケーション研究法』 ナカニシヤ出版 2011
9784779505461

佐藤郁哉 『フィールドワークの技法：問いを育てる仮説をきたえる』 新曜社 2002 4788507889

箕浦康子 『フィールドワークの技法と実際』 ミネルヴァ書房 2009 9784623053551

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

卒業論文など、自分でデータをとって分析して、論文にまとめるための練習です。すでに使いたいデータがある人は、それを使って課題をやっても構いません。まだテーマが決まらない人は、研究の進め方を学びながらじっくり考えていただければと思います。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

資料配布や課題提出には、Canvas を利用します。授業毎の課題レポート、最終レポートともに、原則として PDF ファイルで提出していただきます。

その他 / Others

提出物が多くてたいへんですが、一通りやってみると研究の進め方を理解していただけると思います。自分が知りたいと思うことを知る方法を知っていることは、これから何をやるにしても何かしらお役に立てることと思います。研究は知への旅です。一緒に旅を楽しみましょう。

コミュニケーション特論

Topics in Communication

対人コミュニケーション論

原 和也 (HARA KAZUYA)

開講年度： 2024

科目設置学部： 異文化コミュニケーション学部

科目コード等： DM555

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： ICC3340

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

1. 他者への共感能力を育むこと
2. 対人コミュニケーション能力を適切かつ効果的に向上させること
3. 自己の個人内及び対人コミュニケーション様式について客観視する能力を育成すること

1. To develop the ability to empathize with others
2. To improve interpersonal communication competence appropriately and effectively
3. To develop the ability to be objective about one's own intrapersonal and interpersonal communication styles

授業の内容 / Course Contents

対人コミュニケーション能力及び技能は、円滑な人間関係に基づく社会生活を営む上で極めて重要であり、その研究分野は多岐に渡る。本講義では、主に社会科学的な視点から、コミュニケーション学の重要事項、個人内コミュニケーションのメカニズム、対人関係の構築に関する主要概念や理論、応用分野、実践面について学び、現代日本社会における対人コミュニケーションの諸問題を多面的に認識し、その解決策を考えていくことを目標とする。授業は、担当教員による講義、演習課題、受講生同士のディスカッションにより構成される。

Interpersonal communication competence and skills are extremely important for social life based on smooth human relations, and there are many research areas in this field. In this course, students will learn about important issues in communication studies, mechanisms of intrapersonal communication, and major concepts, theories, applied fields, and practical aspects of interpersonal relationship building, mainly from a social scientific perspective, in order to recognize various problems of interpersonal communication in contemporary Japanese society from multiple perspectives and to consider solutions for such problems. The course will consist of lectures by the instructor, exercises, and discussions among students.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1回：オリエンテーション

(1) シラバスの確認、(2) 授業の進め方、(3)対人コミュニケーションを学問的に学ぶ意義及び社会科学的視点について(メタ理論の観点から)

2回：コミュニケーションの概念化

(1) コミュニケーションの定義とレベル分け、(2) コミュニケーションの構成要素、(3)コミュニケーションの基本原理

3回：高/低コンテキスト・コミュニケーション

(1) コンテキストの概念、分類、(2) Hall によるコンテキストの概念化、(3) 石井敏による「遠慮・察しコミュニケーションモデル」

4回：個人内コミュニケーションと知覚

(1) 個人内コミュニケーションの定義とモデル化 (2) 知覚と認知のメカニズム、(3) 意味付与とカテゴリー化

5回：自己概念と自己開示

(1) 自己概念とは、(2) 自己開示、(3) 個人の思考様式における文化の影響

6回：対人関係、自己呈示と自己開示

(1) 対人関係の定義、(2) 自己呈示、(3) 社会的浸透理論

7回：グループ・プロジェクト

(1) プロジェクト内容の説明、(2) グループ結成、(3)課題完成へのブレイン・ストーミング、ディスカッション

8回：他者の態度を変える説得

(1) 説得の定義、主なテクニック、(2) 心理的リアクタンス、(3) 認知的不協和理論

9回：コミュニケーションにおけるユーモア

(1) ユーモアの定義、(2) ユーモアの分類、理論モデル、(3) 事例研究 (文化、ヘルス関係)

10回：異性間コミュニケーション

(1) sex と gender の違い、(2) 男女の会話の特徴、(3) 相手への恋愛感情及び失恋に関する理論モデル、

11回：対人家計における共感能力

(1) 共感と同情、関連概念 (2) 日本的思いやり意識、(3)道徳性の発達

12回：紛争解決とアサーション・トレーニング

(1)アサーションの定義、類似概念との違い、(2)アサーションにおける留意点、(3)実践演習課題

13回：論理療法と対人関係

(1) ビリーフの分類、(2) 認知の歪み、(3) 実践演習課題

14回：学期の総まとめと期末テスト

(1) 学習事項のまとめ、(2) レポートへのフィードバック、(3) 最終テスト

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

1. 事前学習：担当教員より課された課題に取り組む（1時間）
2. 事後学習：授業中の不明箇所を調べ、引用文献欄から興味がある文献を読む（1時間）

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% グループ・プロジェクト レポート:40% 個人レポート:20% 最終テスト割合:40%

*

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

深田 博己 『インターパーソナル・コミュニケーション：対人コミュニケーションの心理学』 北大路書房
1998 4762821039

石井敏, 岡部朗一, 久米昭元 『異文化コミュニケーション：新・国際人への条件』 有斐閣 1996
4641182558

石井敏, 久米昭元編集代表；浅井亜紀子 [ほか] 編集委員 『異文化コミュニケーション事典』 春風社
2013 4861103339

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

1. コミュニケーション学の基礎知識
2. 他者を尊重し、対話を通じて有意義な時間を創造する姿勢
3. グループ・ディスカッション、プロジェクトへの積極的な参加

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

なし。教員と受講生、受講生間の対話を重視した「目の前の人を大切に作る」授業展開を実践するため、授業中のスマホ・パソコン類の使用を禁止する。

その他 / Others

授業の進め方、ルール（禁止事項）、各回への取り組み方については、初回授業にて詳細なシラバスをもとに説明する。

英語学概論

Introduction to the Study of English

高橋 里美 (TAKAHASHI SATOMI)

開講年度：	2024
科目設置学部：	異文化コミュニケーション学部
科目コード等：	DM565
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	秋学期
単位：	2
科目ナンバリング：	ICC2130
使用言語：	日本語
授業形式：	講義
履修登録方法：	科目コード登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	基礎科目（一般）

授業の目標 / Course Objectives

グローバル化の時代において国際的に最も広く使われている言語である「英語」について理解を深める。世界で使われている英語の諸相について、その歴史の変遷も含め、構造や機能について学ぶ。

In this course, we will deepen our understanding of the characteristics of English, a language that is most widely used internationally in the contemporary globalized world. By focusing on varieties of English used worldwide, we will learn about their structures and functions, including their unique historical developments.

授業の内容 / Course Contents

この講義では、今や世界規模のコミュニケーションに必須となっている英語という言語の特質を探っていく。英語はもはや母語話者の言語ではなく、世界の様々な人々により使われている。学期の前半は、この実態を正確に把握すべく、各地域で使われている英語の特徴について学ぶ。学期の後半では、英語コミュニケーションの特質をより深く理解するために、英語の発音・語彙・文法の各側面のみならず、その語用論的特徴についても知識の深化をはかる。

In this course, we will explore characteristics of English, a language that has gained prominence due to its status as a language for global communication. English is no longer restricted to being used by native speakers alone; it

is used by a wide range of people worldwide. In the first half of the semester, we will learn characteristics of English language varieties used worldwide to accurately understand the realities of this language. In the second half of the semester, we will examine phonological, lexical, syntactic, and pragmatic aspects of English to deepen our knowledge of English communication.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：導入：英語とは
- 2回：世界諸英語（World Englishes）
- 3回：イギリス英語の特徴
- 4回：北米（アメリカ・カナダ）英語の特徴
- 5回：オーストラリア英語・シンガポール英語の特徴
- 6回：英語と社会的属性
- 7回：英語の発音
- 8回：英語の語彙
- 9回：英語の文法
- 10回：英語の発話行為
- 11回：英語のポライトネス
- 12回：英語のコミュニケーション・スタイル
- 13回：英語の非言語コミュニケーション
- 14回：総括

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワーポイント等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：		ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：		：			

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

毎回の授業で指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業への参加度:30% 授業内外課題:30% 最終レポート割合：:40%

授業内外課題については、次回以降の授業時または「Canvas LMS」上にてフィードバックを行う。

テキスト / Textbooks

平賀正子 『ベーシック新しい英語学概論』 ひつじ書房 2016 9784894765542 ○

参考文献 / Readings

長谷川瑞穂（編著） 『はじめての英語学（改訂版）』 研究社 2014 9784327401658

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

資料の配付、課題の提出などに「Canvas LMS」を使用する。

日本語学概論 A

Introduction to the Study of Japanese A

教えるための日本語学

池田 伸子 (IKEDA NOBUKO)

開講年度：	2024
科目設置学部：	異文化コミュニケーション学部
科目コード等：	DM566
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	春学期
単位：	2
科目ナンバリング：	ICC2130
使用言語：	日本語
授業形式：	講義
履修登録方法：	科目コード登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	基礎科目（一般）

授業の目標 / Course Objectives

日本語を母語としない人々に日本語を教える際に必要な日本語の特色（音声、音韻、文法）を理解し、自らの言葉で説明することができるようになる。毎日自分が使っている日本語を意識的に考え、言語学的に分析することができるようになる。

Students will learn the characteristics of the Japanese language (phonetics, phonemes, grammar) needed to teach it to people who do not speak it as a native language, and gain the ability to explain those characteristics in their own words. Students will pay close attention to the Japanese they speak on a daily basis and gain the ability to analyze it linguistically.

授業の内容 / Course Contents

国語としての日本語ではなく、日本語を母語としない人々に教えるための日本語の様々な特質について言及する。「日本語とは何か」、「なぜ国語ではなく日本語なのか」から、日本語の音声、音韻、形態論、統語論について、身近な例をとりあげながら学ぶ。主に講義形式で授業を行うが、参加学生とのやり取りを通して学んでいくため、参加者の積極的姿勢が望まれる。

The course focuses not on the way Japanese is taught to Japanese people, but on various idiosyncrasies of Japanese important for teaching it to non-native speakers. Students will learn to define the Japanese language and why it must be taught differently to non-native speakers than it is to Japanese people, and will learn about Japanese phonetics, phonemes, morphology and syntax from relatable examples. Although lecturing is the main mode of teaching in this course, students should have positive attitudes toward participation because they will also learn through exchanges with their classmates.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：国語と日本語，イントロダクション、日本語教育のための日本語分析とは
- 2 回：一般言語学、対照言語学、音声とその役割、日本語の音声体系、音声学と音韻論
- 3 回：音声①
- 4 回：音声②
- 5 回：音素と音声
- 6 回：音節、拍
- 7 回：日本語音声の特徴、教えるための音声学 ミニクイズ①
- 8 回：文法とは何か、日本語教育に必要な文法論、文法体系
- 9 回：形態論①
- 10 回：形態論②、単語の意味体系
- 11 回：統語論①
- 12 回：統語論②、談話理解、社会言語学、待遇・敬語表現
- 13 回：文法と文法論、言語・非言語行動、コミュニケーションストラテジー
- 14 回：ミニクイズ② レポート

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

毎回のトピックに関連する書籍などは、毎回の授業で指示する。最終レポート作成に向けて、積極的に図書館を利用して関連図書を読むよう指導する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業への参加度:30% 小テスト（20%×2）:40% 最終レポート割合：30%

テキスト / Textbooks

プリントを配付する。

参考文献 / Readings

授業で適宜紹介する。

その他 / Others

授業はパワーポイントを使用した講義形式で行う。授業では、学生への質問も活発に行うため、積極的な受講態度が期待される。また、毎回の授業では、リアクションペーパーを書いて提出することが求められる。授業で用いるレジュメやパワーポイント資料などは Canvas LMS で配布し、授業で紙媒体を配布することは行わな

い。レポート課題なども Canvas LMS 上で発表するため、毎回授業前に Canvas LMS を確認すること。

毎回のリアクションペーパーについては、次回授業でフィードバックを行う他、小テストについても次の授業

日本語学特論

Special Topics in Japanese Linguistics

認知言語学－外国語教育への応用

荒川 洋平 (ARAKAWA YOHEY)

開講年度： 2024

科目設置学部： 異文化コミュニケーション学部

科目コード等： DM567

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： ICC3140

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

本科目の目標は認知言語学の学術的な枠組みを知り、それが日本語教育、英語教育などの外国語教育にどのように役立てられるのかを理解することである。

This course aims to help students to learn basic theoretical framework of ACL (Applied Cognitive Linguistics) and to apply it to foreign language education.

授業の内容 / Course Contents

毎時間、認知言語学の主要なテーマに関して講義と討論を行う。履修者は担当者の講義を受け、出された質問について考え、ディスカッションを行う。また理論上の枠組みから日本語や英語で作例をしたり、実際の用例について考えたりする機会を多く提供する。さらに実際の外国語教育においてなされている数多くの試みを認知言語学の観点から評価、分析する。

In each class students will listen to a lecture and conduct a discussion on major topic(s) in Applied Cognitive Linguistics. The instructor takes various topics in the academic field, suggesting its application to teaching/learning foreign languages.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：認知言語学序説：認知言語学の定義・学術上の位置づけ・短史
- 2 回：認知言語学概論：認知科学と認知言語学・外国語教育との関連
- 3 回：カテゴリー論：カテゴリー論の系譜、プロトタイプ・カテゴリー、プロトタイプ効果、基本レベルカテゴリー
- 4 回：スキーマ論：スキーマの定義、図地変換、イメージ・スキーマ、理想化認知モデル
- 5 回：メタファー論-1：Lakoff & Johnson (1980) の概念メタファー理論とその発展、プライマリー・メタファー、ブレンディング
- 6 回：メタファー論-2：不変性仮説をめぐる、現代社会とメタファー、諸学におけるケーススタディ
- 7 回：メトニミー論：メトニミーの定義と分類、メトニミー論の現在
- 8 回：シネクドキ論：シネクドキの定義と分類、シネクドキ論の現在
- 9 回：応用認知言語学：認識の三角形、多義ネットワーク理論、辞書学への貢献
- 10 回：認知レトリック論：オクシモロン、ジューグマ、トートロジー、ハイパボリー、パラレプシス
- 11 回：構文文法論：構文文法の基本概念と特徴、言語教育との関連
- 12 回：認知文法論：考え方の枠組み、基礎理論、Langacker (2008) の (間) 主観性
- 13 回：先端研究：デジタルメタファー論、メディカルメタファー論
- 14 回：総括と展望

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド (パワポ等) の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

配布される論文の予習が必要な場合がある。

ほぼ毎回、小課題を課し、平常点に算入する。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 中間課題:20% 授業参加度 (participation) と小課題:60% 最終レポート割合 :20%

テキスト / Textbooks

ハンドアウトおよび参考論文を適宜オンラインで配布する。

参考文献 / Readings

池袋図書館での入手可能性を含め、講義内で指示する。

言語研究特論

Topics in Language Studies

ことば・人間・世界—失語症の症例から考える

山口 まり子 (YAMAGUCHI MARIKO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 異文化コミュニケーション学部

科目コード等： DM568

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： ICC3140

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

脳の機能や失語症の様々な症例をを学びつつ、言語哲学の諸問題を議論し、言語・人間・世界の関わりを考察する。必要に応じて議論の方法と論理の初歩を学ぶ。

Learning about the workings of brain and various cases of aphasia, we will discuss problems in philosophy of language and consider the relation among language, the humans who use it and the world surrounding them. We will also learn the basics of logic where necessary.

授業の内容 / Course Contents

日常において当たり前のように言語を使用していると、そこに哲学的な問題があるとはなかなか思えないかもしれない。しかし、当たり前に使っている言語を、当たり前に使えなくなってしまうたらどうだろう？失語症の様々な症例は、他者とコミュニケーションを取るとか互いを理解するとかということがどういうことなのかを再考するよいきっかけを与えてくれる。

この授業では、いくつかの典型的な失語症の症例から、言葉と脳と心の間を関係を考え、以下に挙げるような、主に西洋の近現代における言語哲学で論じられているトピックを通して、言語の意味や

As we spontaneously use language in everyday life without a second thought, it might be difficult to realise that our use of language raises philosophical problems. However, what would happen if we were no longer able to freely use the language that we currently use? Looking at various cases of aphasia prompts us to have second thoughts and reconsider what it is to communicate with others or understand each other.

In this class, we will think about what relationship (if any) language, brain and mind have to each other, using some typical cases of aphasia. Through discussing the topics listed below, which are among the topics discussed in Western philosophy of language, we will consider what the meaning (sense) and reference of a linguistic expression are and what we understand when we communicate with others. (This may involve studying some basics of logic.)

Examples of the topics:

- What is meaning?
- Other minds
- The relationship between a word's (literal) meaning and the speaker's intention/listener's understanding
- Names and the rigidity of their reference, identity and necessity
- Language, reality, knowledge
- Language as actions (speech act theory)
- Language and rule-following, etc.

Each topic lasts two to three weeks and each class will involve lecture and discussion elements."

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション ～ 科学・帰納・演繹について：データと理論
- 2回：科学・帰納・演繹について：データと理論
- 3回：トピック1：「健忘失語」の症状からの考察（講義とディスカッション） 1
- 4回：トピック1（講義とディスカッション） 2
- 5回：トピック1（講義とディスカッション） 3
- 6回：トピック2：「ブローカ失語」の症状からの考察（講義とディスカッション） 1
- 7回：トピック2（講義とディスカッション） 2
- 8回：トピック2（講義とディスカッション） 3
- 9回：トピック3：「ウェルニッケ失語」の症状からの考察（講義とディスカッション） 1
- 10回：トピック3（講義とディスカッション） 2
- 11回：トピック3（講義とディスカッション） 3
- 12回：トピック4：ことばの意味と他者の理解（講義とディスカッション） 1
- 13回：トピック4（講義とディスカッション） 2
- 14回：トピック4（講義とディスカッション） 3 ～ まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

毎回の授業で指示する。

論理学を学んだことがない場合、例えば野矢茂樹著（2006）『新装 論理トレーニング』（産業図書）や同著者（2020）『まったくゼロからの論理学』（岩波書店）などを用いた独習を勧める（質問も歓迎する）。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 出席・授業参加:20% 提出物など:40% 最終レポート割合 :40%

テキスト / Textbooks

山鳥重 『言葉と脳と心：失語症とは何か』 講談社現代新書 2011 9784062880855 ○

上記テキスト以外の資料は授業時に配布する。

参考文献 / Readings

ウィトゲンシュタイン 『哲学探究』（ウィトゲンシュタイン全集8） 大修館書店 1976 4469110183

Wittgenstein, L. Philosophical Investigations Wiley-Blackwell 2009 1405159286

J. L. オースティン 『言語と行為』 大修館書店 1978 4469210722

Austin, J. L. How to do things with Words Harvard University Press 1975 0674411528

ウィルソン 『自分で考えてみる哲学』 東京大学出版会 2004 4130130234

その他の参考文献は授業内で適宜紹介する。

また、上記「授業時間外の学習」欄参照のこと。

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

上記「授業時間外の学習」欄参照のこと。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

準備不要。授業内の電子情報機器使用は不可とする。

その他 / Others

授業内の電子情報機器使用は不可とする。

言語研究調査法

Research Methods in Language Studies

Research Methods in Applied linguistics

石井 雄隆 (ISHII YUTAKA)

開講年度： 2024

科目設置学部： 異文化コミュニケーション学部

科目コード等： DM569

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： ICC3120

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

本科目の到達目標は、応用言語学の理論と実践の学びを通して、応用言語学で用いられている研究手法の基礎的な理解を深めることである。

The goal of this course is to consolidate the basic understanding of the research methods used in applied linguistics through studying the theory and practice of applied linguistics.

授業の内容 / Course Contents

研究の定義からはじまり、応用言語学の一分野である英語教育学での研究を行うための研究テーマの決め方、先行研究の探し方、研究課題の決め方、データ収集方法および分析方法などを、実践に基づき理解する。特に、面接・観察・日誌などの質的研究手法、および t 検定、相関分析などの量的研究手法についての特徴を学ぶ。

Beginning with an introduction to what research is, through practical exercises, we will develop an understanding of how to choose a research theme, find existing research, decide on research questions, collect data, and conduct

analysis. All these topics relate to conducting research in the field of English language teaching, which is one subject area within applied linguistics. We will primarily learn the characteristics of qualitative research methods, such as interviews, observations, and diaries or journals, and quantitative research methods, such as t-tests and correlation analysis.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス（シラバスの説明等）
- 2回：研究とはなにか
- 3回：研究テーマの決め方
- 4回：先行研究の探し方
- 5回：研究課題とデータ
- 6回：文献レビュー
- 7回：中間発表
- 8回：質的研究の進め方1
- 9回：質的研究の進め方2
- 10回：量的研究の進め方
- 11回：言語データの扱い方1
- 12回：言語データの扱い方2
- 13回：研究成果の公表方法
- 14回：最終発表

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

指定されたリーディング課題を読んてくること。また発表担当者は担当箇所のプレゼンテーションを行うこととなる。詳細は教場で指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% リフレクション・授業中の参加度・プレゼンテーション:40% 中間プレゼンテーション:30% 最終レポート割合：:30%

テキスト / Textbooks

浦野研, 亙理陽一, 田中武夫, 藤田卓郎, 高木亜希子, 酒井英樹 『はじめての英語教育研究——押さえておきたいコツとポイント』 研究社 2016 9784327421977 ○

参考文献 / Readings

その他 / Others

1. 授業形態について

PowerPoint を使用して解説や学生の発表がなされる。

授業全体で積極的な受講態度が期待される。

グループまたは個人で、テキスト内容の発表やプロジェクト発表、レポート作成を行う。

授業資料や課題は Learning Management System に掲載する。

2. 課題に対するフィードバックについて

提出物や発表に対して、個別や全体に向けたフィードバックを適宜行う。

3. 担当者のウェブサイト

<http://yutakaishii.com/>

日本語学概論B

Introduction to the Study of Japanese B

有賀 千佳子 (ARUGA CHIKAKO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 異文化コミュニケーション学部
科目コード等： DM570
授業形態： 対面（一部オンライン）
授業形態（補足事項） 全授業回のうち2回はオンラインで実施する（3・8回目の授業）。オンライン実施回に変更が生じる場合は、授業内または Canvas LMS 等で周知する。
校地： 池袋
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： ICC2130
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考： 基礎科目（一般）

授業の目標 / Course Objectives

日本語を母語としない人々に日本語を教える際に必要な日本語の知識と特徴（語彙、文字表記、語用論的規範）を理解し、説明することができるようになる。普段、無意識に使用している日本語のさまざまな部分を意識化し、日本語学習者が困難に感じる点を想像できる力を身につける。

To understand and become able to explain the characteristics of Japanese (vocabulary, writing system and pragmatics) necessary to teach Japanese to non-native speakers. Students will pay close attention to the Japanese language they speak on a daily basis and gain the ability to analyze linguistic difficulty faced by learners of Japanese.

授業の内容 / Course Contents

国語としての日本語ではなく、日本語を母語としない人々に教えるための日本語の様々な特質について言及する。「語彙」「文字表記」「語用論的規範」について、学習用教材や学習者の誤用など具体的事例を通して実際に学ぶ。

Characteristics of Japanese necessary for teaching Japanese as a foreign language, rather than as a native language, will be covered in this course. Students will learn about Japanese vocabulary, writing system and pragmatics through error analysis and study of teaching materials.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：初回ガイダンス レディネスチェック
- 2 回：日本語の文字表記（ひらがな、かたかな、漢字） わたしたちはどう使い分けているか
- 3 回：文字表記 日本語学習者にとっての困難点／漢字圏と非漢字圏
- 4 回：語彙とは何か／母語話者による語感の違い／日本語学習者にとっての語彙学習とは
- 5 回：語の意味／意味分析の方法／誤用分析／類語比較分析
- 6 回：語彙論の基礎知識－「語を分類する」ための観点①－ 品詞
- 7 回：語彙論の基礎知識－「語を分類する」ための観点②－ 語構成、語種
- 8 回：語彙論の基礎知識－「語を数える」ための方法－
- 9 回：日本語教育における語彙の位置づけ／語彙教育の方法
- 10 回：語彙資料について考える－辞書、コーパス、用例集、学習者用問題集－
- 11 回：語用論とは何か－なぜ意図が伝わるのか－
- 12 回：発話意図が伝わらない理由／非日本語母語話者が感じる困難点
- 13 回：「表現文型」「機能シラバス」について考える
- 14 回：学習のふりかえり 既習項目チェック

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

予習は要りませんが、必ず復習をして、知識や考え方を自らに定着させておくこと。
不定期に理解度確認クイズや小課題を行います。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業への参加度:50% 不定期の授業内クイズ・課題:50%

3回以上欠席の場合は単位取得不可（やむをえない理由の場合は要相談）。15分以上の遅刻3回で、欠席1回にカウントします。

テキスト / Textbooks

テキストは使用しません。毎回資料を配布します。

参考文献 / Readings

トピック毎に、参考資料を提示します。

書籍などは、なるべく現物を手にできるようにこちらで用意します。

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

既存の知識や価値観にとらわれることなく、言語現象を観察・分析できる能力

その他 / Others

既存知識よりも、自分自身の頭で言語現象を分析する姿勢を重視します。

授業は主に講義形式で進めますが、随時、学生への問いかけ、および、ペアワークやグループワークなど学生同士のやりとりを通して学んでいくため、参加者の積極的姿勢を望みます。

コンピュータ・リテラシー

Computer Literacy

言語教育・言語研究のための ICT 活用実践

萱 忠義 (KAYA TADAYOSHI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 異文化コミュニケーション学部

科目コード等： DM572

授業形態： 対面（一部オンライン）

授業形態（補足事項）全授業回のうち7回はオンラインで実施する（2・4・6・8・10・12・14回目の授業）。

オンライン実施回に変更が生じる場合は、授業内または Canvas LMS 等で周知する。

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： ICC2630

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 抽選登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 基礎科目（一般）

パソコンの実習科目となるため、基本的なパソコンの操作は熟知している学生向けの科目である。

授業の目標 / Course Objectives

言語教育および言語研究に必要なコンピュータ・スキルを学び、実際にそれらを必要とする場面で活用できることを目標とする。具体的な目標は以下の通りである。

- 英語でのコンピュータに関する基本的な知識を身につける
- パーソナルコンピュータ（PC）に慣れ親しむ
- インターネットから有用な情報を得られるようになる
- MS-Word、Excel、PowerPoint などを使いこなす
- コンピュータを使用した研究スキルを身につける
- ネチケット（ネットワークエチケット）とインターネットの道徳や倫

In this course, the goal is to acquire the computer skills necessary for language education and research, and to apply them effectively in relevant situations. The specific objectives of the course are as follows:

1. To have basic knowledge about computers in English
2. To familiarize yourself with PCs
3. To be able to obtain useful information from the Internet
4. To have a good command of MS-Word, Excel, PowerPoint, etc.
5. To have research skills using computers
6. To understand netiquette (network etiquette) and internet morals and ethics

授業の内容 / Course Contents

毎回の授業では、前半を講義形式、後半を実践形式で行う。授業への積極的な参加が学生には求められる。授業や文献講読では英語および日本語を使用する。

The lessons will be conducted both in English and in Japanese. Students are required to be proactive in order to express their opinions in class, and the instructor will act as a facilitator for the classroom activities and discussions.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：ガイダンス
- 2 回：Computer systems (1)
- 3 回：Computer systems (2)
- 4 回：Generative AI (1)
- 5 回：Generative AI (2) / 課題提出 (1)
- 6 回：Word processing (MS-Word) and DTP (1)
- 7 回：Word processing (MS-Word) and DTP (2) / 課題提出 (2)
- 8 回：Spreadsheets (Excel)
- 9 回：Presentation software (PowerPoint) (1)
- 10 回：Presentation software (PowerPoint) (2) / 課題提出 (3)
- 11 回：Digital movie making (1)
- 12 回：Digital movie making (2) / 課題提出 (4)
- 13 回：最終テスト
- 14 回：テスト解説・総括

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：○	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

毎回の授業で指示する。Detailed instructions are given to students in every class.

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 出席および授業参加度:10% デジタルノート提出:30% 課題提出:40% 最終テスト割合：:20%

テキスト / Textbooks

授業で使用する教材はこちらで用意する。Learning materials for the class will be provided by the instructor.

参考文献 / Readings

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

パソコンの実習科目となるため、基本的なパソコンの操作は熟知している学生向けの科目である。This course is designed for students who are already familiar with basic computer operations.

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

【履修に関する特記事項】

受講にあたっては、以下の PC 環境を用意しておくこと。

- ・ Windows 10 または Windows 11 の PC であること（他の OS の使用は認めません）。
- ・ Windows 10 または Windows 11 の基本操作ができること。
- ・ Office 365 がインストールされていること。
- ・ 個人でマイクロソフトアカウントとパスワードを所有していること（大学のアカウントは使用できません）。
- ・ Office 版 OneNote が使える環境であること。
- ・ OneDrive

逐次通訳

Consecutive Interpreting

Intermediate interpreting course of the Translator and interpreter Training Program

結城 直美 (YUKI NAOMI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 異文化コミュニケーション学部

科目コード等： DM581

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： ICC3243

使用言語： その他

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定： 先修科目：通訳入門

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

この科目は、学生が以下の能力を身につけることを目標とする。

- －体系的なノートテイクを用いた逐次通訳力
- －メッセージを明確に届けるパブリックスピーキング力
- －通訳準備におけるリサーチ力
- －授業で扱う内容をはじめとする語彙力

This is an intermediate course within the Translator and Interpreter Training Program.

The course is designed for students to acquire:

- Consecutive interpreting skills with systematic note-taking,
- Public speaking skills to deliver messages clearly,
- Research skills to prepare for interpreting assignments, and
- Vocabulary related to topics covered.

授業の内容 / Course Contents

授業では、さまざまな逐次通訳訓練法を紹介する。また、学生がスピーチや対談を英語から日本語、日本語から英語に通訳する。学生の通訳について、その正確さ、訳漏れ、言葉の選び方、文法、文体、パブリックスピーキング力などについて全員で話し合う。授業前の準備、授業後の振り返り、授業外での練習が必須である。During class, students will be asked to interpret segments of a speech both from English to Japanese and from Japanese to English. This will be followed by class discussions and comments, which should cover: accuracy, completeness, word choice, grammar, style, and public speaking skills. Preparation, practice and reflection outside of class are essential to succeeding in the class.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：Introduction: Nature of consecutive interpreting, review of interpreting exercises, and interpreting self-introductions
- 2回：Interpreting a speech on a general topic
- 3回：Interpreting a speech on a general topic
- 4回：Interpreting a speech on a general topic
- 5回：Interpreting a speech on a general topic
- 6回：Interpreting a speech on a general topic
- 7回：Mid-term test
- 8回：Interpreting a semi-technical speech
- 9回：Interpreting a semi-technical speech
- 10回：Interpreting a semi-technical speech
- 11回：Interpreting a semi-technical speech
- 12回：Interpreting a semi-technical speech
- 13回：Interpreting a semi-technical speech
- 14回：Final test

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド* (パワポ* 等) の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

Students are required to come to class in full preparation by doing research on topics to be covered. After class, students must write a report on their in-class performance and submit it with a short reflection.

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% Mid-term test:30% In-class performance:20% Report/journal submissions and class participation:10% 最終テスト割合：40%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

ベルジュロ伊藤宏美・鶴田知佳子・内藤稔 『よくわかる逐次通訳』 東京外国語大学出版会 2009
9784904575055

同時通訳入門

Introduction to Simultaneous Interpreting

Advanced interpreting course of the Translator and Interpreter Training Program

バギュリー (BAGULEY BLAKE MURCIA)

開講年度： 2024

科目設置学部： 異文化コミュニケーション学部

科目コード等： DM582

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： ICC4243

使用言語： その他

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定： 先修科目：通訳入門・逐次通訳

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

This is an advanced course of the Translator and Interpreter Training Program.

The objectives of this course are for students to:

- 1) become familiar with the basic concepts and component skills of simultaneous interpreting;
 - 2) learn how to use the equipment for simultaneous interpreting;
 - 3) develop the ability to simultaneously interpret between English and Japanese for speeches of 5 to 8 minutes;
- and
- 4) build up vocabulary on a range of topics.

授業の内容 / Course Contents

The initial classes of this course will deal with the basic concepts of simultaneous interpreting, how to use booth interpreting equipment, and the foundational skills and techniques used in simultaneous interpreting. In the subsequent classes, students will be asked to interpret speeches on various topics, followed by time for constructive feedback and discussion with the whole class. This is not a theory-heavy course. The bulk of this

course will be hands-on exercises where active participation will be crucial to successful learning. We will use speeches on topics of a non-technical nature gradually building up in length and difficulty over the course of the semester to practice simultaneous interpreting between English and Japanese in both directions. Specific topics of speeches used in class may be subject to change but will be shared with students before the relevant class.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回： Course overview and introduction to simultaneous interpreting and equipment
 2 回： Basic skills and experiencing the booth equipment (using English/Japanese fairy tales)
 3 回： Basic skills - continuation
 4 回： Simultaneous interpreting exercises - general topic (that students are familiar with)
 5 回： Simultaneous interpreting exercises - general topic (standard opening/closing speeches)
 6 回： Simultaneous interpreting exercises - general topic
 7 回： Mid-term test (simultaneous interpretation of short speech in both directions)
 8 回： Mid-term test review
 Simultaneous interpreting exercises - news & current events
 9 回： Simultaneous interpreting exercises - news & current events
 10 回： Simultaneous interpreting exercises - technology
 11 回： Simultaneous interpreting exercises - business/economy
 12 回： Simultaneous interpreting exercises - political
 13 回： Final test (simultaneous interpretation of short speech in both directions)
 14 回： Final test review
 Wrap-up

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド* (パワポ* 等) の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

Students are required to research the topic prior to each class and build up their own bilingual glossaries, submit reports on their in-class performance (students will need to bring a device to record themselves during class) and record/submit their inte

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：002) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Mid-term test:20% In-class performance:20% Submission of reports and self-recorded interpreting:20% 最終テスト割合 :40%

テキスト / Textbooks

Materials will be provided in class.

参考文献 / Readings

Robin Setton, Andrew Dawrant Conference Interpreting: A Complete Course (Benjamins Translation Library)
 John Benjamins Publishing Company 2016 9789027258618

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

This course requires competency in English and Japanese.

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

Students should bring earphones or headphones (single-ear earphones are available in the classroom) and a recording device to record their interpreting (i.e. smartphone or IC recorder). When learning how to interpret via Zoom, students will need a Zoom-ca

その他/ Others

Prerequisite: Students must have successfully completed Introduction to Interpreting and Consecutive Interpreting.

TI@Rikkyo <http://www2.rikkyo.ac.jp/web/ti-rikkyo/>

翻訳入門

Introduction to Translation

Introductory translation course of the Translator and interpreter Training Program

未定 (MITEI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 異文化コミュニケーション学部

科目コード等： DM583

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： ICC3243

使用言語： その他

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

このコースは、通訳翻訳者養成プログラムの入門コースで、翻訳者・通訳者としての基礎的な能力を養うことを目的としています。このコースの目的は、1) 「翻訳」とは何か（翻訳理論）を理解すること、2) 仕様書に沿った翻訳を行うための基本的な知識と技術を習得すること、3) 機械翻訳や CAT ツールなどの翻訳技術を目的に応じて活用できるようになることです。

This is an introductory course of the Translator and Interpreter Training Program, designed to develop foundational competencies for translators and interpreters. The aims of this course for students are 1) to understand what “translation” is (translation theory); 2) to acquire basic knowledge and skills to produce translation according to specifications; 3) to be able to utilize translation technologies including machine translation and CAT tools for specific purposes.

授業の内容 / Course Contents

このコースでは、a) 異文化コミュニケーションにおける翻訳者の仲介者としての役割、原文と訳文の分析方法、b) テキストの種類、翻訳の目的、読者に応じた翻訳の基本的なスキルを獲得します。受講生は、翻訳課題

に取り組み、自分の翻訳について仲間とフィードバックを共有します。

This course introduces a) the role as a mediator that translators have in intercultural communication; how to analyze the source and target text; b) basic skills for translation according to text types, the purpose of translation, and readers. Students work on translation assignments and share peer feedback about their translations.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：Introduction
- 2 回：What is translation?
- 3 回：Basic competence
- 4 回：Localization vs. Internationalization
Domestication vs. Foreignization
- 5 回：Advanced competence
CAT tools and Translation Technology 1
- 6 回：Advanced competence
CAT tools and Translation Technology 2
- 7 回：Practicum: Newspaper articles
- 8 回：Practicum: IT Document
- 9 回：Practicum: Literature
- 10 回：Practicum: Movie Subtitles 2
- 11 回：Practicum: Other
- 12 回：Final Project
- 13 回：Final Project2
- 14 回：Final Project Review

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド* (パワポ等) の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

Students are required to work on translation assignments and submit them prior to the next class.

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：002) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Class participation:20% Assignments:30% Quizzes:10% 最終レポート割合 :40%

テキスト / Textbooks

Materials will be distributed in class.

参考文献 / Readings

鳥飼玖美子 『よくわかる翻訳通訳学』 ミネルヴァ 2013 4623067270

Hasegawa, Yoko The Routledge course in Japanese translation Routledge 2012 9780415607520

田辺・光藤 英日 プロが教える基礎からの翻訳スキル 三修社 2018 9784384055061

武田珂代子 『翻訳通訳研究の新地平』 晃洋書房 2017 9784771028135

山田優 『ChatGPT 翻訳術』 アルク 2023

Further readings will be recommended in class.

その他/ Others

https://researchmap.jp/yamada_trans

Classes will be conducted basically face to face (off-line or mixed mode).

翻訳応用実践 1

Intermediate Translation 1

Intermediate translation course of the Translator and Interpreter Training Program

篠原 有子 (SHINOHARA YUKO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 異文化コミュニケーション学部
科目コード等： DM584
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： ICC3243
使用言語： その他
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定： 先修科目：翻訳入門
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

This is an intermediate translation course of the Translator and Interpreter Training Program, which is designed to develop foundational competencies for translators and interpreters. The aims of this course for students are to (1) acquire practical knowledge and skills to produce Japanese subtitles for films and other audiovisual programs; and (2) learn social aspects of subtitles and gain a broad viewpoint of audiovisual translation.

授業の内容 / Course Contents

This course introduces; (1) the basic theories of audiovisual translation; (2) the characteristics of subtitle translation, such as time and space constraints, multimodality and collaborative activities; (3) the skills to produce proper subtitles according to the context; (4) the effective use of a subtitling software; and (5) new trends in subtitle translation. Students work on assignments to translate part of a feature film using a subtitling software. In peer reviews and discussions, students are expected to explain the approach and strategies taken in the assignments.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：Introduction (course overview, subtitling software, film titles, etc)
 2 回：Outline of subtitle translation
 3 回：Production process of subtitling
 4 回：Translation brief and feedback
 5 回：Translation strategies
 6 回：Translation of culture-specific items
 7 回：Midterm test
 8 回：Subtitling and dubbing
 9 回：Multimodality and subtitles
 10 回：Subtitles for lesser-known languages
 11 回：New types of subtitles
 12 回：Audio description and live subtitling
 13 回：Final test
 14 回：Review of the course
- (Any changes in content and schedule will be announced in class.)

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

Students are required to submit a translation assignment two days prior to class.

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% midterm test:30% assignment:30% class participation:10% 最終テスト割合：30%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

- Díaz-Cintas, J. & Remael, A. Subtitling: concepts and practices Routledge 2021 9781138940543
 佐藤一公・岩本令ほか 『映画翻訳入門』 アルク 2003 4757407246
 武田珂代子編著 『翻訳通訳研究の新地平』 晃洋書房 2017 9784771028135

その他 / Others

Students are required to bring a laptop computer to the first class.

To register for this course, students must have successfully completed Introduction to Translation.

翻訳応用実践 2

Intermediate Translation 2

Intermediate translation course of the Translator and interpreter Training Program

香取 芳和 (KATORI YOSHIKAZU)

開講年度： 2024
科目設置学部： 異文化コミュニケーション学部
科目コード等： DM585
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： ICC4243
使用言語： その他
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定： 先修科目：翻訳入門・翻訳応用実践 1
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

さまざまなテキストの翻訳を通して、言語への関心を深める。訳し方にはいくつもの選択肢があることに気づき、それぞれの利点と問題点について洞察を深める。翻訳はどのくらい原文に近づけるか（翻訳の限界）を理解する。

This course is designed to provide opportunities, through translation of a variety of texts, to develop an interest in language, raise awareness about multiple options that are available in translating a passage and deepen your insight into the pros and cons of each option. It also aims to bring you to a realization that there are limits to how closely a translated text can be made to resemble the original.

授業の内容 / Course Contents

上記目標を達成するため、

1. 代表的な翻訳理論を紹介する。
2. 同じ英語原文の、何通りかの日本語訳を比較検討する。
3. いわゆる「翻訳調」を避けるテクニックを学ぶための短文翻訳演習を行う。

4. 学生の提出した訳文を講評する。
5. 人数によって個人またはグループによる、訳文作成または訳文講評のプレゼンテーションを行う。

In order to achieve the goals delineated above, the course covers the following contents.

1. Introduction of major translation theories
2. Comparison of different Japanese translations of an English text.
3. Short exercises to acquire skills to produce translations that feel natural.
4. Sessions to discuss how to improve students' translations.
5. Presentations by students, as individuals or in groups depending on class size

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：オリエンテーション

翻訳に関連する言語理論の紹介 (1)

2 回：翻訳に関連する言語理論の紹介 (2)

3 回：代表的な翻訳理論の紹介

訳し方の比較検討

4 回：翻訳課題 1 前半

原文の解説と訳文の講評

5 回：翻訳課題 1 後半

原文の解説と訳文の講評

6 回：短文の翻訳練習問題通じて翻訳のテクニックを学ぶ (1)

7 回：翻訳課題 2 前半

原文の解説と訳文の講評

8 回：翻訳課題 2 後半

原文の解説と訳文の講評

9 回：短文の翻訳練習問題通じて翻訳のテクニックを学ぶ (2)

プレゼンテーションの準備

10 回：翻訳課題 3 前半

原文の解説と訳文の講評

11 回：翻訳課題 3 後半

原文の解説と訳文の講評

12 回：短文の翻訳練習問題通じて翻訳のテクニックを学ぶ (3)

(プレゼンテーション)

13 回：プレゼンテーション

14 回：今期の総まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド (パワポ等) の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外の学習については、必要に応じて別途指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 翻訳課題:40% 翻訳練習問題:15% プレゼンテーション:15% リアクションペーパー:10% 議論への積極的な参加:5% 最終レポート割合：:15%

出席が10回に満たない場合は単位修得不可とする。

テキスト / Textbooks**参考文献 / Readings**

平子義雄 『翻訳の原理 異文化をどう訳すか』 大修館書店 1999 9784469212358

伊原紀子 『翻訳と話法 語りの声を聞く』 松籟社 2011 9784879842947

共同通信社 『記者ハンドブック第13版 新聞用字用語集』 共同通信社 2016 9784764106871

その他 / Others

授業では学生への質問も活発に行う予定なので、積極的な受講態度が期待される。

受講者数によるが、受講者の中から司会者を決めて訳文講評を行う可能性がある。

個人またはグループでのプレゼンテーションを予定している。

プレゼンテーションは、受講者数に応じて、第12週と第13週の2回に分けて、または第13週の1回で行う。

通訳翻訳実習

Translation and Interpreting Practicum

The final course of the Translator and Interpreter Training Program

松下 佳世 (MATSUSHITA KAYO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 異文化コミュニケーション学部

科目コード等： DM586

授業形態： 対面（一部オンライン）

授業形態（補足事項） Online sessions (1-3 times) are planned for progress management meetings and remote interpreting practice.

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： ICC4243

使用言語： その他

授業形式： 実習

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定： 先修科目：通訳入門・逐次通訳・同時通訳入門・翻訳入門・翻訳応用実践1・翻訳応用実践2

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

This is the final course of the Translator and Interpreter Training Program. Through a series of individual projects, students will be required to apply the knowledge and skills acquired in the classroom to real-life settings. Through these individual projects, students can experience the practical challenges faced by professional translators and interpreters and develop problem-solving skills. Students are also expected to become aware of the codes of ethics for translators and interpreters and learn how to deal with clients and manage projects.

授業の内容 / Course Contents

This course provides students with firsthand experience in translation and interpreting by participating in real-life projects on campus and in the local community.

At the beginning of the course, students will learn about the objective of this course, the skillsets required for translators and interpreters, and the professional mindset they need to acquire by taking part in the practicum.

They will also be introduced to the various interpreting and translation opportunities available to them through Rikkyo Community Language Service (RiCoLaS), internships, part-time jobs, and other means. Based on the advice of the instructor, students will develop further plans for their individual projects.

Students will be required to keep a record of their activities in a journal during the semester, which will serve as the basis for their final report. Students are expected to share its contents with the rest of the class and submit the final report at the end of the semester.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：Orientation
- 2 回：Announcement of individual projects
- 3 回：Individual project
- 4 回：Individual project
- 5 回：Individual project
- 6 回：Individual project
- 7 回：Individual project
- 8 回：Individual project
- 9 回：Individual project
- 10 回：Individual project
- 11 回：Individual project
- 12 回：Individual project
- 13 回：Individual project
- 14 回：Presentation of the project outcome and submission of the final report

*The schedule may be subject to change.

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド* (パワポ* 等) の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	○ グループ発表	：	○ ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	○ 学内の教室外施設の利用	：	○ 校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

Students are expected to carry out their individual projects throughout the semester and record their activities in a journal.

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：002) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Participation in various interpreting and translation projects:40% Final written report:30% Final oral presentation:30%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

- 松下佳世 『通訳になりたい！ゼロからめざせる 10 の道』 岩波書店 2016 9784005008308
- 山田優 『ChatGPT 翻訳術 新 AI 時代の超英語スキルブック』 アルク 2023 4757440197
- イカロス出版 『通訳者・翻訳者になる本 2025』 イカロス出版 2024 4802213751

Additional materials will be distributed in class as needed.

通訳翻訳特論

Topics in Translation and Interpreting
Community Interpreting and Translation

金 知賢 (KIM JIHYEON)

開講年度： 2024
科目設置学部： 異文化コミュニケーション学部
科目コード等： DM590
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： ICC3243
使用言語： その他
授業形式： 講義
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

The objective of this course is to explore various language needs and current trends regarding interpreting in multicultural societies. Another objective of this course is to discuss the challenges and opportunities in community interpreting as a profession.

授業の内容 / Course Contents

This course provides students with an overview of the specific and unique characteristics of interpreting in community and public services, with a specific focus on legal and healthcare settings. Additional topics include current issues on the practice and the training of community interpreters. Students will also have the opportunity to engage with practitioners or relevant stakeholders in the field and to discuss the challenges of the profession. All students will be required to give a presentation on the language needs of a specific institution/community (e.g., educational institutions, immigration centers, ward offices, tourist information centers, etc.) based on their own research. This presentation will serve as the basis for their final report.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：Introduction and course overview
- 2 回：Key concepts in translation and interpreting
- 3 回：An overview of community translation and interpreting
- 4 回：Language needs in the medical context
- 5 回：Case study #1
- 6 回：Guest lecture by medical interpreter/translator
- 7 回：Language needs in the legal context
- 8 回：Case study #2
- 9 回：Guest Lecture by court interpreter/translator
- 10 回：Language needs in other public services
- 11 回：Case study #3: Off-campus assignment
- 12 回：Individual presentation
- 13 回：Individual presentation
- 14 回：Summary/Concluding discussions

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド* (パワポ* 等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	○	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:	○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	○	校外実習・フィールドワーク	:	○
上記いずれも用いない予定	:						

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

Students will be required to complete reading assignments before each class. During each class, students will be expected to participate in class discussions and present their findings to the rest of the class when instructed.

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Individual Presentation:30% Attendance and Class Participation:40% Final Report:30%

Your class attendance and participation are critical components of this course. Even if circumstances require your absence, you will still be required to attend at least 2/3rds of the classes. If you do not attend this number of classes, you will receive

テキスト / Textbooks

S. Hale Community Interpreting Palgrave Macmillan 2007 9781403940698 -
 水野真木子・内藤稔 『コミュニティ通訳』 みすず書房 2018 9784622087403 -
 Readings will be provided in the classroom or posted on Canvas LMS.

参考文献 / Readings

H. Mikkelsen & R. Jourdenais The Routledge Handbook of Interpreting (2nd edition) Routledge 2018
 9781138625228

This course will use the reference materials indicated in this syllabus. The instructor will let you know if additional materials are required.

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

To successfully complete this course, students will be required to have an advanced level of proficiency in English

and Japanese. International students who wish to take this course need to score at least J6 or above on their Rikkyo University Japanese Pl

その他/ Others

*The syllabus is subject to change. Changes, if any, will be announced during classes.

英語教育学

English Language Pedagogy

多角的な視点から実践的な英語教育を考える

福田 晶子 (FUKUDA AKIKO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 異文化コミュニケーション学部

科目コード等： DM601

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： ICC3140

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

この授業では、以下の項目を達成することを目標とします：

- 英語とはどのような言語なのか、その特質や世界における位置づけを理解し、また日本社会における位置づけを歴史的な視点から説明することができる
- 人間の認知・情意・行動がどのように言語習得にかかわっているのかを理解し、実際に英語をどのように学ばよいかについて自身の英語学習や日本の英語教育に応用することができる
- 英語教育における教材や評価について考察を深め、理論的背景に基づいたさまざまな教授法を理解し、具体的な指導法として提案することができる

In this class, students will aim to achieve the following:

- Understand what kind of language English is, its characteristics and its position in the world, and to be able to explain its position in Japanese society from a historical perspective.
- Understand how human cognition, emotion, and behaviour are related to language acquisition and apply this understanding to their English learning and English education in Japan.

(3) Deepen consideration of teaching materials and assessment in English education, understand various teaching methods based on theoretical backgrounds, and propose specific teaching methods.

授業の内容 / Course Contents

この授業では、言語の特質や文化・歴史的背景、教育政策、第二言語習得理論、外国語教授法、中学・高校での教材・指導・評価について概観し、「英語とはいったいどのような言語なのか」「英語をどのように学ぶのか」「英語をどのように教えるのか」を考察していきます。英語教育学に関するさまざまな議題や問いについて、グループ活動を通して学生が主体となって検討し、その理解を深めます。英語教育学に関する基礎や理論を身につけ実践へとつなげます。

This course will examine English language learning and education in Japan by providing an overview of language characteristics, cultural and historical backgrounds, educational policies, theories of second language acquisition, foreign language teaching methods, and teaching materials, instruction, and evaluation in junior high and high schools. Through group activities, students will take the initiative to examine and deepen their understanding of various topics and questions related to English pedagogy. Students will acquire the fundamentals and theories of English pedagogy and put them into practice.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1回：ガイダンス：この授業の進め方・英語教育学とは何か

2回：英語の特質：どのような英語を学び教えるのか

英語という言語の特徴や世界における言語の位置づけや使われ方を考える

3回：日本社会における英語の歴史と必要性：日本の英語教育史

なぜ日本で英語を学ばれるようになったのかを歴史、政治経済、グローバル化の観点から考える

4回：日本の外国語教育政策：育成すべき英語力

学習指導要領とは何か、日本の外国語教育は何を目指しているのかを議論する

5回：英語教育と異文化コミュニケーション：コミュニケーション能力の資質と育成

コミュニケーションはどのような文化的影響を受けているのかを理解し、目的や場面に応じたコミュニケーション能力の育成について議論する

6回：英語をどのように学ぶか：第二言語習得のプロセス

我々はどのように英語を習得するのか、そのメカニズムに関する諸理論を概観し、教室内で英語を効果的に教えるのかを議論する

7回：外国語教授法：外国語をどのように教えるべきか

さまざまな教授法を概観し、各種教授法の特徴について議論する

8回：学習者個人内要因：言語適性・性格・年齢・学習スタイル

諸要因を概観し、なぜ英語の習得ペースや成果が個人で異なるのかを議論する

9回：学習者個人内要因：動機づけ・意欲・興味・価値

諸要因を概観し、なぜ人によって意欲が異なるのか、状況によってやる気の高低が生まれるのかを議論する

10回：学習者個人内要因：学習方略・自己調整学習・自己概念

諸要因を概観し、どのように英語を勉強するべきかを議論する

11回：教材：教科書の活用と教材研究

教材とは何か、どのような教材があるのか、教材をどのように活用するのかについて考える

12回：評価と測定：学習評価のあり方、進め方

評価の方法やテストを作成することにどのような意義や方法があるのか、また学習評価と指導が一体化するた

めに必要な工夫を議論します

13 回：英語指導の理論と実践：中学校

中学校が目指す目標を確認し，その内容に基づく具体的な指導方法や授業展開について議論する

14 回：英語指導の理論と実践：高等学校

高等学校が目指す目標を確認し，その内容に基づく具体的な指導方法や授業展開について議論する

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

テキストの指定箇所を事前に読む，授業内での議論のために事前に疑問点を整理する，事前事後に指示のあったアクティビティを実施する，グループ活動のために必要な準備をするといった学習が想定されます。授業時間外の学習に関する具体的な指示は，必要に応じて別途指示します。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% グループ発表:30% ミニレポート:30% 筆記テスト:30% 積極的な参加:10%

テキスト / Textbooks

酒井英樹・廣森友人・吉田達弘編著 「学ぶ・教える・考える」ための実践的英語科教育法』 大修館書店
2018 ○

参考文献 / Readings

久保田章・林伸昭編 『授業力アップのための英語教育学の基礎知識』 開拓社 2019

鳥飼玖美子編 『よくわかる英語教育学』 ミネルヴァ書房 2021

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

将来英語教員を目指している学生，英語教育関連の職業を志望する学生，英語教育学に関連する大学院を志望する学生の受講を想定していますが，日本の英語教育や日々の英語の勉強方法などに関心がある方も受講を歓迎します。授業では主体的な活動やグループ活動への貢献が求められます。

英語コミュニケーション教育学

Pedagogy of English for Communication

第二言語スピーキング能力の教授法

(Instructed Second Language Acquisition for L2 Speaking Skills)

鈴木 駿吾 (SUZUKI SHUNGO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 異文化コミュニケーション学部

科目コード等： DM602

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： ICC3140

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

この授業の主な目標は以下の通りです：

- 様々な第二言語スピーキング能力の考え方を学ぶ
- 教室における第二言語習得の基本的な理論を学ぶ
- 第二言語学習理論を教育活動に応用する方法を学ぶ
- 個人差や学習環境を教室活動に反映する方法を学ぶ

The primary objectives of the course are to:

- familiarise students with different conceptualizations of L2 oral proficiency;
- familiarise students with fundamental theories of instructed second language acquisition;
- enable students to apply different L2 learning theories into teaching activities; and
- enable students to adapt teaching activities in relation to individual differences and social contexts

授業の内容 / Course Contents

このコースでは、第二言語のスピーキング能力に焦点を当てながら、第二言語習得の基礎理論を取り上げ、内容重視型言語教育（CBLT）、タスクに基づく教授法（TBLT）、留学、コンピュータ支援言語学習（CALL）などの主要な言語教育法について、強みと弱みを把握しながら学習環境と照らし合わせて評価する。そのために、学生は読み物、毎週の小テスト、授業中の講義、マイクロティーチング活動、グループディスカッションに参加することが求められる。

This course addresses fundamental theories of (instructed) second language acquisition and critically evaluates several major language pedagogies and contexts—content-based language teaching (CBLT), task-based language teaching (TBLT), study abroad and computer-assisted language learning (CALL), focusing on the development of second language (L2) speaking skills. To this end, students are required to engage with assigned readings, weekly quizzes, in-class lectures, micro-teaching activities and group discussion.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：Introduction and a Brief History of (Communicative) Language Teaching
- 2 回：Complexity, Accuracy and Fluency in L2 Oral Production
- 3 回：Functional Adequacy and Pronunciation
- 4 回：Beyond Linguistic Competence: Interactional Competence and Speaking Strategies
- 5 回：The Nature of L2 Knowledge
- 6 回：Interaction in L2 Classroom
- 7 回：Focus on Form
- 8 回：Content-Based Language Teaching
- 9 回：Task-Based Language Teaching
- 10 回：Study Abroad
- 11 回：Computer-Assisted Language Learning
- 12 回：Cognitive Factors in L2 Learning
- 13 回：Affective Factors in L2 Learning
- 14 回：Social Dimensions of L2 Learning

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワーポイント等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	○	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：		：			

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

学生は授業前に指定された章や論文を読む必要があります。詳細は授業で紹介します。

Students are required to read assigned chapters and articles. Details will be introduced in class.

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% Active class participation:40% Weekly Quizzes:15% Micro-teaching activities:20%

最終レポート割合：25%

テキスト / Textbooks

Shawn Loewen Introduction to Instructed Second Language Acquisition Routledge 2020 9781138671775

参考文献 / Readings

Recommended books and articles will be introduced in class.

その他/ Others

担当教員のウェブサイト：<https://shungosuzuki.wordpress.com/publications/>

文化人類学概論

Introduction to Cultural Anthropology

金子 亜美 (KANEKO AMI)

開講年度：	2024
科目設置学部：	異文化コミュニケーション学部
科目コード等：	DM603
授業形態：	対面（一部オンライン）
授業形態（補足事項）	対面科目（一部オンライン）
校地：	池袋
学期：	春学期
単位：	2
科目ナンバリング：	ICC2430
使用言語：	日本語
授業形式：	講義
履修登録方法：	科目コード登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	基礎科目（一般）

授業の目標 / Course Objectives

- ・文化人類学に特徴的な思考法として、他者について考えることを通じて自己を発見する姿勢を身につける
 - ・文化人類学の中核をなす方法として、「フィールドワーク」や「民族誌」とは何かを説明できるようになる
 - ・文化相対主義とは何か、自民族中心主義の問題とは何かを説明できる
 - ・「文化」や「社会」、「民族」などのカテゴリーを、固定的な境界をもった実体としてとらえることの問題点を指摘できる
- To think of others, and at the same time to think of oneself: this is a basic and unique way of thinking of cultural anthropology.
- Explain fieldwork and ethnography as essential methodological tools for cultural anthropological studies.
- Identify some epistemological and ontological problems of considering categories such as "culture", "society" and "ethnicity" as solid facts.

授業の内容 / Course Contents

文化人類学は、フィールドワークを行い民族誌を書くことを中心とする学問である。文化人類学者は世界各地における人の多様な生き方を示しつつ、また普遍的に観察される事象に対しても説明を与えようとしてきた。

そうした文化人類学の営みの根幹には、未知なるものや他なるものを理解、肯定し、そのことを通じて自らのうちにもまた他を発見しようという動機がある。

本授業では、文化人類学における重要なテーマや方法を概説したうえで、文化の多様性と普遍性についての文化人類学的研究の事例を取り上げていく。他者を通じて自己の他性に気づくとい

Cultural anthropologists are those who do fieldwork and write ethnography. They have shown diversity of human life all over the globe, and at the same time have explained universal phenomenon across different cultures. What underlies anthropologists' such endeavor is their willingness not only to try to understand and accept what is unknown, but also to defamiliarize their taken-for-grantedness.

This course reviews general topics and methodologies of cultural anthropology and focuses on some research examples of cultural diversity and universality. Participants will find some ways to discover alterity within themselves through knowing other people's way of doing and being.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：文化人類学とは：視点の独自性（オンライン）
- 2 回：北米総合人類学における文化相対主義：ボアズとその弟子
- 3 回：フィールドワークと民族誌：マリノフスキとフラハティ
- 4 回：多様なつながり（1）：ヌアー族における牛の交換と戦争（オンライン）
- 5 回：多様なつながり（2）：親族、出自、縁組、インセストタブー
- 6 回：多様なつながり（3）：交叉イトコ婚とサブスタンス（オンライン）
- 7 回：普遍の思考（1）：レヴィ＝ストロースと神話
- 8 回：普遍の思考（2）：言語と儀礼（オンライン）
- 9 回：未知に対処する（1）：キリスト教と人類学
- 10 回：未知に対処する（2）：呪術、科学、宗教（オンライン）
- 11 回：未知に対処する（3）：コロンブスとクック船長
- 12 回：共に生きる（1）：インディオの気まぐれな魂（オンライン）
- 13 回：共に生きる（2）：アマゾニア先住民と多自然主義
- 14 回：共に生きる（3）：始まりのないミメーシス（オンライン）

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワポ等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:	
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業ごとに指定の形式でコメントを提出する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業出席とコメント提出:60% 最終レポート提出:40%

テキスト / Textbooks

授業時に必要に応じて資料を配付する。

参考文献 / Readings

桑山敬己・綾部真雄（編著） 『詳説 文化人類学』 ミネルヴァ書房 2018 9784623082711

松村圭一郎・中川理・石井美保（編著） 『文化人類学の思考法』 世界思想社 2019 9784790717331

文化記号論

Cultural Semiotics

小山 亘 (KOYAMA WATARU)

開講年度： 2024
科目設置学部： 異文化コミュニケーション学部
科目コード等： DM604
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： ICC3140
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

記号論の枠組に基づき、現代社会文化、及びその他の様々な社会文化の多様な現象を分析する能力を身につける。

The aim of this course is to develop the competence to analyze a variety of sociocultural phenomena in modernity and beyond, on the basis of the semiotic framework.

授業の内容 / Course Contents

まず記号論の枠組を概観した後、特に類像（icon）という記号論の概念に依拠して、様々な社会文化の多様な現象（身体、宇宙、時間、地理・空間、都市、数、色、王朝、病・医、農、学知、宗教、親族、動物、食、住居など）を分析する。続いて、同じく記号論の枠組に基づきながら、特に社会学者ブルデューの提示した諸概念（象徴資本、フィールド、ハビトゥスなど）を参照し、現代社会の文化様態の一端を考察する。

The course starts with introducing the semiotic framework and moves to analyze a variety of sociocultural phenomena, such as the body, cosmology, time, space, city, number, color, dynastic empire, medicine, agriculture, kinship, animal, edibility, dwelling house, and so on, on the basis of the semiotic notion of “iconicity.” Then, the course explores an aspect of contemporary socioculture by appealing to sociologist Pierre

Bourdieu's notions of "symbolic capital," "field," "habitus," etc., reconceptualized in terms of the semiotic framework introduced in this course.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：記号の3タイプ：類像 (icon)、指標 (index)、象徴 (symbol)
- 2回：類像性とコスモロジー (1)：マイクロコズム・身体とマクロコズム・宇宙
- 3回：類像性とコスモロジー (2)：都市、数、色、王朝、陰陽五行説など
- 4回：類像性と病・医の文化範疇
- 5回：類像性と農の文化範疇：インド
- 6回：類像性と中世西欧スコラの宇宙論
- 7回：類像性と中世西欧のコズモグラフィ
- 8回：類像性と中世・近世日本の宇宙論
- 9回：構造主義の文化人類学 (1)：旧蘭領東インド
- 10回：構造主義の文化人類学 (2)：タイ
- 11回：構造主義の文化人類学 (3)：親族、居住・空間、動物
- 12回：現代社会の記号論 (1)：文化資本と類像性
- 13回：現代社会の記号論 (2)：ハビトゥスと現代社会文化
- 14回：現代社会の記号論 (3)：フィールドと現代社会文化の編成

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド (パワー等) の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：		ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：		：			：

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

準備学習については毎回の授業で指示する。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

レポート試験 :70%

平常点割合 :30% 授業参加度:30%

テキスト / Textbooks

教室および Canvas LMS などで配付

参考文献 / Readings

小山亘 『記号の系譜』 三元社 2008 9784883032198

池上嘉彦 『自然と文化の記号論』 放送大学教育振興会 2002

視覚芸術概論

Introduction to Visual Arts

「東」と「西」：美術・視覚メディア・文学に見る自己性と他者性

黒岩 三恵 (KUROIWA MIE)

開講年度：	2024
科目設置学部：	異文化コミュニケーション学部
科目コード等：	DM605
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	春学期
単位：	2
科目ナンバリング：	ICC2430
使用言語：	日本語
授業形式：	講義
履修登録方法：	科目コード登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	<input type="radio"/>
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	基礎科目（一般）

授業の目標 / Course Objectives

「東」と「西」をキーワードとして、美術を中心とする視覚的な表現や文学表現に見られる自己と他者について、さまざまな作例や事例を通じて多角的な理解を深め、自ら分析や考察を行えるようになる。

Through the key words and concepts of the "East" and the "West", this course aims to introduce and familiarize students to visual or literary representations of the Selfness and the Otherness through a number of case studies..

授業の内容 / Course Contents

東方と西方、キリスト教徒とユダヤ教徒、男性と女性、成人と子供、あるいは異なる地域や時代の人々などが、事実として異なった外観、風習、文化を持つものとして描かれるだけでなく、「われわれ」か「よそ者」かというフィルターを通していかに肯定的・否定的に描かれてきたのかを、美術作品、ポスター、写真などの事例を取り上げて分析する。また、事例を提示して、学生が自己性と他者性について考察も行う。

We will analyze how different entities such as the West and the East, Christian and Jewish, women and men, adult and children, or people belonging to different ethnic, cultural or historical backgrounds were not only depicted per se in the visual media, but also represented positively or negatively, when seen through the notion of

the Self and the Other. Students will also write short essays about given cases.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス：「自己」・「他者」とは？「東」・「西」とは？ 授業の思考の枠組みについて
- 2回：西洋の視覚文化の枠組み：位階的な構図とシンボル性
- 3回：何が自己と他者をわかつかの？：古代ギリシャは「西」なのか？
- 4回：キリスト教的世界観と他者性：旧約聖書、十字軍、見知らぬ世界への「驚嘆」
- 5回：小エッセイ
- 6回：ジェンダー論的「自己性」と「他者性」：宮廷風恋愛
- 7回：行動する女と女性恐怖：ユディトとサロメ
- 8回：まなざしとジェンダー：薔薇物語とメデューサ
- 9回：小エッセイ
- 10回：東と西①：美術に見る異文化交流 オスマン・トルコと西洋
- 11回：東と西②：美術に見る異文化交流 オリエンタリズム
- 12回：東と西③：美術に見る異文化交流 中国と西洋
- 13回：東と西④：美術に見る異文化交流 日本と西洋
- 14回：総括

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業時に2回の小エッセイを予定している。既習のキーワードや概念の応用を求めるので、しかるべく準備をすること。また、毎回の授業後、関連トピックを課題としてコメントペーパーを書いてもらう。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 小エッセイ:30% リアクションペーパー:30% 最終レポート割合：40%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

授業時に取り上げる作例・事例に関連して、随時参考文献を紹介する予定である。

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

世界史の基礎知識が求められる。参考文献は適宜詳細する。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

配布資料は、オンラインでpdf版を配布する。閲覧できるPC等を持参すること。

音楽学概論

Introduction to Musicology

近代日本における西洋音楽受容

仲辻 真帆 (NAKATSUJI MAHO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 異文化コミュニケーション学部

科目コード等： DM606

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： ICC2430

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 抽選登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 基礎科目（一般）

授業の目標 / Course Objectives

音楽の歴史研究について理解し、様々な文化事象の考察に応用することができる。

In this course, students will understand historical research on music and apply it to the study of various cultural phenomenon.

授業の内容 / Course Contents

現代日本の音楽文化に連結するものとして、近代（明治期から昭和戦前期）の日本の音楽史がある。歴史的観点のみならず今日的観点をもって、自らの音楽経験や音楽観を見直すことができるように、様々なトピックスを横断してゆく。なぜ日本人が西洋音楽に親しんできたのか、その背景や歴史変遷を学ぶ。

Modern Japanese music history (from the Meiji period to the early Showa period) is linked to contemporary Japanese music culture. The course will traverse a variety of topics so that students can review their own musical experiences and perspectives not only from a historical perspective but also from a contemporary perspective.

Why have Japanese people become familiar with Western music? Students will learn the background and historical transition.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション（外来音楽と日本人）
- 2回：日本の音楽史における「近代」
- 3回：讃美歌・軍楽の導入
- 4回：学校教育と音楽（唱歌、校歌）
- 5回：オルガン、ピアノ製造のはじまり
- 6回：「国楽」「国民音楽」とは
- 7回：「お雇い外国人」と日本の音楽界
- 8回：音楽家の留学事情
- 9回：音楽と文学にみる童謡運動
- 10回：音楽批評の展開
- 11回：近代日本の音楽とメディア
- 12回：「日本的和声」「日本的作曲」とは
- 13回：近代日本における音楽と戦争
- 14回：近現代日本音楽史の連続性と非連続性

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワーポイント等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

図書館所蔵資料やデータベースを活用して予習・復習をする。具体的な内容は授業時に説明する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業参加状況:60% 最終レポート割合：:40%

単位取得のためには2/3以上の出席が必要。

テキスト / Textbooks

購入不要。配布資料を用いる。

参考文献 / Readings

授業内で適宜紹介する。

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

音楽に関する専門的な知識や技能は特に必要としない。

フィールドワーク

Fieldwork

金子 亜美 (KANEKO AMI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 異文化コミュニケーション学部
科目コード等： DM607
授業形態： 対面（一部オンライン）
授業形態（補足事項） 対面（一部オンライン）
校地： 池袋
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： ICC3420
使用言語： 日本語
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 抽選登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

- 調査方法としてのフィールドワークの考え方と方法を知る。
- それぞれの方法の強みと課題を説明する。
- フィールドワークをはじめ民族誌的調査に伴う倫理的課題について議論する。
- 各自の関心に応じてフィールドワークを行い、民族誌記事を執筆する。
- Identify basic concepts and methods of fieldwork as a research method.
- Explain advantages and limits of each method.
- Discuss some ethical considerations about fieldwork and other ethnographic research methods.
- Do mini-fieldwork during the course.

授業の内容 / Course Contents

フィールドワークは社会科学諸分野の研究者及び学生に広く用いられる調査方法で、文化人類学者にとっても非常に重要なものである。この授業ではフィールドワークがなしうること、その歴史、そして様々な方法（対面・非対面ともに）についての知識を身につけた上で、フィールドワークに伴う倫理的諸課題について議論する。受講者は関心のあるテーマについて調査計画を作成しフィールドワークを行なった上で民族誌記事を執筆

する。

Fieldwork is a basic research method for a range of social science students and scholars, including cultural anthropology. This course provides an opportunity to overview its goals, history and methodologies (in-person & virtual), and to reflect on some ethical considerations. Students make a mini-research proposal, practice some fieldwork and finally present their research outcomes.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：授業概要説明、フィールドワーク記事を使う協同学習
- 2 回：フィールドワークの理論史（オンライン）
- 3 回：文献講読（1）
- 4 回：文献講読（2）
- 5 回：文献講読（3）
- 6 回：フィールドノート作成実習
- 7 回：写真観察法
- 8 回：フィールドワークに関する経験談の共有
- 9 回：FW 計画発表会、立教大学異文化コミュニケーション研究科研究倫理綱領を読む
- 10 回：民族誌映画によるフィールドワークの方法を議論する
- 11 回：フィールドワークにおける安全管理とハラスメントに関する文献講読
- 12 回：データの整理
- 13 回：調査結果の口頭発表会
- 14 回：民族誌記事のピアエディティング

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：	
個人発表	：	○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：	○
実技・実習・実験	：	○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：	○
上記いずれも用いない予定	：						

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

毎回の授業で指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 出席と授業への貢献:30% フィールドノート課題:30% 成果発表:40%

テキスト / Textbooks

多数あるため授業中に指示する。

参考文献 / Readings

Boellstorff et al. Ethnography and Virtual Worlds: A Handbook of Method Princeton University Press 2011

Schensul and LeCompte Essential Ethnographic Methods: A Mixed Methods Approach (Second edition)

AltaMira Press 2013

里見龍樹 『不穏な熱帯』 河出書房新社 2022

イリナ・グリゴレ 『優しい地獄』 亜紀書房 2022

授業中に指示する。

異文化コミュニケーション概論

Introduction to Intercultural Communication

石黒 武人 (ISHIGURO TAKETO)

開講年度：	2024
科目設置学部：	異文化コミュニケーション学部
科目コード等：	DM621
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	春学期
単位：	2
科目ナンバリング：	ICC2330
使用言語：	日本語
授業形式：	講義
履修登録方法：	科目コード登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	基礎科目（一般）

授業の目標 / Course Objectives

この授業の目標は、異文化コミュニケーションを理解するうえで有用な概念や理論を習得し、それらの概念・理論を用いて異文化コミュニケーションを分析できるようになることである。

Students will be able to understand key concepts and theories of intercultural communication and apply them to analyze intercultural communication.

授業の内容 / Course Contents

この授業では、異文化コミュニケーションに関する主要な概念・理論を学び、それらを応用して異文化コミュニケーションが関わる社会問題や日常の異文化コミュニケーションを分析する。履修者は、そのような分析を通じて、適切かつ効果的な異文化コミュニケーションへの関わり方を探っていく。授業では、コミュニケーション、文化、価値観、非言語コミュニケーション、アイデンティティ、ステレオタイプ、偏見、時間・空間感覚、対人コミュニケーション、組織コミュニケーション、異文化適応、メディア、世代間コミュニケーション等を扱う。

This course introduces key concepts and theories of intercultural communication, and students will learn how to apply them to critically analyze social issues related to intercultural communication and everyday intercultural

communication. Through such analyses, students will explore appropriate and effective ways to engage in intercultural communication. Topics covered in class will include communication, culture, values, nonverbal communication, identity, stereotypes, prejudice, sense of time and space, interpersonal communication, organizational communication, intercultural adaptation, media, and intergenerational communication.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1回：オリエンテーション：コミュニケーション学の射程と重要性

- (1) シラバスを配布し、授業の目的、内容、評価方法、課題等を確認する。
- (2) 異文化コミュニケーション研究と教育が扱うトピックを示し、その重要性について議論をする。

【予習】教科書「はじめに」および目次を読んで教科書の全体像をつかむこと。

【復習】授業でカバーした概念、説明モデルを復習し、概念、説明モデルに関係する具体例を自分なりに考えておくこと。

2回：コミュニケーションとは何か？

- (1) コミュニケーションの定義、モデル、基本前提について学ぶ。
- (2) 文化によるコミュニケーションの違いについて議論する。
- (3) 文化的コンテクストとコミュニケーションの関わりについて議論する。

【予習】教科書「第2章「ふさわしさ」をめぐるコミュニケーション」「第12章 異文化としての「スピーチ」」

【復習】授業でカバーした概念、説明モデルを復習し、概念、説明モデルに関係する具体例を自分なりに考えておくこと。

3回：文化のとらえ方（定義、モデル、特性）と「異文化」の意味

- (1) 文化に関する多様な見方を示し、文化の多面性、多層性を理解する。
- (2) 文化の特性を踏まえつつ、「異文化」概念について議論をする。

【予習】教科書「第1章 他者との出会い」

【復習】授業でカバーした概念、説明モデルを復習し、概念、説明モデルに関係する具体例を自分なりに考えておくこと。

4回：見えない文化：価値観とコミュニケーション

- (1) 文化の深層部にある価値観の特性・機能について学ぶ。
- (2) 価値観がコミュニケーションに与える影響について議論する。

【予習】教科書「第8章 異文化交流の意味」

【復習】授業でカバーした概念、説明モデルを復習し、概念、説明モデルに関係する具体例を自分なりに考えておくこと。

5回：非言語コミュニケーション：アイコンタクト、表情、対人距離

- (1) 非言語コミュニケーションの定義と重要性について学ぶ。
- (2) 非言語コミュニケーションの多機能性について学ぶ。
- (3) 非言語コミュニケーションの文化による違いについて議論する。

【予習】「第4章 ことばにできないメッセージ」

【復習】授業でカバーした概念、説明モデルを復習し、概念、説明モデルに関係する具体例を自分なりに考えておくこと。

6回：知覚・認知：アイデンティティ、ステレオタイプ、偏見

- (1) 「個人内コミュニケーション」と呼ばれる知覚・認知過程の仕組みや特徴について学ぶ。
- (2) 異文化、自文化、アイデンティティを知覚、認知する際に見られるパターンについて学ぶ。

(3) ステレオタイプと偏見の定義と影響について理解する。

【予習】「第7章 英語という言語選択」「第11章 移民・難民問題から考える多文化社会」

【復習】授業でカバーした概念、説明モデルを復習し、概念、説明モデルに関係する具体例を自分なりに考えておくこと。

7回：時間・空間感覚

(1) 時間のとらえ方が文化によって異なることを2つの説明モデルを用いて理解する。

(2) 空間のとらえ方が文化によって異なることを説明モデルを用いて理解する。

(3) グローバル化とサイバー空間

【予習】教科書「第5章 グローバル化とメディア」

【復習】授業でカバーした概念、説明モデルを復習し、概念、説明モデルに関係する具体例を自分なりに考えておくこと。

8回：対人コミュニケーション：異文化アライアンスの構築

(1) 対人関係、対人魅力、不確実性の減少、自己開示といった対人コミュニケーションの基礎概念について学ぶ。

(2) コミュニケーションで深い人間関係を築く考え方である「異文化アライアンス」について学ぶ：歴史、記憶、特権性、「大きな物語」

【予習】教科書「第6章 コミュニケーションの〈想像/創造する力〉」

【復習】授業でカバーした概念、説明モデルを復習し、概念、説明モデルに関係する具体例を自分なりに考えておくこと。

9回：日本的対人関係（シマ社会、大部屋主義、タテ社会、ウチ、甘え）を問い直す

(1) 日本文化に基づく対人関係のあり方を、日本文化論等で示された概念群を用いて理解する。

(2) 日本的対人関係と異文化のそれとの違いについて議論する。

(3) 「〇〇人」を問い直す

【予習】「第10章 スペクテータ・スポーツの異文化論」

【復習】授業でカバーした概念、説明モデルを復習し、概念、説明モデルに関係する具体例を自分なりに考えておくこと。

10回：組織コミュニケーション：文化と組織モデル、モチベーション、グループ規範 ☆リアクションペーパー提出日【**厳守**】

(1) 組織コミュニケーションに関わる基礎概念について学ぶ。

(2) 文化による組織コミュニケーションの違いについて議論する。

【予習】「第9章 多国籍チームにみる組織内コミュニケーション」

【復習】授業でカバーした概念、説明モデルを復習し、概念、説明モデルに関係する具体例を自分なりに考えておくこと。

11回：カルチャーショックと異文化適応：文化人類学、認知心理学、異文化間心理学における説明

(1) カルチャーショックの定義、症状、事例について学ぶ。

(2) カルチャーショックが起こるメカニズムについて3つの理論的立場から理解する。

【予習】異文化適応について調べ、授業内で他の履修者と共有できるようにしておく。

【復習】授業でカバーした概念、説明モデルを復習し、概念、説明モデルに関係する具体例を自分なりに考えておくこと。

12回：メディアとコミュニケーション

(1) メディアの定義

(2) 記号学的アプローチ

(3) ネット時代のことば：道具性と権力

【予習】「第3章 ことばというシンボル」

【復習】授業でカバーした概念、説明モデルを復習し、概念、説明モデルに関係する具体例を自分なりに考えておくこと。

13回：障がい者、高齢者とのコミュニケーション

(1) 「障がい者」「高齢者」とは：境界線を問い直す

(2) コミュニケーション調節理論：過剰調節、過少調節

【予習】「第13章 越境・架橋するプロセス」【復習】授業でカバーした概念、説明モデルを復習し、概念、説明モデルに関係する具体例を自分なりに考えておくこと。

14回：授業内テストと授業総括

選択式問題 30問（1問1点計30点）、持ち込み不可、テスト前に「スタディガイド」を配布します。

※なんらかの事情でテストを受験できない学生は、事前に相談してください。

【予習】1回から13回までの授業を復習すること。

【復習】テストで不確かだった点を授業資料で確認すること。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	: ○	スライド（パワポ等）の使用	: ○	上記以外の視聴覚教材の使用	: ○
個人発表	: ○	グループ発表	: ○	ディスカッション・ディベート	: ○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

必ず教科書の該当箇所を読んだ上で授業に参加すること。最終日の授業内テスト前には、「スタディー・ガイド」を配布する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業参加貢献度（授業感想の記入を含む）:30% リアクション・ペーパー:40% 授業内テスト:30%

単位修得には75%以上の出席が必要。授業参加度を知る方法の一つとして、毎回CanvasLMSに、授業内容について「感想」を書くための欄を設けますので、授業を振り返って感想を書いてください。

テキスト / Textbooks

池田理知子 塙幸枝 編著 『グローバル社会における異文化コミュニケーション』 三修社 2019
438405937 ○

教科書に加えて、授業で使用する資料をPDF等の形式でCanvasLMSにアップロードいたします。

参考文献 / Readings

山本志都 石黒武人 ミルトン・ベネット 岡部大祐 『異文化コミュニケーション・トレーニング 「異」と共に成長する』 三修社 2022 9784384060522

石井敏 久米昭元 長谷川典子 桜木俊行 石黒武人 『はじめて学ぶ異文化コミュニケーション 多文化共生と平和構築に向けて』 有斐閣 2013 9784641281332

授業で適宜紹介します。

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

授業ではペアワークやグループ・ディスカッションを行いますので、ディスカッションにおいてコミュニケーションに対して積極的な姿勢で臨んでください。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

授業資料は、授業では配布せずに、事前に CanvasLMS へアップロードしますので、各自事前に印刷して授業にもってくるか、あるいは、パソコンやその他の機器で読めるようにダウンロードしておいてください。

その他/ Others

講義形式の授業ですが、教員から学生への質問も行い、また学生同士のペアワーク、グループワークも適宜用い、グループでのディスカッションはほぼ毎行います。各授業に対応する教科書の該当箇所は、事前に読んで授業に参加してください。

社会言語学

Sociolinguistics

櫻井 千佳子 (SAKURAI CHIKAKO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 異文化コミュニケーション学部

科目コード等： DM625

授業形態： 対面（一部オンライン）

授業形態（補足事項）全授業回のうち5回はオンラインで実施する（2,4,6,8,10回目の授業）。オンライン実施回については、主に講義形式とし知識のインプットを行う。オンライン実施回に変更が生じる場合は、授業内または Canvas LMS 等で周知する。

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： ICC3140

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

社会言語学およびその関連分野について、異文化コミュニケーションの観点から理解する。

Students should finish this course with an understanding of the scope of sociolinguistics and its relationship to other linguistic subdisciplines and other academic fields.

授業の内容 / Course Contents

本科目では、言語と文化の関係を探る社会言語学の分野において、言語の様々なヴァリエーションを扱い、それがどのようにアイデンティティや文化によって形成されるのかを理解する。本科目の目的は、異文化コミュニケーションの分野を包括し、社会言語学の研究を進めることができる理論的、方法的な知識を与えることである。

This course is an introduction to sociolinguistics, the study of the relationship between language and society. We will look at variation at all levels of language and how such variation constructs and is constructed by identity and culture. The overall goal of this course is to provide you with the theoretical and methodological knowledge to

pursue research in sociolinguistics as well as comprehensive, up-to-date and critical overview of the field of intercultural communication.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：オリエンテーション、社会言語学と異文化コミュニケーション
 2 回：通訳と社会言語学①
 ビジネスコミュニケーションにおける社会言語学①
 3 回：通訳と社会言語学②
 ビジネスコミュニケーションにおける社会言語学②
 4 回：バイリンガリズム①
 ジェンダーディスコース①
 5 回：バイリンガリズム②
 ジェンダーディスコース②
 6 回：第1 言語習得と社会言語学①
 言語相対論①
 7 回：第1 言語習得と社会言語学②
 言語相対論②
 8 回：ノンバーバルコミュニケーション①
 言語の類型的特徴と社会言語学①
 9 回：ノンバーバルコミュニケーション②
 言語の類型的特徴と社会言語学②
 10 回：親族名称①
 スモールトーク①
 11 回：親族名称②
 スモールトーク②
 12 回：期末のプレゼンテーション (1)
 13 回：期末のプレゼンテーション (2)
 14 回：総括

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	○	グループ発表	:	○	ディスカッション・ディベート:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

Instructions will be given in class.

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Class participation:30% Book review:40% Presentation:30%

テキスト / Textbooks

井出祥子・平賀正子編 『講座 社会言語科学 1 異文化とコミュニケーション』 ひつじ書房 2005
 9784894762459 ○

参考文献 / Readings

Ingrid Piller Intercultural Communication: A Critical Introduction Edinburgh Univ Pr 2017
9781474412919

その他/ Others

講義部分（言語データの提示と分析方法の説明を含む）をオンデマンドとし、履修者が繰り返し視聴し理解を深め、各々の言語データを分析したうえで、対面授業にて学生相互の活動で思考の幅を広げる、という段階的な授業実践を行うため、全授業回のうち5回はオンラインで実施する。

対人コミュニケーション論

Interpersonal Communication

石川 文也 (ISHIKAWA FUMIYA)

開講年度： 2024
科目設置学部： 異文化コミュニケーション学部
科目コード等： DM626
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： ICC3340
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

対人コミュニケーションに関わる学問分野の基礎知識を習得し、習得した知識を具体的な事象分析に応用できる基盤的能力を身につける。

Students will learn basic knowledge in scholarly fields related to interpersonal communication, and master the core skills for applying this knowledge to analysis of specific events.

授業の内容 / Course Contents

コミュニケーションとはなにか。コミュニケーションによって「知」（または情報）はひとからひとにどのように伝達されるか。またひととひとの間にどのような社会的関係が（再）構築されるか。そのような伝達行為によって社会の構造がどのように（再）定義されるか。これらの問題を主に、構造主義言語学、コミュニケーション論、言語インタアクション、談話分析、ディスカール分析の視点から考察し、その考察を学術的に実践する。フランス語の概念を使うが、日本語で解説を加える予定。

What is communication? How is "knowledge" (or information) transmitted from one person to another through communication? What kind of social relationships are (re)constructed between people? How is the structure of society (re)defined by such communication? These issues will be examined mainly from the viewpoints of

structuralist linguistics, communication theory, linguistic interaction, discourse analysis, and discourse analysis, and these considerations will be put into academic practice. French concepts will be used, but explanations will be provided in Japanese.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション：カリキュラム上の位置付け・講義内容の説明
- 2回：「ディスコース分析」の概要の説明
- 3回：発話行為者の異質性 (Hétérogénéité énonciative)
- 4回：ことばの「内指向性」(« Réflexivité » linguistique)
- 5回：言語インタアクションの発話行為論的構造
- 6回：言語インタアクションにおける言語の「内指向性」
- 7回：言語インタアクションにおける社会言語学的事象
- 8回：事象分析(1-1)：授業内課題(1)の作成
- 9回：事象分析(1-2)：授業内課題(1)の作成
- 10回：事象分析(1-3)：授業内課題(1)の作成・提出
- 11回：事象分析(2-1)：授業内課題(2)の作成
- 12回：事象分析(2-2)：授業内課題(2)の作成
- 13回：事象分析(2-3)：授業内課題(2)の作成・提出
- 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド(パワポ等)の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

各回の最後に口頭で、あるいは CanvasLMS によって、その回の内容にかかわる提出物および次回のための準備学習を指示する。

成績評価方法・基準(成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業への参加度:60% 授業内課題:40%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

授業中に、あるいは CanvasLMS によって配布する添付ファイルなどによって随時紹介する。

その他 / Others

*授業のスケジュールは進行状況によって変更されることがあるので、変更の知らせには十分注意すること。

変更の知らせは、授業中に口頭あるいは CanvasLMS によっておこなう。

*やむを得ず休講した場合は、内容を繰り下げて補講期間中に補講をおこなうか、それに代わる課題を出す。

*授業で使用する資料の配布は主として CanvasLMS を使って配布する。各回の授業の前までに CanvasLMS を必ず確認し、必要な資料が掲載されていた場合には各自それを自身の PC にダウンロードするなどして、次の授業に持参すること。

集団コミュニケーション論

Group Communication

文化的多様性の観点から (In light of cultural diversity)

石黒 武人 (ISHIGURO TAKETO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 異文化コミュニケーション学部

科目コード等： DM627

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： ICC3340

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

本授業は、受講生が集団・組織の現象についてコミュニケーションと文化的多様性という観点から学ぶためのものである。また、受講生は、集団・組織における様々な現象を分析、考察するうえで有用なコミュニケーションと文化的多様性に関する鍵概念や理論を学び、それらを用いて特定の集団・組織について分析、考察できるようになることを目標とする。

The course is designed for students to learn some major features of group and organizational phenomena from the perspectives of communication and cultural diversity. For that purpose, the students will learn key concepts and theories regarding group and organizational communication in order to analyze actual instances of group and organizational communication.

授業の内容 / Course Contents

集団・組織コミュニケーションの研究に関わる諸概念・理論ならびに幅広いトピック（例：リーダーシップ、企業の社会的責任）を扱う。とりわけ、コミュニケーションや文化に関わる諸問題に焦点を当て、それらの原因について考えるうえで役立つ学問的知見をカバーする。授業では、講義やグループディスカッションに加

え、受講生には、グループで分析・考察した内容について発表をしてもらい、その内容について他の受講生や教員と議論し、理解を深めていく。

The course will cover relevant concepts and theories of group and organizational communication as well as a wide range of topics such as leadership and corporate social responsibilities.

The course will provide students with many opportunities to discuss and collaboratively analyze cases of communicative and cultural issues observed in groups and organizations.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：オリエンテーション： グループ&組織コミュニケーション研究という分野について（組織ディスコース研究を中心に）
- 2 回：集団・組織と文化： グループ規範とスピーチコミュニティ
- 3 回：文化的多様性の影響： X/Y 理論、個人/集団主義、権力格差
- 4 回：記号としての集団・組織の活動： 記号化（エンコーディング）と解読（デコーディング）
- 5 回：文化的多様性のメリット・デメリット： 会話スタイルとメタメッセージ
- 6 回：マルチカルチャー・グループとは： 企業組織の形態とグループタイプ
- 7 回：リーダーシップとフォロワーシップ： リーダータイプ、意思決定、フォロワーの能動性
- 8 回：ファシリテーション： 多様性を活かすコミュニケーション
- 9 回：組織と外部環境： オープンシステム、CSR、ステークホルダー、
- 10 回：集団・組織における交渉： 交渉スタイル、交渉戦略
- 11 回：多文化組織・チームの日本人リーダーの課題
- 12 回：事例研究発表（1）
- 13 回：事例研究発表（2）
- 14 回：事例研究発表（3）および総括

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業前は、事前に配布される資料に目を通しておくこと。授業後は、組織コミュニケーションの理解を助けるキーワードや分析概念を復習し、それらが当てはまる実際の事例を自分なりに探し、事例を分析・考察した内容をリサーチ・ノートにまとめておくこと。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 事例研究発表:30% リサーチノートの提出（3回）:30% 最終レポート割合：40%

リサーチノートは、集団・組織に関する事例を探し、その事例を授業を学んだ概念や理論で分析、考察した内容をワードでタイプしたものである。3回の提出日は、初回の授業にて指示する。

テキスト / Textbooks

なし。授業にてプリントを配布する。

参考文献 / Readings

Cooren, F. Organizational Discourse: Communication and Constitution Polity 2015

Adler, N.J., & Gundersen, A. International Dimensions of Organizational Behavior, 5th ed. Cengage Learning 2007

Griffin, E., Ledbetter, A., & Sparks, G. A First Look at Communication Theory McGraw-Hill 2019

石黒武人 『多文化組織の日本人リーダー像：ライフストーリー・インタビューからのアプローチ』 春風社 2012

Schwarz, R. M. The Skilled Facilitator (2nd ed.) Jossey-Bass 2002

石黒武人 『多文化チームと日本人リーダーの動的思考プロセス：グラウンデッドセオリーからのアプローチ』 春風社 2020

Cooren (2015) は本授業で紹介する組織ディスコース研究の概説書である。Adler & Gundersen (2007) は文化的多様性と組織の関係について理解するうえで役立つ。Griffin (2019) らの第3部では、グループ&組織コミュニケーションの理論が紹介されている。石黒 (2012) には本授業の内容と重なる部分が多くある。Schwarz (2002) は、授業で紹介するファシリテーションを詳説したものである。石黒 (2020) は多文化チームで実際に働く日本人リーダーの思考プロセスに関する研究書である。

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

毎回、ディスカッションを行いますので、積極的な姿勢で臨んでください。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

各授業前に、資料を CanvasLMS へアップロードするので、各自印刷するか、パソコン等で読めるようにし、授業で参照できるようにしておいてください。

グローバル社会とコミュニケーション

Globalization and Communication

人種主義とコミュニケーション

河合 優子 (KAWAI YUKO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 異文化コミュニケーション学部

科目コード等： DM628

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： ICC3340

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

人種概念および人種主義を異文化コミュニケーションおよび多文化共生の課題として歴史的かつトランスナショナルな視点で捉える力をつける

Students will understand race and racism historically and transnationally as a major issue of intercultural communication and multiculturalism.

授業の内容 / Course Contents

人種概念および人種主義は、言語や非言語を使って意味をつくるプロセスとしてのコミュニケーションによってつくられる。この授業の前半では、西洋の人種概念の生成とその変容、そして日本の人種概念がいかに西洋の人種概念の影響を受けつつも独自の歴史的・社会的状況において生成し変容してきたのかを歴史的にとらえ、西洋および日本における多様な人種主義について考察する。後半では、差別、偏見、ステレオタイプ、アイデンティティなどの異文化コミュニケーションの鍵概念との関連を検討し、人種概念および人種主義を異文化コミュニケーションと

The concept of race and racism are constructed through communication, which can be broadly defined as a

process of creating meanings by using verbal and nonverbal symbols. The first half of this course discusses the Western and Japanese concepts of race and connections between the two historically as well as different modalities of racism. The second half of the course examines how race and racism relate to other key concepts of intercultural communication, such as discrimination, prejudice, stereotype, and identity, and thereby understand racism as a major issue of intercultural communication and multiculturalism in Japan multi-dimensionally.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：人種主義とコミュニケーション
- 2 回：近代西洋の人種概念
- 3 回：現代西洋の人種概念
- 4 回：近代日本の人種概念
- 5 回：現代日本の人種概念
- 6 回：多様な人種主義
- 7 回：人種混淆
- 8 回：差別論
- 9 回：偏見論
- 10 回：ステレオタイプ論
- 11 回：古典的アイデンティティ論
- 12 回：現代アイデンティティ論
- 13 回：白人性と日本人性
- 14 回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：	○
個人発表	：	グループ発表	：		ディスカッション・ディベート	：	○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：	
上記いずれも用いない予定	：		：			：	

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

毎回の課題文献を必ず読んで授業に参加すること。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業参加貢献度（授業内課題含）:30% テスト:30% 最終レポート割合：40%

単位修得には75%以上の出席が必要

テキスト / Textbooks

河合優子 『日本の人種主義』 青弓社 2023 9784787235190 ○

初回の授業時に指示する。

参考文献 / Readings

授業時に紹介する。

その他 / Others

講義を中心とするが、グループディスカッションも活発に取り入れる。リアクションペーパーは次回授業開始時にフィードバックを行う。

エスニシティとナショナリズム

Ethnicity and Nationalism

ネーション、人種、エスニシティと日本社会

佐藤 祐菜 (SATO YUNA)

開講年度： 2024

科目設置学部： 異文化コミュニケーション学部

科目コード等： DM630

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： ICC3440

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

この授業の目標は、(1) ネーション・ナショナリズム、人種、エスニシティの基本的な知識を習得すること、(2) そうした知識を日本社会の文脈に当てはめて批判的に検討することである。

The objectives of this course are: (1) to gain fundamental knowledge of nation/nationalism, race, and ethnicity, and (2) to critically analyze and apply this knowledge within the context of Japanese society.

授業の内容 / Course Contents

「日本」や「日本人」という言葉は当たり前すぎて、疑ったことがある人はあまりいないかもしれない。また、「日本は単一民族の国だ」、「レイシズムはどこか他の国の問題だ」という意見も、未だ見受けられる。本授業では、こうした前提や言説を、ナショナリズム、人種、エスニシティといった概念やその事例を学ぶことで、批判的に問い直す。これらの概念は、聞いたことがなかったり、あまり馴染みがなかったりするかもしれないが、日本社会を理解し、自分自身や他者を理解するうえで、重要な概念である。本授業では、それらの定義と異同、歴史、さま

The notions of “Japan” and “Japanese” may appear so ingrained that many students might not have questioned

them. Prevailing opinions, such as “Japan is a homogeneous country” or “Racism is an issue elsewhere,” persist in Japanese society. This course critically challenges these assumptions by delving into concepts and instances related to nationalism, race, and ethnicity. While these concepts might be unfamiliar, understanding them is essential for examining Japanese society. The course will explore their definitions, similarities and differences, historical perspectives, and various approaches. We will also investigate how these concepts manifest in contemporary society, particularly within Japanese society. The course encompasses lectures, discussions, comment sheets, and student presentations, encouraging active participation.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：オリエンテーション
- 2 回：ネーションとナショナリズム (1)
- 3 回：ネーションとナショナリズム (2)
- 4 回：ネーションとナショナリズム (3)
- 5 回：人種とレイシズム
- 6 回：エスニシティ
- 7 回：エスニック・アイデンティティ (1)
- 8 回：エスニック・アイデンティティ (2)
- 9 回：「日本人」の境界 (1)
- 10 回：「日本人」の境界 (2)
- 11 回：「日本人」の境界 (3)
- 12 回：日本における人種／エスニック・マイノリティ (1)
- 13 回：日本における人種／エスニック・マイノリティ (2)
- 14 回：この授業のまとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド (パワポ等) の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：	○
個人発表	：	グループ発表	：	○	ディスカッション・ディベート	：	○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：	
上記いずれも用いない予定	：		：			：	

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

レポートとグループプレゼンテーションのために、授業に関連する内容の文献を各自で探し、読むことが求められる。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

レポート試験 :50%

平常点割合 :50% コメントペーパーなどの授業参加度:30% グループプレゼンテーション:20%

2/3 以上の出席をしていない場合は単位修得不可。

テキスト / Textbooks

適宜資料を配布する

参考文献 / Readings

大澤真幸・塩原良和・橋本 努・和田伸一郎編 ナショナリズムとグローバリズム：越境と愛国のパラドクス
新曜社 2014 9784788514003

吉野耕作 文化ナショナリズムの社会学：現代日本のアイデンティティの行方 名古屋大学出版会 1997

9784815803155

Stephen Ellicott Cornell and Douglass Hartmann Ethnicity and Race: Making Identities in A Changing World
Pine Forge Press 1998 0761985018

Matthew Desmond and Mustafa Emirbayer "What Is Racial Domination?" Du Bois Review: Social Science
Research on Race 6(2) Cambridge University Press 2009

その他/ Others

- ・ 講義スケジュールは、履修者数などに応じて、適宜変更することがある。
- ・ 質問は授業の前後に対応する。

語用論

Pragmatics

高橋 里美 (TAKAHASHI SATOMI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 異文化コミュニケーション学部
科目コード等： DM631
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： ICC3141
使用言語： 英語
授業形式： 講義
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

In this course, we will deepen our understanding of pragmatics, an academic area that aims to explore the nature of utterance meaning conveyed in specific communicative contexts. We will examine various cases where speaker-listener relationships determine contextual meaning.

授業の内容 / Course Contents

The goal of pragmatics is to examine what a speaker means by his/her utterance, how a listener interprets what is meant within a particular context, and how the context influences what is said (or unsaid). In an effort to understand the nature of the speaker's intended meaning and the listener's inference of it, we will learn several key concepts in pragmatics; these concepts will provide us with a base to explore the cognitive aspects of human linguistic communication. Specifically, the focal concepts will include deixis, inference, presupposition, cooperation, and implicature. We will also learn about speech acts and, further, will consider the ways in which linguistic politeness is socio-culturally implemented and constrained.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：Orientation, Definitions and background

- 2回：Deixis and distance (1)
 3回：Deixis and distance (2)
 4回：Reference and inference (1)
 5回：Reference and inference (2)
 6回：Presupposition and entailment (1)
 7回：Presupposition and entailment (2)
 8回：Cooperation and implicature (1)
 9回：Cooperation and implicature (2)
 10回：Speech acts (1)
 11回：Speech acts (2)
 12回：Linguistic politeness (1)
 13回：Linguistic politeness (2)
 14回：Summary

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワーポイント等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

The instructor will provide information on out-of-class activities at the end of each class.

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Class participation:30% In-class assignments, quizzes, homework:30% 最終
 レポート割合 :40%

The instructor's feedback on the class assignments will be provided in the subsequent class.

テキスト / Textbooks

The instructor will provide readings and handouts.

参考文献 / Readings

Yule, G. Pragmatics (Oxford Introduction to Language Study) Oxford University Press 1996
 9780194372077

Huang, Y. Pragmatics (Second Edition) (Oxford Textbooks in Linguistics) Oxford University Press 2014
 9780199577767

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

In this course, "Canvas LMS" will be used as the teaching and learning management software system.

注意事項

It is recommended that the student's English level is at or above TOEFL iBT 76, IELTS 6.0, TOEIC 700, or TOEIC IP 700.

バイリンガリズム研究

Bilingualism

狩野 萌 (KANO MOE)

開講年度： 2024
科目設置学部： 異文化コミュニケーション学部
科目コード等： DM632
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： ICC3140
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

本コースを通して達成することが期待される目標は以下の通りである：

- バイリンガリズム研究で用いられる基本的な用語、概念、理論を理解することができる。
- バイリンガリズムについて、個人および社会のレベルで理解することができる。
- 本コースで扱う様々なトピックについて、自身の意見を批判的かつ効果的に論じたり、書いたりすることができる。

Through this course, students will (1) get familiar with key terminologies, concepts, theories, and debates in the field of bilingualism, (2) acquire an understanding of bilingualism as an individual and societal phenomenon, and (3) develop the ability to discuss and write their opinions clearly and effectively.

授業の内容 / Course Contents

今日、世界人口の約 2/3 はバイリンガルであると言われているが、日本では未だモノリンガルが一般的であると考えられることが多い。本コースでは、多様なトピック（バイリンガルの言語能力の発達と喪失、言語の選択、認知と思考、言語教育など）を通して、バイリンガリズムとは何か共に考え学んでいく。

While nearly two-thirds of the world's population is bilingual to some degree, the monolingual is still often seen

as normal in Japan, and the bilingual as a rarity. This course aims to develop students' understanding of bilingualism as an individual and societal phenomenon by looking at various crucial issues and controversies (e.g., bilingual development, language loss, language choice, bilingualism and cognition, and language education) in the field.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：バイリンガルとは？：言語能力と言語使用
- 3回：バイリンガリズムの発達：同時バイリンガルの言語習得
- 4回：バイリンガリズムの発達：継続バイリンガルの言語習得
- 5回：バイリンガリズムの発達：年齢と様々な要因
- 6回：バイリンガリズムの発達：第二言語習得と学習理論
- 7回：まとめと中間テスト
- 8回：バイリンガルと言語の喪失
- 9回：バイリンガルの言語使用：コードスイッチング
- 10回：バイリンガリズムと思考
- 11回：バイリンガリズムにおける認知理論とカリキュラム
- 12回：バイリンガル教育：多様なプログラムと特徴
- 13回：バイリンガル教育：日本における英語教育と課題
- 14回：まとめと最終テスト

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

毎回の授業および Canvas LMS で指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 出席ならびに授業参加（コメントカード・グループワーク等のミニ課題含む）:40% 中間テスト:30% 最終テスト割合：:30%

テキスト / Textbooks

なし

参考文献 / Readings

Baker, Colin & Wright, Wayne E. Foundations of Bilingual Education and Bilingualism, 7th edition

Multilingual Matters 2021 9781847693563

Montanari, Simona & Quay, Suzanne Multidisciplinary Perspectives on Multilingualism: The Fundamentals

De Gruyter Mouton 2019 9781501516504

Noguchi, Mary Goebel & Fotos, Sandra Studies in Japanese Bilingualism Multilingual Matters 2001 9781853594892

授業内で適宜紹介する。

グローバル文化研究特論

Topics in Global Cultural Studies

古典芸能から学ぶ日本文化

濱口 久仁子 (HAMAGUCHI KUNIKO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 異文化コミュニケーション学部

科目コード等： DM633

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： ICC3440

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

自国の文化の特性を理解することは、グローバルな思考・視野を体得するためには、不可欠であると考えます。本講義は古典芸能を通して日本文化の特性と文化的素地を学ぶ。それによって異文化と対比することができ、広く柔軟な視点を身につけるようにしていきたい。

Understanding the features of your own country's culture is essential for developing a global mindset/perspective. In this lecture we will learn features of Japanese culture and gain a cultural grounding in this subject by looking at traditional entertainment. Based on this learning we will be able to draw comparisons with other cultures and develop a broader and more flexible perspective.

授業の内容 / Course Contents

授業で取り上げる領域は主として古典芸能とし、その中でも歌舞伎を中心に進めていく。その歴史と特性を検証することによって、日本文化の性格や精神を学ぶ。さらに折々に異文化と対比することによって、文化に対するより広く深い視野を養っていきたい。授業では毎回映像を用い、実際の芸能に見ることによって講義内容をより立体的に捉えて考察していく。

The areas covered in the class will be mainly classical entertainment, and Kabuki will be the main focus. Learn the character and spirit of Japanese culture by examining its history and characteristics. Furthermore, I would like to cultivate a broader and deeper perspective on culture by contrasting with different cultures from time to time. In each class, we will use images and see the contents of the lecture in a more three-dimensional manner by looking at the actual entertainment.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：日本の芸能とは一本講義で学ぶ領域の紹介とアンケート
- 2 回：歌舞伎を学ぶ（1）
- 3 回：歌舞伎を学ぶ（2）
- 4 回：歌舞伎を学ぶ（3）
- 5 回：歌舞伎を学ぶ（4）
- 6 回：歌舞伎を学ぶ（5）
- 7 回：歌舞伎舞踊を学ぶ－西洋舞踊との比較
- 8 回：日本の古典音楽を学ぶ
- 9 回：文楽を学ぶ
- 10 回：能を学ぶ
- 11 回：狂言を学ぶ
- 12 回：浮世絵を学ぶ
- 13 回：その他の芸能
- 14 回：最終テスト

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワポ等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:	
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

初回授業の前に、古典芸能（歌舞伎・文楽・能など）の映像をみておくことが望ましい。殊に独立行政法人日本芸術文化振興会（国立劇場）HP、文化デジタルライブラリーは推奨する。授業内でもそのサイト内で適宜案内する予定である。

<https://www.ntj.jac.go.jp/>

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 毎回のリアクションペーパー:30% 授業参加度:30% 最終テスト割合：40%

テキスト / Textbooks

授業時に配付する。または Canvas LMS に掲載する。

参考文献 / Readings

吉田弥生 『概説日本の伝統芸能』 開成出版 2008

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

各自の専門分野や海外文化と比較し、その差異を考察することによって双方の文化や精神をより深く知ることが認識して欲しい。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

特に無し

その他/ Others

予習・復習の欄にも記載した <https://www.ntj.jac.go.jp/>（国立劇場）の HP はほとんどの古典芸能を網羅している
るので、参考にしてほしい。

通訳入門

Introduction to Interpreting

Introductory interpreting course of the Translator and Interpreter Training Program

武田 珂代子 (TAKEDA KAYOKO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 異文化コミュニケーション学部

科目コード等： DM634

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： ICC3243

使用言語： その他

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

通訳者・翻訳者の根底的コンピタンスを涵養するための通訳者・翻訳者養成プログラムにおける初級通訳科目として以下を目標とする。1)異文化間コミュニケーションの仲介者としての通訳者の役割を理解する。2)通訳者が働くさまざまな場面について理解する。3)通訳方式の種類とその採用場面について理解する。4)逐次通訳の仕組みと一般原理について学ぶ。5) アクティブリスニング、内容の分析、記憶リテンション、原発話の必須要素を目標言語で再構築するといった通訳の基本的技能を習得する。

This is an introductory interpreting course of the Translator and Interpreter Training Program, which is designed to develop foundational competencies for translators and interpreters. The objectives of the course are for students: 1) to understand the role of interpreters as mediators of intercultural communication; 2) to understand a variety of settings in which interpreters work; 3) to understand different modes of interpreting and their applications; 4) to become familiar with mechanism and general principles of consecutive interpreting; and 5) to develop basic skills for interpreting, such as active listening, content analysis, memory retention, and reformulation of essential elements of the source speech in the target language.

授業の内容 / Course Contents

異文化コミュニケーションの仲介者としての通訳者という概念、通訳者が働く場面、通訳方式の種類と採用場面、逐次通訳の仕組みと一般原理について学ぶ。アクティブリスニング、記憶リテンション、内容分析、パブリックスピーキング、日英間の逐次通訳（メモ取りなし、メモ取りあり）の実習を行う。履修者は、授業で扱うスピーチのトピックに関する事前リサーチ、スピーチの準備、授業内パフォーマンスや自習でのパフォーマンスについてレポートやジャーナルの提出が求められる。

Students will be introduced to: the concept of interpreters as mediators of intercultural communication; various settings in which interpreters work; different modes of interpreting and their applications; and mechanism and general principles of consecutive interpreting. Students engage in exercises for active listening, memory retention, content analysis, public speaking, and interpreting between English and Japanese with or without notes. Students are expected to research the topics to be covered in class, prepare speeches for certain classes, and submit reports and journals on their in-class performance and self-study.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：Introduction: Overview of different modes and settings for interpreting; introduction to mechanism and general principles of interpreting
- 2回：Introduction to active listening
- 3回：Active listening exercises 1
- 4回：Active listening exercises 2
- 5回：Active listening exercises 3
- 6回：Interpreting without notes 1
- 7回：Interpreting without notes 2
- 8回：Interpreting without notes 3
- 9回：Introduction to note-taking
- 10回：Interpreting with notes 1
- 11回：Interpreting with notes 2
- 12回：Interpreting with notes 3
- 13回：Final test
- 14回：Final test

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド* (パワポ* 等) の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

Students are required to read extensively and build bilingual glossaries of current events, to submit a report on in-class performance after class, and to submit a journal of interpreting practices (at least 4 hours a week, individually or in a group).

成績評価方法・基準(成績評価方法区分：002) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% In-class performance:30% Report/journal submissions and class participation:30%

最終テスト割合：:40%

テキスト/ Textbooks

参考文献 / Readings

ベルジュロ・鶴田・内藤 『よくわかる逐次通訳』 東京外国語大学出版会 2009 4904575059

鳥飼玖美子編著 『よくわかる翻訳通訳学』 ミネルヴァ書房 2013 4623067270

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

Non-native speakers of English are required to have attained at least one of the following test scores:

TOEFL(iBT) 80, IELTS 6.0, or Eiken Pre-1.

Non-native speakers of Japanese are required to hold N1.

その他/ Others

Course content and schedule subject to change depending on student needs.

TI@Rikkyo <http://www2.rikkyo.ac.jp/web/ti-rikkyo/>

カルチュラル・スタディーズ特論

Topics in Cultural Studies

「新派」という演劇・文化の諸相

後藤 隆基 (GOTO RYUKI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 異文化コミュニケーション学部

科目コード等： DM635

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： ICC3440

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 抽選登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

本授業では、明治時代に生まれた「新派」という演劇ジャンルの歴史を学び、日本演劇史の一断面について理解を深める。また、新派の生成・成立・展開の様相をたどることで、演劇にとって「新しさ」とは何かを考えるとともに、同時代文化における「新派」的なる要素の諸相を検討する。

In this class, you will learn the history of the "Shimpa" theater genre that was born in the Meiji period, and deepen your understanding of one aspect of Japanese theater history. In addition, by tracing the formation, establishment, and development of "Shimpa", we will consider what "newness" means for theater, and examine various aspects of "Shimpa" elements in contemporary culture.

授業の内容 / Course Contents

明治時代、「新派」という演劇ジャンルは、既存の歌舞伎と相補的關係にありながらも、それと異なる芸態の創出をも企図して登場した。自由民権運動を背景とする政治的動向に端をえた新興演劇が、政治から離れて芸術性を求め、新たなジャンルを編成していった。「新派」は、各時代の大衆文化や風俗と切り結びながら生成・成立・展開し、文学や美術、映画などの隣接領域との關係のなかで「新派」という概念が伝播していった。本

授業では、「新派」という演劇ジャンルの歴史的考察を通して、同時代の周辺芸能や社会的な諸問題を幅広く考える。

During the Meiji period, a theater genre called "Shimpa" emerged with the aim of creating an artistic style that was complementary to existing Kabuki, but also different from it. Emerging theater, which originated from the political trends of the Freedom and People's Rights Movement, sought to move away from politics and seek artistry, forming a new genre. "Shimpa" was created, established, and developed in connection with the popular culture and customs of each era, and the concept of "Shimpa" spread through its relationship with adjacent fields such as literature, art, and film. In this class, we will consider a wide range of contemporary social issues through a historical examination of the "Shimpa" theater genre.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス
- 2回：「新派」とはどんな演劇か
- 3回：自由民権運動と壮士芝居
- 4回：多彩なる新演劇
- 5回：日清・日露戦争を劇化する
- 6回：翻案劇の時代
- 7回：流行小説とのメディアミックス
- 8回：同時代美術との交差
- 9回：新派映画のひろがり
- 10回：戦後新派の展開
- 11回：よみがえる泉鏡花
- 12回：初代水谷八重子という「女優」
- 13回：現代における新派
- 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：	○
個人発表	：	グループ発表	：		ディスカッション・ディベート	：	
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：	
上記いずれも用いない予定	：		：			：	

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業テーマに関わる演劇や映画、文学作品、美術館・博物館等の展覧会等を紹介するので、実際にそれらを鑑賞すること。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% リアクションペーパー：70% ミニレポート：30%

全14回の内、10回以上の出席がない場合、成績評価の対象外とする。

テキスト / Textbooks

特定のテキスト（教科書）は使用せず、毎回の授業で必要に応じてレジュメを配付する。

参考文献 / Readings

後藤隆基・柴田康太郎 『新派 SHIMPA -アヴァンギャルド演劇の水脈』 早稲田大学演劇博物館 2021

9784948758254

上田学・小川佐和子 『新派映画の系譜学：クロスメディアとしての〈新派〉』 森話社 2023 4864051755
教室で適宜アナウンスする

その他/ Others

履修者数、状況などにより、各回の内容・授業方法を調整する可能性がある。

グローバル化と思想

Globalization and Social Ideas

新野 守広 (NIINO MORIHIRO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 異文化コミュニケーション学部
科目コード等： DM636
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： ICC3440
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

グローバル化が進む現在、世界中のさまざまな地域で文化の均質化とその反動が起こっている。このような事態を考えるために、本講義では都市と近代化に着目しつつ、文化同士のコミュニケーションを通して近代化が進展する事態を確認し、グローバル化に関するさまざまな見方を紹介する。

Cultural homogenization is occurring in many regions throughout the world against the backdrop of continuing globalization. Lectures will focus on cities and modernization to enable students to consider these circumstances, and students will learn and understand a diverse array of thought in order to consider the progression of modernization through communication between cultures.

授業の内容 / Course Contents

近代都市が生み出した諸問題や文化の多様性について理解を深めるとともに、近代化の過程で文化が蒙った変容について、明治期日本の知識人の西欧体験などをもとに考察する。後半では 70 年代以降現在にいたる日本の都市文化論にも触れるとともに、グローバル化の進む世界各地の諸問題、とくに東日本大震災以後の日本についても取り上げる。

While students will deepen their understanding of problems and cultural diversity created in modern cities, they

will also consider the cultural changes that Japan went through publicly during its modernization from the experiences of Meiji-period intellectuals in the Western world. The last half of the course features discussion on themes such as urban culturology in Japan from the 1970s to the present, and various problems in the world and especially in the Japanese society, which has been afflicted by earthquake disasters amidst progressing globalization.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：オリエンテーション
- 2回：近代化と都市文化：19世紀の都市－エンゲルス『イギリスにおける労働者階級の状態』、エドガー・アラン・ポー『群衆の人』
- 3回：近代化と都市文化：19世紀の社会思想－マルクス、エンゲルス『コミュニスト宣言』
- 4回：20世紀：大都市の発展とアヴァンギャルド芸術の誕生－ジンメル、フーゴー・バル、トリスタン・ツァラ
- 5回：20世紀：複製技術時代の到来－ベンヤミン『複製技術時代の芸術作品』
- 6回：近代化と異文化コミュニケーション：明治初期の日本社会の変容－森鷗外『舞姫』『かのように』
- 7回：近代化と異文化コミュニケーション：明治初期の日本社会の変容－安丸良夫『出口なお』、出口なお『大本神論 天の巻』
- 8回：近代化と異文化コミュニケーション：明治初期の日本社会の変容－吉見俊哉『博覧会の政治学』、知念正真『人類館』
- 9回：近代化と生活世界の変容・再編：戦前の東京－吉見俊哉『都市のドラマトゥルギー』(1)
- 10回：近代化と生活世界の変容・再編：戦後の東京－吉見俊哉『都市のドラマトゥルギー』(2)
- 11回：近代化と生活世界の変容・再編：ポストモダニズムについて
- 12回：転換期の文化と芸術：2010年代以後の日本－小熊英二『平成史』、和合亮一『詩の礫』
- 13回：グローバル化の引き起こす諸問題について
- 14回：全体のまとめと振り返り

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：		ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：		：			

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

毎回の授業で指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 出席および授業への貢献度:30% 課題、および小テストなど:30% レポート:40%

テキスト / Textbooks

授業中に配付する。

参考文献 / Readings

- エドガー・アラン・ポー著 『群衆の人』（『新編バベルの図書館』） 国書刊行会 2012 9784336055279
 吉見俊哉著 『都市のドラマトゥルギー』 河出文庫 2008 9784309409375
 ヴァルター・ベンヤミン著 『近代の意味』 ちくま学芸文庫 1995 4480082166

エンゲルス著 『イギリスにおける労働者階級の状態：19世紀のロンドンとマンチェスター』 岩波文庫
1990 4003412907
マルクス著 『コミュニスト宣言』 筑摩書房 2008 9784480401120
ボードリヤール著 『消費社会の神話と構造』 紀伊國屋書店 2015 9784314011167
和合亮一著 『詩の礫』 徳間書店 2011 9784198631932
その他，授業中に適宜指示する。

言語文化論

Language and Culture

アメリカ大陸の言語文化

飯島 みどり (IJIMA MIDORI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 異文化コミュニケーション学部
科目コード等： DM637
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： ICC3440
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

異なる言語世界の狭間に身をおく作家たちの作品を通じ、言語表現と言語主体、経験の言語化が生む葛藤について考察する。

We focus on writers who have to measure his / her raison d' être among two or more language dimensions.

Through their works, let us learn why and how emerge conflicts between linguistic expression and its legitimate creator, i.e., the author; why and how one's efforts to give any linguistic expression to one's life experience may affect his/ her identical integrity.

授業の内容 / Course Contents

英語とスペイン語、スペイン語と土着語（母語）、英語と土着語（母語）の複雑な力関係を背景にアメリカ大陸からどのような作品、特に言語表現が生成しつつあるかを実地に見てゆく。

English vs. Spanish; Spanish vs. indigenous languages or mother tongue; English vs. indigenous languages or mother tongue: Inside the Americas, once called the New World, there persist terrible and complicated linguistic power relations. Under an essential historical / geographical contextualizing, we analyze several keen examples of

linguistic expression grown up over the continents.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：各人の言語経験を振り返る
- 2 回：文字文化と権力
- 3 回：書記言語と権力
- 4 回：帝国の言語が交代するとき
- 5 回：米州におけるバイ／トリ・リングルとは
- 6 回：先住民文学の現状
- 7 回：チカーノという存在
- 8 回：「チカーノ文学」の成立
- 9 回：付論・日系作家とは
- 10 回：テキスト比較と議論
- 11 回：テキスト比較と議論
- 12 回：言語と人格
- 13 回：言語と人格
- 14 回：複数言語を生きるとは

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

19 世紀末から 20 世紀全般の世界史を適宜復習しておくこと。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

筆記試験 :81%

平常点割合 :19% 課題読み込み精度:19%

テキスト / Textbooks

英文テキスト使用時はプリント配布の予定。

参考文献 / Readings

B. アンダーソン 『想像の共同体』 各社版

A. ドルフマン 『南に向かい、北を求めて』 岩波書店 2016 9784000248808

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

集中力・観察力

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

なし（授業中は原則として電子機器の使用を認めない）

その他 / Others

スペイン語の知識は必ずしも要求されないが、持ち合わせていればそれに越したことはない。

非言語コミュニケーション論

Nonverbal Communication

神戸 直樹 (KAMBE NAOKI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 異文化コミュニケーション学部
科目コード等： DM638
授業形態： オンライン（全回オンライン）
授業形態（補足事項） 発話を伴う授業を学内で受講する場合は 8201 教室の利用可。
校地： 池袋
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： ICC3340
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：○
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

1) 非言語コミュニケーションに関する基本的な理論や概念を用いて、実際のコミュニケーションにおける非言語メッセージの特性・機能・意味を説明できるようになる。
2) 実際のコミュニケーション状況において、非言語コミュニケーションをより多角的に観察したり、自覚的に実践したりできるようになる。

1. To enable students to use the basic theory and concepts of nonverbal communication to explain the properties, functions and meanings of nonverbal messages in real-world communication.
2. To enable students to observe nonverbal communication from a variety of angles and consciously apply what they have learned in the midst of real-world communication.

授業の内容 / Course Contents

対人コミュニケーションにおいて、身振り、手振り、顔の表情、視線、周辺言語、身体接触、対人距離など、ことば以外の手段によって伝えられる非言語（ノンバーバル）メッセージが果たす役割は質、量ともに非常に大きい。本科目は、さまざまな非言語的伝達手段とコミュニケーションに関する理論・概念を考察し、それらを用い実際のコミュニケーションを観察、分析することで、辞書には載っていない非言語メッセージの意味を

探っていく。

The role of nonverbal messages delivered through body and hand gestures, facial expressions, gaze, paralanguage, physical contact, interpersonal distance and other non-language methods is just as critical to interpersonal communication as content and volume. This course will lead students to explore the meanings of nonverbal messages not found in any dictionary by considering the theory and concepts of various nonverbal methods of communication and of communication itself, and observing and analyzing the use of those methods in actual communication.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：オリエンテーション
コミュニケーションの定義とモデル
- 2回：非言語コミュニケーションの機能と特徴
- 3回：外見と魅力
- 4回：ジェスチャーと動作
- 5回：顔の表情
- 6回：視線行動
- 7回：音声行動・周辺言語
- 8回：空間・対人距離
- 9回：身体接触
- 10回：ジェンダーと非言語コミュニケーション
- 11回：異文化コミュニケーションと非言語メッセージ
- 12回：人間関係における非言語コミュニケーション
- 13回：説得と非言語コミュニケーション
- 14回：オンラインの非言語コミュニケーション、まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:	○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

200 分

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 出席および授業参加度(ワークシート含):20% リーディング・レスポンス (CanvasLMS):20% 観察メモ:15% 小テスト×3:15% 分析レポート:30%

単位取得には 80%以上の出席が必要

テキスト / Textbooks

V.P.リッチモンド、J.C.マクロスキー 『非言語行動の心理学：対人関係とコミュニケーション理解のために』
北大路書房 2006 4762824909 ○

参考文献 / Readings

Richmond, V. P., McCroskey, J. C., & Hickson III, M. L. Nonverbal behavior in interpersonal relations (7th

ed.). Allyn & Bacon 2012 9780205042302

Patterson, M. L. More than words: The power of nonverbal communication. Aresta 2011 9788493787080

M. L. パターソン 『ことばにできない想いを伝える：非言語コミュニケーションの心理学』 誠信書房
2013 9784414304206

ポール・エクマン 『顔は口ほどに嘘をつく』 河出書房新社 2006 9784309243832

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

安定したインターネット回線に接続された PC (推奨) またはタブレット、web カメラ、マイク (マイク付きイヤホン)。

本科目は Zoom を使用したオンライン双方向授業として展開される (SPIRIT Gmail [立教アドレス] で作成した Zoom アカウントでログインすること)。毎週の Zoom 情報は CanvasLMS に提示される。Zoom に加え、Google Drive, Google Form, YouTube などを用いることがある。注：屋外やカフェなど、授業やディスカッションの妨げとなる騒音のある場所か

グローバル化と言語

Globalization and Language

石川 文也 (ISHIKAWA FUMIYA)

開講年度： 2024
科目設置学部： 異文化コミュニケーション学部
科目コード等： DM639
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： ICC3440
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

グローバル化と言語の問題に関わる学問分野の基礎知識を習得し、習得した知識を具体的な事象分析に応用できる基盤的能力を身につける。

The goal for this course is for students to learn basic knowledge in scholarly fields related to globalization and language issues, and master the core skills for applying this knowledge to analysis of specific events.

授業の内容 / Course Contents

グローバリゼーションとはなにか。なに（あるいは誰）がそれを主導しているのか。グローバル化を推進するイデオロギーとはなにか。それは国あるいは地域の言語政策にどのように現れているのか。そしてそれによってそれぞれの言語はどのような影響を受けて（あるいは変化を強いられて）いるのか。そのような問題を提起し、具体的な事例を取り上げながら、グローバル化と言語に関わる問題の深層／真相を通時的・共時的・内省的に考察し、その考察を学術的に実践する。

What is globalization? What (or who) is leading it? What is the ideology driving globalization? How is it manifested in national or regional language policies? And how are languages affected (or forced to change) by it? By raising such questions and taking up specific cases, this project will examine the depth/truth of issues related

to globalization and language in a diachronic, synchronic, and introspective manner, and will put these considerations into academic practice.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション：講義内容の説明
- 2回：異文化コミュニケーション論における「グローバル化と言語」の位置づけ
- 3回：問題提起：グローバル化とはなにか、それが言語とどのような関係を持つか
- 4回：グローバル化の起源と進展－言語との関わり－
- 5回：境界の成立と言語
- 6回：越境すること（その1）－近代国家の「外」への拡大：「上書き」される言語－（前半）
- 7回：越境すること（その1）－近代国家の「外」への拡大：「上書き」される言語－（後半）
- 8回：越境すること（その2）－世界システムの成立と溶解：「リング・フランカ」として使用される言語－（前半）
- 9回：越境すること（その2）－世界システムの成立と溶解：「リング・フランカ」として使用される言語－（後半）
- 10回：言語のグローバル化
- 11回：授業内課題の作成
- 12回：授業内課題の作成
- 13回：授業内課題の作成と提出
- 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各回の最後に口頭で、あるいは CanvasLMS によって、その回の内容にかかわる提出物および次回のための準備学習を指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業への参加度：60% 授業内課題：40%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

授業中に、あるいは CanvasLMS によって配布する添付ファイルなどによって随時紹介する。

その他 / Others

* 授業のスケジュールは進行状況によって変更されることがあるので、変更の知らせには十分注意すること。変更の知らせは、授業中に口頭あるいは CanvasLMS によっておこなう。

* やむを得ず休講した場合は、内容を繰り下げて補講期間中に補講をおこなうか、それに代わる課題を出す。

* 授業で使用する資料の配布は主として CanvasLMS を使って配布する。各回の授業の前までに CanvasLMS を必ず確認し、必要な資料が掲載されていた場合には各自それを自身の PC にダウンロードするなどして、次の授業に持参すること。

認知言語学

Cognitive Linguistics

佐藤 邦彦 (SATO KUNIHICO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 異文化コミュニケーション学部
科目コード等： DM641
授業形態： 対面（一部オンライン）
授業形態（補足事項） オンライン授業は第10回を予定。
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： ICC3140
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

言語の意味や、言語と認識の関係に関する言語学の様々な考え方を理解し、認知言語学がこうしたテーマをどのような枠組みで取り上げているかを知ることを通して、言語の意味と構造の関係に関する理解を深める。
Students will further their understanding of the relationship between the meaning and structure of language by learning different ways of thinking about linguistics in terms of how language relates to meaning and perception, and the frameworks used to examine these themes within cognitive linguistics.

授業の内容 / Course Contents

近代言語学以前の言語論、認知言語学以前の近代言語学の基礎を確認しつつ、意味や認識に関する言語学の問題点を紹介する。こうした問題を扱う上での認知言語学の枠組みや主要テーマとして、「参照点」、「プロトタイプ」、「カテゴリー化」、「フレーム」などの観点や、メタファー・メトニミーなどの意味現象について解説する。

The course will review theories of language prior to the advent of modern linguistics and the foundations of modern linguistics prior to cognitive linguistics, and introduce linguistic problems related to meaning and perception. The instructor will provide commentary on the perspectives of reference points, prototypes and

categorization as well as metaphor, metonymy and other expressive phenomena as the frameworks and major themes of cognitive linguistics in dealing with the problems related to meaning and perception.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：言語と認識をめぐる考え方の変遷について
- 2回：意味に関する構造主義的な観点
- 3回：生成文法における意味の問題
- 4回：認知言語学の基本的な考え方
- 5回：各論（1）参照点
- 6回：各論（2）図と地
- 7回：各論（3）カテゴリー
- 8回：各論（4）プロトタイプ
- 9回：各論（5）イメージスキーマ
- 10回：各論（6）意味役割とフレーム
- 11回：各論（7）構文に関するいくつかのテーマ
- 12回：各論（8）メタファー・メトニミーと転義
- 13回：各論（9）レトリックと認識
- 14回：まとめと補足

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

毎回の授業で指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業内の提出物や発表:30% 出席及び授業参加度:30% 最終レポート割合：40%

テキスト / Textbooks

プリント等を配布。

参考文献 / Readings

李在鎬 『認知言語学への誘い』 開拓社 2010 9784758925174

自然共生特論

Topics in Sustainability

環境人文学の地平

山本 洋平 (YAMAMOTO YOHEI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 異文化コミュニケーション学部

科目コード等： DM643

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： ICC3440

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 抽選登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

いま、最も真剣に考えなくてはならないことの一つが、環境危機であることは言うまでもない。その危機に対して人文学は何ができるか。古典的な文学テキストから最新の理論までを渉猟することで、受講者の皆さんとこの問いを深めたい。

Needless to say, one of the most serious issues we need to consider today is the environmental crisis. What can the humanities do to address this crisis? This class will deepen this question with participants by traversing classic literary texts as well as the latest theories.

授業の内容 / Course Contents

アメリカ環境文学の祖、ヘンリー・ソローの古典的名著『ウォールデン』（1854年）を読み進めながら、自然共生の理解を深めるための理論的、文学的テキストを併読し、学際的な思考方法を身につける。受講生によるハンドアウトを通じた発表、グループ・プレゼンを取り入れる。扱うテキストは日本語を主とするが、英文テキストも用いる。

While reading the classic masterpiece Henry David Thoreau's *Walden* (1854), the founder of American

environmental literature, the class will read alongside theoretical and literary texts to deepen our understanding of natural symbiosis and develop interdisciplinary ways of environmental humanities.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション：環境人文学の地平
- 2回：場所の感覚（理論篇）：トゥアン『空間の経験』
- 3回：場所の感覚（理論篇）：トゥアン『トポフィリア』
- 4回：場所の感覚（テキスト篇）：ソロー『ウォールデン』1「生計」
- 5回：場所の感覚（テキスト篇）：ソロー『ウォールデン』2「暮らした場所、暮らした目的」
- 6回：場所の感覚（テキスト篇）：ソロー『ウォールデン』3「さまざまな池」「冬の池」
- 7回：ライティング・ワークショップ1/動物論（理論篇）：ナッシュ『自然の権利』
- 8回：動物論（テキスト篇）：ソロー『ウォールデン』4「マメ畑」「高尚な法則」
- 9回：動物論（テキスト篇）：ソロー『ウォールデン』5「動物の隣人たち」「冬の動物たち」
- 10回：動物論（テキスト篇）：エミリー・ディキンソンの詩1
- 11回：動物論（テキスト篇）：エミリー・ディキンソンの詩2
- 12回：動物論（テキスト篇）：アニー・ディラード「イタチの生き方」
- 13回：自然とジェンダー（理論/テキスト篇）：Nina Baym/ウィラ・キャザー
- 14回：ライティング・ワークショップ2/まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

毎週課されるリーディングと個人・グループ発表をこなすこと。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業内発表:30% 授業への貢献:20% 中間レポート:20% 最終レポート:30%

テキスト / Textbooks

ソロー 『ウォールデン 森の生活』 ちくま学芸文庫 2022 9784480085474 ○

参考文献 / Readings

結城正美 文学は地球を想像する エコクリティシズムの挑戦 岩波新書 2023

野田研一 自然を感じるこころーネイチャーライティング入門 ちくまプリマー新書 2007

暉峻 淑子 豊かさとは何か 岩波新書 1989

イーファー・トゥアン トポフィリアー人間と環境 ちくま学芸文庫 2008

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

授業内で積極的にコメントをする力、チームワークでプレゼンテーションをする力、日本語・英語双方で、理論的・文学的なテキストを読み解き、批判的に読む力。

人間環境特論

Topics in Human and Environment

人間と自然の関係について

渡辺 浩平 (WATANABE KOHEI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 異文化コミュニケーション学部

科目コード等： DM644

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： ICC3440

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 抽選登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

人間環境の多様な在り方を理解できるようになる。

現代的な環境問題を人間と自然の関係という視点から考える力を身につける。

This course explores the understanding of the various forms of existence of the human environment and the way to think about contemporary environmental issues from the relationship between humans and nature.

授業の内容 / Course Contents

人間は自然とかかわりあいながら生きている。人間と自然の関係は文化的に多様であり、人間と自然をはっきりと分ける考え方もあれば、人間も自然の一部であるとする考え方もある。この授業では、（1）自然についての認識の文化的多様性（自然と文化）、（2）狩猟採集、牧畜、農耕といった生業を通じた人間と自然の多様な相互関係（自然と生業）、（3）人間行動と環境の相互関係（自然と身体）というトピックについて講義を行う。また、それぞれのトピックについての映像鑑賞やディスカッションを通して、人間と自然の相互関係についての理解を深め

Humans live in a reciprocal relationship with nature. The relationship between humans and nature is diverse.

Some thinking clearly distinguishes humans from nature. In contrast, others think that humans and nature are the same. This lecture explains the following topics:

1. The cultural diversity of perceptions of nature
2. Diverse interrelationships between humans and nature through livelihoods such as hunting and gathering, pastoralism, and agriculture
3. Interrelationships between human behavior and the environment

In addition, students will deepen their understanding of the interrelationship between humans and nature through viewing videos and discussing. Note that the class schedule changes depending on students' numbers and interests.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：自然と文化① 人間と自然の境界
- 3回：自然と文化② 多様な自然
- 4回：自然と生業① 狩猟採集
- 5回：自然と生業② 牧畜
- 6回：自然と生業③ 農耕
- 7回：自然と身体① 身体感覚と宗教的なもの
- 8回：自然と身体② 同調、情動、アフオーダンス
- 9回：アメリカ先住民と環境①
- 10回：アメリカ先住民と環境②
- 11回：現代的課題① 環境と開発
- 12回：現代的課題② 多として環境問題
- 13回：現代的課題③ コスモポリティクス
- 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド* (パワポ等) の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

毎回の授業で指示する。

成績評価方法・基準(成績評価方法区分：002) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業への参加姿勢:30% リアクションペーパー:30% 最終レポート割合 :40%

テキスト / Textbooks

特に定めない。授業内で資料を配布する。

参考文献 / Readings

毎回の授業で適宜紹介する。

その他/ Others

なし

キャリア形成実習

Career Development Practicum

八坂 祐子 (YASAKA YUKO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 異文化コミュニケーション学部
科目コード等： DM647
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期他
単位： 2
科目ナンバリング： ICC1723
使用言語： その他
授業形式： 実習
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考： 1,2 年次生対象

授業の目標 / Course Objectives

就業体験を通して、大学4年間の学びの先にあるキャリアプランを考えるとともに、異文化コミュニケーション学部での学びがどう社会と結びついているのかを知る。教室での学びだけではなく、教室外での経験を通して、自分と社会とのつながりを意識するようになる。

Through actual work experience, students will be given the opportunity to think about their career plan beyond their four years at the university and understand how the courses provided by the College of Intercultural Communication are linked to the real world. In addition to classroom learning, students will be given the opportunity to obtain experience in the field, helping them become aware of their own connection to society.

授業の内容 / Course Contents

春学期中に履修者の選考及び事前研修を経て、夏季休暇中に各企業にインターンとして派遣する。派遣期間は10日～14日。秋学期に報告会を実施する。

なお本科目は秋学期履修登録科目であるが、履修希望者は4月中旬に始まるエントリー期間に履修申請すること。履修資格、履修登録および全体スケジュール等の詳細については R Guide で必ず確認すること。

Student selection and preparatory training will take place during the spring semester and students will be sent to

respective companies as interns during the summer recess. The duration of the internship is 10 to 14 days. A debriefing session will be conducted in the fall semester.

Although this course is scheduled for the fall semester, candidates wishing to enroll need to apply during the entry period which begins in mid-April. Please check the course guidebook for details such as the qualifications for enrollment, the course registration process and the overall schedule.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：事前研修1 キャリア形成について、自己分析・職業研究・自己紹介書
- 2回：事前研修2 実習目標について、実習先研究報告
- 3回：事前研修3 ビジネスマナーについて、キャリアインタビュー報告
- 4回：各企業における実地研修
- 5回：各企業における実地研修
- 6回：各企業における実地研修
- 7回：各企業における実地研修
- 8回：各企業における実地研修
- 9回：各企業における実地研修
- 10回：各企業における実地研修
- 11回：各企業における実地研修
- 12回：各企業における実地研修
- 13回：事後研修1 実習振り返りと相互フィードバック
- 14回：事後研修2 実習成果報告会

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：	
個人発表	：	○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：	○
実技・実習・実験	：	○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：	○
上記いずれも用いない予定	：						

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外の学習に関する指示は、必要に応じて別途指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 事前研修での参加度:30% インターンシップ研修先の評価:40% 事後報告会での報告内容:30%

成績は「合格」「不合格」のいずれかで評価する。

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

実習先企業や団体におけるビジネスコミュニケーションを想定した積極的な受講態度が期待される。

注意事項

本科目は、インターンシップ、就業体験、その他の学外活動等による実践的な学びを中心に構成する授業である。

インターンシップ

Internship

八坂 祐子 (YASAKA YUKO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 異文化コミュニケーション学部
科目コード等： DM648
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期他
単位： 2
科目ナンバリング： ICC1723
使用言語： その他
授業形式： 実習
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考： 3,4 年次生対象

授業の目標 / Course Objectives

就業体験を通して、大学4年間の学びの先にあるキャリアプランを考えるとともに、異文化コミュニケーション学部での学びがどう社会と結びついているのかを知る。教室での学びだけではなく、教室外での経験を通して、自分と社会とのつながりを意識するようになる。

Through actual work experience, students will be given the opportunity to think about their career plan beyond their four years at the university and understand how the courses provided by the College of Intercultural Communication are linked to the real world. In addition to classroom learning, students will be given the opportunity to obtain experience in the field, helping them become aware of their own connection to society.

授業の内容 / Course Contents

春学期中に履修者の選考及び事前研修を経て、夏季休暇中に各企業にインターンとして派遣する。派遣期間は10日～14日。秋学期に報告会を実施する。

なお本科目は秋学期履修登録科目であるが、履修希望者は4月中旬に始まるエントリー期間に履修申請すること。履修資格、履修登録および全体スケジュール等の詳細については R Guide で必ず確認すること。

Student selection and preparatory training will take place during the spring semester and students will be sent to

respective companies as interns during the summer recess. The duration of the internship is 10 to 14 days. A debriefing session will be conducted in the fall semester.

Although this course is scheduled for the fall semester, candidates wishing to enroll need to apply during the entry period which begins in mid-April. Please check the course guidebook for details such as the qualifications for enrollment, the course registration process and the overall schedule.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：事前研修1 キャリア形成について、自己分析・職業研究・自己紹介書
- 2回：事前研修2 実習目標について、実習先研究報告
- 3回：事前研修3 ビジネスマナーについて、キャリアインタビュー報告
- 4回：各企業における実地研修
- 5回：各企業における実地研修
- 6回：各企業における実地研修
- 7回：各企業における実地研修
- 8回：各企業における実地研修
- 9回：各企業における実地研修
- 10回：各企業における実地研修
- 11回：各企業における実地研修
- 12回：各企業における実地研修
- 13回：事後研修1 実習振り返りと相互フィードバック
- 14回：事後研修2 実習成果報告会

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：	
個人発表	：	○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：	○
実技・実習・実験	：	○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：	○
上記いずれも用いない予定	：						

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外の学習に関する指示は、必要に応じて別途指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 事前研修での参加度:30% インターンシップ研修先の評価:40% 事後報告会での報告内容:30%

成績は「合格」「不合格」のいずれかで評価する。

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

実習先企業や団体におけるビジネスコミュニケーションを想定した積極的な受講態度が期待される。

注意事項

本科目は、インターンシップ、就業体験、その他の学外活動等による実践的な学びを中心に構成する授業である。

グローバル研究調査法

Research Method for Global Studies

ICT を活用したフィールドワーク

吉村 竜 (YOSHIMURA RYU)

開講年度： 2024

科目設置学部： 異文化コミュニケーション学部

科目コード等： DM649

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： ICC3440

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

他者理解とは知ることだけで完結する事態ではなく、想像し、揺さぶられ、実践することで達成されるものでもある。まして国境のみならず民族、出自、性別などさまざまな境界の意味があらためて問い直されるグローバル化の時代にあっては、他者について書かれた知識を吸収するだけでなく、他者とのかかわり方をこそ身に付ける必要がある。そのための学術的アプローチの一つとして、この授業ではフィールドワークを通じた他者理解について学ぶ。フィールドワークの方法と実践の双方を学ぶことによって、身近な経験のなかに隠れている他者理解の糸口を紐

Understanding others is not merely something that is achieved through knowledge alone. It is also something that is accomplished through imagination, emotion and actual practice. Moreover, in this age of globalization, the meaning of not only national boundaries but also various other boundaries, such as race, origin and gender are being redefined. This means we cannot just absorb information written about others, but rather we need to learn how to interact with other people. As an academic approach to this issue, the purpose of this course is to learn through fieldwork about how to understand others. Learning how to carry out both the fieldwork method and

個人発表 : グループ発表 : ディスカッション・ディベート : ○
実技・実習・実験 : ○ 学内の教室外施設の利用 : 校外実習・フィールドワーク : ○
上記いずれも用いない予定 :

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

- ・各回の授業で設定する課題に取り組むこと。
- ・授業内容に関連する重要文献は、適宜配布するので、授業前に読んでおくこと。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 各回の提出課題:40% 授業内プレゼンテーション:20% 最終レポート割合 :40%

テキスト / Textbooks**参考文献 / Readings**

菅原和孝 『フィールドワークへの挑戦：“実践”人類学入門』 世界思想社 2006 9784790711889

佐藤知久 『フィールドワーク 2.0』 風響社 2013 9784894897700

ティム・インゴルド（金子遊・水野友美子・小林耕二 訳） 『メイキング 人類学・考古学・芸術・建築』 左右社 2017 9784865281798

その他 / Others

なし

視覚芸術特論

Topics in Visual Arts

視覚表現の諸相：イメージとは？視覚文化の基礎

黒岩 三恵 (KUROIWA MIE)

開講年度： 2024

科目設置学部： 異文化コミュニケーション学部

科目コード等： DM655

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： ICC3440

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

美術を含む現代の多彩な視覚表現、視覚メディア、すなわちイメージの意味の生成について、見る側や視覚コミュニケーションの受け手の側がどう関与するのか、について様々な作例や考え方を学び、理解する。

Through this course, students will learn keywords and concepts of visual culture and the image, its power, and different ways to understand the visible and its relation with people, power, or politics.

In particular, the role played by the viewer in the meaning-generation process of any given visual medium will be the focus of the course.

授業の内容 / Course Contents

視覚文化の根幹となるイメージとは何かを、Sturken & Cartwright 著 Practices of Looking 第3版（2014）の第2章を講読を通じて、イメージに関する基礎的なキーワードについて学び、古今の美術・アート作品、写真、版画、ポスター、動画等の豊富なイメージを具体例として、イメージの特性や見ることの意味について学ぶ。

We will read excerpts from the second chapter of Practices of Looking, 3rd ed. by Sturken and Cartwright, to

familiarize ourselves with basic keywords and concepts of visual culture studies. Through analyses of a rich array of visual artifacts such as artworks, photographs, prints, posters, or videos, we will also familiarize ourselves with specific ways to see images.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス：授業の進め方、教材の配布、評価の仕方ほか
- 2回：講読とディスカッション：Chapter 2: Viewers Make Meaning ①
- 3回：講読とディスカッション：Chapter 2: Viewers Make Meaning ②
- 4回：講読とディスカッション：Chapter 2: Viewers Make Meaning ③
- 5回：作例分析とディスカッション①
- 6回：講読とディスカッション：Chapter 2: Viewers Make Meaning ④
- 7回：講読とディスカッション：Chapter 2: Viewers Make Meaning ⑤
- 8回：講読とディスカッション：Chapter 2: Viewers Make Meaning ⑥
- 9回：作例分析とディスカッション②
- 10回：講読とディスカッション：Chapter 2: Viewers Make Meaning ⑦
- 11回：講読とディスカッション：Chapter 2: Viewers Make Meaning ⑧
- 12回：講読とディスカッション：Chapter 2: Viewers Make Meaning ⑨
- 13回：作例分析とディスカッション③
- 14回：総括

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

講読図書は、抜粋をコピー教材として配布予定である。各自予習を必ずしておくこと。英語学習を目的とした授業ではない。視覚文化とはどのようなものであり、どのような考え方をするものなのかを学ぶことが目的である。そのため、キーワード、本文中に引用されたイメージ、著書や著者、美術作品やアーティスト、事件や人物など幅広く調べて理解することが重要である。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 文献講読:30% 作例分析・リアクションペーパー:30% 最終レポート割合：40%

テキスト / Textbooks

Marita Sturken, Lisa Cartwright Practices of Looking: and Introduction to Visual Culture Oxford University Press 2017 9780190265717 -

参考文献 / Readings

関連する文献、映画、写真、絵画やそれらの作者について、授業時に随時紹介する。

人と移動

Human Migration

飯島 みどり (IIJIMA MIDORI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 異文化コミュニケーション学部
科目コード等： DM660
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： ICC3440
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

「グローバル化」といった紋切型に頼らず、近代の世界がどのように人間を移動させてきたか冷静に見つめ直す姿勢を養う。

Globalization as a term leads us to a brain freeze. We, the human beings have always been trotamundos. Let us assume a critical attitude toward the term to observe human displacements in the Modern Era from a broader angle.

授業の内容 / Course Contents

「移動」が「問題」になるのは「境界線」が存在するからである。このことを具体的に確認した上で 19 世紀後半の大西洋世界を中心に個別事例を採り上げ、考察を深める。

No border, no migrants. The Nation-State does invent and create divisions between nationals and foreigners. We should recognize this “another side of the same coin” from critical and practical viewpoints. Then we learn and analyze historical movement developed over the trans-Atlantic world especially in the second half of the 19th century.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：自分にとっての「移動」とは
- 2回：定住と遊動
- 3回：国民国家というシステム（個人と国家）
- 4回：push要因／pull要因
- 5回：国民管理の方法 その1
- 6回：国民管理の方法 その2
- 7回：交通手段と移動
- 8回：移民と植民
- 9回：大西洋世界における移動 その1
- 10回：大西洋世界における移動 その2
- 11回：大西洋世界における移動 その3
- 12回：移動と暴力
- 13回：人類史にとっての「移動」とは
- 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

グーグル検索ではなく自分の頭の中に地図を描く訓練。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

筆記試験 :100%

平常点割合 :0%

テキスト / Textbooks

プリント配布。

参考文献 / Readings

藤澤 房俊 『「クオーレ」の時代』 ちくま学芸文庫 1998 9784480084453

ジョン・トービー 『パスポートの発明』 法政大学出版局 2008 9784588603044

ほか適宜紹介。

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

集中力

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

なし（授業中は原則として電子機器の使用を認めない）

その他 / Others

必要に応じ英語、スペイン語、ポルトガル語、フランス語等の資料を使用する。既知の言語でなくても眺めてみようという気概を求める。

間文化研究

Intercultural Studies

小倉 和子 (OGURA KAZUKO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 異文化コミュニケーション学部
科目コード等： DM661
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： ICC3440
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 抽選登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

さまざまな文化の交流や衝突、あるいは融合といった現象を具体例に則して学び、説明することができる。文化の変容のあり方を多角的に理解し、自ら意見を述べることができる。

This course takes up relevant examples to grant students the opportunity to inculcate an in-depth understanding of the interchange and clash of different cultures and to appreciate the phenomenon of cultural fusion.

Additionally, students will learn the various conceptual aspects of cultural transformation and will be encouraged to formulate their own ideas on the subject.

授業の内容 / Course Contents

古今東西、移民、亡命者、旅行者など、複数の言語・文化を横断する書き手は少なくないし、今後もますます増えるだろう。この授業では主としてフランス語圏に関わりのある作家が残したテキストを取り上げ、彼らがどのように異文化に接し、その中で自己と他者を見つめ、作品を生み出してきたかを探る。

クローデルは外交官として世界各地を移動しつつ、1920年代には駐日フランス大使も務めた。永井荷風は1900年代に銀行員としてリヨンに滞在した。異国に滞在するという経験が現在とはまったくちがった意味合いをもっていた約1世紀前のフラ

Many writers, ancient and modern, have crossed different languages and cultures as migrants, refugees and travellers. The number of such writers will continue to grow. In this class, we will focus on the texts of writers primarily associated with the French-speaking world, examining their interactions with various cultures, their perspectives on themselves and others, and the works they created.

Claudel moved constantly around the world as a diplomat and was French ambassador to Japan in the 1920s; in the 1900s, Kafu Nagai stayed in Lyon as a banker. About 100 years ago, staying in a foreign country had a very different meaning than today. By reading and interpreting the writings of a Frenchman and a Japanese man who related what they saw and felt in the other's country at that time, we will look at the origins of intercultural exchange.

In class, we will read the texts carefully, integrating discussion as much as possible and sharing our knowledge of the social and historical context of the texts. No specific knowledge of French is required for this course.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：ポール・クローデル『朝日の中の黒い鳥』（1）
- 3回：ポール・クローデル『朝日の中の黒い鳥』（2）
- 4回：ポール・クローデル『朝日の中の黒い鳥』（3）
- 5回：ポール・クローデル『朝日の中の黒い鳥』（4）
- 6回：ポール・クローデル『朝日の中の黒い鳥』（5）
- 7回：ポール・クローデル『朝日の中の黒い鳥』（6）
- 8回：永井荷風『ふらんす物語』（1）
- 9回：永井荷風『ふらんす物語』（2）
- 10回：永井荷風『ふらんす物語』（3）
- 11回：永井荷風『ふらんす物語』（4）
- 12回：永井荷風『ふらんす物語』（5）
- 13回：永井荷風『ふらんす物語』（6）
- 14回：最終テスト

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外の学習に関する指示は、毎回の授業で行う。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業への参加度（リアクションペーパーおよび発言）：60% 最終テスト割合：40%

テキスト / Textbooks

永井荷風 『ふらんす物語』 新潮社 2009 9784101069012 ○
クローデルについてはプリントを配布する。

永井荷風については、新潮社版を各自入手すること。

参考文献 / Readings

ポール・クロードル 『朝日の中の黒い鳥』 講談社 2016 4061588508

その他、授業時に指示するもの。

その他/ Others

リアクションペーパーについては、次回授業開始時にフィードバックを行う。

多文化共生特論

Topics in Multi/intercultural Issues

新倉 久乃 (NIIKURA HISANO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 異文化コミュニケーション学部
科目コード等： DM664
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： ICC3440
使用言語： 日本語
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 抽選登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

アメリカ合衆国の各時代の社会課題を通して人種主義、同化、多文化主義などの理論を学ぶことを通して、現代の多文化共生という社会課題を複眼的に捉える力をつけることを目標とする。

This course aims to help students to gain the ability to visualize multiple perspectives in multi/intercultural issues as modern-day social issues through the study of theories of racism, assimilation, and multi/intercultural issues.

授業の内容 / Course Contents

アメリカ合衆国は移民で構成され、常に移民の持ち込む多様な文化とともにある。多文化共生社会を成り立たせるためには、絶えず異質な背景を持つ人々との葛藤と新たな挑戦がある。本講義は、移民社会の一つであるアメリカ合衆国の多文化社会とその挑戦を取り上げる。現代の Black Lives Matter (BLM) の運動は、アフリカ系アメリカ人の運動を越えて多様な人々の参加がみられた。この運動は、政治、経済的背景やグローバリゼーションの影響を受け、多文化社会の各理論や対象者が再編された上に成り立っている。

授業では

The United States of America combines immigrants who have brought in several differing cultures.

Maintaining a society with multi/intercultural issues means that people are always facing conflicts and new challenges between the different cultures. This lecture course focuses on the challenge of multi/intercultural issues of the US as one of the societies that consists of several different immigrant groups.

Not only African Americans have joined the current Black Lives Matter (BLM) movement but people from several different backgrounds are also participating. This movement is based on the reorganization of theories and subjects under the influence of the economic and political background, and globalization.

This lecture course will focus on a number of notable social issues such as from slavery to the civil rights movement, from the wartime internment of Japanese Americans to racial profiling after 9.11, as well as BLM and COVID-19. We will discuss these issues by viewing videos and examining actual cases. We will then consider intersectionality by identifying several factors such as the historical background, countries of origin, as well as race, class, gender, and sexuality.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：黒人差別の根底にあるものと公民権運動
- 3回：1924年移民法から第二次世界大戦と日系人排斥
- 4回：ポスト公民権期と人種マイノリティ
- 5回：同化主義 assimilationism と人種のるつぼ
- 6回：アメリカの多文化主義 multiculturalism と社会運動
- 7回：1992年ロサンゼルス暴動と人種 アジア系・アフリカ系
- 8回：ポスト多文化主義とアフターマティブ・アクション
- 9回：9.11とレイシャルプロファイルへの抵抗
- 10回：インターセクショナルリティとは？
- 11回：新自由主義とマイノリティ 人身取引という現代の奴隷制
- 12回：BLMとアジアコミュニティとCOVID-19
- 13回：レポートテーマについてのディスカッション
- 14回：レポート課題最終発表

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：	○	
個人発表	：	○	グループ発表	：	○	ディスカッション・ディベート	：	○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：		
上記いずれも用いない予定	：		：			：		

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外の学習に関する指示は、毎回の授業で行う。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業への参加度（リアクションペーパーおよび発言）：60%

最終レポート割

合：40%

テキスト / Textbooks

南川文里 『アメリカ多文化社会論〔新版〕』 法律文化社 2022 9784589042064 ○

課題によって、プリントも使用する。

参考文献 / Readings

ジュディス・バトラー他 『現代思想 総特集ブラック・ライヴス・マター』 青土社 2020

97847917114025

Hollinger, David A, 藤田文子 『ポストエスニック・アメリカ:多文化主義を超えて』 明石書店 2002

4750316229

その他/ Others

- ・ Power Point を使用した講義形式で、映像資料なども適宜活用する。
- ・ リアクションペーパーについては、次回授業開始時にフィードバックを行う。
- ・ 授業は講義形式を中心に、理解を深めるために、必要に応じて小グループでディスカッションも取り入れる。本授業では相手の意見を尊重し、誰もが講義に参加できる環境・雰囲気を保ちながら展開していく。グループディスカッションでは、排他的、差別的な発言をしない、それぞれの文化の優劣を論じないことを約束事とする。

コミュニケーション文法

Communication Grammar

言語データの量的分析によって、人間の言語使用の実態を客観的に捉え、自らの英語学習や英語教育に活かす

福田 航平 (FUKUDA KOHEI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 異文化コミュニケーション学部

科目コード等： DM665

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： ICC3140

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

- (1) コーパスとは何かが分かる
- (2) コーパス研究に関わる概念や基本用語が理解できる
- (3) コーパスを利用して自らの言語学習や指導に活かせるようになる
- (4) 実際の言語データを教材作成に活かすことができるようになる
- (5) 言語使用者が実際のコミュニケーションの場面でどのように言語を使用しているか分析し、言語学習者が場面や状況に応じた適切なコミュニケーションが可能になるように指導することができるようになる
- (6) Web 上で使用できるコーパスツールや自分のパソコン上でテキスト分析ができるツールの使

The purposes of this course are:

- (1) To understand what a corpus is.
- (2) To grasp basic concepts and terminology related to corpus research.
- (3) To develop skills in utilizing corpora for language learning and teaching.
- (4) To learn how to integrate real language data into teaching materials.

(5) To analyze actual language usage in real communication scenarios, and to guide language learners in contextually appropriate communication.

(6) Understand how to use corpus tools available on the web and text analysis tools on your own computer.

授業の内容 / Course Contents

コーパスとは、言語分析のために実際の話者が使用した言語データを集めたものの総称である。大量のデータを集めたコーパスを使用することで、どのような語や表現がよく使用されているのか、似た意味を持つ表現がどのように使い分けられているのか、ジャンルごとにどのような違いがあるのか、といったことを、データに基づいて客観的に知ることができる。このようなコーパス分析は、言語の研究・学習・指導にとって非常に有益な手段となる。この授業では主に英語コーパスを分析対象とし、コーパス分析に関連する基本概念と用語を学びつつ、コーパスを

A corpus is a general term for collections of language data used by actual speakers for the purpose of language analysis. By using a corpus, which contains a large amount of data, we can objectively analyze the frequency of specific words and expressions, the distinctions between expressions with similar meanings, as well as the differences among various genres. Such corpus analysis is beneficial for research, learning, and teaching of languages. In this course, we will primarily analyze English corpora, introducing basic concepts and terminology related to corpus analysis, as well as specific methods of analysis using corpora. Furthermore, the course involves the practical use of corpora to enable students to replicate what they have learned. Mid-term and end-of-term assignments will involve choosing individual topics and conducting analyses using actual corpora. By the end of this course, students will have acquired valuable techniques applicable to their future endeavors in English learning and teaching.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：イントロダクション：コーパスとは何か

- ・ 授業の進め方の説明
- ・ コーパスとは何か
- ・ 実際にコーパスに触れてみる
- ・ コーパスで英語の何が分かるのか
- ・ コーパスの種類と代表的な英語コーパス

2 回：使用頻度 (frequency)

- ・ 頻度 (frequency) とは
- ・ なぜ頻度が重要なのか
- ・ 頻度の分布 (ジップの法則)
- ・ 正規化頻度
- ・ タイプ頻度とトークン頻度
- ・ コーパスデータを使って実際に使用頻度表を作ってみる

3 回：語彙表

- ・ いわゆる「単語帳」はどのようにして作られているのだろうか
- ・ 語彙表の歴史
- ・ 表記形・レマ (lemma)・ワードファミリー (word family)
- ・ どのような語彙を優先して学ぶべきか考える
- ・ 散布度 (dispersion)
- ・ コーパスデータから実際に語彙表を作成してみる

4回：レジスター（使用域）

- ・レジスター（使用域）とは
- ・なぜレジスターが重要なのか
- ・代表性（representativeness）
- ・話し言葉と書き言葉にはどのような違いがあるのか調べてみる
- ・キーワード分析
- ・コーパスデータを使って実際にレジスター別の語彙表を作ってみる

5回：コロケーション1：コロケーションとは

- ・コロケーションとは何か
- ・なぜコロケーションが重要なのか
- ・コロケーション分析でわかること（意味的韻律・類義語の使い分け）
- ・コーパスデータから実際にコロケーションを抽出してみる

6回：コロケーション2：コロケーション統計と教育的応用

- ・語と語の結びつきの強さはどのように計るか
- ・様々な共起強度指標（association measures）
- ・コロケーションと言語教育
- ・どのようなコロケーションが教育的に重要なのか考えてみる

7回：中間口頭発表

- ・これまで学んだ内容を踏まえて、各自テーマを設定し短い口頭発表を行う

8回：フレーズの分析

- ・フレーズの分析によく使われる n-gram とは何か
- ・色々な n-gram の頻度表を実際に作成してみてその特徴を考える
- ・n-gram 分析をどのように言語教育に応用できるか考える
- ・n-gram からレジスターの特徴を考えてみる

9回：コーパスと文法1：語彙と文法の関係性

- ・語彙と文法の関係性を考えてみる
- ・get 受動態でよく用いられる動詞はなにか
- ・コリゲーションとは
- ・不定詞をとる動詞と動名詞をとる動詞の頻度を実際に調べてみる

10回：コーパスと文法2：時制（tense）・相（aspect）・態（voice）

- ・過去形で使用されやすい動詞とそうでない動詞はあるのだろうか
- ・進行形で使用できる動詞と使用できない動詞
- ・受動態でよく使われる動詞を調べてみる

11回：コーパスと文法3：語彙と構文

- ・いわゆる「第4文型」ではどのような動詞がよく使用されているか
- ・「構文」には「意味」がある
- ・コロストラクション分析
- ・構文解析を利用したコーパス分析
- ・talk A into Ving と同じ構文で使用できる動詞を調べてみる

12回：学習者コーパス分析1：英語学習者はどのように英語を使用しているか

- ・学習者コーパスとはなにか

- ・学習者コーパスの種類
- ・学習者コーパスで何ができるか
- ・英語学習者と英語母語話者を比較してみよう

13 回：学習者コーパス分析 2：学習者の発達

- ・学習者の英語はレベルが上がるにつれてどのように変化していきだろうか
- ・学習者のレベル
- ・学習者のレベル別特徴をコーパスデータから調べてみる

14 回：最終口頭発表会

・今まで学習した内容を活かし、自ら興味のあるテーマを設定し、授業や参考文献から学んだ手法を用いて調査を行い、結果を報告する。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

予習は必要ないが、授業で学んだことの内容理解の確認のために毎回簡単な小レポートを課す。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 毎回の小レポート:40% 中間口頭発表:10% 最終口頭発表:20% 期末レポート:30%

毎回の小レポートで授業の内容の理解度を確認する。期末レポートでは最終口頭発表の内容をレポートにまとめてもらう。

テキスト / Textbooks

毎回の授業で教材を配布するため、テキストは指定しない。

参考文献 / Readings

- 赤野一郎、他 『英語教師のためのコーパス活用ガイド』 大修館書店 2014 9784469245851
 Biber, D., & Conrad, S. Grammar of Spoken and Written English John Benjamins 2021 9789027207968
 リンドクヴィスト, ハーンズ 『英語コーパスを活用した言語研究』 大修館書店 2016 9784469246001
 投野由紀夫、他 『英語学習者コーパス活用ハンドブック』 大修館書店 2013 9784469245806
 投野由紀夫、他 『コーパスと英語教育』 ひつじ書房 2015 9784894767126
 Szudarski, P. Corpus Linguistics for Vocabulary: A Guide for Research Routledge 2017 9781138187221
 Szudarski, P. Collocations, Corpora and Language Learning (Elements in Corpus Linguistics) Cambridge University Press 2023 9781108992602

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

コーパスを使用するに当たってパソコンを使用するので、最低限のコンピューターリテラシーは必要だが、事前に特別な技能は要しない。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

教室設置のPC、または持参のPC どちらでも可だが、事前にソフトウェアのインストールをしてもらう場合があるので、持参のPCの使用が望ましい。

子どもの貧困

Child Poverty

権利のレンズで考える世界と日本の子どもの貧困

甲斐田 万智子 (KAIDA MACHIKO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 異文化コミュニケーション学部

科目コード等： DM666

授業形態： 対面（一部オンライン）

授業形態（補足事項）全授業回のうち2回はオンラインで実施する（7・12回目の授業）。

オンライン実施回に変更が生じる場合は、授業内または Canvas LMS 等で周知する。

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： ICC3340

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

- 国内外の子どもの置かれている現状と直面する課題を理解し、自らの言葉で説明できるようになる。
- 子どもの権利条約や SDGs の視点から子どもの貧困を理解できるようになる。
- 身近な子どもたちが直面する貧困課題を自ら発見し、改善に向けた取り組みに関わる姿勢を持つ。

1.Students will be able to understand the situation and the problems of child poverty both in Japan and overseas and to be able to explain them in their own words.

2.Students will be able to understand child poverty from the perspectives of UN Convention on the Rights of the Child and SDGs

3.Students will be able to discover the issues of child poverty for themselves and have attitudes to tackle the issues to solve the problems

授業の内容 / Course Contents

世界では、6人に1人（3億5600万人）の子どもが「極度の貧困」状態にある。食べ物や着るものがない、住

む場所に困っている、医療を受けられない、教育を受けられないなど、極度の貧困状態に置かれた子どもたちの現状は深刻だ。経済的搾取（児童労働）・性的搾取や子ども兵、児童婚など、貧困であるが故に直面する課題は多岐にわたっており、子どもの貧困削減は人類喫緊の課題といえる。

日本においても、7人に1人の子どもが国民の年間所得の中央値の半分に満たない所得水準にある相対的貧困状態にある。部活に参加できない、高等教育に進め

356 million children in the world, one out of 6 children, are living in extreme poverty. Their poverty level is very severe, lacking in food, clothes, shelter, medical care, and access to education. The children are facing complex violation of their rights, suffering from economic and sexual exploitation, being forced to be child soldier, forced child marriage and so on. Reduction of child poverty is urgent issue of humanity.

One out of seven children are in poverty in Japan, living below the poverty line which is half of the median annual income of the Japanese population.

Those children also face the complex and serious issues of poverty, being unable to join any sport or culture club after school, receive higher education, or enjoy meal with their family, and have to spend many hours caring the sick or old member of their families. The issues facing the children with foreign roots such as limited access to support for their education including both the Japanese and their mother tongue education has come to the surface as migrant people in Japan are rapidly increasing.

This course focuses on the child poverty and examine the background and the ways to tackle the issue comprehensively. The course also look at the children in poverty with the perspectives of child rights based approach and SDGs and other international standards and explore concrete solution to protect their rights.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：世界の子どもの貧困と子どもの権利、ライツベースアプローチ、SDGs
- 2 回：子どもの貧困と児童労働
- 3 回：子どもの貧困と性的搾取・人身売買
- 4 回：子どもの貧困と児童婚（早すぎる結婚）
- 5 回：子どもの貧困と教育、ジェンダー
- 6 回：子どもの貧困と暴力 ストリートチルドレン、子ども兵士
- 7 回：日本の子どもの貧困とヤングケアラー
- 8 回：日本の子どもの貧困とジェンダー
- 9 回：日本の子どもの貧困と性的搾取
- 10 回：海外ルーツの子どもと貧困
- 11 回：性的マイノリティと子どもの貧困
- 12 回：子どもの貧困と不登校
- 13 回：子どもの貧困と虐待・差別
- 14 回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワーポイント等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

国際協力とビジネス

International Cooperation and Business

グローバル・コモディティから考える

石井 正子 (ISHII MASAKO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 異文化コミュニケーション学部

科目コード等： DM667

授業形態： 対面（一部オンライン）

授業形態（補足事項） ゲストスピーカーの都合により、2回の授業（6・11回目の授業）をオンラインで実施する可能性がある。オンライン実施回に変更が生じる場合は、授業内または Canvas LMS 等で周知する。

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： ICC3340

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 抽選登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

①グローバル・コモディティ（国際市場で取引される原材料や農林水産物などの商品）の現状と課題を学び、それらを開発学の系譜や理論、モノ研究や地域研究の視点から議論できるようになる。

②グローバル・コモディティの公正な取引を目指す実践例を学び、その特徴を理解できるようになる。

③身近なグローバル・コモディの取引の実態を知ることにより、国際協力の課題を海外の他者の問題とするのではなく、国内と海外を結び付けて考える立場にたち、解決に取り組もうとする姿勢を身に着けることができる。

(1) Learn the current situation and issues of global commodities (raw materials, agricultural, forestry, marine, and other commodities traded in international markets) and be able to discuss them from the perspectives of the development studies and theory, as well as from the perspective of the mono kenkyu (the commodity studies) and the area studies.

(2) To be able to study practical examples of global commodities aiming for fair trade and to understand their

characteristics.

(3) By learning about the actual situation of global commodity trading, students will be able to take a standpoint to think of international cooperation issues not as problems of others overseas, but by linking domestic and overseas issues, and acquire an attitude to try to solve them.

授業の内容 / Course Contents

本講義では、グローバル・コモディティのなかでも私たちが当たり前のように食べるようになった「バナナ」に注目します。

第I部では、バナナがどのように栽培・収穫され、日本に輸出されているかというサプライチェーン（及びヴァリューチェーン）を知るところから始めます。なかでもフィリピンの生産地の状況に光を当て、低賃金労働、労働組合弾圧、農薬禍など、繰り返されてきた問題について理解を深めます。くわえて、こうした問題をモノ研究や地域研究から捉える視点を紹介します。

第II部では、バナナのようなグローバル・コモディティに関

In this lecture, we will focus on bananas, a global commodity that we have come to take for granted.

In Part I, the course will begin by learning about the supply chain (and value chain) of bananas: how they are grown, harvested, and exported to Japan. Particular attention will be given to the situation in the Philippine production sites, where repeated problems such as low-wage labor, labor union repression, and pesticide disasters have occurred. In addition, the course will introduce these issues from the perspective of the "mono kenkyu" (the commodity studies) and the area studies.

In Part II, you will be introduced about practices to solve problems related to global commodities such as bananas. These efforts range from those that seek alternative models based on the position that poverty in producing countries cannot be solved by market-based international trade, to those that seek better ways to trade while accepting market economy, to those that utilize the expertise of companies to tackle the issues.

International frameworks that encourage companies to self-regulate are also developing. You will learn practical examples of each approach.

In Part III, the students will understand and discuss the characteristics of the cases studied in Part II, placing them in the development studies. the students will consider how you, as a consumer, are involved in the global commodity issues and think about how you can take action tackle them.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：ディスカッション：身近なバナナを知ろう
- 3回：映像「バナナの逆襲I」
- 4回：映像「甘いバナナの苦い現実（第1部）」：農薬問題を考える
- 5回：ミンダナオ島の社会経済史におけるバナナ
- 6回：映像「甘いバナナの苦い現実 第2部」私たちはどう食べればいいのか（仮） / ゲストスピーカー
- 7回：多国籍アグリビジネスと新たな規制の枠組み（仮） / ゲストスピーカー
- 8回：フィリピンでコーヒーを作る（仮） / ゲストスピーカー
- 9回：ラオスのコーヒー生産地における「生活市場主義」（仮） / ゲストスピーカー
- 10回：ココナツでフィリピンから貧困をなくしたい（仮） / ゲストスピーカー
- 11回：フェアトレードの試み（仮） / ゲストスピーカー
- 12回：小講義、ワークショップまたはディスカッション
- 13回：小講義、ディスカッション

14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

テキスト 鶴見良行『バナナと日本人』（岩波新書、1982）を読むこと。

ディスカッション備えて事前学習（下調べ、文献講読など）を行うこと。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 複数回のレポート:60% 出席および授業参加態度:40%

テキスト / Textbooks

鶴見良行 『バナナと日本人：フィリピン農園と食卓のあいだ』 岩波新書 1982 -

参考文献 / Readings

石井正子ほか 『甘いバナナの苦い現実』 コモンズ 2000

授業内で適宜紹介します。

その他 / Others

- ・ゲストスピーカーの回は確定ではありません。変更の可能性があります。
- ・初回の授業で授業計画の詳細を紹介しますので、履修予定者は必ず出席してください。
- ・授業は一部、参加型で行います。積極的な参加を期待しますが、事情により参加型が難しい場合には、ご相談ください。
- ・授業計画は外部講師の都合などにより、変更の可能性があります。

国際協力・開発学特論

Topics in International Cooperation and Development

支援・協力・介入

吉村 竜 (YOSHIMURA RYU)

開講年度： 2024

科目設置学部： 異文化コミュニケーション学部

科目コード等： DM673

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： ICC3440

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 抽選登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

本講義が目指すのは以下の3点である。

- ・人類学の立場から広義の「開発」の事象を論じ、開発にまつわる理論的視座を獲得する。
- ・世界各地のいわゆる低開発地域が、日本人一般の生活と少なからぬ関係を持つことを実感として捕捉する。
- ・「開発＝支援」という構図に留まらない、様々な関係性のつくり方、介入のあり方を学ぶ。

This lecture aims to achieve the three points below:

1. To discuss in a broad sense, the phenomenon of 'Development' from a cultural anthropological perspective and understand the theoretical points of view surrounding development.
2. To acquire a real sense of how the so called less-developed areas of the world actually have considerable relevance to the normal life of the Japanese public.
3. To learn about building various relationships and concepts of intervention that do not stop with the compositional equation of Development being equal to Assistance.

授業の内容 / Course Contents

本講義では、文化人類学の立場から「開発」という事象を多角的に捉え、開発が単に先進諸国による低開発地域への「支援」の枠に留まらない、幅広い実践と意味内容を含みうるものであることを論じる。より具体的には、開発を経済、観光、自然環境、感情といったテーマから解題していくほか、ラテンアメリカ、アフリカ、東南アジア等における開発にまつわる具体的な事例を併せてみていく。講義全体の後半部では、講師が深く関わってきたブラジル農村の日系コミュニティの事例を中心に、開発と農業という観点から詳しく解説する。

In this lecture we will look at the phenomenon of 'Development' from various angles and through the concept of cultural anthropology. We will discuss how development is not limited to the system of developed countries providing assistance to less-developed areas, but instead includes a wide range of practices and meaningful associations. Specifically, we will cover Development via smaller subtopics, including economy, tourism, environment, emotion, and forms of intervention. Also, we will look at the situation using specific examples of development from Latin-America, Africa, Southeast Asia, etc. The second half of this lecture series will offer detailed explanation of issues relating to the rural Nikkei Community of Brazil from the perspectives of development and agriculture. This is an area that the course lecturer has been deeply involved in.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス
- 2回：開発の思想（1）：マクロとミクロの視点
- 3回：開発の思想（2）：付き合うことの支援
- 4回：農耕社会における支援
- 5回：牧畜社会への開発団体の介入
- 6回：宗教団体と災害支援
- 7回：小レポートの執筆・講評・ディスカッション（1）
- 8回：ジェンダー規範と支援（1）
- 9回：ジェンダー規範と支援（2）
- 10回：「貧困」解決を目指す観光プロジェクト
- 11回：小レポートの執筆・講評・ディスカッション（2）
- 12回：移民と開発：ブラジル日系人による農業生産
- 13回：移民と開発：ブラジル農村部の技術支援プロジェクト
- 14回：講義の総括

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワポ等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

毎回の授業で指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 小レポート:30% 出席および授業参加態度:30% 最終レポート割合 :40%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

前川啓治 『開発の人類学』 新曜社 2000 9784788507203

リオール・ノラン 『開発人類学』 古今書院 2007 9784772231121

信田敏宏（他編著） 『グローバル支援の人類学』 昭和堂 2017 9784812216095

関根久雄（編著） 『実践と感情』 春風社 2015 9784861104695

海外留学研修 C 1

Overseas Study Program C1

マーティン, R、石井 正子、石黒 武人 (MARTIN, RON R., ISHII MASAKO, ISHIGURO TAKETO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 異文化コミュニケーション学部

科目コード等： DM676

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期他

単位： 12

科目ナンバリング： ICC2523

使用言語： その他

授業形式： 実習

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

2 年次秋学期に英語・独語・仏語・西語・中国語・朝鮮語のいずれかの言語圏へ留学し、当該言語の運用能力の向上と異文化対応能力を養う。

In the fall semester of their second year, students will study abroad in a country or region where English, German, French, Spanish, Chinese or Korean is spoken in order to improve their proficiency in their second language and their ability to cope with different cultures.

授業の内容 / Course Contents

1 年次春学期から国別説明会等を行い、準備を始める。1 年次秋学期に留学先大学を決定し、願書を提出する。2 年次春学期には、留学先として選択した言語圏の語学力強化科目（「CS3A-R」または「CS3B-R」）を受講し、同時に留学先別事前オリエンテーションなどに参加する。

学部間協定校へ留学し、留学先の大学では、基準を満たしている場合にはアカデミックプログラム、満たしていない場合にはランゲージプログラムに参加することができる。

また、ホームステイや寮生活、現地の人々との交流などを通して留学先の文化を学ぶ。留学に向

Students will begin preparing and attending briefings and the like for individual countries starting in the spring

semester of their first year. In the fall semester of their first year, students will determine the universities at which they want to study abroad, and submit applications. In the spring semester of their second year, students will take courses (CS3A-R or CS3B-R) to strengthen their abilities in the languages spoken in the countries they chose for their study abroad, and participate in orientations and other events held for destination countries in advance of their time abroad. Students who do not meet a certain level of language ability will take mainly language courses at the universities at which they study abroad, but students who do meet that level are able to take classes and participate in programs at those universities. Students will also learn the cultures of their destination countries through homestays, dorm life and interacting with people who live there. Seminars and the like will be held to help students prepare for studying abroad. Students must attend the session on the date below to receive schedules and other information about these seminars.

First year: Thursday, April 11, 3rd period (Location: TBD / within the CLP A class)

Second year: Overseas Study Program C1/C2 -- (Date/Time: TBD) (Location: TBD)

Second year: Overseas Study Program A/B -- (Date/Time: TBD) (Location: TBD)

Students should make a habit of checking Canvas for important notices. Students should also set Spirit Gmail to be forwarded to their mobile phones.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1回：Introduction & ガイダンス 1

2回：ガイダンス 2

3回：ガイダンス 3

4回：ガイダンス 4

5回：体験学習 1

6回：体験学習 2

7回：体験学習 3

8回：体験学習 4

9回：体験学習 5

10回：体験学習 6

11回：体験学習 7

12回：体験学習 8

13回：ふりかえり 1

14回：ふりかえり 2

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：	○			

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

毎回の授業で指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 事前準備への取り組み状況:25% 週報:10% 留学先での履修科目(全タームで合格とな

ることが必要):35% 最終レポート割合：:30%

成績評価方法・基準については、自身が留学する年度のシラバスで改めて確認すること。

テキスト / Textbooks

各派遣先大学で指定されたものを使用する。

参考文献 / Readings

その他 / Others

CANVAS で指示する。

海外留学研修C2

Overseas Study Program C2

マーティン, R、石井 正子、石黒 武人 (MARTIN, RON R., ISHII MASAKO, ISHIGURO TAKETO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 異文化コミュニケーション学部

科目コード等： DM677

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期他

単位： 12

科目ナンバリング： ICC2523

使用言語： その他

授業形式： 実習

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

2 年次秋学期に英語・独語・仏語・西語・中国語・朝鮮語のいずれかの言語圏へ留学し、当該言語の運用能力の向上と異文化対応能力を養う。

In the fall semester of their second year, students will study abroad in a country or region where English, German, French, Spanish, Chinese or Korean is spoken in order to improve their proficiency in their second language and their ability to cope with different cultures.

授業の内容 / Course Contents

1 年次春学期から国別説明会等を行い、準備を始める。1 年次秋学期に留学先大学を決定し、願書を提出する。2 年次春学期には、留学先として選択した言語圏の語学力強化科目（「CS3A-R」または「CS3B-R」）を受講し、同時に留学先別事前オリエンテーションなどに参加する。

学部間協定校へ留学し、留学先の大学では、基準を満たしている場合にはアカデミックプログラム、満たしていない場合にはランゲージプログラムに参加することができる。

また、ホームステイや寮生活、現地の人々との交流などを通して留学先の文化を学ぶ。留学に向

Students will begin preparing and attending briefings and the like for individual countries starting in the spring

semester of their first year. In the fall semester of their first year, students will determine the universities at which they want to study abroad, and submit applications. In the spring semester of their second year, students will take courses (CS3A-R or CS3B-R) to strengthen their abilities in the languages spoken in the countries they chose for their study abroad, and participate in orientations and other events held for destination countries in advance of their time abroad. Students who do not meet a certain level of language ability will take mainly language courses at the universities at which they study abroad, but students who do meet that level are able to take classes and participate in programs at those universities. Students will also learn the cultures of their destination countries through homestays, dorm life and interacting with people who live there. Seminars and the like will be held to help students prepare for studying abroad. Students must attend the session on the date below to receive schedules and other information about these seminars.

First year: Thursday, April 11, 3rd period (Location: TBD / within the CLP A class)

Second year: Overseas Study Program C1/C2 -- (Date/Time: TBD) (Location: TBD)

Second year: Overseas Study Program A/B -- (Date/Time: TBD) (Location: TBD)

Students should make a habit of checking Canvas for important notices. Students should also set Spirit Gmail to be forwarded to their mobile phones.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1回：Introduction & ガイダンス 1

2回：ガイダンス 2

3回：ガイダンス 3

4回：ガイダンス 4

5回：体験学習 1

6回：体験学習 2

7回：体験学習 3

8回：体験学習 4

9回：体験学習 5

10回：体験学習 6

11回：体験学習 7

12回：体験学習 8

13回：ふりかえり 1

14回：ふりかえり 2

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：	○			

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

毎回の授業で指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 留学先での履修科目(全タームで合格となる必要がある):40% Critical Incident レポー

ト:15% 留学先のベスト・ワーク:40% 週報:5%

成績評価方法・基準については、自身が留学する年度のシラバスで改めて確認すること。

テキスト / Textbooks

各派遣先大学で指定されたものを使用する。

参考文献 / Readings

その他 / Others

CANVAS で指示する。

海外留学研修C2

Overseas Study Program C2

マーティン, R、石井 正子、石黒 武人 (MARTIN, RON R., ISHII MASAKO, ISHIGURO TAKETO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 異文化コミュニケーション学部

科目コード等： DM678

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期他

単位： 12

科目ナンバリング： ICC2523

使用言語： その他

授業形式： 実習

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

2 年次秋学期に英語・独語・仏語・西語・中国語・朝鮮語のいずれかの言語圏へ留学し、当該言語の運用能力の向上と異文化対応能力を養う。

In the fall semester of their second year, students will study abroad in a country or region where English, German, French, Spanish, Chinese or Korean is spoken in order to improve their proficiency in their second language and their ability to cope with different cultures.

授業の内容 / Course Contents

1 年次春学期から国別説明会等を行い、準備を始める。1 年次秋学期に留学先大学を決定し、願書を提出する。2 年次春学期には、留学先として選択した言語圏の語学力強化科目（「CS3A-R」または「CS3B-R」）を受講し、同時に留学先別事前オリエンテーションなどに参加する。

学部間協定校へ留学し、留学先の大学では、基準を満たしている場合にはアカデミックプログラム、満たしていない場合にはランゲージプログラムに参加することができる。

また、ホームステイや寮生活、現地の人々との交流などを通して留学先の文化を学ぶ。留学に向

Students will begin preparing and attending briefings and the like for individual countries starting in the spring

semester of their first year. In the fall semester of their first year, students will determine the universities at which they want to study abroad, and submit applications. In the spring semester of their second year, students will take courses (CS3A-R or CS3B-R) to strengthen their abilities in the languages spoken in the countries they chose for their study abroad, and participate in orientations and other events held for destination countries in advance of their time abroad. Students who do not meet a certain level of language ability will take mainly language courses at the universities at which they study abroad, but students who do meet that level are able to take classes and participate in programs at those universities. Students will also learn the cultures of their destination countries through homestays, dorm life and interacting with people who live there. Seminars and the like will be held to help students prepare for studying abroad. Students must attend the session on the date below to receive schedules and other information about these seminars.

First year: Thursday, April 11, 3rd period (Location: TBD / within the CLP A class)

Second year: Overseas Study Program C1/C2 -- (Date/Time: TBD) (Location: TBD)

Second year: Overseas Study Program A/B -- (Date/Time: TBD) (Location: TBD)

Students should make a habit of checking Canvas for important notices. Students should also set Spirit Gmail to be forwarded to their mobile phones.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1回：Introduction & ガイダンス 1

2回：ガイダンス 2

3回：ガイダンス 3

4回：ガイダンス 4

5回：体験学習 1

6回：体験学習 2

7回：体験学習 3

8回：体験学習 4

9回：体験学習 5

10回：体験学習 6

11回：体験学習 7

12回：体験学習 8

13回：ふりかえり 1

14回：ふりかえり 2

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：	○			

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

毎回の授業で指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 留学先での履修科目(全タームで合格となることが必要):40% Critical Incident レポー

ト:15% 留学先のベスト・ワーク:40% 週報:5%

成績評価方法・基準については、自身が留学する年度のシラバスで改めて確認すること。

テキスト / Textbooks

各派遣先大学で指定されたものを使用する。

参考文献 / Readings

その他 / Others

CANVAS で指示する。

海外留学研修 C 1

Overseas Study Program C1

マーティン, R、石井 正子、石黒 武人 (MARTIN, RON R., ISHII MASAKO, ISHIGURO TAKETO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 異文化コミュニケーション学部

科目コード等： DM679

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期他

単位： 12

科目ナンバリング： ICC2523

使用言語： その他

授業形式： 実習

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

2 年次秋学期に英語・独語・仏語・西語・中国語・朝鮮語のいずれかの言語圏へ留学し、当該言語の運用能力の向上と異文化対応能力を養う。

In the fall semester of their second year, students will study abroad in a country or region where English, German, French, Spanish, Chinese or Korean is spoken in order to improve their proficiency in their second language and their ability to cope with different cultures.

授業の内容 / Course Contents

1 年次春学期から国別説明会等を行い、準備を始める。1 年次秋学期に留学先大学を決定し、願書を提出する。2 年次春学期には、留学先として選択した言語圏の語学力強化科目（「CS3A-R」または「CS3B-R」）を受講し、同時に留学先別事前オリエンテーションなどに参加する。

学部間協定校へ留学し、留学先の大学では、基準を満たしている場合にはアカデミックプログラム、満たしていない場合にはランゲージプログラムに参加することができる。

また、ホームステイや寮生活、現地の人々との交流などを通して留学先の文化を学ぶ。留学に向

Students will begin preparing and attending briefings and the like for individual countries starting in the spring

semester of their first year. In the fall semester of their first year, students will determine the universities at which they want to study abroad, and submit applications. In the spring semester of their second year, students will take courses (CS3A-R or CS3B-R) to strengthen their abilities in the languages spoken in the countries they chose for their study abroad, and participate in orientations and other events held for destination countries in advance of their time abroad. Students who do not meet a certain level of language ability will take mainly language courses at the universities at which they study abroad, but students who do meet that level are able to take classes and participate in programs at those universities. Students will also learn the cultures of their destination countries through homestays, dorm life and interacting with people who live there. Seminars and the like will be held to help students prepare for studying abroad. Students must attend the session on the date below to receive schedules and other information about these seminars.

First year: Thursday, April 11, 3rd period (Location: TBD / within the CLP A class)

Second year: Overseas Study Program C1/C2 -- (Date/Time: TBD) (Location: TBD)

Second year: Overseas Study Program A/B -- (Date/Time: TBD) (Location: TBD)

Students should make a habit of checking Canvas for important notices. Students should also set Spirit Gmail to be forwarded to their mobile phones.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1回：Introduction & ガイダンス 1

2回：ガイダンス 2

3回：ガイダンス 3

4回：ガイダンス 4

5回：体験学習 1

6回：体験学習 2

7回：体験学習 3

8回：体験学習 4

9回：体験学習 5

10回：体験学習 6

11回：体験学習 7

12回：体験学習 8

13回：ふりかえり 1

14回：ふりかえり 2

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:	○			

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

毎回の授業で指示する。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：002) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 事前準備への取り組み状況:25% 週報:10% 留学先での履修科目(全タームで合格とな

ることが必要):35% 最終レポート割合：:30%

成績評価方法・基準については、自身が留学する年度のシラバスで改めて確認すること。

テキスト / Textbooks

各派遣先大学で指定されたものを使用する。

参考文献 / Readings

その他 / Others

CANVAS で指示する。

心理言語学

Psycholinguistics

言語心理学の基礎（英語による）

An Introduction to Psycholinguistics (in English)

キアナン, P. (KIERNAN PATRICK J.)

開講年度： 2024

科目設置学部： 異文化コミュニケーション学部

科目コード等： DM681

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： ICC3141

使用言語： 英語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

To have an overall understanding of how the brain processes language

To understand key concepts in psycholinguistics

To become familiar with the main areas of research in psycholinguistics

To understand the potential relevance and usefulness of psycholinguistic knowledge

授業の内容 / Course Contents

This course introduces the field, basic concepts, and knowledge of psycholinguistics. It provides an exploration of how the brain processes language as well as ongoing research approaches to uncovering knowledge. The course explores different aspects of psycholinguistics in a way that will allow students to both understand and engage with the field. As this is an introductory course, it is suitable for any students who have an interest in language, psychology, or the connection between them. The course will be taught in English so English sufficient to participate in an English-based class with weekly readings in English is a necessary requirement. During the

course, students will have opportunities to further explore areas they are interested in. Although the course will aim to cover much of the textbook content, as introduced by the teacher, students will only be asked to read specific sections of it.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：Introducing Psycholinguistics
- 2回：Planning utterances
- 3回：Finding words
- 4回：Building words
- 5回：Monitoring and repair
- 6回：The use of gesture
- 7回：Perception of language
- 8回：Spoken word recognition
- 9回：Visual word recognition
(and student presentations)
- 10回：Syntactic sentence processing
- 11回：Interpreting sentences
- 12回：Making connections
- 13回：Architecture and the language processing system
- 14回：Review and final test

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワーポイント等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

- (1) Students should read the prescribed part of the textbook or other reading in advance
- (2) Students will write a weekly reflection on the topic covered in class

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% Classwork:30% reflection papers:30% Student presentations:20% final Test:20%

テキスト / Textbooks

Warren, Paul Introducing Psycholinguistics Cambridge University Press 2013 9780521130561 ○

参考文献 / Readings

Supplementary materials will be provide through Google Classroom.

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

All students should be able to read basic academic texts and discuss them in English.

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

Access to a computer will be required at home but for class only writing materials and perhaps a smart phone are needed.

注意事項

It is recommended that the student's English level is at or above TOEFL iBT 76, IELTS 6.0, TOEIC 700, or TOEIC IP 700.

第1言語習得理論

Theories of First Language Acquisition

櫻井 千佳子 (SAKURAI CHIKAKO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 異文化コミュニケーション学部

科目コード等： DM682

授業形態： 対面（一部オンライン）

授業形態（補足事項）全授業回のうち5回はオンラインで実施する（2,4,6,8,10回目の授業）。オンライン実施回については、主に講義形式とし知識のインプットを行う。オンライン実施回に変更が生じる場合は、授業内またはCanvas LMS等で周知する。

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： ICC3140

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部のR Guideに掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

この授業の終了時には、履修者は、子どもが言語を習得する本質的な特徴について理解し、第1言語習得理論の知見を実際の言語データに適用できる。

At the end of the course, participants are expected to understand the essential aspects of language acquisition in children and apply theories of first language acquisition to actual language data.

授業の内容 / Course Contents

この授業では、語彙、音声、統語、意味、語用論などことばの様々な側面について紹介することによって、第1言語獲得論の基礎について学ぶ。また、子どもの発話の言語データを分析する能力の獲得にも重点を置いている。

This course deals with the basis of first language acquisition in children by introducing the acquisition process of different aspects of language, such as vocabulary, phonology, syntax, semantics and pragmatics. It also enhances the development of students' skill in analyzing actual linguistic data produced by children.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：導入、言語獲得理論の動き
- 2回：音声の獲得①
- 3回：音声の獲得②
- 4回：身振りとことば①
- 5回：身振りとことば②
- 6回：語彙の獲得①
- 7回：語彙の獲得②
- 8回：文法の獲得①
- 9回：文法の獲得②
- 10回：語用論的側面の獲得①
- 11回：語用論的側面の獲得②
- 12回：期末の発表（1）
- 13回：期末の発表（2）
- 14回：総括

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワー等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	○	グループ発表	:	○	ディスカッション・ディベート：○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:					

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

CANVAS LMS を通じて指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 期末の発表のための Book Report:40% 授業の振り返りシート:30% 期末の発表:30%

テキスト / Textbooks

小林春美・佐々木正人編 『新・子どもたちの言語獲得』 大修館書店 2008 9784469213188 ○

参考文献 / Readings

Peccei, J.S. Child Language: A Resource Book for Students Routledge 2005 9780415281034

岩立志津夫・小椋たみ子編 『よくわかる言語発達 [改訂新版]』 ミネルヴァ書房 2017 9784623080335

第2言語習得理論

Theories of Second Language Acquisition

Aim to be a language teacher

横本 勝也 (YOKOMOTO KATSUYA)

開講年度： 2024

科目設置学部： 異文化コミュニケーション学部

科目コード等： DM683

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： ICC3141

使用言語： 英語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

This course aims at understanding the theories of second language acquisition while applying the theories to language teaching and learning. Throughout the course, the students will be able to (1) learn key concepts and terminology in the field of second language acquisition, (2) explore various perspectives to interpret how languages are learned, (3) analyze how different theories inform language teaching practice, (4) understand how various studies have contributed to the knowledge in the field of second language acquisition, and (5) critically reflect own language learning experience.

授業の内容 / Course Contents

Students will learn about various themes related to second language acquisition through reading and discussions. Students will give presentations about the assigned topics and lead class discussions each week. They will also apply the theories and research findings into foreign language learning and teaching through reflecting on their own foreign language learning experience.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：Course description
Reflection on language learning experience
- 2 回：Language learning in early childhood
- 3 回：Second language learning (Learner characteristics, Learning conditions, & Studying learner language)
- 4 回：Second language learning (Vocabulary, Pragmatics, Pronunciation, Sampling learner language)
- 5 回：Individual differences in second language learning (Research on learner characteristics, Individual differences and classroom instruction)
- 6 回：Individual differences in second language learning (Age and second language learning, Age and second language instruction)
- 7 回：Midterm test
- 8 回：Explaining second language learning
- 9 回：Observing learning and teaching in the second language classroom
- 10 回：Second language learning in the classroom (Get it right from the beginning – Get two for one)
- 11 回：Second language learning in the classroom (Teach what is teachable – Assessing the proposals)
- 12 回：Popular ideas about language learning revisited
- 13 回：Final test
- 14 回：Presentation

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	○	グループ発表	:	○	ディスカッション・ディベート : ○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

Students must complete the assigned reading, prepare for group discussions and presentations, and write reaction papers weekly.

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Midterm test:20% Final test:20% Reaction Papers:20% Group Discussion Leaders:20% Group Presentations:20%

テキスト / Textbooks

Lightbown, P. M. & Spada, N. How Languages Are Learned Oxford University Press 2021 ○

参考文献 / Readings

Loewen, S. Introduction to Instructed Second Language Acquisition Routledge 2020

Gass, S., Behney, J., & Plonsky, L. Second Language Acquisition: An Introductory Course 5th Edition Routledge 2020

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

Experience in learning a foreign/second language and some proficiency in it

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

Computers/tablets to take notes on ideas in the group discussions

注意事項

It is recommended that the student's English level is at or above TOEFL iBT 76, IELTS 6.0, TOEIC 700, or TOEIC IP 700.

外国語教育評価論

Measurement and Evaluation in Language Education

言語テストの作成と評価 / Language Test Construction and Evaluation

鈴木 駿吾 (SUZUKI SHUNGO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 異文化コミュニケーション学部

科目コード等： DM686

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： ICC3140

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

この授業の主な目標は以下の通りです：

- 1) テストの作成方法と評価方法を理解すること。
- 2) 自分自身のテストを作成し、検証できるようになること。
- 3) テスト項目を批判的に評価することができるようになること。

The primary objectives of the course are to:

- 1) familiarise students with the way in which tests are constructed and evaluated;
- 2) enable students to construct and validate their own tests; and
- 3) enable students critically to evaluate test items.

授業の内容 / Course Contents

このコースでは、言語テストの基本的な概念、テスト設計プロセス、テストの信頼性と妥当性の検証手順、および四技能のテストについて取り上げます。そのために、学生は読み物、授業中の講義やディスカッション、データ分析、グループプロジェクトとしてテストを作成する課題に参加することが求められる。

This course addresses basic concepts in language testing, the test design process, procedures for testing test reliability and validation and the testing of reading, writing, listening and speaking. To this end, students are required to engage with assigned readings, in-class discussion and data analysis, and project-based group activities.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：Introduction
- 2 回：Assessment Concepts and Issues
- 3 回：Principles of Language Assessment
- 4 回：Designing Classroom Language Tests
- 5 回：Hands-on session: Data analysis for test evaluation
- 6 回：Assessing Listening
- 7 回：Assessing Speaking
- 8 回：Assessing Reading
- 9 回：Assessing Writing
- 10 回：Assessing Grammar and Vocabulary
- 11 回：Group work session (1): Test construction
- 12 回：Group work session (2): Test administration and evaluation
- 13 回：Group presentation
- 14 回：Group presentation (extra) & Summary

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワーポイント等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	○	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：		：			

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

学生は、各週に指定された教科書の章や論文を読む必要がある。詳細は授業内にて提示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 積極的な授業への貢献:35% テストデータ分析課題:20% グループプロジェクトの発表:15% グループプロジェクトレポート:30%

テキスト / Textbooks

Brown, H., D. & Abeywickrama, P. Language Assessment: Principles and Classroom Practices Pearson Education ESL 2018 9780134860220 ○

参考文献 / Readings

その他参考文献は授業内で紹介する。

英語科教育研究

Studies in English Language Teaching

英語教育と教育工学

石井 雄隆 (ISHII YUTAKA)

開講年度： 2024

科目設置学部： 異文化コミュニケーション学部

科目コード等： DM689

授業形態： 対面（一部オンライン）

授業形態（補足事項）全授業回のうち1回はゲストスピーカー登壇のため、オンラインで実施する（12回目の授業）。オンライン実施回に変更が生じる場合は、授業内またはCanvasLMS等で周知する。

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： ICC3140

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部のR Guideに掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

今年度の英語科教育研究のテーマは、英語教育と教育工学の接点について学び、教室における指導に生かすことである。また到達目標は、以下の通りである。

- デジタル教科書を含む教材及びICTの活用について理解し、授業指導に生かすことができる。
- 教育工学の知見を外国語教育研究の理論と実践に活かすことができる。
- 教育現場におけるテクノロジー活用の可能性と課題について人に説明することができる。
- テクノロジーにできる/できないこと、人間にできる/できないことを説明できる。

This year's Studies in English Language Teaching theme is to learn about the interface between English language education and educational technology and apply it to classroom instruction. The objectives are as follows:

- To understand the use of educational materials, including digital textbooks and ICT, and to apply them to classroom instruction.
- To apply the knowledge of educational technology to the theory and practice of foreign language education

research.

3. Explain to others the possibilities and challenges of using technology in language education.

4. To explain what technology can and cannot do and what humans can and cannot do.

授業の内容 / Course Contents

この授業では英語教育と教育学の接点について学ぶ。教育学は、ただコンピュータやテクノロジーを援用した教育を指すのではなく、教育目標を達成するために、教育課程をシステムとして捉え、その技術を体系化することを目指している。そのため、カバーする領域は多岐にわたり、授業研究なども教育学に含まれる。デジタル教科書を含む教材及び ICT の活用について理解し、授業指導に生かすことができることと、テクノロジーと人間のできること/できないことについて深く理解することを目標に講義を進める。

In this class, students will learn about the interface between English language education and educational technology. Educational technology refers to more than education with computers and technology. It aims to view the educational process as a system and systematize the technology to achieve educational goals. Therefore, the areas covered are wide-ranging. This lecture will discuss the interface between educational technology and English language education. The lecture will proceed with the goals of understanding the use of educational materials and ICT, including digital textbooks, and their application to classroom instruction and of gaining a deep understanding of what technology and humans can/cannot do.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：オリエンテーション（英語教育と教育学）

2 回：Google classroom 実習

3 回：英語教育における ICT 活用①

4 回：英語教育における ICT 活用②

5 回：認知①

6 回：認知②

7 回：データ解析

8 回：メディア利用

9 回：コンピュータ利用

10 回：授業研究

11 回：教師教育

12 回：英語教育への多様なアプローチ

13 回：教育学の視点から英語教育を考える

14 回：最終課題作業日

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

指定されたりーディング課題を読んでもらうこと。また発表担当者は担当箇所のプレゼンテーションを行うこととなる。詳細は教場で指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% リフレクション・授業中の参加度・発言・プレゼンテーション:40% 中間課題:30% 最終課題:30%

テキスト/ Textbooks

初回の講義で指示する。

参考文献 / Readings

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

回によってはコンピュータやタブレットを持参する必要がある。詳細は教場で指示する。

その他/ Others

1. 授業形態について

PowerPoint を使用して解説や学生の発表がなされる。

授業全体で積極的な受講態度が期待される。

グループまたは個人で、テキスト内容の発表やプロジェクト発表、レポート作成を行う。

授業資料や課題は Learning Management System に掲載する。

2. 課題に対するフィードバックについて

提出物や発表に対して、個別や全体に向けたフィードバックを適宜行う。

3. 担当者のウェブサイト

<http://yutakaishii.com/>

日本語教授法 A

Teaching of Japanese as a Foreign Language A

丸山 千歌 (MARUYAMA CHIKA)

開講年度： 2024
科目設置学部： 異文化コミュニケーション学部
科目コード等： DM690
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： ICC3140
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

外国語としての日本語の諸特性をふまえ、外国語としての日本語を効果的に教えることについての基礎を理解し、説明することができる。

Students will learn and gain the ability to explain the basics of how to effectively teach Japanese as a foreign language in light of the various properties of Japanese as a foreign language.

授業の内容 / Course Contents

「国語」ではなく、「外国語としての日本語」の効果的な考え方について考えていく。日本語教師になるために最低限必要な資質を理解し、知識を身につけるとともに、具体的な教授法分析、教材分析も行う。

Students will learn effective approaches to considering Japanese as a foreign language, not as their own native language. Students will master the minimum knowledge required of Japanese language teachers and analyze specific teaching methods and course materials.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：授業説明、日本語教育と国語教育、日本語教育の特色

2 回：母語の学習と外国語教育、日本語教育の目標

- 3回：日本語教育の現場、日本語教師に必要な資質・能力
 4回：様々な練習法（ドリルの種類）
 5回：日本語の文法とその指導①
 6回：日本語の文法とその指導②（ゲストセッションを予定）
 7回：日本語の文法とその指導③
 8回：日本語の文字とその指導、日本語の語彙とその指導
 9回：日本語の音声の特徴とその指導
 10回：外国語教授法のいろいろ①
 11回：外国語教授法のいろいろ②
 12回：外国語教授法のいろいろ③、日本語教育の歴史
 13回：日本語教科書分析
 14回：振り返り・テスト

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：○	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

毎回の授業で指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 出席及び授業への参加度：30% 課題提出：30% 数回のテスト：40%

テキスト / Textbooks

近藤安月子・丸山千歌 『日本語教育実践入門：日本語の分析から教材・授業の創造まで』 東京大学出版会
 2021 4130820214 ○

その他プリント教材を使用

参考文献 / Readings

- 石田敏子 『改訂新版 日本語教授法』 大修館書店 1996 9784469221077
 高見澤孟 『新・はじめての日本語教育2 日本語教授法入門』 アルク 2004 4872175158
 日本語教育学会編 『日本語教育機関におけるコース・デザイン』 凡人社 1991 4893581236
 日本語教育学会編 『タスク日本語教授法』 凡人社 1995 4893583239
 近藤安月子 『日本語教師を目指す人のための日本語学入門』 研究社 2008 9784327384524
 小川誉子美 『蚕と戦争と日本語—欧米の日本理解はこうして始まった』 ひつじ書房 2020
 9784823410314

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

ディスカッションやグループワーク等の活動を積極的に関わり、能動的に学修を進めることが期待される。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

授業や課題提出にPCまたはタブレット端末を使用する。

その他 / Others

スケジュールや内容は調整する場合がある。

日本語教授法 B

Teaching of Japanese as a Foreign Language B

国内外の日本語教育の現場で必要な実践力を身につけよう

池田 伸子 (IKEDA NOBUKO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 異文化コミュニケーション学部

科目コード等： DM691

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： ICC3140

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

外国語として日本語を教える現場にはどのような課題が存在するのかについて学び、実践的にその課題に取り組み、問題を解決していく方法を知り、それが使えるようになる。また、近年増加している学習障害、特に言語理解に重大な問題を抱えるディスレクシアについて取りあげ、多様な学習者のニーズに対応する方法やストラテジーについて学び、実際に支援ができるようになる。また、言語文化政策の観点から日本語教育についても考え、ソフトパワーとしての日本語教育について自分の言葉で語れるようになる。

Learn what kinds of challenges exist in the actual practice of teaching Japanese as a foreign language, and learn and gain the ability to use practical methods for addressing those challenges and resolving problems. In addition, gain the ability to provide support for learning disabilities by using the example of dyslexia, which presents significant obstacles to understanding language, to learn methods and strategies for attending to the needs of a diverse array of language learners.

授業の内容 / Course Contents

実際の日本語教育の現場では、現在、どのような問題が存在しているのかを、実例をあげながら紹介してい

く。さらに、参加者個人個人が、その問題を解決する方法を模索し、みんなでそれを共有していきながら、実際に日本語教員になったときに、柔軟に目の前の問題に対応していくことができる方法、教授ストラテジー、持つべき態度 (attitude)などを身につけていく。同時に、言語文化政策としての日本語教育についても他国の事例を挙げながら説明し、ソフトパワーとしての日本語教育の役割を紹介する。実践的な対応力を身につけるため、講義だ

Actual examples will be used to introduce the kinds of challenges that currently exist in the actual practice of teaching Japanese as a foreign language. In addition, each and every student will search for ways to resolve these problems and share them with each other in an effort to help them master methods, teaching strategies and ideal attitudes for flexibly responding to problems they face when they actually become Japanese language teachers. The instructor has proactively scheduled simulations, fieldwork and the like in addition to lectures in an effort to help students master the ability to respond to these situations practically.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：日本語を教えるとはどういうことか。(様々な日本語教育の現場、世界と日本の社会と文化)、多言語・多文化主義
- 2 回：日本語教育の現場にはどのような問題があるのか。その1 (海外)、世界の日本語教育事情、言語政策
- 3 回：日本語教育の現場にはどのような問題があるのか。その2 (国内、教育機関、日本の日本語教育事情)、異文化間教育
- 4 回：日本語教育の現場にはどのような問題があるのか。その3 (国内、児童) 日本の在留外国人施策、多文化共生
- 5 回：日本語教育の現場にはどのような問題があるのか。その4 (国内、教育機関外) 言語政策とことば
- 6 回：多様なニーズとは何か。学習者特性とは何か。
- 7 回：学習障害、発達障害を持つ学習者への対応。隔離か統合か。インクルーシブ教育か。
- 8 回：実際の教育1 (教室活動、中間言語分析)
- 9 回：実際の教育2 (メディア活用、日本語教育とICT、著作権)
- 10 回：実際の教育3 (教師のベリーフと態度) KAP GAP
- 11 回：実際の教育4 (教室運営、多様性への対応、クラスルーム運営)
- 12 回：実際の教育5 (学習者をどう評価するか、評価法)
- 13 回：言語文化政策：ソフトパワーとしての日本語教育
- 14 回：日本語教師の資質と能力。教師の自己成長—成長する教師であるためには何が必要か。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	○	グループ発表	:	○	ディスカッション・ディベート:○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

毎回の授業で指示する。

学期中に2つのテーマでプレゼンテーションを課す。与えられた課題に対して、自分独自の視点から取り組み、オリジナリティのあるプレゼンができるよう準備をすること。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業への参加度:35% プレゼンテーション (15%×2) :30%
割合 :35%

最終レポート

テキスト/Textbooks

指定しない。必要なものはクラスで配付する。

参考文献 / Readings

必要なものは授業で紹介する。

その他/ Others

この授業は、2回のプレゼンテーションを含め、シミュレーション活動、グループディスカッションなどを積極的に取り入れて実施する。受講者には、すべての活動に自発的かつ積極的に参加する態度が強く望まれる。パワーポイントを用いた講義も実施するが、原則として教師と学生、学生同士のインターアクションによって授業が成立する。

プレゼンテーションやレポートについては、次回の授業でフィードバックを実施する。また、必要に応じてリアクションペーパーの提出を求めるが、それに対しても次回の授業でフィードバックを実施する。

また、レポ

日本語教育実習

Teaching Practicum-Japanese Language

丸山 千歌／清水 知子 (MARUYAMA CHIKA/ SHIMIZU TOMOKO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 異文化コミュニケーション学部

科目コード等： DM692

授業形態： 対面（一部オンライン）

授業形態（補足事項）教材分析の回（6回）はオンラインで実施する。振り返りの回（6回）は、教室のWIFI環境で実施形態を決定する。

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 4

科目ナンバリング： ICC3140

使用言語： 日本語

授業形式： 実習

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部のR Guideに掲載している科目表で確認してください。

先修規定： 先修科目：日本語教授法A・日本語教授法B

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 水曜：丸山，金曜：清水

授業の目標 / Course Objectives

具体的な学生のレベルを設定し、教案、教材作成を行う。参加者間の模擬授業を経て、実際の学生に授業を行い実践的教授スキルを身につける。

Assess the levels of specific language learners and create teaching plans and course materials tailored to those levels. Students will conduct mock classes amongst themselves to prepare to teach actual language learners in an effort to master practical teaching skills.

授業の内容 / Course Contents

初級レベルの学習者を対象とした授業を実施するために、週2回の授業を通して教案作成、教材作成、教室でのデモンストレーションを行い、最終的には実際の日本語学習者を学生として模擬授業を実施する。授業実施後は、ビデオ撮影された各自の授業の様子についてフィードバックを行う。

Students will create teaching plans and course materials, give demonstrations in class, and finally teach mock classes to actual learners of the Japanese language in order to learn to teach classes aimed at elementary language learners. After teaching the classes, they will receive feedback on their performance as they watch video

recordings of their classes.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：オリエンテーション，実習グループ分け，教科書分析①
- 2回：教科書分析②（オンライン），教案作成
- 3回：各学生の教案を分析，検討①②（オンライン）
- 4回：各学生の教案を分析，検討③（オンライン），マイクロティーチング①
- 5回：マイクロティーチング②③
- 6回：Can-do について考える、振り返り①（対面またはオンライン）
- 7回：振り返り②③（対面またはオンライン）
- 8回：各学生の教案を分析、検討 ①②（オンライン）
- 9回：各学生の教案を分析，検討③（オンライン）、マイクロティーチング①
- 10回：マイクロティーチング②③
- 11回：教室運営，学生とのインターアクション，ティーチャートーク①教室運営，学生とのインターアクション，ティーチャートーク②、
- 12回：多様な学習者について考える、振り返り①（対面またはオンライン）
- 13回：振り返り②③（対面またはオンライン）
- 14回：日本語教育再考①②

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：	○
個人発表	：	○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：	
実技・実習・実験	：	○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：	
上記いずれも用いない予定	：						

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

毎回の授業で指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 出席および参加度:10% 教案作成:30% マイクロティーチング:20% 実習:30%

最終レポート割合：:10%

テキスト / Textbooks

スリーエーネットワーク 『みんなの日本語 初級 I 第2版 本冊』 スリーエーネットワーク 2012
9784883196036 ○

上記テキストは9月20日の授業に持参すること。

参考文献 / Readings

適宜授業で紹介する。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

授業や課題提出はPCまたはタブレット端末を使用する可能性がある。

その他 / Others

- ・実習は10/26（土）・12/7（土）の午後に行う。登録の際は両日とも参加可能であることを必ず確認すること。
- ・実習費用が7000円程度かかる。金額は模擬授業への協力学生の人数が確定した時点で伝える。

- ・この科目を履修するためには「日本語教授法 A」「日本語教授法 B」を修得済みであることが必要である。
- ・履修希望者には面接および選抜テストがある。履修希望者は7月1日（月）18時55分からの面接・テストを受けること（詳細はR Guideを参照すること）。

留学、学びのデザイン、キャリア

Study Abroad, Study Planning, and Career Development

シ, ゲンギン (ZI YANYIN)

開講年度： 2024
科目設置学部： 異文化コミュニケーション学部
科目コード等： DM693
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期 1
単位： 2
科目ナンバリング： ICC2523
使用言語： その他
授業形式： 講義
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

By the end of the course, students will gain a new awareness of their experiences and individual growth. By doing so, students will be able to explain the connection between their international/intercultural experiences and their current and future academic interests as well as career aspirations. Students will be able to identify which academic interests and future experiences will best support their future plans. Students will be able to collaborate with others from diverse backgrounds and actively engage in pressing social issues from a global perspective.

授業の内容 / Course Contents

This course aims to have students reflect upon their intercultural experiences after studying overseas and/or through experiential learning via field studies. The course utilizes academic literature on studying abroad, multiculturalism (multicultural coexistence), and intercultural communication to assist students to analyze and discuss their personal experiences and realize their own change and growth.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回： Introduction to the Course
- 2 回： Reflecting on your international/intercultural experiences #1

- 3回：Reflecting on your international/intercultural experiences #2
 4回：Cultural readjustment and reverse culture shock #1
 5回：Cultural readjustment and reverse culture shock #2
 6回：Studying Abroad, Intercultural Competence, and Global Awareness on Social Issues #1
 7回：Studying Abroad, Intercultural Competence, and Global Awareness on Social Issues #2
 8回：Connecting your international/intercultural experiences to academic interests and goals #1
 9回：Connecting your international/intercultural experiences to academic interests and goals #2
 10回：Connecting learning to careers #1
 11回：Connecting learning to careers #2
 12回：Final presentations #1
 13回：Final presentations #2
 14回：Course wrap-up

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド* (パワポ* 等) の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

1. Students are expected to have completed reading assignments prior to class.
2. Students will need to work outside of class to prepare for their final presentation.

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：002) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Attendance & Participation:40% E-Portfolio Assignment:30% Final presentation:30%

E-portfolio Assignment: Create and maintain an e-portfolio throughout the course as assigned. The e-portfolio will represent your reflections, current plans, and future goals.

Final Presentation: The Final Presentation will be a poster presentation. You

テキスト / Textbooks

No particular textbook will be used. Readings and materials will be provided by the instructor.

The following texts may be used as reference when necessary:

- ・ Berdan, S., Goodman, A. E., Taylor, C. (2013). A Student Guide to Study Abroad. Institute of International Education.
- ・ Paige, R., Cohen, A., Kappler, B., Chi, J., Lassegard, J. (2002). Maximizing Study Abroad: A Students' Guide to Strategies for Language and Culture Learning and Use. University of Minnesota Center for Advanced Research on Language Acquisition.

参考文献 / Readings

Additional readings will be provided by the course instructor.

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

It would be helpful to have a device in class (e.g. a tablet or laptop) to view materials distributed via Canvas and/or Google Drive.

留学、学びのデザイン、キャリア

Study Abroad, Study Planning, and Career Development

ガービー, K. (GARVEY KEVIN PATRICK)

開講年度：	2024
科目設置学部：	異文化コミュニケーション学部
科目コード等：	DM694
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	春学期2
単位：	2
科目ナンバリング：	ICC2523
使用言語：	その他
授業形式：	講義
履修登録方法：	備考参照
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	登録方法については、学部・留学準備室等からの案内を確認すること。

授業の目標 / Course Objectives

By the end of the course, students will gain a new awareness of their experiences and individual growth. By doing so, students will be able to explain the connection between their international/intercultural experiences and their current and future academic interests as well as career aspirations. Students will be able to identify which academic interests and future experiences will best support their future plans. Students will be able to collaborate with others from diverse backgrounds and actively engage in pressing social issues from a global perspective.

授業の内容 / Course Contents

This course aims to have students reflect upon their intercultural experiences after studying overseas and/or through experiential learning via field studies. The course utilizes academic literature on studying abroad, multiculturalism (multicultural coexistence), and intercultural communication to assist students to analyze and discuss their personal experiences and realize their own change and growth.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：Introduction to the Course
- 2 回：Reflecting on your international/intercultural experiences #1

- 3回：Reflecting on your international/intercultural experiences #2
 4回：Cultural readjustment and reverse culture shock #1
 5回：Cultural readjustment and reverse culture shock #2
 6回：Studying Abroad, Intercultural Competence, and Global Awareness on Social Issues #1
 7回：Studying Abroad, Intercultural Competence, and Global Awareness on Social Issues #2
 8回：Connecting your international/intercultural experiences to academic interests and goals #1
 9回：Connecting your international/intercultural experiences to academic interests and goals #2
 10回：Connecting learning to careers #1
 11回：Connecting learning to careers #2
 12回：Final presentations #1
 13回：Final presentations #2
 14回：Course wrap-up

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワーポイント等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

1. Students are expected to have completed reading assignments prior to class.
2. Students will need to work outside of class to prepare for their final presentation.

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% Attendance & Participation:40% E-Portfolio Assignment:30% Final presentation:30%

E-portfolio Assignment: Create and maintain an e-portfolio throughout the course as assigned. The e-portfolio will represent your reflections, current plans, and future goals.

Final Presentation: The Final Presentation will be a poster presentation. You

テキスト / Textbooks

No particular textbook will be used. Readings and materials will be provided by the instructor.

The following texts may be used as reference when necessary:

- ・ Berdan, S., Goodman, A. E., Taylor, C. (2013). A Student Guide to Study Abroad. Institute of International Education.
- ・ Paige, R., Cohen, A., Kappler, B., Chi, J., Lassegard, J. (2002). Maximizing Study Abroad: A Students' Guide to Strategies for Language and Culture Learning and Use. University of Minnesota Center for Advanced Research on Language Acquisition.

参考文献 / Readings

Additional readings will be provided by the course instructor.

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

It would be helpful to have a device in class (e.g. a tablet or laptop) to view materials distributed via Canvas and/or Google Drive.

Study Abroad in Asia A

Study Abroad in Asia A

マーティン, R、石井 正子、石黒 武人 (MARTIN, RON R., ISHII MASAKO, ISHIGURO TAKETO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 異文化コミュニケーション学部
科目コード等： DM695
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項） An online component may be a part of any of the programs. Consult each program separately.
校地： 池袋
学期： 秋学期他
単位： 12
科目ナンバリング： ICC2523
使用言語： その他
授業形式： 実習
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

ソウル大学校自由専攻学部、北京大学元培学院、シンガポール国立大学ユニバーシティ・スカルーズ・プログラムとのコンソーシアムにおいて共同運営する ACE (Asian Consortium for Excellence in Liberal Arts and Interdisciplinary Education) プログラムへの参加を通して、グローバル社会における諸事象に対する幅広い視野や思考、問題解決の方法を身に着けることを目的とする。

Students will participate in the Asian Consortium for Excellence in Liberal Arts and Interdisciplinary Education (ACE), an international exchange program with the College of Liberal Studies at Seoul National University, the Yuanpei College of Peking University and the University Scholars Programme at the National University of Singapore. The goal of the ACE program is to help students expand their perspective and thinking on various challenges facing the global society and develop problem solving skills to cope with them.

授業の内容 / Course Contents

国内での事前研修を経て、ソウル大学校自由専攻学部、北京大学元培学院、シンガポール国立大学ユニバーシティ・スカルーズ・プログラムのいずれかの「パートナー大学」で、リベラルアーツ教育を基礎として、学問

分野や地理的境界を越境し、アジア圏の他大学で学ぶ学生や地域の人々との多様な協働を通じて、現代のアジアさらには国際社会の諸問題の解決について学んでいく。

After completing a pre-training program in Japan, students will spend a semester studying at one of the “partner universities” (Seoul National University, Peking University, and the National University of Singapore). By pursuing a liberal arts education, engaging in interdisciplinary learning beyond geographical boundaries, and collaborating with students studying in different Asian regions as well as with local people living in the regions, they will learn how to solve various contemporary issues and challenges facing Asia and the global society.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：Introduction & ガイダンス 1
- 2回：ガイダンス 2
- 3回：ガイダンス 3
- 4回：ガイダンス 4
- 5回：体験学習 1
- 6回：体験学習 2
- 7回：体験学習 3
- 8回：体験学習 4
- 9回：体験学習 5
- 10回：体験学習 6
- 11回：体験学習 7
- 12回：体験学習 8
- 13回：ふりかえり 1
- 14回：ふりかえり 2

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：	○			

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

毎回の授業で指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 事前準備への取り組み状況:25% 週報:10% 留学先での履修科目(全タームで合格となることが必要):35% 最終レポート割合：:30%

テキスト / Textbooks

各派遣先大学で指定されたものを使用する。

参考文献 / Readings

その他 / Others

Canvas で指示する。

Study Abroad in Asia B

Study Abroad in Asia B

マーティン, R、石井 正子、石黒 武人 (MARTIN, RON R., ISHII MASAKO, ISHIGURO TAKETO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 異文化コミュニケーション学部

科目コード等： DM696

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項） An online component may be a part of any of the programs. Consult each program separately.

校地： 池袋

学期： 春学期他

単位： 12

科目ナンバリング： ICC2523

使用言語： その他

授業形式： 実習

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

ソウル大学校自由専攻学部、北京大学元培学院、シンガポール国立大学ユニバーシティ・スカルーズ・プログラムとのコンソーシアムにおいて共同運営する ACE (Asian Consortium for Excellence in Liberal Arts and Interdisciplinary Education) プログラムへの参加を通して、グローバル社会における諸事象に対する幅広い視野や思考、問題解決の方法を身に着けることを目的とする。

Students will participate in the Asian Consortium for Excellence in Liberal Arts and Interdisciplinary Education (ACE), an international exchange program with the College of Liberal Studies at Seoul National University, the Yuanpei College of Peking University and the University Scholars Programme at the National University of Singapore. The goal of the ACE program is to help students expand their perspective and thinking on various issues concerning the global society and develop problem solving skills to cope with them.

授業の内容 / Course Contents

国内での事前研修およびソウル大学校自由専攻学部、北京大学元培学院、またはシンガポール国立大学ユニバーシティ・スカルーズ・プログラムでの 1 学期間の留学（第 1 セメスター留学）を経て、別の「パートナー大

学」で引き続き1学期間学んでいく（第2セメスター留学）。

Following the pre-training program in Japan and the study abroad experience at one of the “partner universities” (Seoul National University, Peking University, and the National University of Singapore), students will spend another semester studying at a different “partner university.”

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1回：Introduction & ガイダンス 1

2回：ガイダンス 2

3回：ガイダンス 3

4回：ガイダンス 4

5回：体験学習 1

6回：体験学習 2

7回：体験学習 3

8回：体験学習 4

9回：体験学習 5

10回：体験学習 6

11回：体験学習 7

12回：体験学習 8

13回：ふりかえり 1

14回：ふりかえり 2

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：	○			

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

毎回の授業で指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 事前準備への取り組み状況:25% 週報:10% 留学先での履修科目(全タームで合格となることが必要):35% 最終レポート割合：:30%

テキスト / Textbooks

各派遣先大学で指定されたものを使用する。

参考文献 / Readings

その他 / Others

Canvas で指示する。

海外留学研修 B

Overseas Study Program B

マーティン, R、石井 正子、石黒 武人 (MARTIN, RON R., ISHII MASAKO, ISHIGURO TAKETO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 異文化コミュニケーション学部

科目コード等： DM697

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項） An online component may be the pre-departure briefing sessions. Check the schedule closely. In addition, a part of any of the programs offered may also include an online component. Consult each program separately.

校地： 池袋

学期： 春学期他

単位： 14

科目ナンバリング： ICC2523

使用言語： その他

授業形式： 実習

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

2 年次秋学期に英語・独語・仏語・西語・中国語・朝鮮語のいずれかの言語圏へ留学し、当該言語の運用能力の向上と異文化対応能力を養う。

In the fall semester of their second year, students will study abroad in a country or region where English, German, French, Spanish, Chinese or Korean is spoken in order to improve their proficiency in their second language and their ability to cope with different cultures.

授業の内容 / Course Contents

1 年次春学期から国別説明会等を行い、準備を始める。1 年次秋学期に留学先大学を決定し、願書を提出する。2 年次春学期には、留学先として選択した言語圏の語学力強化科目（「CS3A-R」または「CS3B-R」）を受講し、同時に留学先別事前オリエンテーションなどに参加する。

留学先の大学では、「海外留学研修 A」より長期のアカデミックおよびランゲージプログラムに参加することができる。

また、ホームステイや寮生活、現地の人々との交流などを通して留学先の文化を学ぶ。留学に向けてセミナー等を行う。これらのスケジュールなどを

Students will begin preparing and attending briefings and the like for individual countries starting in the spring semester of their first year. In the fall semester of their first year, students will determine the universities at which they want to study abroad, and submit applications. In the spring semester of their second year, students will take courses (CS3A-R or CS3B-R) to strengthen their abilities in the languages spoken in the countries they chose for their study abroad, and participate in orientations and other events held for destination countries in advance of their time abroad. Students who do not meet a certain level of language ability will take mainly language courses at the universities at which they study abroad, but students who do meet that level are able to take classes and participate in programs at those universities. Students will also learn the cultures of their destination countries through homestays, dorm life and interacting with people who live there. Seminars and the like will be held to help students prepare for studying abroad. Students must attend the session on the date below to receive schedules and other information about these seminars.

First year: Thursday, April 11, 3rd period (Location: TBD / within the CLP A class)

Second year: Overseas Study Program C1/C2 -- (Date/Time: TBD) (Location: TBD)

Second year: Overseas Study Program A/B -- (Date/Time: TBD) (Location: TBD)

Students should make a habit of checking Canvas for important notices. Students should also set Spirit Gmail to be forwarded to their mobile phones.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1回：Introduction & ガイダンス 1

2回：ガイダンス 2

3回：ガイダンス 3

4回：ガイダンス 4

5回：体験学習 1

6回：体験学習 2

7回：体験学習 3

8回：体験学習 4

9回：体験学習 5

10回：体験学習 6

11回：体験学習 7

12回：体験学習 8

13回：ふりかえり 1

14回：ふりかえり 2

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:	○			

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

毎回の授業で指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 事前準備への取り組み状況:25% 週報:10% 留学先での履修科目(全タームで合格となる
ことが必要):35% 最終レポート割合 :30%

成績評価方法・基準については、自身が留学する年度のシラバスで改めて確認すること。

テキスト / Textbooks

各派遣先大学で指定されたものを使用する。

参考文献 / Readings

その他 / Others

Canvas で指示する。

海外留学研修 A

Overseas Study Program A

マーティン, R、石井 正子、石黒 武人 (MARTIN, RON R., ISHII MASAKO, ISHIGURO TAKETO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 異文化コミュニケーション学部

科目コード等： DM698

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項） An online component may be the pre-departure briefing sessions. Check the schedule closely. In addition, a part of any of the programs offered may also include an online component. Consult each program separately.

校地： 池袋

学期： 春学期他

単位： 12

科目ナンバリング： ICC2523

使用言語： その他

授業形式： 実習

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

2 年次秋学期に英語・独語・仏語・西語・中国語・朝鮮語のいずれかの言語圏へ留学し、当該言語の運用能力の向上と異文化対応能力を養う。

In the fall semester of their second year, students will study abroad in a country or region where English, German, French, Spanish, Chinese or Korean is spoken in order to improve their proficiency in their second language and their ability to cope with different cultures.

授業の内容 / Course Contents

1 年次春学期から国別説明会等を行い、準備を始める。1 年次秋学期に留学先大学を決定し、願書を提出する。2 年次春学期には、留学先として選択した言語圏の語学力強化科目（「CS3A-R」または「CS3B-R」）を受講し、同時に留学先別事前オリエンテーションなどに参加する。

留学先の大学では、基準を満たしている場合はアカデミックプログラムに参加することができる。語学力が一定の基準を満たしていない場合はランゲージプログラムに参加することができる。

また、ホームステイや寮生活、現地の人々との交流などを通して留学先の文化

Students will begin preparing and attending briefings and the like for individual countries starting in the spring semester of their first year. In the fall semester of their first year, students will determine the universities at which they want to study abroad, and submit applications. In the spring semester of their second year, students will take courses (CS3A-R or CS3B-R) to strengthen their abilities in the languages spoken in the countries they chose for their study abroad, and participate in orientations and other events held for destination countries in advance of their time abroad. Students who do not meet a certain level of language ability will take mainly language courses at the universities at which they study abroad, but students who do meet that level are able to take classes and participate in programs at those universities. Students will also learn the cultures of their destination countries through homestays, dorm life and interacting with people who live there. Seminars and the like will be held to help students prepare for studying abroad. Students must attend the session on the date below to receive schedules and other information about these seminars.

First year: Thursday, April 11, 3rd period (Location: TBD / within the CLP A class)

Second year: Overseas Study Program C1/C2 -- (Date/Time: TBD) (Location: TBD)

Second year: Overseas Study Program A/B -- (Date/Time: TBD) (Location: TBD)

Students should make a habit of checking Canvas for important notices. Students should also set Spirit Gmail to be forwarded to their mobile phones.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1回：Introduction & ガイダンス 1

2回：ガイダンス 2

3回：ガイダンス 3

4回：ガイダンス 4

5回：体験学習 1

6回：体験学習 2

7回：体験学習 3

8回：体験学習 4

9回：体験学習 5

10回：体験学習 6

11回：体験学習 7

12回：体験学習 8

13回：ふりかえり 1

14回：ふりかえり 2

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド* (パワポ* 等) の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：	○			

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

毎回の授業で指示する。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：2) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 事前準備への取り組み状況:25% 週報:10% 留学先での履修科目(全タームで合格となる
ることが必要):35% 最終レポート割合 :30%

成績評価方法・基準については、自身が留学する年度のシラバスで改めて確認すること。

テキスト/ Textbooks

各派遣先大学で指定されたものを使用する。

参考文献 / Readings

その他/ Others

Canvas で指示する。

海外留学研修 B

Overseas Study Program B

マーティン, R、石井 正子、石黒 武人 (MARTIN, RON R., ISHII MASAKO, ISHIGURO TAKETO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 異文化コミュニケーション学部

科目コード等： DM699

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項） An online component may be the pre-departure briefing sessions. Check the schedule closely. In addition, a part of any of the programs offered may also include an online component. Consult each program separately.

校地： 池袋

学期： 秋学期他

単位： 14

科目ナンバリング： ICC2523

使用言語： その他

授業形式： 実習

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

2 年次秋学期に英語・独語・仏語・西語・中国語・朝鮮語のいずれかの言語圏へ留学し、当該言語の運用能力の向上と異文化対応能力を養う。

In the fall semester of their second year, students will study abroad in a country or region where English, German, French, Spanish, Chinese or Korean is spoken in order to improve their proficiency in their second language and their ability to cope with different cultures.

授業の内容 / Course Contents

1 年次春学期から国別説明会等を行い、準備を始める。1 年次秋学期に留学先大学を決定し、願書を提出する。2 年次春学期には、留学先として選択した言語圏の語学力強化科目（「CS3A-R」または「CS3B-R」）を受講し、同時に留学先別事前オリエンテーションなどに参加する。

留学先の大学では、「海外留学研修 A」より長期のアカデミックおよびランゲージプログラムに参加することができる。

また、ホームステイや寮生活、現地の人々との交流などを通して留学先の文化を学ぶ。留学に向けてセミナー等を行う。これらのスケジュールなどを

Students will begin preparing and attending briefings and the like for individual countries starting in the spring semester of their first year. In the fall semester of their first year, students will determine the universities at which they want to study abroad, and submit applications. In the spring semester of their second year, students will take courses (CS3A-R or CS3B-R) to strengthen their abilities in the languages spoken in the countries they chose for their study abroad, and participate in orientations and other events held for destination countries in advance of their time abroad. Students who do not meet a certain level of language ability will take mainly language courses at the universities at which they study abroad, but students who do meet that level are able to take classes and participate in programs at those universities. Students will also learn the cultures of their destination countries through homestays, dorm life and interacting with people who live there. Seminars and the like will be held to help students prepare for studying abroad. Students must attend the session on the date below to receive schedules and other information about these seminars.

First year: Thursday, April 11, 3rd period (Location: TBD / within the CLP A class)

Second year: Overseas Study Program C1/C2 -- (Date/Time: TBD) (Location: TBD)

Second year: Overseas Study Program A/B -- (Date/Time: TBD) (Location: TBD)

Students should make a habit of checking Canvas for important notices. Students should also set Spirit Gmail to be forwarded to their mobile phones.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1回：Introduction & ガイダンス 1

2回：ガイダンス 2

3回：ガイダンス 3

4回：ガイダンス 4

5回：体験学習 1

6回：体験学習 2

7回：体験学習 3

8回：体験学習 4

9回：体験学習 5

10回：体験学習 6

11回：体験学習 7

12回：体験学習 8

13回：ふりかえり 1

14回：ふりかえり 2

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：	○			

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

毎回の授業で指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 事前準備への取り組み状況:25% 週報:10% 留学先での履修科目(全タームで合格となる
ことが必要):35% 最終レポート割合：:30%

成績評価方法・基準については、自身が留学する年度のシラバスで改めて確認すること。

テキスト / Textbooks

各派遣先大学で指定されたものを使用する。

参考文献 / Readings

その他 / Others

Canvas で指示する。

海外留学研修 A

Overseas Study Program A

マーティン, R、石井 正子、石黒 武人 (MARTIN, RON R., ISHII MASAKO, ISHIGURO TAKETO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 異文化コミュニケーション学部

科目コード等： DM700

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項） An online component may be the pre-departure briefing sessions. Check the schedule closely. In addition, a part of any of the programs offered may also include an online component. Consult each program separately.

校地： 池袋

学期： 秋学期他

単位： 12

科目ナンバリング： ICC2523

使用言語： その他

授業形式： 実習

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

2 年次秋学期に英語・独語・仏語・西語・中国語・朝鮮語のいずれかの言語圏へ留学し、当該言語の運用能力の向上と異文化対応能力を養う。

In the fall semester of their second year, students will study abroad in a country or region where English, German, French, Spanish, Chinese or Korean is spoken in order to improve their proficiency in their second language and their ability to cope with different cultures.

授業の内容 / Course Contents

1 年次春学期から国別説明会等を行い、準備を始める。1 年次秋学期に留学先大学を決定し、願書を提出する。2 年次春学期には、留学先として選択した言語圏の語学力強化科目（「CS3A-R」または「CS3B-R」）を受講し、同時に留学先別事前オリエンテーションなどに参加する。

留学先の大学では、基準を満たしている場合はアカデミックプログラムに参加することができる。語学力が一定の基準を満たしていない場合はランゲージプログラムに参加することができる。

また、ホームステイや寮生活、現地の人々との交流などを通して留学先の文化

Students will begin preparing and attending briefings and the like for individual countries starting in the spring semester of their first year. In the fall semester of their first year, students will determine the universities at which they want to study abroad, and submit applications. In the spring semester of their second year, students will take courses (CS3A-R or CS3B-R) to strengthen their abilities in the languages spoken in the countries they chose for their study abroad, and participate in orientations and other events held for destination countries in advance of their time abroad. Students who do not meet a certain level of language ability will take mainly language courses at the universities at which they study abroad, but students who do meet that level are able to take classes and participate in programs at those universities. Students will also learn the cultures of their destination countries through homestays, dorm life and interacting with people who live there. Seminars and the like will be held to help students prepare for studying abroad. Students must attend the session on the date below to receive schedules and other information about these seminars.

First year: Thursday, April 11, 3rd period (Location: TBD / within the CLP A class)

Second year: Overseas Study Program C1/C2 -- (Date/Time: TBD) (Location: TBD)

Second year: Overseas Study Program A/B -- (Date/Time: TBD) (Location: TBD)

Students should make a habit of checking Canvas for important notices. Students should also set Spirit Gmail to be forwarded to their mobile phones.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1回：Introduction & ガイダンス 1

2回：ガイダンス 2

3回：ガイダンス 3

4回：ガイダンス 4

5回：体験学習 1

6回：体験学習 2

7回：体験学習 3

8回：体験学習 4

9回：体験学習 5

10回：体験学習 6

11回：体験学習 7

12回：体験学習 8

13回：ふりかえり 1

14回：ふりかえり 2

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド* (パワポ* 等) の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：	○			

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

毎回の授業で指示する。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：002) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 事前準備への取り組み状況:25% 週報:10% 留学先での履修科目(全タームで合格となる
ることが必要):35% 最終レポート割合 :30%

成績評価方法・基準については、自身が留学する年度のシラバスで改めて確認すること。

テキスト/ Textbooks

各派遣先大学で指定されたものを使用する。

参考文献 / Readings

その他/ Others

Canvas で指示する。

専門演習 1

Advanced Seminar 1

金子 亜美 (KANEKO AMI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 異文化コミュニケーション学部
科目コード等： DM702
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： ICC3543
使用言語： その他
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定： 履修要項を確認すること。
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

この授業では、文献講読とディスカッションを通じて現代文化人類学の研究潮流を知り、学生個人の問題関心をその中に位置付ける。その上で自身の卒業研究のテーマを考え、実際に調査を行う。

Students relate their interests to academic debates of cultural anthropology today, choose a topic and practice research.

授業の内容 / Course Contents

Jane Hill の The Everyday Language of White Racism を講読しながら自身の関心を深める。一章ごとに読み進め、関連分野に関するレポートを執筆する。その中で、卒業論文の執筆を見据えたアカデミック・ライティングの方法を確認する。

Students read Jane Hill's The Everyday Language of White Racism about racism in the contemporary US, deepen their academic interests. Write reports and practice academic writing techniques.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：授業の概要説明
- 2 回：講読 Chapter 1.

- 3回：講読 Chapter 1.
 4回：講読 Chapter 2.
 5回：講読 Chapter 2.
 6回：講読 Chapter 3.
 7回：講読 Chapter 3.
 8回：文献引用の仕方講義
 9回：講読 Chapter 4.
 10回：講読 Chapter 4.
 11回：講読 Chapter 5.
 12回：講読 Chapter 5.
 13回：文献表作成実習
 14回：最終レポートのピアエディティング

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	○	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:	○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

Jane Hill の The Everyday Language of White Racism の講読を行う。代表一名がレジユメを作成し、他の全ての受講者は毎回該当部分を講読しコメントする。わからない部分を飛ばし読みするのではなくわかるまで読み込み調べる貪欲さを大切にしてほしい。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：002) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 出席と毎回の授業でのコメント:60% 最終レポート割合 :40%

テキスト / Textbooks

Jane Hill The Everyday Language of White Racism Wiley-Blackwell 2008 9781405184540 ○

授業中に指示する。

参考文献 / Readings

授業中に紹介する。

専門演習 1

Advanced Seminar 1

伊藤 萌紅 (ITO H MEGU)

開講年度： 2024
科目設置学部： 異文化コミュニケーション学部
科目コード等： DM703
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： ICC3543
使用言語： その他
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定： 履修要項を確認すること。
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

This seminar seeks to equip students with the critical thinking, reading, and writing skills for their Senior Research and Thesis. Students will be taught the foundational elements of research (organization, methods, etc.), and will select and write on a topic of their choice.

授業の内容 / Course Contents

This course is designed to empower students to be rhetorical critics. We will briefly discuss rhetorical studies, the history of rhetorical criticism, then delve into applications of rhetorical criticism as method. Students will be exposed to a variety of texts (ranging from public speeches to Tik Toks) and critical theories to evaluate rhetorical arguments. Although the course will engage concepts of transnational feminism as the collective entry point, students will be encouraged to pursue their own interests. By applying rhetorical criticism to a text of their choice, students will gain the necessary knowledge and skills to write their thesis (including topic selection, research, academic writing, presentation, and academic advising).

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回： Introductions to the Seminar: Orientations to Transnational Feminism

- 2 回：Transnational Feminist Rhetorics (Rhetoric: An Overview)
 3 回：Transnational Feminist Theory Part I: Feminist Theory (Rhetoric and Theory)
 4 回：Transnational Feminist Theory Part II: Decolonial and Comparative Theory (Rhetoric and Theory)
 5 回：Transnational Feminist Methods (Rhetorical Criticism as Method)
 6 回：Research Process Part I (Selecting a Topic, Academic Advising Expectations)
 7 回：Research Process Part II (Designing a Study and Outlining a Literature Review)
 8 回：Transnational Feminist Case Studies Part I (Text and Context)
 9 回：Transnational Feminist Case Studies Part II (Evaluating Rhetorical Criticism)
 10 回：Research Process Part III (Drafting a Research Proposal)
 11 回：Research Process Part IV (Giving and Receiving Peer Feedback)
 12 回：Research Process Part V (Implementing Peer Feedback)
 13 回：Research Presentations
 14 回：Conclusions to the Seminar

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド* (パワポ等) の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

The instructor will communicate specific assignment guidelines every class period. However, students can generally expect to spend approximately 100-120 minutes studying outside of class per week (the number will vary for each student and for each assignment).

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：002) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Attendance and in-class participation:30% Research Proposal:10% Mid-Term Report:10% Peer Feedback:10% Revision Reflections:10% Final Report:30%

Students should attend 80% or more of the classes taught to earn a passing grade.

テキスト / Textbooks

Readings will be distributed by the instructor.

参考文献 / Readings

R.P. Hart Modern Rhetorical Criticism Routledge 2018 9781138702493

B. Ott and G. Dickinson The Routledge Reader in Rhetorical Criticism Routledge 2013 9780415517553

A. Tambe and M. Thayer Transnational Feminist Itineraries: Situating Theory and Activist Practice Duke University Press 2021 9781478014430

R. Dingo Networking Arguments: Rhetoric, Transnational Feminism, and Public Policy Writing University of Pittsburgh Press 2012 0822961881

S.S. Yam Inconvenient Strangers: Transnational Subjects and the Politics of Citizenship Ohio State University Press 2019 9780814255513

The course will draw from, but is not limited to, these readings.

専門演習 1

Advanced Seminar 1

金 知賢 (KIM JIHYEON)

開講年度： 2024

科目設置学部： 異文化コミュニケーション学部

科目コード等： DM705

授業形態： 対面（一部オンライン）

授業形態（補足事項） Classes on weeks 4, 5, and 13 will be conducted online. Details will be announced in class or posted on Canvas LMS.

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： ICC3543

使用言語： その他

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定： 履修要項を確認すること。

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

Advanced Seminar I aims to support students in developing the fundamental research and writing skills necessary for successfully completing their senior thesis in their respective academic interests. Another aim of this seminar is to help students explore, determine, and refine the research topic regarding interpreting in public services.

授業の内容 / Course Contents

The theme of this seminar is “Interpreting in Public Services,” which aims to introduce and explore the profession of court interpreting along with linguistic needs in other public services. In this seminar, reading materials about community interpreting will be used to help students identify research questions, methods, and techniques of existing research in the field.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回： Course introduction

2 回： Confirming thesis components, style, and format

3 回： Individual Presentation: Academic interests and research objectives

- 4回：Utilizing the library to find reliable sources
 5回：Library literacy course: Off-campus assignment
 6回：Refining a research topic and building a reading list
 7回：Critical reading and writing: purpose, methods, and main findings
 8回：Rules regarding plagiarism: Ethical principles and violations in academic writing
 9回：Citing and referencing sources: Referencing exercises 1-8
 10回：Citing and referencing sources: Referencing exercises 9-17
 11回：Individual presentation 1: Presenting and discussing research sources
 12回：Individual presentation 2: Presenting and discussing research sources
 13回：Individual consultation: Research planning and preparation for thesis writing
 14回：Submission of research proposal

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	○	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:	○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

During each class, students will be required to actively participate in class discussions on an assigned reading or a topic. There will be one writing assignment and two individual presentations during the semester. In conducting these assignments, studen

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：002) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Attendance & Class Participation:40% Individual Presentation:30% Research Proposal:30%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

The instructor will provide readings and handouts as necessary.

その他 / Others

*The syllabus is subject to change. Changes, if any, will be announced during classes.

専門演習 1

Advanced Seminar 1

イ, ヒャンジン (LEE HYANGJIN)

開講年度： 2024

科目設置学部： 異文化コミュニケーション学部

科目コード等： DM706

授業形態： 対面（一部オンライン）

授業形態（補足事項）対面（一部オンライン）

全授業回のうち2回はオンラインで実施する（5・7回目の授業）。オンライン実施回に変更が生じる場合は、授業内または Canvas LMS 等で周知する。

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： ICC3543

使用言語： その他

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定： 履修要項を確認すること。

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

各自の問題意識を学術的なテーマと結びつけることで「卒業研究」のテーマを設定することを目標とし、そのために必要な基礎的な事項(研究方法など)を身につけるための授業を行う。

The goal of this seminar is for students to determine themes for Senior Research and Thesis by connecting their awareness of various issues to academic themes, and classes are conducted to help students master the fundamental elements (research methods and the like) required to make that determination.

授業の内容 / Course Contents

本演習では、映画が持つ様々な産業的基盤と社会的規範、製作環境、地域的特性を理解し、映画における人種や民族、ジェンダーとセクシュアリティをトランスナショナルな観点で分析し、各自の卒業研究テーマを探ることを目的とする。授業の内容は各自の研究テーマを扱っている代表的な作品やジャンル、主な監督の作品が社会的マイノリティーのアイデンティティを再現するために使う特有な映画的方法と文化的意味を考察する。映像分析実践のためにフィルム・スタディーズの基本的な理論と方法論を学習する。

授業は学生自ら作品を選び、その作品をこれ

The goal of this seminar is for students to understand the various industrial bases, social norms, production environments and regional characteristics of Japanese and other films throughout the world, to analyze the races, ethnicities, genders and sexualities in the films from a transnational perspective and to search for themes for their graduation theses. Classes will be spent considering representative works and genres that deal with students' chosen research themes, and considering cultural meanings and specific cinematic strategies that prominent directors used to recreate the identities of social minorities in their works. Students will learn basic theories and methods of film studies to use in their film analysis.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：オリエンテーション
- 2 回：論文の目的とテーマについて
- 3 回：論文の構成について
- 4 回：論文の目的とテーマ、構成の発表と討議
- 5 回：映像文化論について：理論と方法論
- 6 回：文献調査と討議 1
- 7 回：文献調査と討議 2
- 8 回：文献調査の報告と発表 1
- 9 回：文献調査の報告と発表 2
- 10 回：映像作品の製作とワークショップ
- 11 回：テキスト分析の方法と討議 1
- 12 回：テキスト分析の方法と討議 2
- 13 回：テキスト分析の方法と討議 3
- 14 回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：	○	
個人発表	：	○	グループ発表	：	○	ディスカッション・ディベート	：	○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	○	校外実習・フィールドワーク	：	○	
上記いずれも用いない予定	：							

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

毎回の授業で指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 最終レポート(Final Report):40% 授業内に指示した課題物:30% プレゼンテーション:30%

テキスト / Textbooks

イ・ヒャンジン 『コリアン・シネマ：北朝鮮・韓国・トランスナショナル』 みすず書房 2018
4622086646 ○

参考文献 / Readings

専門演習 1

Advanced Seminar 1

新野 守広 (NIINO MORIHIRO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 異文化コミュニケーション学部
科目コード等： DM707
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： ICC3543
使用言語： その他
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定： 履修要項を確認すること。
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

各自の問題意識と関心を学術的なテーマに結びつけて「卒業研究」の方向性を見出すことを目標とし、そのために必要な基礎的な知識と考え方を身につける。

The aim is to link the individual student's interests, and issues they are aware of, to an academic topic in order to determine the direction in which to take their graduation research project. We will teach the basic knowledge and perspective required to achieve this aim.

授業の内容 / Course Contents

都市文化論の観点から現代社会が直面するグローバル化の諸問題を扱う。多様な文化が入り混じる場である都市が巨大化するのとはなぜか。近代都市が生み出した文化の多様性についての理解を深める一方で、近代化の過程で文化が蒙った変容について、明治期日本の知識人の西欧体験などをもとに考察する。後半では 70 年代以降現在にいたる日本の都市文化論にも触れるとともに、グローバル化の進む現在の日本社会の諸問題についても議論する。これらのテーマは講義科目「グローバル化と思想」でも紹介するので、履修者は同科目に出席することが望ましい。そ

We will deal with the various globalization related problems facing modern society, from an urban culture

perspective. As the mixing ground for diverse cultures, why do urban areas become so enormous? While developing understanding of the cultural diversity generated by modern cities, we will study the transformation that culture has suffered through the process of modernization, based on accounts of experiences of the West, by intellectuals from the Japanese Meiji Era. In the second half of the lecture series, as well as touching on Japanese urban culture from the seventies until present day, we will also discuss the various problems facing the modern Japanese society undergoing expanding globalization. These subjects will be introduced in the lecture module, 'Globalization and Social Ideas' so it is preferred that students attend both modules. It is hoped that students will build on the lecture content by attending this seminar and developing relevant knowledge and ways of thinking.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：オリエンテーション（演習の進行の確認と各回の担当者の決定）
- 2 回：近代化と都市文化
- 3 回：19 世紀以後のヨーロッパの重要な都市論（1）
- 4 回：19 世紀以後のヨーロッパの重要な都市論（2）
- 5 回：19 世紀以後のヨーロッパの重要な都市論（3）
- 6 回：明治期の知識人の西欧体験（1）
- 7 回：明治期の知識人の西欧体験（2）
- 8 回：明治期の知識人の西欧体験（3）
- 9 回：戦後日本の都市文化に関する諸研究（1）
- 10 回：戦後日本の都市文化に関する諸研究（2）
- 11 回：戦後日本の都市文化に関する諸研究（3）
- 12 回：ポストモダニズムについて
- 13 回：グローバル化の引き起こす諸問題について
- 14 回：全体のまとめと振り返り

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワーポイント等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	○	グループ発表	：	○	ディスカッション・ディベート：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：					

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

毎回の授業で指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 出席および授業への貢献度:60% 課題、小テスト、レポートなど:40%

テキスト / Textbooks

授業中に配付する。

参考文献 / Readings

町村敬志, 西澤晃彦著 『都市の社会学』 有斐閣 2000 年 9784641121034

吉見俊哉著 『都市のドラマトウロジー』 河出文庫 2008 年 9784309409375

ヴァルター・ベンヤミン著 『近代の意味』 ちくま学芸文庫 1995 年 9784480082169

その他、授業中に適宜指示する。

その他/ Others

履修者は講義科目「グローバル化と思想」にも出席することが望ましい。都市が抱える問題点とそこに生きる意味をとらえ直し、表現は都市をどのようにとらえてきたか、文化はなにができるかを考える手がかりを得たい。

専門演習 1

Advanced Seminar 1

星野 宏美 (HOSHINO HIROMI)

開講年度：	2024
科目設置学部：	異文化コミュニケーション学部
科目コード等：	DM709
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	秋学期
単位：	2
科目ナンバリング：	ICC3543
使用言語：	その他
授業形式：	演習・ゼミ
履修登録方法：	その他登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	履修要項を確認すること。
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	

授業の目標 / Course Objectives

各自の問題意識を学術的なテーマと結びつけることで、「卒業研究」のテーマを設定することを目標とし、そのために必要な基礎的な事項（研究方法など）を身につける。

The goal of this seminar is for students to determine themes for Senior Research and Thesis by connecting their awareness of various issues to academic themes, and classes are conducted to help students master the fundamental elements (research methods and the like) required to make that determination.

授業の内容 / Course Contents

音楽を対象とした研究を志す者（ないしはそれに準ずる者）がそれぞれの関心や問題を持ち寄り、活発な意見交換の場とする。各自のテーマに基づく発表を中心とし、顔ぶれによっては全体の統一テーマを設定する。日ごろ頭の中で考えている事柄を他者に伝えるという作業を通して、自己と対象に新たに対峙し、考察を深める機会としたい。

This course presents students who intend to conduct research on music (and those who are considering it) with opportunities to bring their interests and issues into lively discussions with others. Presentations on individual themes will be the main focus; however, a unified theme may be decided depending on the makeup of the class.

The aim of putting students through the work of communicating their everyday thoughts to other people is to give students opportunities to face themselves and their subjects from new perspectives and further their consideration.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：テーマ設定の可能性
- 2回：ジャンル史（交響曲・オペラ・オラトリオ・ミサ曲・室内楽・オルガン曲の歴史など）
- 3回：時代史（ドイツ・ロマン派の社会と音楽，女性と音楽，サロンと音楽など）
- 4回：作曲家作品研究（メンデルスゾーンの作品に見られるバッハ受容など）
- 5回：音楽美学（作品・演奏・聴取の関係など）
- 6回：音楽理論（時代や地域，作曲家ごとの和声の特徴など）
- 7回：資料研究（作曲家の自筆譜や書簡，演奏評などの分析など）
- 8回：楽器学（楽器の構造，文化史的意味など）
- 9回：演奏習慣研究（メサイアの編成と規模の変遷とこんにちの妥当性など）
- 10回：キリスト教音楽研究，讃美歌研究など
- 11回：文献探索
- 12回：資料探索
- 13回：研究の方法
- 14回：研究の目的

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

図書館所蔵の音楽事典類，AVコーナーの資料等を活用されたい。授業中に随時，具体的な活用法を紹介する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 担当の発表および平常のディスカッション参加度:60%

最終レポート割

合：40%

テキスト / Textbooks

とくに指定しない。

参考文献 / Readings

授業中に指示する。

専門演習 1

Advanced Seminar 1

丸山 千歌 (MARUYAMA CHIKA)

開講年度： 2024
科目設置学部： 異文化コミュニケーション学部
科目コード等： DM711
授業形態： 対面（一部オンライン）
授業形態（補足事項） 合同ゼミを実施する場合はオンラインでの授業となる可能性がある。
校地： 池袋
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： ICC3543
使用言語： その他
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定： 履修要項を確認すること。
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

各自の問題意識を学術的なテーマと結びつけることで「卒業研究」のテーマを設定することを目標とし、そのために必要な基礎的な事項（研究方法など）を身につけるための授業を行う。

The goal of this seminar is for students to determine themes for Senior Research and Thesis by connecting their awareness of various issues to academic themes, and classes are conducted to help students master the fundamental elements (research methods and the like) required to make that determination.

授業の内容 / Course Contents

日本語教育と社会言語学の領域から、各自が特に興味を持つ資料を選定し、口頭発表とディスカッションを行い理解を深め、「卒業研究」で取り上げるテーマ設定を行うことを目指す。

Students will select materials of particular interest to them from the fields of Japanese language education and sociolinguistics and further their understanding of them through oral presentations and discussion. Discussions will be held in an effort to help students choose themes for Senior Research and Thesis.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：授業説明・発表論文の選定

- 2回：発表論文の選定
 3回：発表①
 4回：発表②
 5回：発表③
 6回：発表振り返り、発表論文選定
 7回：発表④
 8回：発表⑤
 9回：発表⑥
 10回：発表⑦
 11回：発表⑧
 12回：発表⑨
 13回：卒業論文導入、目標規定文導入
 14回：振り返り、目標規定文案発表

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド* (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	
個人発表	:	○	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:	○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

毎回の授業で指示する。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：002) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 出席および参加度:30% 口頭発表 (数回) :40% 最終レポート割合 :30%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

授業や課題提出にPCまたはタブレット端末を使用する。

その他 / Others

スケジュールや内容は調整する場合がある。

専門演習 1

Advanced Seminar 1

ムチェトゥ ランガリライ (MUCHETU RANGARIRAI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 異文化コミュニケーション学部
科目コード等： DM713
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： ICC3543
使用言語： その他
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定： 履修要項を確認すること。
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

The seminar, which focuses on students interested in international development and cooperation, aims to guide students in identifying themes for their senior research and thesis. By bridging their awareness of various real-world challenges to academic concepts such as Human security and Afrasian studies approaches.

The seminar sessions facilitate a comprehensive understanding of the foundational aspects, including research questions and methods and academic writing in English, essential for conducting research in these specialized fields. Against this backdrop, this course aims to equip students with skills to identify research problems and formulate robust questions and ways to collect & analyze data to support their claims. Students will be able to report their findings clearly in academic reports.

授業の内容 / Course Contents

The course begins with an introduction to its content and a discussion of students' expectations. Core terms are defined, and an overview of the Advanced Seminar is provided. The curriculum covers essential skills such as literature search techniques and the selection and application of theoretical frameworks in International Development and Cooperation.

Students learn to structure their papers or proposals, addressing the fundamental questions of WHY, WHAT, and HOW, as well as for WHOM they write. The course delves into effective note-taking and paraphrasing, emphasizing proper citation practices and avoiding plagiarism. An open discussion on hypothetical research areas for each group, with advance notice for preparation, sets the stage for exploring diverse topics. The latter part of the course focuses on preparing data, analysis, and presentation skills.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1回：Introduction and Expectations

Week 1: Orientation to the course, overview of content, and introduction to the Advanced Seminar.

Students discuss their expectations from the seminar.

2回：Introduction and Expectations

Week 2: Define core terms related to International Development and Cooperation, providing a foundation for the upcoming sessions.

3回：Formulating Research Questions and Research Skills

Week 3: Discuss skills for identifying problems in International development studies and formulating robust research questions.

Student Presentations: Term paper proposal topics

4回：Research Skills and Theoretical Frameworks

Week 4: Explore literature search techniques and methods for gathering information in the context of international development and cooperation.

5回：Theoretical Frameworks in Academic Writing

Week 5: Discuss the selection and application of theoretical frameworks in the field, emphasizing their relevance to Human Security and Afrasian studies approaches.

6回：Academic Writing and Paper Structure

Week 6: Focus on academic writing in English, covering essential skills for effective communication in International Development and Cooperation research.

7回：Paper Structure and Data Collection

Week 7: Guide students in structuring their papers or proposals, emphasizing the importance of addressing the fundamental questions of why, what, and for whom they are writing.

8回：Linking Research Questions to Data Collection Methods

Week 8: Explore various methods for collecting and analyzing data to support research claims

9回：Reporting Findings and Academic Integrity

Week 9: Guide students in reporting their findings clearly in academic reports

10回：Reporting Findings and Academic Integrity

Week 10: Dive into effective note-taking and paraphrasing, emphasizing proper citation practices and strategies to avoid plagiarism.

11回：Group Discussions and Hypothetical Research Areas

Week 11: Conduct an open discussion on hypothetical research areas for each group, providing two weeks' notice for preparation.

12回：Group Discussions and Hypothetical Research Areas

Week 12: Groups present and discuss their hypothetical research areas, fostering exploration of diverse topics.

13 回：Focus on practical skills for preparing data, conducting analysis, and refining presentation skills.

Weeks 13: Data Preparation, Analysis, and Presentation Skills based on students areas of interest.

14 回：Focus on practical skills for preparing data, conducting analysis, and refining presentation skills.

Weeks 14: Data Preparation, Analysis, and Presentation Skills based on students areas of interest.

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：○	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

Students are urged to leverage diverse resources tailored to their academic interests. Beyond the confines of the classroom, avenues like the internet and the library, which encompasses inter-library facilities, serve as valuable starting points. Addition

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% Attendance and participation:30% Presentations:30% 最終レポート割合：40%

テキスト / Textbooks

Feraru, Atena Stefania Weak states, vulnerable governments, and regional cooperation: An ASEAN case study Routledge 2022 9781032067773 ○

Mine, Yoichi Connecting Africa and Asia Afrasia As a Benign Community Routledge 2022 9781032134536 ○

Creswell, JW and Creswell, JD Research Design: Qualitative, Quantitative, and Mixed Methods Approaches 5th Edition SAGE Publications 2018 9781506386706 ○

参考文献 / Readings

Bailey, Stephen Academic Writing: A Handbook for International Students 5th Edition Routledge 2018 9781138048744

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

Smartphones and Laptops

専門演習 1

Advanced Seminar 1

細井 尚子 (HOSOI NAOKO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 異文化コミュニケーション学部
科目コード等： DM714
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： ICC3543
使用言語： その他
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定： 履修要項を確認すること。
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

各自が選択した領域についてさらに深く主体的に学んでいくことで、卒業研究のテーマを絞り込んでいくことができる。

Students will gain the ability to narrow their search for graduation thesis themes through intensified, independent study of the fields of their choice.

授業の内容 / Course Contents

専門演習 1 は、2つの内容で構成する。

まず、卒業研究に向けて、どのようにテーマを見つけ、資料を探し、分析するのか。サンプルとして教員の専門である演劇学の方法による東アジアの演劇・演芸・芸能に対する近年の研究成果を用いる。また、これを通じて、東アジアの演劇・演芸・芸能に対する基礎知識を得る（授業時には理解を助けるため、映像などを活用する）。また、全員で観劇した作品を用いて各自の関心に基づいた角度から資料収集・分析を行う。

次に履修生各自が個別テーマを設定し、文献資料や映像資料などを用いてまとめ報告・発表

Students will consider the three crucial elements of drama (performers, audience and venue) as they learn basic knowledge of the theater, dramatic performance and performing arts of East Asia, first focusing on those of

Japan. First, students will learn the historical background of the performing arts and properties of various types of performing arts through the societies and lives of people in different periods.

Students will use this knowledge to deduce the properties of Japanese performing arts, and prepare to compare them to those of East Asian performing arts. Each student will determine their own theme, organize bibliographical sources

and video resources for reports and presentations, participate in discussions and write a final report.

*: Videos will be used in class to increase understanding.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1回：オリエンテーション（授業の目的・方法・進め方・成績評価方法など）

「芝居と演劇」

2回：個別テーマ①課題発表（1）＋ディスカッション

3回：個別テーマ②課題発表（2）＋ディスカッション

4回：個別テーマ③課題発表（3）＋ディスカッション

5回：個別テーマ④課題発表（4）＋ディスカッション

6回：個別テーマ⑤課題発表（5）＋ディスカッション

7回：個別テーマ⑥課題発表（6）＋ディスカッション

8回：観劇した舞台を対象に、履修生各自の関心による分析

9回：個別テーマ⑦課題発表（7）＋ディスカッション

10回：個別テーマ⑧課題発表（8）＋ディスカッション

11回：個別テーマ⑨課題発表（9）＋ディスカッション

12回：個別テーマ⑩課題発表（10）＋ディスカッション

13回：個別テーマ⑪課題発表（11）＋ディスカッション

14回：個別テーマ⑫課題発表（12）＋ディスカッション

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワーポイント等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：○
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

毎回、次回までの準備内容を教室で提示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 準備学習に基づく授業への取り組み:30% 課題発表:40% ディスカッションとしての参加度:30%

テキスト / Textbooks

必要に応じ、教室で適宜指示する。

参考文献 / Readings

必要に応じ、教室で適宜指示する。

その他 / Others

*5,000円前後のチケット代が必要になる。

専門演習 1

Advanced Seminar 1

日下部 尚徳 (KUSAKABE NAONORI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 異文化コミュニケーション学部
科目コード等： DM715
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： ICC3543
使用言語： その他
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定： 履修要項を確認すること。
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

- 国際協力の各分野における現状を説明できるようになる
- 国際協力の各論レベルでの課題を論じることができるようになる
- 卒業論文のテーマを国際協力分野から設定する

This course aims to help students:

- To be able to explain the current status of different fields of indomains of international cooperation
- To be able to discuss various issues at different levels of international cooperation
- To be able to consider for each individual how to get involved with international cooperation through participatory learning.

授業の内容 / Course Contents

国際協力とは国際社会の平和と安定のために、海外の国や人びとを支援することです。世界規模での環境破壊や感染症の蔓延、格差の拡大、地域紛争の深刻化が進む中、国際社会が協力して問題解決に向けた取り組みを促進することが求められています。

しかしながら一方で、途上国と呼ばれる国々の文化や社会構造への不理解から、支援が予定された効果を生ま

ないケースは枚挙にいとまがありません。そのため、授業では参加型学習を通じて、国際的な社会問題を途上国に住む人びとの視点から学び、異文化理解を前提とした国際協力のあり方を、受講生と

International cooperation supports countries and people in foreign lands to maintain the peace and stability of the international community. The international community is expected to extend additional efforts to resolve mounting global issues such as environmental destruction, the spread of infectious diseases, increasing economic inequality, and escalating regional conflicts through international cooperation.

However, there are endless examples of international assistance not having achieved its planned outcome because of the lack of understanding of the cultures and social structures of so-called developing countries. To avoid such problems in the future, this course will instruct students on approaching social issues of international import from the viewpoint of people living in developing countries, emphasizing the manner in which international cooperation must develop an understanding of different cultures.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1回：イントロダクション：地域に立脚した国際協力を考える

アイスブレイク:受講者の自己紹介

2回：現状を知る①：安全な水の確保

3回：現状を知る②：保健衛生の課題

4回：現状を知る③：初等教育の拡充

5回：現状を知る④：インフラの整備

6回：方法を知る①：国際協力プロジェクトとは何か

7回：方法を知る②：ロジカル・フレームワーク手法

8回：方法を知る③：PCM・PLA手法

9回：方法を知る：政府開発援助による国際協力

10回：方法を知る④：マイクロクレジット

11回：方法を知る⑤：新しい国際協力の取り組み

12回：課題を知る①：地球規模の課題

13回：課題を知る②：国際協力の潮流

14回：国際協力の今後

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

- 1、授業内で指示した文献や資料を事前に読んでおくこと
- 2、講義に関連する新聞記事のスクラップをおこなうこと
- 3、授業終了時に示す課題についてレポートを作成すること
- 4、次回の授業範囲を予習し、専門用語の意味等の理解をしておくこと

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業参加:30% 中間課題:30% 期末課題:40%

テキスト / Textbooks

日下部尚徳 『わたし 8 歳、職業、家事使用人。 : 世界の児童労働者 1 億 5200 万人の 1 人』 合同出版
2018 9784772613620 -

参考文献 / Readings

専門演習 1

Advanced Seminar 1

佐藤 邦彦 (SATO KUNIHICO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 異文化コミュニケーション学部
科目コード等： DM717
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： ICC3543
使用言語： その他
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定： 履修要項を確認すること。
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

各自の問題意識を学術的なテーマと結びつけることで「卒業研究」のテーマを設定することを目標とし、そのために必要な基礎的な事項（研究方法など）を身につけるための授業を行う。

The goal of this seminar is for students to determine themes for Senior Research and Thesis by connecting their awareness of various issues to academic themes, and classes are conducted to help students master the fundamental elements (research methods and the like) required to make that determination.

授業の内容 / Course Contents

言語学の基本問題を考える契機として、ソシュールなど近代言語学の基礎的学説を紹介するとともに、それらが現代言語学のどのようなテーマと関連し得るかを一緒に考えていく。また、学生各自の関心テーマに関連しそうな言語学的観点を紹介したり、それについて皆で討論することを通して、学生が自分のテーマを具体化していくための指導を行う。

As an opportunity to consider the core issues of linguistics, the instructor will introduce fundamental theories of Saussurean and other modern linguistics, and think together with the students on how those theories can be related to themes in contemporary linguistics. In addition, the instructor will introduce and encourage discussion

about linguistic perspectives on the themes of each student's interests in an effort to guide students toward solidifying their themes.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：言語学の基礎知識の確認
- 2回：「言語＝記号」という観点について
- 3回：ソシユール言語学の基礎概念の紹介
- 4回：1つの「言語」とは何かをめぐる問題
- 5回：観察・分析のための2つの視点軸について
- 6回：言語における機能分担と経済性の観点
- 7回：学生による中間発表
- 8回：中間発表に基づく補足指導
- 9回：各自のテーマの報告と討論1
- 10回：各自のテーマの報告と討論2
- 11回：各自のテーマの報告と討論3
- 12回：各自のテーマの報告と討論4
- 13回：卒業研究にむけての構想の発表
- 14回：卒業研究にむけての構想のまとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

毎回の授業で指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 中間発表:30% 出席および授業参加度:30% 最終レポート割合：:40%

テキスト / Textbooks

なし

参考文献 / Readings

必要に応じて授業中に指示する。

専門演習 1

Advanced Seminar 1

王 曉音 (WANG XIAOYIN)

開講年度： 2024
科目設置学部： 異文化コミュニケーション学部
科目コード等： DM718
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： ICC3543
使用言語： その他
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定： 履修要項を確認すること。
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

研究を行うための基礎的な能力を身につけ、自らの問題意識をもとに選択した学術的なテーマについて研究計画を立て、卒業論文を作成していく。

This seminar aims to help students develop fundamental research skills to compose a research plan based on their personal academic awareness of issues and proceed to write a graduation thesis.

授業の内容 / Course Contents

社会学や多文化社会の観点から、さまざまな社会現象や文化現象について調査し、卒業論文を作成していく。研究を行うための基礎的な事項について学習した後、学生の興味関心に基づいて基本的な文献を輪読し、社会的思考力と分析方法を身につける。研究テーマの策定や文献調査、実証研究、研究方法、データ分析、執筆の要領など、卒業論文を完成させるための指導を行う。東アジア移民研究、モビリティ研究、マイノリティ研究、階層研究、多文化主義などのテーマを扱っている。

Students are expected to investigate various social and cultural phenomena from the perspectives of sociology and multicultural societies to compose their graduation thesis. After acquiring fundamental knowledge for conducting research, students will engage in collective reading of foundational literature based on their interests,

cultivating sociological thinking and analytical skills.. The supervisor will provide guidance on formulating research themes, conducting literature reviews, empirical studies, research methods, data analysis, and other aspects to complete the graduation thesis. Topics such as migration in East Asian, mobility studies, minority studies, class studies, multiculturalism will be discussed in this seminar.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントラダクション
- 2回：研究の基礎を学ぶ① 文献輪読、ディスカッション
- 3回：研究の基礎を学ぶ② 文献輪読、ディスカッション
- 4回：研究の基礎を学ぶ③ 文献輪読、ディスカッション
- 5回：研究計画発表①
- 6回：研究計画発表②
- 7回：研究計画発表③
- 8回：批判的思考力を育む① 文献輪読、ディスカッション
- 9回：批判的思考力を育む② 文献輪読、ディスカッション
- 10回：批判的思考力を育む③ 文献輪読、ディスカッション
- 11回：研究進捗報告①
- 12回：研究進捗報告②
- 13回：研究進捗報告③
- 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業時に指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業参加:10% ディスカッションへの貢献度:30% 研究計画発表:30% 研究進捗報告:30%

テキスト / Textbooks

初回の授業で決定する。

参考文献 / Readings

必要に応じ、授業時に紹介する。

その他 / Others

このセミナーでは、研究テーマについての自主的な学習やディスカッションへの積極的な参加が求められる。

専門演習 1

Advanced Seminar 1

黒岩 三恵 (KUROIWA MIE)

開講年度： 2024
科目設置学部： 異文化コミュニケーション学部
科目コード等： DM720
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： ICC3543
使用言語： その他
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定： 履修要項を確認すること。
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

美術やアートを中心とする視覚的な表現について展覧会見学等を通じて多角的に触れ、並行して文献講読等やインターネット上のサイトの利用を通じて美術理論や研究方法に親しむ。また、視覚文化研究の方法について、テキスト講読や事例研究に主体的に関わることで、学際的に視覚文化について考察する方法を理解できるようになる。

This seminar will provide in-depth knowledge of different types of art and art theories through exhibition visits and reading selected documents including specialized websites. Students will also acquire an array of knowledge and study methods of visual culture studies through textbook reading and actively participating in several case studies.

授業の内容 / Course Contents

近現代の日本や西洋における美術の理論と実際に活躍した芸術家たちについて、または、美術以外の多様な視覚文化の事例について、ウェブサイト、展覧会、文献などの複数の場やメディアと通じて多角的に理解する。トピックに適した問題提起の仕方、調査の仕方、レポートの書き方、プレゼンテーションの仕方などの方法論について実践を通じて学ぶ。

Students will learn through diverse outputs such as websites, art exhibitions, and written sources about various theories of art and artists. Writing and presentation skills in art will also be acquired through practice. Comparative approaches such as inter-regional, and international influences will be one of the important topics.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス：演習の進め方、評価の仕方、教材・資料の配布
- 2回：講読とディスカッション：履修生の関心に従って最終的に決定
例) 美術における近代とは？
- 3回：講読とディスカッション：履修生の関心に従って最終的に決定
例) ストリート・アート
- 4回：講読とディスカッション：履修生の関心に従って最終的に決定
例) 幕末期の行楽図について
- 5回：展覧会見学または作品分析
例) 池袋キャンパス周辺の街中のアート探訪
- 6回：小プレゼンテーション：トピックに即したハンドアウトとパワーポイントの作成と発表
- 7回：講読とディスカッション：履修生の関心に従って最終的に決定
例) 現代日本のアートにみる他者
- 8回：講読とディスカッション：履修生の関心に従って最終的に決定
例) SNS とアートの関係とは；SNS にみる視覚文化の一側面
- 9回：講読とディスカッション：履修生の関心に従って最終的に決定
例) 美術にみる「中心」と「周縁」
- 10回：展覧会見学または作品分析：多様な造形表現の探求など
- 11回：講読とディスカッション：履修生の関心に従って最終的に決定
例) ジェンダーと美術；ジェンダーと視覚文化
- 12回：講読とディスカッション：履修生の関心に従って最終的に決定
例) 権力と視覚メディア
- 13回：講読とディスカッション：履修生の関心に従って最終的に決定
例) 特定の芸術家やその作品についての論考
- 14回：小プレゼンテーション

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド* (パワポ* 等) の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：○
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

講読テキストは基本的に日本語を予定している。ガイダンス時に、履修者と相談してトピックを決定する予定である。コピー教材を配布するので、あらかじめ読んでおくこと。小プレゼンテーションは、それまでの演習の内容を踏まえたテーマを設定し、準備すること。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：002) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 小プレゼンテーション:30% 講読:30% 最終レポート割合 :40%

テキスト / Textbooks

使用テキストは、履修生の関心を踏まえて決定後に指示をする。

参考文献 / Readings

授業時に随時紹介する。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

講読やディスカッションを踏まえたリアクションペーパーをキャンパス LNS を介して提出してもらう。PC 等を持参すること。

専門演習 1

Advanced Seminar 1

松下 佳世 (MATSUSHITA KAYO)

開講年度：	2024
科目設置学部：	異文化コミュニケーション学部
科目コード等：	DM721
授業形態：	対面（一部オンライン）
授業形態（補足事項）	ゲスト講師を招く際などにオンライン授業とする可能性がある（1、2回程度）。
校地：	池袋
学期：	秋学期
単位：	2
科目ナンバリング：	ICC3543
使用言語：	その他
授業形式：	演習・ゼミ
履修登録方法：	その他登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	履修要項を確認すること。
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	

授業の目標 / Course Objectives

学部におけるこれまでの学びやその過程で自分が抱いた問題意識を、学術研究としてまとめあげるために必要な考え方と方法を身につけ、卒業研究のテーマを決定する。

The purpose of this course is to learn how to use the theories and concepts introduced in various courses to carry out an academic research project and come up with a suitable topic for the senior thesis.

授業の内容 / Course Contents

前半は主に、卒業研究を実施するうえで必要となる基礎的な知識を身につけるための講義を行う。中間発表では、学生が興味を持ったテーマを発表し、卒業研究として取り組むうえでの課題や、必要な作業について議論する。実際に書かれた論文の分析やディスカッション、現場見学などを通じて構想を具体化し、学期終盤にはそれぞれの学生が卒業研究の概要を発表してフィードバックを受ける。学期末に卒業研究のテーマと実施方法についての最終レポートを提出する。

Lectures in the first half of the semester will mainly equip students with the basic knowledge needed to write a senior thesis. In the middle of the semester, students will make a presentation on a topic of their choice and discuss the potential challenges to carry out the necessary tasks. Research topics will be refined through rounds of

discussions, readings, and site visits scheduled during the semester. At the end of the semester, each student will present an overview of their project and receive feedback from the other members. Students will also submit a final report regarding their project, including the research design and execution plans.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：オリエンテーションと自己紹介
 - 2回：講義1：卒業研究とは
 - 3回：講義2：研究テーマのを見つけ方
 - 4回：講義3：研究方法の選び方
 - 5回：講義4：資料の探し方
 - 6回：講義5：論文の構成と書き方
 - 7回：中間発表
 - 8回：先行研究の分析とディスカッション1
 - 9回：先行研究の分析とディスカッション2
 - 10回：現場見学1
 - 11回：現場見学2
 - 12回：ゲスト講義
 - 13回：学生による発表とフィードバック
 - 14回：まとめと最終レポートの提出
- ※ 授業の状況によって変更されることがある。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：○	校外実習・フィールドワーク	：○
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

毎回の授業で指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 出席と授業への貢献:30% 発表:30% 最終レポート割合：:40%

テキスト / Textbooks

白井利明・高橋一郎 『よくわかる卒論の書き方』 ミネルヴァ書房 2013 4623065723 ○

必要に応じて、適宜資料を配付する。

参考文献 / Readings

石井 敏・久米 昭元（編） 『異文化コミュニケーション研究法—テーマの着想から論文の書き方まで』 有斐閣 2005 4641183171

鳥飼 玖美子（編） 『よくわかる翻訳通訳学』 ミネルヴァ書房 2013 4623067270

マンデイ, J. 『翻訳学入門』 みすず書房 2009 4622074559

ポエヒハッカー, F. 『通訳学入門』 みすず書房 2008 4622074125

松下佳世 『通訳になりたい！ゼロからめざせる10の道』 岩波書店 2016 4005008305

専門演習 1

Advanced Seminar 1

中田 達也 (NAKATA TATSUYA)

開講年度： 2024
科目設置学部： 異文化コミュニケーション学部
科目コード等： DM723
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： ICC3543
使用言語： その他
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定： 履修要項を確認すること。
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

各自の問題意識を学術的なテーマと結びつけることで「卒業研究」のテーマを設定することを目標とし、そのために必要な基礎的な事項（研究方法など）を身につけるための授業を行う。

The goal of this seminar is for students to determine themes for Senior Research and Thesis by connecting their awareness of various issues to academic themes, and classes are conducted to help students master the fundamental elements (research methods and the like) required to make that determination.

授業の内容 / Course Contents

第二言語習得の様々な側面（語彙・文法・発音・リスニング・リーディング・スピーキング・ライティング能力の習得など）について理解を深め、それらを英語教育および英語学習に生かす方法について考察する。授業は受講生による発表やクラス全体でのディスカッションを中心に進める。また、卒業研究の作成を念頭に、先行研究を批判的に考察した上で研究テーマを設定し、研究成果を論文として発表する能力を養う。

Through reading assignments, lectures, and group discussions, students will deepen understanding about various aspects of second language acquisition (e.g., acquisition of vocabulary, grammar, pronunciation, listening, reading, speaking, and writing skills) and reflect on how they can apply research to their own teaching and

learning. Students will also learn to (a) critically evaluate previous literature, (b) formulate research questions, (c) collect data, and (d) publish findings in the form of academic papers.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：英語学習の原則
- 3回：単語の学習
- 4回：定型表現の学習
- 5回：文法の学習
- 6回：発音の学習
- 7回：リーディングの学習
- 8回：リスニングの学習
- 9回：ライティングの学習
- 10回：スピーキングの学習
- 11回：卒論構想発表1
- 12回：卒論構想発表2
- 13回：卒論構想発表3
- 14回：総括

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

適宜指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 学期中の課題:40% クラスへの貢献度などの平常点:30% 最終レポート割合：30%

テキスト / Textbooks

中田達也 最新の第二言語習得研究に基づく究極の英語学習法 KADOKAWA 2023 4046063491 ○

参考文献 / Readings

専門演習 1

Advanced Seminar 1

武田 珂代子 (TAKEDA KAYOKO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 異文化コミュニケーション学部
科目コード等： DM724
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： ICC3543
使用言語： その他
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定： 履修要項を確認すること。
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

各自の問題意識を学術的なテーマと結びつけることで「卒業研究」のテーマを設定することを目標とし、そのために必要な基礎的な事項（研究方法など）を身につけるための授業を行う。

The goal of this seminar is for students to determine themes for Senior Research and Thesis by connecting their awareness of various issues to academic themes. Classes are conducted to help students understand the fundamental elements (research questions, methods, etc.) in conducting research.

授業の内容 / Course Contents

この演習の前半では、翻訳通訳研究の起源と展開、主要な概念や理論、トピック、研究方法などを含む概要について学ぶ。また、卒業研究のトピックや研究方法を定めるために役立つデータベースの使い方や情報の検索方法についても学ぶ。後半、履修者はミニ研究プロジェクトに取り組み、プレゼンテーションを行い、最終レポートを提出する。また、法廷通訳や国際映画祭での通訳・翻訳の実践現場を観察する活動にも参加する。

The first half of this seminar discusses an overview of Translation and Interpreting Studies, including its origins and evolution, main concepts, theories, topics, and methods. It also introduces how to use database and search for information to help students determine topics and methods for Senior Research and Thesis. In the second

half, students work on mini research projects, give presentations in class and submit final reports. Students are required to participate in field trips to observe interpreting and translation in action at an international film festival and in a courtroom.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：オリエンテーション、翻訳通訳研究とは何か？
- 2 回：翻訳通訳研究のメタ言語、主な概念と理論
- 3 回：翻訳通訳研究の研究対象と研究方法
- 4 回：トピックの選び方と論文・資料検索方法
- 5 回：東京高裁での司法通訳見学
- 6 回：国際映画祭での通訳・翻訳（字幕）を観察
- 7 回：ミニ研究プロジェクトの準備
- 8 回：ミニ研究プロジェクトの提案発表
- 9 回：ミニ研究プロジェクト 1
- 10 回：ミニ研究プロジェクト 2
- 11 回：ミニ研究プロジェクト 3
- 12 回：学生の最終発表
- 13 回：学生の最終発表
- 14 回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：○
上記いずれも用いない予定	：					

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

毎回の授業で指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 出席と授業への貢献:30% 研究発表:30% 最終レポート割合：:40%

テキスト / Textbooks

- 鳥飼玖美子編著 『よくわかる翻訳通訳学』 ミネルヴァ書房 2013 4623067270 ○
 武田珂代子編著 『翻訳通訳研究の新地平』 晃洋書房 2017 9784771028135 ○
 その他、適宜資料を配布する。

参考文献 / Readings

- マンデイ, J. 著 『翻訳学入門』 みすず書房 2009 4622074559
 ポエヒハッカー, F. 著 『通訳学入門』 みすず書房 2008 4622074125
 ピム, A. 著 『翻訳理論の探求』 みすず書房 2010 4622075180
 武田珂代子著 『通訳者と戦争犯罪』 みすず書房 2023 9784622096177
 武田珂代子著 『太平洋戦争 日本語諜報戦』 筑摩書房 2018 9784480071620

その他 / Others

TI@Rikkyo <https://www2.rikkyo.ac.jp/web/ti-rikkyo/>

Kayoko Takeda's works https://researchmap.jp/kayoko_takeda

専門演習 1

Advanced Seminar 1

飯島 みどり (IIJIMA MIDORI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 異文化コミュニケーション学部
科目コード等： DM725
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： ICC3543
使用言語： その他
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定： 履修要項を確認すること。
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

各自の問題意識を学術的なテーマと結びつけることで、「卒業研究」のテーマを設定することを目標とし、そのために必要な基礎的な事項（研究方法など）を身につけるための授業を行う。

Students will determine themes for Senior Research and Thesis connecting their concern to academic themes, and classes are conducted to help students master fundamental elements (research methods and the like) required to define the subject.

授業の内容 / Course Contents

主として地域（文化）研究の見地から卒業研究を完成させたい学生向け。専ら国家あるいは近代を再検討するための手法と発想とを磨く。

This seminar welcomes students interested in conducting their graduation thesis research based on the Area Studies. Students will develop their ability for research methods and idea-gathering, preferably setting as target to re-examine the State, the Modern Era and / or its consequences.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：自己紹介

- 2回：資料の探し方
 3回：資料の集め方
 4回：資料の読み方
 5回：同上
 6回：同上
 7回：根拠の示し方
 8回：同上
 9回：フィールド調査と文献利用
 10回：同上
 11回：立論の手法
 12回：同上
 13回：同上
 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：○	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

自分の足で歩き自分の目で確かめる。本を読む。博物館・美術館へ足を運ぶ。映画館で映画を観る。性悪説に慣れる。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 各回における貢献:33% テキスト担当部分の報告:33% 期末レポート:34%

無断欠席者、報告放棄者は評価の対象としない（単位は認定されない）。

テキスト / Textbooks

プリント配付。受講者の関心により共通文献を後日指定することもあり得る。

参考文献 / Readings

適宜指示する。

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

集中力・観察力

その他 / Others

卒業研究にスペイン語資料を利用する可能性のある学生には、スペイン語原典解読・解釈の訓練を積んでもらう。受講者の関心によりポルトガル語、フランス語、英語の文献を使用することがある。

専門演習 1

Advanced Seminar 1

石黒 武人 (ISHIGURO TAKETO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 異文化コミュニケーション学部
科目コード等： DM727
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： ICC3543
使用言語： その他
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定： 履修要項を確認すること。
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

本授業の目標は、受講生各自の関心、問題意識を学術的な研究と結びつけることで、「卒業研究」のテーマを設定することを目標とし、そのために必要な基礎的な事項を身につけることである。

The aim of this seminar is for students to choose their research themes as they link issues they are interested in to academic research. The students will acquire the fundamental knowledge and skills needed to achieve this aim.

授業の内容 / Course Contents

異文化コミュニケーション、とくに、組織における異文化コミュニケーションに関する文献を読み関心のあるテーマを深く理解・考察することを目指す。また、受講生はお互いに異文化体験を共有し、異文化コミュニケーションに関する事象を、体験と学術的な概念や理論との間を行き交いながら、分析、考察することを学んでいく。毎回、各自が担当する文献のポイントをまとめ、発表・討論する形で進める。授業項目は進捗状況と各自の関心に応じて変更する可能性がある。

We aim to understand and critically examine a research topic of interest in more depth by reading literature related to intercultural communication research, especially organizational intercultural communication/discourse. Also, as we share our own intercultural experiences, we try to analyze and interpret

our experiences in light of academic concepts and theories.. In class students will summarize and present the key points from the literature they are interested in. Class topics may change. according to students' interests and needs.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：受講生の関心のあるテーマについて
- 2 回：テーマに関連する文献の選択
- 3 回：異文化コミュニケーション研究とは？
- 4 回：言語と異文化コミュニケーション
- 5 回：非言語と異文化コミュニケーション
- 6 回：アイデンティティと異文化コミュニケーション
- 7 回：ステレオタイプ・偏見・差別と異文化コミュニケーション
- 8 回：組織と異文化コミュニケーション
- 9 回：異文化適応とカルチュア・ショックとは？
- 10 回：メディアと異文化コミュニケーション
- 11 回：多文化・多言語社会と異文化コミュニケーション
- 12 回：パワーおよびジェンダーと異文化コミュニケーション
- 13 回：研究パラダイムについて：研究の哲学的前提
- 14 回：総括

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自の研究テーマに関する論文、書籍を探し、要約し、専門演習2の最終レポートに組み込めるようにしておくこと。その際、要約するだけでなく、論文、書籍の内容を批判的に検討し、その特徴と限界について考えること。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業への参加と貢献度・発表:30% 口頭発表:30% 期末レポート:40%

テキスト / Textbooks

事前に資料をオンライン上の授業運営プラットフォームへアップロードするので、資料を印刷するか、パソコンなどで読めるように準備をしておいてください。場合によっては、適宜、プリント資料を配布します。

参考文献 / Readings

石井敏・久米昭元・長谷川典子・桜木俊行・石黒武人 『はじめて学ぶ異文化コミュニケーション』 有斐閣
2013 9784641281332

Adler, N.J., & Gundersen, A. International Dimensions of Organizational Behavior, 5th ed. Cengage Learning
2007 9780324360745

桜井厚・小林多寿子（編） 『ライフストーリーインタビュー：質的研究入門』 せりか書房 2005
9784796702683

石黒武人 『多文化組織の日本人リーダー像：ライフストーリー・インタビューからのアプローチ』 春風社
2012 9784861103223

石黒武人 『多文化チームにおける日本人リーダーの動的思考プロセス：グラウンデッド・セオリーからのア
プローチ』 春風社 2020 9784861106873

石井敏・久米昭元 『異文化コミュニケーション事典』 春風社 2013 9784861103339

山本志都・石黒武人・Milton Bennett・岡部大祐 『異文化コミュニケーション・トレーニング：「異」と共に
成長する』 三修社 2022 9784384060522

その他、適宜紹介する。

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

本ゼミでは、異文化コミュニケーションの中でも、とくに、組織コンテキストで生成される異文化コミュニケ
ーションに焦点を当てているメンバーが集まるため、組織コンテキストにおける異文化コミュニケーションに
関心がある学生が望ましい。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

授業前に、オンライン上の授業運営プラットフォームへアップロードするので、事前に印刷するか、パソコン
等で読めるようにし、授業で参照してください。なお、資料は、基本的にパワーポイントで共有します。適
宜、追加資料を配布することがあります。

その他/ Others

「異文化コミュニケーション概論」を履修していることが望ましい。併せて「集団コミュニケーション論」履
修されると、さらに理解が深まります。

本ゼミナール・ホームページ：

<https://sites.google.com/rikkyo.ac.jp/icss/%E3%83%9B%E3%83%BC%E3%83%A0>

専門演習 1

Advanced Seminar 1

山口 まり子 (YAMAGUCHI MARIKO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 異文化コミュニケーション学部
科目コード等： DM728
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： ICC3543
使用言語： その他
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定： 履修要項を確認すること。
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

各自の問題意識を学術的なテーマと結びつけることで、「卒業研究」のテーマを設定することを目標とし、そのために必要な基礎的な事項（研究方法など）を身につけるための授業を行う。

The goal of this seminar is for students to determine themes for Senior Research and Thesis by connecting their awareness of various issues to academic themes, and classes are conducted to help students master the fundamental elements (research methods and the like) required to make that determination.

授業の内容 / Course Contents

人間の発話や行為の理解において、発話者／行為者の意図はどのような影響力を持つだろうか。発話者／行為者の意図が、その発話／行為の意味を決定するのだろうか。

例えば原子爆弾を落とすという行為について、落とした側は、「戦争を早期終結させる」という意図のもとに行った行為であると主張する。大量殺戮を意図していたのではないのだから、10 万人以上の民間人の死については責任を負う必要はないと考えるべきだろうか。

発話や行為における発話者／行為者の意図をどのように扱うかは、日常的な発話／行為の解釈と人間の相互理解にと

In understanding human actions and utterances, what kind of influence do the intentions of the agent/utterer have? Do the intentions of the agent/utterer determine the meaning of the actions/utterances? In the case of dropping an atomic bomb on Hiroshima, for example, it is said that the intention of the person who ordered to drop the bomb was to 'end the war quickly and effectively'. As the agent did not intend to cause massacre, should we conclude that the agent is not responsible for the deaths of over one hundred thousand civilians?

How we treat the agent's intention affects our interpreting human actions (including verbal utterances) and understanding each other in everyday situations. It is closely related to philosophy of law and ethics, and it is also important for interpreting/understanding works of art. In this class, through reading Intention by G. E. M. Anscombe and analysing concepts such as actions, the intentions of the agent, knowledge of intentional actions, and responsibility, we consider various issues associated with human intentional actions."

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：参加者による発表・教員による説明・ディスカッション
- 3回：参加者による発表・教員による説明・ディスカッション
- 4回：参加者による発表・教員による説明・ディスカッション
- 5回：参加者による発表・教員による説明・ディスカッション
- 6回：参加者による発表・教員による説明・ディスカッション
- 7回：参加者による発表・教員による説明・ディスカッション
- 8回：参加者による発表・教員による説明・ディスカッション
- 9回：参加者による発表・教員による説明・ディスカッション
- 10回：参加者による発表・教員による説明・ディスカッション
- 11回：参加者による発表・教員による説明・ディスカッション
- 12回：参加者による発表・教員による説明・ディスカッション
- 13回：参加者による発表・教員による説明・ディスカッション
- 14回：参加者による発表・教員による説明・ディスカッション

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

準備学習や発表の担当などについては毎回の授業で指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業参加・発表・提出物など：60% 最終レポート割合：40%

テキスト / Textbooks

G. E. M. アンスコム 『インテンション』 産業図書 1984 -

Anscombe, G. E. M. Intention Harvard University Press 2000 -

使用するテキストは授業時に配付する。

参考文献 / Readings

J. P. サルトル 『実存主義とは何か』 人文書院 1996

D. デイヴィッドソン 『行為と出来事』 勁草書房 1990

Davidson, D. Essays on Actions and Events Oxford University Press 1980

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

議論に論理性を求める。例えば、野矢茂樹著『新装 論理トレーニング』（産業図書）、あるいは同著者の『まったくゼロからの論理学』（岩波書店）のようなテキストで、あらかじめ論理的な思考というものをある程度つかんでおいて頂きたい（自習してよく理解できない点については、質問を歓迎する）。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

電子情報機器は不要。使用不可。

その他/ Others

授業内の電子情報機器の使用不可。

専門演習 1

Advanced Seminar 1

小倉 和子 (OGURA KAZUKO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 異文化コミュニケーション学部
科目コード等： DM729
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： ICC3543
使用言語： その他
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定： 履修要項を確認すること。
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

各自の問題意識を学術的なテーマと結びつけることで「卒業研究」のテーマを設定し、その完成のために必要な基礎的な事項（研究方法など）を身につける。

The aim is to choose a research theme by linking issues the individual student has awareness of, to an academic topic. Lessons will teach the fundamental skills needed to complete this research (such as research methods).

授業の内容 / Course Contents

主としてフランス語圏（フランス、ケベック、北アフリカなど）の文化と社会に関連した素材（テキストや映像など）を取り上げ、そこからその社会のありよう、人々の価値観、芸術観などを、歴史を視野に入れながら抽出・分析する方法を学ぶ。

フランス語圏地域は、フランス語をコミュニケーションや思考の道具にしている点で共通しているとはいえ、地理的にも歴史的にもさまざまな違いがある。それらを比較検討することで自己を相対化し、異質なものや多様なものを評価する下地を築く。

授業では、各自が調査・考察した成果を口頭発表し、討論する術

We will mainly cover materials (text, video, etc.) related to the cultures and societies of French-speaking areas

(France, Quebec, North Africa, etc.). We will then learn how to extract features of these societies, such as people's values and outlook on art, from materials studied, and how to analyze them with a focus on history. Although French-speaking areas share the same language for communicating and thinking, geographically and historically there are many differences. By comparatively examining these differences, we will initiate self-relative realization and lay the groundwork for evaluating things that are different or diverse.

In lessons, each student will give a verbal presentation on the results of their investigation/study, and in addition to developing debating skills, training for graduation research project writing will be provided on how to narrow down a topic and carry out a literature review, etc.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：フランスの家族・ジェンダー・移民（1）
- 3回：フランスの家族・ジェンダー・移民（2）
- 4回：フランスの家族・ジェンダー・移民（3）
- 5回：研究構想の中間報告（1）
- 6回：研究構想の中間報告（2）
- 7回：ケベックの間文化社会（1）
- 8回：ケベックの間文化社会（2）
- 9回：ケベックの間文化社会（3）
- 10回：マグレブ諸国（1）
- 11回：マグレブ諸国（2）
- 12回：マグレブ諸国（3）
- 13回：研究構想の発表（1）
- 14回：研究構想の発表（2）

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワーポイント等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外の学習に関する指示は、毎回の授業時に行う。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業への参加度：40% 授業時の発表：30% 最終レポート割合：30%

テキスト / Textbooks

授業で資料を配付する。

参考文献 / Readings

- 新倉俊一他 『事典現代のフランス [増補版]』 大修館書店 1997年 9784469051759
- 三浦信孝・西山教行編著 『現代フランス社会を知るための62章』 明石書店 2010年 9784750333120
- 日本ケベック学会 『ケベックを知るための56章 (第2版)』 明石書店 2024年 9784750356617
- G・ブシャール 『間文化主義』 彩流社 2017年 9784779124310

随時紹介するもの。

専門演習 1

Advanced Seminar 1

奥野 克巳 (OKUNO KATSUMI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 異文化コミュニケーション学部
科目コード等： DM732
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： ICC3543
使用言語： その他
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定： 履修要項を確認すること。
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

各自の問題意識を学術的なテーマと結びつけることで、「卒業研究」のテーマを設定することを目標とし、そのために必要な基礎的な事項（研究方法など）を身につけるための授業を行う。

The goal of this seminar is for students to determine themes for Senior Research and Thesis by connecting their awareness of various issues to academic themes, and classes are conducted to help students master the fundamental elements (research methods and the like) required to make that determination.

授業の内容 / Course Contents

アニミズム、シャーマニズム、呪術、神話、仮面、儀礼、死と葬儀、人間と自然、動物、セックス、ジェンダー、贈与と交換、家族と婚姻などの文化人類学が扱うトピックの中から各自でテーマを設定して、卒業研究を完成させたい学生のためのゼミ形式の授業。レジメ発表の方法を身につけて、基本文献を輪読しながら、各自の卒業研究に結びつけていく。

This seminar-style course is for students who wish to finish their graduation theses on themes chosen from the many cultural anthropology topics available, including animism, shamanism, sorcery, mythology, masks, ceremony, death and funeral rites, humans and nature, animals, sex, gender, gifts and trade, and families and

marriage. Students will master methods for presenting summaries, and take turns reading basic reading materials to connect the concepts to their own graduation theses.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：導入、授業内容の概説
- 2回：個人研究計画の概要の発表
- 3回：論文の読み方と書き方の解説
- 4回：基本文献の輪読（1）
- 5回：基本文献の輪読（2）
- 6回：基本文献の輪読（3）
- 7回：基本文献の輪読（4）
- 8回：基本文献の輪読（5）
- 9回：研究構想の発表（1）
- 10回：研究構想の発表（2）
- 11回：研究構想の発表（3）
- 12回：研究構想の発表（4）
- 13回：研究構想の発表（5）
- 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワー等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	○ グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：		：		：

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

毎回の授業で指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 出席と授業参加態度:60% 最終レポート割合：:40%

テキスト / Textbooks

特になし。

参考文献 / Readings

奥野克巳 『これからの時代を生き抜くための文化人類学入門』 辰巳出版 2022 9784777828739

専門演習 1

Advanced Seminar 1

浜崎 桂子 (HAMAZAKI KEIKO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 異文化コミュニケーション学部
科目コード等： DM733
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： ICC3543
使用言語： その他
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定： 履修要項を確認すること。
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

この科目は、教育課程「完成期」の科目である。各自が選択した領域についてさらに深く主体的に学んでいくことで、卒業研究のテーマを絞り込んでいくことができる。

Students will gain the ability to narrow their search for graduation thesis themes through intensified, independent study of the fields of their choice.

授業の内容 / Course Contents

前半は、移民社会の多文化状況に関する論文を読み、ホスト社会の言語政策や文化政策がもつ意味と影響、移民の文化が生まれる状況、移住とジェンダーの問題について考察、議論する。以上をふまえて、後半は受講者が関心を持つ地域、国について、いわゆる「マイノリティーの文化」の具体例について発表し、議論をする。

In the first half of the seminar, students will read academic papers on the multiculturalism of immigrant communities and consider and discuss the significance and impact of the language policy and cultural policy of the host country, and the circumstances that produce immigrant culture. In the second half, students will present and discuss specific cases of so-called "minority culture" in the regions and countries that piqued their interest in the first half of the seminar.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：導入1：移民社会と多文化状況
 2回：導入2：移民とホスト社会
 3回：論文1：担当者による発表と議論 1
 4回：論文1：担当者による発表と議論 2
 5回：論文1：担当者による発表と議論 3
 6回：論文1：担当者による発表と議論 4
 7回：文献の調べ方、レポートの書き方 1
 8回：文献の調べ方、レポートの書き方 2
 9回：発表：各自のテーマについて中間発表と議論 1
 10回：発表：各自のテーマについて中間発表と議論 2
 11回：発表：各自のテーマについて中間発表と議論 3
 12回：論文2：担当者による発表と議論 1
 13回：論文2：担当者による発表と議論 2
 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	○	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

準備学習については毎回の授業で指示する。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：002) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業の議論への積極的な参加:40% 授業内での口頭発表:30% 学期末のレポート:30%

テキスト / Textbooks

初回授業内で配付

参考文献 / Readings

S. カースルズ, M.J. ミラー 『国際移民の時代』 名古屋大学出版会 2011 9784815806552

木村涼子、伊田久美子、熊安貴美江編 『やわらかアカデミズム (わかる) シリーズ よくわかるジェンダー・スタディーズ—人文社会学から自然科学まで—』 ミネルヴァ書房 2013 9784623065165

ほか、適宜授業内で指示

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

未知の事象に関心を持ち、文献調査、議論を通して、問題意識を深めていく力。

専門演習 1

Advanced Seminar 1

石川 文也 (ISHIKAWA FUMIYA)

開講年度： 2024
科目設置学部： 異文化コミュニケーション学部
科目コード等： DM734
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： ICC3543
使用言語： その他
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定： 履修要項を確認すること。
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

各自の問題意識を学術的なテーマと結びつけることで「卒業研究」のテーマを設定することを目標とし、そのために必要な基礎的な事項（研究方法など）を身につけるための授業をおこなう。

The goal of this seminar is for students to determine themes for Senior Research and Thesis by connecting their awareness of various issues to academic themes, and classes are conducted to help students master the fundamental elements (research methods and the like) required to make that determination.

授業の内容 / Course Contents

ことばによってどのような「知」がどのようなプロセスに従って伝達されるかを明らかにする方法として「ディスカール分析」と「会話分析」がある。「ディスカール分析」は主として1960年代にフランスで始められた分析方法であり、「会話分析」はアメリカで生まれ、その後フランスでも展開されているアプローチである。ともにことばを研究対象として相対化する研究方法であり、言語教育・習得の分野にも導入され、外国語の授業内外においてことばによってことばに関係するどのような情報がどのようなプロセスによって伝達されるのかを明らかにする

Discourse analysis and conversation analysis are two ways to clarify the kinds of knowledge that are

communicated with language, and the processes by which they are communicated. Discourse analysis is an analytical method that began in earnest in France in the 1960s, and conversation analysis is an approach that originated in the United States of America and then spread to France. They are both research methods that relativize language as the research subject, and have been adopted in the fields of language education and acquisition to clarify the kinds and processes by which language-related information is communicated using language inside and outside foreign language classrooms.

The purpose of this Advanced Seminar is to teach students basic knowledge and fundamental analytical skills regarding discourse and conversation analysis by having them carefully read whole and excerpted literature written in Japanese, French and English, identify themes related to their own language use or language education and acquisition, and use specific analytical resources to consider their themes in practical terms. Students will do prepare for writing their graduation theses in parallel with their work in this course.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：「学術的知」の技法の説明
- 3回：論文の書き方の説明
- 4回：文献の輪読あるいは共同討議（1）
- 5回：文献の輪読あるいは共同討議（2）
- 6回：文献の輪読あるいは共同討議（3）
- 7回：卒業論文批判
- 8回：研究計画書の中間報告（1）
- 9回：研究計画書の中間報告（2）
- 10回：文献の輪読あるいは共同討議（4）
- 11回：文献の輪読あるいは共同討議（5）
- 12回：研究計画書の最終報告（1）
- 13回：研究計画書の最終報告（2）
- 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

初回の授業で各回のための準備学習を指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業への参加度：40% 口頭発表：30% 研究計画書の進捗：30%

テキスト / Textbooks

初回の授業で決定する。

参考文献 / Readings

授業中に配付するプリントあるいはメールの添付ファイルなどによって随時紹介する。

その他/ Others

- * 上記の「授業計画」は、履修者数や指導の進捗状況にあわせて調整する可能性がある。
- * 通常の授業に加えて、研究計画書の作成のための個別指導と添削を主にメールでおこなう。
- * 学生の報告あるいは提出物について、口頭あるいは筆記によってコメントする。
- * やむを得ず休講となった場合、内容を繰り下げて補講日に補講をおこなうか、それに代わる課題を出す。

専門演習 1

Advanced Seminar 1

ガービー, K. (GARVEY KEVIN PATRICK)

開講年度： 2024
科目設置学部： 異文化コミュニケーション学部
科目コード等： DM735
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： ICC3543
使用言語： その他
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定： 履修要項を確認すること。
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

このコースの主な目標は、メディア、コミュニケーション、ニューメディア、異文化コミュニケーションの分野で、英語でオリジナルの学生研究論文を作成することです。

講師は、論文、学位論文、記事の例とモデルを提示して、執筆と構成の規則を説明します。講師はグループとしても 1 対 1 の両方でも学生と協力して、学生が論文のテーマを開発できるよう支援します。

このコースの第 2 の目標は、アカデミックライティングと研究スキルの慣例を実践することです。講師は、効果的な情報源の収集、正確な引用の作成、リサーチを利用して

The primary goal of this course is the development of original student research papers in English in the fields of media, communication, New Media, and intercultural communication.

The instructor will present examples and models of theses, dissertations, and articles to illustrate conventions of writing and organization. The instructor will work with students both as a group and one on one to help them develop the topics of their theses.

The secondary goal of this course is practice with conventions of academic writing and research skills. The instructor will provide a guide on collecting effective sources, making accurate citations, and using research to

build persuasive theses.

授業の内容 / Course Contents

授業の主な焦点は、学生のオリジナル論文の作成です。コースの内容には、文章のサンプル、論文や記事の例、オリジナルの学術作品の開発に関する短い読み物が含まれます。

学生の論文執筆を支援する3学期制講座の第1期目です。この最初のセッションでは、後に拡張される論文提案の作成に焦点を当てます。

The main focus of the class is on the composition of an original student thesis. Course content will include sample writings, example thesis papers and articles, and short readings on the development of original academic works.

This is the first of three semesters of courses supporting students' thesis writing. This first session will focus on developing thesis proposals which will later be expanded.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：Course introduction
- 2回：Topic 1: discussing research interests
- 3回：Topic 2: proposals and abstracts
- 4回：Topic 3: finding 'gaps' in the literature
- 5回：Topic 4: components of a thesis
- 6回：Topic 5: drafting proposals
- 7回：Mid-term: presentation of draft proposals
- 8回：Topic 6: expanding drafts and research questions
- 9回：Topic 7: research questions
- 10回：Topic 8: revising proposal structure and content
- 11回：Topic 9: components of a thesis revisited
- 12回：Topic 10: peer-editing and constructive critique
- 13回：Topic 11: peer-editing and constructive critique
- 14回：Final: presentation of completed proposals

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

Students are expected to work outside of class time to complete assignments.

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Participation:30% Homework:20% Draft proposals:20% Final proposals:30%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

その他 / Others

Students are expected to use Google Classroom to access course materials and assignments. In-class group work will be conducted using Google Documents and Slides.

専門演習 1

Advanced Seminar 1

シ, ゲンギン (ZI YANYIN)

開講年度： 2024
科目設置学部： 異文化コミュニケーション学部
科目コード等： DM736
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： ICC3543
使用言語： その他
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定： 履修要項を確認すること。
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

This course aims to help students:

- To explain the characteristics of the relationships between Africa and Asia.
- To be able to discuss various issues at different levels of Global Studies.
- To be able to consider for each individual how to get involved with international cooperation through participatory learning.

授業の内容 / Course Contents

This course delivers a nuanced and pioneering introductory analysis of the prevailing global dynamics that configure the contemporary world. It scrutinizes these dynamics through the lenses of both politics and economics.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：Introduction
- 2 回：What is Global Studies? A Political and Economic Perspective
- 3 回：Historical Foundations

- 4回：The Present World Order
 5回：Key Concepts and Processes: Empire and Imperialism
 6回：Key Concepts and Processes: Development
 7回：Key Concepts and Processes: Security
 8回：Key Concepts and Processes: Sustainability
 9回：Key Concepts and Processes: Governance
 10回：Case Study 1: The Anti-Apartheid Movement
 11回：Case Study 2: International Migration
 12回：Case Study 3: Hegemony, Globalization, and Trade Conflict
 13回：Case Study 4: Globalization and Transnational Capitalism
 14回：Where to go next?

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	○	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:					

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

- Pre-read the literature and materials instructed during the class.
 Collect newspaper articles related to the lecture.
 Prepare a report on the assignments given at the end of the class.
 Preview the content for the next class, and ensure understanding of sp

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：002) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Attendance and Participation:30% Mid-term report:40% Final Presentations:30%

テキスト / Textbooks

Michael Anderson, Stephanie Holmsten Political and Economic Foundations in Global Studies Routledge
 2019 9780765644237 -

参考文献 / Readings

専門演習 1

Advanced Seminar 1

小山 亘 (KOYAMA WATARU)

開講年度： 2024
科目設置学部： 異文化コミュニケーション学部
科目コード等： DM737
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： ICC3543
使用言語： その他
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定： 履修要項を確認すること。
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

各自の問題意識を学術的なテーマと結びつけることで「卒業研究」のテーマを設定することを目標とし、そのために必要な基礎的な事項（研究方法など）を身につけるための授業を行う。

This course aims to help students determine themes for their senior research and thesis by connecting their awareness and knowledge of various issues to academic themes. Thus, the classroom sessions are designed to help students master the fundamental elements (research methods, etc.) required to make that determination.

授業の内容 / Course Contents

前半は、研究テーマの選択に向けてのトピックの検討、研究方法などの紹介、文献調査・考察などを行うとともに、言語・文化・コミュニケーションの研究の一般的な枠組みについて確認する。後半は各自、ミニ研究プロジェクトに取り組み、クラス内発表、最終レポート提出につなげる。（なお、授業項目は進捗状況と各自の関心に応じて変化する可能性がある。）

This course aims to examine possible themes for senior research and thesis. Students will become conversant with research methods and with the general framework of scholarly research on language, culture, and communication, and the academic literature of relevant specific fields. Subsequently, students will be required to

execute a pilot research project, present their findings in class, and submit a final report. (The course schedule may be modified to adjust to the progress and interests of students.)

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：オリエンテーション：関心のあるテーマ（言語・文化・コミュニケーションに関わるもの）
- 2回：研究対象と研究方法、トピックの選び方と論文・資料・データ収集方法
- 3回：テーマに関連する文献の選択・考察
- 4回：言語・文化・コミュニケーションの研究について
- 5回：言語とコミュニケーションの関係について
- 6回：文化とコミュニケーションの関係について
- 7回：ミニ研究プロジェクトの準備
- 8回：ミニ研究プロジェクトの提案発表
- 9回：ミニ研究プロジェクト
- 10回：ミニ研究プロジェクト
- 11回：ミニ研究プロジェクト
- 12回：学生の最終発表
- 13回：学生の最終発表
- 14回：総括

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワー等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：		ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：		：			：

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

準備学習については毎回の授業で指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 発表:30% 出席と授業への貢献:30% 最終レポート割合：:40%

テキスト / Textbooks

適宜、文献を配付する。

参考文献 / Readings

専門演習 2

Advanced Seminar 2

金子 亜美 (KANEKO AMI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 異文化コミュニケーション学部
科目コード等： DM752
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： ICC4543
使用言語： その他
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 自動登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定： 履修要項を確認すること。
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

この授業では、文献講読とディスカッションを通じて現代文化人類学の研究潮流を知り、学生個人の問題関心をその中に位置付ける。その上で卒業研究のテーマを設定し、実際に調査と分析を行う。

Students relate their interests to academic debates of cultural anthropology today, choose a topic and practice research and analysis.

授業の内容 / Course Contents

Jane Hill の Everyday Language of White Racism を講読しながら自身の関心を深める。一章ごとに読み進め、関連分野に関するレポートを執筆する。その中でアカデミック・ライティングの方法を確認し、卒業論文のためのデータ分析に役立てる。

Students read Jane Hill's Everyday Language of White Racism and deepen their academic interests. Write reports and practice academic writing techniques.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：概要説明

2 回：講読 Chapter 1.

- 3回：講読 Chapter 1.
 4回：講読 Chapter 2.
 5回：講読 Chapter 2.
 6回：講読 Chapter 3.
 7回：講読 Chapter 3.
 8回：文献引用の仕方講義
 9回：講読 Chapter 4.
 10回：講読 Chapter 4.
 11回：講読 Chapter 5.
 12回：講読 Chapter 5.
 13回：参考文献表作成実習
 14回：最終レポートのピアエディティング

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	○	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:	○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:						

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

Jane Hill の Everyday Language of White Racism の講読を行う。代表一名がレジユメを作成し、他の全ての受講者は毎回該当部分を講読しコメントする。わからない部分を飛ばし読みするのではなくわかるまで読み込み調べる貪欲さを大切にほしい。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：002) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 出席と毎回の授業でのコメント:60% 最終レポート割合 :40%

テキスト / Textbooks

Jane Hill The Everyday Language of White Racism Wiley-Blackwell 2008 9781405184540 ○

授業中に指示する。

参考文献 / Readings

授業中に紹介する。

専門演習 2

Advanced Seminar 2

イ, ヒャンジン (LEE HYANGJIN)

開講年度： 2024

科目設置学部： 異文化コミュニケーション学部

科目コード等： DM756

授業形態： 対面（一部オンライン）

授業形態（補足事項）対面（一部オンライン）

全授業回のうち2回はオンラインで実施する（5・7回目の授業）。オンライン実施回に変更が生じる場合は、授業内または Canvas LMS 等で周知する。

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： ICC4543

使用言語： その他

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 自動登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定： 履修要項を確認すること。

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

自ら設定したテーマについて研究計画を立て、先行研究の調査やデータの収集・整理など、卒業研究の成果物の作成をすすめていく。

Students will create research plans on their chosen themes, investigate previous research, gather and organize data and progress toward writing the final versions of their graduation theses.

授業の内容 / Course Contents

本授業では、卒業研究に取り組むための映像分析実践を行う。専門演習 1 で決めた研究テーマに関連する参考文献と先行研究をまとめる。テキスト分析の理論的・論理的基礎を固め、個別的作品が扱っている社会・歴史的背景とコンテキストの理解を深める。映像文法の分析を演習するためにビデオカメラで各自の研究テーマに合わせて〈日本社会における多文化主義とトランスナショナリズム〉について約3分の分量の映像作品をグループ製作し、発表とディスカッションを行う。

授業は毎回学生自ら作品を選び、その作品をこれまで学習した知識に基づき、社会

In this seminar students will practice film analysis to help them work on their graduation theses. Students will organize reference materials and previous research related to the research theme they determined in Advanced Seminar 1. This seminar will give them a stronger theoretical and methodological base in text analysis, and deepen their understanding of the social and historical background and context of individual pieces of work. To practice analyzing video grammar, students will form groups and use video cameras to create roughly three-minute films on multiculturalism and transnationalism in Japanese society as it relates to their individual research themes, and then present the videos and hold discussions.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：オリエンテーション
- 2回：テーマに関連する資料・実態調査（社会学的アプローチ）1
- 3回：テーマに関連する資料・実態調査（社会学的アプローチ）2
- 4回：テーマに関連する資料・実態調査（社会学的アプローチ）3
- 5回：映画研究の文献調査と討議 1
- 6回：映画研究の文献調査と討議 2
- 7回：映画研究の文献調査と討議 3
- 8回：映像作品の製作とワークショップ 1
- 9回：映像作品の製作とワークショップ 2
- 10回：映像作品の製作とワークショップ 3
- 11回：テキスト分析の方法と討議 1
- 12回：テキスト分析の方法と討議 2
- 13回：テキスト分析の方法と討議 3
- 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワーポイント等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：○	校外実習・フィールドワーク	：○
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

毎回の授業で指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 最終レポート(Final Report):40% 授業内に指示した課題物:30% プレゼンテーション:30%

テキスト / Textbooks

イ・ハンジン 『コリアン・シネマ：北朝鮮・韓国・トランスナショナル』 みすず書房 2018
4622086646 ○

参考文献 / Readings

専門演習 2

Advanced Seminar 2

新野 守広 (NIINO MORIHIRO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 異文化コミュニケーション学部
科目コード等： DM757
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： ICC4543
使用言語： その他
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 自動登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定： 履修要項を確認すること。
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

自ら設定したテーマについて調査研究を継続し、期限までに成果物を完成させる。

The goal of this seminar is for students to determine themes for Senior Research and Thesis by connecting their awareness of various issues to academic themes, and classes are conducted to help students master the fundamental elements (research methods and the like) required to make that determination.

授業の内容 / Course Contents

専門演習 1 に引き続き、都市文化論を扱う。多様な文化を生み出してきた近代都市に着目し、都市が生み出した文学、思想、芸術などのさまざまな表現形態に親しみ、文化の多様性についての理解を深める。専門演習 1 で見出した各自のテーマを参加者それぞれが深め、最終的な成果物へといたるために中間発表と成果発表を行う。

This seminar will focus on urban cultural studies as a continuation of Advanced Seminar 1. We will focus on the cities that have produced many different cultures, familiarize students with the literature, thought, art and other forms of expression that cities have given rise to, and further their understanding of cultural diversity. The seminar will introduce urban studies of important thinkers of 19th and 20th century Europe, and students will

read and discuss excerpts of their work. The seminar will also introduce Japanese urban studies from the 1970s through the present day, and students will discuss the various issues confronting Japanese society and work to discover fields of study that relate to their research themes.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：オリエンテーション（演習の進行の確認）
- 2 回：概論と担当者の決定
- 3 回：中間発表(1)
- 4 回：中間発表(2)
- 5 回：中間発表(3)
- 6 回：中間発表(4)
- 7 回：中間発表(5)
- 8 回：中間発表(6)
- 9 回：成果発表(1)
- 10 回：成果発表(2)
- 11 回：成果発表(3)
- 12 回：成果発表(4)
- 13 回：成果発表(5)
- 14 回：成果発表(6)

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワーポイント等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：					

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

毎回の授業で指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 出席およびディスカッションへの貢献度:30% プレゼンテーション:40% レポート:30%

テキスト / Textbooks

授業中に配付する。

参考文献 / Readings

授業中に適宜指示する。

専門演習 2

Advanced Seminar 2

星野 宏美 (HOSHINO HIROMI)

開講年度：	2024
科目設置学部：	異文化コミュニケーション学部
科目コード等：	DM759
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	春学期
単位：	2
科目ナンバリング：	ICC4543
使用言語：	その他
授業形式：	演習・ゼミ
履修登録方法：	自動登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	履修要項を確認すること。
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	

授業の目標 / Course Objectives

各自の問題意識を学術的なテーマと結びつけることで、「卒業研究」のテーマを設定することを目標とし、そのために必要な基礎的な事項（研究方法など）を身につける。

The goal of this seminar is for students to determine themes for Senior Research and Thesis by connecting their awareness of various issues to academic themes, and classes are conducted to help students master the fundamental elements (research methods and the like) required to make that determination.

授業の内容 / Course Contents

音楽を対象とした研究を志す者（ないしはそれに準ずる者）がそれぞれの関心や問題を持ち寄り、活発な意見交換の場とする。各自のテーマに基づく発表を中心とし、顔ぶれによっては全体の統一テーマを設定する。日ごろ頭の中で考えている事柄を他者に伝えるという作業を通して、自己と対象に新たに対峙し、考察を深める機会としたい。

This course presents students who intend to conduct research on music (and those who are considering it) with opportunities to bring their interests and issues into lively discussions with others. Presentations on individual themes will be the main focus; however, a unified theme may be decided depending on the makeup of the class.

The aim of putting students through the work of communicating their everyday thoughts to other people is to give students opportunities to face themselves and their subjects from new perspectives and further their consideration.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：テーマ設定の可能性
- 2 回：ジャンル史（交響曲・オペラ・オラトリオ・ミサ曲・室内楽・オルガン曲の歴史など）
- 3 回：時代史（ドイツ・ロマン派の社会と音楽，女性と音楽，サロンと音楽など）
- 4 回：作曲家作品研究（メンデルスゾーンの作品に見られるバッハ受容など）
- 5 回：音楽美学（作品・演奏・聴取の関係など）
- 6 回：音楽理論（時代や地域，作曲家ごとの和声の特徴など）
- 7 回：資料研究（作曲家の自筆譜や書簡，演奏評などの分析など）
- 8 回：楽器学（楽器の構造，文化史的意味など）
- 9 回：演奏習慣研究（メサイアの編成と規模の変遷とこんにちの妥当性など）
- 10 回：キリスト教音楽研究，讃美歌研究など
- 11 回：文献探索
- 12 回：資料探索
- 13 回：研究の方法
- 14 回：研究の目的

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

図書館所蔵の音楽事典類，AV コーナーの資料等を活用されたい。授業中に随時，具体的な活用法を紹介する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 担当の発表および平常のディスカッション参加度:60%

最終レポート割

合：40%

テキスト / Textbooks

とくに指定しない。

参考文献 / Readings

授業中に指示する。

専門演習 2

Advanced Seminar 2

マーティン, R (MARTIN, RON R.)

開講年度： 2024
科目設置学部： 異文化コミュニケーション学部
科目コード等： DM760
授業形態： 対面（一部オンライン）
授業形態（補足事項） The following class days are tentatively scheduled to be held via Zoom: May 15, June 7, and July 5
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： ICC4543
使用言語： その他
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 自動登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定： 履修要項を確認すること。
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

自ら設定したテーマについて研究計画を立て、先行研究の調査やデータの収集・整理など、卒業研究の成果物の作成をすすめていく。

Students will decide on a topic, complete a literature review, and design a research plan for their graduation thesis. The research plan will include either data collection (e.g., a survey and/or interviews) or the creation of a project.

授業の内容 / Course Contents

Students will learn the fundamentals for doing academic research. They will develop a full awareness and deep understanding of their chosen thesis theme through academic reading and discussion. Students will decide whether to collect and analyze data or to focus on the creation of project. To collect data, students will create research questions and understand how and why to collect data. Possible themes could be or could be related to: elementary school foreign language education, English language teaching, language learning motivation, or about a more general aspect of motivation. To create a project, students will create a product based upon theory in

order to offer solutions to an identified problem or gap faced by practitioners. Possible themes could be or could be related to the teaching of a foreign language, the learning of a foreign language, or about a more general aspect of motivation.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回： Course Introduction
- 2 回： Developing Research Questions
- 3 回： Literature Review 1
- 4 回： Literature Review 2
- 5 回： Research Theme Development 1
- 6 回： Research Theme Development 2
- 7 回： Research Methods 1
- 8 回： Research Methods 2
- 9 回： Data Collection Methods 1
- 10 回： Data Collection Methods 2
- 11 回： Project Creation 1
- 12 回： Project Creation 2
- 13 回： Presentation
- 14 回： Thesis Proposal

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワーポイント等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

It is essential for Advanced Seminar students to take initiative in their own work toward the successful completion of their Senior Thesis. The Advanced Seminar 2 course demands that students not only read a lot, but also complete, at the minimum, their L

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Attendance & Participation:30% Homework:30% Thesis Proposal:30%
Presentation:10%

テキスト / Textbooks

No textbook is required. Readings will be provided by the instructor.

参考文献 / Readings

Readings will be given in class.

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

It would be helpful to have a device in class (e.g., a tablet or laptop) to view materials distributed via Canvas and Google Drive.

専門演習 2

Advanced Seminar 2

丸山 千歌 (MARUYAMA CHIKA)

開講年度： 2024
科目設置学部： 異文化コミュニケーション学部
科目コード等： DM761
授業形態： 対面（一部オンライン）
授業形態（補足事項） 第13回、14回の中間報告会は合同ゼミを予定している。オンラインで実施する可能性がある。
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： ICC4543
使用言語： その他
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 自動登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定： 履修要項を確認すること。
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

自ら設定したテーマについて研究計画を立て、先行研究の調査やデータの収集・整理など、卒業研究の成果物の作成をすすめていく。

Students will create research plans on their chosen themes, investigate previous research, gather and organize data and progress toward writing the final versions of their graduation theses.

授業の内容 / Course Contents

卒業研究を作成するための基礎的事項を学習する。日本語教育と社会言語学の領域から、各自が選定した卒業論文のテーマについて、具体的にどのように論文のテーマとして絞り込んでいくか、テーマ決定から完成までどのようにデータ収集や調査、制作に取り組みばよいのかなどのことをひとつひとつ丁寧に指導していく。

Students will learn the fundamental points for writing their graduation theses. The instructor will offer careful, personalized instruction on specifically how to narrow students' chosen themes for their graduation theses in the fields of Japanese language education and sociolinguistics, and how to go about gathering and investigating data, writing and other tasks to see the theses through to completion.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：はじめに
 2回：研究テーマ策定1
 3回：研究テーマ策定2
 4回：研究テーマ策定3
 5回：研究研究計画1
 6回：研究研究計画2
 7回：進捗報告1
 8回：進捗報告2
 9回：進捗報告3
 10回：進捗報告4
 11回：進捗報告5
 12回：進捗報告6
 13回：中間報告会1
 14回：中間報告会2

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	○	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

毎回の授業で指示する。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：002) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 出席と参加度:40% 課題と発表:40% 期末発表:20%

テキスト / Textbooks

特に指定しない。

参考文献 / Readings

授業内で適宜紹介する。

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

卒業研究につなげるための科目なので、すべてにおいて自発的、自律的に取り組む姿勢が期待される。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

授業や課題提出にPCまたはタブレット端末を使用する。

その他 / Others

スケジュールや内容は調整する場合がある。

専門演習 2

Advanced Seminar 2

河合 優子 (KAWAI YUKO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 異文化コミュニケーション学部
科目コード等： DM762
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： ICC4543
使用言語： その他
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 自動登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定： 履修要項を確認すること。
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

自らの卒業研究課題に適切な研究方法を見つけ、先行研究文献調査を完成させる。

Students will learn research methods and find an appropriate one for their senior thesis and complete the literature review section

授業の内容 / Course Contents

専門演習 2 では研究法と分析法を中心に学んでいく。まず、質的研究法とは何か、データ分析をどのようにして行うかについて学ぶ。加えて、各自の研究テーマに関する文献調査を行い、クラス内でその発表を行うことで先行研究文献調査をすすめる。学期末には、卒業研究の前半部分にあたる先行研究文献調査と研究方法の部分を完成させる。

This seminar provides students with an opportunity to learn qualitative research methods and ways of collecting and analyzing data. In addition, students will continue to do a literature review for their research topic and present the progress in class. At the end of the semester, students will complete the literature review and research method sections.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：導入
- 2回：研究とは
- 3回：研究法（1）
- 4回：研究法（2）
- 5回：研究法（3）
- 6回：分析方法（1）
- 7回：分析方法（2）
- 8回：分析方法（3）
- 9回：先行研究文献発表（1）
- 10回：先行研究文献発表（2）
- 11回：先行研究文献発表（3）
- 12回：研究計画発表（1）
- 13回：研究計画発表（2）
- 14回：研究計画書返却面談

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	○ グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

課題文献は必ず読んで授業に参加すること

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 出席・授業参加貢献度:20% 口頭発表:30% 提出物:50%

テキスト / Textbooks

初回の授業で指示する。

参考文献 / Readings

授業時に紹介する。

その他 / Others

授業は受講生の発表および討論を中心にすすめる。提出物はコメントをつけて返却する。

専門演習 2

Advanced Seminar 2

細井 尚子 (HOSOI NAOKO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 異文化コミュニケーション学部
科目コード等： DM764
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： ICC4543
使用言語： その他
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 自動登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定： 履修要項を確認すること。
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

自ら設定したテーマについて研究計画を立て、先行研究の調査やデータの収集・整理など、卒業研究の成果物の作成をすすめていく。

Students will create research plans on their chosen themes, investigate previous research, gather and organize data and progress toward writing the final versions of their graduation theses.

授業の内容 / Course Contents

専門演習 1 で身に付けた基礎知識と研究方法に基づき、各自が抱いた興味や関心、問題意識を発展させて卒業研究のテーマを確定し、卒業研究としてまとめるための土台をつくる。

各自のテーマに応じて、関連する基礎的資料・情報を収集し、整理・分析・思考を重ねていく。授業は各自の進捗状況の報告とディスカッションを中心とする。

Students will use the basic knowledge of the theater, dramatic performance and performing arts of East Asia they learned in Advanced Seminar 1 to develop their interests and awareness of issues and settle on graduation thesis themes, and build the foundation for

organizing their ideas into their graduation theses. Students will gather foundational materials and information

related to their themes and continue to organize, analyze and consider them. Classes revolve around discussions and reports of individual progress.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：オリエンテーション
- 2回：卒業研究でやりたいこと①
- 3回：卒業研究でやりたいこと②
- 4回：卒業研究テーマと構想①
- 5回：卒業研究テーマと構想②
- 6回：報告①先行研究の解題
- 7回：報告②先行研究の解題
- 8回：報告③先行研究の解題
- 9回：報告④関連資料とデータの整理・分析
- 10回：報告⑤関連資料とデータの整理・分析
- 11回：報告⑥関連資料とデータの整理・分析
- 12回：報告⑦中間報告－卒業研究の構想と計画
- 13回：報告⑧中間報告－卒業研究の構想と計画
- 14回：報告⑨中間報告－卒業研究の構想と計画

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

毎回の授業で指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 報告:40% 課題:40% 授業参加度:20%

テキスト / Textbooks

各自のテーマに拠り、適宜指示する。

参考文献 / Readings

各自のテーマに拠り、適宜指示する。

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

自主的、主体的に自身のテーマに取り組む姿勢。

専門演習 2

Advanced Seminar 2

日下部 尚徳 (KUSAKABE NAONORI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 異文化コミュニケーション学部
科目コード等： DM765
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： ICC4543
使用言語： その他
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 自動登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定： 履修要項を確認すること。
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

論文執筆に向け、考えをまとめ、自分の言葉で表現し、他のゼミ生からのコメントを受け応答し、また他のゼミ生の研究から学び、質問・コメント等を通じて他者の研究に貢献することで、アイディアの精緻化とゼミ内での知識の増進を目指す。

到達目標

01. 研究テーマを設定する
02. 先行文献リストを作成し、自身の研究の位置づけを明らかにする
03. 論文執筆に向けた計画書を作成する

This seminar offers the occasions to sort out your idea, express with your own words, receive comments from the peers, and also to learn through contributing to others, to write a graduation thesis.

授業の内容 / Course Contents

受講生各自の興味関心にあわせて、研究テーマの選定をおこなう。

その上で、先行研究の講読および分析、卒論執筆計画の立案をおこなう。

卒業論文の中間発表を通じて、論文の執筆の基本や、調査手法の基礎を学ぶ。

The seminar's first half will be based on each one's report and discussion on their benchmark paper, and the second half will be based on their preliminary report of their studies.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：オリエンテーション
- 2回：研究計画書の書き方
- 3回：研究テーマの検討(1)
- 4回：研究テーマの検討(2)
- 5回：研究テーマの検討(3)
- 6回：研究テーマの検討(4)
- 7回：研究テーマの検討(5)
- 8回：先行研究の探し方・文献リストの作成
- 9回：先行文献講読(1)
- 10回：先行文献講読(2)
- 11回：先行文献講読(3)
- 12回：先行文献講読(4)
- 13回：先行文献講読(5)
- 14回：研究計画中間報告会

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

01. 授業内で指示した文献や映像資料を事前に読んでおくこと
02. 講義に関連する新聞記事のスクラップをおこなうこと
03. 授業終了時に示す課題についてレポートを作成すること
04. 次回の授業範囲を予習し、わからない用語の意味等の理解をしておくこと

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% プレゼンテーション:30% 中間レポート:30% 最終レポート割合：40%

演習（ゼミ）は報告・発表をして終わりではなく、他者の研究報告を理解し、建設的な質問やコメントも行っていくことで、互いに知識を共有・交換する場です。ゼミの意義を理解し、参加してください。

テキスト / Textbooks

日下部尚徳 『わたし8歳、職業、家事使用人。：世界の児童労働者1億5200万人の1人』 合同出版
2017 9784772613620 -

参考文献 / Readings

専門演習 2

Advanced Seminar 2

佐藤 邦彦 (SATO KUNIHICO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 異文化コミュニケーション学部
科目コード等： DM767
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： ICC4543
使用言語： その他
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 自動登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定： 履修要項を確認すること。
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

自ら設定したテーマについて研究計画を立て、先行研究の調査やデータの収集・整理など、卒業研究の成果物の作成をすすめていく。

This course aims to help students create research plans on their chosen themes, investigate extant literature, gather and organize data, and take concrete steps toward the writing of the final versions of their graduation theses.

授業の内容 / Course Contents

各自の関心テーマに応じて、テーマや対象の絞り込みのための基礎的情報収集、その後の調査や考察の方針について考え、卒業研究のテーマを確定して全体の構想を具体化するよう指導を行う。

Students will be instructed according to their themes or interests so they can 1) obtain the necessary information to better focus their themes and objects, 2) search for perspectives appropriate to their research projects, and 3) select the themes of their graduation theses with a clear plan on how to proceed.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：研究テーマの概略の発表

- 2回：調査や資料収集の方法・文献考察の方向性等についての指導1
 3回：報告と討論1
 4回：報告と討論2
 5回：報告と討論3
 6回：テーマ確定のための検討
 7回：中間発表1
 8回：調査・考察の方向性等についての指導2
 9回：報告と討論4
 10回：報告と討論5
 11回：報告と討論6
 12回：中間発表2
 13回：研究完成に向けての構想立てのための指導
 14回：研究完成に向けての構想のまとめと報告

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワーポイント等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

毎回の授業で指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 報告や討論の参加状況:30% 中間発表:30% 最終レポート割合：:40%

テキスト / Textbooks

なし

参考文献 / Readings

必要に応じて授業中に指示する。

専門演習 2

Advanced Seminar 2

池田 伸子 (IKEDA NOBUKO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 異文化コミュニケーション学部
科目コード等： DM769
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： ICC4543
使用言語： その他
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 自動登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定： 履修要項を確認すること。
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

自ら設定したテーマについて具体的に研究計画を立て、先行研究の調査やデータの収集・整理など、卒業研究の成果物の作成をすすめていく。

Students will create detailed research plans on their chosen themes, investigate previous research, gather and organize data and progress toward writing the final versions of their graduation theses.

授業の内容 / Course Contents

参加者それぞれが、各自選択したテーマにそって、卒業研究の完成を目指す。まず、どのようなタイムスケジュールで何をどこまで完成させるのか、どのような方法を用いて結論を導き出すのかなどについての具体的な研究計画を立てる。また、論文の形式や引用の仕方など、学術的論文の書き方、研究上の倫理についても学んでいく。毎回の授業は、参加者それぞれが進めた卒業研究の進捗を報告し、それにコメントする形で進める。

Each student will seek to complete their graduation thesis in line with their chosen theme. First, students will create detailed research plans that explain things such as what they will complete to what extent and on what kind of timeline, and what methods they will use to arrive at their conclusions. Students will also learn how to format their theses, cite sources and other information about writing academic papers and research ethics. Each class

consists of students reporting on the progress of their graduation theses, and receiving comments.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：オリエンテーション、進め方について。
- 2回：発表1および質疑応答、ディスカッション
- 3回：発表2および質疑応答、ディスカッション
- 4回：発表3および質疑応答、ディスカッション
- 5回：発表4および質疑応答、ディスカッション
- 6回：発表5および質疑応答、ディスカッション
- 7回：発表6および質疑応答、ディスカッション
- 8回：学術論文の構成、引用の仕方などについて
- 9回：発表7および質疑応答、ディスカッション
- 10回：発表8および質疑応答、ディスカッション
- 11回：発表9および質疑応答、ディスカッション
- 12回：発表10および質疑応答、ディスカッション
- 13回：発表11および質疑応答、ディスカッション
- 14回：まとめ、総括

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	○	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:					

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

毎回の授業で指示する。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：002) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 卒業研究報告 1:20% 卒業研究報告 2 :20% 参加度:30% 最終レポート割合 :30%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

その他 / Others

- 1) 授業は各受講者が主体となるディスカッションを通して行われるため、受講者は各自が自分のテーマについて自発的に調べ、発表することが求められる。
- 2) 各参加者のプレゼンテーションについては、次の回の授業でフィードバックを行う。
- 3) 連絡事項、資料の配付などは Canvas LMS を通して実施する。

専門演習 2

Advanced Seminar 2

黒岩 三恵 (KUROIWA MIE)

開講年度： 2024
科目設置学部： 異文化コミュニケーション学部
科目コード等： DM770
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： ICC4543
使用言語： その他
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 自動登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定： 履修要項を確認すること。
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

美術と視覚文化についてより専門的な知識を獲得し、作品や作者や視覚文化の事例について、社会的、文化的コンテクストを的確にとらえ、総合的な考察ができるようになる。

The goal of this seminar is to gain a higher knowledge about visual art, visual expressions, or various forms of visual culture, to grasp the appropriate social and cultural contexts of the artworks, and to be able to make in-depth multifaceted analyses of them.

授業の内容 / Course Contents

履修生と相談の上、美術または視覚表現に関係するテーマを設定し、そのテーマをめぐる様々な活動を通じて、多面的な考察をプレゼンテーション、ディスカッション、小エッセイ等の成果とし発表してゆく。

Students will choose one or a few theme(s) about art or visual culture that they will explore individually and collectively through a variety of activities such as reading texts, watching videos, browsing artworks on the internet, or visiting museums and monuments, They will discuss, write essays or make a presentation on the given theme.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス：演習の進め方、履修生の関心に基づく大枠のテーマと授業計画の決定、評価方法の確認
- 2回：履修生の関心に従って最終的に決定
- 例) テーマ①：テーマ①の定義とは？どのような見方がされたか？
- 3回：履修生の関心に従って最終的に決定
- 例) テーマ①：私が好きな美術作品 テーマとのかかわりにおける作品分析
- 4回：履修生の関心に従って最終的に決定
- 例) テーマ①：その背景やコンテキストとしての文化
- 5回：履修生の関心に従って最終的に決定
- 例) テーマ①：その背景やコンテキストとしての社会
- 6回：プレゼンテーション：テーマ①を多面的に切り取る
- 7回：履修生の関心に従って最終的に決定：卒業論文執筆へ向けて
- 例) テーマ②：テーマ②の定義とは？その重要性とは？
- 8回：履修生の関心に従って最終的に決定：卒業論文執筆へ向けて
- 例) テーマ②：テーマを主題とする作品 総カタログを作ってみよう
- 9回：履修生の関心に従って最終的に決定：卒業論文執筆へ向けて
- テーマ②：テーマの研究方法 研究史をまとめてみる
- 10回：履修生の関心に従って最終的に決定：卒業論文執筆へ向けて
- テーマ②：展覧会見学 展覧会企画者のねらいは？
- 11回：履修生の関心に従って最終的に決定：卒業論文執筆へ向けて
- 例) テーマ②：あたらしい問題の発見と提起
- 12回：発表①
- 13回：発表②
- 14回：総括

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

演習は学生が主体となることは言うまでもない。自らの問題意識を明確にして、毎回の授業に寄与するために必要な学習を行うこと。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% プレゼンテーション:30% 授業時の種々の活動:40% 最終レポート割合 :30%

テキスト / Textbooks

ガイダンス時に学生と相談の上、決定する予定。

参考文献 / Readings

随時紹介する。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

PC等の機器を持参すること。

専門演習 2

Advanced Seminar 2

中田 達也 (NAKATA TATSUYA)

開講年度： 2024
科目設置学部： 異文化コミュニケーション学部
科目コード等： DM773
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： ICC4543
使用言語： その他
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 自動登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定： 履修要項を確認すること。
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

各自の問題意識を学術的なテーマと結びつけることで「卒業研究」のテーマを設定することを目標とし、そのために必要な基礎的な事項（研究方法など）を身につけるための授業を行う。

The goal of this seminar is for students to determine themes for Senior Research and Thesis by connecting their awareness of various issues to academic themes, and classes are conducted to help students master the fundamental elements (research methods and the like) required to make that determination.

授業の内容 / Course Contents

第二言語習得の様々な側面（語彙・文法・発音・リスニング・リーディング・スピーキング・ライティング能力の習得など）について理解を深め、それらを英語教育および英語学習に生かす方法について考察する。授業は受講生による発表やクラス全体でのディスカッションを中心に進める。また、卒業研究の作成を念頭に、先行研究を批判的に考察した上で研究テーマを設定し、研究成果を論文として発表する能力を養う。

Through reading assignments, lectures, and group discussions, students will deepen understanding about various aspects of second language acquisition (e.g., acquisition of vocabulary, grammar, pronunciation, listening, reading, speaking, and writing skills) and reflect on how they can apply research to their own teaching and

learning. Students will also learn to (a) critically evaluate previous literature, (b) formulate research questions, (c) collect data, and (d) publish findings in the form of academic papers.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：文献研究 1
- 3回：文献研究 2
- 4回：卒業研究ピアフィードバック 1
- 5回：教材分析：語彙学習教材の分析
- 6回：アプリ・ソフトウェアの分析
- 7回：語彙分析 1
- 8回：語彙分析 2
- 9回：卒業研究ピアフィードバック 2
- 10回：ケース・スタディ
- 11回：インタビュー
- 授業観察
- 12回：TV 番組による英語学習
- 13回：卒論構想発表 1
- 14回：卒論構想発表 2

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

適宜指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 学期中の課題:40% クラスへの貢献度などの平常点:30% 最終レポート割合：30%

テキスト / Textbooks

PDF で配布する。

参考文献 / Readings

専門演習 2

Advanced Seminar 2

武田 珂代子 (TAKEDA KAYOKO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 異文化コミュニケーション学部
科目コード等： DM774
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： ICC4543
使用言語： その他
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 自動登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定： 履修要項を確認すること。
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

自ら設定したテーマについて研究計画を立て、先行研究の調査やデータの収集・整理など、卒業研究の成果物の作成をすすめていく。

This seminar aims to help students prepare their research plans for graduation thesis projects and proceed according to the plans, with a particular emphasis on literature review and data collection.

授業の内容 / Course Contents

卒業研究のための計画を構築し実施していくために必要な基本的スキルを習得する。特に、トピックの選定、リサーチクエスションの設定、研究方法の選定、データの収集と分析をする方法に焦点を当てる。

Students will acquire essential skills for planning and completing graduation thesis projects. Focus is placed on how to select topics, set up research questions, identify research methods, and collect and analyze data.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：オリエンテーション

2 回：翻訳通訳研究のテーマと研究方法（概論） 1

- 3回：翻訳通訳研究のテーマと研究方法（概論）2
 4回：研究計画の立て方
 5回：研究テーマとリサーチクエスションの設定1
 6回：研究テーマとリサーチクエスションの設定2
 7回：研究調査方法1
 8回：研究調査方法2
 9回：文献調査と討議1
 10回：文献調査と討議2
 11回：文献調査と討議3
 12回：学生の発表
 13回：学生の発表
 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワポ等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	○	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:					

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

毎回の授業で指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 研究の中間報告書:40% 出席と授業への貢献:30% 研究発表:30%

テキスト / Textbooks

武田珂代子編著 『翻訳通訳研究の新地平』 晃洋書房 2017 9784771028135 ○

その他、適宜資料を配布する。

参考文献 / Readings

マンデイ, J. 著 『翻訳学入門』 みすず書房 2009 4622074559

ポエヒハッカー, F. 著 『通訳学入門』 みすず書房 2008 4622074125

ピム, A. 著 『翻訳理論の探求』 みすず書房 2010 4622075180

武田珂代子著 『通訳者と戦争犯罪』 みすず書房 2023 9784622096177

武田珂代子著 『太平洋戦争 日本語諜報戦』 筑摩書房 2018 9784480071620

Williams, J. & Chesterman, A. The Map: A Beginner's Guide to Doing Research in Translation Studies
 Routledge 2002 1900650541

その他 / Others

TI@Rikkyo <https://www2.rikkyo.ac.jp/web/ti-rikkyo/>

Kayoko Takeda's works https://researchmap.jp/kayoko_takeda

専門演習 2

Advanced Seminar 2

佐竹 晶子 (SATAKE AKIKO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 異文化コミュニケーション学部
科目コード等： DM776
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： ICC4543
使用言語： その他
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 自動登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定： 履修要項を確認すること。
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

各自の興味と問題意識に合わせて、研究テーマを絞り込み、確定する。また、必要な文献を収集し、問題の背景や先行研究の知識を積み上げていく。

Combining each student's interests with issues they are aware of, students will whittle down possible research topics and finalize the topic, collect necessary literature, accumulate background knowledge and existing research on the topic.

授業の内容 / Course Contents

各自の研究テーマに沿って、毎週、文献を読んで得た知識を報告文としてまとめ、それに対する質疑応答を通して、自分の論理の整合性、更に調べるべき事柄などを確認していく。他の報告に対して第三者として質問や意見を述べることにより、客観的な批判能力を磨いていく。必要に応じて、論文の書き方の復習も同時に行う。

Every week each student will write a report summarizing knowledge acquired from literature covered in line with their research topic. Then via a question and answer session based on the report, students can check the consistency of their logic and find other areas they need to investigate. By independently asking questions and

expressing their opinion about others' reports, students will improve their ability to objectively critique the work of others. Depending on the students' needs, the mechanics of how to write an academic paper will be reviewed.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：研究テーマの構想発表
- 2回：研究テーマの絞り込み、研究計画案
- 3回：文献報告と討議（1）
- 4回：文献報告と討議（2）
- 5回：詳細な図書館検索講義
- 6回：文献報告と討議（3）論文の書き方の確認
- 7回：文献報告と討議（4）
- 8回：文献報告と討議（5）
- 9回：文献報告と討議（6）
- 10回：文献報告と討議（7）
- 11回：文献報告と討議（8）
- 12回：文献報告と討議（9）論文の書き方の演習
- 13回：文献報告と討議（10）論文の構成検討
- 14回：研究中間報告と夏休みの研究課題確認

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

毎回の授業で指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 文献・資料の要約、報告文:40% 質疑応答、討議参加度:30% 文献・資料に関する口頭報告:30%

テキスト / Textbooks

各自のテーマに寄り、適宜指示する。

参考文献 / Readings

専門演習 2

Advanced Seminar 2

石黒 武人 (ISHIGURO TAKETO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 異文化コミュニケーション学部
科目コード等： DM777
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： ICC4543
使用言語： その他
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 自動登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定： 履修要項を確認すること。
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

専門演習 1 で設定したテーマについて、研究計画を発展させ、先行研究のさらなる調査、データ収集・分析のための準備をし、卒業研究をすすめていくことを目標とする。

Students will develop a research proposal based on their chosen topics in Advanced Seminar 1, do further literature review, and prepare to collect and analyze data to advance their graduation research projects.

授業の内容 / Course Contents

研究トピックと研究法について文献調査を行い、研究目的に適した研究法（授業では、ライフストーリー・インタビューに焦点を当てる）について選び、研究計画を発展させる。その後、研究計画に沿ってさらなる文献研究を行い、学期末にはフィールド調査の準備を整える。文献研究と調査プロジェクトの内容について批判的に掘り下げていくための思索や討議を行う。

Students will do a literature review on their topics and research methods, identify their research methods (in this seminar we'll focus on lifestory interview) appropriate for their research objectives, and develop their research proposals. Then, they will do a further literature review, make preparations to conduct their field research, and critically discuss their literature reviews and research projects.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：オリエンテーション：「専門演習2」の概要ならびにおよび『ライフストーリー・インタビュー』の発表者の分担
- 2回：各自のテーマに関連する文献の紹介（一人5分程度）
- 3回：発表①pp.11～36「ライフストーリー・インタビューをはじめる」（前半）
- 4回：発表②pp. 37～61「ライフストーリー・インタビューをはじめる」（後半）
- 5回：発表③pp. 71～98「ライフストーリー・インタビューを行う」（前半）
- 6回：発表④pp. 99～118「ライフストーリー・インタビューを行う」（後半）
- 7回：発表⑤pp. 129～154「インタビュー・テキストを解釈する」（前半）
- 8回：発表⑥pp. 155～176「インタビュー・テキストを解釈する」（中盤）
- 9回：発表⑦pp. 177～208「インタビュー・テキストを解釈する」（後半）
- 10回：発表⑧pp. 209～231「ライフストーリー・インタビューを書く／用いる」（前半）
- 11回：発表⑨ pp. 232～256「ライフストーリー・インタビューを書く／用いる」（後半）
- 12回：中間報告会（研究進捗報告）1
- 13回：中間報告会（研究進捗報告）2
- 14回：中間報告会（研究進捗報告）3ならびにまとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

ライフストーリー・インタビューへの理解を確実にするために、発表内容を復習すること。また、関連する文献を読み、理解を深めること。さらに、各自の研究テーマに関する論文、書籍を探し、要約し、専門演習2の最終レポートに組み込めるようにしておくこと。その際、要約するだけでなく、論文、書籍の内容を批判的に検討し、その特徴と限界について考えること。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 参加度：30% 課題と発表：30% 期末課題：40%

テキスト / Textbooks

桜井厚 小林多寿子 『ライフストーリー・インタビュー 質的研究入門』 せりか書房 2005
9784796702683 ○

なし

参考文献 / Readings

- 桜井厚 『インタビューの社会学 ライフストーリーの聞き方』 せりか書房 2002 9784796702379
- 山田富秋（編） 『ライフストーリーの社会学』 北樹出版 2005 9784779300165
- 桜井厚 『ライフストーリー論』 弘文堂 2012 9784335501272
- 桜井厚 石川良子（編） 『ライフストーリー研究に何ができるか 対話的構築主義の批判的継承』 新曜社 2015 9784788513983
- ホルスタイン, J. A. グブリアム, J. F. 『アクティヴ・インタビュー』 せりか書房 2004 9784796702584

木下康仁 『グラウンデッド・セオリー・アプローチの実践—質的研究への誘い』 弘文堂 2003

木下康仁 『ライブ講義M・G・T・A—実践的質的研究法 修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチのすべて』 弘文堂 2007 9784335551109

適宜指示する。

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

インタビュー調査や現場での観察（フィールドワーク）や、言語・非言語データ（テキスト）の分析といった「質的研究」というジャンルに取り組むため、アンケート調査と統計的手法に基づく研究を志向する学生のニーズには合わないため、その点を留意してください。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

資料をオンラインの授業運営プラットフォームにアップロードするので、印刷をするか、パソコン等で読めるようにして授業に参加してください。

その他/ Others

ゼミのホームページ：<https://sites.google.com/rikkyo.ac.jp/icss/%E3%83%9B%E3%83%BC%E3%83%A0>

英語で論文を書く場合、参考文献の5にある『アクティブ・インタビュー』の原書、Active Interviewing (Holstein, J. A., & Guburium, J. F. [1995] Sage Publications) やその他関連文献を参照してください。

専門演習 2

Advanced Seminar 2

小倉 和子 (OGURA KAZUKO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 異文化コミュニケーション学部
科目コード等： DM779
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： ICC4543
使用言語： その他
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 自動登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定： 履修要項を確認すること。
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

自ら設定したテーマについて研究計画を立て、先行研究の調査やデータの収集・整理など、卒業研究の成果物の作成を進めていくことができる。

Students should be able to develop a research proposal based on a chosen topic, collect and organize data and studies from existing research, and work towards creating the deliverables for their graduation research project.

授業の内容 / Course Contents

主としてフランス語圏（フランス、ケベック、北アフリカなど）の文化と社会に関連したテーマで卒業研究を作成するための基礎的事項を学習する。

各自の問題意識をどのように卒業研究のテーマに結び付けていくか、テーマ決定後から完成までどのようにデータ収集や調査、制作に取り組めばよいのかなどを学ぶ。

Students will mainly learn the fundamental skills needed to complete a graduation research project on a topic related to the cultures and societies of French-speaking areas (France, Quebec, North Africa, etc.).

They will also learn how to link their own awareness of the issues to a graduation research project theme, and then how to go from choosing to completing a research project through data collection, investigation and

production phases.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：先行研究の講読と討議（1）
- 3回：先行研究の講読と討議（2）
- 4回：先行研究の講読と討議（3）
- 5回：先行研究の講読と討議（4）
- 6回：研究テーマの策定（1）
- 7回：研究テーマの策定（2）
- 8回：資料調査研究（1）
- 9回：資料調査研究（2）
- 10回：資料調査研究（3）
- 11回：資料調査研究（4）
- 12回：卒業研究の構想の報告（1）
- 13回：卒業研究の構想の報告（2）
- 14回：総括

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外の学習に関する指示は、毎回の授業時に行う。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業への参加度:40% 授業時の発表:30% 最終レポート割合：:30%

テキスト / Textbooks

授業で資料を配布する。

参考文献 / Readings

- 新倉俊一他 『事典 現代のフランス[増補版]』 大修館書店 1997年 9784469051759
 三浦信孝・西山教行編著 『現代フランス社会を知るための62章』 明石書店 2010年 9784750333120
 日本ケベック学会 『ケベックを知るための56章（第2版）』 明石書店 2024年 9784750356617
 G・ブシャール 『間文化主義』 彩流社 2017年 9784779124310
 随時紹介するもの。

専門演習 2

Advanced Seminar 2

石井 正子 (ISHII MASAKO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 異文化コミュニケーション学部
科目コード等： DM781
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： ICC4543
使用言語： その他
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 自動登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定： 履修要項を確認すること。
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

卒論の執筆に必要な調査・方法論を学ぶ。

卒論の執筆を進めるうえで必要な論理的な思考を培うことができる。

The course introduces the academic skills in writing a graduation thesis.

授業の内容 / Course Contents

国際協力（主に紛争研究、平和構築、人道支援）の分野で「卒業研究」を行う学生を対象に、調査・方法論を導入する。

各自がそれぞれの卒論の研究テーマに沿って、研究調査研究計画発表を行い、ディスカッションを通じて考察を深める。

The course introduces the academic skills in writing the graduation thesis in the themes of international cooperation. The students will conduct their own research and analysis which are necessary in writing up their graduation thesis.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：先行研究・構想発表
- 2回：先行研究・構想発表
- 3回：先行研究・構想発表
- 4回：先行研究・構想発表
- 5回：文献講読、ディスカッション
- 6回：文献講読、ディスカッション
- 7回：文献講読、ディスカッション
- 8回：文献講読、ディスカッション
- 9回：文献講読、ディスカッション
- 10回：研究計画発表
- 11回：研究計画発表
- 12回：研究計画発表
- 13回：研究計画発表
- 14回：研究計画発表

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワーポイント等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

関連する先行研究を読み、まとめ、自分の研究テーマを位置づけること。

文献講読で指定された文献を読むこと。

卒論執筆に必要な調査、分析を行うこと。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% レポート:40% 出席、課題発表:60%

テキスト / Textbooks

授業時に適宜紹介する。

参考文献 / Readings

授業時に適宜紹介する。

その他 / Others

授業計画は履修者の人数や関心によって変更する場合があります。

専門演習 2

Advanced Seminar 2

奥野 克巳 (OKUNO KATSUMI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 異文化コミュニケーション学部
科目コード等： DM782
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： ICC4543
使用言語： その他
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 自動登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定： 履修要項を確認すること。
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

専門演習 1 を踏まえて、各自の問題意識を学術的なテーマと結びつけることで、「卒業研究」のテーマを設定することを目標とし、そのために必要な基礎的な事項（研究方法など）を身につけるための授業を行う。

The goal of this seminar is, based on the Advanced Seminar 1, for students to determine themes for Senior Research and Thesis by connecting their awareness of various issues to academic themes, and classes are conducted to help students master the fundamental elements (research methods and the like) required to make that determination.

授業の内容 / Course Contents

アニミズム、シャーマニズム、呪術、神話、仮面、儀礼、死と葬儀、人間と自然、動物、セックス、ジェンダー、贈与と交換、家族と婚姻などの文化人類学が扱うトピックの中から各自でテーマを設定して、卒業研究を完成させたい学生のためのゼミ形式の授業。レジメ発表の方法を身につけて、基本文献を輪読しながら、各自の卒業研究に結びつけていく。

This seminar-style course is for students who wish to finish their graduation theses on themes chosen from the many cultural anthropology topics available, including animism, shamanism, sorcery, mythology, masks,

ceremony, death and funeral rites, humans and nature, animals, sex, gender, gifts and trade, and families and marriage. Students will master methods for presenting summaries, and take turns reading basic reading materials to connect the concepts to their own graduation theses.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：導入、授業内容の概説
- 2 回：個人研究計画の概要の発表
- 3 回：論文の読み方と書き方の解説
- 4 回：基本文献の輪読（1）
- 5 回：基本文献の輪読（2）
- 6 回：基本文献の輪読（3）
- 7 回：基本文献の輪読（4）
- 8 回：基本文献の輪読（5）
- 9 回：研究構想の発表（1）
- 10 回：研究構想の発表（2）
- 11 回：研究構想の発表（3）
- 12 回：研究構想の発表（4）
- 13 回：研究構想の発表（5）
- 14 回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワーポイント等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	○ グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

毎回の授業で指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 出席と授業参加態度:60% 最終レポート割合：40%

テキスト / Textbooks

特になし。

参考文献 / Readings

奥野克巳 『これからの時代を生き抜くための文化人類学入門』 辰巳出版 2022 9784777828739

専門演習 2

Advanced Seminar 2

石川 文也 (ISHIKAWA FUMIYA)

開講年度： 2024
科目設置学部： 異文化コミュニケーション学部
科目コード等： DM784
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： ICC4543
使用言語： その他
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 自動登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定： 履修要項を確認すること。
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

各自の問題意識を学術的なテーマと結びつけることで「卒業研究」のテーマを設定することを目標とし、そのために必要な基礎的な事項（研究方法など）を身につけるための授業をおこなう。

The goal of this seminar is for students to determine themes for Senior Research and Thesis by connecting their awareness of various issues to academic themes, and classes are conducted to help students master the fundamental elements (research methods and the like) required to make that determination.

授業の内容 / Course Contents

ことばによってどのような「知」がどのようなプロセスに従って伝達されるかを明らかにする方法として「ディスカール分析」と「会話分析」がある。「ディスカール分析」は主として1960年代にフランスで始められた分析方法であり、「会話分析」はアメリカで生まれ、その後フランスでも展開されているアプローチである。ともにことばを研究対象として相対化する研究方法であり、言語教育・習得の分野にも導入され、外国語の授業内外においてことばによってことばに関係するどのような情報がどのようなプロセスによって伝達されるのかを明らかにする

Discourse analysis and conversation analysis are two ways to clarify the kinds of knowledge that are

communicated with language, and the processes by which they are communicated. Discourse analysis is an analytical method that began in earnest in France in the 1960s, and conversation analysis is an approach that originated in the United States of America and then spread to France. They are both research methods that relativize language as the research subject, and have been adopted in the fields of language education and acquisition to clarify the kinds and processes by which language-related information is communicated using language inside and outside foreign language classrooms.

The purpose of this Advanced Seminar is to teach students basic knowledge and fundamental analytical skills regarding discourse and conversation analysis by having them carefully read whole and excerpted literature written in Japanese, French and English, identify themes related to their own language use or language education and acquisition, and use specific analytical resources to consider their themes in practical terms. Students will do prepare for writing their graduation theses in parallel with their work in this course.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：「学術的知」の技法の説明
- 3回：論文の書き方の説明
- 4回：文献の輪読あるいは共同討議（1）
- 5回：文献の輪読あるいは共同討議（2）
- 6回：文献の輪読あるいは共同討議（3）
- 7回：卒業論文批判
- 8回：卒業研究（論文）の進捗状況の中間報告（1）
- 9回：卒業研究（論文）の進捗状況の中間報告（2）
- 10回：文献の輪読あるいは共同討議（4）
- 11回：文献の輪読あるいは共同討議（5）
- 12回：卒業研究（論文）の進捗状況の最終報告（1）
- 13回：卒業研究（論文）の進捗状況の最終報告（2）
- 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

初回の授業で各回のための準備学習を指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業への参加度：40% 口頭発表：30% 卒業研究（論文）の進捗：30%

テキスト / Textbooks

初回の授業で決定する。

参考文献 / Readings

授業中に配付するプリントあるいはメールの添付ファイルなどによって随時紹介する。

その他/ Others

- * 上記の「授業計画」は、履修者数や指導の進捗状況にあわせて調整する可能性がある。
- * 通常の授業に加えて、研究計画書の作成のための個別指導と添削を主にメールでおこなう。
- * 学生の報告あるいは提出物について、口頭あるいは筆記によってコメントする。
- * やむを得ず休講となった場合、内容を繰り下げて補講日に補講をおこなうか、それに代わる課題を出す。

専門演習 2

Advanced Seminar 2

小山 亘 (KOYAMA WATARU)

開講年度： 2024
科目設置学部： 異文化コミュニケーション学部
科目コード等： DM787
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： ICC4543
使用言語： その他
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 自動登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定： 履修要項を確認すること。
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

自ら設定したテーマについて研究計画を立て、先行研究の調査やデータの収集・整理など、卒業研究の成果物の作成を進めていく。

Students will create research plans on their chosen themes, investigate previous research, gather and organize data and progress toward writing the final versions of their graduation theses.

授業の内容 / Course Contents

専門演習 1 で定めたテーマに関する文献研究や調査などを行い、内容的により掘り下げ具体化していくための思索や討議を行う。

This seminar deals with fields of study concerning language, culture, and communication. Under the instructor's supervision, students are expected to investigate more deeply into their chosen themes, keep examining their theoretical frameworks and research methods, and explore previous and related research. Especially in the latter half of the seminar, students will be instructed to write a draft of certain sections of their graduation theses.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：概観

- 2回：討議、発表、及び個人指導 1
 3回：討議、発表、及び個人指導 2
 4回：討議、発表、及び個人指導 3
 5回：討議、発表、及び個人指導 4
 6回：討議、発表、及び個人指導 5
 7回：討議、発表、及び個人指導 6
 8回：討議、発表、及び個人指導 7
 9回：討議、発表、及び個人指導 8
 10回：討議、発表、及び個人指導 9
 11回：討議、発表、及び個人指導 10
 12回：討議、発表、及び個人指導 11
 13回：討議、発表、及び個人指導 12
 14回：総括

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワーポイント等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

毎回の授業で指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 出席と授業への貢献:30% 課題と発表:30% 期末課題:40%

テキスト / Textbooks

なし

参考文献 / Readings

適宜、指示する。

専門演習 3

Advanced Seminar 3

金子 亜美 (KANEKO AMI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 異文化コミュニケーション学部
科目コード等： DM802
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： ICC4543
使用言語： その他
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 自動登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定： 履修要項を確認すること。
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

この授業では、文献講読とディスカッションを通じて現代文化人類学の研究潮流を知り、学生個人の問題関心をその中に位置付ける。その上で卒業研究のテーマを設定し、実際に調査と分析を行い卒業論文を完成させる。

Students relate their interests to academic debates of cultural anthropology today, choose a topic and practice research and analysis. Complete a graduation paper.

授業の内容 / Course Contents

Jane Hill の Everyday Language of White Racism を講読しながら自身の関心を深める。一章ごとに読み進める。その中でアカデミック・ライティングの方法を再度確認し、卒業論文を完成させる。

Students read Jane Hill's Everyday Language of White Racism and deepen their academic interests. Write reports and practice academic writing techniques. Complete a graduation paper.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：授業の概要説明
- 2 回：講読 Chapter 1.

- 3回：講読 Chapter 1.
 4回：講読 Chapter 2.
 5回：講読 Chapter 2.
 6回：講読 Chapter 3.
 7回：講読 Chapter 3.
 8回：卒業論文の草稿ピアエディティング
 9回：講読 Chapter 4.
 10回：講読 Chapter 4.
 11回：講読 Chapter 5.
 12回：講読 Chapter 5.
 13回：卒業論文の最終ピアエディティング
 14回：卒業論文の内容発表

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワー等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	
個人発表	:	○	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:	○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:						

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

Jane Hill の Everyday Language of White Racism の講読を行う。代表一名がレジユメを作成し、他の全ての受講者は毎回該当部分を講読しコメントする。わからない部分を飛ばし読みするのではなくわかるまで読み込み調べる貪欲さを大切にしてほしい。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：002) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 出席と毎回の授業でのコメント:60% 最終レポート割合 :40%

合否は「卒業研究」の合否と連動する。

テキスト / Textbooks

Jane Hill Everyday Language of White Racism Wiley-Blackwell 2008 9781405184540 -

授業中に指示する。

参考文献 / Readings

授業中に紹介する。

専門演習 3

Advanced Seminar 3

イ, ヒャンジン (LEE HYANGJIN)

開講年度： 2024

科目設置学部： 異文化コミュニケーション学部

科目コード等： DM806

授業形態： 対面（一部オンライン）

授業形態（補足事項）対面（一部オンライン）

全授業回のうち2回はオンラインで実施する（5・7回目の授業）。オンライン実施回に変更が生じる場合は、授業内または Canvas LMS 等で周知する。

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： ICC4543

使用言語： その他

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 自動登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定： 履修要項を確認すること。

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

自ら設定したテーマについて調査研究を継続し、期限までに成果物を完成させる。

Students will continue investigative research on the themes they determined and complete the final versions by the deadline.

授業の内容 / Course Contents

専門演習 2 に引き続き、各自の研究テーマに合わせて中間発表と成果報告、ピアリーディングを繰り返しながら卒業研究を完成させる。専門演習 2 で制作した映像作品とともに最後の研究成果物の発表会を行う。

授業は毎回学生自ら作品を選び、その作品をこれまで学習した知識に基づき、社会的・歴史的な解釈と政治、文化的含意に関して議論する。戦争と植民の記憶、移住、国際結婚、女性、青少年と貧困層などの問題を扱った作品を分析し、ディスカッションする。それから作品の歴史的・社会的コンテクストを理解し、それが指示する意味を分析する。そ

This seminar follows Advanced Seminar 2, and in it students will complete their graduation theses as they

repeatedly give interim presentations, report on results and participate in peer readings in relation to their chosen research themes. Students will present the works of film they created in Advanced Seminar 2 and the final output of their research at a presentation session.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：オリエンテーション
- 2回：論文構成の発表
- 3回：理論的枠組みのレビューと確認
- 4回：文献調査と実態調査のレビューと確認
- 5回：論文指導と討議 1
- 6回：論文指導と討議 2
- 7回：論文指導と討議 3
- 8回：論文指導と討議 4
- 9回：論文指導と討議 5
- 10回：論文指導と討議 6
- 11回：学生の発表 1
- 12回：学生の発表 2
- 13回：学生の発表 3
- 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：○	校外実習・フィールドワーク	：○
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

毎回の授業で指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 最終レポート(Final Report):40% 授業内に指示した課題物:30% プレゼンテーション:30%

合否は「卒業研究」の合否と連動する。

テキスト / Textbooks

イ・ハンジン 『コリアン・シネマ：北朝鮮・韓国・トランスナショナル』 みすず書房 2018
4622086646 ○

参考文献 / Readings

専門演習 3

Advanced Seminar 3

新野 守広 (NIINO MORIHIRO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 異文化コミュニケーション学部
科目コード等： DM807
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： ICC4543
使用言語： その他
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 自動登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定： 履修要項を確認すること。
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

自ら設定したテーマについて調査研究を継続し、期限までに成果物を完成させる。

The goal of this seminar is for students to determine themes for Senior Research and Thesis by connecting their awareness of various issues to academic themes, and classes are conducted to help students master the fundamental elements (research methods and the like) required to make that determination.

授業の内容 / Course Contents

専門演習 2 に引き続き、都市文化論を扱う。多様な文化を生み出してきた都市に着目し、都市が生み出した文学、思想、芸術などのさまざまな表現形態に親しみ、文化の多様性についての理解を深める。専門演習 2 で確定した各自のテーマを参加者それぞれが深め、中間発表と成果発表を経て成果物の形にまとめる。

This seminar will focus on urban cultural studies as a continuation of Advanced Seminar 2. We will focus on the cities that have produced many different cultures, familiarize students with the literature, thought, art and other forms of expression that cities have given rise to, and further their understanding of cultural diversity. Each student will dig deeper on the theme they chose in Advanced Seminar 2 and shape it into a final product through interim presentations and presentations of results.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：オリエンテーション（演習の進行の確認）
 2回：概論と担当者の決定
 3回：中間発表(1)
 4回：中間発表(2)
 5回：中間発表(3)
 6回：中間発表(4)
 7回：中間発表(5)
 8回：中間発表(6)
 9回：成果発表(1)
 10回：成果発表(2)
 11回：成果発表(3)
 12回：成果発表(4)
 13回：成果発表(5)
 14回：成果発表(6)

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワーポイント等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：					

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

毎回の授業で指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 出席およびディスカッションへの貢献度:30% プレゼンテーション:40% レポート:30%

合否は「卒業研究」の合否と連動する。

テキスト / Textbooks

授業中に配付する。

参考文献 / Readings

授業中に適宜指示する。

専門演習 3

Advanced Seminar 3

星野 宏美 (HOSHINO HIROMI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 異文化コミュニケーション学部
科目コード等： DM809
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： ICC4543
使用言語： その他
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 自動登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定： 履修要項を確認すること。
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

各自の設定したテーマに沿って執筆を進め、論文を完成する。

Students will continue writing on their chosen themes, and complete their theses.

授業の内容 / Course Contents

論文の初稿となり得る文章を用意し、それを叩き台としつつ、議論を行う。

Students will prepare writing worthy of a thesis first draft, and the writing will serve as a starting point for discussions.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：スケジュールの吟味
- 2 回：研究の対象の吟味
- 3 回：研究の方法の吟味
- 4 回：研究の目的の吟味
- 5 回：文献の吟味
- 6 回：資料の吟味

- 7回：先行研究批判
- 8回：章立ての吟味
- 9回：独自性の吟味
- 10回：論理性の吟味
- 11回：実証性の吟味
- 12回：有効性の吟味
- 13回：テーゼの吟味
- 14回：総合評価

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

図書館所蔵の音楽事典類、AVコーナーの資料等を活用されたい。授業中に随時、具体的な活用法を紹介する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 出席と参加:50% 課題と成果物:50%

合否は「卒業研究」の合否と連動する。

テキスト / Textbooks

とくに指定しない。

参考文献 / Readings

授業中に指示する。

専門演習 3

Advanced Seminar 3

マーティン, R (MARTIN, RON R.)

開講年度： 2024

科目設置学部： 異文化コミュニケーション学部

科目コード等： DM810

授業形態： 対面（一部オンライン）

授業形態（補足事項） The following class days are tentatively scheduled to be held via Zoom: May 15, June 7, and July 5

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： ICC4543

使用言語： その他

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 自動登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定： 履修要項を確認すること。

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

Collect and analyze data by, for example, using surveys or doing interviews about the graduate thesis theme or create, present, and explain education material in order to complete the graduate thesis.

授業の内容 / Course Contents

Through on-going discussion, develop a deeper understanding of the content; learn how to present and analyze data (in the case of data collection) or how to create, present, and explain a project; become able to organize the entire thesis while also using proper academic citation.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回： Course Introduction

2 回： Discussion & Thesis Writing Guidance 1

3 回： Discussion & Thesis Writing Guidance 2

4 回： Discussion & Thesis Writing Guidance 3

5 回： Discussion & Thesis Writing Guidance 4

- 6回：Discussion & Thesis Writing Guidance 5
 7回：Discussion & Thesis Writing Guidance 6
 8回：Discussion & Thesis Writing Guidance 7
 9回：Discussion & Thesis Writing Guidance 8
 10回：Discussion & Thesis Writing Guidance 9
 11回：Discussion & Thesis Writing Guidance 10
 12回：Discussion & Thesis Writing Guidance 11
 13回：Discussion & Thesis Writing Guidance 12
 14回：Presentation

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワーポイント等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

All study outside of class depends upon the student's thesis.

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% Attendance & Participation:50% Thesis Work & Presentation:50%

合否は「卒業研究」の合否と連動する。

テキスト / Textbooks

No textbook is required. Readings will be provided by the instructor when necessary.

参考文献 / Readings

Readings will be given in class.

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

It would be helpful to have a device in class (e.g., a tablet or laptop) to view materials distributed via Canvas.

専門演習 3

Advanced Seminar 3

丸山 千歌 (MARUYAMA CHIKA)

開講年度： 2024
科目設置学部： 異文化コミュニケーション学部
科目コード等： DM811
授業形態： 対面（一部オンライン）
授業形態（補足事項） 第12～14回の卒論発表会は合同ゼミでの実施を予定している。オンラインで実施する可能性がある。
校地： 池袋
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： ICC4543
使用言語： その他
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 自動登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定： 履修要項を確認すること。
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

自ら設定したテーマについて調査研究を継続し、期限までに成果物を完成させる。

Students will continue investigative research on the themes they determined and complete the final versions by the deadline.

授業の内容 / Course Contents

個別指導を受けるとともに、進捗報告の際に得たコメントを活用しながら、卒業研究の完成を目指す。

Students will use individual guidance and comments received in response to their progress reports to complete their graduation theses.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：授業説明、休暇中の進捗報告
- 2 回：進捗報告 1
- 3 回：進捗報告 2
- 4 回：進捗報告 3

- 5回：進捗報告4
 6回：進捗報告5
 7回：進捗報告6
 8回：進捗報告7
 9回：進捗報告8
 10回：進捗報告9
 11回：進捗報告10
 12回：卒業研究最終報告①
 13回：卒業研究最終報告②
 14回：卒業研究最終報告③

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワー等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	
個人発表	:	○	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:	○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:						

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

毎回の授業で指示する。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：002) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 出席および参加度:30% 進捗報告:30% 初稿提出:15% 最終発表:25%

合否は「卒業研究」の合否と連動する。

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

自発的かつ自律的な取り組みが期待される。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

授業や課題提出にPCまたはタブレット端末を使用する。

その他 / Others

スケジュールや内容は調整する場合がある。

専門演習 3

Advanced Seminar 3

河合 優子 (KAWAI YUKO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 異文化コミュニケーション学部
科目コード等： DM812
授業形態： 対面（一部オンライン）
授業形態（補足事項） 卒業研究中間提出の後の個人面談はオンラインで行う（6回・10回）
校地： 池袋
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： ICC4543
使用言語： その他
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 自動登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定： 履修要項を確認すること。
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

自らの研究課題のデータ収集・分析を行い、卒業研究を完成させる。
Students will collect and analyze data and to complete a senior thesis.

授業の内容 / Course Contents

専門演習 3 では各自のテーマに従って研究を進めて卒業研究論文を完成させていく。さらに、中間発表で互いにフィードバックをし合うことで論文をより良いものにしていく。

In this course, students will collect data, analyze them, and complete their senior thesis. Students will be given opportunities to present their progress in class and exchange feedback with each other to improve their thesis.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：導入
- 2 回：研究経過報告 (1)
- 3 回：研究経過報告 (2)
- 4 回：研究経過報告 (3)
- 5 回：中間発表(1)

- 6回：研究経過報告（4）
- 7回：研究経過報告（5）
- 8回：研究経過報告（6）
- 9回：中間発表（2）
- 10回：研究経過報告（7）
- 11回：研究経過報告（8）
- 12回：研究経過報告（9）
- 13回：最終発表
- 14回：口頭試問

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワー等）の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	○ グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:		:

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

卒業研究を期限内に完成するため、計画的に執筆を進めること。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 出席・授業参加貢献度:10% 口頭発表:20% 口頭試問:10% 提出物:60%

合否は「卒業研究」の合否と連動する。

テキスト / Textbooks

授業の初回で指示する

参考文献 / Readings

授業で紹介する

その他 / Others

授業は受講生の発表および討論を中心にすすめる。提出物はコメントをつけて返却する。

専門演習 3

Advanced Seminar 3

細井 尚子 (HOSOI NAOKO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 異文化コミュニケーション学部
科目コード等： DM814
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： ICC4543
使用言語： その他
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 自動登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定： 履修要項を確認すること。
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

自ら設定したテーマについて調査研究を継続し、期限までに成果物を完成させる。

Students will continue investigative research on the themes they determined and complete the final versions by the deadline.

授業の内容 / Course Contents

専門演習 2 に引き続き、各自のテーマの研究を深める。

資料・データの収集、分析などの作業のほか、1 年次より学習してきた論文作成の方法を再度確認し、大学での学びの集大成となる卒業研究を完成させる。

This seminar follows Advanced Seminar 2.

Students will further research on their chosen themes. We will review how to gather and analyze materials and data and methods for academic writing the students have studied since their first year, and students will complete their graduation theses to serve as a culmination of their university studies.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：夏休み中の進捗状況報告

- 2回：書式、引用の仕方、文献目録等の方法などの確認
 3回：卒業研究中間報告、討議①問題点の抽出など
 4回：卒業研究中間報告、討議②問題点の抽出など
 5回：卒業研究中間報告、討議③問題点の抽出など
 6回：卒業研究中間報告、討議④問題点の抽出など
 7回：卒業研究中間報告、討議⑤—①で抽出した問題点の対応
 8回：卒業研究中間報告、討議⑥—②で抽出した問題点の対応
 9回：卒業研究中間報告、討議⑦—③で抽出した問題点の対応
 10回：卒業研究中間報告、討議⑧—④で抽出した問題点の対応
 11回：卒業研究最終確認、討議①
 12回：卒業研究最終確認、討議②
 13回：卒業研究最終確認、討議③
 14回：卒業研究最終報告

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

毎回の授業で指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 中間報告:40% 最終報告:40% 討議におけるディスカッサントとしての参加:20%
 合否は「卒業研究」の合否と連動する。

テキスト / Textbooks

適宜指示する。

参考文献 / Readings

適宜指示する。

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

自主的、主体的に自身のテーマに取り組む姿勢。
 学問の誠実性とは何かを理解し、実践する能力。

専門演習 3

Advanced Seminar 3

日下部 尚徳 (KUSAKABE NAONORI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 異文化コミュニケーション学部
科目コード等： DM815
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： ICC4543
使用言語： その他
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 自動登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定： 履修要項を確認すること。
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

自ら設定したテーマについて調査研究を継続し、課題レポートおよび卒業論文を完成させる。

The goal of this seminar is for students to determine themes for Senior Research and Thesis by connecting their awareness of various issues to academic themes, and classes are conducted to help students master the fundamental elements (research methods and the like) required to make that determination.

授業の内容 / Course Contents

この演習では、国際協力および国際開発に関連する分野を扱う。これまでの研究調査に基づき、各自データ分析と論文執筆を進め、中間報告やピアリーディングを繰り返しながら卒業論文を完成させる。

This seminar deals with research fields related to international cooperation and international development. Students will continue analyzing data and writing their theses based on the research and investigation conducted to date, and will complete a graduation thesis through repeated interim reports and peer readings.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：ガイダンス

2 回：進捗報告（先行研究・研究方法）

- 3回：先行研究修正・ピアリーディング（1）
 4回：先行研究修正・ピアリーディング（2）
 5回：研究方法&結果・ピアリーディング（1）
 6回：研究方法&結果・ピアリーディング（2）
 7回：研究方法&結果・報告（1）
 8回：研究方法&結果・報告（2）
 9回：研究方法&結果・報告（3）
 10回：考察・結論（1）
 11回：考察・結論（2）
 12回：考察・結論（3）
 13回：卒業研究発表（1）
 14回：卒業研究発表（2）

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

- 1、授業内で指示した文献や資料を事前に読んでおくこと
- 2、講義に関連する新聞記事の収集をおこなうこと
- 3、授業終了時に示す課題についてレポートを作成すること
- 4、次回の授業範囲を予習し、専門用語の意味等の理解をしておくこと

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業参加:40% 中間課題:30% 期末課題:30%

合否は「卒業研究」の合否と連動する。

テキスト / Textbooks

日下部尚徳 『わたし8歳、職業、家事使用人。 : 世界の児童労働者1億5200万人の1人』 合同出版
 2017 9784772613620 -

適宜プリントを配付

参考文献 / Readings

授業内で適宜紹介する

専門演習 3

Advanced Seminar 3

佐藤 邦彦 (SATO KUNIHICO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 異文化コミュニケーション学部
科目コード等： DM817
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： ICC4543
使用言語： その他
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 自動登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定： 履修要項を確認すること。
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

自ら設定したテーマについて調査研究を継続し、期限までに成果物を完成させる。

Students will continue their thematic investigations and will complete their graduation thesis by the given deadline.

授業の内容 / Course Contents

学期の初期段階では、それまでの研究の進捗に応じ、資料の追加収集や考察のための追加文献等についての指導を行う。その後は、成果物の完成に向けての作業の進展状況を報告してもらいながら、細部の再検討・修正等の指導を行う。

Instructions for additional collection of resources and/or further readings may be given to students in the early part of the semester. Afterwards, depending on the progress reports of the students, instructions toward the completion of student theses will be provided in the form of detailed reviews and corrections.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：それまでの進捗状況の報告と討論

2 回：追加資料・文献に関する指導

- 3回：成果物完成形の最終構想確定
 4回：報告と指導1
 5回：報告と指導2
 6回：報告と指導3
 7回：中間発表1
 8回：中間発表2
 9回：報告と指導4
 10回：報告と指導5
 11回：報告と指導6
 12回：成果物提出前の最終確認
 13回：最終発表会1
 14回：最終発表会2

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド* (パワポ* 等) の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

毎回の授業で指示する。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：002) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 出席および報告等の参加状況:30% 中間発表:30% 最終発表:40%

合否は「卒業研究」の合否と連動する。

テキスト / Textbooks

なし

参考文献 / Readings

必要に応じて授業中に指示する。

専門演習 3

Advanced Seminar 3

池田 伸子 (IKEDA NOBUKO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 異文化コミュニケーション学部
科目コード等： DM819
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： ICC4543
使用言語： その他
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 自動登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定： 履修要項を確認すること。
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

自ら設定したテーマについて調査研究を継続し、期限までに質の高い卒業研究の成果物を完成させることを目的とする。

The goal of this seminar is for students to continue investigative research on their chosen themes and complete the final versions of high-quality graduation theses by the deadline.

授業の内容 / Course Contents

各自が選んだテーマについての卒業研究の進捗状況、何が明らかになったのか、調査はどのような結果になったのかなどを報告し、それについて参加者全員でディスカッションをしながら授業を進める。同時にそれぞれの学生の研究に関連する日本語教育についての新しい論文も講読し、より一層、日本語教育についての理解を深めていく。実際に日本語教員になっていく可能性も考え、現場で働く日本語教員の話の聞いたり、現場を見学したりする機会を設ける。

Classes are structured around students' reports and full-participation discussions on their progress on their graduation theses on their chosen themes, what they have discovered, and the results of their investigations and other efforts. In addition, students will further their understanding of Japanese language education by reading

new academic papers from the field that relate to their own research. To account for the possibility that some students will become Japanese language instructors, this seminar offers students opportunities to listen to what actual Japanese language instructors say and to observe them in action.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：オリエンテーション、進め方
- 2回：論文1の講読及び卒業研究発表1
- 3回：論文2の講読及び卒業研究発表2
- 4回：論文3の講読及び卒業研究発表3
- 5回：論文4の講読及び卒業研究発表4
- 6回：論文5の講読及び卒業研究発表5
- 7回：論文6の講読及び卒業研究発表6
- 8回：論文7の講読及び卒業研究発表7
- 9回：論文8の講読及び卒業研究発表8
- 10回：論文9の講読及び卒業研究発表9
- 11回：論文10の講読及び卒業研究発表10
- 12回：卒業研究発表及び質疑応答1
- 13回：卒業研究発表及び質疑応答2
- 14回：卒業研究発表及び質疑応答3

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワーポイント等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：	
個人発表	：	○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：	○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：	
上記いずれも用いない予定	：						

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

毎回の授業で指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 卒業研究発表:35% 論文講読分担:15% 参加度:20% 最終レポート割合：:30%

合否は「卒業研究」の合否と連動する。

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

その他 / Others

- 1) 授業は各受講者が主体となるディスカッションを通して行われるため、受講者は各自が自分のテーマについて自発的に調べ、発表することが求められる。
- 2) 各参加者のプレゼンテーションについては、次の回の授業でフィードバックを行う。
- 3) 連絡事項、資料の配付などは Canvas LMS を通して実施する。

専門演習 3

Advanced Seminar 3

黒岩 三恵 (KUROIWA MIE)

開講年度： 2024
科目設置学部： 異文化コミュニケーション学部
科目コード等： DM820
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： ICC4543
使用言語： その他
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 自動登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定： 履修要項を確認すること。
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

各自の興味や問題意識から専門性のあるテーマを見つけ出し、学術的な視点から卒業研究をまとめるための視点、研究アプローチの知識、成果物の構成や編集などの方法を修得する。

Students will search their interests and awareness of issues to find specific themes. They will learn about perspectives, research approaches, and methods for structuring and arranging their final output that will later be applied to their graduation theses.

授業の内容 / Course Contents

個々の学生による主体的な研究活動を軸として、演習の場では指導教官・参加学生への中間報告等を行い、助言やコメントを踏まえながら、構成、資料の提示、論旨の一貫性など、成果物の完成度を高めてゆく。

This seminar revolves around the independent research activities of each student, who will present interim reports to the advisor and classmates. Through presentations and discussions, the students will reassess the structure of their paper, their presentation of data, the consistency of arguments, and other elements to improve the quality of the final research product.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス、休暇中(春休み・夏休み)の活動報告
- 2回：中間報告・討議・論文指導(1)
- 3回：中間報告・討議・論文指導(2)
- 4回：中間報告・討議・論文指導(3)
- 5回：展覧会見学とディスカッション(1)
- 6回：中間報告・討議・論文指導(4)
- 7回：中間報告・討議・論文指導(5)
- 8回：中間報告・討議・論文指導(6)
- 9回：展覧会見学とディスカッション(2)
- 10回：中間報告・討議・論文指導(7)
- 11回：中間報告・討議・論文指導(8)
- 12回：中間報告・討議・論文指導(9)
- 13回：論文の予備講評
- 14回：卒業研究発表

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド(パワポ等)の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：○
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

毎回の授業で指示する。

毎週の定期的な経過報告を行うことが原則となる。報告に際しては提出物を各自用意すること。

また、2回の中間プレゼンテーションおよび成果発表の計3回のパワーポイントとハンドアウトを用いた発表を行う。

成績評価方法・基準(成績評価方法区分：002) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 発表・提出物等:70% 出席・授業参加:30%

合否は「卒業研究」の合否と連動する。

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

必要に応じて紹介する。

専門演習 3

Advanced Seminar 3

中田 達也 (NAKATA TATSUYA)

開講年度： 2024
科目設置学部： 異文化コミュニケーション学部
科目コード等： DM823
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： ICC4543
使用言語： その他
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 自動登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定： 履修要項を確認すること。
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

各自の問題意識を学術的なテーマと結びつけることで「卒業研究」のテーマを設定することを目標とし、そのために必要な基礎的な事項（研究方法など）を身につけるための授業を行う。

The goal of this seminar is for students to determine themes for Senior Research and Thesis by connecting their awareness of various issues to academic themes, and classes are conducted to help students master the fundamental elements (research methods and the like) required to make that determination.

授業の内容 / Course Contents

第二言語習得の様々な側面（語彙・文法・発音・リスニング・リーディング・スピーキング・ライティング能力の習得など）について理解を深め、それらを英語教育および英語学習に生かす方法について考察する。授業は受講生による発表やクラス全体でのディスカッションを中心に進める。また、卒業研究の作成を念頭に、先行研究を批判的に考察した上で研究テーマを設定し、研究成果を論文として発表する能力を養う。

Through reading assignments, lectures, and group discussions, students will deepen understanding about various aspects of second language acquisition (e.g., acquisition of vocabulary, grammar, pronunciation, listening, reading, speaking, and writing skills) and reflect on how they can apply research to their own teaching and

learning. Students will also learn to (a) critically evaluate previous literature, (b) formulate research questions, (c) collect data, and (d) publish findings in the form of academic papers.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
 2回：SLA 研究から考える 英語学習の大原則
 3回：卒論進捗発表1
 4回：卒論進捗発表2
 5回：語彙の学習
 6回：文法の学習
 7回：卒論進捗発表3
 8回：卒論進捗発表4
 9回：ピアフィードバック
 10回：ピアフィードバック
 11回：英語学習と個人差
 12回：動機づけ・学習スタイル・学習ストラテジー
 13回：子どもの英語学習
 14回：留学による英語学習
 終わりに

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

適宜指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 学期中の課題:40% クラスへの貢献度などの平常点:30% 最終レポート割合：30%

合否は「卒業研究」の合否と連動する。

テキスト / Textbooks

中田達也・鈴木祐一 『英語学習の科学』 研究社 2022 4327453072 ○

参考文献 / Readings

専門演習 3

Advanced Seminar 3

武田 珂代子 (TAKEDA KAYOKO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 異文化コミュニケーション学部
科目コード等： DM824
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： ICC4543
使用言語： その他
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 自動登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定： 履修要項を確認すること。
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

自ら設定したテーマについて調査研究を継続し、期限までに成果物を完成させる。

To proceed with the research plans and complete the graduation thesis projects.

授業の内容 / Course Contents

履修生の卒業研究の完成に向けて、データの収集・分析方法、スタイルガイド、論文の構成、修正プロセスなどについて授業中または個人面談で助言する。

For students to complete their graduation thesis projects, advice on various aspects of thesis writing are provided in class and one-on-one sessions, including methods for collecting and analyzing data, style guides, thesis structures, and revising process.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：オリエンテーション

2 回：卒業研究の構成

3 回：書式、文献引用法などの確認

4 回：討議と論文指導 1

- 5回：討議と論文指導 2
 6回：討議と論文指導 3
 7回：討議と論文指導 4
 8回：討議と論文指導 5
 9回：討議と論文指導 6
 10回：討議と論文指導 7
 11回：学生の発表 1
 12回：学生の発表 2
 13回：学生の発表 3
 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	○	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:					

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

毎回の授業で指示する。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：002) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 出席と授業への貢献:50% 研究発表:50%

合否は「卒業研究」の合否と連動する。

テキスト / Textbooks

武田珂代子編著 『翻訳通訳研究の新地平』 晃洋書房 2017 9784771028135 ○

その他、適宜資料を配布する。

参考文献 / Readings

マンデイ, J. 著 『翻訳学入門』 みすず書房 2009 4622074559

ポエヒハッカー, F. 著 『通訳学入門』 みすず書房 2008 4622074125

ピム, A. 著 『翻訳理論の探求』 みすず書房 2010 4622075180

武田珂代子著 『通訳者と戦争犯罪』 みすず書房 2023 9784622096177

武田珂代子著 『太平洋戦争 日本語諜報戦』 筑摩書房 2018 9784480071620

Williams, J. & Chesterman, A. The Map: A Beginner's Guide to Doing Research in Translation Studies
 Routledge 2002 1900650541

その他 / Others

TI@Rikkyo <https://www2.rikkyo.ac.jp/web/ti-rikkyo/>

Kayoko Takeda's works https://researchmap.jp/kayoko_takeda

専門演習 3

Advanced Seminar 3

佐竹 晶子 (SATAKE AKIKO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 異文化コミュニケーション学部
科目コード等： DM826
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： ICC4543
使用言語： その他
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 自動登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定： 履修要項を確認すること。
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

自ら設定したテーマについて調査研究を継続し、論文を完成させる。その過程で学術論文を書くということはどういうことか、読者を説得できる論を組み立てるといったことはどういうことか学ぶ。

Students will continue investigative research on the chosen topic and complete the thesis. As part of this process students will learn what it is like to write an academic paper, and what it means to build a convincing argument.

授業の内容 / Course Contents

専門演習 2 に引き続き、更に焦点を絞った問題点に対して自分の論理や主張を形成するために役立つ文献を探して読み、報告、討議を重ねる傍ら、論文の構成を最終的に固めていく。また、章ごとに第一草稿の執筆を始め、添削、書き直しを繰り返すことによって、筋の通った、自分で納得のいく論文を完成させる。

Following Advanced Seminar 2, and taking a more focused approach to the issue, students will continue to read references that would be useful to shape the argument, report and discuss them. Students will will write the thesis chapter by chapter and complete it through a process of repeated editing and rewriting.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：夏休みの研究成果報告

- 2回：論文構想の再確認、まだ不足している情報の整理
 3回：中間報告、討議（1）
 4回：中間報告、討議（2）
 5回：中間報告、討議（3）書式の確認、
 6回：第1章の草稿検討、討議
 7回：第2章の草稿検討、討議
 8回：第3章の草稿検討、討議、書式、引用、文献目録などの確認
 9回：第3章以下、序論、結論の草稿検討
 10回：論文全体の確認、討議
 11回：卒業研究最終校正
 12回：卒業研究完成
 13回：卒業研究総括、反省
 14回：卒業研究総括、今後の課題

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワーポイント等）の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	○ グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:		:

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

毎回の授業で指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 中間報告:60% 校正作業:20% 討議:20%

合否は「卒業研究」の合否と連動する。

テキスト / Textbooks

適宜指示する。

参考文献 / Readings

適宜指示する。

専門演習 3

Advanced Seminar 3

石黒 武人 (ISHIGURO TAKETO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 異文化コミュニケーション学部
科目コード等： DM827
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： ICC4543
使用言語： その他
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 自動登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定： 履修要項を確認すること。
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

卒業研究を完成させるため、先行研究の調査やデータ収集・分析・整理など、卒業研究の成果物の作成をすすめていくことを目標とする。加えて、専門演習 1 と 2 で得てきた、組織における異文化コミュニケーションに関する知見をさらに獲得する。

Students will do a literature review, collect, analyze and organize data through their field research, and write their theses with the aim to complete their graduation research projects. In addition, students will acquire their knowledge regarding intercultural communication in organizations as they did in Advanced Seminar 1 & 2.

授業の内容 / Course Contents

専門演習 2 で定めた研究トピックに関する文献研究やフィールド調査を行い、内容的により具体的に掘り下げて改善していくための思索や討議を行う。

Students will do a literature review and conduct research for their topics determined in Advanced Seminar 2. Students will also discuss their research and works in class to make their research projects better.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：オリエンテーション & 研究テーマ紹介

2回：調査ならびに執筆のポイントと討議1

3回：調査ならびに執筆のポイントと討議1

4回：進捗報告1

5回：進捗報告2

6回：進捗報告3

※英語で卒業論文を提出するDLP学生やその他の学生は、この時点（11月初旬）にCIC英文校正制度（CIC English Editing System）を利用するため、卒業論文全体をいったん書き上げ、提出できるようにしておく。

7回：進捗報告（予備日）

8回：執筆のポイント&質疑応答、[卒論仮提出日]予定（注意：英文での執筆者は、学部の校正サービスを受けるため、より早い時期に仮提出を設定する可能性があります）

9回：執筆のポイント&質疑応答

10回：執筆のポイント&質疑応答

11回：卒業論文提出期間、キーコンセプトの学修：「コンテキスト・シフティング」「メタ意識」「メタ・コーディネーション」「文化的仲介意識」等

12回：卒論発表会1

13回：卒論発表会2

14回：卒論発表会3&まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

- ・参考文献の欄にある参考図書を読んで論文の書き方についてポイントを押さえておく。
- ・卒業論文のタイトルとサブタイトルを改善する。
- ・目次案を早めに作成し、適宜修正、発展させていく。
- ・自身の研究テーマに関連する先行研究（論文、書籍）を読み、その内容を要約し、批判的に検討し、適宜、卒業論文に組み込んでいく。
- ・インタビュー調査等の調査の準備を進め、質問項目の妥当性や倫理的な面で問題がないかを担当教員と確認する。
- ・卒業論文の執筆を進める。その際、The Rikkyo Style の引用方法や参考文献の書き方に

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 参加度:30% 課題と発表:30% 期末課題:40%

合否は「卒業研究」の合否と連動する。

テキスト / Textbooks

なし。プリントを配布する。

参考文献 / Readings

澤田昭夫 『論文の書き方』 講談社 1977 9784061581531

小笠原喜康 『大学生のためのレポート・論文術（新版）』 講談社 2009 9784062880213

木下是雄 『レポートの組み立て方』 筑摩書房 1994 9784480081216

Becker, H. Richards, P. Writing for Social Scientists: How to Start and Finish Your Thesis, Book, or Article
University of Chicago Press 2020

河野哲也 『レポート・論文の書き方入門 第4版』 慶應義塾大学出版会 2018 9784766425277

小笠原喜康 『論文の書き方 わかりやすい文章のために』 ダイヤモンド社 2007 9784478001394

適宜指示する。

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

卒業論文の執筆を計画的かつ早めに進めていくための計画性と意欲が必要です。そのためにも、卒論を書くことに対して具体的なイメージを持つためにも、上記の参考文献や自分に合う論文執筆の書籍を複数読んで準備をしてください。また、本ゼミでは、The Rikkyo Style という引用と参考文献標記のルールを用いていますので、授業のオンラインプラットフォームで配布される「The Rikkyo Style」を早めに確認してください。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

授業前に、オンライン授業運営プラットフォームで資料を共有するので、必要に応じて印刷したり、パソコンで読まるようにしたりするなどの準備をお願いします。

その他/ Others

ゼミのホームページ：<https://sites.google.com/rikkyo.ac.jp/icss/%E3%83%9B%E3%83%BC%E3%83%A0>

専門演習 3

Advanced Seminar 3

小倉 和子 (OGURA KAZUKO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 異文化コミュニケーション学部
科目コード等： DM829
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： ICC4543
使用言語： その他
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 自動登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定： 履修要項を確認すること。
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

自ら設定したテーマについて調査研究を継続し、期限までに成果物を完成させることができる。

Students will continue investigative research on the topic they chose and become able to complete the deliverables by the deadline.

授業の内容 / Course Contents

主としてフランス語圏（フランス、ケベック、北アフリカなど）の文化と社会に関連したテーマで各自の卒業研究の完成を目指す。内容についての助言を与えながら、収集したデータの分析方法、文献引用の方法、推敲の方法などについて指導を行う。

The main aim is for each student to complete a graduation research project on a topic related to the cultures and societies of French-speaking areas (France, Quebec, North Africa, etc.). While giving advice on the project content, instruction will be provided on how to analyze data collected; how to cite literature references; and how to improve one's work.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：イントロダクション

- 2回：討議と論文指導（1）
 3回：討議と論文指導（2）
 4回：討議と論文指導（3）
 5回：卒業研究中間発表（1）
 6回：卒業研究中間発表（2）
 7回：討議と論文指導（4）
 8回：討議と論文指導（5）
 9回：討議と論文指導（6）（成果物の仮提出）
 10回：討議と論文指導（7）
 11回：討議と論文指導（8）
 12回：成果物に関する総括
 13回：成果物に関する発表と合評（1）
 14回：成果物に関する発表と合評（2）

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワーポイント等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外の学習に関する指示は、毎回の授業時に行う。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業への参加度：50% 発表・課題等：50%

合否は「卒業研究」の合否と連動する。

テキスト / Textbooks

授業で資料を配布する。

参考文献 / Readings

新倉俊一他 『事典 [増補版] 現代のフランス』 大修館書店 1997年 9784469051759

三浦信孝・西山教行編著 『現代フランス社会を知るための62章』 明石書店 2010年 9784750333120

日本ケベック学会 『ケベックを知るための56章（第2版）』 明石書店 2024年 9784750356617

G・ブシャール 『間文化主義』 彩流社 2017年 9784779124310

随時紹介するもの。

専門演習 3

Advanced Seminar 3

石井 正子 (ISHII MASAKO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 異文化コミュニケーション学部
科目コード等： DM831
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： ICC4543
使用言語： その他
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 自動登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定： 履修要項を確認すること。
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

調査・分析方法、結果の導き方、考察の仕方を学び、卒論を書き上げる。

The course introduces the academic skills in writing a graduation thesis in the themes of international cooperation.

授業の内容 / Course Contents

先行研究を踏まえて卒論のテーマを調査、分析する。

卒論の構想発表とディスカッションなどを通じ、結果、考察を練る。

草稿のピアリーディングなどを通じ、卒論を書き上げる。

In this Advanced Seminar, students will use previous research as a base to form, research and investigate the background, issues, objectives and research questions on their themes of a graduation thesis. Students will elicit results and discussion from their research and investigations, and will use them to write up their graduation thesis.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：草稿の提出と中間報告

- 2回：草稿の提出と中間報告
 3回：卒業研究構想発表
 4回：卒業研究構想発表
 5回：卒業研究構想発表
 6回：卒業研究構想発表
 7回：卒業研究構想発表
 8回：卒業研究構想発表
 9回：ピアリーディング
 10回：個別面談
 11回：個別面談
 12回：個別面談
 13回：卒論最終発表
 14回：卒論最終発表

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

卒論のテーマに関連する調査、分析を行う。
 卒論の構想を発表し、ディスカッションに積極的に参加する。
 卒業研究を執筆する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ
 平常点割合：100% 草稿提出:20% 出席、卒論構想発表、卒論最終発表:30% 卒論最終発表:10%
 最終レポート割合：:40%
 合否は「卒業研究」の合否と連動する。

テキスト / Textbooks

授業時において適宜紹介する。

参考文献 / Readings

授業時において適宜紹介する。

その他 / Others

授業計画は履修者の数、関心によって変更する場合があります。
 適宜、草稿の提出を求めます。指定された期限内に提出してください。

専門演習 3

Advanced Seminar 3

奥野 克巳 (OKUNO KATSUMI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 異文化コミュニケーション学部
科目コード等： DM832
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： ICC4543
使用言語： その他
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 自動登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定： 履修要項を確認すること。
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

専門演習 1,2 を踏まえて、各自の問題意識を学術的なテーマと結びつけることで、「卒業研究」のテーマを設定することを目標とし、そのために必要な基礎的な事項（研究方法など）を身につけるための授業を行う。

The goal of this seminar is, based on the Advanced Seminar 1 and 2, for students to determine themes for Senior Research and Thesis by connecting their awareness of various issues to academic themes, and classes are conducted to help students master the fundamental elements (research methods and the like) required to make that determination.

授業の内容 / Course Contents

アニミズム、シャーマニズム、呪術、神話、仮面、儀礼、死と葬儀、人間と自然、動物、セックス、ジェンダー、贈与と交換、家族と婚姻などの文化人類学が扱うトピックの中から各自でテーマを設定して、卒業研究を完成させたい学生のためのゼミ形式の授業。レジメ発表の方法を身につけて、基本文献を輪読しながら、各自の卒業研究に結びつけていく。

This seminar-style course is for students who wish to finish their graduation theses on themes chosen from the many cultural anthropology topics available, including animism, shamanism, sorcery, mythology, masks,

ceremony, death and funeral rites, humans and nature, animals, sex, gender, gifts and trade, and families and marriage. Students will master methods for presenting summaries, and take turns reading basic reading materials to connect the concepts to their own graduation theses.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：導入、授業内容の概説
- 2 回：個人研究計画の概要の発表
- 3 回：論文の読み方と書き方の解説
- 4 回：基本文献の輪読（1）
- 5 回：基本文献の輪読（2）
- 6 回：基本文献の輪読（3）
- 7 回：基本文献の輪読（4）
- 8 回：基本文献の輪読（5）
- 9 回：研究構想の発表（1）
- 10 回：研究構想の発表（2）
- 11 回：研究構想の発表（3）
- 12 回：研究構想の発表（4）
- 13 回：研究構想の発表（5）
- 14 回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワーポイント等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	○ グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

毎回の授業で指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 出席と授業参加態度：60% 最終レポート割合：40%

テキスト / Textbooks

特になし。

参考文献 / Readings

奥野克巳 『これからの時代を生き抜くための文化人類学入門』 辰巳出版 2022 9784777828739

専門演習 3

Advanced Seminar 3

浜崎 桂子 (HAMAZAKI KEIKO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 異文化コミュニケーション学部
科目コード等： DM833
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： ICC4543
使用言語： その他
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 自動登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定： 履修要項を確認すること。
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

各自が選択した領域についてさらに深く主体的に学び、調査しながら、卒業研究を執筆する。

Students will independently study their chosen areas in more depth, conduct investigations and writeup their graduation research projects.

授業の内容 / Course Contents

専門演習 1 および 2 で学び議論した点を踏まえ、各自の研究テーマについて主体的に調査をし、論文を執筆する。授業では、論文の書き方、調査の仕方について学び、また各自の卒業研究について発表、議論を行う。

Building on the discussions and readings in Advanced Seminars 1 and 2, students will independently conduct investigations and write academic papers on their research topics. In classes we will learn how to write an academic paper and conduct a survey. Also, each student will give a presentation and hold a discussion about their graduation research project.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：導入 1：論文執筆方法ワークショップ

2 回：導入 2：調査方法ワークショップ

- 3回：文献調査方法 1
 4回：文献調査方法 2
 5回：担当者による発表と議論 1
 6回：担当者による発表と議論 2
 7回：担当者による発表と議論 3
 8回：担当者による発表と議論 4
 9回：論文ピア・レビュー 1
 10回：論文ピア・レビュー 2
 11回：論文ピア・レビュー 3
 12回：卒業論文口頭発表 1
 13回：卒業論文口頭発表 2
 14回：卒業論文口頭発表 3

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワー等) の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	○ グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:		:

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

準備学習については毎回の授業で指示する。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：002) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業の議論への積極的な参加:40% 授業内での口頭発表:30% 学期末のレポート:30%
 ”合否は「卒業研究」の合否と連動する”

テキスト / Textbooks

初回授業内で配付

参考文献 / Readings

適宜授業内で指示

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

テーマについての調査を自らすすめ、計画的に作業をすすめる力。

その他 / Others

履修者と調整のうえ、授業曜日時限以外にピアレビューを行うことがある。

専門演習 3

Advanced Seminar 3

石川 文也 (ISHIKAWA FUMIYA)

開講年度： 2024
科目設置学部： 異文化コミュニケーション学部
科目コード等： DM834
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： ICC4543
使用言語： その他
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 自動登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定： 履修要項を確認すること。
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

各自の問題意識を学術的なテーマと結びつけることで「卒業研究」のテーマを設定することを目標とし、そのために必要な基礎的な事項（研究方法など）を身につけるための授業をおこなう。

The goal of this seminar is for students to determine themes for Senior Research and Thesis by connecting their awareness of various issues to academic themes, and classes are conducted to help students master the fundamental elements (research methods and the like) required to make that determination.

授業の内容 / Course Contents

ことばによってどのような「知」がどのようなプロセスに従って伝達されるかを明らかにする方法として「ディスカール分析」と「会話分析」がある。「ディスカール分析」は主として1960年代にフランスで始められた分析方法であり、「会話分析」はアメリカで生まれ、その後フランスでも展開されているアプローチである。ともにことばを研究対象として相対化する研究方法であり、言語教育・習得の分野にも導入され、外国語の授業内外においてことばによってことばに関係するどのような情報がどのようなプロセスによって伝達されるのかを明らかにする

Discourse analysis and conversation analysis are two ways to clarify the kinds of knowledge that are

communicated with language, and the processes by which they are communicated. Discourse analysis is an analytical method that began in earnest in France in the 1960s, and conversation analysis is an approach that originated in the United States of America and then spread to France. They are both research methods that relativize language as the research subject, and have been adopted in the fields of language education and acquisition to clarify the kinds and processes by which language-related information is communicated using language inside and outside foreign language classrooms.

The purpose of this Advanced Seminar is to teach students basic knowledge and fundamental analytical skills regarding discourse and conversation analysis by having them carefully read whole and excerpted literature written in Japanese, French and English, identify themes related to their own language use or language education and acquisition, and use specific analytical resources to consider their themes in practical terms. Students will do prepare for writing their graduation theses in parallel with their work in this course.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：「学術的知」の技法の説明
- 3回：論文の書き方の説明
- 4回：文献の輪読あるいは共同討議（1）
- 5回：文献の輪読あるいは共同討議（2）
- 6回：文献の輪読あるいは共同討議（3）
- 7回：卒業論文批判
- 8回：卒業研究（論文）の中間報告（1）
- 9回：卒業研究（論文）の中間報告（2）
- 10回：文献の輪読あるいは共同討議（4）
- 11回：文献の輪読あるいは共同討議（5）
- 12回：卒業研究（論文）の最終報告（口頭審査）（1）
- 13回：卒業研究（論文）の最終報告（口頭審査）（2）
- 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

初回の授業で各回のための準備学習を指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業への参加度：40% 口頭発表：30% 卒業研究（論文）の進捗：30%

合否は「卒業研究」の合否と連動する。

テキスト / Textbooks

初回の授業で決定する。

参考文献 / Readings

授業中に配付するプリントあるいはメールの添付ファイルなどによって随時紹介する。

その他/ Others

- * 上記の「授業計画」は、履修者数や指導の進捗状況にあわせて調整する可能性がある。
- * 通常の授業に加えて、研究計画書の作成のための個別指導と添削を主にメールでおこなう。
- * 学生の報告あるいは提出物について、口頭あるいは筆記によってコメントする。
- * やむを得ず休講となった場合、内容を繰り下げて補講日に補講をおこなうか、それに代わる課題を出す。

専門演習 3

Advanced Seminar 3

小山 亘 (KOYAMA WATARU)

開講年度： 2024
科目設置学部： 異文化コミュニケーション学部
科目コード等： DM837
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： ICC4543
使用言語： その他
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 自動登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定： 履修要項を確認すること。
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

4 年間で学んだことの総まとめとして「卒業研究」の成果物を完成させることを目標とする。

The purpose of this course is to complete the BA thesis or its equivalent as the cumulatively achieved endpoint (telos) of the three consecutive Advanced Seminar courses, as well as a culmination of the four-year-long learning at the College of Intercultural Communication.

授業の内容 / Course Contents

自ら設定したテーマについて調査研究を継続し、期限までに成果物を完成させる。そのために必要な個人指導や発表、討議など行う。

The students are expected to continue their research projects and must finish writing their BA theses (or equivalents) by the due date. The class will consist of private tutoring, presentations, and discussions necessary to achieve that end.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：概観

2 回：討議、発表、及び個人指導 1

- 3回：討議、発表、及び個人指導 2
 4回：討議、発表、及び個人指導 3
 5回：討議、発表、及び個人指導 4
 6回：討議、発表、及び個人指導 5
 7回：中間発表
 8回：討議、発表、及び個人指導 6
 9回：討議、発表、及び個人指導 7
 10回：討議、発表、及び個人指導 8
 11回：討議、発表、及び個人指導 9
 12回：発表 1
 13回：発表 2
 14回：総括

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワーポイント等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：		ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：					

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

毎回の授業で指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業参加度:30% 課題と発表:30% 期末課題:40%

合否は「卒業研究」の合否と連動する。

テキスト / Textbooks

なし

参考文献 / Readings

適宜、指示する。

卒業研究

Senior Research and Thesis

「専門演習3」の担当教員（）

開講年度： 2024
科目設置学部： 異文化コミュニケーション学部
科目コード等： DM902
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期
単位： 4
科目ナンバリング： ICC4543
使用言語： その他
授業形式： 卒業論文・卒業研究
履修登録方法： 自動登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

教育課程「完成期」の科目である。各自が選択した卒業研究を論文などの成果物として完成させることができる。

This seminar enables students who chose Senior Research and Thesis to complete their academic papers and the like to serve as their graduation theses.

授業の内容 / Course Contents

卒業研究は、4年間、異文化コミュニケーション学部で学んできたことを基礎として、自らがテーマを設定し、調査・研究を行うことによって完成させるものである。卒業研究の詳細は、各指導教員の「専門演習1～3」シラバスを参照すること。卒業研究の成果物の詳細（論文の分量、その他提出できる成果物の形式、提出締切、提出場所、提出方法など）については、履修要項および R-Guide を参照すること。

The graduation thesis is the finished product that results from students' investigations and research on their chosen themes, and represents the foundation of what they have learned in their four years in the College of Intercultural Communication. For details about graduation theses, see the syllabuses for Advanced Seminar 1-3 for each instructor. For details about the final versions of graduation theses (length of theses, other acceptable

formats for the final product, and submission deadlines, locations, methods, etc.), students should see the Course Guidebook and R-Guide.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：成果物作成 1
- 2回：成果物作成 2
- 3回：成果物作成 3
- 4回：成果物作成 4
- 5回：成果物作成 5
- 6回：成果物作成 6
- 7回：成果物作成 7
- 8回：成果物作成 8
- 9回：成果物作成 9
- 10回：成果物作成 10
- 11回：成果物作成 11
- 12回：成果物作成 12
- 13回：成果物作成 13
- 14回：成果物作成 14

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワーポイント等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：○	校外実習・フィールドワーク	：○
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

毎回の授業で指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 成果物:100%

卒業研究は、各指導教員が評価する。なお、卒業研究の合否は「専門演習3」の合否と連動する。

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

その他 / Others

成果物について、随時フィードバックを行う。

卒業研究

Senior Research and Thesis

「専門演習3」の担当教員（）

開講年度：	2024
科目設置学部：	異文化コミュニケーション学部
科目コード等：	DM906
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	秋学期
単位：	4
科目ナンバリング：	ICC4543
使用言語：	その他
授業形式：	卒業論文・卒業研究
履修登録方法：	自動登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	

授業の目標 / Course Objectives

教育課程「完成期」の科目である。各自が選択した卒業研究を論文などの成果物として完成させることができる。

This seminar enables students who chose Senior Research and Thesis to complete their academic papers and the like to serve as their graduation theses.

授業の内容 / Course Contents

卒業研究は、4年間、異文化コミュニケーション学部で学んできたことを基礎として、自らがテーマを設定し、調査・研究を行うことによって完成させるものである。卒業研究の詳細は、各指導教員の「専門演習1～3」シラバスを参照すること。卒業研究の成果物の詳細（論文の分量、その他提出できる成果物の形式、提出締切、提出場所、提出方法など）については、履修要項および R-Guide を参照すること。

The graduation thesis is the finished product that results from students' investigations and research on their chosen themes, and represents the foundation of what they have learned in their four years in the College of Intercultural Communication. For details about graduation theses, see the syllabuses for Advanced Seminar 1-3 for each instructor. For details about the final versions of graduation theses (length of theses, other acceptable

formats for the final product, and submission deadlines, locations, methods, etc.), students should see the Course Guidebook and R-Guide.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：成果物作成 1
- 2回：成果物作成 2
- 3回：成果物作成 3
- 4回：成果物作成 4
- 5回：成果物作成 5
- 6回：成果物作成 6
- 7回：成果物作成 7
- 8回：成果物作成 8
- 9回：成果物作成 9
- 10回：成果物作成 10
- 11回：成果物作成 11
- 12回：成果物作成 12
- 13回：成果物作成 13
- 14回：成果物作成 14

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワーポイント等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：○	校外実習・フィールドワーク	：○
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

毎回の授業で指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 成果物:100%

卒業研究は、各指導教員が評価する。なお、卒業研究の合否は「専門演習3」の合否と連動する。

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

その他 / Others

成果物について、随時フィードバックを行う。

卒業研究

Senior Research and Thesis

「専門演習3」の担当教員（）

開講年度： 2024
科目設置学部： 異文化コミュニケーション学部
科目コード等： DM907
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期
単位： 4
科目ナンバリング： ICC4543
使用言語： その他
授業形式： 卒業論文・卒業研究
履修登録方法： 自動登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

教育課程「完成期」の科目である。各自が選択した卒業研究を論文などの成果物として完成させることができる。

This seminar enables students who chose Senior Research and Thesis to complete their academic papers and the like to serve as their graduation theses.

授業の内容 / Course Contents

卒業研究は、4年間、異文化コミュニケーション学部で学んできたことを基礎として、自らがテーマを設定し、調査・研究を行うことによって完成させるものである。卒業研究の詳細は、各指導教員の「専門演習1～3」シラバスを参照すること。卒業研究の成果物の詳細（論文の分量、その他提出できる成果物の形式、提出締切、提出場所、提出方法など）については、履修要項および R-Guide を参照すること。

The graduation thesis is the finished product that results from students' investigations and research on their chosen themes, and represents the foundation of what they have learned in their four years in the College of Intercultural Communication. For details about graduation theses, see the syllabuses for Advanced Seminar 1-3 for each instructor. For details about the final versions of graduation theses (length of theses, other acceptable

formats for the final product, and submission deadlines, locations, methods, etc.), students should see the Course Guidebook and R-Guide.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：成果物作成 1
- 2回：成果物作成 2
- 3回：成果物作成 3
- 4回：成果物作成 4
- 5回：成果物作成 5
- 6回：成果物作成 6
- 7回：成果物作成 7
- 8回：成果物作成 8
- 9回：成果物作成 9
- 10回：成果物作成 10
- 11回：成果物作成 11
- 12回：成果物作成 12
- 13回：成果物作成 13
- 14回：成果物作成 14

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワーポイント等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：○	校外実習・フィールドワーク	：○
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

毎回の授業で指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 成果物:100%

卒業研究は、各指導教員が評価する。なお、卒業研究の合否は「専門演習3」の合否と連動する。

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

その他 / Others

成果物について、随時フィードバックを行う。

卒業研究

Senior Research and Thesis

「専門演習3」の担当教員（）

開講年度： 2024
科目設置学部： 異文化コミュニケーション学部
科目コード等： DM908
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期
単位： 4
科目ナンバリング： ICC4543
使用言語： その他
授業形式： 卒業論文・卒業研究
履修登録方法： 自動登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

教育課程「完成期」の科目である。各自が選択した卒業研究を論文などの成果物として完成させることができる。

This seminar enables students who chose Senior Research and Thesis to complete their academic papers and the like to serve as their graduation theses.

授業の内容 / Course Contents

卒業研究は、4年間、異文化コミュニケーション学部で学んできたことを基礎として、自らがテーマを設定し、調査・研究を行うことによって完成させるものである。卒業研究の詳細は、各指導教員の「専門演習1～3」シラバスを参照すること。卒業研究の成果物の詳細（論文の分量、その他提出できる成果物の形式、提出締切、提出場所、提出方法など）については、履修要項および R-Guide を参照すること。

The graduation thesis is the finished product that results from students' investigations and research on their chosen themes, and represents the foundation of what they have learned in their four years in the College of Intercultural Communication. For details about graduation theses, see the syllabuses for Advanced Seminar 1-3 for each instructor. For details about the final versions of graduation theses (length of theses, other acceptable

formats for the final product, and submission deadlines, locations, methods, etc.), students should see the Course Guidebook and R-Guide.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：成果物作成 1
- 2回：成果物作成 2
- 3回：成果物作成 3
- 4回：成果物作成 4
- 5回：成果物作成 5
- 6回：成果物作成 6
- 7回：成果物作成 7
- 8回：成果物作成 8
- 9回：成果物作成 9
- 10回：成果物作成 10
- 11回：成果物作成 11
- 12回：成果物作成 12
- 13回：成果物作成 13
- 14回：成果物作成 14

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワーポイント等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：○	校外実習・フィールドワーク	：○
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

毎回の授業で指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 成果物:100%

卒業研究は、各指導教員が評価する。なお、卒業研究の合否は「専門演習3」の合否と連動する。

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

その他 / Others

成果物について、随時フィードバックを行う。

卒業研究

Senior Research and Thesis

「専門演習3」の担当教員（）

開講年度： 2024
科目設置学部： 異文化コミュニケーション学部
科目コード等： DM909
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期
単位： 4
科目ナンバリング： ICC4543
使用言語： その他
授業形式： 卒業論文・卒業研究
履修登録方法： 自動登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

教育課程「完成期」の科目である。各自が選択した卒業研究を論文などの成果物として完成させることができる。

This seminar enables students who chose Senior Research and Thesis to complete their academic papers and the like to serve as their graduation theses.

授業の内容 / Course Contents

卒業研究は、4年間、異文化コミュニケーション学部で学んできたことを基礎として、自らがテーマを設定し、調査・研究を行うことによって完成させるものである。卒業研究の詳細は、各指導教員の「専門演習1～3」シラバスを参照すること。卒業研究の成果物の詳細（論文の分量、その他提出できる成果物の形式、提出締切、提出場所、提出方法など）については、履修要項および R-Guide を参照すること。

The graduation thesis is the finished product that results from students' investigations and research on their chosen themes, and represents the foundation of what they have learned in their four years in the College of Intercultural Communication. For details about graduation theses, see the syllabuses for Advanced Seminar 1-3 for each instructor. For details about the final versions of graduation theses (length of theses, other acceptable

formats for the final product, and submission deadlines, locations, methods, etc.), students should see the Course Guidebook and R-Guide.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：成果物作成 1
- 2回：成果物作成 2
- 3回：成果物作成 3
- 4回：成果物作成 4
- 5回：成果物作成 5
- 6回：成果物作成 6
- 7回：成果物作成 7
- 8回：成果物作成 8
- 9回：成果物作成 9
- 10回：成果物作成 10
- 11回：成果物作成 11
- 12回：成果物作成 12
- 13回：成果物作成 13
- 14回：成果物作成 14

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：○	校外実習・フィールドワーク	：○
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

毎回の授業で指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 成果物:100%

卒業研究は、各指導教員が評価する。なお、卒業研究の合否は「専門演習3」の合否と連動する。

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

その他 / Others

成果物について、随時フィードバックを行う。

卒業研究

Senior Research and Thesis

「専門演習3」の担当教員（）

開講年度： 2024
科目設置学部： 異文化コミュニケーション学部
科目コード等： DM910
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期
単位： 4
科目ナンバリング： ICC4543
使用言語： その他
授業形式： 卒業論文・卒業研究
履修登録方法： 自動登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

教育課程「完成期」の科目である。各自が選択した卒業研究を論文などの成果物として完成させることができる。

This seminar enables students who chose Senior Research and Thesis to complete their academic papers and the like to serve as their graduation theses.

授業の内容 / Course Contents

卒業研究は、4年間、異文化コミュニケーション学部で学んできたことを基礎として、自らがテーマを設定し、調査・研究を行うことによって完成させるものである。卒業研究の詳細は、各指導教員の「専門演習1～3」シラバスを参照すること。卒業研究の成果物の詳細（論文の分量、その他提出できる成果物の形式、提出締切、提出場所、提出方法など）については、履修要項および R-Guide を参照すること。

The graduation thesis is the finished product that results from students' investigations and research on their chosen themes, and represents the foundation of what they have learned in their four years in the College of Intercultural Communication. For details about graduation theses, see the syllabuses for Advanced Seminar 1-3 for each instructor. For details about the final versions of graduation theses (length of theses, other acceptable

formats for the final product, and submission deadlines, locations, methods, etc.), students should see the Course Guidebook and R-Guide.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：成果物作成 1
- 2回：成果物作成 2
- 3回：成果物作成 3
- 4回：成果物作成 4
- 5回：成果物作成 5
- 6回：成果物作成 6
- 7回：成果物作成 7
- 8回：成果物作成 8
- 9回：成果物作成 9
- 10回：成果物作成 10
- 11回：成果物作成 11
- 12回：成果物作成 12
- 13回：成果物作成 13
- 14回：成果物作成 14

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワーポイント等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：○	校外実習・フィールドワーク	：○
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

毎回の授業で指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 成果物:100%

卒業研究は、各指導教員が評価する。なお、卒業研究の合否は「専門演習3」の合否と連動する。

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

その他 / Others

成果物について、随時フィードバックを行う。

卒業研究

Senior Research and Thesis

「専門演習3」の担当教員（）

開講年度： 2024
科目設置学部： 異文化コミュニケーション学部
科目コード等： DM911
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期
単位： 4
科目ナンバリング： ICC4543
使用言語： その他
授業形式： 卒業論文・卒業研究
履修登録方法： 自動登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

教育課程「完成期」の科目である。各自が選択した卒業研究を論文などの成果物として完成させることができる。

This seminar enables students who chose Senior Research and Thesis to complete their academic papers and the like to serve as their graduation theses.

授業の内容 / Course Contents

卒業研究は、4年間、異文化コミュニケーション学部で学んできたことを基礎として、自らがテーマを設定し、調査・研究を行うことによって完成させるものである。卒業研究の詳細は、各指導教員の「専門演習1～3」シラバスを参照すること。卒業研究の成果物の詳細（論文の分量、その他提出できる成果物の形式、提出締切、提出場所、提出方法など）については、履修要項および R-Guide を参照すること。

The graduation thesis is the finished product that results from students' investigations and research on their chosen themes, and represents the foundation of what they have learned in their four years in the College of Intercultural Communication. For details about graduation theses, see the syllabuses for Advanced Seminar 1-3 for each instructor. For details about the final versions of graduation theses (length of theses, other acceptable

formats for the final product, and submission deadlines, locations, methods, etc.), students should see the Course Guidebook and R-Guide.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：成果物作成 1
- 2回：成果物作成 2
- 3回：成果物作成 3
- 4回：成果物作成 4
- 5回：成果物作成 5
- 6回：成果物作成 6
- 7回：成果物作成 7
- 8回：成果物作成 8
- 9回：成果物作成 9
- 10回：成果物作成 10
- 11回：成果物作成 11
- 12回：成果物作成 12
- 13回：成果物作成 13
- 14回：成果物作成 14

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：○	校外実習・フィールドワーク	：○
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

毎回の授業で指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 成果物:100%

卒業研究は、各指導教員が評価する。なお、卒業研究の合否は「専門演習3」の合否と連動する。

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

その他 / Others

成果物について、随時フィードバックを行う。

卒業研究

Senior Research and Thesis

「専門演習3」の担当教員（）

開講年度：	2024
科目設置学部：	異文化コミュニケーション学部
科目コード等：	DM912
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	秋学期
単位：	4
科目ナンバリング：	ICC4543
使用言語：	その他
授業形式：	卒業論文・卒業研究
履修登録方法：	自動登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	

授業の目標 / Course Objectives

教育課程「完成期」の科目である。各自が選択した卒業研究を論文などの成果物として完成させることができる。

This seminar enables students who chose Senior Research and Thesis to complete their academic papers and the like to serve as their graduation theses.

授業の内容 / Course Contents

卒業研究は、4年間、異文化コミュニケーション学部で学んできたことを基礎として、自らがテーマを設定し、調査・研究を行うことによって完成させるものである。卒業研究の詳細は、各指導教員の「専門演習1～3」シラバスを参照すること。卒業研究の成果物の詳細（論文の分量、その他提出できる成果物の形式、提出締切、提出場所、提出方法など）については、履修要項および R-Guide を参照すること。

The graduation thesis is the finished product that results from students' investigations and research on their chosen themes, and represents the foundation of what they have learned in their four years in the College of Intercultural Communication. For details about graduation theses, see the syllabuses for Advanced Seminar 1-3 for each instructor. For details about the final versions of graduation theses (length of theses, other acceptable

formats for the final product, and submission deadlines, locations, methods, etc.), students should see the Course Guidebook and R-Guide.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：成果物作成 1
- 2回：成果物作成 2
- 3回：成果物作成 3
- 4回：成果物作成 4
- 5回：成果物作成 5
- 6回：成果物作成 6
- 7回：成果物作成 7
- 8回：成果物作成 8
- 9回：成果物作成 9
- 10回：成果物作成 10
- 11回：成果物作成 11
- 12回：成果物作成 12
- 13回：成果物作成 13
- 14回：成果物作成 14

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：○	校外実習・フィールドワーク	：○
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

毎回の授業で指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 成果物:100%

卒業研究は、各指導教員が評価する。なお、卒業研究の合否は「専門演習3」の合否と連動する。

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

その他 / Others

成果物について、随時フィードバックを行う。

卒業研究

Senior Research and Thesis

「専門演習3」の担当教員（）

開講年度：	2024
科目設置学部：	異文化コミュニケーション学部
科目コード等：	DM914
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	秋学期
単位：	4
科目ナンバリング：	ICC4543
使用言語：	その他
授業形式：	卒業論文・卒業研究
履修登録方法：	自動登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	

授業の目標 / Course Objectives

教育課程「完成期」の科目である。各自が選択した卒業研究を論文などの成果物として完成させることができる。

This seminar enables students who chose Senior Research and Thesis to complete their academic papers and the like to serve as their graduation theses.

授業の内容 / Course Contents

卒業研究は、4年間、異文化コミュニケーション学部で学んできたことを基礎として、自らがテーマを設定し、調査・研究を行うことによって完成させるものである。卒業研究の詳細は、各指導教員の「専門演習1～3」シラバスを参照すること。卒業研究の成果物の詳細（論文の分量、その他提出できる成果物の形式、提出締切、提出場所、提出方法など）については、履修要項および R-Guide を参照すること。

The graduation thesis is the finished product that results from students' investigations and research on their chosen themes, and represents the foundation of what they have learned in their four years in the College of Intercultural Communication. For details about graduation theses, see the syllabuses for Advanced Seminar 1-3 for each instructor. For details about the final versions of graduation theses (length of theses, other acceptable

formats for the final product, and submission deadlines, locations, methods, etc.), students should see the Course Guidebook and R-Guide.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：成果物作成 1
- 2回：成果物作成 2
- 3回：成果物作成 3
- 4回：成果物作成 4
- 5回：成果物作成 5
- 6回：成果物作成 6
- 7回：成果物作成 7
- 8回：成果物作成 8
- 9回：成果物作成 9
- 10回：成果物作成 10
- 11回：成果物作成 11
- 12回：成果物作成 12
- 13回：成果物作成 13
- 14回：成果物作成 14

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワーポイント等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：○	校外実習・フィールドワーク	：○
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

毎回の授業で指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 成果物:100%

卒業研究は、各指導教員が評価する。なお、卒業研究の合否は「専門演習3」の合否と連動する。

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

その他 / Others

成果物について、随時フィードバックを行う。

卒業研究

Senior Research and Thesis

「専門演習3」の担当教員（）

開講年度：	2024
科目設置学部：	異文化コミュニケーション学部
科目コード等：	DM915
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	秋学期
単位：	4
科目ナンバリング：	ICC4543
使用言語：	その他
授業形式：	卒業論文・卒業研究
履修登録方法：	自動登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	

授業の目標 / Course Objectives

教育課程「完成期」の科目である。各自が選択した卒業研究を論文などの成果物として完成させることができる。

This seminar enables students who chose Senior Research and Thesis to complete their academic papers and the like to serve as their graduation theses.

授業の内容 / Course Contents

卒業研究は、4年間、異文化コミュニケーション学部で学んできたことを基礎として、自らがテーマを設定し、調査・研究を行うことによって完成させるものである。卒業研究の詳細は、各指導教員の「専門演習1～3」シラバスを参照すること。卒業研究の成果物の詳細（論文の分量、その他提出できる成果物の形式、提出締切、提出場所、提出方法など）については、履修要項および R-Guide を参照すること。

The graduation thesis is the finished product that results from students' investigations and research on their chosen themes, and represents the foundation of what they have learned in their four years in the College of Intercultural Communication. For details about graduation theses, see the syllabuses for Advanced Seminar 1-3 for each instructor. For details about the final versions of graduation theses (length of theses, other acceptable

formats for the final product, and submission deadlines, locations, methods, etc.), students should see the Course Guidebook and R-Guide.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：成果物作成 1
- 2回：成果物作成 2
- 3回：成果物作成 3
- 4回：成果物作成 4
- 5回：成果物作成 5
- 6回：成果物作成 6
- 7回：成果物作成 7
- 8回：成果物作成 8
- 9回：成果物作成 9
- 10回：成果物作成 10
- 11回：成果物作成 11
- 12回：成果物作成 12
- 13回：成果物作成 13
- 14回：成果物作成 14

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：○	校外実習・フィールドワーク	：○
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

毎回の授業で指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 成果物:100%

卒業研究は、各指導教員が評価する。なお、卒業研究の合否は「専門演習3」の合否と連動する。

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

その他 / Others

成果物について、随時フィードバックを行う。

卒業研究

Senior Research and Thesis

「専門演習3」の担当教員（）

開講年度：	2024
科目設置学部：	異文化コミュニケーション学部
科目コード等：	DM917
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	秋学期
単位：	4
科目ナンバリング：	ICC4543
使用言語：	その他
授業形式：	卒業論文・卒業研究
履修登録方法：	自動登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	

授業の目標 / Course Objectives

教育課程「完成期」の科目である。各自が選択した卒業研究を論文などの成果物として完成させることができる。

This seminar enables students who chose Senior Research and Thesis to complete their academic papers and the like to serve as their graduation theses.

授業の内容 / Course Contents

卒業研究は、4年間、異文化コミュニケーション学部で学んできたことを基礎として、自らがテーマを設定し、調査・研究を行うことによって完成させるものである。卒業研究の詳細は、各指導教員の「専門演習1～3」シラバスを参照すること。卒業研究の成果物の詳細（論文の分量、その他提出できる成果物の形式、提出締切、提出場所、提出方法など）については、履修要項および R-Guide を参照すること。

The graduation thesis is the finished product that results from students' investigations and research on their chosen themes, and represents the foundation of what they have learned in their four years in the College of Intercultural Communication. For details about graduation theses, see the syllabuses for Advanced Seminar 1-3 for each instructor. For details about the final versions of graduation theses (length of theses, other acceptable

formats for the final product, and submission deadlines, locations, methods, etc.), students should see the Course Guidebook and R-Guide.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：成果物作成 1
- 2回：成果物作成 2
- 3回：成果物作成 3
- 4回：成果物作成 4
- 5回：成果物作成 5
- 6回：成果物作成 6
- 7回：成果物作成 7
- 8回：成果物作成 8
- 9回：成果物作成 9
- 10回：成果物作成 10
- 11回：成果物作成 11
- 12回：成果物作成 12
- 13回：成果物作成 13
- 14回：成果物作成 14

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：○	校外実習・フィールドワーク	：○
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

毎回の授業で指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 成果物:100%

卒業研究は、各指導教員が評価する。なお、卒業研究の合否は「専門演習3」の合否と連動する。

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

その他 / Others

成果物について、随時フィードバックを行う。

卒業研究

Senior Research and Thesis

「専門演習3」の担当教員（）

開講年度： 2024
科目設置学部： 異文化コミュニケーション学部
科目コード等： DM919
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期
単位： 4
科目ナンバリング： ICC4543
使用言語： その他
授業形式： 卒業論文・卒業研究
履修登録方法： 自動登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

教育課程「完成期」の科目である。各自が選択した卒業研究を論文などの成果物として完成させることができる。

This seminar enables students who chose Senior Research and Thesis to complete their academic papers and the like to serve as their graduation theses.

授業の内容 / Course Contents

卒業研究は、4年間、異文化コミュニケーション学部で学んできたことを基礎として、自らがテーマを設定し、調査・研究を行うことによって完成させるものである。卒業研究の詳細は、各指導教員の「専門演習1～3」シラバスを参照すること。卒業研究の成果物の詳細（論文の分量、その他提出できる成果物の形式、提出締切、提出場所、提出方法など）については、履修要項および R-Guide を参照すること。

The graduation thesis is the finished product that results from students' investigations and research on their chosen themes, and represents the foundation of what they have learned in their four years in the College of Intercultural Communication. For details about graduation theses, see the syllabuses for Advanced Seminar 1-3 for each instructor. For details about the final versions of graduation theses (length of theses, other acceptable

formats for the final product, and submission deadlines, locations, methods, etc.), students should see the Course Guidebook and R-Guide.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：成果物作成 1
- 2回：成果物作成 2
- 3回：成果物作成 3
- 4回：成果物作成 4
- 5回：成果物作成 5
- 6回：成果物作成 6
- 7回：成果物作成 7
- 8回：成果物作成 8
- 9回：成果物作成 9
- 10回：成果物作成 10
- 11回：成果物作成 11
- 12回：成果物作成 12
- 13回：成果物作成 13
- 14回：成果物作成 14

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：○	校外実習・フィールドワーク	：○
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

毎回の授業で指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 成果物:100%

卒業研究は、各指導教員が評価する。なお、卒業研究の合否は「専門演習3」の合否と連動する。

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

その他 / Others

成果物について、随時フィードバックを行う。

卒業研究

Senior Research and Thesis

「専門演習3」の担当教員（）

開講年度： 2024
科目設置学部： 異文化コミュニケーション学部
科目コード等： DM920
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期
単位： 4
科目ナンバリング： ICC4543
使用言語： その他
授業形式： 卒業論文・卒業研究
履修登録方法： 自動登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

教育課程「完成期」の科目である。各自が選択した卒業研究を論文などの成果物として完成させることができる。

This seminar enables students who chose Senior Research and Thesis to complete their academic papers and the like to serve as their graduation theses.

授業の内容 / Course Contents

卒業研究は、4年間、異文化コミュニケーション学部で学んできたことを基礎として、自らがテーマを設定し、調査・研究を行うことによって完成させるものである。卒業研究の詳細は、各指導教員の「専門演習1～3」シラバスを参照すること。卒業研究の成果物の詳細（論文の分量、その他提出できる成果物の形式、提出締切、提出場所、提出方法など）については、履修要項および R-Guide を参照すること。

The graduation thesis is the finished product that results from students' investigations and research on their chosen themes, and represents the foundation of what they have learned in their four years in the College of Intercultural Communication. For details about graduation theses, see the syllabuses for Advanced Seminar 1-3 for each instructor. For details about the final versions of graduation theses (length of theses, other acceptable

formats for the final product, and submission deadlines, locations, methods, etc.), students should see the Course Guidebook and R-Guide.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：成果物作成 1
- 2回：成果物作成 2
- 3回：成果物作成 3
- 4回：成果物作成 4
- 5回：成果物作成 5
- 6回：成果物作成 6
- 7回：成果物作成 7
- 8回：成果物作成 8
- 9回：成果物作成 9
- 10回：成果物作成 10
- 11回：成果物作成 11
- 12回：成果物作成 12
- 13回：成果物作成 13
- 14回：成果物作成 14

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：○	校外実習・フィールドワーク	：○
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

毎回の授業で指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 成果物:100%

卒業研究は、各指導教員が評価する。なお、卒業研究の合否は「専門演習3」の合否と連動する。

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

その他 / Others

成果物について、随時フィードバックを行う。

卒業研究

Senior Research and Thesis

「専門演習3」の担当教員（）

開講年度： 2024
科目設置学部： 異文化コミュニケーション学部
科目コード等： DM923
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期
単位： 4
科目ナンバリング： ICC4543
使用言語： その他
授業形式： 卒業論文・卒業研究
履修登録方法： 自動登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

教育課程「完成期」の科目である。各自が選択した卒業研究を論文などの成果物として完成させることができる。

This seminar enables students who chose Senior Research and Thesis to complete their academic papers and the like to serve as their graduation theses.

授業の内容 / Course Contents

卒業研究は、4年間、異文化コミュニケーション学部で学んできたことを基礎として、自らがテーマを設定し、調査・研究を行うことによって完成させるものである。卒業研究の詳細は、各指導教員の「専門演習1～3」シラバスを参照すること。卒業研究の成果物の詳細（論文の分量、その他提出できる成果物の形式、提出締切、提出場所、提出方法など）については、履修要項および R-Guide を参照すること。

The graduation thesis is the finished product that results from students' investigations and research on their chosen themes, and represents the foundation of what they have learned in their four years in the College of Intercultural Communication. For details about graduation theses, see the syllabuses for Advanced Seminar 1-3 for each instructor. For details about the final versions of graduation theses (length of theses, other acceptable

formats for the final product, and submission deadlines, locations, methods, etc.), students should see the Course Guidebook and R-Guide.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：成果物作成 1
- 2回：成果物作成 2
- 3回：成果物作成 3
- 4回：成果物作成 4
- 5回：成果物作成 5
- 6回：成果物作成 6
- 7回：成果物作成 7
- 8回：成果物作成 8
- 9回：成果物作成 9
- 10回：成果物作成 10
- 11回：成果物作成 11
- 12回：成果物作成 12
- 13回：成果物作成 13
- 14回：成果物作成 14

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：○	校外実習・フィールドワーク	：○
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

毎回の授業で指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 成果物:100%

卒業研究は、各指導教員が評価する。なお、卒業研究の合否は「専門演習3」の合否と連動する。

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

その他 / Others

成果物について、随時フィードバックを行う。

卒業研究

Senior Research and Thesis

「専門演習3」の担当教員（）

開講年度： 2024
科目設置学部： 異文化コミュニケーション学部
科目コード等： DM924
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期
単位： 4
科目ナンバリング： ICC4543
使用言語： その他
授業形式： 卒業論文・卒業研究
履修登録方法： 自動登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

教育課程「完成期」の科目である。各自が選択した卒業研究を論文などの成果物として完成させることができる。

This seminar enables students who chose Senior Research and Thesis to complete their academic papers and the like to serve as their graduation theses.

授業の内容 / Course Contents

卒業研究は、4年間、異文化コミュニケーション学部で学んできたことを基礎として、自らがテーマを設定し、調査・研究を行うことによって完成させるものである。卒業研究の詳細は、各指導教員の「専門演習1～3」シラバスを参照すること。卒業研究の成果物の詳細（論文の分量、その他提出できる成果物の形式、提出締切、提出場所、提出方法など）については、履修要項および R-Guide を参照すること。

The graduation thesis is the finished product that results from students' investigations and research on their chosen themes, and represents the foundation of what they have learned in their four years in the College of Intercultural Communication. For details about graduation theses, see the syllabuses for Advanced Seminar 1-3 for each instructor. For details about the final versions of graduation theses (length of theses, other acceptable

formats for the final product, and submission deadlines, locations, methods, etc.), students should see the Course Guidebook and R-Guide.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：成果物作成 1
- 2回：成果物作成 2
- 3回：成果物作成 3
- 4回：成果物作成 4
- 5回：成果物作成 5
- 6回：成果物作成 6
- 7回：成果物作成 7
- 8回：成果物作成 8
- 9回：成果物作成 9
- 10回：成果物作成 10
- 11回：成果物作成 11
- 12回：成果物作成 12
- 13回：成果物作成 13
- 14回：成果物作成 14

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：○	校外実習・フィールドワーク	：○
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

毎回の授業で指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 成果物:100%

卒業研究は、各指導教員が評価する。なお、卒業研究の合否は「専門演習3」の合否と連動する。

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

その他 / Others

成果物について、随時フィードバックを行う。

卒業研究

Senior Research and Thesis

「専門演習3」の担当教員（）

開講年度： 2024
科目設置学部： 異文化コミュニケーション学部
科目コード等： DM926
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期
単位： 4
科目ナンバリング： ICC4543
使用言語： その他
授業形式： 卒業論文・卒業研究
履修登録方法： 自動登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

教育課程「完成期」の科目である。各自が選択した卒業研究を論文などの成果物として完成させることができる。

This seminar enables students who chose Senior Research and Thesis to complete their academic papers and the like to serve as their graduation theses.

授業の内容 / Course Contents

卒業研究は、4年間、異文化コミュニケーション学部で学んできたことを基礎として、自らがテーマを設定し、調査・研究を行うことによって完成させるものである。卒業研究の詳細は、各指導教員の「専門演習1～3」シラバスを参照すること。卒業研究の成果物の詳細（論文の分量、その他提出できる成果物の形式、提出締切、提出場所、提出方法など）については、履修要項および R-Guide を参照すること。

The graduation thesis is the finished product that results from students' investigations and research on their chosen themes, and represents the foundation of what they have learned in their four years in the College of Intercultural Communication. For details about graduation theses, see the syllabuses for Advanced Seminar 1-3 for each instructor. For details about the final versions of graduation theses (length of theses, other acceptable

formats for the final product, and submission deadlines, locations, methods, etc.), students should see the Course Guidebook and R-Guide.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：成果物作成 1
- 2回：成果物作成 2
- 3回：成果物作成 3
- 4回：成果物作成 4
- 5回：成果物作成 5
- 6回：成果物作成 6
- 7回：成果物作成 7
- 8回：成果物作成 8
- 9回：成果物作成 9
- 10回：成果物作成 10
- 11回：成果物作成 11
- 12回：成果物作成 12
- 13回：成果物作成 13
- 14回：成果物作成 14

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：○	校外実習・フィールドワーク	：○
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

毎回の授業で指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 成果物:100%

卒業研究は、各指導教員が評価する。なお、卒業研究の合否は「専門演習3」の合否と連動する。

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

その他 / Others

成果物について、随時フィードバックを行う。

卒業研究

Senior Research and Thesis

「専門演習3」の担当教員（）

開講年度： 2024
科目設置学部： 異文化コミュニケーション学部
科目コード等： DM927
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期
単位： 4
科目ナンバリング： ICC4543
使用言語： その他
授業形式： 卒業論文・卒業研究
履修登録方法： 自動登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

教育課程「完成期」の科目である。各自が選択した卒業研究を論文などの成果物として完成させることができる。

This seminar enables students who chose Senior Research and Thesis to complete their academic papers and the like to serve as their graduation theses.

授業の内容 / Course Contents

卒業研究は、4年間、異文化コミュニケーション学部で学んできたことを基礎として、自らがテーマを設定し、調査・研究を行うことによって完成させるものである。卒業研究の詳細は、各指導教員の「専門演習1～3」シラバスを参照すること。卒業研究の成果物の詳細（論文の分量、その他提出できる成果物の形式、提出締切、提出場所、提出方法など）については、履修要項および R-Guide を参照すること。

The graduation thesis is the finished product that results from students' investigations and research on their chosen themes, and represents the foundation of what they have learned in their four years in the College of Intercultural Communication. For details about graduation theses, see the syllabuses for Advanced Seminar 1-3 for each instructor. For details about the final versions of graduation theses (length of theses, other acceptable

formats for the final product, and submission deadlines, locations, methods, etc.), students should see the Course Guidebook and R-Guide.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：成果物作成 1
- 2回：成果物作成 2
- 3回：成果物作成 3
- 4回：成果物作成 4
- 5回：成果物作成 5
- 6回：成果物作成 6
- 7回：成果物作成 7
- 8回：成果物作成 8
- 9回：成果物作成 9
- 10回：成果物作成 10
- 11回：成果物作成 11
- 12回：成果物作成 12
- 13回：成果物作成 13
- 14回：成果物作成 14

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：○	校外実習・フィールドワーク	：○
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

毎回の授業で指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 成果物:100%

卒業研究は、各指導教員が評価する。なお、卒業研究の合否は「専門演習3」の合否と連動する。

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

その他 / Others

成果物について、随時フィードバックを行う。

卒業研究

Senior Research and Thesis

「専門演習3」の担当教員（）

開講年度：	2024
科目設置学部：	異文化コミュニケーション学部
科目コード等：	DM929
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	秋学期
単位：	4
科目ナンバリング：	ICC4543
使用言語：	その他
授業形式：	卒業論文・卒業研究
履修登録方法：	自動登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	

授業の目標 / Course Objectives

教育課程「完成期」の科目である。各自が選択した卒業研究を論文などの成果物として完成させることができる。

This seminar enables students who chose Senior Research and Thesis to complete their academic papers and the like to serve as their graduation theses.

授業の内容 / Course Contents

卒業研究は、4年間、異文化コミュニケーション学部で学んできたことを基礎として、自らがテーマを設定し、調査・研究を行うことによって完成させるものである。卒業研究の詳細は、各指導教員の「専門演習1～3」シラバスを参照すること。卒業研究の成果物の詳細（論文の分量、その他提出できる成果物の形式、提出締切、提出場所、提出方法など）については、履修要項および R-Guide を参照すること。

The graduation thesis is the finished product that results from students' investigations and research on their chosen themes, and represents the foundation of what they have learned in their four years in the College of Intercultural Communication. For details about graduation theses, see the syllabuses for Advanced Seminar 1-3 for each instructor. For details about the final versions of graduation theses (length of theses, other acceptable

formats for the final product, and submission deadlines, locations, methods, etc.), students should see the Course Guidebook and R-Guide.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：成果物作成 1
- 2回：成果物作成 2
- 3回：成果物作成 3
- 4回：成果物作成 4
- 5回：成果物作成 5
- 6回：成果物作成 6
- 7回：成果物作成 7
- 8回：成果物作成 8
- 9回：成果物作成 9
- 10回：成果物作成 10
- 11回：成果物作成 11
- 12回：成果物作成 12
- 13回：成果物作成 13
- 14回：成果物作成 14

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワーポイント等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：○	校外実習・フィールドワーク	：○
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

毎回の授業で指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 成果物:100%

卒業研究は、各指導教員が評価する。なお、卒業研究の合否は「専門演習3」の合否と連動する。

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

その他 / Others

成果物について、随時フィードバックを行う。

卒業研究

Senior Research and Thesis

「専門演習3」の担当教員（）

開講年度：	2024
科目設置学部：	異文化コミュニケーション学部
科目コード等：	DM931
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	秋学期
単位：	4
科目ナンバリング：	ICC4543
使用言語：	その他
授業形式：	卒業論文・卒業研究
履修登録方法：	自動登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	

授業の目標 / Course Objectives

教育課程「完成期」の科目である。各自が選択した卒業研究を論文などの成果物として完成させることができる。

This seminar enables students who chose Senior Research and Thesis to complete their academic papers and the like to serve as their graduation theses.

授業の内容 / Course Contents

卒業研究は、4年間、異文化コミュニケーション学部で学んできたことを基礎として、自らがテーマを設定し、調査・研究を行うことによって完成させるものである。卒業研究の詳細は、各指導教員の「専門演習1～3」シラバスを参照すること。卒業研究の成果物の詳細（論文の分量、その他提出できる成果物の形式、提出締切、提出場所、提出方法など）については、履修要項および R-Guide を参照すること。

The graduation thesis is the finished product that results from students' investigations and research on their chosen themes, and represents the foundation of what they have learned in their four years in the College of Intercultural Communication. For details about graduation theses, see the syllabuses for Advanced Seminar 1-3 for each instructor. For details about the final versions of graduation theses (length of theses, other acceptable

formats for the final product, and submission deadlines, locations, methods, etc.), students should see the Course Guidebook and R-Guide.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：成果物作成 1
- 2 回：成果物作成 2
- 3 回：成果物作成 3
- 4 回：成果物作成 4
- 5 回：成果物作成 5
- 6 回：成果物作成 6
- 7 回：成果物作成 7
- 8 回：成果物作成 8
- 9 回：成果物作成 9
- 10 回：成果物作成 10
- 11 回：成果物作成 11
- 12 回：成果物作成 12
- 13 回：成果物作成 13
- 14 回：成果物作成 14

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワーポイント等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：○	校外実習・フィールドワーク	：○
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

毎回の授業で指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 成果物:100%

卒業研究は、各指導教員が評価する。なお、卒業研究の合否は「専門演習3」の合否と連動する。

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

その他 / Others

成果物について、随時フィードバックを行う。

卒業研究

Senior Research and Thesis

「専門演習3」の担当教員（）

開講年度：	2024
科目設置学部：	異文化コミュニケーション学部
科目コード等：	DM932
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	秋学期
単位：	4
科目ナンバリング：	ICC4543
使用言語：	その他
授業形式：	卒業論文・卒業研究
履修登録方法：	自動登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	

授業の目標 / Course Objectives

教育課程「完成期」の科目である。各自が選択した卒業研究を論文などの成果物として完成させることができる。

This seminar enables students who chose Senior Research and Thesis to complete their academic papers and the like to serve as their graduation theses.

授業の内容 / Course Contents

卒業研究は、4年間、異文化コミュニケーション学部で学んできたことを基礎として、自らがテーマを設定し、調査・研究を行うことによって完成させるものである。卒業研究の詳細は、各指導教員の「専門演習1～3」シラバスを参照すること。卒業研究の成果物の詳細（論文の分量、その他提出できる成果物の形式、提出締切、提出場所、提出方法など）については、履修要項および R-Guide を参照すること。

The graduation thesis is the finished product that results from students' investigations and research on their chosen themes, and represents the foundation of what they have learned in their four years in the College of Intercultural Communication. For details about graduation theses, see the syllabuses for Advanced Seminar 1-3 for each instructor. For details about the final versions of graduation theses (length of theses, other acceptable

formats for the final product, and submission deadlines, locations, methods, etc.), students should see the Course Guidebook and R-Guide.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：成果物作成 1
- 2 回：成果物作成 2
- 3 回：成果物作成 3
- 4 回：成果物作成 4
- 5 回：成果物作成 5
- 6 回：成果物作成 6
- 7 回：成果物作成 7
- 8 回：成果物作成 8
- 9 回：成果物作成 9
- 10 回：成果物作成 10
- 11 回：成果物作成 11
- 12 回：成果物作成 12
- 13 回：成果物作成 13
- 14 回：成果物作成 14

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワーポイント等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：○	校外実習・フィールドワーク	：○
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

毎回の授業で指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 成果物:100%

卒業研究は、各指導教員が評価する。なお、卒業研究の合否は「専門演習3」の合否と連動する。

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

その他 / Others

成果物について、随時フィードバックを行う。

卒業研究

Senior Research and Thesis

「専門演習3」の担当教員（）

開講年度： 2024
科目設置学部： 異文化コミュニケーション学部
科目コード等： DM933
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期
単位： 4
科目ナンバリング： ICC4543
使用言語： その他
授業形式： 卒業論文・卒業研究
履修登録方法： 自動登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

教育課程「完成期」の科目である。各自が選択した卒業研究を論文などの成果物として完成させることができる。

This seminar enables students who chose Senior Research and Thesis to complete their academic papers and the like to serve as their graduation theses.

授業の内容 / Course Contents

卒業研究は、4年間、異文化コミュニケーション学部で学んできたことを基礎として、自らがテーマを設定し、調査・研究を行うことによって完成させるものである。卒業研究の詳細は、各指導教員の「専門演習1～3」シラバスを参照すること。卒業研究の成果物の詳細（論文の分量、その他提出できる成果物の形式、提出締切、提出場所、提出方法など）については、履修要項および R-Guide を参照すること。

The graduation thesis is the finished product that results from students' investigations and research on their chosen themes, and represents the foundation of what they have learned in their four years in the College of Intercultural Communication. For details about graduation theses, see the syllabuses for Advanced Seminar 1-3 for each instructor. For details about the final versions of graduation theses (length of theses, other acceptable

formats for the final product, and submission deadlines, locations, methods, etc.), students should see the Course Guidebook and R-Guide.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：成果物作成 1
- 2回：成果物作成 2
- 3回：成果物作成 3
- 4回：成果物作成 4
- 5回：成果物作成 5
- 6回：成果物作成 6
- 7回：成果物作成 7
- 8回：成果物作成 8
- 9回：成果物作成 9
- 10回：成果物作成 10
- 11回：成果物作成 11
- 12回：成果物作成 12
- 13回：成果物作成 13
- 14回：成果物作成 14

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：○	校外実習・フィールドワーク	：○
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

毎回の授業で指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 成果物:100%

卒業研究は、各指導教員が評価する。なお、卒業研究の合否は「専門演習3」の合否と連動する。

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

その他 / Others

成果物について、随時フィードバックを行う。

卒業研究

Senior Research and Thesis

「専門演習3」の担当教員（）

開講年度： 2024
科目設置学部： 異文化コミュニケーション学部
科目コード等： DM934
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期
単位： 4
科目ナンバリング： ICC4543
使用言語： その他
授業形式： 卒業論文・卒業研究
履修登録方法： 自動登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

教育課程「完成期」の科目である。各自が選択した卒業研究を論文などの成果物として完成させることができる。

This seminar enables students who chose Senior Research and Thesis to complete their academic papers and the like to serve as their graduation theses.

授業の内容 / Course Contents

卒業研究は、4年間、異文化コミュニケーション学部で学んできたことを基礎として、自らがテーマを設定し、調査・研究を行うことによって完成させるものである。卒業研究の詳細は、各指導教員の「専門演習1～3」シラバスを参照すること。卒業研究の成果物の詳細（論文の分量、その他提出できる成果物の形式、提出締切、提出場所、提出方法など）については、履修要項および R-Guide を参照すること。

The graduation thesis is the finished product that results from students' investigations and research on their chosen themes, and represents the foundation of what they have learned in their four years in the College of Intercultural Communication. For details about graduation theses, see the syllabuses for Advanced Seminar 1-3 for each instructor. For details about the final versions of graduation theses (length of theses, other acceptable

formats for the final product, and submission deadlines, locations, methods, etc.), students should see the Course Guidebook and R-Guide.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：成果物作成 1
- 2回：成果物作成 2
- 3回：成果物作成 3
- 4回：成果物作成 4
- 5回：成果物作成 5
- 6回：成果物作成 6
- 7回：成果物作成 7
- 8回：成果物作成 8
- 9回：成果物作成 9
- 10回：成果物作成 10
- 11回：成果物作成 11
- 12回：成果物作成 12
- 13回：成果物作成 13
- 14回：成果物作成 14

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワーポイント等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：○	校外実習・フィールドワーク	：○
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

毎回の授業で指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 成果物:100%

卒業研究は、各指導教員が評価する。なお、卒業研究の合否は「専門演習3」の合否と連動する。

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

その他 / Others

成果物について、随時フィードバックを行う。

卒業研究

Senior Research and Thesis

「専門演習3」の担当教員（）

開講年度： 2024
科目設置学部： 異文化コミュニケーション学部
科目コード等： DM937
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期
単位： 4
科目ナンバリング： ICC4543
使用言語： その他
授業形式： 卒業論文・卒業研究
履修登録方法： 自動登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

教育課程「完成期」の科目である。各自が選択した卒業研究を論文などの成果物として完成させることができる。

This seminar enables students who chose Senior Research and Thesis to complete their academic papers and the like to serve as their graduation theses.

授業の内容 / Course Contents

卒業研究は、4年間、異文化コミュニケーション学部で学んできたことを基礎として、自らがテーマを設定し、調査・研究を行うことによって完成させるものである。卒業研究の詳細は、各指導教員の「専門演習1～3」シラバスを参照すること。卒業研究の成果物の詳細（論文の分量、その他提出できる成果物の形式、提出締切、提出場所、提出方法など）については、履修要項および R-Guide を参照すること。

The graduation thesis is the finished product that results from students' investigations and research on their chosen themes, and represents the foundation of what they have learned in their four years in the College of Intercultural Communication. For details about graduation theses, see the syllabuses for Advanced Seminar 1-3 for each instructor. For details about the final versions of graduation theses (length of theses, other acceptable

formats for the final product, and submission deadlines, locations, methods, etc.), students should see the Course Guidebook and R-Guide.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：成果物作成 1
- 2回：成果物作成 2
- 3回：成果物作成 3
- 4回：成果物作成 4
- 5回：成果物作成 5
- 6回：成果物作成 6
- 7回：成果物作成 7
- 8回：成果物作成 8
- 9回：成果物作成 9
- 10回：成果物作成 10
- 11回：成果物作成 11
- 12回：成果物作成 12
- 13回：成果物作成 13
- 14回：成果物作成 14

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：○	校外実習・フィールドワーク	：○
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

毎回の授業で指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 成果物:100%

卒業研究は、各指導教員が評価する。なお、卒業研究の合否は「専門演習3」の合否と連動する。

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

その他 / Others

成果物について、随時フィードバックを行う。

卒業課題 A

Senior Project A

山口 まり子 (YAMAGUCHI MARIKO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 異文化コミュニケーション学部
科目コード等： DM951
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期他
単位： 2
科目ナンバリング： ICC4543
使用言語： その他
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 自動登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考： 2016～2019 年度入学者（一般/PEACE/TBP）、2024 年度以降入学者（一般/TBP/DLP/PEACE）

授業の目標 / Course Objectives

教育課程「完成期」の科目である。各自が選択したテーマについて課題レポートを完成させることができる。This course is designated as the curriculum's completion phase module. Students will produce a project report on their chosen theme.

授業の内容 / Course Contents

卒業課題は、4 年間、異文化コミュニケーション学部で学んできたことを基礎として、設定された 4 つのテーマから 1 つ選択し、調査・研究を行うことによって完成させるものである。課題レポートの詳細（論文の分量、形式、提出締切、提出場所、提出方法など）については、卒業課題を履修する年度の R-Guide を参照すること。

Students complete a graduation research project by choosing a topic from the four themes provided and by carrying out an investigation/research. This project should build on knowledge gained in the College of Intercultural Communication over the last four years. For project report details (such as essay length/format, and submission deadline/method), refer to R Guide for the year you will take the graduation research project module.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：研究テーマ策定 1
- 2回：研究テーマ策定 2
- 3回：文献調査 1
- 4回：文献調査 2
- 5回：調査方法 1
- 6回：調査方法 2
- 7回：調査報告 1
- 8回：調査報告 2
- 9回：課題作成 1
- 10回：課題作成 2
- 11回：課題作成 3
- 12回：課題作成 4
- 13回：発表
- 14回：総括

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

毎回の授業で指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 参加度:30% 中間課題:30% 最終課題:40%

テキスト / Textbooks

なし

参考文献 / Readings

必要に応じて授業で紹介する。

その他 / Others

課題レポートについて、随時フィードバックを行う。

注意事項（検索結果画面）

2016～2019年度入学者（一般/PEACE/TBP）、2024年度以降入学者（一般/TBP/DLP/PEACE）

卒業課題B

Senior Project B

飯島 みどり (IIJIMA MIDORI)

開講年度：	2024
科目設置学部：	異文化コミュニケーション学部
科目コード等：	DM952
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	秋学期他
単位：	2
科目ナンバリング：	ICC4543
使用言語：	その他
授業形式：	演習・ゼミ
履修登録方法：	自動登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	2016～2019 年度入学者（一般/PEACE/TBP）、2024 年度以降入学者（一般/TBP/DLP/PEACE）

授業の目標 / Course Objectives

教育課程「完成期」の科目である。各自が選択したテーマについて課題レポートを完成させることができる。

This course is designated as the curriculum's completion phase module. Students will produce a project report on their chosen theme.

授業の内容 / Course Contents

卒業課題は、4年間、異文化コミュニケーション学部で学んできたことを基礎として、設定された4つのテーマから1つ選択し、調査・研究を行うことによって完成させるものである。課題レポートの詳細（論文の分量、形式、提出締切、提出場所、提出方法など）については、卒業課題を履修する年度の R-Guide を参照すること。

Students complete a graduation research project by choosing a topic from the four themes provided and by carrying out an investigation/research. This project should build on knowledge gained in the College of Intercultural Communication over the last four years. For project report details (such as essay length/format, and submission deadline/method), refer to R Guide for the year you will take the graduation research project module.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：研究テーマ策定 1
- 2回：研究テーマ策定 2
- 3回：文献調査 1
- 4回：文献調査 2
- 5回：調査方法 1
- 6回：調査方法 2
- 7回：調査報告 1
- 8回：調査報告 2
- 9回：課題作成 1
- 10回：課題作成 2
- 11回：課題作成 3
- 12回：課題作成 4
- 13回：発表
- 14回：総括

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

毎回の授業で指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 参加度:30% 中間課題:30% 最終課題:40%

テキスト / Textbooks

なし

参考文献 / Readings

必要に応じて授業で紹介する。

その他 / Others

課題レポートについて、随時フィードバックを行う。

注意事項（検索結果画面）

2016～2019年度入学者（一般/PEACE/TBP）、2025年度以降入学者（一般/TBP/DLP/PEACE）

卒業課題B

Senior Project B

山口 まり子 (YAMAGUCHI MARIKO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 異文化コミュニケーション学部
科目コード等： DM953
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期他
単位： 2
科目ナンバリング： ICC4543
使用言語： その他
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 自動登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考： 2016～2019 年度入学者（一般/PEACE/TBP）、2024 年度以降入学者（一般/TBP/DLP/PEACE）

授業の目標 / Course Objectives

教育課程「完成期」の科目である。各自が選択したテーマについて課題レポートを完成させることができる。

This course is designated as the curriculum's completion phase module. Students will produce a project report on their chosen theme.

授業の内容 / Course Contents

卒業課題は、4年間、異文化コミュニケーション学部で学んできたことを基礎として、設定された4つのテーマから1つ選択し、調査・研究を行うことによって完成させるものである。課題レポートの詳細（論文の分量、形式、提出締切、提出場所、提出方法など）については、卒業課題を履修する年度の R-Guide を参照すること。

Students complete a graduation research project by choosing a topic from the four themes provided and by carrying out an investigation/research. This project should build on knowledge gained in the College of Intercultural Communication over the last four years. For project report details (such as essay length/format, and submission deadline/method), refer to R Guide for the year you will take the graduation research project module.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：研究テーマ策定 1
- 2回：研究テーマ策定 2
- 3回：文献調査 1
- 4回：文献調査 2
- 5回：調査方法 1
- 6回：調査方法 2
- 7回：調査報告 1
- 8回：調査報告 2
- 9回：課題作成 1
- 10回：課題作成 2
- 11回：課題作成 3
- 12回：課題作成 4
- 13回：発表
- 14回：総括

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワーポイント等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

毎回の授業で指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 参加度:30% 中間課題:30% 最終課題:40%

テキスト / Textbooks

なし

参考文献 / Readings

必要に応じて授業で紹介する。

その他 / Others

課題レポートについて、随時フィードバックを行う。

注意事項（検索結果画面）

2016～2019年度入学者（一般/PEACE/TBP）、2026年度以降入学者（一般/TBP/DLP/PEACE）

卒業課題 A

Senior Project A

飯島 みどり (IIJIMA MIDORI)

開講年度：	2024
科目設置学部：	異文化コミュニケーション学部
科目コード等：	DM954
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	秋学期他
単位：	2
科目ナンバリング：	ICC4543
使用言語：	その他
授業形式：	演習・ゼミ
履修登録方法：	自動登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	2016～2019 年度入学者（一般/PEACE/TBP）、2024 年度以降入学者（一般/TBP/DLP/PEACE）

授業の目標 / Course Objectives

教育課程「完成期」の科目である。各自が選択したテーマについて課題レポートを完成させることができる。

This course is designated as the curriculum's completion phase module. Students will produce a project report on their chosen theme.

授業の内容 / Course Contents

卒業課題は、4 年間、異文化コミュニケーション学部で学んできたことを基礎として、設定された 4 つのテーマから 1 つ選択し、調査・研究を行うことによって完成させるものである。課題レポートの詳細（論文の分量、形式、提出締切、提出場所、提出方法など）については、卒業課題を履修する年度の R-Guide を参照すること。

Students complete a graduation research project by choosing a topic from the four themes provided and by carrying out an investigation/research. This project should build on knowledge gained in the College of Intercultural Communication over the last four years. For project report details (such as essay length/format, and submission deadline/method), refer to R Guide for the year you will take the graduation research project module.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：研究テーマ策定 1
- 2回：研究テーマ策定 2
- 3回：文献調査 1
- 4回：文献調査 2
- 5回：調査方法 1
- 6回：調査方法 2
- 7回：調査報告 1
- 8回：調査報告 2
- 9回：課題作成 1
- 10回：課題作成 2
- 11回：課題作成 3
- 12回：課題作成 4
- 13回：発表
- 14回：総括

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワーポイント等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

毎回の授業で指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 参加度:30% 中間課題:30% 最終課題:40%

テキスト / Textbooks

なし

参考文献 / Readings

必要に応じて授業で紹介する。

その他 / Others

課題レポートについて、随時フィードバックを行う。

注意事項（検索結果画面）

2016～2019年度入学者（一般/PEACE/TBP）、2027年度以降入学者（一般/TBP/DLP/PEACE）

Basic Seminar A

Basic Seminar A

ガービー, K. (GARVEY KEVIN PATRICK)

開講年度： 2024
科目設置学部： 異文化コミュニケーション学部
科目コード等： DM961
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： ICC1551
使用言語： 英語
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 自動登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考： 2016 年度以降入学者対象（D L P）

授業の目標 / Course Objectives

The primary goal of this course is to practice fundamental academic skills related to (a) outlining academic papers and (b) outlining academic presentations. Students will practice using Google Docs and Slides in-depth, including editing and design tools. The secondary goal of this course is to practice the citation conventions of the commonly-used APA standard, as well as practice reading and effectively summarizing written sources.

There will be short, 10-question quizzes each week reviewing the previous weeks' topics. There is a midterm examination consisting of in-class tasks conducted in Google Docs, as well as a multiple choice test (reviewing previous quiz questions). The final project consists of (a) an academic paper outline and (b) a related academic presentation outline. There is a final examination consisting of a multiple choice test (reviewing previous quiz questions).

授業の内容 / Course Contents

The main focus of the class is on developing basic academic skills: developing research questions, citing sources, and summarizing information. We will practice these with three presentation types: explanation, compare/contrast, and persuasive.

Homework will consist of
 Specific tasks in related software
 Drafting outlines in Docs and Slides
 Short readings
 Drafting summaries of assigned readings

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回： Course introduction
 2 回： Google Docs: tools & features
 University Library Orientation
 3 回： Google Docs: structure & purpose
 4 回： Google Docs: review
 5 回： APA Citations: structure & purpose
 6 回： APA Citations: practical use
 7 回： Mid-term: timed tasks & multiple choice exam
 8 回： Google slides: tools & features
 9 回： Google slides: design & visuals
 10 回： Reading: inferring meaning
 11 回： Reading: interpreting meaning
 12 回： Reading: summarizing
 13 回： Essay preparation
 14 回： Final Test & Essay share

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド* (パワポ* 等) の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

Students are expected to work outside of class time to complete assignments.

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：2) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Quizzes and Participation:30% Individual assignments:20% Midterm test:20% Final document & presentation outlines:30%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

その他 / Others

Students are expected to use Google Classroom to access course materials and assignments. In-class work will be conducted using Google Documents and Slides.

注意事項 (検索結果画面)

2016 年度以降入学者対象 (D L P)

ベーシックセミナーA

Basic Seminar A

河合 優子 (KAWAI YUKO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 異文化コミュニケーション学部
科目コード等： DM962
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： ICC1510
使用言語： 日本語
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 自動登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考： 2016 年度以降入学者対象（D L P）

授業の目標 / Course Objectives

大学で学ぶための基礎となる論理的思考力、情報リテラシーを身につけ、コミュニケーション力、情報受信・発信能力、問題発見・解決能力を向上させる。

Students will master the logical thinking skills and information literacy that form the foundation of university-level study, and improve their abilities to communicate, receive and originate information, and find and solve problems.

授業の内容 / Course Contents

「協同学習」の方法論を用い、論理的思考力、問題発見・解決能力、言語スキル、対人関係スキルを学ぶとともに、タイム・マネジメントを習得する。また、議論や発表のスキルとともに、ノン・バーバルコミュニケーションへの意識も高める。「協同学習」は課題テキストを、授業内で解説する予習の仕方によって各自が予習して授業に臨む。授業は少人数でのグループディスカッションと発表で構成する。また、レポートの書き方について、解説とトレーニングを行う。

The cooperative learning method will be used to help students acquire logical thinking skills, the ability to find and solve problems, language skills, and interpersonal skills as well as time management skills. Students will also

improve their discussion and presentation skills, and will further their understanding of nonverbal communication. Instructors will explain in class how students should prepare for cooperative learning exercises, and students will follow those instructions and read assignment texts in advance of classes.

Class activities will consist of small groups of students participating in discussions and presentations. Instructors will also explain and lead exercises on how to write reports.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス
- 2回：図書館オリエンテーション／協同学習①-1（初見のテキスト）
- 3回：協同学習①-1（初見のテキスト）／図書館オリエンテーション
- 4回：協同学習①-2
- 5回：協同学習②-1
- 6回：協同学習②-2
レポートの書き方①
- 7回：協同学習③-1
- 8回：協同学習③-2
レポートの書き方②
- 9回：グループ発表①-1（グループでテーマを決め、発表準備）
- 10回：グループ発表①-2（クラス内リハーサル）
- 11回：グループ発表①-3
- 12回：グループ発表①-4
- 13回：レポートの書き方③
- 14回：授業のまとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

毎回の授業で指示する。

また、初回ガイダンス時に、詳細な授業進行表を配布するので、常時参照すること。

自宅学習ノートを用意し、十分活用すること。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業への参加度:20% 協同学習フィードバック:20% 自宅学習ノート:25% レポート:20% 最終グループ発表:15%

テキスト / Textbooks

大島弥生ほか 『ピアで学ぶ大学生の日本語表現[第2版]』 ひつじ書房 2014 9784894767096 ○

補助資料

・Master of Writing(立教大学大学教育開発・支援センター発行のレポートの手引き)

<http://www.rikkyo.ac.jp/aboutus/philosophy/activism/CDSHE/journal/leaflet/>

- ・ Master of Presentation (同センター発行の授業内プレゼンテーションの手引き)

<https://www.rikkyo.ac.jp/about/activities/fd/cdshe/mknpps000001ri7e-att/MasterofPresentation.pdf>

- ・ The Rikkyo Style (異文化コミュニケーション研究科作成のスタイルマニュアル)

<https://rguide.rikkyo.ac.jp/2023/files/cic/TheRikkyoStyle.pdf>

参考文献 / Readings

佐渡島紗織・吉野亜矢子 『これから研究を書くひとのためのガイドブック』 ひつじ書房 2008

松本茂・河野哲也 『大学生のための「読む・書く・プレゼン・ディベート」の方法』(第2版) 玉川大学出版部 2015

その他の参考文献については、授業中に適宜紹介する。

注意事項 (検索結果画面)

2016 年度以降入学者対象 (D L P)

ベーシックセミナーB

Basic Seminar B

飯島 みどり (IIJIMA MIDORI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 異文化コミュニケーション学部
科目コード等： DM963
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： ICC1510
使用言語： 日本語
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 自動登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考： 2016 年度以降入学者対象（D L P）

授業の目標 / Course Objectives

「基礎演習A」で身につけた力をさらに伸ばし、情報リテラシー、論理的思考力、問題発見・解決能力を磨き、さらに、議論、発表、レポートなど、それぞれに適切な形で発信する方法を身につける。

Students will further build on the skills they learned in Academic Skills A, refining their information literacy, logical thinking skills, and the ability to find and solve problems and mastering appropriate methods of originating discussion and producing presentations and reports.

授業の内容 / Course Contents

春学期の「協同学習」形式を継続し、論理的思考、議論の方法、口頭発表およびレポート執筆の方法を引き続き学んでいく。秋学期は、とくに次の3点に重点をおいて授業をすすめていく。

- 1) 課題テキストの予習（テキスト内容の正確な理解とそれに対する自分の意見の構築）
- 2) ディスカッション（他者の意見を聞き、自分の意見を論理的に述べ、議論を深める）
- 3) 課題のテーマに関連するトピックについて調査、考察し、口頭発表、およびレポートをまとめる。

口頭発表は、グループで議論し協同で完成させる。各自が自分のテーマについて書くレ

Students continue to study logical thinking and methods of discussion, oral presentation and report writing under

the same cooperative learning format as the spring semester. Fall semester classes will focus in particular on the following three points:

- (1) Preparation with assigned texts (properly understanding and forming a personal view of the content of the texts)
- (2) Discussion (furthering discussion by listening to other people's views and logically communicating personal views)
- (3) Investigating, considering, giving oral presentations and writing reports on topics related to assignment themes.

Students will discuss, create and complete oral presentations in groups. Students will write mini-reports on themes of their choice and evaluate and critique each other's reports to learn how to write reports and logical prose.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス
夏休み課題に関するディスカッション
- 2回：協同学習①-1
- 3回：協同学習①-2 (グループ発表)
- 4回：レポートの書き方①
- 5回：協同学習②-1
- 6回：協同学習②-2 (グループ発表)
- 7回：レポートの書き方②
- 8回：協同学習③-1
- 9回：協同学習③-2
- 10回：最終発表準備①
- 11回：最終発表準備②
- 12回：最終発表会
- 13回：レポートの書き方③
- 14回：授業のまとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド (パワポ等) の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：○
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

毎回の授業で指示する。

また、初回ガイダンス時に、詳細な授業進行表を配布するので、常時参照すること。

自宅学習ノートを用意し、十分活用すること。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：2) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業参加度:40% 小レポート:10% 課題図書レポート:10% 協同学習:20% 最終レポート割合 :20%

テキスト/ Textbooks

大島弥生他 『ピアで学ぶ大学生の日本語表現[第2版]』 ひつじ書房 2014 9784894767096 ○

補助資料

- ・ Master of Writing(立教大学大学教育開発・支援センター発行のレポートの手引き)

<http://www.rikkyo.ac.jp/aboutus/philosophy/activism/CDSHE/journal/leaflet/>

- ・ Master of Presentation (同センター発行の授業内プレゼンテーションの手引き)

<https://www.rikkyo.ac.jp/about/activities/fd/cdshe/mknpps000001ri7e-att/MasterofPresentation.pdf>

- ・ The Rikkyo Style (異文化コミュニケーション研究科作成のスタイルマニュアル)

<https://rguide.rikkyo.ac.jp/2023/files/cic/TheRikkyoStyle.pdf>

参考文献 / Readings

佐渡島紗織・吉野亜矢子 『これから研究を書くひとのためのガイドブック』 ひつじ書房 2008

松本茂・河野哲也 『大学生のための「読む・書く・プレゼン・ディベート」の方法』(第2版) 玉川大学出版部 2015

その他の参考文献については、授業中に適宜紹介する。

その他/ Others

クラスによって授業の順番が入れ替わることがある。授業内容および計画の詳細については、初回の授業時に配布されるシラバスを参照すること。

注意事項 (検索結果画面)

2016年度以降入学者対象 (D L P)

Basic Seminar B

Basic Seminar B

シ, ゲンギン (ZI YANYIN)

開講年度： 2024
科目設置学部： 異文化コミュニケーション学部
科目コード等： DM964
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： ICC1551
使用言語： 英語
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 自動登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考： 2016 年度以降入学者対象（D L P）

授業の目標 / Course Objectives

Students will learn how to develop the subject of his/her research. The goals of this course are for students to be able to

- 1.obtain critical analysis, rigor and independence of thought.
- 2.practice individual judgement and skill in the application of research theory and methods.
- 3.develop skills required in writing research proposals, reports and theses.

授業の内容 / Course Contents

This course aims to introduce to students the basic principles of qualitative research in the humanities, particularly in the fields of anthropology and sociology. Students will be given the opportunity to read and analyse English language research materials including selected journal articles and excerpts of journal articles. The papers studied in class will focus on topics such as international relations, migration studies, cultural identity, and human resource management.

Generally, each class the instructor will explain principles of research to be covered for the week. Students will be given time in some classes to work on their research and reflection journals and get feedback on their progress

from the instructor.

Students are expected to come to class having read the assigned weekly texts, complete writing/revision tasks, and give presentations.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：1st class: Introduction and overview
- 2回：2nd class: Choosing a topic and organizing a schedule
- 3回：3rd class: Research methods and searching online resource
- 4回：4th class: Creating a reading list
- 5回：5th class: Collecting and summarizing sources
- 6回：6th class: Brainstorming
- 7回：7th class: Literature review and questionnaire
- 8回：8th class: Ethical issues
- 9回：9th class: Techniques for collecting data
- 10回：10th class: Analysing your data 1
- 11回：11th class: Analysing your data 2
- 12回：12th class: Grammar, referencing, and plagiarism
- 13回：13th class: Peer review
- 14回：14th class: Presentation

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワーポイント等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：	○
個人発表	：	○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：	
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：	
上記いずれも用いない予定	：						

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

The instructor may provide additional reading materials throughout the semester.

Depending on progress made during the semester, changes to the content outlined above might become necessary. The instructor reserves the right to modify this syllabus, with

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Attendance and Participation:30% Assignments (including in-class discussions and presentation):40% Final Presentations:30%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

Loraine Blaxter, Christina Hughes & Malcolm Tight. ed. How to Research. 4th New York: McGraw-Hill Open University Press. 2010

Walleman, N. Your research project: a step-by-step guide for the first-time researcher. London: Sage Publications. 2005

注意事項（検索結果画面）

2016年度以降入学者対象（DLP）

